

平成29年度

講義計画書

(シラバス)

鹿児島県立短期大学

総目次

1	教養科目（人文，社会，自然，総合）	1
2	教養科目（外国語科目）	12
3	教養科目（スポーツ・健康科目）	42
4	教養科目（情報科目）	45
5	日本語日本文学専攻専門科目	51
6	英語英文学専攻専門科目	77
7	生活科学科共通科目	111
8	食物栄養専攻専門科目	113
9	生活科学専攻専門科目	133
10	第一部商経学科の専攻間で共通する科目（専門基礎科目）	157
11	経済専攻専門科目	170
12	経営情報専攻専門科目	182
13	第二部商経学科教養科目（教養一般）	192
14	第二部商経学科教養科目（外国語科目）	199
15	第二部商経学科教養科目（スポーツ・健康科目）	204
16	第二部商経学科教養科目（情報科目）	205
17	第二部商経学科専門科目	207
18	商経学科の演習・実習科目	234
19	教職に関する科目	237
20	司書教諭に関する科目	250

文学科 日本語日本文学専攻

【教養科目】			
(人文)			
日本の歴史	1	日本語学演習Ⅱ	56
こころの科学	2	日本語学演習Ⅲ	55
芸術論	2	日本語学演習Ⅳ	56
かごしまカレッジ教育	3	日本語学演習Ⅴ	57
(社会)		日本語学演習Ⅵ	56
日本国憲法	3	日本語表現法	57
法学概論	4	日本語表現法演習	58
社会学	4	対照言語学	58
生活と経済	5	(日本文学「古典」科目)	
キャリアデザイン	6	日本文学講義Ⅰ	59
(自然)		日本文学講読Ⅰ	59
数学の世界	6	日本文学講読Ⅱ	60
物理の世界	7	日本文学講読Ⅲ	60
生物の科学	7	日本文学演習Ⅰ・Ⅲ	61
化学の世界	8	日本文学演習Ⅱ	61
食生活と健康	8	(日本文学「近代」科目)	
(総合)		日本文学史・近代Ⅰ	62
平和論	9	日本文学史・近代Ⅱ	62
環境問題	9	日本文学講義Ⅱ	63
かごしま教養プログラム	10	日本文学講読Ⅳ	63
かごしまフィールドスクール	10	日本文学講読Ⅴ	64
社会活動	11	日本文学講読Ⅵ	64
企業研修	11	日本文学講読Ⅶ	65
(外国語科目)		日本文学演習Ⅳ・Ⅵ	65
英語Ⅰ(A)	12	日本文学演習Ⅴ	66
英語Ⅰ(A)	12	(地域文学・中国文学科目)	
英語Ⅱ(A)	17	南九州の文学	67
英語Ⅱ(A)	17	中国文学史Ⅰ	68
英語Ⅲ(D)	23	中国文学史Ⅱ	68
英語Ⅲ(E)	24	中国文学講読Ⅰ	69
英語Ⅲ(F)	24	中国文学講読Ⅱ	69
英語Ⅲ(G)	25	中国文学演習Ⅰ	70
英語Ⅲ(H)	25	中国文学演習Ⅱ	70
英語Ⅳ(A)	26	中国文学演習Ⅲ	71
英語Ⅳ(B)	26	(卒業研究)	
英語Ⅳ(F)	28	卒業研究Ⅰ・Ⅱ	71
英語Ⅳ(G)	29	(関連科目)	
異文化コミュニケーション(英語)	29	比較文化	72
異文化コミュニケーション(中国語)	30	英文学史	72
中国語Ⅰ(A)	32	米文学史	73
中国語Ⅰ(B)	33	読書と豊かな人間性	73
中国語Ⅰ(H)	36	情報メディアの活用	74
中国語Ⅱ(A)	36	書道Ⅰ	74
中国語Ⅱ(B)	37	書道Ⅱ	75
中国語Ⅱ(H)	40	書道Ⅲ	75
中国語Ⅲ	40	書道Ⅳ	76
中国語Ⅳ	41	【教職に関する科目】	
(スポーツ・健康科目)		教職入門	237
スポーツ・健康論	42	教育原理	238
生涯スポーツ実習Ⅰ(A)	42	教育心理学	239
生涯スポーツ実習Ⅱ(A)	44	教育行政学概論	239
(情報科目)		教育課程論	240
情報リテラシーⅠ(A)	45	国語科教育法	240
情報リテラシーⅡ(A)	48	道德教育の研究	242
【専門科目】		特別活動の研究	243
(専門基礎科目)		教育方法学概論	244
日本文学概論	51	教育相談	244
言語学概論	51	生徒指導論	245
(日本語学科目)		教職実践演習(中)	246
日本語学概論	52	教育実習	248
日本語教育概論	52	【司書教諭に関する科目】	
日本語史	53	学校経営と学校図書館	250
日本文法論	53	学習指導と学校図書館	250
日本語学講義	54	読書と豊かな人間性	251
		情報メディアの活用	251

日本語学講読 I	54
日本語学講読 II	55
日本語学演習 I	55

文 学 科 英 語 英 文 学 専 攻

【教養科目】

(人文)	
日本の歴史	1
こころの科学	2
芸術論	2
かごしまカレッジ教育	3
(社会)	
日本国憲法	3
法学概論	4
社会学	4
生活と経済	5
キャリアデザイン	6
(自然)	
数学の世界	6
物理の世界	7
生物の科学	7
化学の世界	8
食生活と健康	8
(総合)	
平和論	9
環境問題	9
かごしま教養プログラム	10
かごしまフィールドスクール	10
社会活動	11
企業研修	11
(外国語科目)	
英語Ⅲ (A)	22
英語Ⅲ (B)	22
英語Ⅲ (C)	23
英語Ⅲ (D)	23
英語Ⅲ (E)	24
英語Ⅲ (F)	24
英語Ⅲ (G)	25
英語Ⅲ (H)	25
英語Ⅳ (A)	26
英語Ⅳ (B)	26
英語Ⅳ (C)	27
英語Ⅳ (D)	27
英語Ⅳ (E)	28
英語Ⅳ (F)	28
英語Ⅳ (G)	29
異文化コミュニケーション (英語)	29
異文化コミュニケーション (中国語)	30
ドイツ語Ⅰ	30
ドイツ語Ⅱ	31
フランス語Ⅰ	31
フランス語Ⅱ	32
中国語Ⅰ (B)	33
中国語Ⅰ (H)	36
中国語Ⅱ (B)	37
中国語Ⅱ (H)	40
中国語Ⅲ	40
中国語Ⅳ	41
(スポーツ・健康科目)	
スポーツ・健康論	42
生涯スポーツ実習Ⅰ (B)	42
生涯スポーツ実習Ⅱ (B)	44
(情報科目)	
情報リテラシーⅠ (B)	45
情報リテラシーⅡ (B)	48
【専門科目】	
(専門基礎科目)	
スタディスキルズ	77
(コミュニケーション科目)	
オーラルコミュニケーションⅠ	77～79
オーラルコミュニケーションⅡ	79～80

英語表現法Ⅱ	84
英語表現法Ⅲ	85
LL演習Ⅰ	86
LL演習Ⅱ	86
LL演習Ⅲ	87
コミュニケーション概論	87
ビジネス英語	88
通訳入門	88
(英語学科目)	
英語学概論	89
英文法	89
英語史	90
英語音声学	90
講読演習Ⅰ	91
基礎演習Ⅰ	91～92
英語学演習	92～93
(英米文学科目)	
英文学概論	93
英文学史	94
米文学史	94
比較文学	95
英米文学講読Ⅰ	95
英米文学講読Ⅱ	96
英米文学講読Ⅲ	96
講読演習Ⅱ	97
基礎演習Ⅱ	97～98
英米文学演習	98～99
(比較文化科目)	
比較文化	99
イギリス事情	100
アメリカ事情	100
ヨーロッパ事情	101
講読演習Ⅲ	101
基礎演習Ⅲ	102
比較文化演習	102
(関連科目)	
対照言語学	103
言語学概論	103
日本語学概論	104
日本文学史Ⅰ	104
日本文学史Ⅱ	105
日本語教育概論	105
国際経済論	106
国際関係論	106
検定対策講座Ⅰ	107
検定対策講座Ⅱ	107
(卒業研究)	
卒業研究	108～110
【教職に関する科目】	
教職入門	237
教育原理	238
教育心理学	239
教育行政学概論	239
教育課程論	240
英語科教育法	241
道徳教育の研究	242
特別活動の研究	243
教育方法学概論	244
教育相談	244
生徒指導論	245
教職実践演習 (中)	246
教育実習	248
【司書教諭に関する科目】	
学校経営と学校図書館	250

オーラルコミュニケーションⅢ	80～81	学習指導と学校図書館	250
オーラルコミュニケーションⅣ	82	読書と豊かな人間性	251
英語表現法Ⅰ	83	情報メディアの活用	251

生活科学科 食物栄養専攻

【教養科目】	
（人文）	
文学の世界	1
日本の歴史	1
こころの科学	2
芸術論	2
かごしまカレッジ教育	3
（社会）	
日本国憲法	3
法学概論	4
社会学	4
生活と経済	5
キャリアデザイン	6
（自然）	
数学の世界	6
物理の世界	7
化学の世界	8
食生活と健康	8
（総合）	
平和論	9
環境問題	9
かごしま教養プログラム	10
かごしまフィールドスクール	10
社会活動	11
企業研修	11
（外国語科目）	
英語Ⅰ（C）	14
英語Ⅰ（C）	14
英語Ⅱ（C）	19
英語Ⅱ（C）	19
英語Ⅲ（A）	22
英語Ⅲ（B）	22
英語Ⅲ（C）	23
英語Ⅳ（A）	26
英語Ⅳ（B）	26
英語Ⅳ（F）	28
英語Ⅳ（G）	29
異文化コミュニケーション（英語）	29
異文化コミュニケーション（中国語）	30
フランス語Ⅰ	31
フランス語Ⅱ	32
中国語Ⅰ（F）	35
中国語Ⅰ（H）	36
中国語Ⅱ（F）	39
中国語Ⅱ（H）	40
（スポーツ・健康科目）	
生涯スポーツ実習Ⅰ（C）	43
生涯スポーツ実習Ⅱ（C）	44
（情報科目）	
情報リテラシーⅠ（C）	46
情報リテラシーⅡ（C）	49
【専門科目】	
（生活科学科目）	
生活科学概論	111
生活経営学	111
人間関係論	112
社会福祉論	112
（基礎科目）	
〈食物に関する科目〉	
食品学Ⅰ	113
食品学Ⅱ	113
食品学実験	114
食品衛生学	114
食品衛生学実験	115
食品加工学	115
調理学	116

〈消化・吸収・代謝に関する科目〉	
栄養学総論	118
栄養学各論	118
栄養学実習	119
解剖生理学	119
解剖生理学実験	120
生化学Ⅰ	120
生化学Ⅱ	121
生化学実験	121
〈健康と運動に関する科目〉	
健康と運動	122
健康管理概論	122
公衆衛生学	123
運動生理学	123
（応用科目）	
〈給食の管理に関する科目〉	
給食管理	124
給食管理実習Ⅰ	124
給食管理実習Ⅱ	125
給食管理実習Ⅲ	125
〈栄養の指導〉	
栄養教育論	126
栄養指導論Ⅰ	126
栄養指導論Ⅱ	127
栄養指導論実習Ⅰ	127
栄養指導論実習Ⅱ	128
公衆栄養学	128
栄養情報処理	129
〈臨床関連科目〉	
臨床栄養学Ⅰ	129
臨床栄養学Ⅱ	130
臨床栄養学実習	130
病理学	131
〈栄養教諭関連科目〉	
学校栄養教育論	131
（その他）	
有機化学概論	132
生物概論	132

【教職に関する科目】	
教職入門	237
教育原理	238
教育心理学	239
教育行政学概論	239
教育課程論	240
道徳教育論	242
特別活動論	243
教育方法学概論	244
教育相談	244
生徒指導原論	245
教職実践演習（栄養教諭）	247
栄養教育実習	248
栄養教育実習の事前事後の指導	249

調理学実習 I	116
調理学実習 II	117
調理学実習 III	117

生活科学科 生活科学専攻

【教養科目】			
（人文）			
文学の世界	1	衣生活学	137
日本の歴史	1	生活コロイド学	137
こころの科学	2	食物と栄養	138
芸術論	2	調理学	138
かごしまカレッジ教育	3	調理実習	139
（社会）			
日本国憲法	3	保育学	139
法学概論	4	卒業研究A	140
社会学	4	（ビジュアル・ファッションデザイン系）	
生活と経済	5	ビジュアルデザイン論	141
キャリアデザイン	6	ビジュアルデザインⅠ	141
（自然）			
数学の世界	6	ビジュアルデザインⅡ	142
物理の世界	7	ファッションデザイン論	142
生物の科学	7	ファッション造形Ⅰ	143
食生活と健康	8	ファッション造形Ⅱ	143
（総合）			
平和論	9	ファッションビジネス	144
環境問題	9	デジタルデザイン論	144
かごしま教養プログラム	10	デジタルデザイン	145
かごしまフィールドスクール	10	卒業研究B	145～146
社会活動	11	（建築デザイン系）	
企業研修	11	住生活学	146
（外国語科目）			
英語Ⅰ（B）	13	住居史	147
英語Ⅰ（B）	13	住居・インテリア設計学	147
英語Ⅱ（B）	18	設計製図Ⅰ	148
英語Ⅱ（B）	18	設計製図Ⅱ	148
英語Ⅲ（A）	22	住居構造学Ⅰ	149
英語Ⅲ（B）	22	住居構造学Ⅱ	149
英語Ⅲ（C）	23	住居環境学	150
英語Ⅳ（A）	26	住居環境学演習	150
英語Ⅳ（B）	26	建築材料学	151
英語Ⅳ（F）	28	建築生産	151
英語Ⅳ（G）	29	建築法規	152
異文化コミュニケーション（英語）	29	CAD設計	152
異文化コミュニケーション（中国語）	30	建築史	153
フランス語Ⅰ	31	CAD設計特講	153
フランス語Ⅱ	32	設計製図Ⅲ	154
中国語Ⅰ（G）	35	設計製図Ⅳ	154
中国語Ⅰ（H）	36	空間デザイン論	155
中国語Ⅱ（G）	39	空間デザインⅠ	155
中国語Ⅱ（H）	40	空間デザインⅡ	156
（スポーツ・健康科目）			
スポーツ・健康論	42	卒業研究C	156
生涯スポーツ実習Ⅰ（D）	43	【教職に関する科目】	
生涯スポーツ実習Ⅱ（D）	44	教職入門	237
（情報科目）			
情報リテラシーⅠ（D）	46	教育原理	238
情報リテラシーⅡ（D）	49	教育心理学	239
【専門科目】			
（生活科学科目）			
生活科学概論	111	教育行政学概論	239
生活経営学	111	教育課程論	240
人間関係論	112	家庭科教育法	241
社会福祉論	112	道徳教育の研究	242
（専門基礎系）			
生活化学	133	特別活動の研究	243
生活化学実験	133	教育方法学概論	244
色彩学	134	教育相談	244
コンポジション	134	生徒指導論	245
デジタル造形基礎	135	教職実践演習（中）	246
テキスタイルサイエンス	135	教育実習	248
ファッション造形基礎	136	【司書教諭に関する科目】	
		学校経営と学校図書館	250
		学習指導と学校図書館	250
		読書と豊かな人間性	251
		情報メディアの活用	251

商経学科 経済専攻

【教養科目】

(人文)	
文学の世界	1
日本の歴史	1
こころの科学	2
芸術論	2
かごしまカレッジ教育	3
(社会)	
日本国憲法	3
法学概論	4
社会学	4
キャリアデザイン	6
(自然)	
数学の世界	6
物理の世界	7
生物の科学	7
化学の世界	8
食生活と健康	8
(総合)	
平和論	9
環境問題	9
かごしま教養プログラム	10
かごしまフィールドスクール	10
(外国語科目)	
英語 I (D)	15～16
英語 I (D)	15～16
英語 I (D)	15～16
英語 I (D)	15～16
英語 II (D)	20～21
英語 II (D)	20～21
英語 II (D)	20～21
英語 II (D)	20～21
英語 III (D)	23
英語 III (E)	24
英語 III (F)	24
英語 III (G)	25
英語 III (H)	25
英語 IV (C)	27
英語 IV (D)	27
英語 IV (E)	28
英語 IV (F)	28
英語 IV (G)	29
異文化コミュニケーション (英語)	29
異文化コミュニケーション (中国語)	30
中国語 I (C)	33
中国語 I (E)	34
中国語 I (H)	36
中国語 II (C)	37
中国語 II (E)	38
中国語 II (H)	40
中国語 III	40
中国語 IV	41
(スポーツ・健康科目)	
スポーツ・健康論	42
生涯スポーツ実習 I (E)	43
生涯スポーツ実習 II (E)	44
(情報科目)	
情報リテラシー I (E)	47
情報リテラシー II (E)	50

【専門科目】

(専門基礎科目)	
〈基礎理論〉	
情報社会論	157
現代社会論	158
経済学	159
経済情報論	159

行政法	160
経済政策	161
社会政策	161
社会思想	162
民法	162
商法	163
産業心理学	163
簿記論 I	164
経営学総論	164
〈情報基礎〉	
情報科学概論	165
文書作成実習	165
統計学	166
応用文書処理	167
PCデータ活用	167
PCデータ活用実習	168
PCアプリケーション実習	169
(専攻専門科目)	
〈経済理論〉	
日本経済論	170
財政学	170
農業経済論	171
金融論	171
経済学史	172
経済学特講 I	172
経済学特講 II	173
法学特講	174
簿記論 II	174
〈国際環境〉	
国際経済論	175
アジア経済論	175
国際関係論	176
比較文化	176
アジア事情	177
ヨーロッパ経済事情	177
国際経済特講	178
〈地域政策〉	
地域経済論	178
地域産業政策	179
地方自治論	179
高齢者福祉	180
労働法	180
地域研究特講	181
地方自治法	181
〈演習・実習〉	
基礎演習	234～235
演習 I	234～235
演習 II	234～235
卒業研究	234～235
社会活動	236
企業研修	236

商経学科 経営情報専攻

【教養科目】

(人文)	
文学の世界	1
日本の歴史	1
こころの科学	2
芸術論	2
かごしまカレッジ教育	3
(社会)	
日本国憲法	3
法学概論	4
社会学	4
キャリアデザイン	6
(自然)	
数学の世界	6
物理の世界	7
生物の科学	7
化学の世界	8
食生活と健康	8
(総合)	
平和論	9
環境問題	9
かごしま教養プログラム	10
かごしまフィールドスクール	10
(外国語科目)	
英語 I (D)	15～16
英語 I (D)	15～16
英語 I (D)	15～16
英語 I (D)	15～16
英語 II (D)	20～21
英語 II (D)	20～21
英語 II (D)	20～21
英語 II (D)	20～21
英語 III (D)	23
英語 III (E)	24
英語 III (F)	24
英語 III (G)	25
英語 III (H)	25
英語 IV (C)	27
英語 IV (D)	27
英語 IV (E)	28
英語 IV (F)	28
英語 IV (G)	29
異文化コミュニケーション (英語)	29
異文化コミュニケーション (中国語)	30
中国語 I (D)	34
中国語 I (E)	34
中国語 I (H)	36
中国語 II (D)	38
中国語 II (E)	38
中国語 II (H)	40
中国語 III	40
中国語 IV	41
(スポーツ・健康科目)	
スポーツ・健康論	42
生涯スポーツ実習 I (F)	43
生涯スポーツ実習 II (F)	44
(情報科目)	
情報リテラシー I (F)	47
情報リテラシー II (F)	50

【専門科目】

(専門基礎科目)	
〈基礎理論〉	
情報社会論	157
現代社会論	158
経済学	159
経済情報論	159

行政法	160
経済政策	161
社会政策	161
社会思想	162
民法	162
商法	163
産業心理学	163
簿記論 I	164
経営学総論	164
〈情報基礎〉	
情報科学概論	165
文書作成実習	166
統計学	166
応用文書処理	167
PCデータ活用	168
PCデータ活用実習	169
PCアプリケーション実習	169
(専攻専門科目)	
〈経営理論〉	
簿記論 II	182
経営管理論	182
経営組織論	183
管理会計論	183
原価計算	184
国際経営論	184
経営学特講 I	185
〈情報分析〉	
比較経営論	185
経営分析	186
企業行動科学	186
経営戦略論	187
企業論	187
財務会計論	188
マーケティング論	188
〈情報活用〉	
経営工学	189
コンピュータ会計	189
応用データ活用	190
プログラミング	190
簿記論 III	191
情報論特講	191
〈演習・実習〉	
基礎演習	234～235
演習 I	234～235
演習 II	234～235
卒業研究	234～235
社会活動	236
企業研修	236

第二部商経学科

【教養科目】	
(教養一般)	
人間と文化	187
日本の歴史	187
日本文学・古典	188
こころの科学	188
比較文化	189
アジア文化論	189
日本国憲法	190
ライフプランニング	190
環境問題	191
かごしまカレッジ教育	191
かごしま教養プログラム	192
かごしまフィールドスクール	192
キャリアデザイン	
(外国語科目)	
英語Ⅰ(A)	193
英語Ⅰ(B)	194
英語Ⅱ(A)	194
英語Ⅱ(B)	195
異文化コミュニケーション(英語)	195
異文化コミュニケーション(中国語)	196
中国語Ⅰ(A)	196
中国語Ⅰ(B)	197
中国語Ⅱ(A)	197
中国語Ⅱ(B)	
(スポーツ・健康科目)	
生涯スポーツ実習Ⅰ	198
生涯スポーツ実習Ⅱ	
(情報科目)	
情報リテラシーⅠ(A)	199
情報リテラシーⅠ(B)	200
情報リテラシーⅡ(A)	200
情報リテラシーⅡ(B)	
【専門科目】	
(専門基礎科目)	
〈基礎理論〉	
情報社会論	201
社会哲学	202
経済学	202
行政法	203
経済政策	203
社会政策	204
社会思想	204
民法	205
商法	205
産業心理学	206
簿記論Ⅰ	206
経営学総論	207
〈情報基礎〉	
情報科学概論	208
文書作成実習	208
統計学	209
応用文書処理	209
PCデータ活用	210
PCデータ活用実習	210
PCアプリケーション実習(A)	211
PCアプリケーション実習(B)	
(専門応用科目)	
〈経済理論〉	
日本経済論	211
財政学	212
農業経済論	213
金融論	213
経済学史	214
国際関係論	221
アジア事情	221
ヨーロッパ経済事情	222
地域経済論	222
地域産業政策	223
地方自治論	223
高齢者福祉	224
労働法	224
国際経済特講	225
地域研究特講	225
地方自治法	226
〈経営理論〉	
簿記論Ⅱ	226
経営管理論	227
経営組織論	227
管理会計論	228
〈情報分析・活用〉	
比較経営論	228
経営分析	229
企業行動科学	229
経営戦略論	230
企業論	230
経営工学	231
コンピュータ会計	231
応用データ活用	232
プログラミング	232
情報論特講	233
マーケティング論	233
〈演習・実習〉	
基礎演習	234～235
演習Ⅰ	234～235
演習Ⅱ	234～235
卒業研究	234～235
社会活動	236
企業研修	236

経済学特講	
〈地域と国際〉	214
国際経済論	

1 教養科目（人文，社会，自然，総合）

授業科目	文学の世界	担当者	土肥克己, 小林朋子, 轟義昭, 竹本寛秋	
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	講義終了時	
		[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】世界の文学</p> <p>【概要】「文学」というとなんだか難しそうで敬遠していませんか？この授業では、4人の教員が中国、アメリカ、イギリス、日本の4カ国を中心に、時間を超え空間を越えさまざまな文学作品の世界にご案内します。時代や地域による作品の違いを楽しんでみてください。</p> <p>【到達目標】様々な作品を読み解き、文学作品に親しみを持ってもらう。各国の文学作品について考える。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし (プリント資料配付)</p> <p>(2) 必要に応じて授業時に指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、中国の文学：三国志の魅力 (1)</p> <p>第2回 中国の文学：三国志の魅力 (2)</p> <p>第3回 中国の文学：三国志の魅力 (3)</p> <p>第4回 中国の文学：日本での三国志</p> <p>第5回 17世紀アメリカ文学：ブラッドフォードとアメリカ先住民の文学</p> <p>第6回 18世紀アメリカ文学：フランクリン『自叙伝』</p> <p>第7回 19世紀アメリカ文学：アメリカン・ルネッサンス</p> <p>第8回 20世紀アメリカ文学：ハーレム・ルネッサンスとそれ以後</p> <p>第9回 イギリス文学：W.シェイクスピア『リア王』</p> <p>第10回 イギリス文学：J.スウィフト『ガリヴァー旅行記』</p> <p>第11回 イギリス文学：C.ディケンズ『クリスマス・キャロル』</p> <p>第12回 日本の文学：島崎藤村『若菜集』</p> <p>第13回 日本の文学：石川啄木『一握の砂』</p> <p>第14回 日本の文学：中原中也『山羊の歌』</p> <p>第15回 日本の文学：谷川俊太郎『二十億光年の孤独』</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業で紹介された作品を読む。(事前でも事後でも可)			
成績評価の方法	期末レポートの提出 (70点)、および講義に関する毎回の意見・感想等 (30点) で評価します。レポートは4人の教員が出した課題から2つを選んで書くことになります。			

(注) 文学科を除く

(注) 受講生が100人を超えた場合は人数を制限することがあります。

授業科目	日本の歴史	担当者	下原 美保	
	[履修年次] 1・2年次 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	講義終了時	
		[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>日本の歴史、特に文化史における絵画・彫刻 (仏像)・工芸等について考察</p> <p>【概要】</p> <p>日本の絵画、彫刻 (仏像)、工芸分野をトピックスごとに取り上げ、具体的な作品画像や関連映像を鑑賞しながら考察を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <p>日本の絵画、彫刻 (仏像)、工芸の特徴、様式展開や時代背景を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『すぐわかる日本野美術 改訂版』(田中日佐夫 東京美術 2009年3月 ISBN9784808708641)</p> <p>(2) 『日本美術のこぼれ案内』(日高薫 小学館 2003年1月 ISBN4-96815411)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーションー日本文化史における時代区分・様式変遷についてー</p> <p>第2回 やまと絵について (1) 国宝「源氏物語絵巻」を中心に</p> <p>第3回 やまと絵について (2) 「信貴山縁起絵巻」を中心に</p> <p>第4回 やまと絵について (3) 土佐派の作画活動</p> <p>第5回 漢画について (1) 狩野派設立と狩野永徳</p> <p>第6回 漢画について (2) 徳川政権下における御用絵師の役割</p> <p>第7回 浮世絵について (1) 菱川師宣・鈴木春信</p> <p>第8回 浮世絵について (2) 喜多川歌麿・葛飾北斎</p> <p>第9回 仏像について (1) 仏教美術の発生と伝播・仏像の種類</p> <p>第10回 仏像について (2) 飛鳥時代の仏像</p> <p>第11回 仏像について (3) 白鳳・天平時代の仏像</p> <p>第12回 仏像について (4) 平等院鳳凰堂と阿彌陀如来像</p> <p>第13回 仏像について (5) 鎌倉時代の仏像</p> <p>第14回 薩摩焼の歴史</p> <p>第15回 授業の総括</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習：授業に関する参考資料等を読んでおく。復習：本時の学習内容を見直す。			
成績評価の方法	筆記試験 (50%)、授業ごとに実施する小論文 (50%)			

(注) 受講生が100人を超えた場合は人数を制限することがあります。

授業科目	こころの科学	担当者	田中 真理
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義	授業外対応	適宜対応
テーマ及び概要	<p>【テーマ】心理学に関する学問領域や方法論, 自己理解や他者理解に関する知識, 発達の視点や精神的健康にかかわる基礎知識について学ぶ。</p> <p>【概要】本講義では特に, 社会心理学, 臨床心理学, 発達心理学の観点から, 人間の行動や心理の理解, 日常生活における精神的健康に関わる知識, さらに青年期以降の発達の視点の習得を目指す。体験的な学習も行うため, 適宜テーマにそって, 質問紙調査や心理検査, コミュニケーション・ワークなどを用いた実習を取り入れる。</p> <p>【到達目標】①自己理解や他者理解, 発達の理解を深めるための心理学の知識の習得を目標とする。 ②精神的健康やその予防・対処に関する知識の習得を目標とする。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。</p> <p>(2) ①スーザン・ノーレン・ホークセマ他著『ヒルガードの心理学 第16版』金剛出版, 2015年 ②中野敬子著『ストレス・マネジメント入門[第2版]—自己診断と対処法を学ぶ』金剛出版, 2016年 ③大野久編著『エピソードでつかむ青年心理学』ミネルヴァ書房, 2010年 ④大川一郎著『エピソードでつかむ老年心理学』ミネルヴァ書房, 2011年</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 心理学の分野①: 認知心理学, 社会心理学, 人格心理学</p> <p>第3回 心理学の分野②: 発達心理学, 教育心理学, 臨床心理学</p> <p>第4回 方法論①: 実験法, 観察法</p> <p>第5回 方法論②: 調査法</p> <p>第6回 社会心理学①: 自己概念</p> <p>第7回 社会心理学②: 対人認知</p> <p>第8回 社会心理学③: 社会的影響, 態度変容</p> <p>第9回 臨床心理学①: ストレス理論</p> <p>第10回 臨床心理学②: ストレス関連障害, うつ病</p> <p>第11回 臨床心理学③: ストレス・マネジメント</p> <p>第12回 発達心理学①: 青年期の発達</p> <p>第13回 発達心理学②: 成人期～中年期の発達</p> <p>第14回 発達心理学③: 高齢期の発達</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業内で課される小レポート課題 (30%) +試験 (70%)		

(注) 受講生が100人を超えた場合は人数を制限することがあります。

授業科目	芸術論	担当者	北一浩
	[履修年次] 1・2年 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義	授業外対応	適宜対応 (要予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】芸術を通して表現とは何かを考え, 新たな視点を持つきっかけをつくる。</p> <p>【概要】芸術の中でも美術 (造形芸術) の作品を通して, その発生や進化から表現について解説し, 様々なワークを行いながら芸術について考察していく。</p> <p>【到達目標】芸術に対する見聞を広げるとともに, 豊かな視点を持つことの優位性を認識する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜, プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 絵を描くとは</p> <p>第3回 上手い絵と良い絵</p> <p>第4回 〃</p> <p>第5回 優れた画家は自然に学ぶ</p> <p>第6回 〃</p> <p>第7回 子供の絵</p> <p>第8回 〃</p> <p>第9回 目の視覚・脳の視覚</p> <p>第10回 〃</p> <p>第11回 見るということ</p> <p>第12回 〃</p> <p>第13回 自然に出ていくこと</p> <p>第14回 〃</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	毎講義ごとのレポート (60%) 講義内で行うワーク (40%)		

(注) 受講生が100人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	かごしまカレッジ教育		担当者	望月 正道
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	随時 (要メール予約)
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2
			〔必修/選択〕	選択 (注)
			〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 レポートと話し合いのための日本語力 (書く力・話す力) を養成する。</p> <p>【概要】 「書く力」では、レポートの構成要素と表現を知り、データ・資料に基づいた論証型のレポートを作成する力を、「話す力」では、少人数グループによる話し合いで相手の立場や意見を尊重しながら自分の意見を述べる力を養う。</p> <p>【到達目標】 (1) 「話し手」・「聞き手」としてふさわしい態度や話し方・聞き方を学び、実際の話し合いの場で実践できる。 (2) グループの話し合いの結果を、簡潔にわかりやすく授業の中で発表できる。 (3) レポートの構成要素を理解し、組み立てにそって論理的なレポートが書ける。 (4) レポートの構成要素として使われる様々な表現を理解し、レポートの中で使うことができる。 (5) 事実と意見を区別し、データや資料・情報に基づいた論証型のレポートが書ける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 国語辞典 (電子辞書, スマホアプリも可)			
授業スケジュール	第 1回 導入:「かごしま教養プログラム」「かごしまフィールドスクール」紹介,各自自己紹介 第 2回 地図:班分け,グループごとに動画を確認して意見交換,地図を口頭で説明し,略地図を書く 第 3回 漢字:地図の解答確認,難読語をどう調べるか,送り仮名,印刷標準字体・手書き文字の字形,漢字の課題 第 4回 ネット利用:課題の解答確認,ドメイン,電子メール利用の注意点,ネットで調べる,図書館資料をOPACで 第 5回 調査方法:論文を調べる,新聞を調べる,引用・書誌情報,希望調査 第 6回 調査開始:班分けの発表,リーダー選出,図書館調査・ネット調査,本時の到達点を報告 第 7回 調査実施:引き続き課題についての調査を行う,本時までの到達点を報告 第 8回 図表:統計などの数字の扱い,図表の読み方と説明の仕方 第 9回 ポスター作成:発表用資料を模造紙に 第 10回 中間報告:口頭発表と質疑 第 11回 レポート:文型・文体,現代語表記と原稿のきまり,文章の構成 第 12回 レポート:第1回提出 第 13回 レポート:わかりやすく書くには 第 14回 レポート:補充調査 第 15回 レポート:第2回提出とまとめ			
授業外学習(予習・復習)	ネット調査,図書館調査,ポスター作成など,毎回授業のなかで指示する。			
成績評価の方法	課題レポートの成績(50%)+中間報告の口頭発表(30%)+随時実施する小テストの成績及び授業での発言内容(20%)			

(注) 受講者数は35名が上限。希望者多数で抽選となる場合は、「かごしま教養プログラム」「かごしまフィールドスクール」受講希望者を優先します。

授業科目	日本国憲法		担当者	山本 敬生
	〔履修年次〕	1, 2年履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本国憲法の基本原理である国民主権,基本的人権の尊重,平和主義を体系的に理解した上で,日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】 日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに,基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年,その価値が問い直されている一方,新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では,国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権,平和に崇高な価値をおき,その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義,個人の尊厳の原理に基づき,個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原理を中心として,人類の叡智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。</p> <p>【到達目標】 日本国憲法の基本原理を深く理解し,政治的・社会的諸問題について憲法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 山口友信他編,『ポケット六法 (平成29年度版)』,有斐閣			
授業スケジュール	第 1回 憲法概論 ・国民主権,基本的人権の尊重,平和主義,権力分立主義の理念について 第 2回 基本権総論 ・私人間の人権保障,基本権の享有主体性,二重の基準の理論について 第 3回 幸福追求権 ・幸福追求権,プライバシーの権利,肖像権,法の下での平等について 第 4回 精神的自由権(1) ・思想・良心の自由,沈黙の自由,信教の自由,政教分離の原則について 第 5回 精神的自由権(2) ・表現の自由,検閲の禁止,知る権利,報道の自由について 第 6回 精神的自由権(3) ・集会の自由,結社の自由,学問の自由,大学の自治について 第 7回 経済的自由権 ・職業選択の自由,居住・移転の自由,国籍離脱の自由,財産権について 第 8回 受益権 ・裁判を受ける権利,請願権,国家賠償請求権,刑事補償請求権について 第 9回 社会権(1) ・生存権,環境権,教育を受ける権利,教育の自由について 第 10回 社会権(2) ・勤労権,労働基本権,参政権,選挙権について 第 11回 国会(1) ・国権の最高機関の意味,唯一の立法機関の意味,衆議院の優越について 第 12回 国会(2) ・国会議員の地位,議員の特権,国会の活動,国会と議院の権能について 第 13回 内閣 ・内閣の地位,内閣総理大臣の権限,国務大臣の権限,内閣の責任について 第 14回 裁判所 ・最高裁判所の権限,統治行為論,部分社会の法理,違憲審査制について 第 15回 財政 ・財政民主主義,租税法律主義,国費支出議決主義,公金支出の禁止について			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験(90%)+授業での発言内容(10%)を基準にして評価する。			

(注) 教職必修 (注) 受講生が100人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	法学概論	担当者	疋田京子
	[履修年次] 不問 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	コミュニケーション・ペーパーを毎回配布
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】法学入門</p> <p>【概要】「法律家は悪しき隣人」という法諺もあるように、中立性・客観性・合理性を追求する法は、日常の感覚からすると何かよそよそしいもののように感じるかもしれません。しかし、法が実現される過程を見てみると、法とは、そこに登場する人たちの様々な主観によって一つの「物語り」が形成される過程のようにも見えてくるのです。司法の現場で語られる事件の「物語り」は、法制度や法文化の変容の中でどう変化しているのか、映画や小説を題材に紹介します。</p> <p>【到達目標】</p> <p>様々な角度から法的な事象に触れることによって、日常生活の中にある紛争にどう対処すればよいか、その基本的な判断力を磨く。</p> <p>具体的な紛争を、権利と義務の関係として法的に捉える法的思考力を身につける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布</p> <p>(2) 講義時に紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 私たちをとりまく法の世界：法の体系、紛争と裁判</p> <p>第3回 真実は誰が語るのか：芥川龍之介『藪の中』を題材として</p> <p>第4回 刑事裁判における真実：映画『羅生門』を題材として</p> <p>第5回 刑事訴訟法の基本構造の史的変遷：糾問主義から弾劾主義へ</p> <p>第6回 刑事と民事が未分化の時代：映画『ヴェニス商人』を題材に</p> <p>第7回 私情や慈悲・宗教差別と裁判は無縁か？：法の解釈と法の三段論法</p> <p>第8回 人肉を担保にした契約紛争が現代の法廷に持ち込まれたら：民本の基本原則とその修正</p> <p>第9回 冤罪は何故起こるのか：映画『評議』を題材に</p> <p>第10回 刑事事件の有罪率99%の理由：刑事訴訟の基本原則</p> <p>第11回 裁判員になったら心にとめておきたい4つのこと：市民の司法参加</p> <p>第12回 揺さぶられる家族観：映画『そして父になる』を題材に</p> <p>第13回 法的親子における血縁関係の意味：婚姻に対する日本人の規範意識</p> <p>第14回 「権利がある」ことと「権利が実現される」こととは違う：映画『スタンドアップ』を題材に</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	レポート		

(注) 受講生が100人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	社会学	担当者	西原 誠司
	[履修年次] 1・2年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	メール・Lineで連絡。
		[必修/選択]	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】Love & Peace の社会学——ベルリンの壁崩壊後の社会現象を科学する。</p> <p>【概要】ベルリンの壁・ソ連邦の崩壊によって、米ソ冷戦体制は終結し、多くの人々が平和な世界の到来を予想した。だが、現実には、湾岸戦争、ユーゴスラビア紛争、9.11同時多発テロを契機としたアフガン・イラク侵略戦争、ウクライナ紛争、シリア内戦、イスラム国の台頭、アフリカにおける部族紛争、米国における黒人青年射殺等々、むしろ平和な世界から遠ざかっているように思える。この講義ではこのような国際的な社会現象がおこる諸原因を科学的に分析・解明しその解決の方向性を探る。</p> <p>【到達目標】世界の様々な人間と社会にかかわる諸現象をみずみずしい感性でとらえ、科学的に分析する能力を身につける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 朝日吉太郎編著『欧州グローバル化の新ステージ』（文理閣、2015年）</p> <p>(2) 池田香代子&マガジンハウス『世界がもし100人の村だったら 2』（マガジンハウス2002年6月）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに——日・中・韓の緊張とヘイトスピーチを考える</p> <p>第2回 ベルリンの壁崩壊と米・ソ冷戦体制の終結の世界史的意味を考える</p> <p>第3回 民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生——EUの新しい実験 ①</p> <p>第4回 民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生——EUの新しい実験 ②</p> <p>第5回 民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生——EUの新しい実験 ③</p> <p>第6回 民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生——EUの新しい実験 ④</p> <p>第7回 民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生——EUの新しい実験 ⑤</p> <p>第8回 なぜ、アメリカは戦争をやめられないのか——9.11後のアメリカ社会を考える ①</p> <p>第9回 なぜ、アメリカは戦争をやめられないのか——9.11後のアメリカ社会を考える ②</p> <p>第10回 なぜ、アメリカは戦争をやめられないのか——9.11後のアメリカ社会を考える ③</p> <p>第11回 EU加盟をめざすモダンイスラム・トルコの挑戦と苦悩 ①</p> <p>第12回 EU加盟をめざすモダンイスラム・トルコの挑戦と苦悩 ②</p> <p>第13回 「イスラム国」/ウクライナ/アフリカの部族紛争</p> <p>第14回 非暴力主義の系譜と世界平和——ガンジー/キング牧師/チャップリン/ネルソンマンデラ/ジョンレノン</p> <p>第15回 おわりに——東アジア共同体・北東アジア共同体の可能性をさぐる。</p>		
授業外学習(予習・復習)	テキストの該当箇所を事前に読み、講義のあと、復習をし、それを通じて自分の見解を形成することに心がけてください。		
成績評価の方法	授業態度（積極的に授業に参加しているか、感想文の提出）および筆記試験。		

(注) 受講生が100人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	生活と経済	担当者	山口 祐司
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 現代の私たちはもはや自給自足だけでは生きていけず、コンビニやスーパー、レストラン、あるいは身の周りのものを作るメーカーといったさまざまな企業やそこで働く人たちに頼って生きています。また私たち自身誰かのために働きます。この意味で経済は人間社会の基礎です。この授業では生活にかかわる身近な経済問題を手がかりに経済の味方の基礎を学んでいきます。</p> <p>【概要】 人間社会の歴史的発展の中で経済システムがどのように形作られたのか（第2回）。消費者としての視点から、モノやサービスの生産と流通の仕組みや生産と消費の関係を学ぶ（第3～6回）。労働者としての視点から、賃金や働き方をめぐる現状と問題を学ぶ（第7～10回）。市民としての視点から、税や社会保障制度をめぐる現状と問題を学ぶ（第11～14回）。</p> <p>【到達目標】 経済は社会の基礎であるために、そこが揺らぐと個人の暮らしや社会の不安定化にもつながります。経済問題をいち早く認識し、解決するための力を受講者が身につけられるようにします。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 特に指定しません。 (2) 講義時に提示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 第2回 人間社会と経済の発展 第3回 生産と消費（1）ものづくり 第4回 生産と消費（2）サービス 第5回 生産と消費（3）流通 第6回 生産と消費（4）消費生活の多様化 第7回 賃金と労働（1）賃金とは何か 第8回 賃金と労働（2）働きすぎの日本社会 第9回 賃金と労働（3）失業、不安定就労、貧困問題 第10回 賃金と労働（4）人間らしい労働への取り組み 第11回 税と社会保障（1）日本における税負担の構造 第12回 税と社会保障（2）税制度の公平性 第13回 税と社会保障（3）社会保障制度の役割 第14回 税と社会保障（4）日本における社会保障の貧困 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。新聞の経済記事に日常から目を通すようにしておいてください。		
成績評価の方法	筆記試験（60%）、授業ごとの小論文（40%）		

(注) 商経学科を除く。

(注) 受講生が100人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	キャリアデザイン	担当者	担当教員
		[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 通年 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】1年生を対象に、卒業後のキャリア形成についての具体的なイメージを描けるようになること</p> <p>【概要】近年の若者を巡る就職状況の厳しさの中、本学の学生も卒業後の進路のイメージは人それぞれである。入学時にすでに明確な就職希望を持っている学生もいるが、自分の興味だけで考えている場合、キャリア構築という点からは一面的な見方しかできていないおそれがある。入学時には興味のなかった様々な職種をできるだけ系統的に紹介し、社会の中で働くことの心構えや具体的な就職準備作業などキャリアデザインに必要な知識理解を系統的に身につけることを目指す。短期的な就職活動だけのためではなく、社会人として自立するために必要な自分なりのキャリアデザインを作り上げていく心構えを育てる助けになるであろう。</p> <p>【到達目標】本講義を通じて、県短生をとりまく就業環境、社会の中で働くことの意味、就職活動の実践的な進め方などを系統的に学んでいただきたい。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	<p>〔講師陣は平成28年度実績〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1期(8月1日) 社会人になる(就職する)ことはなぜ必要なのか、県短を取り巻く就職状況はどうかのキャリア教育の総論的な講義を行う。 講師:有村恵美(生活科学科助教),内田昌廣(商経学科教授),西村道子(株式会社 昴) 川村美鈴(KTS 鹿児島テレビ) ・第2期(9月20,21日) 地域を代表する企業・団体の経営者の話を聞き、働くことの意味、会社組織と学生生活との違いを考える。社会人として要求される発想力・コミュニケーション力をアップするワークショップを体験する。 講師:前田幸一(㈱浜島印刷),田原武志(㈱アシップ),丸田真悟(NPO法人かごしまアートネットワーク) 木下慎吾((有)丸徳産業),和田茂子,西山元子(鹿児島労働局) ・第3期(12月13日) 県短生が多く志望する企業の人事・採用担当者や実際に現場で活躍しているOB・OGから話を聞き、進路イメージを具体化させる。 講師:井川直子(㈱健康家族),村上徹(サツマ酸素工業(株)), 小泉正一(㈱フォーバル),秋葉重登(鹿児島相互信用金庫),本学卒業生4人(中学校教員など) ・第4期(2月11日) いよいよ実際の就職活動を目前に控えて、労働基準法など社会人として働くために必要な法的知識を身につけるとともに、具体的な就職準備作業を行う。 講師:疋田京子(商経学科准教授),学生部学生課職員 ※29年度のスケジュール・講師は適宜掲示する。 		
成績評価の方法	レポート提出2回(100%)		

授業科目	数学の世界	担当者	和田 信哉
		[履修年次] 1,2年いずれでも履修可 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応 [必修/選択] 選択(注)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 数学を楽しむ</p> <p>【概要】 小学校の算数や中学校・高等学校の数学で学習した知識等を活用し、数学のよさや美しさなどを実感することによって、数学を楽しむことを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な数学的知識を理解する。 ・数学的に考えることを楽しむことができる。 		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 講義中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス 第2回 n進法 第3回 九九表 第4回 ロッカー問題 第5回 ハノイの塔 第6回 黄金比 第7回 敷き詰め 第8回 はと目返し 第9回 ポリオミノ 第10回 正三角形を折る 第11回 一裁ち折り紙 第12回 一筆書き 第13回 結び目 第14回 問題をつくろう 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	レポート(60%) + 授業ごとに実施する小テスト(40%)		

(注) 受講生が100人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	物理の世界		担当者	藤井 伸平
	[履修年次]	1,2年いずれでも履修可	授業外対応	講義終了時
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択 (注)
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身近なものや身のまわりでおこる現象に題材を求め、それらを物理という視点から眺めてみようというのがこの講義のテーマです。</p> <p>【概要】ほとんどの方は子供の頃シャボン玉で遊んだことと思います。そのシャボン玉ですが、きれいな色がついていたことを覚えていますか？ 覚えていない方はぜひシャボン玉をつくって眺めてみてください。きれいですよ。どうしてシャボン玉にはきれいな色がつくのでしょうか？ このように、いくつかの題材について考えていくつもりです。</p> <p>【到達目標】物理学を身近に感じる</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし (適宜プリントを配布)</p> <p>(2) 適宜授業中に紹介</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 講義の概要、基本的な量について</p> <p>第 2 回 身近な現象1・・・大気圧を感じる</p> <p>第 3 回 身近な現象2・・・地球の大きさ・丸さを感じる</p> <p>第 4 回 身近な現象3・・・水の特異な性質について</p> <p>第 5 回 身近な現象4・・・ろうそくの炎について</p> <p>第 6 回 力学1・・・釣り合いとてこの原理を感じる</p> <p>第 7 回 力学2・・・無重量状態を感じる</p> <p>第 8 回 力学3・・・慣性を感じる</p> <p>第 9 回 熱学1・・・焚き火について</p> <p>第 10 回 熱学2・・・断熱膨張を感じる</p> <p>第 11 回 熱学3・・・気化熱を感じる</p> <p>第 12 回 電磁気学1・・・分極を感じる</p> <p>第 13 回 電磁気学2・・・磁場を感じる</p> <p>第 14 回 振動・波動1・・・光の屈折を感じる</p> <p>第 15 回 まとめ (注意事項：理解の度合いにより、講義の内容や順番が変更になることがあります。)</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	(A)授業ごとの小レポート (40%)、(B)レポート (60%) (Aは授業中の提出で15回、Bは2回を予定)			

(注) 受講生が100人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	生物の科学		担当者	塔筋 弘章
	[履修年次]	1年、2年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】細胞・遺伝・進化</p> <p>【概要】生物は細胞からできていて、その特徴として代謝・自己複製(増殖)・成長などがあげられます。それは、外部から物質を取り込み、他の物質に変換しながらエネルギーを作ったり、体そのものを作ったり、固有の設計図(遺伝子)をもとにして、子孫を作ることです。そして、長い歴史の中ではこの遺伝子が少しずつ変化し、これが進化を引き起こします。</p> <p>本講義では、生物、生命の基礎を理解するために、細胞・遺伝・進化について学びます。</p> <p>【到達目標】生物の成り立ちや生命についての基礎を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜指示</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 生物の基本構造：化学成分と細胞</p> <p>第 2 回 代謝：エネルギー産生のしくみ</p> <p>第 3 回 DNA からタンパク質へ：転写と翻訳、遺伝子の調節</p> <p>第 4 回 バイオテクノロジー：遺伝子組換えと制限酵素</p> <p>第 5 回 細胞分裂(1)：細胞分裂と細胞周期</p> <p>第 6 回 細胞分裂(2)：減数分裂と受精、発生</p> <p>第 7 回 遺伝の基礎：メンデルの法則</p> <p>第 8 回 染色体と遺伝子：遺伝と確率、連鎖、遺伝地図</p> <p>第 9 回 突然変異：変異原、遺伝子の修復、発がん</p> <p>第 10 回 環境ホルモン：内分泌攪乱因子と遺伝子の発現</p> <p>第 11 回 進化論：ラマルクとダーウィン</p> <p>第 12 回 生物の進化(1)：遺伝子の変化、単細胞から多細胞へ</p> <p>第 13 回 生物の進化(2)：動物の進化</p> <p>第 14 回 生物の進化(3)：恐竜から鳥へ</p> <p>第 15 回 生物の進化(4)：類人猿からヒトへ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験			

(注) 食物栄養専攻を除く。

(注) 受講生が100人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	化学の世界		担当者	井余田 秀美・木下 朋美				
	〔履修年次〕	1年, 2年いずれでも履修可	授業外対応	講義終了時				
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	選択 (注)	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身近なものや現象を通して、私たちの生活の中で、化学がどのようにかかわっているかを学ぶ。</p> <p>【概要】物質の科学である化学は、自然や生物の資源を利用して有用な物質を作ること等により、私たちの暮らしを豊かにしている。一方で、化学は環境や資源の問題等とも密接に関わっており、化学を学ぶことは、身の回りの物質についての知識を得、理解を深めるだけでなく、私たち自身の生活や身のまわりの自然について考える良い機会となる。こうした生活と物質の関わりの視点から、身の回りの物質や現象、茶の化学について、講義を行う。(第1~6回:井余田, 第7~15回:木下 担当)</p> <p>【到達目標】化学的視点から、課題を探求し、解決していくための基本的な能力を培う。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)							
授業スケジュール	第1回 自然の恩恵(暮らしと化学物質 天然資源の利用) 第2回 化学の基礎(自然と生命の物質—無機物と有機物 物質の成り立ち, 状態や性質, 変化) 第3回 生活と化学(1日の生活 衣食住) 第4回 物質の変化(溶ける、煮る・焼く、洗う、染める、さびる) 第5回 洗濯の化学(界面化学 洗剤の働き) 第6回 光と色(染料と染色 シャボン玉 花火) 第7回 様々な茶を生み出した歴史 鹿児島と茶 第8回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法—茶成分(アミノ酸, ポリフェノール, カフェイン等)への影響(1) 第9回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法—茶成分(アミノ酸, ポリフェノール, カフェイン等)への影響(2) 第10回 緑茶に付加価値をつける 流通と仕上げ加工(ブレンド・火入れ) -アミノカルボニル反応 第11回 緑茶の味は淹れ方次第 溶出成分の特徴(急須とペットボトル) -茶成分の品質への影響 第12回 緑茶の味は淹れ方次第 溶出成分の特徴(実習) 第13回 紅茶・烏龍茶の製造方法と品質-ポリフェノール, 香気成分等 第14回 味をも作り出す 香りの特性と役割 - 香気成分と受容体 第15回 茶の品質を見極める 官能検査と化学分析							
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。							
成績評価の方法	レポートまたは試験							

(注) 生活科学科生活科学専攻を除く

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	食生活と健康		担当者	中熊美和・亀井勇統・冨田司・木下朋美				
	〔履修年次〕	1.2年いずれでも履修可	授業外対応	担当ごとに適宜対応。				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】健康な食生活を送るためにはどうしたらよいか。</p> <p>【概要】バランスの取れた栄養、運動、休養、睡眠によって健康な日常生活を送ることは私たちの願いである。今日、健康や栄養についての情報はあふれており、私たちの関心を喚起し、生活に大きな影響を与えている。しかし、それらの中には十分な検証がされないまま提供される有害な情報も少なくない。本科目では、健康で安全・安心な生活を送るためにはどうしたらよいかについて、各種の活動を取り入れて、実践的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】健康な食生活を送るための知識とスキルを獲得する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1)プリント (2)適宜紹介する							
授業スケジュール	第1回 健康な食生活:健康とは何か?(中熊) 第2回 健康な食生活:食品の特性(木下) 第3回 健康な食生活:食の安全(木下) 第4回 健康・栄養情報:メディア情報とのつきあい方1(冨田) 第5回 健康・栄養情報:メディア情報とのつきあい方2(冨田) 第6回 食物と生活:食物の機能性(亀井) 第7回 食物と生活:食物の機能性試験の方法(亀井) 第8回 食物と生活:特定保健用食品の開発(亀井) 第9回 健康な食生活:食品に含まれる栄養素とその特性(中熊) 第10回 健康な食生活:食事バランス・食品選択の方法(中熊) 第11回 健康な食生活:ダイエット(中熊) 第12回 健康な生活習慣:運動・睡眠・休養(中熊) 第13回 健康な生活習慣:生活習慣病(中熊) 第14回 健康な食生活:食のおいしさ・食文化(中熊) 第15回 まとめ:健康な食生活とは(中熊)							
授業外学習(予習・復習)	プリントや参考文献にて学習する。							
成績評価の方法	試験、レポート、授業ごとの小論文、発表内容によって総合的に評価する。 担当者ごとの成績を集計して、加重平均にて算出、評価する。							

(注) 受講生が100人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	平和論		担当者	福田忠弘、杉原洋、疋田京子、船津潤				
	[履修年次]	1, 2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】テーマは、国際社会や日本国内で生じた諸問題について、平和論の視座からどのようにとらえることができるかについて考察することである。</p> <p>【概要】平和論で取り上げるテーマは、国家間の戦争、貧困問題、人権問題、女性への暴力、環境問題など、多岐にわたるが、本講義では（１）暴力の様々な形態および武器規制について、（２）スリランカを事例にした国家建設の光と影、（３）マスメディアと平和、（４）アジア・太平洋戦争中に鹿児島が受けた被害などについて、それぞれの講師が講義を行う。</p> <p>【到達目標】平和とは単に戦争がない状態を指すのではなく、人間が自由にその能力を発揮できる状態を指すことを理解できることを到達目標とする。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない (2) 講義中に適宜紹介する							
授業スケジュール	第 1 回 平和論の方法：平和論という学問がどのようなものなのかを概説する（福田） 第 2 回 暴力の多様性（１）：暴力という概念について（福田） 第 3 回 暴力の多様性（２）：国際社会における紛争について（福田） 第 4 回 武器の規制：地雷およびクラスター爆弾（福田） 第 5 回 スリランカの民族紛争(1)：その国内的・国際的背景について（船津） 第 6 回 スリランカの民族紛争(2)：国際的な動向を踏まえた歴史的推移について（船津） 第 7 回 戦争と女性：空白の鹿児島銃後史ノート（疋田） 第 8 回 戦争と移民：開拓移民政策と鹿児島（疋田） 第 9 回 日本国憲法「平和主義」の歴史的意味：グローバリズムと平和的生存権（疋田） 第 10 回 アジア・太平洋戦争と 45 連隊：鹿児島の兵士はどこで戦ったのか（杉原） 第 11 回 沖縄戦と鹿児島(1)：本土決戦への大規模な備え（杉原） 第 12 回 沖縄戦と鹿児島(2)：特攻戦の最前線（杉原） 第 13 回 6.17 鹿児島大空襲：米軍の行った無差別爆撃（杉原） 第 14 回 新聞統合と「きりしま」事件：戦時体制と言論統制（杉原） 第 15 回 まとめ：平和の多様性について（福田）							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する							
成績評価の方法	学期末に行う試験（100％）によって評価する							

(注) 受講生が100人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	環境問題		担当者	相場慎一郎・井余田秀美・長田啓・野呂忠秀・岡村雄輝				
	[履修年次]	1, 2	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】環境問題を様々な角度から考える</p> <p>【概要】森林（相場）、化学（井余田）、環境保護行政（長田）、水産（野呂）、企業社会（岡村）の視点から環境問題を考える</p> <p>【到達目標】環境に関する複眼的思考を養う</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない。 (2)							
授業スケジュール	第 1 回 総論：環境問題とは？ 第 2 回 生物多様性と生態系 第 3 回 野生動物問題と自然保護 第 4 回 化学（１）：生活環境と公害 第 5 回 化学（２）：地球環境汚染 第 6 回 化学（３）：環境に配慮した生活 第 7 回 自然環境問題（１）生物多様性と私たちの暮らし 第 8 回 自然環境問題（２）世界自然遺産と保護地域制度 第 9 回 自然環境問題（３）希少種の保護と外来種問題 第 10 回 海（１）海洋生態学と環境保全 第 11 回 海（２）赤潮 第 12 回 海（３）磯焼け 第 13 回 企業のグローバル化のその影響（１） 第 14 回 企業のグローバル化とその影響（２） 第 15 回 企業と公害							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。							
成績評価の方法	20点満点（講師一人あたり）×5							

(注) 受講生が100人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

	かごしま教養プログラム	担当者	県内8大学の担当教員
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 前期集中 [必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 講義
授業科目	<p>【概要】この講義では、鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた、鹿児島を素材にした授業を持ち寄り、「グローバルな視点から見たかごしま再発見」というテーマに基づき、リベラルアーツ教育を行います。3日間の夏期集中授業で、講義とグループ学習を行います。ディベートなどを取り入れ、学生間でよく話し合い、切磋琢磨しながら学習します。</p> <p>【学習目標】①講義で提示される鹿児島独自の文化、自然、社会、産業などのテーマについて、内容をよく理解し、自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。 ②グループ学習により、テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い、グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ、それを適切に発表できる。 ③テーマに関してグループで検討し得られた結論等について、受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 未定		
授業スケジュール	<p>第1回 平成28年度実施概要(平成29年度については未定。若干の変更の予定があります。)</p> <p>日程 : 平成28年8月17日(水)～19日(金) 場所 : 鹿児島大学 定員 : 県内8大学等の学生 150人程度</p>		
成績評価の方法	未定		

(注)「かごしまカレッジ教育」または「日本語表現法」(日本語日本文学専攻のみ)の履修が条件となります。

	かごしまフィールドスクール	担当者	県内11大学の担当教員
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 前期集中 [必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 実習
授業科目	<p>【概要】地場産業、農業、商業、文化、観光、環境、暮らしなどにかかわる地域・施設などを学習の場とし、そこに内在する特徴や住民・関係者の暮らし、今後の方向性への住民・関係者の意識などを実践的に学習し、今後、地域を活性化していくための方策について考察し、若者のグローバルな視点でそれらを発展させる方策などについて考えます。 この活動により、鹿児島の本質と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローバルな素養」を身につけ、あるいは自己開発の能力を身につけます。具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し、考察・討論・発表を通じた理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通じた総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。</p> <p>【学習目標】①指定地域内の調査地区の実地視察や関係者との交流を通して、同地区の住民生活、商業活動、文化活動等の特徴を把握し、選択したテーマに関する独自の問題を地洋さする。 ②同地区等のさらなる活性化のために、今後どのような展望が望ましいか、どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え、グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。 ③実地調査、討論、発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。 テーマ別に編成されたグループにおいて、これらの3つの学習目標を達成する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 未定		
授業スケジュール	<p>第1回 平成28年度実施概要(平成29年度は未定。若干の変更の予定があります。)</p> <p>日程・場所 : ①平成28年8月22日(月)～24日(水) 出水市 ②平成28年8月24日(水)～27日(土) 鹿児島市、いちき串木野市、薩摩川内市、出水市、始良市 ③平成28年8月29日(月)～9月1日 南さつま市</p> <p>定員 : 県内8大学等の学生 60人程度</p>		
成績評価の方法	未定		

(注)「かごしま教養プログラム」の履修が条件となります。

授業科目	社会活動	担当者	担当教員全員
	[履修年次] 年次指定なし [単位] 2～4単位	[学期] [必修/選択]	通年 選択(注) [授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「社会活動」は、非営利組織を中心とした研修先において、実際の現場での体験を得ることにより、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定（事前指導のなかで指示する）</p> <p>(2) 未定（事前指導のなかで指示する）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研 修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)		

(注) 商経学科を除く

授業科目	企業研修	担当者	担当教員全員
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] [必修/選択]	通年 選択(注) [授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この科目は、一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は、民間企業を中心に県庁、病院などの研修先において、現場で就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、働くことの自覚や自信を身につける。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定（事前指導のなかで指示する）</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義、研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研 修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)		

(注) 商経学科を除く

(注) 県短独自分は2年生も履修可

2 教養科目（外国語科目）

授業科目	英語Ⅰ(A 日本語日本文学専攻)	担当者	小林朋子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習	授業外対応	適宜対応(要予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】リスニング力、発音力、文法力を総合的に鍛えることで、スピーキングの基礎力を養成する。</p> <p>【概要】英語のリスニング、文法、読解を総合的に学習することで、バランスのとれた英語力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習、基本的、発展的な文法事項の確認、「フレーズ・リーディング」(意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法)を意識した速読理解の練習などを通して、総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。</p> <p>【到達目標】日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、プロソディー面は理解に支障がない発音で情報や考えを正確に表現できる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 角山照彦、Simon Capper 著 『Let's Read Aloud & Learn English 音読で始める基礎英語』 成美堂 刊</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Please to meet you. <be 動詞></p> <p>第3回 Do you remember me? <一般動詞(現在)></p> <p>第4回 I spoke to Ms. Hayashi yesterday. <一般動詞(過去)></p> <p>第5回 When does the meeting start? <疑問詞></p> <p>第6回 Can you meet me at the airport? <助動詞1></p> <p>第7回 Feel free to ask me anytime. <文の種類、命令文></p> <p>第8回 I'm thinking about quitting my job. <進行形></p> <p>第9回 I'll give her your message. <未来形></p> <p>第10回 I haven't received the latest figures. <現在完了形></p> <p>第11回 The cafeteria is closed today. <受動態></p> <p>第12回 We expect higher sales in China. <比較></p> <p>第13回 I'd like to check in. <助動詞2></p> <p>第14回 How about going to the theater? <動名詞></p> <p>第15回 I like to travel a lot. <to 不定詞></p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	筆記試験(70%)、提出物(10%)、授業への取り組み態度(20%)で評価する。		

(注) 教職必修、日本語日本文学専攻

授業科目	英語Ⅰ(A) 月曜5限	担当者	加塩 里美
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式	授業外対応	授業開始前、あるいは終了時
テーマ及び概要	<p>【テーマ】リスニングとリーディングを軸に、英語の運用能力をバランスよく伸ばし、英語によって自分の考えを「伝える」方策を身につける。</p> <p>【概要】ユニットごとに、聞くから話すへ、読むから書くへとつながるタスクを進めながら、読む、聞く、書く、話すの言語の4技能を無理なく向上させる</p> <p>【到達目標】リズムカルな対話ができるようになる。話す場合、書く場合のコミュニケーションのあり方、構造が理解でき、発信能力を高める。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Akira Morita, Makiko Iio 他 『Target!: pre-intermediate 総合英語のターゲット演習(準中級)』, Kinseido (金星堂)</p> <p>(2) 必要があれば、適宜指示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、今後の授業の進め方についての解説</p> <p>第2回 Unit1 Small Talk いろいろな数値1、基本5文型</p> <p>第3回 Unit2 Human Relations いろいろな数値2、文の種類</p> <p>第4回 Unit3 Culture and Globalization 発音しづらい語句、基本時制</p> <p>第5回 Unit4 Healthy Life 固有名詞(人名、地名など) 進行形</p> <p>第6回 Unit5 Future Careers かんたんな挨拶文、完了形</p> <p>第7回 Unit6 That Shirt Suits You! 提案文、勧誘文、助動詞1</p> <p>第8回 Unit7 Taking a Trip 依頼文、助動詞2</p> <p>第9回 Unit8 Do You Like Sports? Yes/No 疑問文、受動態</p> <p>第10回 Unit9 Let's Do Something Fun! wh 疑問文、不定詞</p> <p>第11回 Unit10 Art Appreciation 否定・付加疑問文、動名詞</p> <p>第12回 Unit11 Let's Eat Out! カジュアルな表現、分詞</p> <p>第13回 Unit12 A Career in International Business フォーマルな表現、比較</p> <p>第14回 Unit13 Science for the Future 長文の聞き取り、関係代名詞</p> <p>第15回 まとめ、復習</p>		
授業外学習(予習・復習)	前回の授業で学習したユニットの復習テストを毎回行います。復習と次回のユニットの指示された箇所の予習を行って、授業に臨んでください。		
成績評価の方法	期末試験(70%)、授業への取り組み態度(20%)、復習テストの成績(10%)で評価する。		

(注) 教職必修、日本語日本文学専攻

授業科目	英語 I (B)		担当者	太田 一郎
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	必修 (注)
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語のリスニングおよびスピーキング力の発展・充実</p> <p>【概要】 (1)ビデオ教材の視聴による聴き取りの訓練, および会話表現等の学習 ビデオ教材で日常の会話で使用される生の英語にふれ, 英語の音声 (プロソディ) に耳をならしてください。リスニングは慣れれば必ず上達します。 (2) シャドーイング, 音読による訓練によるスピーキング力の養成 モデルの音声のまねをしてくり返し音読することで, 英語のリズムを身体で感じてください。ビデオ教材 (または副教材) を使って訓練します。自宅での音読練習を自宅学習の課題にします。</p> <p>【到達目標】 日常場面で相手の考えを理解し, 情報を伝えることができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) NEW HEADWAY VIDEO (Elementary) John Murphy 著 (Oxford University Press)</p> <p>(2) 授業中に適宜指示</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 シャドーイングなど練習法の解説</p> <p>第 3 回 A New Neighbour 1</p> <p>第 4 回 A New Neighbour 2</p> <p>第 5 回 To the Rescue 1</p> <p>第 6 回 To the Rescue 2</p> <p>第 7 回 Dinner for Two 1</p> <p>第 8 回 Dinner for Two 2</p> <p>第 9 回 Change of a Dress 1</p> <p>第 10 回 Change of a Dress 2</p> <p>第 11 回 A Long Weekend 1</p> <p>第 12 回 A Long Weekend 2</p> <p>第 13 回 復習 1</p> <p>第 14 回 復習 2</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎授業後に音読練習を行うこと			
成績評価の方法	期末試験 (70%) + 授業中の小テスト (30%) 欠席, 遅刻等は減点の対象になるので注意。			

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	英語 I (B)		担当者	あべ松 伸二
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	必修 (注)
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】様々な日常会話を通して, 基本的な英語運用能力を養成する。</p> <p>【概要】様々な場面での会話を聞いて, リスニング力を高めるとともに, 有用表現を学ぶ。またロールプレイを通してスピーキング力を高める。</p> <p>【到達目標】コミュニケーション力をつけるために, リスニング力とスピーキング力を向上させる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 金子光茂, Richard H. Simpson 『A CHECKBOOK FOR ENGLISH YOU NEED』 南雲堂</p> <p>(2) 随時プリント資料</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 Booking Accommodation (宿泊の予約)</p> <p>第 3 回 Taking Photos (写真を撮る)</p> <p>第 4 回 At a Restaurant (レストランで)</p> <p>第 5 回 まとめ・インタビュー</p> <p>第 6 回 Let's Stay Healthy (健康や体調) "</p> <p>第 7 回 Television (テレビ)</p> <p>第 8 回 Sports (スポーツ) "</p> <p>第 9 回 まとめ・インタビューテスト</p> <p>第 10 回 Confirmation (確認する)</p> <p>第 11 回 Taking a Taxi (タクシーに乗る)</p> <p>第 12 回 On the Plane (機内で)</p> <p>第 13 回 Meeting at the Airport (空港での出迎え)</p> <p>第 14 回 Impressions (感想を聞く)</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験(60%) + 小テスト・提出物等(40%)			

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	英語 I (C)	担当者	石井 英里子
	[履修年次] 1 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜 (要予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を使う本質的意味の理解を深めながら、英語で自己発信するスキルを向上させる。</p> <p>【概要】 本授業では、各自が興味を持つテーマに関するプロジェクトに取り組む。プロジェクトに関するプレゼンテーションを段階的に準備し発表することを通して、英語の自己発信力を高める。英語のスキル向上だけでなく、何のために英語を使うのか、何のために英語を学ぶのかについて再考し、自身の理想の英語ユーザーとなるためにはどのようなことが必要かについて考える。</p> <p>【到達目標】 ①各自が興味を持つテーマに関して、積極的に英語で表現することができる。②英語で発表の司会や内容に関する質疑応答ができる。③英語で表現することや今後の英語学習への興味・関心・意欲を持つ。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Suzuki, Y. (2013). <i>Do Your Own Project in English. Volume I</i>. Nan'un-do. (¥1,800)</p> <p>(2) 適宜授業で紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Course introduction, Unit 1 Introducing yourself and others 第 2 回 Unit 2 Self-appeal 第 3 回 Unit 3 What is research? 第 4 回 Unit 4 An outline/overview of research 第 5 回 Unit 5 Organizing ideas and data 第 6 回 Unit 6 The diversity/range of research methods 第 7 回 Unit 7 Writing a script for an oral presentation 第 8 回 Unit 8 Mid-term presentation (1) 第 9 回 Unit 9 Mid-term presentation (2) 第 10 回 Unit 10 Responding to questions, interrupting and repeating 第 11 回 Unit 11 Responding to questions, confirming and explaining 第 12 回 Unit 12 Preparing for final mini-presentation - Written presentation 第 13 回 Unit 13 Final mini-presentation (1) 第 14 回 Unit 14 Final mini-presentation (2) 第 15 回 Unit 15 Final mini-presentation (3) and course review</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習 (発表準備含む) 2 時間、復習 1 時間以上必要である。		
成績評価の方法	授業への取り組み(40%)、中間発表(20%)、最終発表(40%)で評価する。		

(注) 教職必修、食物栄養専攻

授業科目	英語 I (C 食物栄養専攻)	担当者	小林朋子
	[履修年次] 1 年 [学期] 前期 [単位] 1 単位	授業外対応	適宜対応 (要予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】リスニング力、発音力、文法力を総合的に鍛えることで、スピーキングの基礎力を養成する。</p> <p>【概要】英語のリスニング、文法、読解を総合的に学習することで、バランスのとれた英語力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習、基本的、発展的な文法事項の確認、「フレーズ・リーディング」(意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法)を意識した速読理解の練習などを通して、総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。</p> <p>【到達目標】日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、プロソディー面は理解に支障がない発音で情報や考えを正確に表現できる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 角山照彦、Simon Capper 著 『Let's Read Aloud & Learn English 音読で始める基礎英語』 成美堂 刊</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 Please to meet you. <be 動詞> 第 3 回 Do you remember me? <一般動詞 (現在) > 第 4 回 I spoke to Ms. Hayashi yesterday. <一般動詞 (過去) > 第 5 回 When does the meeting start? <疑問詞> 第 6 回 Can you meet me at the airport? <助動詞 1 > 第 7 回 Feel free to ask me anytime. <文の種類、命令文> 第 8 回 I'm thinking about quitting my job. <進行形> 第 9 回 I'll give her your message. <未来形> 第 10 回 I haven't received the latest figures. <現在完了形> 第 11 回 The cafeteria is closed today. <受動態> 第 12 回 We expect higher sales in China. <比較> 第 13 回 I'd like to check in. <助動詞 2 > 第 14 回 How about going to the theater? <動名詞> 第 15 回 I like to travel a lot. <to 不定詞></p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	筆記試験 (70%)、提出物 (10%)、授業への取り組み態度 (20%) で評価する。		

(注) 教職必修、食物栄養専攻

授業科目	英語 I (D)		担当者	太田 一郎
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	必修 (注)
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>英語のリスニングおよびスピーキング力の発展・充実</p> <p>【概要】</p> <p>(1)ビデオ教材の視聴による聴き取りの訓練, および会話表現等の学習 ビデオ教材で日常の会話で使用される生の英語にふれ, 英語の音声 (プロソディ) に耳をならしてください。リスニングは慣れれば必ず上達します。</p> <p>(2) シャドーイング, 音読による訓練によるスピーキング力の養成 モデルの音声のまねをしてくり返し音読することで, 英語のリズムを身体で感じてください。ビデオ教材 (または副教材) を使って訓練します。自宅での音読練習を自宅学習の課題にします。</p> <p>【到達目標】</p> <p>日常場面で相手の考えを理解し, 情報を伝えることができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) NEW HEADWAY VIDEO (Elementary) John Murphy 著 (Oxford University Press)</p> <p>(2) 授業中に適宜指示</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 シャドーイングなど練習法の解説</p> <p>第 3 回 A New Neighbour 1</p> <p>第 4 回 A New Neighbour 2</p> <p>第 5 回 To the Rescue 1</p> <p>第 6 回 To the Rescue 2</p> <p>第 7 回 Dinner for Two 1</p> <p>第 8 回 Dinner for Two 2</p> <p>第 9 回 Change of a Dress 1</p> <p>第 10 回 Change of a Dress 2</p> <p>第 11 回 A Long Weekend 1</p> <p>第 12 回 A Long Weekend 2</p> <p>第 13 回 復習 1</p> <p>第 14 回 復習 2</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)	毎授業後に音読練習を行うこと			
成績評価の方法	期末試験 (70%) + 授業中の小テスト (30%) 欠席, 遅刻等は減点の対象になるので注意。			

(注) 教職必修, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語 I (D) 火曜 4 限		担当者	加塩 里美
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業開始前、あるいは終了時
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	必修 (注)
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】多くの人が関心を寄せる食と作品の接点を見つけて書き下ろしたエッセイをベースに読解・語彙・文法・作文・会話まで総合的な能力を伸ばす。</p> <p>【概要】日常的で身近な話題である食文化や食べ物の話から、文学や歴史の面白く奥深い世界へ関心を広げる。</p> <p>【到達目標】250語程度の文章を、その中心となる考え方と構造を意識しながら読めるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Fiona Wall Minami, Seiichi Taguchi, Fujiko Motoyama 『A Taste of English: Food and Fiction フィクションに見る食文化』 Asahi Press 朝日出版社)</p> <p>(2) 必要があれば、適宜指示します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス、今後の授業の進め方についての解説</p> <p>第 2 回 Chapter 1: Harry Potter and Chocolate Frog It の用法</p> <p>第 3 回 Chapter 2: Peter Rabbit and Pie 品詞</p> <p>第 4 回 Chapter 3: Mrs. Rabbit and Herb Tea 分詞構文</p> <p>第 5 回 Chapter 4: Winnie-the-Pooh and Honey 使役構文</p> <p>第 6 回 Chapter 5: Daddy-Long-Legs and Ice Cream 接続詞</p> <p>第 7 回 Chapter 6: Kenji Miyazawa and Tomatoes 否定</p> <p>第 8 回 Chapter 7: O. Henry and "Witches' Loaves" 比較</p> <p>第 9 回 Chapter 8: The Old Man and Fish 完了形</p> <p>第 10 回 Chapter 9: East of Eden and Lettuce 動名詞</p> <p>第 11 回 Chapter 10: Laura and Cheese-Making on the Prairie 仮定法</p> <p>第 12 回 Chapter 11: Breakfast and Tiffany's 関係詞</p> <p>第 13 回 Chapter 12: "Mujina" and "Soba" 不定詞</p> <p>第 14 回 Chapter 13: Bridget Jones and Dieting 助動詞</p> <p>第 15 回 まとめ、復習</p>			
授業外学習 (予習・復習)	前回の授業で学習したユニットの復習テストを毎回行います。復習と次回のユニットの指示された箇所の予習を行って、授業に臨んでください。			
成績評価の方法	期末試験 (70%)、授業への取り組み態度 (20%)、復習テストの成績 (10%) で評価する。			

(注) 教職必修, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語 I (D) 火曜 5 限	担当者	加塩 里美
	[履修年次] 1 年	授業外対応	授業開始前、あるいは終了時
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】基本的な文法力強化とリスニング、英文読解習得に力点を置き、英語を理解するうえでの核となる基礎力を養成する。</p> <p>【概要】ユニットごとに定められた文法事項について学習するとともに、CD によるリスニング力の強化、英文読解力強化を目指します。</p> <p>【到達目標】英語の総合的な運用力を養成する。会話を利用しながら、相手の問いかけに対し、短いながらも自然で的確な応答ができるようになる。また、短い英文を読む際に、身近な話題であっても知的話題であっても、その大意を把握できるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Akira Morita, Makiko Iio 他『Target! : elementary 総合英語のターゲット演習(初級)』, Kinseido (金星堂)</p> <p>(2) 必要があれば、適宜指示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス, Unit 1 In Your Free Time (日常生活)</p> <p>第 2 回 Unit 2 Communication Skills (人間関係・コミュニケーション)</p> <p>第 3 回 Unit 3 World Languages and Cultures (言葉・文化)</p> <p>第 4 回 Unit 4 Healthy Body, Healthy Mind (健康・医療)</p> <p>第 5 回 Unit 5 Careers (職業・キャリア)</p> <p>第 6 回 Unit 6 Fashion Trends (ファッション)</p> <p>第 7 回 Unit 7 Planning a Trip Abroad (旅行・観光)</p> <p>第 8 回 Unit 8 Are You into Sports? (スポーツ)</p> <p>第 9 回 Unit 9 Parties Are a Lot of Fun! (レジャー・エンタメ)</p> <p>第 10 回 Unit 10 Art in Our Life (アート)</p> <p>第 11 回 Unit 11 What Shall We Eat? (食)</p> <p>第 12 回 Unit 12 What Makes a Good Company? (ビジネス)</p> <p>第 13 回 Unit 13 Advances in Science (サイエンス)</p> <p>第 14 回 Unit 14 Life with Technology (産業・テクノロジー)</p> <p>第 15 回 Unit 15 Eco-Friendly Life (環境), まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	前回の授業で学習したユニットの復習テストを毎回行います。復習と次回のユニットの指示された箇所の予習を行って、授業に臨んでください。		
成績評価の方法	期末試験(70%)、授業への取り組み態度(20%)、復習テストの成績(10%)で評価する。		

(注) 教職必修, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語 I (D)	担当者	土持 かおり
	[履修年次] 1 年	授業外対応	適宜対応
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 必修(注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この授業のテーマは、ナチュラルスピードの英語に慣れ親しむとともに、日常会話で役立つ表現や語彙を身につけていくことです。</p> <p>【概要】授業の前半では、洋楽で英語の音になじむことからスタートし、音声変化についての学習、リピーティングなどの口頭練習で、「ナチュラルな英語を聞き取るコツ」、「英語らしく発音するコツ」をつかんでいきます。授業の後半では、アメリカ旅行と留学を題材にしたビデオ教材で、ナチュラルスピードの口語英語の聞き取りに徐々に慣れるとともに、日常会話での英語表現や語彙を場面ごとに学習していきます。さらにコースの後半では応用編として映画を利用したリスニング演習に取り組みます。</p> <p>【到達目標】会話展開が予測可能な場面、またはなじみのある場面において、相手の情報や考えを理解でき、相手に誤解を生じない程度の発音で、簡潔に対応できる英語力の習得を目標とします。</p>		
(1)テキスト	(1) Hiroto Ohyagi & Timothy Kiggell 著, <i>Viva! San Francisco</i> 出版社: マクミラン・ランゲージハウス <毎回、LL 教室を使用します>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 授業ガイダンス: 授業内容と進め方について / ナチュラルな英語の特徴と聞き取り</p> <p>第 2 回 Do you have a reservation, Ma'am?: ホテルでのチェックインに使う表現</p> <p>第 3 回 Would you like soup or salad?: レストランでのチェックインに使う表現</p> <p>第 4 回 Could you repeat that?: 道順を尋ねる時に使う表現</p> <p>第 5 回 Where's fitting room?: ショッピングに使う表現</p> <p>第 6 回 Good to see you!: 挨拶に使う表現</p> <p>第 7 回 I enjoyed my stay.: ホテルでのチェックアウトに使う表現</p> <p>第 8 回 You are one of the family now.: ホームステイ先で使う表現</p> <p>第 9 回 I want to help.: 申し出る・申し出を受ける表現</p> <p>第 10 回 Would you like to join us?: 人を誘う・誘いに応じる表現</p> <p>第 11 回 Let's keep in touch, OK?: 別れに使う表現</p> <p>第 12 回 映画を利用したリスニング演習: その(1)</p> <p>第 13 回 映画を利用したリスニング演習: その(2)</p> <p>第 14 回 映画を利用したリスニング演習: その(3)</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	小テストのための復習		
成績評価の方法	授業フィードバックシート(30%) + 復習のための小テスト(20%) + 定期試験(50%)		

(注) 教職必修, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語 II (A)	担当者	霧島 S. 怜
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	要件のある時は、講義の前後に申し出て下さい
		[必修/選択]	必修 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 A Good Understanding and A Meaningful Mini-Conversation. (正しい理解と意味のあるミニ会話)</p> <p>【概要】 学生の皆さん, "Roma meravigliosa non era costruita durante una notte" (素晴らしいローマは一夜にしてならず) というヨーロッパの有名な諺が教示しているように、「有名な先生」の指導下で一カ月の勉強の後、完璧なポーランド語で大学の講義をした者はいない!! 例えば、将来の仕事や海外での勉強という具体的な目標、更に、素敵な彼氏や彼女、又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため、という動機は外国語の勉強に極めて効果です。…では、楽しく、大生らしく、勉学に励もう!!</p> <p>【到達目標】 演習内容の 75% 以上理解し、身につけること (詳細は演習の冒頭に説明する)。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Richard R. Day 他, "Impact Issues 1", Pearson Longman, (ISBN 978-962-01-9930-1)</p> <p>(2) 又、必要に応じて習熟資料を配布する</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 演習の内容、方法と成績、期末 Test について。ミニ演習。</p> <p>第 2 回 U20 Why Learning Foreign Language? 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 3 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 4 回 U 4 Beauty Contest 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 5 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 6 回 U 5 Who Pays? 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 7 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 8 回 U 6 Saying "I love you" 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 9 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 10 回 8 Cyber Love 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 11 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 12 回 U 10 Fan Worship 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 13 回 U 11 'Pet Peeve' 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 14 回 Xmas Day! 読解、聞き取り、教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 15 回 受講生が選択したテーマの学習 (Marriage) 前期学習のまとめ等</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示：予習を重視します。★参加者の言語的力量と到達に応じて内容の増減が有り得る。		
成績評価の方法	予習 40%、演習参加 40%、期末 Test 20% の合計		

(注) 教職必修、日本語日本文学専攻

授業科目	英語 II (A)	担当者	ジョン・トレマーコ
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	必修 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Everyday Conversation.</p> <p>【概要】 Students will practice everyday conversation and the basic grammar needed to engage in those conversation.</p> <p>【到達目標】 To improve students' conversational skills.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Communicate by David Poul</p> <p>(2) Publisher:Compass</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回</p> <p>第 2 回</p> <p>第 3 回</p> <p>第 4 回</p> <p>第 5 回</p> <p>第 6 回</p> <p>第 7 回</p> <p>第 8 回 The class will proceed at a pace matched to the students ability levels.</p> <p>第 9 回</p> <p>第 10 回</p> <p>第 11 回</p> <p>第 12 回</p> <p>第 13 回</p> <p>第 14 回</p> <p>第 15 回</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation, oral examination		

(注) 教職必修、日本語日本文学専攻

授業科目	English II (B)	担当者	Louise Kennedy Nakamura		
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an everyday conversation course to help students to develop confidence in speaking and develop their listening , vocabulary and grammar. skills.</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Materials will be supplied by the teacher (2)				
授業スケジュール	第 1回 Introduction to the class 第 2回 Getting to know the classmates 第 3回 Family 第 4回 Describing Appearance 第 5回 Describing Appearance 第 6回 Clothes / Fashion 第 7回 Personality Traits 第 8回 Review 第 9回 Making Requests 第10回 Hobbies / Interests 第11回 Movies 第12回 Movies 第13回 Travel Plans 第14回 Travel Plans 第15回 Review				
授業外学習(予習・復習)	Students should review classroom materials ; utilize online ESL listening websites.				
成績評価の方法	Grades will be based on class participation ; homework and quizzes / tests				

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ(B)	担当者	Brian Pedersen		
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 College English for Japanese learners</p> <p>【概要】 By using a student centered oral communication text specifically designed for Japanese learners this class will get students motivated and help them progress where they need it most, listening and speaking.</p> <p>【到達目標】</p> <p>A successful outcome for the completion of this course would be for students to overcome any reluctance they might have to use English to communicate in a variety of everyday situations.</p>				
(1) テキスト (2) 参考文献	Outfront English Education Press				
授業スケジュール	第 1回 Classroom language/ Personal information 第 2回 Family and home. Describing one's home and community 第 3回 Hobbies and preferences. Expressing opinions. Disagreeing politely. 第 4回 Times and dates. Discussing schedules. 第 5回 Shopping. Working and dealing with large numbers. 第 6回 Routines. Discussing frequency of activities. 第 7回 One's neighborhood. One's family. 第 8回 Vacations. Discussing past experiences. 第 9回 Locating buildings. Following / giving simple directions 第10回 Phone talk. Making requests. Taking leaving phone messages. 第11回 Inviting. Accepting and refusing invitations. 第12回 Ordering food in a restaurant. Talking about eating habits. 第13回 Health Describing the body. Illness. Offering suggestions. 第14回 Speaking naturally. 第15回 Final review and oral presentation preparation.				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Class participation 45% Written work 20% Final oral Presentation 35%				

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ(C)		担当者	アダメック フィリップ
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】オーラルコミュニケーション</p> <p>【概要】この講義では英語での会話の仕方を学びます。教員はトピックの選び方と会話の続け方を指導し、受講者は交代でトピックを提示し、話し合いを主導します。</p> <p>【到達目標】積極的に授業に参加し、人前で話す自信をつけることを目標にします。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) (1) 未定</p> <p>(2) (2) なし</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 紹介・Introduction. <i>Diagnostic enquête</i>.</p> <p>第2回 Unit 1: Fuel Your Body and Mind</p> <p>第3回 Unit 2: What Helps Keep a Doctor Away?</p> <p>第4回 Unit 3: Laughing Will Save You from Going Crazy</p> <p>第5回 Unit 4: The French Paradox</p> <p>第6回 Unit 5: Interest in Sushi</p> <p>第7回 Unit 6 Don't Stay Away from Natto</p> <p>第8回 復習テスト/Units 1-6</p> <p>第9回 Unit 7: Alcohol Intoxication</p> <p>第10回 Unit 9: Getting a Good Night's Sleep</p> <p>第11回 Unit 10: Chocolate and its Benefits</p> <p>第12回 Unit 11: The Health Risks of Eating Processed Food</p> <p>第13回 Unit 13: Environmental Health Threats</p> <p>第14回 Review and reinforcement of Units 7, 9-11, 13.</p> <p>第15回 復習テスト/Units 7, 9-11, 13</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	<p>Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (75%)</p> <p>Final evaluation 最終のテスト/レポート/プレゼンテーション (25%)</p>			

(注) 教職必修, 食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅱ(C)		担当者	メアリー・マクセイ
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	授業外対応	授業終了時
	[単位] 1	[必修/選択] 必修	(注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語のコミュニケーション能力を向上する授業</p> <p>【概要】リスニングとスピーキングの練習を毎週ペアワークで行います。</p> <p>【到達目標】会話展開が予測可能な場面、または馴染みのあるコンテキストにおいて、相手の情報や考えを理解でき、つなぎことばを用いるなどして(時には相手の援助を得て)、不自然な沈黙がない程度に相手と意思疎通がとれる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) David Peaty, <i>New Alltalk 1</i>, Macmillan Language House</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 Unit 1A</p> <p>第3回 Unit 1B</p> <p>第4回 Unit 1C</p> <p>第5回 Unit 2A</p> <p>第6回 Unit 2B</p> <p>第7回 Unit 2C</p> <p>第8回 Unit 3A</p> <p>第9回 Unit 3B</p> <p>第10回 Unit 3C</p> <p>第11回 Unit 4A</p> <p>第12回 Unit 4B</p> <p>第13回 Unit 4C</p> <p>第14回 Unit 5A</p> <p>第15回 Unit 5B</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	出席&授業での参加の度合 (35%)、クイズ/授業での発表 (65%)			

(注) 教職必修, 食物栄養専攻

授業科目	English II (D)	担当者	Louise Kennedy Nakamura
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an everyday conversation course to help students to develop confidence in speaking and develop their listening, vocabulary and grammar skills.</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Materials will be supplied by the teacher</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction to the class</p> <p>第 2 回 Getting to know the classmates</p> <p>第 3 回 Family</p> <p>第 4 回 Describing Appearance</p> <p>第 5 回 Describing Appearance</p> <p>第 6 回 Clothes / Fashion</p> <p>第 7 回 Personality Traits</p> <p>第 8 回 Review</p> <p>第 9 回 Making Requests</p> <p>第 10 回 Hobbies / Interests</p> <p>第 11 回 Movies</p> <p>第 12 回 Movies</p> <p>第 13 回 Travel Plans</p> <p>第 14 回 Travel Plans</p> <p>第 15 回 Review</p>		
授業外学習(予習・復習)	Students should review classroom materials ; utilize online ESL listening websites.		
成績評価の方法	Grades will be based on class participation ; homework and quizzes / tests		

(注) 教職必修, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語 II (D)	担当者	Brian Pedersen
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Real world conversation</p> <p>【概要】 A grammar based textbook aimed at Japanese college age students of English provides a helpful scaffold toward self-directed learning.</p> <p>【到達目標】 A successful outcome for the completion of this course would be for students to improve their conversational level of English and show greater ease and confidence in everyday English speaking situations</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Conversations in class (Third edition)		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Getting acquainted</p> <p>第 2 回 Part time jobs</p> <p>第 3 回 Daily routines</p> <p>第 4 回 Spending time</p> <p>第 5 回 Hometown attractions</p> <p>第 6 回 Where to live in the future.</p> <p>第 7 回 Travel experiences</p> <p>第 8 回 Planning a trip</p> <p>第 9 回 Talking about breaks</p> <p>第 10 回 Future hobbies</p> <p>第 11 回 Music</p> <p>第 12 回 TV, Reading and games</p> <p>第 13 回 Recent meals</p> <p>第 14 回 Exotic foods and eating out</p> <p>第 15 回 Review of lessons and oral presentation practice.</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Classroom participation 45% Written work 20% Final oral presentation 35%		

(注) 教職必修, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語 II (D)	担当者	霧島 S. 怜
	[履修年次] 1 年	授業外対応	要件のある時は、講義の前後に申し出て下さい
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 A Good Understanding and A Meaningful Mini-Conversation. (正しい理解と意味のあるミニ会話)</p> <p>【概要】 学生の皆さん、「Roma meravigliosa non era costruita durante una notte」(素晴らしいローマは一夜にしてならず)というヨーロッパの有名な諺が教示しているように、「有名な先生」の指導下で一カ月の勉強の後、完璧なスペイン語で大学の講義をした者はいない!! 例えば、将来の仕事や海外での勉学という具体的な目標、更に、素敵な彼氏や彼女、又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため、という動機は外国語の勉強に極めて効果です。…では、楽しく、大生らしく、勉学に励もう!!</p> <p>【到達目標】 演習内容の 75% 以上理解し、身につけること (詳細は演習の冒頭に説明する)。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Richard R. Day 他, "Impact Issues 1", Pearson Longman, (ISBN 978-962-01-9930-1)</p> <p>(2) 又、必要に応じて習熟資料を配布する</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 演習の内容、方法と成績、期末 Test について。ミニ演習。</p> <p>第 2 回 U20 Why Learning Foreign Language? 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 3 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 4 回 U 4 Beauty Contest 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 5 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 6 回 U 5 Who Pays? 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 7 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 8 回 U 6 Saying "I love you" 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 9 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 10 回 8 Cyber Love 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 11 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 12 回 U 10 Fan Worship 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 13 回 U 11 'Pet Peeve' 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 14 回 Xmas Day! 読解、聞き取り、教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 15 回 受講生が選択したテーマの学習 (Marriage) 前期学習のまとめ等</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示：予習を重視します。★ 参加者の言語的力量と上達に応じて内容の増減が有り得る。		
成績評価の方法	予習 40%、演習参加 40%、期末 Test 20% の合計		

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	英語 II (D)	担当者	Andrew Daniels
	[履修年次] 1 年	授業外対応	授業終了後
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course aims to help students develop speaking strategies in basic English conversation situations. Working around units from a set textbook, students will be encouraged to give their own opinions as well as finding out the views of their classmates through participating in group discussions.</p> <p>【概要】 Students will work on listening and speaking skills to develop their confidence in familiar scenarios.</p> <p>【到達目標】 Emphasis will be on trying to reduce unnatural silence and practicing transitional or filler words to create natural, friendly conversations that students can reproduce easily.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Talk Time (Student Book 2) by Susan Stempleski (Oxford University Press)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Key topics from the first half of the textbook Jobs/Weekend activities/Music/ Vacations</p> <p>第 2 回 "</p> <p>第 3 回 "</p> <p>第 4 回 "</p> <p>第 5 回 "</p> <p>第 6 回 "</p> <p>第 7 回 "</p> <p>第 8 回 Review Quiz</p> <p>第 9 回 Key topics from later chapters of the textbook Clothes and Fashion/Cooking/ Places around Town</p> <p>第 10 回 "</p> <p>第 11 回 "</p> <p>第 12 回 "</p> <p>第 13 回 "</p> <p>第 14 回 "</p> <p>第 15 回 Final Oral Review Practice</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	<p>In class short presentations 30%</p> <p>Short vocabulary tests 20%</p> <p>Mid Term Quiz 20%</p> <p>Final Oral Quiz 30%</p>		

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ(A)	担当者	メアリー・マクセイ
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語のコミュニケーション能力を向上する授業</p> <p>【概要】前期のつづきで、リスニングとスピーキングの練習を毎週ペアワークで行います</p> <p>【到達目標】コミュニケーション能力の4つの要素（文法能力、社会言語能力、談話能力、方略的能力）をそれぞれ密接に絡めながら、日常生活で必要とされる英語の理解力と表現力の向上を向上させていく。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) David Peaty, <i>New Alltalk 1</i>, Macmillan Language House</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction 第2回 Unit 6A 第3回 Unit 6B 第4回 Unit 6C 第5回 Unit 7A 第6回 Unit 7B 第7回 Unit 7C 第8回 Unit 8A 第9回 Unit 8B 第10回 Unit 8C 第11回 Unit 9A 第12回 Unit 9B 第13回 Unit 9C 第14回 Unit 10A 第15回 Unit 10B</p>		
授業外学習(予習・復習)	適時指示		
成績評価の方法	出席&授業での参加の度合（35%）、クイズ/授業での発表（65%）		

(注) 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	English III (B)	担当者	Louise Kennedy Nakamura
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an everyday English communications course. It will build help to improve students' English speaking and listening skills, along with their confidence and willingness to speak English.</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Materials will be supplied by the teacher</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction to the class 第2回 Vacations 第3回 Last Weekend 第4回 Food 第5回 Halloween 第6回 Around Town 第7回 Around Town 第8回 Review 第9回 Health 第10回 Giving Advice 第11回 Christmas 第12回 Rules / Obligation 第13回 Rules / Obligation 第14回 Future Plans 第15回 Review</p>		
授業外学習(予習・復習)	Students should review classroom materials ; utilize online ESL listening websites		
成績評価の方法	Grades will be based on class participation ; homework quizzes /tests		

(注) 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ(C)	担当者	あべ松 伸二
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応	講義終了時
		[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】さまざまな題材の英文を読むことを通じて、日本語訳に頼った英文読解から脱却し、英文そのものを楽しむ力を養う。また、英語を読む際に必要なストラテジーを段階的に身につける。さらに、英文読解の最も基礎的な力である語彙力増強のトレーニングも随時行う。</p> <p>【概要】主に、パラグラフの構造を理解し、英文読解に必要なストラテジーを習得する。また、わからない単語の意味を辞書に頼ることなく文脈や前後関係から推測するなどのスキルを練習する。</p> <p>【到達目標】英文を読む楽しさを味わうことができる。 英文のパラグラフ構造を理解し、概要・要点を大まかに把握することができる。 わからない単語の意味を、文脈や前後関係から推測するスキルを修得できる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 卯城祐司/中川知佳子/Mari Le Pavoux 著 / <i>Reader's Ark Basic</i> (金星堂) Peter Dainty 著 / <i>The Love of a King</i> (Oxford University Press)</p> <p>(2) 特になし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Unit 01 Check Your Level: 語彙力・速読力のチェック</p> <p>第2回 Unit 02 Experience Pre-Reading Activities: visual aids, title, background information etc.</p> <p>第3回 Unit 03 Identifying the Main Idea <1>: topic sentence (top)</p> <p>第4回 Unit 04 Identifying the Main Idea <2>: topic sentence (bottom)</p> <p>第5回 Unit 05 Identifying the Main Idea <3>: topic sentence (middle)</p> <p>第6回 Unit 06 Understanding Supporting Details</p> <p>第7回 Unit 07 Using Signal Words to Predict Ideas <1>: sentence to sentence</p> <p>第8回 Unit 08 Using Signal Words to Predict Ideas <2>: discourse</p> <p>第9回 Unit 09 Using Reference Words to Follow Ideas <1>: pronoun</p> <p>第10回 Unit 10 Using Reference Words to Follow Ideas <2>: pro-verb</p> <p>第11回 Unit 11 Paragraph Organization <1>: comparison and contrast</p> <p>第12回 Unit 12 Paragraph Organization <2>: cause and effect</p> <p>第13回 Unit 13 Paragraph Organization <3>: time order and process, problem-solution</p> <p>第14回 Unit 19 Reading as a Guessing Game</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 授業ごとに実施する小テスト・レポート等 (30%)		

(注) 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ(D)	担当者	太田 一郎
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語のリスニングおよびスピーキング力の発展・充実</p> <p>【概要】</p> <p>(1)ビデオ教材の視聴による聴き取りの訓練, および会話表現等の学習 ビデオ教材で日常の会話で使用される生の英語にふれ, 英語の音声(プロソディ)に耳をならしてください。リスニングは慣れれば必ず上達します。</p> <p>(2) シャドーイング, 音読による訓練によるスピーキング力の養成 モデルの音声のまねをしてくり返し音読することで, 英語のリズムを身体で感じてください。ビデオ教材(または副教材)を使って訓練します。自宅での音読練習を自宅学習の課題にします。</p> <p>【到達目標】 日常場面で相手の考えを理解し, 情報を伝えることができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) NEW HEADWAY VIDEO (Elementary) John Murphy 著 (Oxford University Press)</p> <p>(2) 授業中に適宜指示</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 シャドーイングなど練習法の解説</p> <p>第3回 A New Neighbour 1</p> <p>第4回 A New Neighbour 2</p> <p>第5回 To the Rescue 1</p> <p>第6回 To the Rescue 2</p> <p>第7回 Dinner for Two 1</p> <p>第8回 Dinner for Two 2</p> <p>第9回 Change of a Dress 1</p> <p>第10回 Change of a Dress 2</p> <p>第11回 A Long Weekend 1</p> <p>第12回 A Long Weekend 2</p> <p>第13回 復習1</p> <p>第14回 復習2</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	毎授業後に音読練習を行うこと		
成績評価の方法	期末試験 (70%) + 授業中の小テスト (30%) 欠席, 遅刻等は減点の対象になるので注意。		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(E)	担当者	ティムソン・デイビッド
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 演習	授業外対応	講義終了時
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Developing oral communication skills and learning to express ideas and opinions in English.</p> <p>【概要】 アメリカ英語におけるスピーキングの修正とリスニング・アクティビティを主に行う。このコースでは、生徒が自信を持って自分の考えや意見をペア・アクティビティやグループ・アクティビティで表現できるように、興味深い革新的で幅広いトピックを取り上げる。ネイティブ・スピーカーの自然な会話の録音をリスニングの教材として使用するリスニング・アクティビティにより、リスニングスキルを向上させる。</p> <p>【到達目標】 4つのコミュニケイティブ・スキル (reading, writing, listening, speaking) を上達させる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2)		
授業スケジュール	第 1回 Interests and Hobbies 第 2回 Health 第 3回 Holidays 第 4回 Shopping 第 5回 Movies 第 6回 Sports 第 7回 Travel 第 8回 Hotel 第 9回 Social Issues 第10回 Culture 第11回 Appearances 第12回 Work 第13回 Memories 第14回 Restaurant 第15回 まとめ ※トピックは変わる可能性がある。		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業中のパフォーマンス (80%) + 宿題, 授業中に行う小テストの成績 (20%)		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	English III (F)	担当者	Louise Kennedy Nakamura
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an everyday English communications course. It will build help to improve students' English speaking and listening skills, along with their confidence and willingness to speak English.</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Materials will be supplied by the teacher (2)		
授業スケジュール	第 1回 Introduction to the class 第 2回 Vacations 第 3回 Last Weekend 第 4回 Food 第 5回 Halloween 第 6回 Around Town 第 7回 Around Town 第 8回 Review 第 9回 Health 第10回 Giving Advice 第11回 Christmas 第12回 Rules / Obligation 第13回 Rules / Obligation 第14回 Future Plans 第15回 Review		
授業外学習(予習・復習)	Students should review classroom materials ; utilize online ESL listening websites		
成績評価の方法	Grades will be based on class participation ; homework quizzes /tests		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(G)	担当者	John Christopher Foster
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可	授業外対応	授業終了後
	[学期] 後期 [単位] 1	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Learn and practice every-day English.</p> <p>【概要】 Students will share their ideas regarding a wide range of topics.</p> <p>【到達目標】 Students will be capable of expressing themselves clearly and accurately in a variety target topic areas.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2) Smart Choice Student Book 1, Oxford, Ken Wilson</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 UNIT 1 – Introducing yourself.</p> <p>第 2 回 UNIT 2 - Talking about personal information</p> <p>第 3 回 UNIT 3 - Talking about likes and dislikes with yes/no questions and wh-questions</p> <p>第 4 回 UNIT 3 continues</p> <p>第 5 回 UNIT 4 - Talking about habits and routines.</p> <p>第 6 回 UNIT 4 continues</p> <p>第 7 回 MID-TERM TEST</p> <p>第 8 回 UNIT 5 – Describing everyday activities</p> <p>第 9 回 UNIT 5 continues</p> <p>第 10 回 UNIT 7 – Making comparisons</p> <p>第 11 回 UNIT 7 continues</p> <p>第 12 回 UNIT 11 – Talking about vacations</p> <p>第 13 回 UNIT 11 continues</p> <p>第 14 回 UNIT 12 Talking about future plans</p> <p>第 15 回 UNIT 12 continues</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	1. Mid-term test - 10% 2. Final Exam - 30% 3. Small Speaking Tests – 40% 4. Professionalism in class – 20%		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(H)火曜5限	担当者	加塩 里美
	[履修年次] 1年	授業外対応	授業開始前、あるいは終了後
	[学期] 後期 [単位] 1	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>[テーマ] 有名なポップソングを通じて、英語の聴解、発音能力の向上、並びに文法やリーディングなど総合的に英語力を養成する。</p> <p>[概要] 毎回各 Unit に1曲1アーティストを取り上げ、単語の確認や歌詞を聞き取る練習をする。さらに、楽曲やアーティストに関するリーディングやリスニングを行い、総合的に英語に触れ学習する。</p> <p>[到達目標] 歌が作られた背景や歴史、またノーベル文学賞を受賞したボブ・デュランの詩の鑑賞をはじめ各アーティストの来歴などを学び、英語学習と内容理解を行う。楽曲を通じて発音モデルを学ぶ。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 関戸冬彦他著『Enjoying English through Pop Songs ソングス& カルチャー』朝日出版社刊</p> <p>(2) 必要があれば、適宜指示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス, Unit 1: Stand by Me 関係代名詞の that</p> <p>第 2 回 Unit 2: Jailhouse Rock 命令文</p> <p>第 3 回 Unit 3: Blowin' in the Wind 現在進行形</p> <p>第 4 回 Unit 4: Puff, the Magic Dragon 習慣の would</p> <p>第 5 回 Unit 5: I've Gotta Get a Message to You 強調構文</p> <p>第 6 回 Unit 6: Bridge Over Troubled Water 現在完了形</p> <p>第 7 回 Unit 7: Take Me Home, Country Roads 仮定法過去完了</p> <p>第 8 回 Unit 8: Imagine wonder if の表現法</p> <p>第 9 回 Unit 9: I Need to Be in Love 仮定法過去</p> <p>第 10 回 Unit 10: Honesty to 不定詞の形容詞的用法</p> <p>第 11 回 Unit 11: Hotel California 受動態</p> <p>第 12 回 Unit 12: I Just Called to Say I Love You to 不定詞の副詞的用法</p> <p>第 13 回 Unit 13: Pride (In the Name of Love) 動詞句(V+前置詞/V+副詞など)</p> <p>第 14 回 Unit 14: Like a Virgin 第2文型(S+V+C) / 第3文型(S+V+O)</p> <p>第 15 回 Unit 15: Worlds Apart 使役動詞</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>次回のユニットの指示された箇所の予習を行って授業に臨んでください。</p> <p>毎回復習テストを行います。前回の学習内容を復習しておいてください。</p>		
成績評価の方法	期末試験 (70%)、授業への取り組み態度 (20%)、復習テストの成績 (10%) で評価する。		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(A)	担当者	ギュレメトヴ・ニコライ
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位]	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中級レベルの英語をつかみながら自分の意見を伝えること。</p> <p>Expressing your opinion about different topics in English.</p> <p>【概要】様々なトピックについて考えて、話し合っ、発表して、自分のコミュニケーション力を強める。 教科書、映像、プリントなどをつかう。</p> <p>We will use the textbook, handouts and videos in our class and discussions.</p> <p>【到達目標】グループワークや発表による英語コミュニケーションのスキルアップ。文法、語彙、聞き取り・読解の練習をしながら discussion を行います。</p> <p>Our goal is to practice grammar, vocabulary, reading and listening in order to improve our communication skills.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定 (プリントを配布する場合もある)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション・説明 Orientation and objectives</p> <p>第 2 回 クラスワーク (文法、語彙) Grammar and vocabulary</p> <p>第 3 回 クラスワーク (発表をする方法) Making a presentation</p> <p>第 4 回 グループワーク 1 Group work, preparation for presentation</p> <p>第 5 回 グループ発表 1 First presentation</p> <p>第 6 回 クラスワーク (コミュニケーション力) Communication skill</p> <p>第 7 回 クラスワーク (ディスカッション力) Discussion skill</p> <p>第 8 回 クラスワーク (スピーチ力) Speech skill</p> <p>第 9 回 グループワーク 2 Group work, preparation for presentation</p> <p>第 10 回 グループ発表 2 Second presentation</p> <p>第 11 回 クラスワーク (classmate のインタビュー) Interview your classmate!</p> <p>第 12 回 クラスワーク (文法、語彙) Grammar and vocabulary 2</p> <p>第 13 回 クラスワーク (聞き取り・読解力) Listening and Reading skills</p> <p>第 14 回 クラスワーク (コース復習) Revision of all topics covered.</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + グループ発表 30 + 作文 (宿題—10%) を基準に、総合的に評価する。		

(注) 日本語日本文学専攻, 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅳ(B)	担当者	霧島 S. 怜
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	要件のある時は、講義の前後に申し出て下さい
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】An Understanding and A Meaningful Mini-Conversation. (正しい理解と意味のあるミニ会話)</p> <p>【概要】学生の皆さん, "Roma meravigliosa non era costruita durante una notte" (素晴らしいローマは一夜にしてならず) というヨーロッパの有名な諺が教示しているように、「有名な先生」の指導下で一カ月の勉強の後、完璧なイタリア語で大学の講義をした者はいない!! 例えば、将来の仕事や海外での勉学という具体的な目標、更に、素敵な彼氏や彼女、又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため、という動機は外国語の勉強に極めて効果です。…では、楽しく、大生らしく、勉学に励もう!!</p> <p>【到達目標】演習内容の 70% 以上理解し、身につけること (詳細は演習の冒頭に説明する)。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 城 由紀子他, "Business Talk" (やさしいオフィス英語)、成美堂。(ISBN 978-4-7919-4711-9 C2082)</p> <p>(2) 又、必要に応じて習熟資料を配布する</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 演習の内容、方法と成績、期末 Test について。ミニ演習。</p> <p>第 2 回 Unit 3. Arranging an Interview 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 3 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 4 回 Unit 4. A Job Interview 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 5 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 6 回 Unit 5 Job Offer 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 7 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 8 回 Unit 8 Answering Phone Calls 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 9 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 10 回 Unit 9 Taking A Message 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 11 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 12 回 Unit 16 Sightseeing in Kyoto 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 13 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 14 回 Xmas Day! 読解、聞き取り、教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 15 回 受講生が選択したテーマの学習 (Marriage) 前期学習のまとめ等</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示: 予習を重視します。★参加者の言語的力量と上達に応じて内容の増減が有り得る。		
成績評価の方法	予習 40%、演習参加 40%、期末 Test 20% の合計		

(注) 日本語日本文学専攻, 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅳ(C)		担当者	ジョン・トレマーコ
	[履修年次] 2年	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 選択(注)
			[授業外対応]	授業終了後
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 テーマは、中級程度(レベルで言えば、TOEIC 500~650 英検2級)のコミュニケーション能力の育成にある。</p> <p>【概要】 このコースでは、英語で様々なトピックを議論するために必要とされる技能(スキル)を受講生が身に付けることができるようにする。そのために、受講生は自分自身の意見を英語で表明したり、英語で述べられる他者の意見を尊重したりして、大半の時間を英語での作業遂行活動に費やすことになる。</p> <p>【到達目標】 コミュニケーション能力の4つの要素(文法能力、社会言語能力、談話能力、方略的能力)をそれぞれ密接に絡めながら、日常生活で必要とされる英語の理解力と表現力を向上させることを到達目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) English Firsthand 2 (New Gold Edition), by Marc Helgesen, et. al. Publisher: Longman Asia ELT (2)			
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction to the Course--Discussing course objectives (導入ーコースの目標についての説明)</p> <p>第2回 "Do you remember when?" --Talking about the past (1) (いつか覚えているかー過去についての話し合い(1))</p> <p>第3回 "Do you remember when?" --Talking about the past (2) (いつか覚えているかー過去についての話し合い(2))</p> <p>第4回 "Making plans"--Planning to do something (1) (計画の作成ー物事をするための計画(1))</p> <p>第5回 "Making plans"--Planning to do something (2) (計画の作成ー物事をするための計画(2))</p> <p>第6回 "What should I do?" --Asking for and giving advice (1) (何をすべきかー忠告を求め尋ねる方法(1))</p> <p>第7回 "What should I do?" --Asking for and giving advice (2) (何をすべきかー忠告を求める方法と尋ねる方法(2))</p> <p>第8回 "Tell me a story"--Storytelling (1) (物語の語り方ーその方法(1))</p> <p>第9回 "Tell me a story"--Storytelling (2) (物語の語り方ーその方法(2))</p> <p>第10回 "In my opinion"--Expressing opinions (1) (私の意見ではー意見の表明の仕方(1))</p> <p>第11回 "In my opinion"--Expressing opinions (2) (私の意見ではー意見の表明の仕方(2))</p> <p>第12回 "Looking ahead"--Talking about the future (1) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(1))</p> <p>第13回 "Looking ahead"--Talking about the future (2) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(2))</p> <p>第14回 "Looking ahead"--Talking about the future (3) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(3))</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験(70%) + クラス活動への参加(30%)を基準に、総合的に評価する。			

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(D)		担当者	土持 かおり
	[履修年次] 2年	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 選択(注)
			[授業外対応]	適宜対応
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 この授業のテーマは、映画を利用して、英語圏の人々が日常生活で使用している「生きた自然な英語」に触れながら、リスニング・スピーキングを中心に英語でのコミュニケーションに必要な力をつけていくことです。</p> <p>【概要】 授業では、映画『ゴースト』(サスペンス・ラブストーリー)を教材として使用し、毎回、ナチュラルな英語の音声変化の学習の後、ストーリーを楽しみながらリスニング演習に取り組むとともに、日常生活で使われる口語表現を学習していきます。さらに日・英セリフの対比や日本語セリフ作成練習で表現力を高めていきます。また、この授業では、各自「ポートフォリオ」(「学習ファイル」と「学習の記録」)を毎回作成し、自分の取り組みを振り返りながら自立的に英語学習を進めていきます。</p> <p>【到達目標】 日常生活のなじみある場面において、ナチュラルスピードの自然な英語での発話の意図を理解できる英語力、それに簡潔に対応できる / 自分の意思で表現できる英語力の習得を目標とします。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1)教師作成のプリントを毎回使用します。 (2)			
授業スケジュール	<p><毎回、LL教室を使用します></p> <p>第1回 授業ガイダンス：映画を使った英語学習/ 映画の英語 / 授業内容と進め方について</p> <p>第2回 The Loft：友人同士の会話(新居)</p> <p>第3回 Unchained Melody：同僚との会話(オフィス)</p> <p>第4回 Propose：恋人同士の会話(路上)</p> <p>第5回 Eternal Good-bye：友人同士の会話(自宅)</p> <p>第6回 Spiritual Adviser：初対面の相手との会話(自宅)</p> <p>第7回 The Truth：初対面の相手との会話(カフェ)</p> <p>第8回 At Molly's Apartment：知人との会話(自宅)</p> <p>第9回 The Police Station：警察官との会話(警察)</p> <p>第10回 Rita Miller：顧客との会話(銀行)</p> <p>第11回 Revenge：友人との会話(自宅)</p> <p>第12回 The Penny：知人との会話(自宅)</p> <p>第13回 Re-union：知人との会話(自宅)</p> <p>第14回 Last Chance：恋人同士の会話</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回の予習プリント、小テストのための復習			
成績評価の方法	学習ファイル(10%) + リフレクションシート(30%) + 復習のための小テスト(20%) + 定期試験(40%)			

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語 IV (E)	担当者	霧島 S. 怜
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	要件のある時は、講義の前後に申し出て下さい
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 An Understanding and A Meaningful Mini-Conversation. (正しい理解と意味のあるミニ会話)</p> <p>【概要】 学生の皆さん、"Roma meravigliosa non era costruita durante una notte" (素晴らしいローマは一夜にしてならず) というヨーロッパの有名な諺が教示しているように、「有名な先生」の指導下で一カ月の勉強の後、完璧なロシア語で大学の講義をした者はいない!! 例えば、将来の仕事や海外での勉強という具体的な目標、更に、素敵な彼氏や彼女、又は何か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため、という動機は外国語の勉強に極めて効果です。…では、楽しく、大生らしく、勉学に励もう!!</p> <p>【到達目標】 演習内容の 70% 以上理解し、身につけること (詳細は演習の冒頭に説明する)。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 城 由紀子他、"Business Talk" (やさしいオフィス英語)、成美堂。(ISBN 978-4-7919-4711-9 C2082)</p> <p>(2) 又、必要に応じて習熟資料を配布する</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 演習の内容、方法と成績、期末 Test について。ミニ演習。</p> <p>第 2 回 Unit 3. Arranging an Interview 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 3 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 4 回 Unit 4. A Job Interview 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 5 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 6 回 Unit 5 Job Offer 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 7 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 8 回 Unit 8 Answering Phone Calls 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 9 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 10 回 Unit 9 Taking A Message 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 11 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 12 回 Unit 16 Sightseeing in Kyoto 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 13 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 14 回 Xmas Day! 読解、聞き取り、教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 15 回 受講生が選択したテーマの学習 (Marriage) 前期学習のまとめ等</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示：予習を重視します。★参加者の言語的力量と到達に応じて内容の増減が有り得る。		
成績評価の方法	予習 40%、演習参加 40%、期末 Test 20% の合計		

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語IV(F)	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 テーマは、英検2級取得を目指せるように、受講者の語彙力を増やし、英文法を再確認させ、長文読解のコツを身に付けさせて、英語学習への意欲を高める。</p> <p>【概要】 授業では、高校で学習した英文法の基礎知識を再確認させる。テキストは毎回1章ずつ進むので、予習が必要となる。担当者はプリントを用いてヒントを与え、受講者自身に間違った箇所をチェックさせる。その上で解説を試みる(学習意欲を高める工夫)。また、LL教室を利用し、リスニング問題にも取り組めるようにする。</p> <p>【到達目標】 英検2級の取得を目指せるような英語力を身に付ける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 坂部俊行、岡島徳昭、W.ノエル『英検2級 合格への道』南雲堂</p> <p>適宜、プリントによる問題も配布</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション (授業の進め方の説明)、プリント学習 (受講生のレベルを確認)</p> <p>第 2 回 Lesson 1 (語句空所補充、短文中の語句整序、長文の語句空所補充と内容一致選択、会話の応答文選択)</p> <p>第 3 回 Lesson 2 (語句空所補充、短文中の語句整序、長文の内容一致選択、会話の内容一致選択)</p> <p>第 4 回 Lesson 3 (語句空所補充、短文中の語句整序、長文の語句空所補充と内容一致選択、会話の応答文選択)</p> <p>第 5 回 Lesson 4 (語句空所補充、短文中の語句整序、長文の語句空所補充と内容一致選択、会話の内容一致選択)</p> <p>第 6 回 Lesson 5 (語句空所補充、短文中の語句整序、長文の内容一致選択、会話の応答文選択)、小テスト (1回目)</p> <p>第 7 回 Lesson 6 (語句空所補充、短文中の語句整序、長文の語句空所補充と内容一致選択、会話の内容一致選択)</p> <p>第 8 回 Lesson 7 (語句空所補充、短文中の語句整序、長文の語句空所補充と内容一致選択、会話の応答文選択)</p> <p>第 9 回 Lesson 8 (語句空所補充、短文中の語句整序、長文の内容一致選択、会話の内容一致選択)</p> <p>第 10 回 Lesson 9 (語句空所補充、短文中の語句整序、長文の語句空所補充と内容一致選択、会話の応答文選択)、小テスト (2回目)</p> <p>第 11 回 Lesson 10 (語句空所補充、短文中の語句整序、長文の語句空所補充と内容一致選択、会話の内容一致選択)</p> <p>第 12 回 Lesson 11 (語句空所補充、短文中の語句整序、長文の語句空所補充と内容一致選択、会話の応答文選択)</p> <p>第 13 回 Lesson 12 (語句空所補充、短文中の語句整序、長文の語句空所補充と内容一致選択、会話の内容一致選択)</p> <p>第 14 回 実践形式の練習 (その1) : 筆記とリスニング、小テスト (3回目)</p> <p>第 15 回 実践形式の練習 (その2) + まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習は各課の問題を解いて授業に臨む準備、復習は小テストの準備		
成績評価の方法	筆記試験 (50%)、予習を含む授業への取り組み (30%)、小テスト (20%)		

(注) 全専攻の学生が選択可能

授業科目	英語Ⅳ(G)(注)	担当者	遠峯伸一郎
	[履修年次] 2	授業外対応	講義終了時、適宜(要予約)
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】4年生大学編入試験に対応できる英文読解力と語彙力の養成</p> <p>【概要】「フィーリング」ではなく、構文と論理の組み立てを追いながら、英文を正確に読む練習をする。具体的には、実用英語技能検定試験2級程度の読解問題を正しく解ける力を養成することを目標とする。</p> <p>【到達目標】構文と論理展開を手がかりにして英文を正確に読めるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 英文読解演習(1)</p> <p>第3回 英文読解演習(2)</p> <p>第4回 小テスト(1)</p> <p>第5回 英文読解演習(3)</p> <p>第6回 英文読解演習(4)</p> <p>第7回 英文読解演習(5)</p> <p>第8回 英文読解演習(6)</p> <p>第9回 小テスト(2)</p> <p>第10回 英文読解演習(7)</p> <p>第11回 英文読解演習(8)</p> <p>第12回 英文読解演習(9)</p> <p>第13回 英文読解演習(10)</p> <p>第14回 英文読解演習(11)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習2時間以上、復習1時間以上必要である。		
成績評価の方法	試験(30%) + 課題(60%) + 授業への参加状況(10%)		

(注) 全専攻の学生が選択できる

授業科目	異文化コミュニケーション(英語)	担当者	英語担当教員全員
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可	[学期] 通年	
	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた英語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジで研修を行う。授業は英語研修とハワイ文化研修から成り立ち、滞在期間中、基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。</p> <p>2016年度の実績 日程：9月17日～10月1日 参加者：31名 研修費用：約36万円(授業料、往復航空運賃、宿泊費、平日の朝・昼食費等)</p> <p>【到達目標】英語運用能力を高めるだけでなく、ハワイの文化を学び、多文化が共生するハワイで「国際化」「グローバル化」の意味を自らの実体験を通して考え、理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) ハワイ大学附属カピオラニ・コミュニティ・カレッジの担当教員が指示</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>事前ガイダンス： 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行う。ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジでの研修内容の説明、パスポートの取得方法など、海外渡航に伴うさまざまな必要事項の説明、課題(研修中の日記、研修後のレポート作成)の指示など。</p> <p>海外研修： 9月を予定(約2週間)。現地の大学では、午前中に英語の授業、午後にはハワイ文化に関する授業(フラダンス)、KCC学生との異文化交流。その他、学外授業としてプランテーションヴィレッジ、イオラニ宮殿、真珠湾の見学。</p> <p>事後指導：帰国後に総括。</p>		
成績評価の方法	担当教員が課した課題(研修日誌・体験記)(50%)とハワイでの研修状況(50%)で評価する。		

授業科目	異文化コミュニケーション (中国語)	担当者	中国語担当教員全員
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 通年 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた中国語を学び、運用能力を高める。</p> <p>【概要】南京農業大学国際教育学院で研修を行います。南京農業大学国際教育学院は、わたしたち県立短大と交流協定を結んでいる中国の大学です。この科目は、中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在期間中、基礎的な実用中国語を習得し、さらに、南京農業大学の学生と交流し、中国の文化習慣などについて直接体験します。</p> <p>※2015年度・2016年度は実績無し (参考) 2014年度中国研修の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日程：8月27日(水)～9月10日(水) [15日間] ・参加者：3名(商経学科経営情報専攻1名, 第二部商経学科2名) ・費用：約18万円(授業料, 往復航空券, 滞在費, 南京市内・市外の見学費用) <p>【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 南京農業大学国際教育学院の担当教員が指示します。 (2)		
授業スケジュール	<p>事前指導 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行います。 [1] 南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明, [2] 海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明, [3] 課題(レポート作成)の指示などです。</p> <p>海外研修 9月の夏期休業期間に約2週間実施予定です。(時期は変更の可能性あり)現地の大学で午前中に中国語の授業を受けます。午後はさまざまな活動を通じて、中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語学部の学生と交流します。</p> <p>事後指導 帰国後に総括します。</p>		
成績評価の方法	担当教員が課した課題(50%)、および中国での学習成果(50%)を基に成績を算出します。		

授業科目	ドイツ語 I	担当者	竹内 宏
		[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応 [必修/選択] 選択(注)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現在ヨーロッパでは、EU(ヨーロッパ連合、つまりヨーロッパの統一)という歴史的な大実験が進行中で、ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また、ドイツ語は1億2000万弱の母国語人口を擁し、ヨーロッパに限れば最大の言語とすることができます。このように、社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら、ドイツ語を学習します。なお、2017年はEUの行く末にも大きな影響を与えることが予想される、ドイツ連邦議会選挙が行われます。</p> <p>【概要】ほとんどの人にとっては初めて習う外国語ですが、「習うより慣れる」をモットーに、授業は元気よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。</p> <p>【到達目標】年間の学習で、自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け、ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 保坂良子 著『ドイツ・サラダ』朝日出版社 (2) 在間進 他『アクセス独和辞典 第3版』三修社		
授業スケジュール	<p>第1回 ドイツ及びドイツ語圏について、文字、アルファベット</p> <p>第2回 発音と綴り字</p> <p>第3回 第1課</p> <p>第4回 第1課</p> <p>第5回 第1課</p> <p>第6回 第2課</p> <p>第7回 第2課</p> <p>第8回 第2課</p> <p>第9回 第3課</p> <p>第10回 第3課</p> <p>第11回 第3課、第4課</p> <p>第12回 第4課</p> <p>第13回 第4課</p> <p>第14回 復習と試験の説明</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
授業外学習(予習・復習)	1回の授業につき、予習1時間、復習1時間が必要		
成績評価の方法	筆記試験80%、授業への参加状況20%		

(注) 英語英文学専攻のみ

授業科目	ドイツ語Ⅱ	担当者	竹内 宏
	[履修年次] 1年	授業外対応	メールによる。場合により非常勤講師室にて対応(アポイントメント必要)
	[学期] 後期 [単位] 1	[必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現在ヨーロッパでは、EU(ヨーロッパ連合、つまりヨーロッパの統一)という歴史的な大実験が進行中で、ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また、ドイツ語は1億2000万弱の母国語人口を擁し、ヨーロッパに限れば最大の言語とすることができます。このように、社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら、ドイツ語を学習します。</p> <p>【概要】ほとんどの人にとっては初めて習う外国語ですが、「習うより慣れろ」をモットーに、授業は元気よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。</p> <p>【到達目標】1年間の学習で、自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け、ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。</p>		
(1)テキスト	(1) 保坂良子 著『ドイツ・サラダ』朝日出版社		
(2)参考文献	(2) 在間進 他『アクセス独和辞典 第3版』三修社		
授業スケジュール	第1回 前期の復習 第2回 第5課 第3回 第5課 第4回 第5課 第5回 第6課 第6回 第6課 第7回 第6課 第8回 第7課 第9回 第7課 第10回 第8課 第11回 第8課 第12回 第8課 第13回 復習と試験の説明 第14回 復習と試験の説明 第15回 まとめと試験		
授業外学習(予習・復習)	1回の授業につき、予習1時間、復習1時間が必要		
成績評価の方法	筆記試験 80%、授業への参加状況 20%		

(注) 英語英文学専攻のみ

授業科目	フランス語	担当者	梁川 英俊
	[履修年次] 英語英文学専攻は1年次、生活科学専攻は2年次	授業外対応	授業終了後
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】フランス語の基礎を学びます。</p> <p>【概要】フランス語はフランスのみならず、ベルギー、スイス、カナダ、中東、アフリカ諸国など広い地域で話される国際語で、フランス語を公用語とする国は28カ国に及びます。フランス語はまた国連やEUなどの主要な国際機関でも公用語として使用されています。同じラテン語から派生したスペイン語、イタリア語、ポルトガル語などとの共通点も多く、これらの言葉はフランス語を学ぶことにより学習が容易になります。また歴史的に英語に多くの語彙を提供し、英語の語彙の3分の1はフランス語に由来すると言われています。もちろん、ファッションや料理を勉強する上でも欠かせない言葉です。</p> <p>【到達目標】まずフランス語の発音をきちんとできるようになることが大事です。その上で、簡単な日常会話のフレーズも覚えれば楽しいでしょう。外国語はこまめな学習が大切です。こつこつやる習慣を身につけましょう！</p>		
(1)テキスト	(1) 『クロワッサン：基礎からわかるフランス語』(朝日出版社)		
(2)参考文献	(2) 適宜指示する		
授業スケジュール	第1回 授業全体の説明、アルファベットの発音など 第2回 Leçon 1 第3回 Leçon 1 第4回 Leçon 2 第5回 Leçon 2 第6回 Leçon 3 第7回 Leçon 3 第8回 Leçon 4 第9回 Leçon 4 第10回 Leçon 5 第11回 Leçon 5 第12回 Leçon 6 第13回 Leçon 6 第14回 まとめ 1 第15回 まとめ 2		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験(70%) + 小テスト(30%)		

(注) 英語英文学専攻は1年次、生活科学専攻は2年次

授業科目	フランス語Ⅱ	担当者	梁川 英俊
	〔履修年次〕 英語英文学専攻は1年次、生活科学専攻は2年次 〔学期〕 後期 〔単位〕 1	授業外対応	授業終了後
		〔必修/選択〕	選択 (注) 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】フランス語の基礎を学びます。</p> <p>【概要】フランス語はフランスのみならず、ベルギー、スイス、カナダ、中東、アフリカ諸国など広い地域で話される国際語で、フランス語を公用語とする国は28カ国に及びます。フランス語はまた国連やEUなどの主要な国際機関でも公用語として使用されています。同じラテン語から派生したスペイン語、イタリア語、ポルトガル語などとの共通点も多く、これらの言葉はフランス語を学ぶことにより学習が容易になります。また歴史的に英語に多くの語彙を提供し、英語の語彙の3分の1はフランス語に由来すると言われていています。もちろん、ファッションや料理を勉強する上でも欠かせない言葉です</p> <p>【到達目標】まずフランス語の発音をきちんとできるようになることが大事です。その上で、簡単な日常会話のフレーズも覚えれば楽しいでしょう。外国語はこまめな学習が大切です。こつこつやる習慣を身につけましょう！</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『クロワッサン：基礎からわかるフランス語』（朝日出版社）</p> <p>(2) 適宜指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Leçon 7 第2回 Leçon 7 第3回 Leçon 8 第4回 Leçon 8 第5回 Leçon 9 第6回 Leçon 9 第7回 Leçon 10 第8回 Leçon 10 第9回 Leçon 11 第10回 Leçon 11 第11回 Leçon 12 第12回 Leçon 12 第13回 まとめ 1 第14回 まとめ 2 第15回 まとめ 3</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 小テスト (30%)		

(注) 英語英文学専攻は1年次、生活科学専攻は2年次

授業科目	中国語Ⅰ(A)	担当者	楊 虹
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1	授業外対応	適宜対応 (要事前連絡)
		〔必修/選択〕	選択 (注) 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語に親しむ。</p> <p>【概要】 この授業では、中国語の発音を身につけ、ロールプレイ、ゲームなど様々な教室活動を通して、中国語の基本構文を楽しく学ぶ。さらに中国の音楽や映画などの映像、留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。</p> <p>【到達目標】 中国語の発音記号(ピンイン)の読み方と綴り方がわかり、簡単な日常あいさつ、自己紹介ができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 陳淑梅・張国璐『いま始めよう！アクティブラーニング』朝日出版社</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：授業の概要説明、中国語で自分の名前を言う練習 第2回 発音(1)：単母音と声調の導入、練習 第3回 発音(2)：複母音の導入、練習 第4回 発音(3)：子音の導入、練習 第5回 発音(4)：子音の練習、発音のまとめ 第6回 動詞是の使い方 第7回 姓の言い方、尋ね方。フルネームの言い方、尋ね方 第8回 これまでの復習 第9回 動詞文の導入と練習 第10回 動詞文の練習、疑問文の練習 第11回 二つ以上の動詞からなる連動文 第12回 希望や願望を表す助動詞「想」の導入、練習 第13回 留学生との交流：中国人留学生と中国語で話してみる 第14回 全体の復習 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。		
成績評価の方法	小テストと中国に関するレポート、口頭試験で評価する		

(注) 日本語日本文学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (B)		担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次] 1年		授業外対応	メールによる (ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp)
	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語と中国について学ぶ (1)</p> <p>【概要】中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指します。前期では特に発音を中心として、簡単な文型を学習します。また中国の文化や社会に対する理解を深めるために、毎回 10 分程度のビデオを視聴します。</p> <p>【到達目標】中国語検定準 4 級程度 (後期終了時の目標)</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる コミュニケーション中国語』(白水社)</p> <p>(2) 辞書などについては授業時に指示します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 発音 (1)</p> <p>第 2 回 発音 (2)</p> <p>第 3 回 発音 (3)</p> <p>第 4 回 名前を中国語で言う、覚えておきたい表現</p> <p>第 5 回 「あいさつする」第 1 課</p> <p>第 6 回 「名前を尋ねる」第 2 課</p> <p>第 7 回 「食べたいものを尋ねる」第 3 課</p> <p>第 8 回 「近況を尋ねる」第 4 課</p> <p>第 9 回 第 1 課～第 4 課の復習</p> <p>第 10 回 「予定を尋ねる」第 5 課</p> <p>第 11 回 「場所を尋ねる」第 6 課</p> <p>第 12 回 「注文する」第 7 課</p> <p>第 13 回 「値段の交渉をする」第 8 課</p> <p>第 14 回 第 5 課～第 8 課の復習</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習として事前にテキストに目を通すことと、復習としてテキスト添付の CD を使った発音練習をすることが望ましい			
成績評価の方法	期末試験 (50%)、授業への貢献度 (50%)			

(注) 日本語日本文学専攻, 英語英文学専攻

(注) 受講登録が 30 人を超えたときは, 人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (C)		担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次] 1年		授業外対応	メールによる (ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp)
	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語と中国について学ぶ (1)</p> <p>【概要】中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指します。前期では特に発音を中心として、簡単な文型を学習します。また中国の文化や社会に対する理解を深めるために、毎回 10 分程度のビデオを視聴します。</p> <p>【到達目標】中国語検定準 4 級程度 (後期終了時の目標)</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる コミュニケーション中国語』(白水社)</p> <p>(2) 辞書などについては授業時に指示します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 発音 (1)</p> <p>第 2 回 発音 (2)</p> <p>第 3 回 発音 (3)</p> <p>第 4 回 名前を中国語で言う、覚えておきたい表現</p> <p>第 5 回 「あいさつする」第 1 課</p> <p>第 6 回 「名前を尋ねる」第 2 課</p> <p>第 7 回 「食べたいものを尋ねる」第 3 課</p> <p>第 8 回 「近況を尋ねる」第 4 課</p> <p>第 9 回 第 1 課～第 4 課の復習</p> <p>第 10 回 「予定を尋ねる」第 5 課</p> <p>第 11 回 「場所を尋ねる」第 6 課</p> <p>第 12 回 「注文する」第 7 課</p> <p>第 13 回 「値段の交渉をする」第 8 課</p> <p>第 14 回 第 5 課～第 8 課の復習</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習として事前にテキストに目を通すことと、復習としてテキスト添付の CD を使った発音練習をすることが望ましい			
成績評価の方法	期末試験 (50%)、授業への貢献度 (50%)			

(注) 経済専攻

(注) 受講登録が 30 人を超えたときは, 人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (D)		担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	[単位] 1	[授業外対応] メールで対応します。k9553471@kadai.jp
	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】中国語 I ではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介DVDや、期間中1回は中国映画を鑑賞する予定です。</p> <p>【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 竹島金吾監修 尹景春・竹島毅著『中国語はじめの一步』(最新2訂版)(白水社)			
授業スケジュール	<p>第1回 イン트로ダクション&ウォーミングアップ</p> <p>第2回 発音(1) 声調・短母音・子音</p> <p>第3回 発音(2) 複母音・鼻母音、トレーニング</p> <p>第4回 第1課 人称代名詞、「是」の文</p> <p>第5回 第1課 復習とトレーニング</p> <p>第6回 第2課 指示代名詞(1)、疑問詞疑問文</p> <p>第7回 第2課 「的」の用法、副詞、トレーニング</p> <p>第8回 第3課 動詞の文、「所有」を表す「有」</p> <p>第9回 第3課 省略疑問の語気助詞</p> <p>第10回 第4課 量詞、指示代名詞(2)</p> <p>第11回 第4課 形容詞の文、「几」と「多少」、トレーニング</p> <p>第12回 第5課 数字、日付・時刻の表現</p> <p>第13回 第5課 「動作の時点」を言う表現、トレーニング</p> <p>第14回 中国映画鑑賞</p> <p>第15回 前期のまとめ</p> <p>*スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習、復習ともに、教科書添付のCDの音声資料をよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。			
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 授業中に実施する小テスト(10%) + 授業での発言内容(40%)			

(注) 経営情報専攻

(注) 受講登録が30名を超えた時は、受講制限をする場合があります。

授業科目	中国語 I (E)		担当者	三木 夏華
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	[単位] 1	[授業外対応] 授業前後に対応
	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初めて中国語を学ぶ学生のための入門コース</p> <p>【概要】中国語で最も難しいとされる発音と声調をしっかりとマスターし、基本的な文法事項を学ぶことを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ビンイン、声調記号が読めるようになる。 2 自己紹介など簡単な会話能力を身につける。 			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 「しゃべっていいとも 中国語」朝日出版社 陳淑梅、劉光赤 著			
授業スケジュール	<p>(2) 授業で紹介する。</p> <p>第1回 発音、声調</p> <p>第2回 発音、声調</p> <p>第3回 人称代名詞、名前の言い方</p> <p>第4回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第5回 “的”、“是”について</p> <p>第6回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第7回 動詞述語文、連動文</p> <p>第8回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第9回 指示代名詞、“有”構文</p> <p>第10回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第11回 “在”構文、方位詞</p> <p>第12回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第13回 助動詞、形容詞述語文</p> <p>第14回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業で習った単語、構文等を必ずCDを聞いて耳で覚え、発音できるように復習しておくこと。			
成績評価の方法	期末試験50% + 授業での発言内容、出席態度、復習・課題の状況50%			

(注) 経済専攻、経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (F)	担当者	土肥 克己		
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	メールで事前連絡すること		
		[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】単語で作文 I</p> <p>【概要】1回に25個ほどの単語を覚えてきてもらい、それを使って作文をします。基本的に単純な文だけにして、書かずに口頭で答えてみましょう。短い文がぱっと口から出るようになれば、外国語もそれほど難しくはないものです。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試 HSK 筆記1級程度に1年間の語学目標レベルを設定します。前期はその前半部分の学習に当てます。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準4級』アルク</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方について</p> <p>第2回 声調と母音</p> <p>第3回 子音</p> <p>第4回 発音のまとめ</p> <p>第5回 表記の規則</p> <p>第6回 クラス名簿、あいさつ (1)</p> <p>第7回 クラス名簿、あいさつ (2)</p> <p>第8回 数字、お金、時刻 (1)</p> <p>第9回 数字、お金、時刻 (2)</p> <p>第10回 数字、お金、時刻 (3)</p> <p>第11回 簡単な動詞の文 (1)</p> <p>第12回 簡単な動詞の文 (2)</p> <p>第13回 意思表示、誘いかけ (1)</p> <p>第14回 意思表示、誘いかけ (2)</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	筆記の小テストを毎回実施するので予習してきてください。				
成績評価の方法	作文と小テスト 50%、定期試験 50%				

(注) 食物栄養専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (G)	担当者	中筋 健吉		
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	メールで対応します。k9553471@kadai.jp		
		[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】中国語 I ではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介DVDや、期間中1回は中国映画を鑑賞する予定です。</p> <p>【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 竹島金吾監修 尹景春・竹島毅著『中国語はじめの一步』(最新2訂版) (白水社)</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン&ウオーミングアップ</p> <p>第2回 発音 (1) 声調・短母音・子音</p> <p>第3回 発音 (2) 複母音・鼻母音、トレーニング</p> <p>第4回 第1課 人称代名詞、「是」の文</p> <p>第5回 第1課 復習とトレーニング</p> <p>第6回 第2課 指示代名詞 (1)、疑問詞疑問文</p> <p>第7回 第2課 「的」の用法、副詞、トレーニング</p> <p>第8回 第3課 動詞の文、「所有」を表す「有」</p> <p>第9回 第3課 省略疑問の語気助詞</p> <p>第10回 第4課 量詞、指示代名詞 (2)</p> <p>第11回 第4課 形容詞の文、「几」と「多少」、トレーニング</p> <p>第12回 第5課 数字、日付・時刻の表現</p> <p>第13回 第5課 「動作の時点」を言う表現、トレーニング</p> <p>第14回 中国映画鑑賞</p> <p>第15回 前期のまとめ</p> <p>*スケジュールは授業進捗その他の状況によって変更することもあります。</p>				
授業外学習(予習・復習)	予習、復習ともに、教科書添付のCDの音声資料をよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。				
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + 授業中に実施する小テスト (10%) + 授業での発言内容 (40%)				

(注) 生活科学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ(H)	担当者	陳 躍
	[履修年次] 文学科・商経学科は1年次、生活科学科は2年次 [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 演習形式	授業外対応	授業終了後及びメールによる (アドレスは講義中に告知)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楽しい中国語会話</p> <p>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1級程度。前期はその前半部分の学習に当てる</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂</p> <p>(2) ①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳—日中往来』陳躍著 南日本新聞社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 我是上海人 第2回 我叫王平 第3回 这里是南京路 第4回 现在几点了? 第5回 今天是星期几? 第6回 你家有几口人? 第7回 没关系(映画) 第8回 香港的夏天热吗?(映画) 第9回 四川菜很好吃(中間テスト) 第10回 我经常散步 第11回 牌价是多少? 第12回 汉语难不难? 第13回 我没吃蒜 第14回 我想去超市 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする		

(注) 文学科・商経学科は1年次、生活科学科は2年次

(注) 受講登録が30人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	中国語Ⅱ(A)	担当者	楊 虹
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 演習	授業外対応	適宜対応(要事前連絡)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語によるコミュニケーションに慣れる。</p> <p>【概要】 この授業では、中国語Ⅰを履修した受講生を対象としている。前期の内容を復習しつつ、引き続き中国語の基本構文を導入し、中国語を聞いて、話す力を伸ばす。さらに、中国の音楽や映画などの映像、留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。</p> <p>【到達目標】 学習を進める上での基礎的知識を有し、中国語による家族構成の紹介や、簡単な買い物ができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 陳淑梅・張国璐『いま始めよう!アクティブラーニング』朝日出版社</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション: 授業の概要説明, 前期の復習 第2回 動詞「有」の導入, 練習 第3回 動詞「在」の導入, 練習 第4回 「有」と「在」の応用練習 第5回 年月日、曜日の言い方の練習 第6回 助動詞「得」と「要」言い方の導入, 練習 第7回 助動詞を使った文の応用練習 第8回 復習(1) これまでの内容の復習 第9回 形容詞述語文の導入, 練習 第10回 時刻の言い方の導入, 練習 第11回 形容詞述語文の応用練習 第12回 お金の言い方の導入, 練習 第13回 量詞の導入, 練習 第14回 復習(4): 全体の復習 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。		
成績評価の方法	小テストと中国に関するレポート、口頭試験で評価する		

(注) 日本語日本文学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(B)		担当者	尾崎 孝宏				
	[履修年次]	1年	授業外対応	メールによる (ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp)				
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語と中国について学ぶ (2)</p> <p>【概要】中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指します。後期では、日常的に良く使う文型を中心に、表現の幅を広げます。また前期に引き続き毎回中国の文化や社会に関するビデオを視聴します。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級程度 (後期終了時の目標)</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる コミュニケーション中国語』(白水社)</p> <p>(2) 辞書などについては授業時に指示します。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 前期試験の解説など</p> <p>第2回 第1課～第8課の復習</p> <p>第3回 「出来事を尋ねる1」第9課</p> <p>第4回 「出来事を尋ねる2」第10課</p> <p>第5回 「希望を尋ねる」第11課</p> <p>第6回 「行き方を尋ねる」第12課</p> <p>第7回 「経験を尋ねる」第13課</p> <p>第8回 第9課～第13課の復習</p> <p>第9回 「相手の都合を尋ねる」第14課</p> <p>第10回 「比較する」第15課</p> <p>第11回 「条件・情報を尋ねる」第16課</p> <p>第12回 「進行状況を尋ねる」第17課</p> <p>第13回 「別れを告げる」第18課</p> <p>第14回 第14課～第18課の復習</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習として事前にテキストに目を通すことと、復習としてテキスト添付のCDを使った発音練習をすることが望ましい							
成績評価の方法	期末試験 (50%)、授業への貢献度 (50%)							

(注) 日本語日本文学専攻、英語英文学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(C)		担当者	尾崎 孝宏				
	[履修年次]	1年	授業外対応	メールによる (ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp)				
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語と中国について学ぶ (2)</p> <p>【概要】中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指します。後期では、日常的に良く使う文型を中心に、表現の幅を広げます。また前期に引き続き毎回中国の文化や社会に関するビデオを視聴します。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級程度 (後期終了時の目標)</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる コミュニケーション中国語』(白水社)</p> <p>(2) 辞書などについては授業時に指示します。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 前期試験の解説など</p> <p>第2回 第1課～第8課の復習</p> <p>第3回 「出来事を尋ねる1」第9課</p> <p>第4回 「出来事を尋ねる2」第10課</p> <p>第5回 「希望を尋ねる」第11課</p> <p>第6回 「行き方を尋ねる」第12課</p> <p>第7回 「経験を尋ねる」第13課</p> <p>第8回 第9課～第13課の復習</p> <p>第9回 「相手の都合を尋ねる」第14課</p> <p>第10回 「比較する」第15課</p> <p>第11回 「条件・情報を尋ねる」第16課</p> <p>第12回 「進行状況を尋ねる」第17課</p> <p>第13回 「別れを告げる」第18課</p> <p>第14回 第14課～第18課の復習</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習として事前にテキストに目を通すことと、復習としてテキスト添付のCDを使った発音練習をすることが望ましい							
成績評価の方法	期末試験 (50%)、授業への貢献度 (50%)							

(注) 経済専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(D)		担当者	中筋 健吉																																													
	[履修年次] 1年		授業外対応	メールで対応します。k9553471@kadai.jp																																													
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 演習																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介DVDや中国映画(1回)を鑑賞します。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試HSK筆記1級程度の中国語能力習得を目指します。</p>																																																
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 竹島金吾監修 尹景春・竹島毅著『中国語はじめての一步』(最新2訂版)(白水社)																																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>第6課</td><td>「完了」を表す「了」、「所在」を表す「在」</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>第6課</td><td>助動詞(1)「想」、トレーニング</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>第7課</td><td>介詞(1)「在」「离」、「存在」を表す「有」</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>第7課</td><td>反復疑問文、トレーニング</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>第8課</td><td>「時間量」を表す語、助動詞(2)「得」</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>第8課</td><td>介詞(2)「从」、トレーニング</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>第9課</td><td>経験のアスペクト助詞「过」、「是…的」の文</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>第9課</td><td>介詞(3)「跟」「给」、トレーニング</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>第10課</td><td>助動詞(3)「能」「会」、「動作の様態」を言う表現</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>第10課</td><td>動詞の重ね型、トレーニング</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>第11課</td><td>動作の進行、「～しに来る・～しに行く」の表し方</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>第11課</td><td>選択疑問の「还是」、目的語を文頭に出す表現、トレーニング</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>第12課</td><td>「比較」の表現、「的」の用法(2)</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>第12課</td><td>2つの目的語をとる動詞、主述述語文、トレーニング</td></tr> <tr><td>第15回</td><td></td><td>中国映画鑑賞</td></tr> </table> <p>*スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。</p>				第1回	第6課	「完了」を表す「了」、「所在」を表す「在」	第2回	第6課	助動詞(1)「想」、トレーニング	第3回	第7課	介詞(1)「在」「离」、「存在」を表す「有」	第4回	第7課	反復疑問文、トレーニング	第5回	第8課	「時間量」を表す語、助動詞(2)「得」	第6回	第8課	介詞(2)「从」、トレーニング	第7回	第9課	経験のアスペクト助詞「过」、「是…的」の文	第8回	第9課	介詞(3)「跟」「给」、トレーニング	第9回	第10課	助動詞(3)「能」「会」、「動作の様態」を言う表現	第10回	第10課	動詞の重ね型、トレーニング	第11回	第11課	動作の進行、「～しに来る・～しに行く」の表し方	第12回	第11課	選択疑問の「还是」、目的語を文頭に出す表現、トレーニング	第13回	第12課	「比較」の表現、「的」の用法(2)	第14回	第12課	2つの目的語をとる動詞、主述述語文、トレーニング	第15回		中国映画鑑賞
第1回	第6課	「完了」を表す「了」、「所在」を表す「在」																																															
第2回	第6課	助動詞(1)「想」、トレーニング																																															
第3回	第7課	介詞(1)「在」「离」、「存在」を表す「有」																																															
第4回	第7課	反復疑問文、トレーニング																																															
第5回	第8課	「時間量」を表す語、助動詞(2)「得」																																															
第6回	第8課	介詞(2)「从」、トレーニング																																															
第7回	第9課	経験のアスペクト助詞「过」、「是…的」の文																																															
第8回	第9課	介詞(3)「跟」「给」、トレーニング																																															
第9回	第10課	助動詞(3)「能」「会」、「動作の様態」を言う表現																																															
第10回	第10課	動詞の重ね型、トレーニング																																															
第11回	第11課	動作の進行、「～しに来る・～しに行く」の表し方																																															
第12回	第11課	選択疑問の「还是」、目的語を文頭に出す表現、トレーニング																																															
第13回	第12課	「比較」の表現、「的」の用法(2)																																															
第14回	第12課	2つの目的語をとる動詞、主述述語文、トレーニング																																															
第15回		中国映画鑑賞																																															
授業外学習(予習・復習)	予習、復習ともに、教科書添付のCDの音声資料をよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。																																																
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 授業中に実施する小テスト(10%) + 授業での発言内容(40%)																																																

(注) 経営情報専攻

(注) 受講登録が30名を超えた時は、受講制限をする場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(E)		担当者	三木 夏華																														
	[履修年次] 1年		授業外対応	授業前後に対応																														
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 演習																														
テーマ及び概要	<p>【テーマ】前期の中国語Ⅰに続く入門コース</p> <p>【概要】前期に引き続き、中国語の発音要領と中国語文法の基礎をマスターする。道の尋ね方、買い物仕方など、日常生活で不可欠な表現を身につける。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試HSK筆記1級のレベルにまで到達することを目標とする。</p>																																	
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 「しゃべっていいとも 中国語」朝日出版社 陳淑梅、劉光赤 著 (2) 授業で紹介する。																																	
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>数の言い方、中国のお金の言い方、値段の尋ね方</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>会話練習、ヒアリング</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>値段の尋ね方、年月日、曜日の言い方</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>会話練習、ヒアリング</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>年齢の言い方、量詞、動詞の重ね型</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>会話練習、ヒアリング</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>時刻の言い方、語気助詞の“了”</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>会話練習、ヒアリング</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>時間の長さの言い方、完了の“了”</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>会話練習、ヒアリング</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>前置詞、助動詞1</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>会話練習、ヒアリング</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>動詞の進行を表す表現、助動詞2</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>会話練習、ヒアリング</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>まとめ</td></tr> </table>				第1回	数の言い方、中国のお金の言い方、値段の尋ね方	第2回	会話練習、ヒアリング	第3回	値段の尋ね方、年月日、曜日の言い方	第4回	会話練習、ヒアリング	第5回	年齢の言い方、量詞、動詞の重ね型	第6回	会話練習、ヒアリング	第7回	時刻の言い方、語気助詞の“了”	第8回	会話練習、ヒアリング	第9回	時間の長さの言い方、完了の“了”	第10回	会話練習、ヒアリング	第11回	前置詞、助動詞1	第12回	会話練習、ヒアリング	第13回	動詞の進行を表す表現、助動詞2	第14回	会話練習、ヒアリング	第15回	まとめ
第1回	数の言い方、中国のお金の言い方、値段の尋ね方																																	
第2回	会話練習、ヒアリング																																	
第3回	値段の尋ね方、年月日、曜日の言い方																																	
第4回	会話練習、ヒアリング																																	
第5回	年齢の言い方、量詞、動詞の重ね型																																	
第6回	会話練習、ヒアリング																																	
第7回	時刻の言い方、語気助詞の“了”																																	
第8回	会話練習、ヒアリング																																	
第9回	時間の長さの言い方、完了の“了”																																	
第10回	会話練習、ヒアリング																																	
第11回	前置詞、助動詞1																																	
第12回	会話練習、ヒアリング																																	
第13回	動詞の進行を表す表現、助動詞2																																	
第14回	会話練習、ヒアリング																																	
第15回	まとめ																																	
授業外学習(予習・復習)	授業で習った単語、構文等を必ずCDを聞いて耳で覚え、発音できるように復習しておくこと																																	
成績評価の方法	期末試験50% + 授業での発言内容、出席態度、復習・課題の状況50%																																	

(注) 経済専攻、経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(F)	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	メールで事前連絡すること
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】単語で作文Ⅱ</p> <p>【概要】1回に25個ほどの単語を覚えてきてもらい、それを使って作文をします。やや複雑な文にして、基本的に書かずに口頭で答えてみましょう。長い作文は文法的に間違えやすいですがそれは気にせず、相手に気持ちを伝えることを大切にします。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試HSK筆記1級程度に1年間の語学目標レベルを設定します。後期はその後半部分の学習に当てます。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準4級』アルク</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 連続動作, 意向確認 (1)</p> <p>第2回 連続動作, 意向確認 (2)</p> <p>第3回 なに? どこ? だれ? (1)</p> <p>第4回 なに? どこ? だれ? (2)</p> <p>第5回 モノ (1)</p> <p>第6回 モノ (2)</p> <p>第7回 場所 (1)</p> <p>第8回 場所 (2)</p> <p>第9回 状態 (1)</p> <p>第10回 状態 (2)</p> <p>第11回 態度, ある瞬間 (1)</p> <p>第12回 態度, ある瞬間 (2)</p> <p>第13回 1年間の復習 (1)</p> <p>第14回 1年間の復習 (2)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	筆記の小テストを毎回実施するので予習してきてください。		
成績評価の方法	作文と小テスト50%, 定期試験50%		

(注) 食物栄養専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(G)	担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	メールで対応します。k9553471@kadai.jp
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介DVDや中国映画(1回)を鑑賞します。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試HSK筆記1級程度の中国語能力習得を目指します。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 竹島金吾監修 尹景春・竹島毅著『中国語はじめの一步』(最新2訂版)(白水社)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 第6課 「完了」を表す「了」、「所在」を表す「在」</p> <p>第2回 第6課 助動詞(1)「想」、トレーニング</p> <p>第3回 第7課 介詞(1)「在」「离」、「存在」を表す「有」</p> <p>第4回 第7課 反復疑問文、トレーニング</p> <p>第5回 第8課 「時間量」を表す語、助動詞(2)「得」</p> <p>第6回 第8課 介詞(2)「从」、トレーニング</p> <p>第7回 第9課 経験のアスペクト助詞「过」、「是…的」の文</p> <p>第8回 第9課 介詞(3)「跟」「给」、トレーニング</p> <p>第9回 第10課 助動詞(3)「能」「会」、「動作の様態」を言う表現</p> <p>第10回 第10課 動詞の重ね型、トレーニング</p> <p>第11回 第11課 動作の進行、「～しに来る・～しに行く」の表し方</p> <p>第12回 第11課 選択疑問の「还是」、目的語を文頭に出す表現、トレーニング</p> <p>第13回 第12課 「比較」の表現、「的」の用法(2)</p> <p>第14回 第12課 2つの目的語をとる動詞、主述述語文、トレーニング</p> <p>第15回 中国映画鑑賞</p> <p>*スケジュールは授業進捗その他の状況によって変更することもあります。</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習、復習ともに、教科書添付のCDの音声資料をよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。		
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 授業中に実施する小テスト(10%) + 授業での発言内容(40%)		

(注) 生活科学専攻

(注) 受講登録が30名を超えた時は、受講制限をする場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(H)	担当者	陳 躍
	[履修年次] 1年, 2年 (注) [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後、メールによる (アドレスは講義中に告知)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楽しい中国語会話</p> <p>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1級程度。後期はその後半部分の学習に当てる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂</p> <p>(2) ①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 来我家玩吧 第2回 我打算去旅行 第3回 没看过, 听过 第4回 我能参加 第5回 我记一下 第6回 我们边走边谈 第7回 好像借给小李了 (中間テスト) 第8回 我不会打日文 (映画) 第9回 你知道号码吗? (映画) 第10回 什么都可以 第11回 被谁偷走了呢? 第12回 让你久等了 第13回 有没有单间? 第14回 我说得不好 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	筆記の小テストを毎回実施するので予習してきてください。		
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする		

(注) 文学科・商経学科は1年次, 生活科学科は2年次

(注) 受講登録が30人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	中国語Ⅲ	担当者	楊 虹
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応 (要事前連絡)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>中国語の体系を把握する。</p> <p>【概要】</p> <p>この授業は、中国語Ⅰ・Ⅱを履修した受講生を対象とする。中国語検定試験4級程度の語彙、文法の獲得を目指し、中国語の読む・聞く・話す力をさらに伸ばす。また、後半では自律的に中国語を学ぶ力を身につけることを目的に、グループで中国語の寸劇を作って発表する活動を取り入れる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>中国語検定試験4級を取得することを目指すと同時に今後自律的に中国語を学習していく方法を身につける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション: 授業の概要説明および1年次に習った内容の復習 第2回 年齢の言い方と尋ね方 第3回 前置詞「在」(～で～をする)の導入, 練習 第4回 完了の「了」の導入, 練習 第5回 時間量の言い方の導入, 練習 第6回 文末詞「了」の導入, 練習 第7回 場所の言い方の導入, 練習 第8回 必要の「得」: 「ねばならない」を表す助動詞「得」の導入, 練習 第9回 これまでの復習: これまで習った内容の復習を行う。 第10回 中国語で寸劇①: シナリオの作成 第11回 中国語で寸劇②: シナリオの修正 第12回 中国語で寸劇③: シナリオの決定, 台本を読み練習 第13回 中国語で寸劇④: 台本を読み練習, 通し稽古 第14回 中国語で寸劇⑤: 発表 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。		
成績評価の方法	小テストと中国に関するレポート、口頭試験で評価する		

(注) 生活科学科を除く

授業科目	中国語Ⅳ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	メールで事前連絡すること
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語で本を読む</p> <p>【概要】中国のラジオドラマの台本を読みます。台本ですので自然な会話文を学べます。発音を特に重視しますので、十分に復習してから受講してください。</p> <p>【到達目標】中国語検定4級レベル、漢語水平考試 HSK 筆記2級程度に半年間の語学目標レベルを設定します。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方について</p> <p>第2回 講読 (1)</p> <p>第3回 講読 (2)</p> <p>第4回 講読 (3)</p> <p>第5回 講読 (4)</p> <p>第6回 講読 (5)</p> <p>第7回 講読 (6)</p> <p>第8回 講読 (7)</p> <p>第9回 講読 (8)</p> <p>第10回 講読 (9)</p> <p>第11回 講読 (10)</p> <p>第12回 講読 (11)</p> <p>第13回 講読 (12)</p> <p>第14回 講読 (13)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	中国語の原文と発音をプリントにして事前に配布するので予習をしてきてください。		
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。		

(注) 生活科学科を除く

3 教養科目（スポーツ・健康科目）

授業科目	スポーツ・健康論		担当者	西迫 貴美代
	[履修年次]	2年	授業外対応	随時 nisizako@k-kentan.ac.jp
	[学期]	前期	[単位]	1
	[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】本講義は、心身の基本的機能やその適応能力について理解し、健康づくりに重要な三つのポイントである運動・栄養・休養の内容を中心に、ライフスタイルのあり方について学習することを主な目的とする。</p> <p>【概要】導入段階において、過去に健康にかかわる現象を題材とし、「変わらないもの」と「変わったもの」を浮き彫りにする内容を取り扱い、社会と個人の健康問題の関連についての関心を高め、様々な健康ブームの現象の背景を探究する能力を獲得させたい。さらに毎回の講義では、日常生活を浮き彫りにするワークを取り入れ、自分に適した健康づくりやライフスタイルを形成するための知識と技能を身につけるための方法を提案する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)日常生活における健康の重要性について知識を深める 2)生活習慣による健康阻害要因について理解する(社会的健康問題と個人的健康問題との関連) 3)運動習慣と健康との関係について理解する 4)運動、栄養、休養などを柱とした望ましいライフスタイルを形成するためのポイントを理解する 5)自ら健康管理をすることの重要性を理解し、その方法を身につける(運動・栄養・休養のバランス) 			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎回、講義資料を配布する。また毎回の講義の参考文献を紹介する。興味関心をもった文献を是非読んでもらいたい。</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション、体育・健康科学科目の意義と健康観について</p> <p>第 2 回 健康施策の変遷とその背景について(健康観の変遷を探る)</p> <p>第 3 回 健康と休養(生活リズムと睡眠の取り方など)</p> <p>第 4 回 健康と運動 1 (運動の仕組みと運動の効果)</p> <p>第 5 回 健康と運動 2 (ダイエットと運動処方)</p> <p>第 6 回 健康と栄養 (ダイエットと食事の仕方)</p> <p>第 7 回 ライフスタイルを考える</p> <p>第 8 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	講義中に配付した資料はかならず読んでおくこと			
成績評価の方法	毎回のワークレポート提出 (60%1回・7回まで) + レポート 1 回 (10%) + 筆記試験(8 回目 30%)			

(注) 教職必修

(注) 食物栄養専攻を除く。7. 5回

授業科目	生涯スポーツ実習 I (A)・(B)		担当者	道向 良
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後
	[学期]	前期	[単位]	1
	[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ラケットスポーツと健康づくり、仲間づくり</p> <p>【概要】ラケットスポーツとして主にテニスをとりあげ、ダブルスのゲームができるようになることを目標とする。ペアまたはグループで段階的に練習することを通して、各自の技能に応じた動きや技術、さらにはプレイスタイルを模索していく。</p> <p>【到達目標】ダブルスのゲームができるようになる。試合の進め方、ルールおよびマナーを覚える。仲間をつくる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 必要に応じてプリントを配布する</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 グループ分け、ボールとラケットに慣れる、種々の基本動作</p> <p>第 2 回 基本のストローク (基礎と応用)、ボール・トスの練習</p> <p>第 3 回 ラリーを続ける、サーブ・レシーブの基本</p> <p>第 4 回 ハーフコート・シングルス 1</p> <p>第 5 回 ハーフコート・シングルス 2</p> <p>第 6 回 基本のボレー、ランニング・ボレー</p> <p>第 7 回 ダブルスのポジショニングとコンビネーション (基本)</p> <p>第 8 回 ダブルス・ルールの理解と実践、審判のやり方</p> <p>第 9 回 ダブルスゲーム 1 (チーム内での対抗戦) 振り返り 1</p> <p>第 10 回 ダブルスゲーム 2 (同等ペアとの対抗戦) 振り返り 2</p> <p>第 11 回 課題練習 (自主的に練習を組み立てよう)</p> <p>第 12 回 ファイナル・コンペティション (団体戦) 1</p> <p>第 13 回 ファイナル・コンペティション (団体戦) 2</p> <p>第 14 回 ファイナル・コンペティション (個人戦) 1</p> <p>第 15 回 ファイナル・コンペティション (個人戦) 2</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	技術の上達度 (40%)、出席状況や授業への取り組み状況 (30%)、グループにおける協力関係、リーダーシップ (30%)			

(注) 教職必修

(注) (A) 日本語日本文学専攻, (B) 英語英文学専攻

授業科目	生涯スポーツ実習 I (CX D) (E) (F)		担当者	西迫 貴美代
	[履修年次]	1	授業外対応	随時 nisizako@k-kentan.ac.jp
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。また、大学生活が始まり、新しい環境に適応する手立てとして所属専攻の仲間と共にスポーツを楽しむことをめざす。</p> <p>【概要】主に球技教材としてバレーボール・バスケットボールのスポーツ種目を採用する。それぞれのスポーツ種目の特徴的な技術認識(わかる)ことと技能習得(できる)を融合させることを目的とする。また常に球技は他者との関係性を意識しながら実施する必要があり、基本的な身体技法を習得する際に自分のからだやうごきの特徴を知る。(後期はラケット種目を履修する)</p> <p>【到達目標】①バレーボール・バスケットボールの歴史・ルールを理解する ②バレーボール・バスケットボールの基本的な技術を理解し、技能を習得する、③自分やチームの課題を発見し、課題を克服するための練習計画を立てることができる④他者と協力して、チームを組織し、運営することができる、④自分のからだの管理ができ、安全に運動する配慮ができる</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	各人の学習ノートを準備する。(毎回提出) なお、雨天時の場合は、同時間担当者との話し合いの上、種目変更の可能性はある (E F の場合)。主に体育館で実施するので体育館シューズと運動にふさわしい服装を準備すること。その他適時資料を配布する。			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション (からだほぐしとからだでコミュニケーションワーク)</p> <p>第 2 回 バレーボールの歴史 試しのゲーム アタックからの学習について理解する</p> <p>第 3 回 A アタックのタイミングの理解と習熟 2対2の簡易ゲーム</p> <p>第 4 回 2:2の簡易ゲームから3:3のゲームへ アタックのバリエーションを習得(トスの違いを理解する)</p> <p>第 5 回 3:3の簡易ゲームから4:4のゲーム (攻撃の作戦を立てる チームでの練習計画を立て実施する)</p> <p>第 6 回 4:4の簡易ゲームから6:6のゲームへ (コート広さとアタックの守備との関係 防御の作戦を立てる)</p> <p>第 7 回 6:6のゲーム (簡易ゲームで利用したルールの採用など、ルールについて考える)</p> <p>第 8 回 6:6のゲーム(バレーボール大会)</p> <p>第 9 回 バスケットボールの歴史 試しのゲーム (シュート確立調査からバスケットボールの特徴について理解する)</p> <p>第 10 回 バスケットボールに必要な技術について理解し、習得する(シュート、ドリブル、パスなど) 簡易ゲーム</p> <p>第 11 回 2:0の練習 2:1の練習 2:2の練習 (制限区域内での攻撃と防御について理解する)</p> <p>第 12 回 各チームで練習(3:3において、各チームの触球数調査からチームの課題を発見し、克服する練習内容を導き出す)</p> <p>第 13 回 2:2から3:3の練習 オールコートでのゲームの展開 5:5 にむけて</p> <p>第 14 回 3:3の練習から5:5の練習へ (ポジションの確認 攻撃・守備の作戦を立てる)</p> <p>第 15 回 5:5 ゲーム (バスケットゲームの運営について協議し、最終ゲームのルールの確認 審判の役割)</p>			
授業外学習(予習・復習)				
成績評価の方法	毎回の学習ノートの提出(自己評価記入も含む)+技術評価をもとに総合的に評価する			

(注) 教職必修

(注) (C) 食物栄養専攻, (D) 生活科学専攻, (E) 経済専攻, (F) 経営情報専攻

授業科目	生涯スポーツ実習 I (E) (F)		担当者	徳田 修司
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	必修(注)
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ラケットスポーツと健康づくり、仲間づくり</p> <p>【概要】ラケットスポーツとして本授業ではテニスをとりあげ、ダブルスのゲームが出来るようになることを目標として段階的に学習していく。ペアまたはグループで練習することを主とし、お互いの技術レベルに応じて協力しながら動きや技術を習得する。このような学習課程の中で体力の必要性、仲間との上手な協力関係を学び、実生活でも応用できるようになることを目指す。</p> <p>【到達目標】ダブルスのゲームが出来ること。試合の進め方、ルールを覚える。 ラケットスポーツを通じた、健康・体力づくり、仲間づくりの方法を修得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 特になし (2) 特になし ※必要に応じて、資料は配付する。			
授業スケジュール	<p>第 1 回 グループ分け。ボール投げとキャッチ。ラケットでのボール打ち。</p> <p>第 2 回 ボール投げとキャッチ。ペアでのボール出しとフォアハンドストローク。</p> <p>第 3 回 ボール投げとキャッチ。ペアでのボール出しとバックハンドストローク。</p> <p>第 4 回 ボール投げとキャッチ。グループで正確な距離のコントロールの練習。</p> <p>第 5 回 ラケット打ちとキャッチ。ペアでボール出しとフォアハンドボレー。</p> <p>第 6 回 ラケット打ちとキャッチ。ペアでボール出しとバックハンドボレー。</p> <p>第 7 回 ラケット打ちとキャッチ。グループで正確なボレー(方向)の練習。</p> <p>第 8 回 ネットを挟んで短い距離でのボール出しとストローク・ボレー。</p> <p>第 9 回 ネットを挟んで長い距離でのボール出しとストローク・ボレー。</p> <p>第 10 回 ネットを挟んで短い距離での連続したストロークの練習。</p> <p>第 11 回 ネットを挟んで長い距離での連続したストロークの練習。</p> <p>第 12 回 サーブを打ってみる。いろいろな打ち方で、正確に打つこと。</p> <p>第 13 回 正式のコートより狭くしたコートでのダブルスのゲームに挑戦。</p> <p>第 14 回 正式のコートの広さでダブルスのゲームに挑戦する。</p> <p>第 15 回 授業のまとめと評価</p>			
授業外学習(予習・復習)	学校で実習したことを生活の中に取り入れ、習慣化することを目指す。			
成績評価の方法	技術の上達度(60~80%)、出席状況や授業への取り組み状況(40~20%)			

(注) (E) 経済専攻, (F) 経営情報専攻

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅱ (A)(B)(E)(F)		担当者	西迫 貴美代
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	授業外対応	随時 nisizako@k-kentan.ac.jp
	[単位] 1	[必修/選択] 必修	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。また、大学生活が始まり、新しい環境に適応する手立てとして所属専攻の仲間と共にスポーツを楽しむことをめざす。</p> <p>【概要】主に球技教材としてバレーボール・バスケットボールのスポーツ種目を採用する。それぞれのスポーツ種目の特徴的な技術認識（わかる）ことと技能習得（できる）を融合させることを目的とする。また常に球技は他者との関係性を意識しながら実施する必要があり、基本的な身体技法を習得する際に自分のからだやうごきの特徴を知る。（前期はラケット種目を履修する）</p> <p>【到達目標】①バレーボール・バスケットボールの歴史・ルールを理解する ②バレーボール・バスケットボールの基本的な技術を理解し、技能を習得する、③自分やチームの課題を発見し、課題を克服するための練習計画を立てることができる④他者と協力して、チームを組織し、運営することができる、④自分のからだの管理ができ、安全に運動する配慮ができる</p> <p>【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。また、大学生活が始まり、新しい環境に適応する手立てとして所属専攻の仲間と共にスポーツを楽しむことをめざす。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 各人の学習ノートを準備する。(毎回提出) なお、雨天時の場合は、同時間担当者との話し合いの上、種目変更の可能性はある (E F の場合)。主に体育館で実施するので体育館シューズと運動にふさわしい服装を準備すること。その他適時資料を配布する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション (からだほぐしとからだでコミュニケーションワーク)</p> <p>第 2 回 バレーボールの歴史 試しのゲーム アタックからの学習について理解する</p> <p>第 3 回 A アタックのタイミングの理解と習熟 2対2の簡易ゲーム</p> <p>第 4 回 2:2の簡易ゲームから3:3のゲームへ アタックのバリエーションを習得(トスの違いを理解する)</p> <p>第 5 回 3:3の簡易ゲームから4:4のゲーム (攻撃の作戦を立てる チームでの練習計画を立て実施する)</p> <p>第 6 回 4:4の簡易ゲームから6:6のゲームへ (コート広さとアタックの守備との関係 防御の作戦を立てる)</p> <p>第 7 回 6:6のゲーム (簡易ゲームで利用したルールの採用など、ルールについて考える)</p> <p>第 8 回 6:6のゲーム(バレーボール大会)</p> <p>第 9 回 バスケットボールの歴史 試しのゲーム (シュート確立調査からバスケットボールの特徴について理解する)</p> <p>第 10 回 バスケットボールに必要な技術について理解し、習得する(シュート、ドリブル、パスなど) 簡易ゲーム</p> <p>第 11 回 2:0の練習 2:1の練習 2:2の練習 (制限区域内での攻撃と防御について理解する)</p> <p>第 12 回 各チームで練習(3:3において、各チームの触球数調査からチームの課題を発見し、克服する練習内容を導き出す)</p> <p>第 13 回 2:2から3:3の練習 オールコートでのゲームの展開 5:5 にむけて</p> <p>第 14 回 3:3の練習から5:5の練習へ (ポジションの確認 攻撃・守備の作戦を立てる)</p> <p>第 15 回 5:5 ゲーム (バスケットゲームの運営について協議し、最終ゲームのルールの確認 審判の役割)</p>			
授業外学習(予習・復習)				
成績評価の方法	毎回の学習ノートの提出(自己評価記入も含む) + 技術評価をもとに総合的に評価する			

(注) 教職必修 (注) (A) 日本語日本文学専攻, (B) 英語英文学専攻 (E) 経済専攻, (F) 経営情報専攻

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅱ (C)(D)(E)(F)		担当者	岡田 猛
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	授業外対応	西迫先生を通して
	[単位] 1	[必修/選択] 必修(注)	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>スポーツは長い歴史をもつ。各種スポーツの習得はそれぞれの歴史を通してそこに刻み込まれてきた社会的・精神的・身体的諸価値を体験、追求する意義をもち、わたしたちの成長・発達、生活におおいに貢献する。本講義では、今日ではすべてのひとにとって「権利」であるとされるスポーツについて確かな認識に裏づけられた技能に習熟することによって、生涯にわたって生活の質を維持・向上することのできる基礎的素養の獲得を旨とする。</p> <p>【概要】</p> <p>教材として硬式テニスを採用する(雨天時は体育館で。卓球に切り替えることもある)。生涯にわたってスポーツを享受できるように不可欠な認識(わかる)を深め広げ、さらに生涯にわたって、自らの技能習熟(できる)を見通せる能力を形成する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、生涯にわたりテニス(主としてダブルスゲーム)を楽しめる主体を形成する そのために 2、テニスの歴史、技術構造を理解する 3、その理解に基づいて自他の技能における達成度合いや挑戦課題を発見し、課題達成の道筋を探求する 4、この課題達成の過程において他者との協力やリーダーシップ、忍耐力、身体に関する諸能力を向上させる 			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回~ 1. テニスの世界への誘い(様々な操作・運用をとおした、ボール、ラケット、コートへの慣れ)</p> <p>第 14 回 2. テニスにおける基本的技能(グランドストローク、ボレー、スマッシュ、サービス等)における各種方法、各段レベルの習得</p> <p>3. テニスにおけるゲーム運営(ルール、戦術・戦略、試合運営等)についての理解・習熟</p> <p>丁寧な説明による理解の進展をはかり、以上の学習課題について、段階的、らせん的な学習指導を展開する。</p> <p>なお、習熟段階に遅れのみられる受講生には時間を設定し復習指導を行うので心配はいらない。</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	機会があれば、前時に学習した内容を実践確認しておくことが望ましい			
成績評価の方法	出席(50%)、授業への積極的な参加(20%)、技能の理解・習熟段階(30%)を総合的に評価する			

(注) 教職必修 (注) (C) 食物栄養専攻, (D) 生活科学専攻, (E) 経済専攻, (F) 経営情報専攻

4 教養科目（情報科目）

授業科目	情報リテラシーI(A)		担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業前後。メールでの質問にも随時対応。
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	必修(注)
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 パソコンの基本的な使い方をマスターする。</p> <p>【概要】 Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール(学校指定メール)、インターネット、ワープロ、画像処理等、学習やビジネスの場で広く使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。特に、ワープロでの高度な文書作成法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ソフトウェアを基本レベルで使いこなせるようになる。他の授業の課題やレポートなどをすべてワープロで作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト	(1) なし			
(2)参考文献	(2) 随時、資料ファイルを配信。			
授業スケジュール	<p>第1回 電子メールにおける文書処理(1)</p> <p>第2回 授業前アンケート(パソコン使用歴、授業への希望など)</p> <p>第3回 Windows パソコンの基本的な使い方</p> <p>第4回 電子メールにおける文書処理(2)</p> <p>第5回 パソコンによる効率的な検索</p> <p>第6回 MS-WORDによるワープロ実習(1)</p> <p>第7回 MS-WORDによるワープロ実習(2)</p> <p>第8回 MS-WORDによるワープロ実習(3)</p> <p>第9回 画像ファイルの扱い方…スキャナー・デジカメ</p> <p>第10回 画像ファイルの扱い方…写真の加工・編集</p> <p>第11回 画像を利用した文書作り</p> <p>第12回 表やグラフを用いた文書作り(1)</p> <p>第13回 表やグラフを用いた文書作り(2)</p> <p>第14回 他のMS OFFICEソフトウェアの紹介(表計算ソフト Excel、プレゼンテーションソフト PowerPoint)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	2回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合、空き時間に学校で取り組むこと。			
成績評価の方法	2回の課題(60%)と実技試験(40%)の総合評価			

(注) 教職必修、日本語日本文学専攻

授業科目	情報リテラシーI(B)		担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業前後。メールでの質問にも随時対応。
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	必修(注)
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 パソコンの基本的な使い方をマスターする。</p> <p>【概要】 Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール(学校指定メール)、インターネット、ワープロ、画像処理等、学習やビジネスの場で広く使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。特に、ワープロでの高度な文書作成法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ソフトウェアを基本レベルで使いこなせるようになる。他の授業の課題やレポートなどをすべてワープロで作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト	(1) なし			
(2)参考文献	(2) 随時、資料ファイルを配信。			
授業スケジュール	<p>第1回 電子メールにおける文書処理(1)</p> <p>第2回 授業前アンケート(パソコン使用歴、授業への希望など)</p> <p>第3回 Windows パソコンの基本的な使い方</p> <p>第4回 電子メールにおける文書処理(2)</p> <p>第5回 パソコンによる効率的な検索</p> <p>第6回 MS-WORDによるワープロ実習(1)</p> <p>第7回 MS-WORDによるワープロ実習(2)</p> <p>第8回 MS-WORDによるワープロ実習(3)</p> <p>第9回 画像ファイルの扱い方…スキャナー・デジカメ</p> <p>第10回 画像ファイルの扱い方…写真の加工・編集</p> <p>第11回 画像を利用した文書作り</p> <p>第12回 表やグラフを用いた文書作り(1)</p> <p>第13回 表やグラフを用いた文書作り(2)</p> <p>第14回 他のMS OFFICEソフトウェアの紹介(表計算ソフト Excel、プレゼンテーションソフト PowerPoint)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	2回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合、空き時間に学校で取り組むこと。			
成績評価の方法	2回の課題(60%)と実技試験(40%)の総合評価			

(注) 教職必修、英語英文学専攻

授業科目	情報リテラシーI(C)		担当者	青山 究
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	必修(注)
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ワードプロセッサソフトの習得</p> <p>【概要】 代表的なワードプロセッサソフト Microsoft Word の解説を行い、実習・演習を通して使いこなせるようにする。</p> <p>【到達目標】 高度な知識や能力を要求するわけではない。日常で必要となった時に Microsoft Word を活用できるようになることを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編修部編「30時間でマスター Word 2013」実教出版 情報リテラシーI(C)とII(C)2科目専用のUSBフラッシュメモリを1個用意すること。</p> <p>(2) 特に指定しないが Word の入門書、解説書なら何でも参考になる。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 Windows 7 の基礎</p> <p>第2回 Word の起動と終了</p> <p>第3回 日本語入力システムの設定</p> <p>第4回 文字の入力</p> <p>第5回 文章の入力</p> <p>第6回 入力の訂正 (訂正, 挿入, 削除)</p> <p>第7回 特殊な入力方法 (記号の入力2, 数式, 手書き入力)</p> <p>第8回 いろいろな辞書の利用 (人名, 住所, 顔文字)</p> <p>第9回 文の入力 (ページ設定, 文の入力, 改行)</p> <p>第10回 文書の保存と読み込み, 印刷 (ページ設定, 余白の設定, 印刷レイアウト, 印刷)</p> <p>第11回 複写・削除・移動</p> <p>第12回 編集機能1 (右揃え, 中央揃え)</p> <p>第13回 編集機能2 (印刷フォント, 下線, 表の作成, 均等割り付け)</p> <p>第14回 表の編集 (行・列の挿入)</p> <p>第15回 ビジュアルな文書 (ワードアート, クリップアート, ページ罫線)</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜宿題を課すので、その都度必ずやっておくこと。			
成績評価の方法	期末実技試験(60%) + 授業中に課せられる課題(40%)			

(注) 教職必修, 食物栄養専攻

授業科目	情報リテラシーI(D)		担当者	上野 祐子
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時, 適宜対応(要予約)
	[学期]	前期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	必修(注)
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。</p> <p>【概要】学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word (以下 Word), Excel, PowerPoint のうち、Word と Excel の基本操作を習得する。</p> <p>また、Web による情報検索について習得する。情報検索の中で、情報セキュリティやネットチケットについても触れていく。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフト及び検索機能を用いて、他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社 『よくわかる Microsoft Word 2016 & Microsoft Excel 2016 & Microsoft PowerPoint 2016』 FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション, 電子メール</p> <p>第2回 電子メール, 第1章 Word さあ、はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成)</p> <p>第3回 第2章 Word 文書を作成しよう</p> <p>第4回 第3章 Word グラフィック機能を使ってみよう</p> <p>第5回 第4章 Word 表のある文書を作成しよう</p> <p>第6回 Web による情報検索</p> <p>第7回 Web による情報検索(2)</p> <p>第8回 レポート作成に役立つ WORD の機能</p> <p>第9回 ファイルの整理 (ファイルの概念, フォルダの概念)</p> <p>第10回 第5章 Excel さあ、はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成)</p> <p>第11回 第6章 Excel データを入力しよう</p> <p>第12回 第7章 Excel 表を作成しよう</p> <p>第13回 第8章 Excel グラフを作成しよう</p> <p>第14回 第9章 Excel データを分析しよう</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	3回の課題(60%)と期末試験(40%)の総合評価			

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	情報リテラシー I (E)		担当者	永仮ゆかり																																																	
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール																																																	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	[必修/選択]	必修(注)	[授業形態]	演習																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】 ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。</p> <p>【到達目標】 タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的な文書作成能力の習得</p>																																																				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム (著)『初心者のための Microsoft Word 2013』FOM 出版</p> <p>(2) プリント</p>																																																				
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>パソコンの基本操作</td> <td>: 概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>文字の入力</td> <td>: キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>文章の入力</td> <td>: キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、保存</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>文書の作成</td> <td>: ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>文書の編集</td> <td>: 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>通知状の作成</td> <td>: 課題文書作成 (通知状)、印刷、文書の書き方について</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>表の作成</td> <td>: 表の挿入、表への文字入力、表の選択</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>表の編集</td> <td>: 行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>表の活用</td> <td>: 課題文書作成 (表を含む文書)</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>図形描画</td> <td>: 図解について、図形描画を使った地図の作成</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>グラフィック機能の利用</td> <td>: ワードアートの挿入、画像の挿入、オンライン画像の挿入</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>案内状の作成</td> <td>: 課題文書作成 (案内状)、文書管理について</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>レポートの作成</td> <td>: レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>社外文書作成</td> <td>: 案内状など</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> </table>								第 1 回	パソコンの基本操作	: 概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成	第 2 回	文字の入力	: キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換	第 3 回	文章の入力	: キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、保存	第 4 回	文書の作成	: ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動	第 5 回	文書の編集	: 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)	第 6 回	通知状の作成	: 課題文書作成 (通知状)、印刷、文書の書き方について	第 7 回	表の作成	: 表の挿入、表への文字入力、表の選択	第 8 回	表の編集	: 行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更	第 9 回	表の活用	: 課題文書作成 (表を含む文書)	第 10 回	図形描画	: 図解について、図形描画を使った地図の作成	第 11 回	グラフィック機能の利用	: ワードアートの挿入、画像の挿入、オンライン画像の挿入	第 12 回	案内状の作成	: 課題文書作成 (案内状)、文書管理について	第 13 回	レポートの作成	: レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成	第 14 回	社外文書作成	: 案内状など	第 15 回	まとめ	
第 1 回	パソコンの基本操作	: 概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成																																																			
第 2 回	文字の入力	: キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換																																																			
第 3 回	文章の入力	: キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、保存																																																			
第 4 回	文書の作成	: ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動																																																			
第 5 回	文書の編集	: 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)																																																			
第 6 回	通知状の作成	: 課題文書作成 (通知状)、印刷、文書の書き方について																																																			
第 7 回	表の作成	: 表の挿入、表への文字入力、表の選択																																																			
第 8 回	表の編集	: 行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更																																																			
第 9 回	表の活用	: 課題文書作成 (表を含む文書)																																																			
第 10 回	図形描画	: 図解について、図形描画を使った地図の作成																																																			
第 11 回	グラフィック機能の利用	: ワードアートの挿入、画像の挿入、オンライン画像の挿入																																																			
第 12 回	案内状の作成	: 課題文書作成 (案内状)、文書管理について																																																			
第 13 回	レポートの作成	: レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成																																																			
第 14 回	社外文書作成	: 案内状など																																																			
第 15 回	まとめ																																																				
授業外学習(予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示																																																				
成績評価の方法	期末試験 (知識科目 20%+実技科目 50%) +授業ごとに実施する課題 (30%)																																																				

(注) 経済専攻

授業科目	情報リテラシー I (F)		担当者	永仮ゆかり																																																	
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール																																																	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	[必修/選択]	必修(注)	[授業形態]	演習																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】 ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。</p> <p>【到達目標】 タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的な文書作成能力の習得</p>																																																				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム (著)『初心者のための Microsoft Word 2013』FOM 出版</p> <p>(2) プリント</p>																																																				
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>パソコンの基本操作</td> <td>: 概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>文字の入力</td> <td>: キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>文章の入力</td> <td>: キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、保存</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>文書の作成</td> <td>: ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>文書の編集</td> <td>: 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>通知状の作成</td> <td>: 課題文書作成 (通知状)、印刷、文書の書き方について</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>表の作成</td> <td>: 表の挿入、表への文字入力、表の選択</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>表の編集</td> <td>: 行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>表の活用</td> <td>: 課題文書作成 (表を含む文書)</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>図形描画</td> <td>: 図解について、図形描画を使った地図の作成</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>グラフィック機能の利用</td> <td>: ワードアートの挿入、画像の挿入、オンライン画像の挿入</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>案内状の作成</td> <td>: 課題文書作成 (案内状)、文書管理について</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>レポートの作成</td> <td>: レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>社外文書作成</td> <td>: 案内状など</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> </table>								第 1 回	パソコンの基本操作	: 概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成	第 2 回	文字の入力	: キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換	第 3 回	文章の入力	: キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、保存	第 4 回	文書の作成	: ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動	第 5 回	文書の編集	: 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)	第 6 回	通知状の作成	: 課題文書作成 (通知状)、印刷、文書の書き方について	第 7 回	表の作成	: 表の挿入、表への文字入力、表の選択	第 8 回	表の編集	: 行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更	第 9 回	表の活用	: 課題文書作成 (表を含む文書)	第 10 回	図形描画	: 図解について、図形描画を使った地図の作成	第 11 回	グラフィック機能の利用	: ワードアートの挿入、画像の挿入、オンライン画像の挿入	第 12 回	案内状の作成	: 課題文書作成 (案内状)、文書管理について	第 13 回	レポートの作成	: レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成	第 14 回	社外文書作成	: 案内状など	第 15 回	まとめ	
第 1 回	パソコンの基本操作	: 概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成																																																			
第 2 回	文字の入力	: キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換																																																			
第 3 回	文章の入力	: キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、保存																																																			
第 4 回	文書の作成	: ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動																																																			
第 5 回	文書の編集	: 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)																																																			
第 6 回	通知状の作成	: 課題文書作成 (通知状)、印刷、文書の書き方について																																																			
第 7 回	表の作成	: 表の挿入、表への文字入力、表の選択																																																			
第 8 回	表の編集	: 行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更																																																			
第 9 回	表の活用	: 課題文書作成 (表を含む文書)																																																			
第 10 回	図形描画	: 図解について、図形描画を使った地図の作成																																																			
第 11 回	グラフィック機能の利用	: ワードアートの挿入、画像の挿入、オンライン画像の挿入																																																			
第 12 回	案内状の作成	: 課題文書作成 (案内状)、文書管理について																																																			
第 13 回	レポートの作成	: レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成																																																			
第 14 回	社外文書作成	: 案内状など																																																			
第 15 回	まとめ																																																				
授業外学習(予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示																																																				
成績評価の方法	期末試験 (知識科目 20%+実技科目 50%) +授業ごとに実施する課題 (30%)																																																				

(注) 経営情報専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(A)		担当者	望月 正道
	[履修年次]	1年	授業外対応	随時(要メール予約)
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	必修(注)
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】課題の探求・解決・表現(出力)のすべてにおいて重要なツールとなる情報処理能力を身につける。</p> <p>【概要】情報リテラシーは、専門教育を効率的かつ効果的におこなうための手法を学ぶとともに、セキュリティやマナー、ルールといった知識を学び、情報化社会に対応する能力を身につける科目である。Ⅱでは、Ⅰで学んだ基礎のうえにたち、その応用を図るとともに、情報化社会における社会とICTの関わりやその問題点などについても考える。</p> <p>【到達目標】情報機器を活用し、ネットを安全かつ効率的に利用することができる。</p> <p>また、ICT関連のニュースを理解し、中学生にもわかるように説明できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 奥村晴彦『【改訂第2版】基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方、パソコンの歴史</p> <p>第2回 コンピュータとのつきあい方、文字入力、文字コード</p> <p>第3回 ネットの利用、情報の調べ方・まとめ方、電子メール、SNS</p> <p>第4回 お絵かきソフトとファイルの基本操作</p> <p>第5回 文書作成の基本</p> <p>第6回 文書作成の応用</p> <p>第7回 表計算ソフトの基本</p> <p>第8回 表計算ソフトの応用</p> <p>第9回 プレゼンテーションの基本</p> <p>第10回 プレゼンテーションの応用</p> <p>第11回 Webによる情報発信</p> <p>第12回 ネットワークとセキュリティ</p> <p>第13回 プログラミング</p> <p>第14回 中学校での「情報教育」の動向について</p> <p>第15回 オープンソースソフトウェア(Linux体験)</p>			
授業外学習(予習・復習)	<p>次回の学習範囲を指示するので、事前によく読んでおく。また、毎週のニュースに関する課題にメールで答えること。</p>			
成績評価の方法	<p>課題レポートの成績(50%)＋毎時紹介するICT関連ニュースやテキストの内容に関する筆記試験の成績(50%)</p>			

(注) 教職必修、日本語日本文学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(B)		担当者	望月 正道
	[履修年次]	1年	授業外対応	随時(要メール予約)
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	必修(注)
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】課題の探求・解決・表現(出力)のすべてにおいて重要なツールとなる情報処理能力を身につける。</p> <p>【概要】情報リテラシーは、専門教育を効率的かつ効果的におこなうための手法を学ぶとともに、セキュリティやマナー、ルールといった知識を学び、情報化社会に対応する能力を身につける科目である。Ⅱでは、Ⅰで学んだ基礎のうえにたち、その応用を図るとともに、情報化社会における社会とICTの関わりやその問題点などについても考える。</p> <p>【到達目標】情報機器を活用し、ネットを安全かつ効率的に利用することができる。</p> <p>また、ICT関連のニュースを理解し、中学生にもわかるように説明できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 奥村晴彦『【改訂第2版】基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方、パソコンの歴史</p> <p>第2回 コンピュータとのつきあい方、文字入力、文字コード</p> <p>第3回 ネットの利用、情報の調べ方・まとめ方、電子メール、SNS</p> <p>第4回 お絵かきソフトとファイルの基本操作</p> <p>第5回 文書作成の基本</p> <p>第6回 文書作成の応用</p> <p>第7回 表計算ソフトの基本</p> <p>第8回 表計算ソフトの応用</p> <p>第9回 プレゼンテーションの基本</p> <p>第10回 プレゼンテーションの応用</p> <p>第11回 Webによる情報発信</p> <p>第12回 ネットワークとセキュリティ</p> <p>第13回 プログラミング</p> <p>第14回 中学校での「情報教育」の動向について</p> <p>第15回 オープンソースソフトウェア(Linux体験)</p>			
授業外学習(予習・復習)	<p>次回の学習範囲を指示するので、事前によく読んでおく。また、毎週のニュースに関する課題にメールで答えること。</p>			
成績評価の方法	<p>課題レポートの成績(50%)＋毎時紹介するICT関連ニュースやテキストの内容に関する筆記試験の成績(50%)</p>			

(注) 教職必修、英語英文学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(C)		担当者	青山 究
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフトの習得</p> <p>【概要】 代表的な表計算ソフト Microsoft Excel の解説を行い、実習・演習を通して使いこなせるようにする。</p> <p>【到達目標】 高度な知識や能力を要求するわけではない、日常で必要となった時に Microsoft Excel を活用できるようになることを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編修部編「30時間でマスター Excel 2013」実教出版 情報リテラシーⅠ(C)とⅡ(C)2科目専用のUSBフラッシュメモリを1個用意すること。</p> <p>(2) 特に指定しないがExcelの入門書、解説書なら何でも参考になる。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 Excelの基礎</p> <p>第2回 データ入力の基礎(数値データ、文字列データ、データの消去)</p> <p>第3回 基本的なワークシートの編集(セルの挿入・削除、移動・コピー、データの修正、連続データの入力、数式の入力)</p> <p>第4回 ワークシートの書式設定(列幅と行の高さ、表示形式、文字の配置とフォント、罫線・塗りつぶし)</p> <p>第5回 グラフの作成(グラフの用途と基本構成、棒グラフ、円グラフ)</p> <p>第6回 グラフの変更(系列、数値軸目盛、グラフの種類、データ系列、軸ラベル、凡例、フォント、データラベル)</p> <p>第7回 オートSUMボタン(最大、最小、平均、データの個数)</p> <p>第8回 関数の挿入(順位づけ、四捨五入、判定、条件による集計、表の検索)</p> <p>第9回 データベース機能(並べ替え、フィルター、条件付き書式、テーブル)</p> <p>第10回 データの集計(ピボットテーブル、クロス集計、レポートフィルター)</p> <p>第11回 順位付け、検索</p> <p>第12回 文字列操作</p> <p>第13回 データベース関数</p> <p>第14回 条件付き集計</p> <p>第15回 Wordとの連携</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜宿題を課すので、その都度必ずやっておくこと。			
成績評価の方法	期末実技試験(60%) + 授業中に課せられる課題(40%)			

(注) 食物栄養専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(D)		担当者	上野 祐子
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時、適宜対応(要予約)
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	必修(注)
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。</p> <p>【概要】本科目は、情報リテラシーⅠ(D)と同じ方針で進める。</p> <p>アプリケーションソフト PowerPoint の基本操作を習得した後、3つのアプリケーションソフトの理解を深めるために、ビジネス実務を想定した問題演習を行う。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフトを用いて、簡単なビジネス文書が作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社 『よくわかる Microsoft Word 2016 & Microsoft Excel 2016 & Microsoft PowerPoint 2016』 FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 前期の復習</p> <p>第2回 第10章 PowerPoint さあ、はじめよう(概要、起動と終了、画面構成)</p> <p>第3回 第11章 PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう</p> <p>第4回 第12章 PowerPoint スライドショーを実行しよう</p> <p>第5回 アプリ間でデータを共有しよう</p> <p>第6回 Word 練習問題(グラフィック中心)</p> <p>第7回 Word 練習問題(表中心)</p> <p>第8回 Word 練習問題</p> <p>第9回 Excel 練習問題(関数中心)</p> <p>第10回 Excel 練習問題(関数中心)</p> <p>第11回 Excel 練習問題(グラフ中心)</p> <p>第12回 Excel 練習問題</p> <p>第13回 総合問題</p> <p>第14回 総合問題</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	3回の課題(60%)と期末試験(40%)の総合評価			

(注) 教職必修、生活科学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (E)		担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業前後。メールでの質問にも随時対応。
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 パソコンの基本的な使い方をマスターし、各種ソフトウェアに習熟する。</p> <p>【概要】 情報リテラシーⅡ (E) と (F) は、授業開始前にパソコン使用経験に応じて経済・経営情報の2専攻を合わせて初級（初心者）と中級（経験者）にクラス編成する。Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール（学校指定メール）、インターネット検索、画像処理、ユーティリティソフト等、学習やビジネスの場で使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】 初心者クラスは、取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンを身近なものとする。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、応用レベルまで使いこなせる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 随時、資料ファイルを配信。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 授業前アンケート（パソコン使用歴、授業への希望など）</p> <p>第 2回 Windows パソコンの基本的な使い方</p> <p>第 3回 電子メールにおける文書処理</p> <p>第 4回 ファイルの基本操作</p> <p>第 5回 パソコンによる効率的な検索</p> <p>第 6回 インターネット検索</p> <p>第 7回 画像ファイルの扱い方…スキャナー・デジカメ</p> <p>第 8回 画像ファイルの扱い方…画像の加工・編集</p> <p>第 9回 画像を利用したワープロ文書作り (1)</p> <p>第 10回 画像を利用したワープロ文書作り (2)</p> <p>第 11回 ファイルの応用的処理…圧縮・解凍</p> <p>第 12回 ファイルの応用的処理…その他のユーティリティソフト</p> <p>第 13回 インターネットの活用…パソコンとスマートフォンの連携</p> <p>第 14回 インターネットの活用…クラウドの利用</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	2回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合、空き時間に学校で取り組むこと。			
成績評価の方法	2回の課題 (60%) と実技試験 (40%) の総合評価			

授業科目	情報リテラシーⅡ (F)		担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業前後。メールでの質問にも随時対応。
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 パソコンの基本的な使い方をマスターし、各種ソフトウェアに習熟する。</p> <p>【概要】 情報リテラシーⅡ (E) と (F) は、授業開始前にパソコン使用経験に応じて経済・経営情報の2専攻を合わせて初級（初心者）と中級（経験者）にクラス編成する。Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール（学校指定メール）、インターネット検索、画像処理、ユーティリティソフト等、学習やビジネスの場で使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】 初心者クラスは、取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンを身近なものとする。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、応用レベルまで使いこなせる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 随時、資料ファイルを配信。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 授業前アンケート（パソコン使用歴、授業への希望など）</p> <p>第 2回 Windows パソコンの基本的な使い方</p> <p>第 3回 電子メールにおける文書処理</p> <p>第 4回 ファイルの基本操作</p> <p>第 5回 パソコンによる効率的な検索</p> <p>第 6回 インターネット検索</p> <p>第 7回 画像ファイルの扱い方…スキャナー・デジカメ</p> <p>第 8回 画像ファイルの扱い方…画像の加工・編集</p> <p>第 9回 画像を利用したワープロ文書作り (1)</p> <p>第 10回 画像を利用したワープロ文書作り (2)</p> <p>第 11回 ファイルの応用的処理…圧縮・解凍</p> <p>第 12回 ファイルの応用的処理…その他のユーティリティソフト</p> <p>第 13回 インターネットの活用…パソコンとスマートフォンの連携</p> <p>第 14回 インターネットの活用…クラウドの利用</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	2回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合、空き時間に学校で取り組むこと。			
成績評価の方法	2回の課題 (60%) と実技試験 (40%) の総合評価			

5 日本語日本文学専攻専門科目

授業科目	日本文学概論		担当者	木戸 裕子・竹本 寛秋				
	[履修年次]	1	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラシー教育, ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成を目的とする。</p> <p>【概要】 大学での文学研究は高校の国語の授業の内容とは大きく違います。この授業では, 1. 古典文学研究に必要な文献学, 書誌学の初歩とくずし字の読み方, 2. 主に近代文学研究に必要な文学理論の初歩, 3. 大学生にふさわしい「書く力」「話す力」を身につけるためのレポート作成方法の三部構成で, 日本文学を学ぶ学生に必要な知識と能力を習得できるようにします。</p> <p>【到達目標】 本の古典・近代文学に関する基礎的な知識を修得し, 変体仮名 (くずし字) の基本的な読み方を身につける。演習や2年次の卒業研究に必要なディスカッションの仕方, 論理的なレポートの書き方を身につける。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小島孝之『古筆切で読む くずし字練習帳』『辞典かな』 新典社 (担当者: 木戸)</p> <p>(2) プリント (担当者: 竹本)</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション: 本学での日本文学関連の授業と高校の国語の授業の違い, ノートの取り方。</p> <p>第 2 回 古典文学を学ぶとは: 仮名史について くずし字の読み方 1</p> <p>第 3 回 文献学 (写本と板本) について: くずし字の読み方 2</p> <p>第 4 回 書誌学について・古典文学の分類について: くずし字の読み方 3</p> <p>第 5 回 古典の季節観と暦: くずし字小テスト</p> <p>第 6 回 古典における比較文学 中国古典文学との関わり 1: くずし字の読み方 4</p> <p>第 7 回 中国古典文学との関わり 2: くずし字の読み方 5</p> <p>第 8 回 総括 1: 前半のまとめ</p> <p>第 9 回 近代文学を学ぶとは: 文学理論について</p> <p>第 10 回 「読む」 ときに行われていること: 解釈モデルについて</p> <p>第 11 回 「作者」とは何か: 作者/作品/テキスト</p> <p>第 12 回 「語り」とは何か: テキスト論について</p> <p>第 13 回 「物語」とは何か: 構造と物語</p> <p>第 14 回 論文の書き方</p> <p>第 15 回 総括 2: 後半のまとめ</p>							
授業外学習 (予習・復習)	授業で指示する課題など。							
成績評価の方法	毎時間提出するミニレポート (感想文等) 20% 講義期間中の提出課題又は小テスト 30% 試験 50% (竹本担当分はレポート 50%) の合計で評価する。							

(注) 教職必修

授業科目	言語学概論		担当者	楊 虹				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要事前連絡)				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 言語学に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では, 言語学に関する基礎知識を学ぶ。音声学・音韻論, 形態論, 統語論, 意味論および語用論, さらに言語獲得のメカニズムや言語によるコミュニケーションの仕組みから「ことば」を多角的に捉えていく。身近な例をあげてこれらの問題について考えながら授業を進める。</p> <p>【到達目標】 言語学の全体像を体系的に把握すると同時に, 身近なことばと私たちの生活, 社会の関連について理解を深める。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション: 言語学とはどんな学問か, 授業の概要説明</p> <p>第 2 回 音声学・音韻論 (1): 調音音声学, 子音・母音</p> <p>第 3 回 音声学・音韻論 (2): モーラ, 音節, アクセント</p> <p>第 4 回 音声学・音韻論 (3): 連濁, 枝分かれ制約</p> <p>第 5 回 形態論: 派生, 複合など単語を生み出す仕組み</p> <p>第 6 回 統語論 (1): 文の骨組みを作る仕組み</p> <p>第 7 回 統語論 (2): 文の樹形図</p> <p>第 8 回 意味論 (1): 単語の意味</p> <p>第 9 回 意味論 (2): 文と文の間の意味関係</p> <p>第 10 回 語用論 (1): 間接的言語行為と協調の原則</p> <p>第 11 回 語用論 (2): 会話の含意</p> <p>第 12 回 語用論 (3): ポライテネスと敬語</p> <p>第 13 回 言語コミュニケーションと社会: 対人関係と地域差</p> <p>第 14 回 これまでの復習</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習 (予習・復習)	適宜小テストを実施するので, 毎回復習が必要である。							
成績評価の方法	授業での発言や参加度:30%, 小テスト 30%, 期末レポート:40%							

授業科目	日本語学概論		担当者	望月 正道	
	[履修年次]	日本語日本文学専攻は1年, 英語英文学専攻は2年	授業外対応	随時(要メール予約)	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	必修(注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語に関する研究を行っていくうえで、また、日本文学(特に古典文学)を読んでいくためにも、必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】日本語学の各研究分野について概観するが、日本語で用いられる音声・音韻(音声言語)に関する事項についてはパソコン教室(※)で自分の声を分析しながら考察を行う。また、日本語においては文字・表記の問題も重要である。</p> <p>【到達目標】日本語学について平易に書かれた雑誌記事や新書が理解できる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 仁田義雄 他著『改訂版 日本語要説』ひつじ書房</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 日本語学とは：国語/日本語と国語学/日本語学</p> <p>第2回 現代語の音声・音韻論1：音声と音韻、音声器官、音声記号(国際音声字母)、母音 ※</p> <p>第3回 現代語の音声・音韻論2：カ行〜ワ行の異音※</p> <p>第4回 現代語の音声・音韻論3：撥音、促音、音節※</p> <p>第5回 現代語の音声・音韻論4：文節(連文節)、アクセント※</p> <p>第6回 現代語の音声・音韻論5：文の焦点、イントネーション ※</p> <p>第7回 文字・書記：現代日本語の文字と書記法、国語施策、舊漢字</p> <p>第8回 現代語の語彙・語彙論1：語彙とは、単語とは、単語の性質</p> <p>第9回 現代語の語彙・語彙論2：単語の意味、単語の形式</p> <p>第10回 現代語の語彙・語彙論3：単語の出自、単語の構成、単語の位相</p> <p>第11回 現代語の文法・文法論1：文法とは、形態論</p> <p>第12回 現代語の文法・文法論2：統語論1(文のタイプ、文の成分)</p> <p>第13回 現代語の文法・文法論3：統語論2(述語の有する文法カテゴリー、節)</p> <p>第14回 社会言語学・方言学：位相、現代語の「ゆれ」、方言</p> <p>第15回 文章・談話：文章の構造、待遇表現 (※印はパソコン教室で実施。)</p>				
授業外学習(予習・復習)	各自事前にテキストを読んで疑問点を拾い出し、学習課題を考察してくること。				
成績評価の方法	筆記試験(テキスト・ノート・辞書等持ち込み可)の成績(80%)＋随時実施する小テストの成績及び授業での発言内容(20%)				

(注) 日本語日本文学専攻では、必修科目かつ教職必修。英語英文学専攻では、選択科目。

授業科目	日本語教育概論		担当者	楊 虹	
	[履修年次]	日本語日本文学専攻は1年, 英語英文学専攻は2年	授業外対応	適宜対応(要事前連絡)	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>日本語教育学の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>この授業では、日本語教育に初めて接する人を対象として、日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢、教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境、言語(外国語)習得の仕組み、日本語教育の教授法等を解説する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語教育に関する基礎知識を身につけ、日本語教育に興味を持ち、その全体像を把握できること。 グローバル化が進む今日の日本及び世界に対し、より広い視野と多様な見方を持つようになること。 				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：授業の概要説明および日本語教育の現状の概観</p> <p>第2回 異文化接触と日本語教育：少子高齢化、定住外国人の増加、ボランティア教室</p> <p>第3回 年少者に対する日本語教育：帰国子女・外国人児童生徒に対する教育</p> <p>第4回 教師の役割①コースデザインとニーズ分析、</p> <p>第5回 教師の役割②シラバス・デザイン</p> <p>第6回 教材分析・開発</p> <p>第7回 教授法①：直接法 オーディオリンガルメソッド コミュニカティブ・アプローチ</p> <p>第8回 教授法②授業見学</p> <p>第9回 教授法③授業見学の振り返り</p> <p>第10回 授業の計画と実施①授業の組み立て方</p> <p>第11回 授業の計画と実施②初級レベルの場合：導入 基本練習 応用練習</p> <p>第12回 授業の計画と実施③中級以上のレベルの場合：ストラテジー教育 プロジェクトワーク</p> <p>第13回 授業の計画と実施④文化を教える</p> <p>第14回 評価法：熟達度テスト 到達度テスト</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、復習が必要である。				
成績評価の方法	授業での参加度や提出物:30%、小テスト30%、期末レポート:40%				

授業科目	日本語史		担当者	望月 正道
	[履修年次] 1年		授業外対応	随時(要メール予約)
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 必修(注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語の史の変遷について学ぶ。</p> <p>【概要】古代から現代に至る各時代の日本語について、音韻・文字・文法など各分野にわたり、資料を読みながら、史の変遷を概観する。「日本語学概論」を履修していない場合は、テキストのうち現代語に関する部分をよく読んでおくこと。</p> <p>【到達目標】日本語の歴史について平易に書かれた雑誌記事や新書が理解できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 仁田義雄 他著『改訂版 日本語要説』ひつじ書房</p> <p>(2) 古典辞典いずれか1冊を毎回持参すること(電子辞書・辞書アプリでも可能)。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 時代区分と資料：音声資料(昔のレコード)、古辞書、古典文学作品</p> <p>第2回 文字・書記：漢字の借用、表語文字から表音文字へ、書記法の発達</p> <p>第3回 古代語の音声・音韻論1：〈五十音図〉、〈上代特殊仮名遣い〉、万葉集歌の木簡</p> <p>第4回 古代語の音声・音韻論2：〈ア行音・ヤ行音・ワ行音〉(ハ行子音)の変化、キリシタン資料等</p> <p>第5回 古代語の音声・音韻論3：〈サ・ザ行子音〉(タ・ダ行子音)の変化、語音配列の変化</p> <p>第6回 古代語の音声・音韻論4：アクセントの変化 / 文字・書記2：〈仮名遣い〉の歴史</p> <p>第7回 古代語の語彙・語彙論1：古代語の語彙体系、語の出自</p> <p>第8回 古代語の語彙・語彙論2：古代語の語構成・造語法</p> <p>第9回 古代語の語彙・語彙論3：語形変化と語義変化</p> <p>第10回 古代語の語彙・語彙論4：文体と位相</p> <p>第11回 古代語音声の復元：源氏物語、上代歌謡</p> <p>第12回 古代語の文法・文法論1：品詞論</p> <p>第13回 古代語の文法・文法論2：形態論1(きれつづき、格、ヴォイス)</p> <p>第14回 古代語の文法・文法論2：形態論2(テンス・アスペクト、ムード)</p> <p>第15回 古代語の文法・文法論3：統語論</p>			
授業外学習(予習・復習)	各自事前にテキストを読んで疑問点を拾い出し、学習課題を考察してくること。			
成績評価の方法	筆記試験(テキスト・ノート・辞書等持ち込み可)の成績(80%)＋随時実施する小テストの成績(20%)			

(注) 教職必修

授業科目	日本文法論		担当者	望月 正道
	[履修年次] 2年		授業外対応	随時(要メール予約)
	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】近代以降の主な文法学説について学び、日本語の文法について考察する。</p> <p>【概要】中学校で習った(はずの)「口語文法」は、あまり役に立つとも思えない。しかし、文法研究を一生の仕事とした人がいるのだから、意外に面白いのかもしれない。また、外国語教育では、より実態に近い(役に立つ)文法理論も必要だ。この講義では、毎年、日本語の文法について書かれた新刊書1冊を取り上げ、考察を加えていく。講義方式ではあるが、輪読形式や中学校の教育実習に関する話題も交えて進めていくので、気軽に参加してほしい。</p> <p>【到達目標】日本語の文法について書かれた新書を理解し、文法に関して議論ができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 仁田義雄 他著『改訂版 日本語要説』ひつじ書房</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 学校文法の確認：中学校国語「口語文法」の内容について再確認</p> <p>第2回 主な文法学説1：大槻文彦/国語元年、山田孝雄/陳述</p> <p>第3回 主な文法学説2：松下大三郎/断句、橋本進吉/文節</p> <p>第4回 主な文法学説3：時枝誠記/文章論、三上章/主語廃止論</p> <p>第5回 テキストについての検討(1)</p> <p>第6回 テキストについての検討(2)</p> <p>第7回 テキストについての検討(3)</p> <p>第8回 テキストについての検討(4)</p> <p>第9回 テキストについての検討(5)</p> <p>第10回 テキストについての検討(6)</p> <p>第11回 テキストについての検討(7)</p> <p>第12回 テキストについての検討(8)</p> <p>第13回 テキストについての検討(9)</p> <p>第14回 テキストについての検討(10)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	次回の学習範囲を指示するので、事前によく読んでおくこと。			
成績評価の方法	筆記試験(テキスト・ノート・辞書等持ち込み可)の成績(80%)＋随時実施する小テストの成績及び授業での発言内容(20%)			

授業科目	日本語学講義		担当者	望月 正道
	[履修年次] 2年		授業外対応	随時 (要メール予約)
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】1年次に学んだ日本語学概論、日本語史で培った諸問題について韓国語（朝鮮語）の概要を学ぶことをとおして、改めて考察し日本語をより深く理解する。</p> <p>【概要】日本では、6年以上勉強したが……の英語と比較して「日本語は特殊」と思い込んでしまう人が多いように見えるが、文法構造や漢字の受容、敬語法などの面において、日本語にそっくりで微妙に違う韓国語を知ると、目から鱗が落ちるはずだ。なお、授業はK-Popsを視聴するなど楽しくすすめるつもりだが、ハングル字母のおおよその読み方は覚えてほしい。</p> <p>【到達目標】日本語と韓国語の似ている点・異なる点を指摘することができる。ハングルの発音が（だいたい）わかる。また、日本語の起源に関する議論について、怪しい点が指摘できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 野間秀樹『ハングルの誕生 音から文字を創る』、『韓国語をいかに学ぶか』平凡社新書</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 「ハングル」とは：誕生日、構造</p> <p>第2回 日本語と韓国語1：口蓋音化、音節構造</p> <p>第3回 日本語と韓国語2：「清音/濁音」対「平音/激音/濃音」</p> <p>第4回 日本語と韓国語3：漢字音、固有語・漢字語・外来語</p> <p>第5回 日本語と韓国語4：品詞分類、助詞</p> <p>第6回 日本語と韓国語5：助動詞（語尾）、サ変動詞・形容動詞（□□動詞・形容詞）、活用</p> <p>第7回 日本語と韓国語6：代名詞と指示語、コソアドの体系</p> <p>第8回 日本語と韓国語7：擬声語・擬態語</p> <p>第9回 日本語と韓国語8：色彩形容詞「空の青」「海のをを」</p> <p>第10回 日本語と韓国語9：待遇表現（敬語、文体）</p> <p>第11回 日本語と韓国語10：数詞、助数詞</p> <p>第12回 日本語の歴史と「古代朝鮮語」1：記紀歌謡・万葉集と郷歌</p> <p>第13回 日本語の歴史と「古代朝鮮語」2：数詞</p> <p>第14回 日本語の歴史と「古代朝鮮語」3：トンデモ学説について</p> <p>第15回 言語の起源・日本語の起源はどこまでわかっているか、まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	<p>次回の学習範囲を指示するので、日本語の事例について事前に調べておくこと。</p>			
成績評価の方法	<p>筆記試験（簡単なハングルの読み書き、日本語との類似点・相違点、日本語の起源とのかかわり等について出題する）の成績(80%)＋授業での発言や小テストの成績(20%)</p>			

授業科目	日本語学講義 I		担当者	松尾 弘徳
	[履修年次] 1年		授業外対応	メールによる (連絡先は授業中に告知する)
	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語学の研究方法を学ぶ</p> <p>【概要】日本語学という学問分野がどんなことを問題として取り扱うのか、という基本的なスタンスをこの授業では学びます。受講生は毎回授業時までに予習課題を提出、授業では学生が提出した回答や例文を引用しながら、日本語のしくみを考えます。</p> <p>【到達目標】普段話したり書いたりしている日本語を客観的にながめることができるようになることが最終的な目標です。多くの具体的事例を取り上げ、日本語について深く考える場になりたいと考えています。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストは指定せず、毎回プリントを配布します。</p> <p>(2) 授業の中で必要に応じて紹介してゆきます。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方の説明</p> <p>第2回 語彙1ーことばの性差</p> <p>第3回 語彙2ーことばの地域差</p> <p>第4回 語彙3ー意味用法の変化と若者語</p> <p>第5回 音声1ー日本語のリズム</p> <p>第6回 音声2ー鹿児島方言のアクセント</p> <p>第7回 語用論1ー語用論入門</p> <p>第8回 語用論2ー配慮表現</p> <p>第9回 語用論3ー比喩とはなにか</p> <p>第10回 語用論4ーメタファーを考える</p> <p>第11回 文法1ーアニメシー</p> <p>第12回 文法2ー「あいづち」「いいよども」に潜む文法</p> <p>第13回 文法3ーとりたて詞</p> <p>第14回 文法4ー方言文法の変化</p> <p>第15回 まとめと試験</p> <p style="text-align: right;">以上の予定ですが、進行状況次第で変更の可能性があります。</p>			
授業外学習(予習・復習)	<p>受講者全員に対し、授業前に提出してもらい予習課題が予習に、授業後に提出してもらいコメントカードが復習に該当します。</p>			
成績評価の方法	<p>評価基準は下の通り。</p> <p>メールによる予習課題の提出：20% 学期末試験：80%</p> <p>なお、初回授業時に詳しいガイダンスを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。</p>			

授業科目	日本語学講読Ⅱ		担当者	松尾 弘徳
	[履修年次]	1年	授業外対応	メールによる(連絡先は授業中に告知する)
	[学期]	後期	[単位]	1
	[必修/選択]		[授業形態]	選択
	[授業形態]			演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代日本語にみられる諸現象を「歴史的に」考える</p> <p>【概要】ある言葉遣いを聞いたとき、ある人物像が頭に浮かぶ、ということがあります。これを「役割語」と呼ぶことにします。学生の皆さんには役割語に関する調査を実際に行ってもらい、研究発表という形で報告していただきます。授業では小説やマンガ、あるいはアニメなどの用例を紹介しながら、役割語に関する歴史的考察をすすめてゆきます。</p> <p>【到達目標】教員による講義と、学生の研究発表を並行しながら、言葉と歴史の関わりを明らかにしてゆきたいと考えます。この授業を通じて、①歴史認識 ②日本語学の研究方法 ③プレゼンテーションスキルなどを学ぶことになります。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストは指定せず、毎回プリントを配布します。</p> <p>(2) 授業の中で必要に応じて紹介してゆきます。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方の説明</p> <p>第2回 「正しい日本語」とはなにもの？</p> <p>第3回 副詞「全然」の語史</p> <p>第4回 役割語とは何か</p> <p>第5回 研究発表準備①</p> <p>第6回 研究発表準備②</p> <p>第7回 「博士」のことば(研究発表①)</p> <p>第8回 博士語の成立</p> <p>第9回 標準語と非標準語(1)「田舎者」のことば(研究発表②)</p> <p>第10回 標準語と非標準語(2)「標準語」の成立と展開</p> <p>第11回 「中国人」のことば(研究発表③)</p> <p>第12回 異人たちのことば</p> <p>第13回 さまざまな役割語(研究発表④)</p> <p>第14回 役割語とステレオタイプ</p> <p>第15回 講義内容のまとめ</p> <p style="text-align: right;">以上の予定ですが、受講人数・進行状況次第で変更の可能性があります。</p>			
授業外学習(予習・復習)	受講者全員に対し、授業前に提出してもらった予習課題が予習に、授業後に提出してもらったコメントカードが復習に該当します。			
成績評価の方法	<p>評価基準は下の通り。学期末の試験は行いません。</p> <p>メールによる予習課題の提出：50% 研究発表と発表概要の提出：50%</p> <p>なお、初回授業時に詳しいガイダンスを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。</p>			

授業科目	日本語学演習Ⅰ、Ⅲ		担当者	望月 正道
	[履修年次]	1年、2年(注)	授業外対応	随時(要メール予約)
	[学期]	後期	[単位]	1
	[必修/選択]		[授業形態]	選択
				演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】大正時代から昭和初期の言語を考察する。</p> <p>【概要】レコード・蓄音機が普及し、ラジオ放送が始まった大正時代から昭和初期は、真の「共通語」が生まれた時代とも言える。その時代の言語を知る資料にはどのようなものがあるのかをさぐるのがこの演習である。</p> <p>【到達目標】Ⅰ 大正時代から昭和初期の言語を考察する資料を探ることができる。</p> <p>Ⅲ 大正時代から昭和初期の言語の資料を探し出し、さまざまに考察することができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に指示する。</p> <p>(2) 塩田雄大『現代日本語史における放送用語の形成の研究』三省堂</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 導入：国立国会図書館デジタルコレクション、同「歴史的音源」</p> <p>第2回 // : SP 盤レコードと文句集</p> <p>第3回 演習：学生による発表 2年生担当</p> <p>第4回 // : //</p> <p>第5回 // : //</p> <p>第6回 // : //</p> <p>第7回 // : //</p> <p>第8回 演習：学生による発表 1年生担当 (2年生が補助)</p> <p>第9回 // : //</p> <p>第10回 // : //</p> <p>第11回 // : //</p> <p>第12回 // : //</p> <p>第13回 // : //</p> <p>第14回 // : //</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	発表担当の際には(追加の補充調査を含めて)15時間程度を充てるものとする。			
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績(40%)+それ以外の授業中の発言(20%)+試験の成績(40%)			

(注) 演習Ⅰは1年次、演習Ⅲは2年次

授業科目	日本語学演習Ⅱ		担当者	望月 正道				
	[履修年次]	2年	授業外対応	随時 (要メール予約)				
	[学期]	前期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】大正時代から昭和初期の言語を考察する。</p> <p>【概要】レコード・蓄音機が普及し、ラジオ放送が始まった大正時代から昭和初期は、真の「共通語」が生まれた時代とも言える。その時代の言語を知る資料にはどのようなものがあるのかをさぐるのがこの演習である。</p> <p>【到達目標】大正時代の言語を考察する資料を探し出し、その価値が指摘できる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に指示する。</p> <p>(2) 塩田雄大『現代日本語史における放送用語の形成の研究』三省堂</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 導入：今学期の進め方</p> <p>第2回 演習：学生による発表</p> <p>第3回 // : //</p> <p>第4回 // : //</p> <p>第5回 // : //</p> <p>第6回 // : //</p> <p>第7回 // : //</p> <p>第8回 // : 中間まとめ</p> <p>第9回 // : 学生による発表</p> <p>第10回 // : //</p> <p>第11回 // : //</p> <p>第12回 // : //</p> <p>第13回 // : //</p> <p>第14回 // : //</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	発表担当の際には(追加の補充調査を含めて)8時間程度を充てるものとする。							
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績(40%)+それ以外の授業中の発言(20%)+試験の成績(40%)							

授業科目	日本語学演習Ⅳ, Ⅵ		担当者	楊 虹				
	[履修年次]	演習Ⅳは1年, 演習Ⅵは2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>語用論や社会言語学に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>毎回、担当者がテキストの内容をまとめて、発表し、他の受講生は、テキストをあらかじめ熟読し、疑問点や問題点について質問し、担当者を中心にディスカッションを行う、といった形式で授業を進める。1年生は卒業研究に向けて研究テーマを決める、2年生は社会人になるためのさらなる批判的思考力を鍛える場として授業に取り組むよう求める</p> <p>【到達目標】</p> <p>演習を行いながら、語用論、社会言語学に対する理解を深める。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 授業の概要を説明し、各回の担当者を決める。</p> <p>第2回 語用論、社会言語学の分野の研究について</p> <p>第3回 配慮を考えるときの視点① (2年生担当)</p> <p>第4回 配慮を考えるときの視点② (2年生担当)</p> <p>第5回 配慮を考えるときの視点③ (2年生担当)</p> <p>第6回 日本語の配慮の多面性① (1年生担当)</p> <p>第7回 日本語の配慮の多面性② (1年生担当)</p> <p>第8回 卒論中間報告 (2年生)</p> <p>第9回 役割語① (2年生担当)</p> <p>第10回 役割語② (2年生担当)</p> <p>第11回 談話分析 (1年生)</p> <p>第12回 会話分析 (1年生)</p> <p>第13回 卒論計画発表 (1年生)</p> <p>第14回 卒論発表練習 (2年生)</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。							
成績評価の方法	授業への参加度:50%, 発表資料および発表のパフォーマンス評価:50%							

授業科目	日本語学演習 V	担当者	楊 虹
	[履修年次] 2年	授業外対応	適宜対応 (要事前連絡)
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 語用論, 社会言語学の分野に関する研究の方法及び学術的文章の作成を学ぶ。</p> <p>【概要】 毎回, 担当者がテキストの内容をまとめて, 発表し, 他の受講生は, テキストをあらかじめ熟読し, 疑問点や問題点について質問し, 担当者を中心にディスカッションを行う, といった形式で授業を進める。卒業研究に向けて研究テーマを決め, 論文執筆の基礎を学ぶ場として授業に取り組むよう求める。</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら, 語用論, 社会言語学に対する理解を深める, 簡単な学術的レポートが作成できる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 授業の概要を説明し, 各回の担当者を定める。</p> <p>第 2 回 担当者による発表: 担当者が語用論, 社会言語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。</p> <p>第 3 回 担当者による発表: 担当者が語用論, 社会言語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。</p> <p>第 4 回 担当者による発表: 担当者が語用論, 社会言語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。</p> <p>第 5 回 レポート作成指導①</p> <p>第 6 回 担当者による発表: 担当者が語用論, 社会言語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。</p> <p>第 7 回 レポート作成指導②</p> <p>第 8 回 担当者による発表: 担当者が語用論, 社会言語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。</p> <p>第 9 回 担当者による発表: 担当者が語用論, 社会言語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。</p> <p>第 10 回 レポート作成指導③</p> <p>第 11 回 担当者による発表: 担当者が語用論, 社会言語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。</p> <p>第 12 回 レポート作成指導④</p> <p>第 13 回 担当者による発表: 担当者が語用論, 社会言語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。</p> <p>第 14 回 レポートに基づく口頭発表</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので, 授業外学習が必要である。		
成績評価の方法	レポート:50%, 発表資料および発表のパフォーマンス評価:50%		

授業科目	日本語表現法	担当者	望月 正道
	[履修年次] 1年	授業外対応	随時 (要メール予約)
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ことば (音声言語および文章表現) によって, 事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を学ぶ。</p> <p>【概要】発表, 面接, 論文, エッセイなどの課題にグループで取り組みながら, ことば (音声言語および文章表現) によって, 事実を正確に示し, 意見を的確に伝える方法を考察する。表現の自由と人権の問題についても取り上げる予定である。この授業は講義方式であるが, 実際には後期の日本語表現法演習と一体として進めていくので, 一部演習も織り込んでいく。その意味で, 日本語表現法演習も併せて受講することが望ましい。</p> <p>【到達目標】簡単な口頭発表が適切にできる。また, 原稿用紙を適切に使って簡単なレポートが書ける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 国語辞典, 教科書体・筆順付きの国語表記ハンドブック (電子辞書でも当該機能を有すれば可)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 導入: 「かごしま教養プログラム」「かごしまフィールドスクール」紹介, 自己紹介</p> <p>第 2 回 地図: 班分け, グループごとに動画を確認して意見交換, 地図を口頭で説明し, 略地図を書く</p> <p>第 3 回 漢字: 地図の答え合せ, 難読語をどう調べるか, 送り仮名, 印刷標準字体・手書き文字の字形, 漢字の課題</p> <p>第 4 回 ネット利用: 課題の解答確認, ドメイン, 電子メール利用の注意点, ネットで調べる, 図書館資料を OPAC で</p> <p>第 5 回 調査方法: 論文を調べる, 新聞を調べる, 引用・書誌情報, 希望調査</p> <p>第 6 回 調査開始: 班分けの発表, リーダー選出, 図書館調査・ネット調査, 本時の到達点を報告</p> <p>第 7 回 調査実施: 引き続き課題についての調査を行う, 本時までの到達点を報告</p> <p>第 8 回 図表: 統計などの数字の扱い, 図表の読み方と説明の仕方</p> <p>第 9 回 中間報告: 口頭発表と質疑</p> <p>第 10 回 レポート: 文形・文体, 現代語表記と原稿のきまり, 文章の構成</p> <p>第 11 回 レポート: 第 1 回提出</p> <p>第 12 回 レポート: わかりやすく書くには</p> <p>第 13 回 レポート: 補充調査</p> <p>第 14 回 レポート: 第 2 回提出</p> <p>第 15 回 まとめ, 表現の自由と人権</p>		
授業外学習(予習・復習)	ネット調査, 図書館調査, ポスター作成など, 毎回授業のなかで指示する。		
成績評価の方法	筆記試験の成績(50%) + グループ討論や発表等の授業中の発言(30%) + 随時行う表記に関する小テストの成績(20%)		

(注) 教職必修

授業科目	日本語表現法演習		担当者	望月 正道
	[履修年次] 1年		授業外対応	随時 (要メール予約)
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ことば (音声言語および文章表現) によって、事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を学ぶ。</p> <p>【概要】日本語表現法の講義での学習を生かしながら、課題に対するレポートを作成し、口頭発表を行う。 この授業は演習方式であるが、実際には前期の日本語表現法と一体として進めていくので、一部講義も織り込んでいく。その意味で、日本語表現法と併せて受講することが望ましい。</p> <p>【到達目標】資料を調べて、口頭発表やレポート作成が適切にできる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 国語辞典, 教科書体・筆順付きの国語表記ハンドブック (電子辞書でも当該機能を有すれば可)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 参考文献: 参考文献を読む</p> <p>第 2回 参考文献: 参考文献を引用する</p> <p>第 3回 プレゼンテーション: 何を使うか</p> <p>第 4回 課題レポート1: 作成</p> <p>第 5回 課題レポート1: 発表</p> <p>第 6回 課題レポート1: 討論</p> <p>第 7回 課題レポート2: 作成</p> <p>第 8回 課題レポート2: 発表</p> <p>第 9回 課題レポート2: 討論</p> <p>第 10回 課題レポート3: 作成</p> <p>第 11回 課題レポート3: 発表</p> <p>第 12回 課題レポート3: 討論</p> <p>第 13回 試験レポート: 資料収集</p> <p>第 14回 試験レポート: テーマに関する討論</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	ネット調査, 図書館調査, レポート作成など, 毎回授業のなかで指示する。			
成績評価の方法	筆記試験の成績(50%)＋グループ討論や発表等の授業中の発言(30%)＋随時行う表記に関する小テストの成績(20%)			

授業科目	対照言語学		担当者	楊 虹
	[履修年次] 2年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 対照言語学の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語、中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して、それぞれの特徴を明らかにし、日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また、言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。</p> <p>【到達目標】 日本語と外国語 (英語, 中国語) の主な共通点と相違点を理解し、実際の言語データを使って分析することができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション: 対照言語学とはどんな学問か, 授業の概要説明</p> <p>第 2回 日英中の対照 (1): 主語の立て方</p> <p>第 3回 日英中の対照 (2): 主語の顕示と暗示</p> <p>第 4回 日英中の対照 (3): 実際の発話における文の形</p> <p>第 5回 日英中の対照 (4): 時に関する比較①</p> <p>第 6回 日英中の対照 (5): 時に関する比較②</p> <p>第 7回 日英中の対照 (6): 呼びかけ語の比較①</p> <p>第 8回 日英中の対照 (7): 呼びかけ語の比較②</p> <p>第 9回 日英中の対照 (8): 待遇表現に関する比較①</p> <p>第 10回 日英中の対照 (9): 待遇表現に関する比較②</p> <p>第 11回 日英中の対照 (10): 言語行動に関する比較①</p> <p>第 12回 日英中の対照 (11): 言語行動に関する比較②</p> <p>第 13回 発表準備</p> <p>第 14回 学生による発表</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。			
成績評価の方法	授業への参加度:30%, 課題:30%, 発表:40%			

(注) 教職必修

授業科目	日本文学講義 I	担当者	木戸裕子
	[履修年次] 2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】大江の匡衡と赤染衛門—平安貴族の生活と家族—</p> <p>【概要】平安時代中期、一条朝の儒者であった大江匡衡は、藤原道長の妻倫子に仕える女房赤染衛門と結婚する。平安時代の実在の中流貴族の夫婦の姿はほとんどわからない。この大江匡衡と赤染衛門の場合は双方が家集を遺しているほか、匡衡の漢詩文集、当時の説話や記録類により、夫婦関係、家族関係がわかる珍しい例である。この二人を通して平安時代の家族観、結婚観について考察したい。</p> <p>【到達目標】平安時代の家族制度について知識と理解を身につける。和歌の解釈について学ぶ。平安時代の日本漢詩文について興味を持つ。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 後藤昭雄 『大江匡衡』 吉川弘文館 植村悦子『王朝の秀歌人 赤染衛門』 新典社 工藤重矩『源氏物語の結婚』 中公新書 服藤早苗『平安朝 女の生き方』 小学館</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：説話に見る匡衡と赤染衛門</p> <p>第 2 回 平安時代の結婚観：『源氏物語』から</p> <p>第 3 回 匡衡と赤染衛門その 1：二人の家集について</p> <p>第 4 回 匡衡の独身時代：学者の苦勞と述懐古調詩一百韻</p> <p>第 5 回 赤染衛門の独身時代：『赤染衛門集』</p> <p>第 6 回 それぞれの恋愛：大江為基と赤染衛門</p> <p>第 7 回 二人の出会い：贈答歌の読み方</p> <p>第 8 回 結婚と仕事その 1：『匡衡集』と『本朝文粹』、『小右記』</p> <p>第 9 回 結婚と仕事その 2：『赤染衛門集』</p> <p>第 10 回 匡衡の尾張赴任と赤染衛門：『赤染衛門集』『本朝文粹』</p> <p>第 11 回 子どもたちその 1：親の期待と援助</p> <p>第 12 回 子どもたちその 2：家の継承</p> <p>第 13 回 匡衡の晩年と死：『小右記』『赤染衛門集』</p> <p>第 14 回 赤染衛門の和歌。女性と漢文学</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業中に指示する		
成績評価の方法	授業の感想ミニレポート(毎回) 20% レポート 80%		

授業科目	日本文学講義 I	担当者	木戸裕子
	[履修年次] 1,2年どちらでも履修可	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	[学期] 後期 [単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】『萬葉集』巻十六の講読を通して上代文学に親しむ</p> <p>【概要】『萬葉集』の中でも、巻十六は他とは違って、「由縁ある雑歌」としてさまざまな歌が収められている。この中には平安時代の『竹取物語』との関連が推察される「竹取の翁の歌」や、いろいろな場面で読まれた戯笑歌、各地の民謡など、ほかの時代の和歌には見られないユニークな作品が多く含まれている。</p> <p>これらを受講生の輪読の形式で読み進め、上代人が歌に託した思いを読み取りたい。</p> <p>【到達目標】万葉仮名についての基礎的な知識を身につける。『萬葉集』について学び、上代和歌と平安以降の和歌の違いを知る。自分の担当箇所を資料を作り他の受講者の前で発表する力を身につける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 伊藤博『萬葉集積注(八)』集英社文庫</p> <p>(2) 渡部泰明編『和歌のルール』笠間書院</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：『萬葉集』について(編者、諸本、万葉仮名など)</p> <p>第 2 回 巻十六について：教員による模範演習</p> <p>第 3 回 『萬葉集』巻十六輪読その 1：竹取の翁と乙女達の歌。竹取物語との比較</p> <p>第 4 回 『萬葉集』巻十六輪読その 2：さまざまな歌語り 1</p> <p>第 5 回 『萬葉集』巻十六輪読その 3：さまざまな歌語り 2</p> <p>第 6 回 『萬葉集』巻十六輪読その 4：隠し題の歌 1</p> <p>第 7 回 『萬葉集』巻十六輪読その 5：隠し題の歌 2</p> <p>第 8 回 『萬葉集』巻十六輪読その 6：戯笑歌</p> <p>第 9 回 『萬葉集』巻十六輪読その 7：民謡風の歌</p> <p>第 10 回 『萬葉集』巻十六輪読その 8：筑紫の国の白水郎の歌 1</p> <p>第 11 回 『萬葉集』巻十六輪読その 9：筑紫の国の白水郎の歌 2</p> <p>第 12 回 『萬葉集』巻十六輪読その 10：各地の民謡 1</p> <p>第 13 回 『萬葉集』巻十六輪読その 11：各地の民謡 2</p> <p>第 14 回 『萬葉集』巻十六輪読その 12：その他の歌</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	輪読担当の準備。『萬葉集』について全体の内容を把握しておく。その他は授業中に指示する。		
成績評価の方法	輪読担当 50% レポート 50%		

授業科目	日本文学講読Ⅱ		担当者	木戸裕子
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】『伊勢物語』の講読を通して、平安時代の歌物語に親しむとともに、変体仮名（くずし字）の読み方の基礎を身につける。</p> <p>【概要】高校の古文の授業でもおなじみの『伊勢物語』だが、「昔男」と俗称される主人公は、平安の昔から、ある時は雅な貴公子として、ある時は菩薩の生まれ変わりとして、またある時は好色の神様として多くの人々に愛されてきた。本講読では江戸時代初期の木活字本『嵯峨本伊勢物語』の影印本（写真版）を用いて、昔男の恋と友情の物語を読んでいく。</p> <p>【到達目標】『伊勢物語』についての知識を身につける。『伊勢物語』が後世に残した影響について知る。</p> <p>基本的な変体仮名が読めるようにする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 片桐洋一編『伊勢物語 慶長十三年刊 嵯峨本第一種』和泉書院 『字典かな』笠間書院</p> <p>(2) 角川ビギナーズクラシック『伊勢物語』角川ソフィア文庫、渡部泰明編『和歌のルール』笠間書院</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに：『伊勢物語』について（書名、主人公など）</p> <p>第2回 初段1：昔男の登場 変体仮名の読み方1</p> <p>第3回 初段2：和歌と語りの関係 変体仮名の読み方2</p> <p>第4回 三段：二条後の物語その1 変体仮名の読み方3</p> <p>第5回 四段：二条後の物語その2 変体仮名の読み方4</p> <p>第6回 五段：二条後の物語その3 変体仮名の読み方小テスト</p> <p>第7回 六段1：二条後の物語その4</p> <p>第8回 六段2：二条後の物語その5</p> <p>第9回 七・八段：東下りその1 浅間の山</p> <p>第10回 九段1：東下りその2 八橋・宇津の山</p> <p>第11回 九段2：東下りその3 富士の山・隅田川</p> <p>第12回 六九段1：伊勢の斎宮その1 歴史との関わり 変体仮名の読み方小テスト</p> <p>第13回 六九段2：伊勢の斎宮その2 漢文学との関わり</p> <p>第14回 一六段：男の友情</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	各段のくずし字を読めるように復習する。			
成績評価の方法	小テスト20% 筆記試験80%			

授業科目	日本文学講読Ⅲ		担当者	木戸裕子
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本文学講読Ⅱに引き続き、中古文学の代表的作品である『源氏物語』を、近世初期の注釈本『首書 源氏物語』の影印本を使って読み、平安期の物語の理解を深めると共に、その後の享受のあり方について考える。</p> <p>【概要】講読Ⅲでは毎年『源氏物語』の一卷を受講生の輪読方式で読み進めていく。本年度は昨年度に引き続き「乙女」を読む。「乙女」は、光源氏の息子夕霧の大学寮入学と、いとこの雲居の雁との幼なじみの恋を描く巻である。壮年期を迎えた光源氏の親としての姿、かつての親友である頭中将との確執など複雑な物語を、受講生による輪読形式で読み進める。</p> <p>【到達目標】『源氏物語』について基礎的な知識を身につける。中世の主な『源氏物語』注釈について、作者と注釈の特徴を知る。『源氏物語』の構成、登場人物について考える。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 余田充編『首書 源氏物語 乙女』和泉書院</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに：『源氏物語』とは</p> <p>第2回 『源氏物語』の享受：テキスト『首書源氏物語』について</p> <p>第3回 「乙女」巻を読むために：あらすじと登場人物の紹介。前年度輪読部分の説明</p> <p>第4回 「乙女」輪読：その1（夕霧と雲居の雁の恋から）</p> <p>第5回 「乙女」輪読：その2</p> <p>第6回 「乙女」輪読：その3</p> <p>第7回 「乙女」輪読：その4</p> <p>第8回 人物論：父親としての光源氏</p> <p>第9回 「乙女」輪読：その5</p> <p>第10回 「乙女」輪読：その6</p> <p>第11回 「乙女」輪読：その7</p> <p>第12回 「乙女」輪読：その8</p> <p>第13回 「乙女」輪読：その9</p> <p>第14回 「乙女」輪読：その10</p> <p>第15回 まとめ：『源氏物語』と継子いじめ譚</p>			
授業外学習(予習・復習)	輪読担当の準備。『源氏物語』について全体的内容を把握しておく。その他は授業中に指示する。			
成績評価の方法	輪読担当50% 筆記試験50%			

授業科目	日本文学演習Ⅰ,Ⅲ		担当者	木戸裕子
	[履修年次] 1, 2年		授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安時代の私家集のなかでも歌物語的な性格が強いものを輪読し、歌集と物語文学との関わりを考える。あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。</p> <p>【概要】本演習は、新たに1年生が加わり、1年生の日本文学演習Ⅰと2年生の日本文学演習Ⅲを合同で行なうことにより、2年生には1年生に説明することで、いっそう作品に対する理解が深まることを期待する。また、1年生には、2年生の発表を聴くことを通して、調査、発表の仕方を学んでほしい。取り扱う作品は前期日本文学演習Ⅱの進展具合によって決定する。</p> <p>【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。話し合いを通じて作品理解を深める。平安時代前半の文学状況を理解する</p>			
(1)テキスト	(1) プリント、『字典かな』			
(2)参考文献	(2) 片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増訂版』笠間書院			
授業スケジュール	第1回 2年生によるオリエンテーション：平安和歌について 第2回 担当教員による模範演習：演習の進め方について。辞書索引の引き方、資料の探し方 第3回 私家集を読む：1 第4回 私家集を読む：2 第5回 私家集を読む：3 第6回 私家集を読む：4 第7回 私家集を読む：5 第8回 私家集を読む：6 第9回 私家集を読む：7 第10回 私家集を読む：8 第11回 私家集を読む：9 第12回 私家集を読む：10 第13回 私家集を読む：11 第14回 私家集を読む：12 第15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	演習担当の準備			
成績評価の方法	日本文学演習Ⅰ 担当時外発言 20% レポート80% 日本文学演習Ⅲ 担当時外発言 20% 担当発表80%			

授業科目	日本文学演習Ⅱ		担当者	木戸裕子
	[履修年次] 2年		授業外対応	オフィスアワーに準じる
	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安時代の私家集のなかでも歌物語的な性格が強いものを輪読し、歌集と物語文学との関わりを考える。あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。</p> <p>【概要】昨年度に引き続き、『小野篁(おののたかむらしゅう)』を読む。『小野篁集』は、平安前期の文人、政治家であった小野篁が異母妹に恋をして悲劇的な結末を迎えるまでの歌のやりとりを記録しているが、『篁物語』とも呼ばれ篁本人の作ではなく、平安後期に成立した後人の仮託による作品だろうとされている。本演習では、担当者が歌の配列などを参考にしながら、和歌及び詞書の解釈を行ない、全体の構成を読み解いていく。</p> <p>【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。私家集と歌物語の相違点について考える。</p>			
(1)テキスト	(1) プリント、『字典かな』			
(2)参考文献	(2) 片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増訂版』笠間書院			
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：演習の進め方について(辞書、索引の引き方、資料の探し方) 第2回 小野篁集について：前年度の内容の確認 第3回 小野篁集を読む：1 第4回 小野篁集を読む：2 第5回 小野篁集を読む：3 第6回 小野篁集を読む：4 第7回 小野篁集を読む：5 第8回 小野篁集を読む：6 第9回 小野篁集を読む：7 第10回 小野篁集を読む：8 第11回 小野篁集を読む：9 第12回 小野篁集を読む：10 第13回 小野篁集を読む：11 第14回 小野篁集を読む：12 第15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	演習担当の準備			
成績評価の方法	担当発表80%、担当時以外の発言(質問、意見など)20%			

授業科目	日本文学史・近代Ⅰ		担当者	竹本 寛秋	
	[履修年次]	1, 2年共通	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>日本近代文学史の基礎的な知識を修得するために、代表的な文学作品の本文に触れながら、明治期の歴史の変遷を理解する。</p> <p>【概要】</p> <p>「日本文学史・近代Ⅰ」では、主に明治期の文学を扱う。「文学史」は、単なる文学作品の年代記ではなく、「文学」の範囲とは何か、「文学史」に入れるべき作品とは何かなど、さまざまな問題を含んでいる。講義では、文学作品と文学史について学生自身が考えることを重視し、実際の文学作品に触れながら、日本近代文学史を概観し、各作品の史的意義を多角的な視点から考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>日本の近代文学史・文学作品に関して基礎的な知識を持ち、自己の問題意識に従い考えを述べるができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 久保田 淳 監修『日本文学史』おうふう (平成28年度日本文学史・古典Ⅰ、Ⅱと同じ)</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：「日本近代文学史」とは何か</p> <p>第2回 概論：「近代」とは何か ―夏目漱石、森鷗外、北村透谷―</p> <p>第3回 概論：「小説」概念の成立 ―坪内逍遙―</p> <p>第4回 明治の文学1：近世と近代文学 ―戯作、漢文体、翻訳小説、政治小説―</p> <p>第5回 明治の文学2：「国語」と近代文学 ―速記、表記の改革、文体の改革―</p> <p>第6回 明治の文学3：詩歌の改良 ―新体詩の出現―</p> <p>第7回 明治の文学4：言文一致小説 ―二葉亭四迷―</p> <p>第8回 明治の文学5：写実主義と写生(1) ―尾崎紅葉、硯友社の文学―</p> <p>第9回 明治の文学6：写実主義と写生(2) ―正岡子規―</p> <p>第10回 明治の文学7：浪漫主義の小説と詩歌 ―森鷗外、島崎藤村―</p> <p>第11回 明治の文学8：自然主義の小説(1) ―島崎藤村―</p> <p>第12回 明治の文学9：自然主義の小説(2) ―田山花袋―</p> <p>第13回 明治の文学10：反自然主義の小説 ―夏目漱石―</p> <p>第14回 明治の文学11：口語自由詩 ―川路柳虹、相馬御風―</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業中に指示する。				
成績評価の方法	授業ごとに実施するコメントカード・提出物の内容 (30%)、筆記試験 (70%)				

(注) 教職必修

授業科目	日本文学史・近代Ⅱ		担当者	竹本 寛秋	
	[履修年次]	1, 2年共通	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>日本近代文学史の基礎的な知識を修得するために、代表的な文学作品の本文に触れながら、大正から現代までの変遷を理解する。</p> <p>【概要】</p> <p>「日本文学史・近代Ⅱ」では、主に大正から現代までの文学を扱う。「文学史」は、単なる文学作品の年代記ではなく、「文学」の範囲とは何か、「文学史」に入れるべき作品とは何かなど、さまざまな問題を含んでいる。講義では、文学作品と文学史について学生自身が考えることを重視し、実際の文学作品に触れながら、日本近代文学史を概観し、各作品の史的意義を多角的な視点から考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>日本の近代文学史・文学作品に関して基礎的な知識を持ち、自己の問題意識に従い考えを述べるができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 久保田 淳 監修『日本文学史』おうふう (平成28年度日本文学史・古典Ⅰ、Ⅱと同じ)</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 概論：大正・昭和以降の「文学」の問題 ―メディアの変革と「文学」―</p> <p>第2回 大正の文学1：大正文壇と私小説 ―白樺派、新思潮派―</p> <p>第3回 大正の文学2：「純文学」と「大衆文学」の成立</p> <p>第4回 昭和の文学1：新感覚派・前衛詩</p> <p>第5回 昭和の文学2：主知主義文学</p> <p>第6回 昭和の文学3：プロレタリア文学</p> <p>第7回 昭和の文学4：文芸復興の時代 ―転向文学、日本浪漫派、四季派―</p> <p>第8回 昭和の文学5：戦争と文学</p> <p>第9回 昭和の文学6：昭和二十年代の文学 ―戦後文学の出發―</p> <p>第10回 昭和の文学7：昭和三十年代の文学 ―第三の新人の登場―</p> <p>第11回 昭和の文学8：昭和四十年代の文学 ―三島由紀夫の死―</p> <p>第12回 昭和の文学9：昭和五十年代以降の文学 ―村上龍、村上春樹―</p> <p>第13回 昭和の文学10：詩・短歌・俳句・演劇の動向 ―塚本邦雄、岡井隆、寺山修司―</p> <p>第14回 現代の文学：現代文学のゆくえ</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業中に指示する。				
成績評価の方法	業ごとに実施するコメントカード・提出物の内容 (30%)、筆記試験 (70%)				

(注) 教職必修

授業科目	日本文学講義Ⅱ		担当者	竹本 寛秋				
	[履修年次]	2	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 「猫」から読む日本近代文学</p> <p>【概要】 文学においては、作品を成立させるために不可欠な要素として様々な動物が登場する。本講義においては日本近代文学の作品においてどのように動物のイメージが利用されているか考察する。特に「猫」の形象に着目し、日本近代の文学・文化のなかにおけるイメージとしての「猫」の意味を明らかにするとともに、多様な視点で文学を読む方法について理解する。</p> <p>【到達目標】 「文学」を多様な角度から分析する方法を理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：文学における「動物」のイメージの問題 第2回 夏目漱石『吾輩は猫である』(1) 第3回 夏目漱石『吾輩は猫である』(2) 第4回 寺田寅彦「猫」 第5回 内田百閒『ノラヤ』(1) 第6回 内田百閒『ノラヤ』(2) 第7回 詩における「猫」の表象 第8回 萩原朔太郎『青猫』 第9回 萩原朔太郎『猫町』 第10回 梶井基次郎「愛撫」 第11回 島木健作「黒猫」 第12回 童話における「猫」の表象 第13回 宮澤賢治「猫の事務所」 第14回 映画における「猫」の表象 第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	取り上げる作品の精読。							
成績評価の方法	授業ごとのコメントカード (40%)、レポート (60%)							

(注) 教職必修

授業科目	日本文学講義Ⅳ		担当者	丹羽 謙治				
	[履修年次]	1年, 2年	授業外対応	授業終了後に対応				
	[学期]	前期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】井原西鶴の文章を読む</p> <p>【概要】 【到達目標】 1) 江戸時代前期の風俗や言語表現について、その具体的なありようを把握する。 2) 西鶴の小説の構成方について理解する。 3) 江戸時代の文学が近代に与えた影響について理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。 (2) 日本古典文学全集 井原西鶴集 (小学館) その他は授業中に適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 導入 第2回 近世文学・文化の特徴 第3回 浮世草子の歴史 第4回 『好色一代男』について(1) 第5回 『好色一代男』について(2) 第6回 『好色一代男』について(3) 第7回 『好色一代女』について(1) 第8回 『好色一代女』について(2) 第9回 『好色一代女』について(3) 第10回 『日本永代蔵』について 第11回 『世間胸算用』について() 第12回 『武家義理物語』について() 第13回 『万の文反故』について() 第14回 『西鶴諸国物語』について() 第15回 西鶴と近代文学</p>							
授業外学習(予習・復習)	配布プリントの熟読を授業の前後に行うこと。							
成績評価の方法	期末試験 (70%) と小レポート (30%)							

授業科目	日本文学講読Ⅴ		担当者	丹羽 謙治
	[履修年次] 1, 2年		授業外対応	授業終了後に対応
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】江戸の文章を味読する</p> <p>【概要】近世中期の薩摩藩士、得能通昭の紀行文「丁亥吾妻紀行」(明和四年・1767年)、「庚寅紀行」(明和七年・1771年)一を、注をつけながら読解する。得能通昭は薩摩藩の郡奉行を務めた人物だが、筆まめで、膨大な書き留め『通昭録』を後世に残した。この授業では、彼が書き留めた先人たちの文章が通昭自身のものとした作品を読み進める。</p> <p>【到達目標】1) 江戸時代の風俗やものの見方。考え方を正しく把握する。 2) 江戸時代の文章の表現について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する</p> <p>(2) 板坂耀子『江戸の紀行文』(中公新書)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 得能通昭とその家系について(1)</p> <p>第2回 得能通昭とその家系について(2)</p> <p>第3回 薩摩藩の諸制度について</p> <p>第4回 「丁亥吾妻紀行」の読解(1)</p> <p>第5回 「丁亥吾妻紀行」の読解(2)</p> <p>第6回 「丁亥吾妻紀行」の讀海(3)</p> <p>第7回 「庚寅紀行」(1)</p> <p>第8回 「庚寅紀行」(2)</p> <p>第9回 「庚寅紀行」(3)</p> <p>第10回 『通昭録』掲載の文章(1)</p> <p>第11回 『通昭録』掲載の文章(2)</p> <p>第12回 『通昭録』掲載の文章(3)</p> <p>第13回 『通昭録』掲載の文章(4)</p> <p>第14回 『通昭録』掲載の文章(5)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	配布されたテキストを授業の前と後に熟読する。			
成績評価の方法	期末試験(70%)と小レポート(30%)			

授業科目	日本文学講読Ⅵ		担当者	竹本 寛秋
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>梶井基次郎を読み、文学テクストを読む方法論を身につける</p> <p>【概要】</p> <p>梶井基次郎の代表的な作品を取り上げ、検討する。『檸檬』などは高校の教科書などで読んだことがある学生も多いと思うが、文学研究においては、テクストを多様な角度から検討して論点を引き出し、論理的に考察する必要がある。論点を取り出す方法、論理的な考察の方法、生産的な議論の方法を身につけるために、学生相互のディスカッションから梶井基次郎のテクストを検討する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>文学テクストを多様な視点から読むことができる。自分の考えをまとめて発表でき、ディスカッションができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 梶井基次郎著『檸檬』新潮文庫</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：梶井基次郎について</p> <p>第2回 文学テクストを読む様々な方法について</p> <p>第3回 『檸檬』(1)</p> <p>第4回 『檸檬』(2)</p> <p>第5回 『檸檬』(3)</p> <p>第6回 『檸檬』(4)</p> <p>第7回 『檸檬』(5)</p> <p>第8回 『檸檬』(6)</p> <p>第9回 『Kの昇天』(1)</p> <p>第10回 『Kの昇天』(2)</p> <p>第11回 『Kの昇天』(3)</p> <p>第12回 『桜の樹の下には』(1)</p> <p>第13回 『桜の樹の下には』(2)</p> <p>第14回 『桜の樹の下には』(3)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	対象テキストの精読と検討。			
成績評価の方法	ディスカッションでの発言・参加(30%)、毎回のミニレポート(30%)、レポート(40%)			

授業科目	日本文学講読Ⅶ		担当者	竹本 寛秋				
	[履修年次]	1	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 堀辰雄を読み、研究的な観点から文学テクストを読む実践を行う</p> <p>【概要】 辰雄の作品『美しい村』『風立ちぬ』を講読する。授業では作品を様々な角度から読み解くために、担当を決め、物語の構造、文章技巧、時代背景、土地の形象、病気のイメージ、海外文学との関係などについて調査をし、発表を行う。</p> <p>【到達目標】 文学研究に必要となる、テクスト読解の方法を実践できる。 テクストを基にした妥当な読みを提示でき、問題意識を持って、報告にまとめることができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 堀辰雄『風立ちぬ・美しい村』新潮文庫 (2) 適宜、授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：授業の進め方、堀辰雄について 第 2 回 文学研究とは、注釈/解釈の方法、物質としてのテクスト 第 3 回 軽井沢という場所 第 4 回 堀辰雄テクストにおける「小説を書く主人公」 第 5 回 「小説」をどう読むか/堀辰雄と「小説」への態度 第 6 回 「美しい村」における心理描写の手法(1) 記憶と時間 第 7 回 「美しい村」における心理描写の手法(2) 第 8 回 場所と風景「風立ちぬ」を読むためのディスカッション 第 9 回 前半のまとめ 第 10 回 「風立ちぬ」(1) 第 11 回 「風立ちぬ」(2) 第 12 回 「風立ちぬ」(3) 第 13 回 「風立ちぬ」(4) 第 14 回 「風立ちぬ」(5) 第 15 回 全体のまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	対象テキストの精読と検討、資料の作成。							
成績評価の方法	発表(30%)、毎回のミニレポート (30%)、レポート (40%)							

授業科目	日本文学演習Ⅳ, Ⅵ		担当者	竹本 寛秋				
	[履修年次]	1, 2	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 近現代文学の代表的な作品を取り上げ、研究的視点からテクストを検討する。</p> <p>【概要】 明治から現代までの近現代文学作品を取り上げ、研究的視点から検討する。1年生はテキストの中から対象を選び発表する。2年生は関心のある作家について発表する。</p> <p>【到達目標】 文学研究の方法論を身につけ、根拠を示して発表することができる。様々な資料を使い、テクストを複数の角度から検討できる。自分の考えをまとめ、ディスカッションすることができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 文学史研究会編『近代の短編』笠間書院 (2) 適宜、授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：授業の進め方、担当者の決定 第 2 回 文学研究の方法：研究の多様な方法論について 第 3 回 資料の扱い方：資料の収集方法、資料の検討方法について 第 4 回 口頭発表 (1) 第 5 回 口頭発表 (2) 第 6 回 口頭発表 (3) 第 7 回 口頭発表 (4) 第 8 回 口頭発表 (5) 第 9 回 前半のまとめ 第 10 回 口頭発表 (6) 第 11 回 口頭発表 (7) 第 12 回 口頭発表 (8) 第 13 回 口頭発表 (9) 第 14 回 口頭発表 (10) 第 15 回 全体のまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	論文収集、資料作成、発表準備など。							
成績評価の方法	口頭発表等 (70%)、討議での発言・参加 (30%)							

(注) 1年生は演習Ⅳ、2年生は演習Ⅵ

授業科目	日本文学演習 V		担当者	竹本 寛秋				
	[履修年次]	2	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本近代における文学作品を対象として、論文作成の方法を身につける</p> <p>【概要】 明治以降の日本近代文学作品について、論文として構成できる能力を身につける。対象とする作品を自主的に選択し、論点を発見して論理的な考察を行い、他者と共有できるよう言語化して発表する。自分が研究する手法に自覚的になるために、さまざまな文学理論について解説を行う。</p> <p>【到達目標】 日本近代文学の作品について、選択したテキストから論点を発見し、論として発展させることができる。様々な文学理論を理解し、自己の発表に生かすことができる。発表をもとに、ディスカッションすることができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：授業の進め方、研究論文を作成する意義</p> <p>第 2 回 対象となる作品の決定、文学理論について</p> <p>第 3 回 発表資料の作成、発表の方法、ディスカッションの方法について</p> <p>第 4 回 口頭発表 (1)</p> <p>第 5 回 口頭発表 (2)</p> <p>第 6 回 口頭発表 (3)</p> <p>第 7 回 口頭発表 (4)</p> <p>第 8 回 口頭発表 (5)</p> <p>第 9 回 前半のまとめ</p> <p>第 10 回 口頭発表 (6)</p> <p>第 11 回 口頭発表 (7)</p> <p>第 12 回 口頭発表 (8)</p> <p>第 13 回 口頭発表 (9)</p> <p>第 14 回 論文作成の方法について</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	論文収集, 資料作成, 発表準備など。							
成績評価の方法	口頭発表, ディスカッションでの発言 (40%), レポート (60%)							

授業科目	南九州の文学	担当者	三嶽公子
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	講義終了後、あるいは時間を合わせていつでも対応します。
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】南九州の豊かさを、文学作品を通して知る。 南九州を舞台とした文学作品を読みながら、離島を含む南九州の風土の豊かさと、その土地で生きることへの希望を汲み取る。南九州における自然と人間のかかわりや、そこから湧き出る物語について学習する。</p> <p>【概要】 南九州の文学作品ベスト10を読む 南九州を舞台とした文学作品をできるだけ広範囲に、各地域ごとに読む。作品そのものに触れ、そこから立ち上がる風景や人々の生き方について味わい、考える。同時に、21世紀を生きる、これからの生き方へのヒントを探る。</p> <p>【到達目標】「わたしの好きな鹿児島1冊」ができるように。 南九州ゆかりの文学作品に触れることで、自分の感受性を磨き、心に残る物語や言葉を自分の宝物にする。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 「屋久島文学散歩」(K&Yカンパニー 2005年) 授業ごとに作成したプリントを配布。 テキストは、授業時間内に販売するので、とくに購入する必要はない。</p> <p>(2) 「みたけきみこと読む かのしまの文学」(K&Yカンパニー 2007年)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 鹿児島文学マップで仮想文学散歩 第2回 桜島句碑めぐり 第3回 森瑤子「アイランド」と与論島 第4回 一色次郎「青幻記」と千刈あがた「島唄」の沖永良部 第5回 林芙美子「浮雲」と屋久島 第6回 椋鳩十「片耳の大鹿」と屋久島 第7回 山尾三省「アニミズムという希望」と屋久島 第8回 島尾敏雄「出発は遂に訪れず」「はまべのうた」と奄美・加計呂麻島 第9回 梅崎春生「桜島」と「幻化」の坊津 第10回 海音寺潮五郎「西郷と大久保」と大口、鹿児島市 第11回 向田邦子「鹿児島感傷旅行」と城山・磯・天保山 第12回 中村きい子「女と刀」と横川 第13回 「平家物語」と俊寛(硫黄島、喜界島) 第14回 やしまたろうの絵本「村の樹」「道草いっぱい」「からすたろう」の根占三部作 第15回 まとめとレポート作成補助</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業中は、作品の一部だけを読むので、予習・復習として、作品全体を読む習慣をつけてほしい。		
成績評価の方法	授業ごとのレポート(50%) + 学期末提出のレポート(50%)		

授業科目	中国文学史 I	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	メールで事前連絡すること
		[必修/選択]	必修 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学史</p> <p>【概要】中国文学を時代順に説明します。当時の文学者の置かれた状況を再現し、そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。</p> <p>【到達目標】中国文学の存在意義、社会とのかかわりを理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方について</p> <p>第 2回 詩経 (1)</p> <p>第 3回 詩経 (2)</p> <p>第 4回 楚辞 (1)</p> <p>第 5回 楚辞 (2)</p> <p>第 6回 諸子 (1)</p> <p>第 7回 諸子 (2)</p> <p>第 8回 辞賦 (1)</p> <p>第 9回 辞賦 (2)</p> <p>第10回 五言詩・楽府 (1)</p> <p>第11回 五言詩・楽府 (2)</p> <p>第12回 志怪小説 (1)</p> <p>第13回 志怪小説 (2)</p> <p>第14回 志怪小説 (3)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	定期試験 100%		

授業科目	中国文学史 II	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	メールで事前連絡すること
		[必修/選択]	必修 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文化の活用</p> <p>【概要】日本のなかに中国文化がどのような形で根づいてきたかを説明します。伝統的な漢詩文のほか書画・仏教、そしてサブカルチャーまで見渡し、日本人の価値観の一部としての中国文化を再確認します。</p> <p>【到達目標】日本人が無意識に利用している中国文化を再認識する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方について</p> <p>第 2回 文字と文章 (1)</p> <p>第 3回 文字と文章 (2)</p> <p>第 4回 文学とかな (1)</p> <p>第 5回 文学とかな (2)</p> <p>第 6回 書 (1)</p> <p>第 7回 書 (2)</p> <p>第 8回 画 (1)</p> <p>第 9回 画 (2)</p> <p>第10回 仏教 (1)</p> <p>第11回 仏教 (2)</p> <p>第12回 文学 (1)</p> <p>第13回 文学 (2)</p> <p>第14回 文学 (3)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	定期試験 100%		

授業科目	中国文学講読Ⅰ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	メールで事前連絡すること
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】漢文の文法</p> <p>【概要】短い漢文を使って、漢文の基本的な構文を学習します。高校までは漢文を返り点や送り仮名に従って受動的に読んできました。この授業では初歩的な漢文(白文)を能動的に読む力を養うために、構文と句法に重点を置いてくり返し訓練します。</p> <p>【到達目標】教職で求められるレベルを目安にして、漢文の基本的な構文・句法を習得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2)		
授業スケジュール	第1回 授業の進め方について 第2回 基本文型(1) 第3回 基本文型(2) 第4回 基本文型(3) 第5回 基本文型(4) 第6回 基本文型(5) 第7回 基本文型(6) 第8回 副詞 第9回 基本文型の連続 第10回 フレーズ(1) 第11回 フレーズ(2) 第12回 フレーズ(3) 第13回 フレーズ(4) 第14回 フレーズ(5) 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	小テストを数回実施するので予習してください。		
成績評価の方法	小テスト 50%, 定期試験 50%		

(注) 教職必修

授業科目	中国文学講読Ⅱ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	メールで事前連絡すること
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】漢文学の基礎</p> <p>【概要】中国における文学と日本における漢文学の基礎的事項を概説します。これは漢文を読むとき、知っているのと役立つ知識です。このなかで漢文学作品をいくつか紹介し、構文・句法についての訓練も同時におこないます。</p> <p>【到達目標】教職で求められるレベルを目安にして、漢文に関連する基礎知識を習得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2)		
授業スケジュール	第1回 授業の進め方について 第2回 漢字(1) 第3回 漢字(2) 第4回 漢字(3) 第5回 漢字(4) 第6回 漢字(5) 第7回 漢文(1) 第8回 漢文(2) 第9回 漢文(3) 第10回 漢文学(1) 第11回 漢文学(2) 第12回 中国文学(1) 第13回 中国文学(2) 第14回 中国文学(3) 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	小テストを数回実施するので予習してください。		
成績評価の方法	小テスト 50%, 定期試験 50%		

(注) 教職必修

授業科目	中国文学演習 I	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	メールで事前連絡すること
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】白居易の作品を読む</p> <p>【概要】白居易の作品集のなかから、仮想判決文を読みます。これは社会のさまざまな事件に対し自分が裁判官になったつもりで判決を下したもので、そこから中国社会の特徴を読み取っていきます。</p> <p>【到達目標】中国前近代の社会現象を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方について</p> <p>第 2回 講読 (1)</p> <p>第 3回 講読 (2)</p> <p>第 4回 講読 (3)</p> <p>第 5回 講読 (4)</p> <p>第 6回 講読 (5)</p> <p>第 7回 講読 (6)</p> <p>第 8回 講読 (7)</p> <p>第 9回 講読 (8)</p> <p>第 10回 講読 (9)</p> <p>第 11回 講読 (10)</p> <p>第 12回 講読 (11)</p> <p>第 13回 講読 (12)</p> <p>第 14回 講読 (13)</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	作品をプリントにして事前に配布するので予習をしてきてください。		
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。		

授業科目	中国文学演習 II	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	メールで事前連絡すること
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学の研究のしかたと漢作文</p> <p>【概要】前半はみなさんが中国文学を研究するにあたり、素材選択から調査、分析、構想、発表までの一連のステップを訓練します。後半は鹿児島島の石碑を題材にして漢文を作り、作る側の視点で漢文を学びます。</p> <p>【到達目標】中国文学研究のための知識と漢作文の技術を習得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方について</p> <p>第 2回 文献調査の基礎 (1)</p> <p>第 3回 文献調査の基礎 (2)</p> <p>第 4回 論文の読み方 (1)</p> <p>第 5回 論文の読み方 (2)</p> <p>第 6回 論文の読み方 (3)</p> <p>第 7回 石碑調査 (1)</p> <p>第 8回 石碑調査 (2)</p> <p>第 9回 石碑調査 (3)</p> <p>第 10回 石碑調査 (4)</p> <p>第 11回 漢作文 (1)</p> <p>第 12回 漢作文 (2)</p> <p>第 13回 漢作文 (3)</p> <p>第 14回 漢作文 (4)</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	資料をプリントにして事前に配布するので予習をしてきてください。		
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。		

授業科目	中国文学演習Ⅲ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	メールで事前連絡すること
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学の論文を読む</p> <p>【概要】中国文学の論文を全員で読みます。発表担当者を決めて、卒業論文作成に向けて関心のある論文を用意してもらいます。質疑応答を通して中国文学全体への関心を高めつつ、発表の技術や論文の形式、構成、発想を身につけていきます。</p> <p>【到達目標】専門性を高め、論文の書き方を習得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方について</p> <p>第2回 論文輪読 (1)</p> <p>第3回 論文輪読 (2)</p> <p>第4回 論文輪読 (3)</p> <p>第5回 論文輪読 (4)</p> <p>第6回 論文輪読 (5)</p> <p>第7回 論文輪読 (6)</p> <p>第8回 論文輪読 (7)</p> <p>第9回 論文輪読 (8)</p> <p>第10回 論文輪読 (9)</p> <p>第11回 論文輪読 (10)</p> <p>第12回 論文輪読 (11)</p> <p>第13回 論文輪読 (12)</p> <p>第14回 論文輪読 (13)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	論文をプリントにして事前に配布するので予習をしてきてください。		
成績評価の方法	予習と質疑応答 100%。定期試験は実施しません。		

授業科目	卒業研究Ⅰ,Ⅱ	担当者	専攻教員全員
	[履修年次] 2年 [単位] 各1単位	[学期] 前期,後期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】卒業論文の作成</p> <p>【概要】卒業論文は2年間の学習の集大成となる授業です。日本語日本文学専攻の学生は、日本語学演習・日本文学演習・中国文学演習のいずれかを選択したあと、それぞれの分野で自主的に課題を設けて研究し、成果を卒業論文として提出します。</p> <p>1年次にどの分野で卒業論文を書くかをまず選択し、2年次後期に卒業論文作成に向けた準備を整えて中間報告にまとめ、冬期には、卒業論文を完成させたうえで専攻全体の卒業研究発表会に備えます。</p> <p>教員は演習と連動させながら卒業研究課題の絞り込みを助け、みなさんの研究の進捗状況に応じて適宜指導します。</p> <p>【到達目標】卒業論文の完成とその口頭発表</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に紹介します。</p> <p>(2) 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 I オリエンテーション：卒業論文の進め方 II 論文作成：その1</p> <p>第2回 論文作成：その1 論文作成：その2</p> <p>第3回 論文作成：その2 論文作成：その3</p> <p>第4回 論文作成：その3 論文作成：その4</p> <p>第5回 論文作成：その4 論文作成：その5</p> <p>第6回 論文作成：その5 論文作成：その6</p> <p>第7回 論文作成：その6 論文作成：その7</p> <p>第8回 論文作成：その7 論文作成：その8</p> <p>第9回 論文作成：その8 論文作成：その9</p> <p>第10回 論文作成：その9 論文作成：その10</p> <p>第11回 論文作成：その10 論文作成：その11</p> <p>第12回 論文作成：その11 論文作成：その12</p> <p>第13回 論文作成：その12 論文作成：その13</p> <p>第14回 論文作成：その13 論文作成：その14</p> <p>第15回 まとめ まとめ</p>		
成績評価の方法	<p>I：中間報告 100%</p> <p>II：卒業論文 75%、口頭発表 25%</p>		

授業科目	比較文化		担当者	小林朋子
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
				[授業形態]
				講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】お伽話で学ぶ比較文化</p> <p>【概要】お伽話の深層はすなわち文化の深層である。「赤ずきん」、「白雪姫」など、おなじみのお伽話には、ジェンダー、セクシュアリティ、政治、コロナリズムなど、ありとあらゆる「文化」の問題が凝縮されている。これらの問題は多様な文化が接触する現代社会を生きる我々の今日的な問題でもある。本講義はまず時代ごとに変遷する「赤ずきん」のテキストを比較対照することで、文化の諸問題を明るみに出す。さらにそれらのテキストを身近な日本文化に引き合わせることで、人類の文化に内在する普遍性について解説する。第14回目からは履修者の最終レポートの要旨を授業内で発表しディスカッションを行う。</p> <p>【到達目標】比較文化の方法を学ぶ。英語読解力を向上させる。他言語を話す人々の価値観を知る。情報的的確に調査する能力、またそれを発信する自己表現能力を向上させる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 原英一編著『お伽話による比較文化論』(松柏社刊, 1994年)</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 「赤ずきん」(1) —ペローの「赤ずきん」</p> <p>第3回 「赤ずきん」(2) —赤いずきんが覆うものは何か</p> <p>第4回 「赤ずきん」(3) —ティークの「赤ずきんちゃんの生と死」</p> <p>第5回 「赤ずきん」(4) —ウーマン・リブと日本のフェミニズム(下田歌子『良妻と賢母』を中心に)</p> <p>第6回 「赤ずきん」(5) —グリム兄弟の「赤ぼうしちゃん」</p> <p>第7回 「赤ずきん」(6) —「金ずきん」と「緑ずきん」</p> <p>第8回 「赤ずきん」(7) —パロディ化の可能性(『日本沈没』を中心に)</p> <p>第9回 「赤ずきん」(8) —民衆の根源的なエネルギー(落語「たがや」を中心に)</p> <p>第10回 「赤ずきん」(9) —「おばあちゃんのお話」フォークロア研究と糞尿譚</p> <p>第11回 「白雪姫」—ジェンダーの寓話(精神分析学と分析心理学)</p> <p>第12回 英語文化の基底としてのマザーグース—翻訳の可能性(1)</p> <p>第13回 英語文化の基底としてのマザーグース—翻訳の可能性(2)</p> <p>第14回 レポート発表会</p> <p>第15回 レポート発表会とまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	授業への参加態度(40%)、小レポート(20%)、最終レポート(40%)			

(注) 日本語日本文学専攻は選択

授業科目	英文学史		担当者	轟 義昭
	[履修年次]	2年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	必修(注)
				[授業形態]
				講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】18世紀～20世紀における「小説」の流れを概観する。</p> <p>【概要】まず、文学史という科目に潜んでいる問題点を考える。次に、18世紀～20世紀における主要な作家と作品を取り上げて、「小説」の流れを概観し、18世紀の特徴、19世紀の特徴、20世紀の特徴を理解させる。また、受講者にはイギリス文学に親しんでもらうために、指定した映像作品を鑑賞してもらい、「映画作品から親しむイギリス文学」というレポートを課す。</p> <p>【到達目標】18世紀の小説の特徴、19世紀の小説の特徴、20世紀の小説の特徴を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 川崎寿彦著『イギリス文学史』成美堂</p> <p>(2) サブテキストは講義中に指定する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション(講義方式の説明、文学史の科目に潜む問題点の探求)</p> <p>第2回 18世紀の小説(その1): 18世紀の小説とその周辺に関する諸問題</p> <p>第3回 18世紀の小説(その2): 18世紀の小説におけるH. フィールドイング、L. スターン、T. スモレットの役割</p> <p>第4回 18世紀の小説(その3): 18世紀後半のゴシック小説</p> <p>第5回 18世紀の小説(その4): J. オースティンの小説</p> <p>第6回 18世紀の小説に関する小テスト、19世紀の小説(その1): 19世紀(ヴィクトリア朝)小説の特徴</p> <p>第7回 19世紀の小説(その2): C. ディケンズの小説</p> <p>第8回 19世紀の小説(その3): W.M. サッカレーの小説、ブロンテ姉妹の小説</p> <p>第9回 19世紀の小説(その4): ダーウィニズムの影響、19世紀後半(ヴィクトリア朝後期)の小説</p> <p>第10回 19世紀の小説に関する小テスト、20世紀の小説(その1): 20世紀小説の特徴</p> <p>第11回 20世紀の小説(その2): V. ウルフの小説、H. ジェイムズの小説、E.M. フォスターの小説</p> <p>第12回 20世紀の小説(その3): D.H. ロレンスの小説</p> <p>第13回 20世紀の小説(その4): H.G. ウェルズの小説</p> <p>第14回 20世紀の小説に関する小テスト、映像課題に関する発表会</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習は授業で扱う作家と作品に関する事前調査3回(プリント)、復習は小テスト(3回)の準備			
成績評価の方法	筆記試験(60%)、講義中の小テスト/授業への取り組み(30%)、課題レポート分(10%)			

(注) 日本語日本文学専攻は選択

授業科目	米文学史	担当者	アダメック フィリップ
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義	授業外対応	適宜対応(要予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Introduction to the history of American literature.</p> <p>【概要】 The course will include lectures and group presentations. Students will write short essays, perform poetry, and make short presentations. Quizzes will test comprehension of reading and lecture content.</p> <p>【到達目標】 The course introduces students to the literary history of the United States.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (2) なし		
授業スケジュール	第 1 回 How should I read? 第 2 回 How should I write ? 第 3 回 Introduction to American literature. 第 4 回 The negro spritual as literary art form. 第 5 回 1700s : The negro spritual and its literary history. 第 6 回 1851 : Sojourner Truth and the oral tradition of American literary history 第 7 回 1851 : Sojourner Truth and the oral tradition of American literary history 小テスト(1) 第 8 回 1854 : Economy : the project of <u>Walden</u> and its meaning for Thoreau, I 第 9 回 1854 : Economy : the project of <u>Walden</u> and its meaning for Thoreau, II 第 10 回 1920 : Robert Frost and the poetry of indecision 第 11 回 1920 : Robert Frost and the poetry of indecision 第 12 回 1950s : James Baldwin and the question of race (the Harlem Renaissance) 第 13 回 1950s : James Baldwin and the question of race (the Harlem Renaissance) 第 14 回 1960s: Allen Ginsberg and the writers of the Beat Generation 小テスト(2) 第 15 回 Make-up work and general review		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (80%) Quizzes テスト (20%)		

(注) 教職必修

授業科目	読書と豊かな人間性	担当者	木戸裕子
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義	授業外対応	オフィスアワーに準じる
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 本と図書館に関する現状を学び、読書が子どもの成長にもたらすものについて考える。</p> <p>【概要】 子どもにとって読書とは、広い世界への興味や想像力をはぐくむために大切なものである。この授業では、本と図書館に関する話題や、読書活動の方法を通して、読書が私たちにもたらす豊かな世界を考えていく。授業では、実際に図書館や書店を訪問したり、読みきかせ、ブックトークなどの子どもの読書の手助けとなる方法を実際に体験したりする。</p> <p>【到達目標】 読書と心の豊かさの関連について考えることができる。児童生徒の読書活動に対する学校図書館の役割を理解する。様々な読書活動(読み聞かせ、ブックトーク、アニメーションなど)の方法を知る。自分の読書活動について振り返る。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 黒古一夫・山本順一編著『読書と豊かな人間性』(メディア専門職養成シリーズ)学分社 (2) 「読むチカラ」プロジェクト編『鍛えよう！読むチカラ学校図書館で育てる25の方法』明治書院、小林功「楽しい読み聞かせ 改訂版」全国学校図書館協議会、渡部康夫「読む力を育てる読書のアニメーション」全国学校図書館協議会、		
授業スケジュール	第 1 回 子どもと読書：現代社会と読書 第 2 回 読書推進行政の法制度：読書教育を支える仕組み 第 3 回 学校教育と読書1：学校図書館の役割 第 4 回 学校教育と読書2：教科教育と読書 第 5 回 児童生徒と読書資料1：子どもの本の種類 第 6 回 児童生徒と読書資料2：本の流通の仕組みと選書 第 7 回 読書活動1：学校での読書イベント クラブ活動や委員会 第 8 回 読書活動2：読書案内、ブックトーク 第 9 回 読書活動3：読み聞かせとストーリーテリング 第 10 回 読書活動4：アニメーション 第 11 回 読書の記録と交流：読書感想文・感想画、読書会など 第 12 回 子どもの読書環境：地域との連携、家庭読書 第 13 回 大人と読書：生涯学習・サークル活動 第 14 回 実演1：ブックトーク、読み聞かせ、読みあい、アニメーションなど 第 15 回 実演2：ブックトーク、読み聞かせ、読みあい、アニメーションなど		
授業外学習(予習・復習)	積極的に読書活動に取り組み、読書記録を取るようにする。		
成績評価の方法	課題提出(50%)と、授業第14回、15回での実演(50%)		

(注) 司書教諭資格必修

授業科目	情報メディアの活用		担当者	竹本 寛秋
	[履修年次] 2		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 高度情報化社会である現代における多様な情報メディアの特性を学び、学校図書館での活用方法について考える。</p> <p>【概要】 テクノロジーの発展により高度情報化した現代において、情報と人々の関係は急速に変化している。新たな情報環境を積極的に活用していくことが学校図書館には常に求められており、その中で、司書教諭は多様なメディアについて理解し、活用する能力を持つことが期待される。授業においては、情報化社会と人間の関係について基礎的な理解に基づき、様々なメディアの特性を知って、効果的に活用する方法を学ぶ。またデジタル社会における著作権について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 現代社会の多様な情報メディアの特性について理解し、説明できる。 学校図書館における情報メディアを活用した教育や応用の手法について理解し、説明できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 山本順一 監修『情報メディアの活用 第二版』学文社、適宜プリントを配布する。 (2) なし</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 高度情報化社会と人間 : 情報化社会と司書教諭の役割 第 2 回 情報メディアの歴史の変遷 第 3 回 学校教育と情報メディア 第 4 回 情報メディアの種類と特性 第 5 回 情報メディアの選択 : 状況に応じた選択の必要と留意点 第 6 回 視聴覚メディアの活用 第 7 回 情報メディアの活用 1 : コンピュータの活用と運用 第 8 回 教育メディアの活用 2 : 教育用ソフトウェアの活用 第 9 回 情報メディアの活用 3 : データベースと情報検索 第 10 回 情報メディアの活用 4 : インターネットと情報検索 第 11 回 情報メディアの活用 5 : インターネットによる情報発信 第 12 回 情報セキュリティ 第 13 回 ネットワーク環境と学校教育 第 14 回 学校図書館メディアと著作権 第 15 回 まとめ: 情報メディア活用の課題と将来</p>			
授業外学習(予習・復習)	教科書の精読、授業で課す課題の調査など。			
成績評価の方法	授業での課題 (30%)、期末試験 (70%)			

授業科目	書道 I		担当者	松元 徳雄
	[履修年次] 1年		授業外対応	授業終了後に対応
	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 楷書・行書・かなの特徴と書法</p> <p>【概要】 書道は文字を素材とする芸術である。その文字の姿もさまざまな形があり、実に興味深い。しかし、現代において文字はまさに書く時代ではなく打つ時代であるが、筆を執って文字を書くすばらしさと大切さを実感してもらいたい。 本講座では、書体の変遷について概要を学び、実技へと移行する。まず、書の重要な書体である楷書の基本点画を学習してから行書、さらにはかなの基本へと進む。 【到達目標】 楷書・行書・かなの書き方を習得する</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典 I, II, III』二玄社刊 (2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 書について (書体の特徴とその変遷) 第 2 回 楷書の特徴とその書法 (基本点画の書き方) 第 3 回 " " 第 4 回 " " 第 5 回 " (細字の書き方) 第 6 回 " " 第 7 回 行書の特徴とその書法 (基本点画の書き方) 第 8 回 " " 第 9 回 " " 第 10 回 " (細字の書き方) 第 11 回 " " 第 12 回 かなの特徴と書き方 (いろは単体) 第 13 回 " " 第 14 回 " (連綿とその応用) 第 15 回 " "</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業における清書作品 (100%)			

(注) 教職必修

授業科目	書道Ⅱ	担当者	松元 徳雄
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後に対応
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中学校における書写教育の把握と楷書・行書の古典学習</p> <p>【概要】中学校の書写教育の現況を通覧するとともに教材と同じ課題を練習し、その執筆法を習得する。さらに、書の基本である楷書の古典を通して、その造型と運筆の要領を学ぶ。また、日常生活において最も多用されている行書の巧みな筆法を学習する。</p> <p>【到達目標】中学校における書写教育の概要を簡単に説明できること。さらに楷書・行書の〈ツメル〉特徴とその運筆の技法を古典を通して取得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ』二玄社刊</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 中学校における書写教育について</p> <p>第2回 中学校で学ぶ楷書の基本とその応用</p> <p>第3回 ”</p> <p>第4回 ”</p> <p>第5回 楷書の古典 (九成宮醜泉銘)</p> <p>第6回 ” ”</p> <p>第7回 ” (始平公造像記)</p> <p>第8回 ” ”</p> <p>第9回 中学校で学ぶ行書の基本とその応用</p> <p>第10回 ”</p> <p>第11回 ”</p> <p>第12回 行書の古典 (蘭亭叙)</p> <p>第13回 ” ”</p> <p>第14回 ” (苕溪詩卷)</p> <p>第15回 ” (吳昌碩詩稿)</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業における清書作品 (100%)		

(注) 教職必修

授業科目	書道Ⅲ	担当者	松元 徳雄
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後に対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】草書・隸書・篆書の特徴とその運筆の技法</p> <p>【概要】書道Ⅲでは草書・隸書・篆書の3つの書体について学習する。草書は日常生活においてはほとんど目にする文字ではないが、芸術性が高く、書のすばらしさを理解していくためには不可欠な書体である。隸書は今から1800年位前に生まれた書体であるが、日常よく目にする文字である。隸書は独特な技法と造型のおもしろさを理解してもらう。篆書は中国最古の文字であり、その典型とされる小篆のユニークな字形や運筆の技法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】草書・隸書・篆書の〈ツメル〉特徴とその運筆の技法を古典を通して習得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ』二玄社刊</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 草書の特徴とその書法 (基本点画の書き方)</p> <p>第2回 草書の古典 (書譜)</p> <p>第3回 ” ”</p> <p>第4回 ” (擬山園帖)</p> <p>第5回 ” ”</p> <p>第6回 隸書の特徴とその書法 (基本点画の書き方)</p> <p>第7回 隸書の古典 (曹全碑)</p> <p>第8回 ” ”</p> <p>第9回 ” (礼器碑)</p> <p>第10回 ” ”</p> <p>第11回 篆書の特徴とその書法 (基本点画の書き方)</p> <p>第12回 篆書の古典 (泰山刻石)</p> <p>第13回 ” ”</p> <p>第14回 ” (趙之謙篆書対聯)</p> <p>第15回 ” ”</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業における清書作品 (100%)		

授業科目	書道Ⅳ	担当者	松元 徳雄
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後に対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】自用印並びに創作作品の制作とかなの古典学習</p> <p>【概要】書道学習の集大成として創作にチャレンジする。まず、自分の名を刻した印を制作し、漢字と調和体の創作作品に押印する。書の楽しさと魅力を味わってもらうことを目的とする。後半は日本の書を代表するかな（古筆）の臨書学習を通して、その芸術性と文学の特徴を学ぶ。かなは漢字がくずされて発生したものであるが、日本人が独自に創出した文字である。その真の姿を追究したい。かながいかに大切な文字であるか、実感してもらうのも目的の一つである。</p> <p>【到達目標】漢字と調和体の創作作品が書けるようになることとかな古典の学習によりその魅力を習得すること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ』二玄社刊</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 作品制作（篆刻—自用印）</p> <p>第 2回 " "</p> <p>第 3回 " "</p> <p>第 4回 " "</p> <p>第 5回 "（漢字作品—4字熟語）</p> <p>第 6回 " "</p> <p>第 7回 " "</p> <p>第 8回 "（調和体作品）</p> <p>第 9回 " "</p> <p>第10回 かなの古典（高野切第1種）</p> <p>第11回 " "</p> <p>第12回 "（高野切第3種）</p> <p>第13回 " "</p> <p>第14回 "（寸松庵色紙）</p> <p>第15回 " "</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業における清書作品（100%）		

6 英語英文学専攻専門科目

授業科目	スタディスキルズ		担当者	遠峯伸一郎 轟義昭 石井英里子 小林朋子				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラシー教育、ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成</p> <p>【概要】大学での専門的「勉強」は、受動的に知識を吸収するだけでは不十分で、あるテーマについて疑問を持ち（批判的検討能力）、それについて論理的に議論を展開し、自らその問題に対して「解答」を与えること（問題解決能力）が求められます。この講義では、その種の能力に達するために必要な基礎的学習技術—「聴く」「読む」「調べる」「整理する」「まとめる」「書く」「伝える」—を段階的に学んでいき、あるテーマについて論理的な論述を展開したレポートを作成できるようにします。</p> <p>【到達目標】与えられたテーマについて自らの意見を持ち、その意見を論理的に展開できるようにする。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) (遠峯) 浜田麻里・平尾得子・由井紀久子 『大学生と留学生のための論文ワークブック』 くろしお出版 (轟) 学習技術研究会 『知へのステップ 第4版—大学生からのスタディ・スキルズ』 くろしお出版</p> <p>(2) 随時紹介</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン:「生徒」から「学生」へ</p> <p>第2回 「聴く」と「読む」:積極的な聞き手と読み手になるために</p> <p>第3回 「深く読む」:論旨や要点を整理して分析的に進む</p> <p>第4回 論文ってどんなもの?:基礎編1—よく使われる語と表現、引用</p> <p>第5回 論文ってどんなもの?:基礎編2—よく使われる文の形、句読点、表記規則</p> <p>第6回 「調べる」と「整理する」:大学図書館とインターネットを用いた効率的な情報検索の仕方</p> <p>第7回 本論の役割:論拠提示、結論提示</p> <p>第8回 結びの役割:総括する、展望提示</p> <p>第9回 図表・資料に関する表現:使用する資料を示す、図表を用いて説明する</p> <p>第10回 レポート作成の第一歩(テーマ設定から結びに至る展開術の確認)</p> <p>第11回 レポート作成の実践(その一)</p> <p>第12回 レポート作成の実践(その二)</p> <p>第13回 レポート作成の実践(その三)</p> <p>第14回 発表用スライドの作成:パワーポイントの活用</p> <p>第15回 プレゼンテーション</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。							
成績評価の方法	レポート(60%)、プレゼンテーション(10%)、授業時の取り組み(30%)							

授業科目	オーラルコミュニケーションⅠ		担当者	アダメック フィリップ				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】コミュニケーション力の養成</p> <p>【概要】受講者は日本人の英語話者がしばしば難しいと感じる点について学びます。対話文を作り、ペアや少数人数のグループでロールプレイをします。毎回の授業で受講者全員が話す機会を与えられます。</p> <p>【到達目標】リスニング能力の向上と英語で流暢に話す能力を身に付けることを目標とします。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 教員が準備する資料</p> <p>(2) 参考文献 授業の資料を保管するためのファイルを準備し、英英辞典を使用します。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 Introductions</p> <p>第2回 Reporting vs. quoting others' speech</p> <p>第3回 Reporting vs. quoting others' speech</p> <p>第4回 Reporting vs. quoting others' speech</p> <p>第5回 Using or not using 'to' with verbs of motion</p> <p>第6回 Using or not using 'to' with verbs of motion</p> <p>第7回 Review of weeks 1-6</p> <p>第8回 Role-playing exercises I</p> <p>第9回 Role-playing exercises II</p> <p>第10回 Habits of everyday English: Repeating / Getting enough time to think</p> <p>第11回 Habits of everyday English: Giving just enough information / Being general</p> <p>第12回 Habits of everyday English: Keeping the conversation going</p> <p>第13回 Review of weeks 2-6, 10-12</p> <p>第14回 Role-playing exercises I</p> <p>第15回 Role-playing exercises II</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。							
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合(60%) Dialogues ダイアログ(40%)							

(注) 週2回

授業科目	オーラルコミュニケーション I	担当者	メアリー・マクセイ
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a practical course for students to improve their basic English listening and speaking skills.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study of basic language patterns and strategies for everyday conversation. Pair practice will be an integral part of classroom practice.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students comprehend and communicate in English more spontaneously, independently, and confidently.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Tom Kenny & Linda Woo, <i>Nice Talking with You 1</i> , Cambridge University Press (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction 第 2 回 Unit 1A・B 第 3 回 Unit 1C・D 第 4 回 Unit 2A・B 第 5 回 Unit 2C・D, evaluation 第 6 回 Unit 3A・B 第 7 回 Unit 3C・D 第 8 回 Unit 4A・B 第 9 回 Unit 4C・D, evaluation 第 10 回 Unit 5A・B 第 11 回 Unit 5C・D 第 12 回 Unit 6A・B 第 13 回 Unit 6C・D, evaluation 第 14 回 Review 1-6 第 15 回 まとめ/オーラル・レポート		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (30%)、Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (70%)		

(注) 週 2 回

授業科目	オーラルコミュニケーション I	担当者	Nikolay Gyulemetov ギュレメトヴ・ニコライ
	[履修年次] [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>テーマ: 英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる</p> <p>Improve your speaking, pronunciation and confidence when using English.</p> <p>【概要】 グループ・ディスカッション、スピーキングの練習、ショートスピーチなどを行います。</p> <p>【到達目標】 The main goal is to help the students use English with more skill and confidence.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Impact Issues 2, by Richard Day et al. Published by Pearson Longman (2) (プリントを配布する場合もある)		
授業スケジュール	第 1 回 オリエンテーション Orientation, selection of units to use (12 out of 20) 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 Week 2 to Week 10: Work with the units selected 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 Oral Presentation: スピーチ 第 12 回 第 13 回 Week 12 and 13: Finish the textbook 第 14 回 Oral Presentation: グループ発表 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業中のパフォーマンス (60%) + 発表・スピーチ (40%) による評価します。		

(注) 週 2 回

授業科目	オーラルコミュニケーションⅡ	担当者	アダメック フィリップ
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	必修 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】コミュニケーション力の養成</p> <p>【概要】受講者は日本人の英語話者がしばしば難しいと感じる点について学びます。対話文を作り、ペアや少人数のグループでロールプレイをします。毎回の授業で受講者全員が話す機会を与えられます。</p> <p>【到達目標】リスニング能力の向上と英語で流暢に話す能力を身に付けることを目標とします。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 教員が準備する資料</p> <p>(2) 参考文献 授業の資料を保管するためのファイルを準備し、英英辞典を使用します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Introductions</p> <p>第2回 Reporting vs. quoting others' speech</p> <p>第3回 Reporting vs. quoting others' speech</p> <p>第4回 Reporting vs. quoting others' speech</p> <p>第5回 Using or not using 'to' with verbs of motion</p> <p>第6回 Using or not using 'to' with verbs of motion</p> <p>第7回 Review of weeks 1-6</p> <p>第8回 Role-playing exercises I</p> <p>第9回 Role-playing exercises II</p> <p>第10回 Habits of everyday English : Repeating / Getting enough time to think</p> <p>第11回 Habits of everyday English : Giving just enough information / Being general</p> <p>第12回 Habits of everyday English : Keeping the conversation going</p> <p>第13回 Review of weeks 2-6, 10-12</p> <p>第14回 Role-playing exercises I</p> <p>第15回 Role-playing exercises II</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の割合 (60%) Dialogues ダイアログ (40%)		

(注) 週2回

授業科目	オーラルコミュニケーションⅡ	担当者	メアリー・マクセイ
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	必修 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for students to further improve their basic English listening and speaking skills.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study and practice of language patterns and functional expressions, information exchange activities, discussion, and listening tasks. Pair practice will be an integral part of classroom work.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students further comprehend and communicate in English spontaneously, independently, and confidently.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Tom Kenny & Linda Woo, <i>Nice Talking with You 1</i>, Cambridge University Press</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 Unit 7A-B</p> <p>第3回 Unit 7C-D</p> <p>第4回 Unit 8A-B</p> <p>第5回 Unit 8C-D, evaluation</p> <p>第6回 Unit 9A-B</p> <p>第7回 Unit 9C-D</p> <p>第8回 Unit 10A-B</p> <p>第9回 Unit 10C-D, evaluation</p> <p>第10回 Unit 11A-B</p> <p>第11回 Unit 11C-D</p> <p>第12回 Unit 12A-B</p> <p>第13回 Unit 12C-D, evaluation</p> <p>第14回 Review 7-12</p> <p>第15回 まとめ/オーラル・レポート</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の割合 (30%)、 Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (70%)		

(注) 週2回

授業科目	オーラルコミュニケーションⅡ	担当者	Nikolay Gyulemetov ギュレメトヴ・ニコライ
	[履修年次] [学期] 後期 [単位] 1 [必修/選択]	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>テーマ：英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる</p> <p>Improve your speaking, pronunciation and confidence when using English.</p> <p>【概要】 グループ・ディスカッション、スピーキングの練習、ショートスピーチなどを行います。</p> <p>【到達目標】 The main goal is to help the students use English with more skill and confidence.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Impact Issues 2, by Richard Day et al. Published by Pearson Longman</p> <p>(2) (プリントを配布する場合もある)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション Orientation, selection of units to use (12 out of 20)</p> <p>第 2 回</p> <p>第 3 回</p> <p>第 4 回</p> <p>第 5 回</p> <p>第 6 回</p> <p>第 7 回 Week 2 to Week 10: Work with the units selected</p> <p>第 8 回</p> <p>第 9 回</p> <p>第 10 回</p> <p>第 11 回 Oral Presentation: スピーチ</p> <p>第 12 回</p> <p>第 13 回 Week 12 and 13: Finish the textbook</p> <p>第 14 回 Oral Presentation: グループ発表</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業中のパフォーマンス (60%) + 発表・スピーチ (40%) による評価します。		

(注) 週 2 回

授業科目	オーラルコミュニケーションⅢ	担当者	アダメック フィリップ
	[履修年次] 2 年 [学期] 前期 [単位] 1 単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習	授業外対応	適宜対応 (要予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 オーラルコミュニケーション</p> <p>【概要】 この講義では英語での会話の仕方を学びます。教員はトピックの選び方と会話の続け方を指導し、受講者は交代でトピックを提示し、話し合いを主導します。</p> <p>【到達目標】 積極的に授業に参加し、人前で話す自信をつけることを目標にします。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) (1) 未定</p> <p>(2) (2) なし</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 第 1 回 Introduction / self-introductions</p> <p>第 2 回 Conversation strategies, 1</p> <p>第 3 回 Conversation strategies, 2</p> <p>第 4 回 Conversation strategies, 3</p> <p>第 5 回 Conversation strategies, 4</p> <p>第 6 回 Conversation strategies, 5</p> <p>第 7 回 Student-led discussion</p> <p>第 8 回 Student-led discussion</p> <p>第 9 回 Student-led discussion</p> <p>第 10 回 Student-led discussion</p> <p>第 11 回 Student-led discussion</p> <p>第 12 回 Student-led discussion</p> <p>第 13 回 Make-up work</p> <p>第 14 回 Review & Questionnaire</p> <p>第 15 回 まとめ・Prospects</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (80%) Quizzes テスト (20%)		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅢ	担当者	メアリー・マクセイ
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course aimed at developing the students' vocabulary and ability to communicate their ideas spontaneously and independently.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on speaking and vocabulary work, centered around discussions of timely themes .</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students increase their vocabulary and become spontaneous in understanding and expressing themselves in English. They should become able to carry on a discussion with confidence.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Day & Schaules, <i>Impact Issues 3</i> , Pearson Longman (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction 第 2 回 Topic 1 第 3 回 Topic 2 第 4 回 Topic 3 第 5 回 Topic 4 第 6 回 Topic 5 第 7 回 Topic 6 第 8 回 Topic 7 第 9 回 Topic 8 第 10 回 Topic 9 第 11 回 Topic 10 第 12 回 Topic 11 第 13 回 Topic 12 第 14 回 Topic 13 第 15 回 Topic 14		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (30%)、 Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (70%)		

授業科目	Oral Communication III	担当者	Andrew Daniels
	[履修年次] 2 nd Year [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course will focus on a number of interesting topics from the textbook and allow students the chance to express themselves in pairs and group situations.</p> <p>【概要】 Students will work on listening skills, speaking skills and develop their ability to give impromptu short speeches on topics from the text by using key vocabulary patterns</p> <p>【到達目標】 The aim is to help students become more fluent in the way they express themselves on a wide variety of current issues which may have relevance to their own lives.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Inspire 2 by Hartmannn, Douglas and Boon Cengage learning (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Key topics from the first half of the textbook based on festivals, food, cities and jobs. 第 2 回 " 第 3 回 " 第 4 回 " 第 5 回 " 第 6 回 " 第 7 回 Review Quiz of first half of semester 第 8 回 Key topics from the units in the second half of the textbook 第 9 回 " 第 10 回 " 第 11 回 " 第 12 回 " 第 13 回 " 第 14 回 " 第 15 回 Final Quiz		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Participation in class pair-work activities 40% Vocabulary and short quizzes 30% Final Speaking Activity and Quiz 30%		

授業科目	英語表現法 I	担当者	メアリー・マクセイ
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a basic English writing course focused on the fundamentals of effective sentence and paragraph writing.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study of the importance of proper paragraph organization, including central idea, topic sentence, supporting sentences, and paragraph conclusion. Students will become familiar with the forms and functions of outlines. Practice of important grammar points will be integrated into the lessons. Unit composition assignments will aim at leading students to greater fluency and accuracy</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students learn the organizational principles of English writing and improve their sentence accuracy.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Anne Hogue, <i>Longman Academic Writing Series 2: Paragraphs, Third Edition</i> , Pearson Education, Inc. (2)		
授業スケジュール	第 1回 Introduction 第 2回 Unit 1A 第 3回 Unit 1B 第 4回 Unit 1C 第 5回 Unit 1 composition assignment, first draft 第 6回 Unit 1 composition assignment, second draft 第 7回 Unit 2A 第 8回 Unit 2B 第 9回 Unit 2C 第10回 Unit 2 composition assignment, first draft 第11回 Unit 2 composition assignment, second draft 第12回 Unit 3A 第13回 Unit 3B 第14回 Unit 3 composition assignment, first draft 第15回 Unit 3 composition assignment, second draft		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Composition assignments (作文) 60%, quiz scores 40%.		

授業科目	Eigo Hyogen Ho I	担当者	Patrick Gorham
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course is an elementary writing course for writing paragraphs. Students will be required to recognize and write topic, supporting and concluding sentences in various rhetorical modes. Students will be required to work through grammatical exercises to enable them to complete the required writing assignments. There will be weekly class writing assignments in addition to in-class compositions.</p> <p>【概要】 Students will examine different paragraph samples and will then write their own paragraphs using the points studied in the textbook.</p> <p>【到達目標】 The aim of the course is to develop writing skills above the sentence level.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Effective Academic Writing 1 (The Paragraph) Second Edition by Savage and Shafiei; Publisher: Oxford University Press (2)		
授業スケジュール	第 1回 Class Orientation 第 2回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第 3回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第 4回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第 5回 Unit 2, Descriptive Paragraph 第 6回 Unit 2, Descriptive Paragraph 第 7回 Unit 2, Descriptive Paragraph 第 8回 Descriptive paragraph in-class writing assignment 1 st draf 第 9回 Descriptive paragraph in-class writing assignment 2 nd draf 第10回 Unit 3, Example paragraph 第11回 Unit 3, Example paragraph 第12回 Unit 3, Example paragraph 第13回 Unit 3, Example paragraph 第14回 Example paragraph in-class writing assignment 1 st draft 第15回 Example paragraph in-class writing assignment 2 nd draft		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Students essays 90%, Attendance 10%		

授業科目	英語表現Ⅱ	担当者	メアリー・マクセイ
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Anne Hogue, <i>Longman Academic Writing Series 2: Paragraphs, Third Edition</i> , Pearson Education, Inc. (2)		
授業スケジュール	第 1回 Unit 4A 第 2回 Unit 4B 第 3回 Unit 4C 第 4回 Unit 4 composition assignment, first draft 第 5回 Unit 4 composition assignment, second draft 第 6回 Unit 5A 第 7回 Unit 5B 第 8回 Unit 5C 第 9回 Unit 5 composition assignment, first draft 第10回 Unit 5 composition assignment, second draft 第11回 Unit 6A 第12回 Unit 6B 第13回 Unit 6C 第14回 Unit 6 composition assignment, first draft 第15回 Unit 6 composition assignment, second draft		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Composition assignments (作文) 60%, quiz scores 40%.		

授業科目	Eigo Hyogen Ho II	担当者	Patrick Gorham
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course is a continuation of the first semester course. It will cover paragraph writing in the form of process, opinion and narrative paragraphs. Students will learn the rhetorical modes which accompany each form of writing style. Students will be required to recognize various grammatical points and complete grammatical exercises. There will be weekly writing assignments and three in-class compositions.</p> <p>【概要】 Students will examine different paragraph samples and will then write their own paragraphs using the points studied in the textbook.</p> <p>【到達目標】 The aim of the course is to develop writing skills above the sentence level</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Effective Academic Writing 1 (The Paragraph) Second Edition by Savage and Shafiei; Publisher: Oxford University Press (2)		
授業スケジュール	第 1回 Unit 4, Process paragraph 第 2回 Unit 4, Process paragraph 第 3回 Unit 4, Process paragraph 第 4回 Process paragraph in-class writing assignment 1 st draft 第 5回 Process paragraph in-class writing assignment 2 nd draft 第 6回 Unit 5, Opinion paragraph 第 7回 Unit 5, Opinion paragraph 第 8回 Unit 5, Opinion paragraph 第 9回 Opinion paragraph in-class writing assignment 1 st draft 第10回 Opinion paragraph in-class writing assignment 2 nd draft 第11回 Unit 6, Narrative paragraph 第12回 Unit 6, Narrative paragraph 第13回 Unit 6, Narrative paragraph 第14回 Narrative paragraph in-class writing assignment 1 st draft 第15回 Narrative paragraph in-class writing assignment 2 nd draft		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Student essays 90%, Attendance 10%		

授業科目	英語表現法Ⅲ	担当者	メアリー・マクセイ
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an English writing course focused on the fundamentals of effective multi-paragraph essay writing.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study of the importance of proper essay organization and the step-by-step thinking and writing process. Students will become familiar with the forms and functions of outlines. This will include grammar, sentence level, rhetoric, and paragraph structure practice. Composition assignments will aim at leading students to greater fluency and accuracy.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students learn the organizational principles of English multi-paragraph essay writing and improve their sentence accuracy.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction, discussion of the five-paragraph essay 第 2 回 Continue discussion of the five-paragraph essay and expository writing 第 3 回 Expository essay, first draft 第 4 回 Expository essay, second draft 第 5 回 Grammar/writing practice 第 6 回 Grammar/writing practice 第 7 回 Grammar/writing practice 第 8 回 Grammar/writing practice 第 9 回 Grammar/writing practice 第 10 回 Discuss cause and effect writing 第 11 回 Cause and effect essay, first draft 第 12 回 Cause and effect essay, second draft 第 13 回 Discuss argumentative writing 第 14 回 Argumentative essay, first draft 第 15 回 Argumentative essay, second draft		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Composition assignments (作文) 100%		

授業科目	Eigo Hyogen Ho III	担当者	Patrick Gorham
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Eigo Hyogen Ho III is a writing course which teaches students how to write multi-paragraph essays in different rhetorical modes. Students will be required to learn the organization of writing multiple paragraph essays. They will be required to write introductory, supporting and concluding paragraphs. Students will also be required to complete various grammatical exercises throughout the semester. To successfully complete the course, students must complete weekly writing assignments and do three in-class essays.</p> <p>【概要】 Students will study different rhetorical modes and complete writing assignments reflecting the material studied.</p> <p>【到達目標】 The aim of the course is to develop students writing skills above the paragraph level.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Students will receive prints covering the points taught in the lesson (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Unit 3, Cause and Effect Essay 第 2 回 Unit 3, Cause and Effect Essay 第 3 回 Unit 3, Cause and Effect Essay 第 4 回 Cause and Effect in-class writing assignment 1 st draft 第 5 回 Cause and Effect in-class writing assignment 2 nd draft 第 6 回 Unit 4, Argumentative Essay 第 7 回 Unit 4, Argumentative Essay 第 8 回 Unit 4, Argumentative Essay 第 9 回 Argumentative in-class writing assignment 1 st draft 第 10 回 Argumentative in-class writing assignment 2 nd draft 第 11 回 Unit 5, Classification Essay 第 12 回 Unit 5, Classification Essay 第 13 回 Unit 5, Classification Essay 第 14 回 Classification in-class writing assignment 1 st draft 第 15 回 Classification in-class writing assignment 2 nd draft		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Three in-class essays 90%, attendance 10%		

授業科目	LL 演習 I		担当者	土持 かおり	
	[履修年次]	1	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	1	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	【テーマ】 この授業のテーマは、オーストラリアを紹介するビデオ教材でナチュラルな英語を聞き取る力を高めるとともに、オーストラリアの日常生活や社会について理解を深めることです。				
	【概要】 ナチュラルな英語で紹介されるオーストラリアの日常生活や社会をビデオ教材で楽しみながら理解しながら、様々な情報を掴み取る演習を通してリスニング力を高めていきます。 さらに、毎回、パラレルリーディングやシャドーイングといった聞き取った音を再現する口頭練習を継続的に行うことで、「ナチュラルな英語を聞き取る力」と「英語らしく発話できる力」をアップさせていきます。				
	【到達目標】 オーストラリアの日常生活・社会について知識を深める。 ナチュラルスピードで話される英語から必要な情報を聞き取ることができるようになる。				
(1)テキスト	(1)	Kumiko T.Sato 他著 <i>Australia, Here We Come!</i> 出版社：Asahi Press			
授業スケジュール	第 1 回	授業ガイダンス： 効果的なリスニング学習とは？ / 授業内容と進め方について			
	第 2 回	Unit 1 : Hello, Sydney, Australia !			
	第 3 回	Unit 2 : Street Life			
	第 4 回	Unit 3 : Public Transport - Commuting			
	第 5 回	Unit 4 : University Life – The University of Sydney (1)			
	第 6 回	Unit 4 : University Life – The University of Sydney (2)			
	第 7 回	Unit 5 : Australian Home			
	第 8 回	Unit 6 : Supermarket – Coles			
	第 9 回	Unit 7 : Daily Life			
	第 10 回	Unit 8 : Taronga Zoo – Australian Animals			
	第 11 回	Unit 9 : Leisure Time at the Sea			
	第 12 回	Unit 10 : Education Programmes in Taronga Zoo			
	第 13 回	Unit 11 : Leisure Time at the Park			
	第 14 回	Unit 12 : Australian Family			
	第 15 回	まとめ			
授業外学習(予習・復習)	毎回のテキストの予習、毎回の小テストのための復習				
成績評価の方法	授業でのワークシート (30%) + 復習のための小テスト (30%) + 定期試験 (40%)				

授業科目	LL 演習 II		担当者	石井 英里子	
	[履修年次]	1	授業外対応	適宜 (要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	1	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	【テーマ】 地域社会の文化への興味と理解を深めながら、英語の 4 技能を総合的に向上させる。				
	【概要】 本授業は、①Individual speech, ②CALL 演習, ③Group Project, ④Online Workbook の 4 つの課題で構成され、英語の 4 技能 listening, speaking, reading, writing を総合的に訓練し、英語発信力を高める。①Individual Speech では各自テーマを設定し、約 3 分間のプレゼンテーションを行う。②CALL 演習では、CALL 機器を用いてスピーキングの練習を行う。③Group project では、地域社会の文化発信について各自が関心のあるプロジェクトに取り組む。④Online Workbook は、予習および復習課題として授業外に実施し担当教員へ提出する。				
	【到達目標】 ①自律した英語学習者となるための知識とスキルを身につける。②自分の考えを積極的に英語で表現することができる。③地域社会の文化に関して興味・関心を持つ。④地域社会の文化について英語で発信することができる。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1)	Dimond-Bayir S. (2016). <i>Unlock Level 2 Listening and Speaking Skills Student's Book and Online Workbook</i> . Cambridge University Press. (¥3,500)			
	(2)	The TED (https://www.ted.com/)			
授業スケジュール	第 1 回	Course introduction, including individual speech and group project guidelines			
	第 2 回	Unit 1 Places			
	第 3 回	Unit 1 Places			
	第 4 回	Unit 2 Festivals and Celebrations			
	第 5 回	Unit 2 Festivals and Celebrations			
	第 6 回	Unit 3 School and Education			
	第 7 回	Unit 3 School and Education			
	第 8 回	Unit 4 The Internet and Technology			
	第 9 回	Unit 4 The Internet and Technology			
	第 10 回	Unit 5 Language and Communication			
	第 11 回	Unit 5 Language and Communication			
	第 12 回	Group presentation (1)			
	第 13 回	Group presentation (2)			
	第 14 回	Group presentation (3)			
	第 15 回	Course review			
授業外学習(予習・復習)	予習 (発表準備含む) 2 時間以上必要である。				
成績評価の方法	授業への取り組み (30%), Individual Speech (20%), Group project (20%), Online Workbook (30%)で評価する。				

授業科目	LL 演習Ⅲ		担当者	石井 英里子				
	[履修年次]	2	授業外対応	適宜 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	1	[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語の4技能を総合的に向上させる。県短について英語で発信する。</p> <p>【概要】 本授業は、①Individual speech, ②CALL 演習, ③Group Project, ④Online Workbook の4つの課題で構成され、英語の4技能 listening, speaking, reading, writing を総合的に訓練し、英語発信力を高める。①Individual Speech では各自テーマを設定し、約3分間のプレゼンテーションを行う。②CALL 演習では、CALL 機器を用いてスピーキングの練習を行う。③Group project では、県短の情報発信について各自が関心のあるプロジェクトに取り組む。④Online Workbook は、予習および復習課題として授業外に実施し担当教員へ提出する。</p> <p>【到達目標】 ①自律した英語学習者となるための知識とスキルを身につける。②自分の考えを積極的に英語で表現することができる。③県短に関する情報を英語で発信する方法を考え、グループ独自の提案をすることができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Dimond-Bayir S. (2016). <i>Unlock Level 2 Listening and Speaking Skills Student's Book and Online Workbook</i>. Cambridge University Press. (¥3,500)</p> <p>(2) The TED (https://www.ted.com/)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 Course introduction, including individual speech and group project guidelines</p> <p>第2回 Unit 6 Weather and Clime</p> <p>第3回 Unit 6 Weather and Clime</p> <p>第4回 Unit 7 Sports and Competition</p> <p>第5回 Unit 7 Sports and Competition</p> <p>第6回 Unit 8 Business</p> <p>第7回 Unit 8 Business</p> <p>第8回 Unit 9 People</p> <p>第9回 Unit 9 People</p> <p>第10回 Unit 10 Space and the Universe</p> <p>第11回 Unit 10 Space and the Universe</p> <p>第12回 Group presentation (1)</p> <p>第13回 Group presentation (2)</p> <p>第14回 Group presentation (3)</p> <p>第15回 Course review</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習 (発表準備含む) 2時間以上必要である。							
成績評価の方法	授業への取り組み (30%), Individual Speech (20%), Group project (20%), Online Workbook (30%)で評価する。							

授業科目	コミュニケーション概論		担当者	石井 英里子				
	[履修年次]	1	授業外対応	適宜 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】第二言語習得 (Second Language Acquisition, SLA)</p> <p>【概要】本授業では、第二言語習得 (Second Language Acquisition, SLA) 研究を概観する。SLA とはどんな研究分野であるか、今までどんなことが明らかにされてきたかを理解する。また、グループプロジェクトを通して、コミュニケーションのスキルや態度も体験的に習得する。本授業は、受講者が主体的に学ぶことを目的とするため、ディスカッションなど協同学習を中心とした授業を行う。受講者の積極的な授業参加を期待する。</p> <p>【到達目標】①第二言語習得理論に対する興味・関心を広げ、関連する問題について主体的に考えることができる。②異なる視点や考え方を尊重しながら、協働して課題に取り組むことができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) Brown, H. D. (2014). <i>Principles of Language Learning and Teaching (6th ed.)</i>. NY: Pearson Education.</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、グループプロジェクトについて</p> <p>第2回 第一言語習得 (1)</p> <p>第3回 第一言語習得 (2)</p> <p>第4回 年齢と習得 (1)</p> <p>第5回 年齢と習得 (2)</p> <p>第6回 学習理論 (1)</p> <p>第7回 学習理論 (2)</p> <p>第8回 学習スタイルと学習方略 (1)</p> <p>第9回 学習スタイルと学習方略 (2)</p> <p>第10回 第二言語習得と個人差 (1)</p> <p>第11回 第二言語習得と個人差 (2)</p> <p>第12回 グループプロジェクト発表 (1)</p> <p>第13回 グループプロジェクト発表 (2)</p> <p>第14回 グループプロジェクト発表 (3)</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	復習 (授業外のグループワークを含む) 3時間以上必要である。							
成績評価の方法	授業への取り組み(40%), グループプロジェクト(30%), レポート課題(30%)で評価する。							

(注) 教職必修

授業科目	ビジネス英語	担当者	霧島 S. 怜
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	要件のある時は、講義の前後に申し出て下さい
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】A Success in Business and A Right Communication Style ビジネスの成果と正しいコミュニケーション能力</p> <p>【概要】学生の皆さん、「Roma meravigliosa non era costruita durante una notte」(素晴らしいローマは一夜にしてならず)というヨーロッパの有名な諺が教示しているように、「有名な先生」の指導下で一カ月の勉強の後、完璧な中国語で北京大学の講義をした者はいない!! 例えば、将来の仕事や海外での勉強という具体的な目標、更に、素敵な彼氏や彼女、又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため、という動機は外国語の勉強に極めて効果です。…では、楽しく、大生らしく、勉学に励もう!!</p> <p>【到達目標】演習内容の80%以上理解し、身につけること(詳細は演習の冒頭に説明する)。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 城 由紀子他、"Business Talk"(やさしいオフィス英語、成美堂。(ISBN 978-4-7919-4711-9 C2082</p> <p>(2) 又、必要に応じて習熟資料を配布する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 演習の内容、方法と成績、期末 Test について。ミニ演習。</p> <p>第2回 Unit 2. Application Letter 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第3回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第4回 Unit 4. A Job Interview 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第5回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第6回 Unit 5 Job Offer 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第7回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第8回 Unit 8 Answering Phone Calls 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第9回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第10回 Unit 9 Taking A Message 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第11回 Unit 16 Sightseeing in Kyoto 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第12回 Unit 21 The First Business Trip. 読解、聞き取り、教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第13回 Unit 22 A Thank-you Letter 読解、聞き取り、教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第14回 Xmas Day! 読解、聞き取り、教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第15回 受講生が選択したテーマの学習 (Marriage) 前期学習のまとめ等</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示：予習を重視します。★参加者の言語的力量と上達に応じて内容の増減が有り得る。		
成績評価の方法	予習 40%、演習参加 40%、期末 Test 20% の合計		

授業科目	通訳入門	担当者	石井 英里子
	[履修年次] 2 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜(要予約)
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】通訳の訓練方法による英語のリスニング力とスピーキング力の向上、英日/日英逐次通訳スキルの習得</p> <p>【概要】通訳の訓練方法には、英語のスキル向上に役立つヒントがたくさん隠されている。本授業では、通訳者養成で実際に行われる訓練方法(シャドーイング、スラッシュ・リーディング、サイト・トランスレーション、リプロダクションなど)の実践演習を通して、特にリスニングとスピーキングを中心に英語のスキルを強化する。また、英語から日本語、日本語から英語への簡単な逐次通訳ができるようになることを目指す。通訳演習だけではなく、通訳という職業や通訳に関する研究についても講義方式で紹介する。</p> <p>【到達目標】①通訳の訓練方法を理解し、実践することができる。②あらかじめ音声を聞いたり単語や表現を調べたりすることで十分な準備をした上で、聞き手にきちんと伝わる丁寧な逐次通訳ができる。③通訳という職業や通訳に関する研究について、興味・関心を持つ。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) ①長井鞠子(2014)『伝える極意』集英社(680円)</p> <p>(2) ①鳥飼玖美子(2013)『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房、②水野真木子・鍵村和子・中林真佐男・長尾ひろみ(2002)『グローバル時代の通訳—基礎知識からトレーニング法まで』三修社、③CNN English Express (Asahi Press)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、通訳とは</p> <p>第2回 通訳訓練法(1) シャドーイング</p> <p>第3回 通訳訓練法(2) スラッシュ・リーディング</p> <p>第4回 通訳訓練法(3) サイト・トランスレーション</p> <p>第5回 通訳訓練法(4) リプロダクション</p> <p>第6回 インタビューの通訳</p> <p>第7回 スピーチの通訳(1)</p> <p>第8回 スピーチの通訳(2)</p> <p>第9回 日本文化の通訳(1)</p> <p>第10回 日本文化の通訳(2)</p> <p>第11回 日本文化の通訳(3)</p> <p>第12回 通訳プレゼンテーション(1)</p> <p>第13回 通訳プレゼンテーション(2)</p> <p>第14回 通訳プレゼンテーション(3)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習3時間以上必要である。		
成績評価の方法	授業への取り組み(40%)、ブックレポート(30%)、通訳プレゼンテーション(30%)で評価する。		

授業科目	英語学概論		担当者	遠峯伸一郎				
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時、適宜(要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	必修(注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語学諸分野の概説</p> <p>【概要】英語を題材に、音声学・音韻論、形態論、意味論、統語論、語用論の各分野を概観する。</p> <p>【到達目標】音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論について基礎的な知識を習得する。習得した知識を応用して、英語の例を分析できるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし。</p> <p>(2) 池上嘉彦『英語の感覚・日本語の感覚(ことばの意味)のしくみ』NHKブックス。 大名力『英語の文字・綴り・発音のしくみ』研究社。その他随時紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、英語学とは何か</p> <p>第2回 音声学・音韻論(1) 英語の音とその作られ方</p> <p>第3回 音声学・音韻論(2) 英語の音の分類 母音</p> <p>第4回 音声学・音韻論(3) 英語の音の分類 子音</p> <p>第5回 音声学・音韻論小テスト、形態論(1) 語の接辞と語尾変化 派生と屈折</p> <p>第6回 形態論(2) 複合語 内心複合語と外心複合語</p> <p>第7回 形態論(3) 転換 ゼロ派生</p> <p>第8回 形態論小テスト、統語論(1) 文の組み立てに見る規則性 品詞と統語論の関係</p> <p>第9回 統語論(2) 句の範疇 範疇的關係から句の範疇を見る</p> <p>第10回 統語論(3) 句構造規則 文を生成する規則</p> <p>第11回 統語論小テスト、意味論(1) 上位語・下位語、同義・類義・反義</p> <p>第12回 意味論(2) 比喩</p> <p>第13回 語用論 文脈と文法の関係 話題化、be動詞を軸にした倒置</p> <p>第14回 意味論、語用論小テスト、さまざまな構文に見る意味と統語の接点</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習1時間以上、復習3時間以上必要である。							
成績評価の方法	試験(35%) + 小テスト(55%) + 宿題と授業への参加状況(10%)							

(注) 教職必修

授業科目	英文法		担当者	遠峯伸一郎				
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時、適宜(要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択(注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語の文法</p> <p>【概要】動詞(時制、相)、助動詞、準動詞、名詞(冠詞を含む)、前置詞について英語の規則性を詳しく学ぶ。</p> <p>【到達目標】英文法の学習を通して英語を分析的に見る力を養い、英語の読解力・表現力を向上させることを目標とする。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Murphy, R. and W. R. Smalzer, <i>Grammar in Use: Intermediate</i>, Cambridge University Press.</p> <p>(2) Swan, M. <i>Practical English Usage</i>, 3rd ed., Oxford University Press., 久野暉・高見健一, 『謎解きの英文法』シリーズ, くろしお出版。その他の参考文献は随時紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 時制・相(1) 現在形と現在進行形</p> <p>第3回 時制・相(2) 過去形と現在完了形</p> <p>第4回 時制・相(3) 現在完了進行形</p> <p>第5回 時制・相(4) 現在完了形と現在完了進行形</p> <p>第6回 未来の表現</p> <p>第7回 小テスト1, 名詞・冠詞(1) 名詞における可算・不可算の区別</p> <p>第8回 名詞・冠詞(2) 数量詞の用法</p> <p>第9回 名詞・冠詞(3) 定冠詞と不定冠詞の用法</p> <p>第10回 名詞・冠詞(4) 総称</p> <p>第11回 名詞・冠詞(5) 名詞・冠詞総合演習</p> <p>第12回 場所を表す前置詞 in, on, at</p> <p>第13回 準動詞 to 不定詞と-ingの使い分け</p> <p>第14回 助動詞の2つの意味</p> <p>第15回 小テスト3, まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習2時間以上、復習2時間以上必要である。高校卒業程度の英語力を前提とする。							
成績評価の方法	試験(40%) + 小テスト(50%) + 授業への参加状況(10%)							

(注) 教職必修

授業科目	英語史		担当者	遠峯伸一郎				
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時、適宜(要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語史の概観</p> <p>【概要】インドヨーロッパ基語から現代英語に至るまでの英語の歴史を概観する。古英語・中英語・初期近代英語のテキストを読んで比較し、言語変化の実際に触れる。</p> <p>【到達目標】英語史の概略を知り、現代英語の理解を深める。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 寺澤盾 (2013) 『聖書でたどる英語の歴史』大修館書店, 東京。 堀田隆一 (2014) 『英語史で解さほぐす英語の誤解』中央大学出版部, 東京。 井口篤, 寺澤盾 (2013) 『英語の軌跡をたどる旅』放送大学教育振興会, 東京。 ブラッグ, メルヴィン (2008) 『英語の冒険』講談社, 東京。その他随時紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス, 英語史を学ぶこと</p> <p>第2回 英語の始まり アングロサクソンの侵入</p> <p>第3回 英語とヨーロッパの諸言語の関係 インド・ヨーロッパ祖語</p> <p>第4回 外国語の英語に対する影響(1) ラテン語 キリスト教の伝来とアルファベットの成立</p> <p>第5回 最初期の英語に触れる 古英語を読む(1)</p> <p>第6回 最初期の英語に触れる 古英語を読む(2)</p> <p>第7回 外国語の英語に対する影響(2) 古ノルド語 デーン人の侵攻</p> <p>第8回 外国語の英語に対する影響(3) フランス語 ノルマン征服と中英語</p> <p>第9回 英訳聖書の歴史 ウィクリフ, ティンダル, 欽定英訳聖書</p> <p>第10回 英語に外国語の影響を見る 中英語を読む</p> <p>第11回 チョーサー, 標準英語の成立</p> <p>第12回 初期近代英語</p> <p>第13回 古英語から初期近代英語を通観する</p> <p>第14回 後期近代英語, アメリカ英語</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習1時間以上, 復習3時間以上必要である。							
成績評価の方法	試験(70%) + 授業への参加状況と宿題(30%)							

授業科目	英語音声学		担当者	遠峯伸一郎				
	[履修年次]	1	授業外対応	講義終了時、適宜(要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択(注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語の音声の特徴と発音技能</p> <p>【概要】日本語の音声との相違に注意を向けながら英語の音声を作られるしくみを学習する。学習した内容を実践し英語の発音技能を向上させる。英語の音声を支配する規則のうち基礎的なものを学習する。</p> <p>【到達目標】発音記号を正しく音読できるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 杉森幹彦ほか (2012) 『英語音声の基礎と聴解トレーニング』金星堂, 東京。(1800円)</p> <p>(2) キャットフォード, J. C., 竹林滋・設楽優子・内田洋子(訳) (2006) 『実践音声学入門』大修館書店, 東京。 深澤利昭 (2015) 『改訂版 英語の発音パーフェクト学習辞典』アルク, 東京。 今井, ジュミック (2012) 『<フォニックス>できれいな英語の発音がおもしろいほど身につく本』明日香出版社, 東京。その他随時紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 紛らわしい母音(1)</p> <p>第3回 紛らわしい母音(2)</p> <p>第4回 紛らわしい子音(1)</p> <p>第5回 紛らわしい子音(2)</p> <p>第6回 紛らわしい子音(3)</p> <p>第7回 つながって聞こえる音(連結)</p> <p>第8回 変化して聞こえる音(同化)</p> <p>第9回 聞こえなくなる音(1)(単語間の脱落)</p> <p>第10回 聞こえなくなる音(2)(単語内の脱落・短縮形)</p> <p>第11回 英語のアクセント(単語・句)</p> <p>第12回 英語のリズム(内容語と機能語)</p> <p>第13回 英語のイントネーション(1)</p> <p>第14回 英語のイントネーション(2)</p> <p>第15回 英語のフォニックス</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習1時間以上, 復習3時間以上必要である。本授業は英語学概論の学習内容(音声学・音韻論)を前提とする。							
成績評価の方法	試験(40%) + 音声課題(40%) + 授業への参加状況と宿題(20%)							

(注) 教職必修

授業科目	講読演習 I	担当者	遠峯伸一郎
	[履修年次] 1 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	講義終了時, 適宜 (要予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語学の文献講読</p> <p>【概要】性差がことばに与える影響について学ぶ。</p> <p>【到達目標】論理的な文章を読む力を高める。教科書の第2章以降を独力で読めるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Tannen, Deborah <i>You Just Don't Understand</i>, (約 1800 円)</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 Different Words, Different Worlds (1)</p> <p>第 3 回 Different Words, Different Worlds (2)</p> <p>第 4 回 Intimacy and Independence (1)</p> <p>第 5 回 Intimacy and Independence (2)</p> <p>第 6 回 Asymmetries (1)</p> <p>第 7 回 Asymmetries (2)</p> <p>第 8 回 The Mixed Metamessages of help</p> <p>第 9 回 The Modern Face of Chivalry</p> <p>第 10 回 The Protective Frame</p> <p>第 11 回 Male-Female Conversation is Cross-Cultural Communication, It Begins at the Beginning (1)</p> <p>第 12 回 It Begins at the Beginning (2)</p> <p>第 13 回 It Begins at the Beginning (3)</p> <p>第 14 回 The Key is Understanding</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習 2 時間以上, 復習 2 時間以上必要である。		
成績評価の方法	授業への取り組み (30%) + 試験 (70%)		

授業科目	基礎演習 I	担当者	遠峯伸一郎
	[履修年次] 1 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	講義終了時, 適宜 (要予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】語用論の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】「英語学概論」では、音、語、文を分析対象として扱った。「基礎演習 I」では文の集合である文章、会話を取り上げて、それらに見られる規則性を学習する。</p> <p>【到達目標】情報構造を用いた談話分析の手法を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 福地肇 (1985) 『談話の構造』, 大修館書店, 東京。</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 文の文法と談話の文法</p> <p>第 3 回 談話における情報の配置</p> <p>第 4 回 旧情報と新情報 1 (情報の新旧とは)</p> <p>第 5 回 旧情報と新情報 2 (旧情報と新情報の現れ方)</p> <p>第 6 回 主題と題述 1 (主題と題述とは)</p> <p>第 7 回 主題と題述 2 (主題の現れ方)</p> <p>第 8 回 受動態</p> <p>第 9 回 二重目的語構文</p> <p>第 10 回 不変化詞</p> <p>第 11 回 主題化</p> <p>第 12 回 存在文</p> <p>第 13 回 be 動詞を軸にした倒置</p> <p>第 14 回 外置構文</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習 2 時間以上, 復習 2 時間以上必要である。		
成績評価の方法	授業への取り組み (50%) + レポート (50%)		

授業科目	基礎演習 I		担当者	石井 英里子				
	[履修年次]	1	授業外対応	適宜 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 第二言語習得に関する知識を深め、研究方法の基礎的なスキルを習得する。</p> <p>【概要】 第二言語習得に関する英語文献を読み、その内容をまとめ、発表し、ディスカッションをする力をつける。本授業のまとめとして、各自自由に卒業研究論文の構想発表を行う。本授業は英語で行う。</p> <p>【到達目標】 ①第二言語習得に対する興味・関心を広げ、関連する問題について主体的に考えることができる。②専門書を読み、要約や発表用レジュメを作成し、内容を英語で口頭発表することができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Brown H. D. (2014). <i>Principles of Language Learning and Teaching 6th Edition</i>, Pearson Japan.</p> <p>(2) 参考文献は授業で紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 第二言語習得理論とは、授業の運営方法、発表とレジュメの作成方法、要約の仕方</p> <p>第 2 回 個人発表</p> <p>第 3 回 Language, Learning, and Teaching</p> <p>第 4 回 First Language Acquisition</p> <p>第 5 回 Age and Acquisition</p> <p>第 6 回 Human Learning</p> <p>第 7 回 Styles and Strategies</p> <p>第 8 回 Personality Factors</p> <p>第 9 回 Sociocultural Factors</p> <p>第 10 回 Communicative Competence</p> <p>第 11 回 Cross-Linguistic Influence and Learner Language</p> <p>第 12 回 Toward a Theory of Second Language Acquisition</p> <p>第 13 回 卒業研究構想発表 (1)</p> <p>第 14 回 卒業研究構想発表 (2)</p> <p>第 15 回 卒業研究構想発表 (3)</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習 (発表準備含む) 3 時間以上必要である。							
成績評価の方法	授業への取り組み(20%)、文献の要約(20%)、卒業研究構想発表(30%)、最終レポート課題(30%)で評価する。							

授業科目	英語学演習		担当者	遠峯伸一郎				
	[履修年次]	2	授業外対応	講義終了時、適宜 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	1	[必修/選択]	選択必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】卒業研究に向けての準備。</p> <p>【概要】共感覚のメタファーを題材に英語と日本語の比較をする。その結果をレポートにまとめることを通して、卒業研究の執筆方法を学ぶ。卒業研究のテーマを確定させ、リサーチクエスチョンを立てられる。</p> <p>【到達目標】卒業研究の執筆方法を身につける。卒業研究のテーマを確定させる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 浜田麻里ほか(1997)『大学生と留学生のための論文ワークブック』、くろしお出版、東京。</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 卒業研究のテーマ設定とリサーチクエスチョンの提起 (1)</p> <p>第 3 回 卒業研究のテーマ設定とリサーチクエスチョンの提起 (2)</p> <p>第 4 回 卒業研究のテーマ設定とリサーチクエスチョンの提起 (3)</p> <p>第 5 回 卒業研究のテーマ設定とリサーチクエスチョンの提起 (4)</p> <p>第 6 回 卒業研究のテーマ設定とリサーチクエスチョンの提起 (5)</p> <p>第 7 回 事例研究 共感覚メタファー(1) 日本語の資料 例の収集とその提示方法</p> <p>第 8 回 事例研究 共感覚メタファー(2) 英語の資料 例の収集とその提示方法</p> <p>第 9 回 事例研究 共感覚メタファー(3) 日英比較 言語間比較の方法</p> <p>第 10 回 事例研究 同意の表現(1) 資料の収集 例の収集とその提示方法</p> <p>第 11 回 事例研究 同意の表現(2) 例の分析 理論に従って例を分析する方法</p> <p>第 12 回 個別指導</p> <p>第 13 回 (予備日)</p> <p>第 14 回 卒業研究に向けてのプレゼンテーション (1)</p> <p>第 15 回 卒業研究に向けてのプレゼンテーション (2)</p>							
授業外学習(予習・復習)	復習 3 時間以上必要である。							
成績評価の方法	授業への取り組み (20%) + プレゼンテーションとレポート (80%)							

授業科目	英語学演習		担当者	石井 英里子
	[履修年次] 2		授業外対応	適宜 (要予約)
	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 選択必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語教育 (TESOL) に関する研究方法と英語論文の書き方の習得</p> <p>【概要】 英語教育 (TESOL) に関する英語文献を読み、その内容をまとめ、発表し、ディスカッションをする。各自が設定した研究テーマについて、文献研究を行い、卒業研究計画としてまとめ、発表する。本授業は英語で行う。</p> <p>【到達目標】 ①英語教育 (TESOL) に対する興味・関心を広げ、関連する問題について主体的に考えることができる。②各自の研究テーマについて、文献研究を行うことができる。③研究方法や英語論文の書き方を習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) ①Brown, S. & Larson-Hall, J. (2012). <i>Second Language Acquisition Myths</i>. Michigan University Press. ② Celce-Murcia, M., Brinton, M. D., & Snow, A. M. (Eds.) (2013). <i>Teaching English as a Second or Foreign Language 4th Edition</i>. Heinle ELT. その他の参考文献は授業で紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス, 卒業研究構想発表</p> <p>第 2 回 Writing Research Papers (1) Library research, Writing an annotated bibliography</p> <p>第 3 回 Communicative Language Teaching</p> <p>第 4 回 Teaching World Englishes</p> <p>第 5 回 Language Skills (1)</p> <p>第 6 回 Language Skills (2)</p> <p>第 7 回 Task-Based Language Teaching and Learning</p> <p>第 8 回 Bilingual Education</p> <p>第 9 回 Motivation in Second Language Learning</p> <p>第 10 回 Language Learning Strategies and Styles</p> <p>第 11 回 Writing Research Papers (2) Literature review</p> <p>第 12 回 Writing Research Papers (3) Research method</p> <p>第 13 回 卒業研究計画の発表 (1)</p> <p>第 14 回 卒業研究計画の発表 (2)</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習 (発表準備含む) 3時間以上必要である。			
成績評価の方法	授業への取り組み(20%), 文献の要約(20%), 卒業研究計画発表(30%), 文献研究レポート課題(30%)で評価する。			

授業科目	英文学概論		担当者	轟 義昭
	[履修年次] 1年		授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】イギリス文学において、詩、劇、散文、小説の作品を鑑賞し問題点を探求する。</p> <p>【概要】「詩」「劇」「散文」「小説」のジャンルから具体的に作品を取り上げて問題点を探究していく。基本的な事項は予習させ、授業中に確認していく。問題点の探求においては、受講生との対話形式 (ディスカッション) を取り入れる。受講生には発言を求めないので、前もってテキストをしっかりと読んでおくことを要望する。</p> <p>【到達目標】「詩」「劇」「散文」「小説」の作品を読み、作品に潜む問題点を考える能力 (探求能力) を身に付ける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) W.シェイクスピア作 小田島雄志訳 『リア王』 白水Uブックス C.ディケンズ作 村岡花子訳 『クリスマス・キャロル』 新潮文庫 エミリー・ブロンテ作 鴻巣友季子訳 『嵐が丘』 新潮文庫</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション (「英文学概論」はどのような学問か、15回の講義で何を学ぶかについての説明)</p> <p>第 2 回 詩の鑑賞と問題点の探求: G.チョーサー『カンタベリー物語』</p> <p>第 3 回 劇の鑑賞と問題点の探求 (その1): W. シェイクスピア『リア王』</p> <p>第 4 回 劇の鑑賞と問題点の探求 (その2): W. シェイクスピア『リア王』</p> <p>第 5 回 劇の鑑賞と問題点の探求 (その3): W. シェイクスピア『リア王』</p> <p>第 6 回 劇の鑑賞と問題点の探求 (その4): W. シェイクスピア『リア王』</p> <p>第 7 回 散文の鑑賞と問題点の探求 (その1): J.スウィフト『ガリヴァー旅行記』</p> <p>第 8 回 散文の鑑賞と問題点の探求 (その2): J.スウィフト『ガリヴァー旅行記』</p> <p>第 9 回 散文の鑑賞と問題点の探求 (その3): J.スウィフト『ガリヴァー旅行記』</p> <p>第 10 回 小説の鑑賞と問題点の探求 (その1): C.ディケンズ『クリスマス・キャロル』</p> <p>第 11 回 小説の鑑賞と問題点の探求 (その2): E.ブロンテ『嵐が丘』</p> <p>第 12 回 小説の鑑賞と問題点の探求 (その3): E.ブロンテ『嵐が丘』</p> <p>第 13 回 小説の鑑賞と問題点の探求 (その4): E.ブロンテ『嵐が丘』</p> <p>第 14 回 小説の鑑賞と問題点の探求 (その5): E.ブロンテ『嵐が丘』</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	第1回目に配布する「講義内容&資料」に記載した指示に従い、予習・宿題・課題に取り組むこと			
成績評価の方法	筆記試験 (50%), 課題提出・宿題・予習を含む授業への取り組み (50%)			

(注) 教職必修

授業科目	英文学史		担当者	轟 義昭		
	[履修年次] 2年	[学期] 後期	[単位] 2単位	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応	
			[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】18世紀～20世紀における「小説」の流れを概観する。</p> <p>【概要】まず、文学史という科目に潜んでいる問題点を考える。次に、18世紀～20世紀における主要な作家と作品を取り上げて、「小説」の流れを概観し、18世紀の特徴、19世紀の特徴、20世紀の特徴を理解させる。また、受講者にはイギリス文学に親しんでもらうために、指定した映像作品を鑑賞してもらい、「映画作品から親しむイギリス文学」というレポートを課す。</p> <p>【到達目標】18世紀の小説の特徴、19世紀の小説の特徴、20世紀の小説の特徴を理解する。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 川崎寿彦著 『イギリス文学史』 成美堂</p> <p>(2) サブテキストは講義中に指定する。</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション (講義方式の説明, 文学史の科目に潜む問題点の探求)</p> <p>第2回 18世紀の小説 (その1) : 18世紀の小説とその周辺に関する諸問題</p> <p>第3回 18世紀の小説 (その2) : 18世紀の小説における H. フィールドディング, L. スターン, T. スモレットの役割</p> <p>第4回 18世紀の小説 (その3) : 18世紀後半のゴシック小説</p> <p>第5回 18世紀の小説 (その4) : J. オースティンの小説</p> <p>第6回 18世紀の小説に関する小テスト, 19世紀の小説 (その1) : 19世紀 (ヴィクトリア朝) 小説の特徴</p> <p>第7回 19世紀の小説 (その2) : C. ディケンズの小説</p> <p>第8回 19世紀の小説 (その3) : W.M. サッカレーの小説, ブロンテ姉妹の小説</p> <p>第9回 19世紀の小説 (その4) : ダーウィニズムの影響, 19世紀後半 (ヴィクトリア朝後期) の小説</p> <p>第10回 19世紀の小説に関する小テスト, 20世紀の小説 (その1) : 20世紀小説の特徴</p> <p>第11回 20世紀の小説 (その2) : V. ウルフの小説, H. ジェームズズの小説, E. M. フォスターの小説</p> <p>第12回 20世紀の小説 (その3) : D.H. ロレンスの小説</p> <p>第13回 20世紀の小説 (その4) : H.G. ウェルズの小説</p> <p>第14回 20世紀の小説に関する小テスト, 映像課題に関する発表会</p> <p>第15回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	予習は授業で扱う作家と作品に関する事前調査3回(プリント), 復習は小テスト(3回)の準備					
成績評価の方法	筆記試験(60%), 講義中の小テスト/授業への取り組み(30%), 課題レポート分(10%)					

(注) 日本語日本文学専攻は選択

授業科目	米文学史		担当者	アダメック フィリップ		
	[履修年次] 2年	[学期] 前期	[単位] 2単位	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
			[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Introduction to the history of American literature.</p> <p>【概要】 The course will include lectures and group presentations. Students will write short essays, perform poetry, and make short presentations. Quizzes will test comprehension of reading and lecture content.</p> <p>【到達目標】 The course introduces students to the literary history of the United States.</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) なし</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 How should I read?</p> <p>第2回 How should I write ?</p> <p>第3回 Introduction to American literature.</p> <p>第4回 The negro spritual as literary art form.</p> <p>第5回 1700s : The negro spiritual and its literary history.</p> <p>第6回 1851 : Sojourner Truth and the oral tradition of American literary history</p> <p>第7回 1851 : Sojourner Truth and the oral tradition of American literary history 小テスト(1)</p> <p>第8回 1854 : Economy : the project of <u>Walden</u> and its meaning for Thoreau, I</p> <p>第9回 1854 : Economy : the project of <u>Walden</u> and its meaning for Thoreau, II</p> <p>第10回 1920 : Robert Frost and the poetry of indecision</p> <p>第11回 1920 : Robert Frost and the poetry of indecision</p> <p>第12回 1950s : James Baldwin and the question of race (the Harlem Renaissance)</p> <p>第13回 1950s : James Baldwin and the question of race (the Harlem Renaissance)</p> <p>第14回 1960s: Allen Ginsberg and the writers of the Beat Generation 小テスト(2)</p> <p>第15回 Make-up work and general review</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。					
成績評価の方法	Attendance & class participation 出席&授業での参加の度合 (80%) Quizzes テスト (20%)					

(注) 教職必修

授業科目	比較文学		担当者	小林 朋子				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「対話」的文学論で読む世界の文学</p> <p>【概要】現代アメリカを代表する作家トニ・モリスンの『ピラヴィド』と、世界各国の様々な時代またジャンルの文学を比較検討することで、人類の文化の全体像にせまる。本講義が基本姿勢としているのは、ロシアの思想家バフチンが述べた「対話」の概念である。あるイデオロギーの存在を認めつつ、それとは対立する別のイデオロギーの存在も容認することを彼は促したが、本講義ではこの「対話」の思想をベースに各国の文学を対等な関係に置いて、その衝突、交流、混合を比較検討する。履修者は授業で紹介するテキストを丁寧に読み、そこから問題点を抽出し、その問題点を別の事象に結びつけることで、大きな視野で物事を理解する比較文学ならではの思考方法を学ぶことになる。</p> <p>【到達目標】比較文学の研究方法を学ぶ。図書の構造的読解力、情報を調査し活用する能力を向上させる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント配布</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン：対話的文学論とは</p> <p>第2回 劇場の機知：『ピラヴド』と井上ひさし『父と暮らせば』(1)</p> <p>第3回 劇場の機知：『ピラヴド』と井上ひさし『父と暮らせば』(2)</p> <p>第4回 言語の表象不可能性：『ピラヴド』と井上ひさし『父と暮らせば』(1)</p> <p>第5回 言語の表象不可能性：『ピラヴド』と井上ひさし『父と暮らせば』(2)</p> <p>第6回 神話批評：『ピラヴド』とウィネバゴ・インディアン神話(1)</p> <p>第7回 神話批評：『ピラヴド』とウィネバゴ・インディアン神話(2)</p> <p>第8回 神話批評：『ピラヴド』とヨルバ族神話</p> <p>第9回 名称付与：『ピラヴド』と「千と千尋の神隠し」(1)</p> <p>第10回 名称付与：『ピラヴド』と「千と千尋の神隠し」(2)</p> <p>第11回 言語と音楽：『ピラヴド』とブラック・ミュージック(1)</p> <p>第12回 言語と音楽：『ピラヴド』とブラック・ミュージック(2)</p> <p>第13回 意識の流れ：『ピラヴド』とウィリアム・フォークナー</p> <p>第14回 意識の流れ：『ピラヴド』とヴァージニア・ウルフ</p> <p>第15回 レポートのテーマ報告会とまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。							
成績評価の方法	授業への参加態度(10%)、テーマごとに提出する小レポート(30%)、最終レポート(60%)							

授業科目	英米文学講読 I		担当者	小林 潤司				
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	質問等には講義終了時に対応する。				
	[学期]	前期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】シェイクスピアとその時代</p> <p>【概要】エリザベス時代のロンドンには未曾有の人口増加の過程にあった。いわゆる「エリザベス朝演劇」とは、この都市の膨張に伴って生じた、娯楽の新規需要を背景にして栄えた芸能であった。「千万の心」をもって普遍的な人間性の真実を描いたと称えられるシェイクスピアは、同時に、当時のロンドン市民の好尚に合う新しい芸能を担った、興行資本家であり役者であり脚本作者だったのだ。本講では、この「<時代の落とし子>にして<世界の文豪>」を準備した演劇的風土を、周辺の劇作家群像をも視野に入れながら、できる限り立体的に論じてみたい。</p> <p>【到達目標】初期近代イングランドの演劇と文化の歴史的な背景を簡潔に説明することができる。ルネサンス、人文主義、宗教改革について、現代の世界のありかたと関連づけて、概略を説明することができる。シェイクスピアの伝記と作品の概要を説明することができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) William Shakespeare, <i>Julius Caesar</i>, ed. Roma Gill, Oxford School Shakespeare, (Oxford UP)</p> <p>(2) 河合祥一郎・小林章夫(編)『シェイクスピア・ハンドブック』(三省堂)</p> <p>G. L. ブルック『シェイクスピアの英語』(松柏社)</p> <p>*テキストの入手方法については授業中に指示するので、事前に準備する必要はない。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 世界の拡大</p> <p>第2回 ルネサンス観の多様性</p> <p>第3回 人文主義</p> <p>第4回 宗教改革と国民国家の形成</p> <p>第5回 ストラットフォードからロンドンへ</p> <p>第6回 歴史劇・詩</p> <p>第7回 初期・中期の喜劇</p> <p>第8回 初期の悲劇</p> <p>第9回 『ハムレット』</p> <p>第10回 『オセロー』</p> <p>第11回 『リア王』</p> <p>第12回 『マクベス』</p> <p>第13回 問題劇</p> <p>第14回 ロマンズ劇</p> <p>第15回 まとめとふりかえり</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業で取り上げた作品、研究文献の一部に目を通すことが求められる。							
成績評価の方法	授業参加状況(予習の状況および授業時間中の発表と発言)30% 学期末試験70%							

授業科目	英米文学講読Ⅱ		担当者	小林 潤司	
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	質問等には講義終了時に対応する。	
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1単位	
			〔必修/選択〕	選択	
				〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】シェイクスピア『ジュリアス・シーザー』講読</p> <p>【概要】『ジュリアス・シーザー』（以下『シーザー』）は、シェイクスピアが劇作家人生の最も重要な転機を迎えて世に問うたいくつかの作品のひとつに数えられる。1599年に地球座（the Globe）が開場したのをきっかけに宮内大臣一座の経営陣に加わった俳優兼劇作家が、この新劇場で上演するために執筆した作品のひとつがこの悲劇だったらしい。これに先立って創作した歴史劇『ヘンリー五世』で父が犯した罪と王としての責任の重圧に苦しむ内省的な主人公を描き出したシェイクスピアは、その経験を『シーザー』ではブルータスの人物造形に活かしたと考えられる。その延長線上にハムレット王子というキャラクターの創造が位置づけられることを考えると、この作品の重要性はいくら強調しても足りないぐらいである。本講義では、『シーザー』の講読を通して、シェイクスピアの歴史的背景、伝記、作劇法の全体像を大づかみでも把握できればと考えている。</p> <p>【到達目標】シェイクスピアの歴史的背景、伝記、作品の概要を説明することができる。『シーザー』の構造、その成立に関する主要な仮説について概略を説明できる。『シーザー』から任意のパスセージを、作品の主題との関連、修辞などの表現形式の両面から分析、評釈することができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) William Shakespeare, <i>Julius Caesar</i>, ed. Roma Gill, Oxford School Shakespeare (Oxford UP)</p> <p>(2) 河合祥一郎・小林章夫（編）『シェイクスピア・ハンドブック』（三省堂） G. L. ブルック『シェイクスピアの英語』（松柏社）</p> <p>*テキストの入手方法については授業中に指示するので、事前に準備する必要はない。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 『ジュリアス・シーザー』 1.1～1.2</p> <p>第2回 『ジュリアス・シーザー』 1.2（続き）</p> <p>第3回 『ジュリアス・シーザー』 1.3</p> <p>第4回 『ジュリアス・シーザー』 2.1</p> <p>第5回 『ジュリアス・シーザー』 2.1（続き）</p> <p>第6回 『ジュリアス・シーザー』 2.1（続き） 2.2</p> <p>第7回 『ジュリアス・シーザー』 2.2（続き）～2.4</p> <p>第8回 『ジュリアス・シーザー』 3.1</p> <p>第9回 『ジュリアス・シーザー』 3.1（続き）～3.2</p> <p>第10回 『ジュリアス・シーザー』 3.2（続き）～3.3</p> <p>第11回 『ジュリアス・シーザー』 4.1～4.3</p> <p>第12回 『ジュリアス・シーザー』 4.3(続き)</p> <p>第13回 『ジュリアス・シーザー』 5.1～5.3</p> <p>第14回 『ジュリアス・シーザー』 5.3（続き）～5.5</p> <p>第15回 まとめとふりかえり</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業中に読むことができなかった部分を補って読むほか、授業で取り上げた研究文献の一部に目を通すことが求められる。				
成績評価の方法	授業参加状況（予習の状況および授業時間中の発表と発言）30% 学期末試験 70%				

授業科目	英米文学講読Ⅲ		担当者	轟 義昭	
	〔履修年次〕	1, 2年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応	
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位	
			〔必修/選択〕	選択	
				〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】イギリス文学作品に親しむ。</p> <p>【概要】C.ディケンズの『オリヴァー・トゥイスト』を読む。授業は速読形式で進め、担当者が用意したプリントに基づいて各章ごとに内容と問題点を確認していく。作品を読むには記憶力が大事である。物語内容の理解度を確認するために、小テストを6回実施する。また作品は映画化されているので、プロットと背景が理解できるようにビデオを活用したい。</p> <p>【到達目標】作品の内容を理解し、作品全体を通して読者に訴えかける作者の主張を読み解く。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Charles Dickens, <i>Oliver Twist</i> (ペンギンリーダーズ) 南雲堂フェニックス</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方の説明）、映像作品『オリヴァー・トゥイスト』の鑑賞</p> <p>第2回 映像作品『オリヴァー・ツイスト』の鑑賞（続き）と解説</p> <p>第3回 テキスト第1章～第3章を読む。プリントによる問題点の確認</p> <p>第4回 第1章～第3章の小テスト（1回目）およびその解説。第4章を読む。プリントによる問題点の確認</p> <p>第5回 第5章～第6章を読む。プリントによる問題点の確認</p> <p>第6回 第4章～第6章の小テスト（2回目）およびその解説。第7章を読む。プリントによる問題点の確認</p> <p>第7回 第8章～第9章を読む。プリントによる問題点の確認</p> <p>第8回 第7章～第9章の小テスト（3回目）およびその解説。第10章～第11章を読む。プリントによる問題点の確認</p> <p>第9回 第12章～第13章を読む。プリントによる問題点の確認</p> <p>第10回 第10章～第13章の小テスト（4回目）およびその解説。第14章～第15章を読む。プリントによる問題点の確認</p> <p>第11回 第16章～第17章を読む。プリントによる問題点の確認</p> <p>第12回 第14章～第17章の小テスト（5回目）およびその解説。第18章～第19章を読む。プリントによる問題点の確認</p> <p>第13回 第19章～第21章を読む。プリントによる問題点の確認</p> <p>第14回 第18章～第21章の小テスト（6回目）およびその解説</p> <p>第15回 まとめ（『オリヴァー・トゥイスト』はどのような作品だったか）</p>				
授業外学習(予習・復習)	予習は担当者が用意したプリント（宿題）、復習は小テスト（6回）の準備				
成績評価の方法	レポート（40%）、小テスト（30%）予習を含む授業への取り組みと授業での発言内容（30%）				

授業科目	講読演習Ⅱ		担当者	轟 義昭
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	[単位] 1単位	[授業外対応] 質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	[必修/選択]	選択必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】イギリス文学作品に親しむ。</p> <p>【概要】ペンギンリーダーズのテキストを利用して、J.オースティンの『分別と多感』を読む。授業はテキストを読んで日本語に訳す精読方式ですすめていく。また担当者が準備したプリントに基づいて各章ごとに内容と問題点を確認していく。作品は映画化されているので、プロットと背景が理解できるようにビデオを活用したい。</p> <p>【到達目標】作品の内容を理解し、作品全体を通して読者に訴えかける作者の主張を読み解く。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Jane Austen, <i>Sense and Sensibility</i> (英潮社フェニックス) (2)			
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション (授業の進め方の説明), 映像作品『いつか晴れた日に』の鑑賞 第2回 映像作品『いつか晴れた日に』の鑑賞(続き)と解説 第3回 テキストの第1章～第2章を読む 第4回 プリントによる第1章と第2章の問題点の確認と解説 第5回 第3章を読む 第6回 プリントによる第3章の問題点の確認と解説 第7回 第4章を読む 第8回 プリントによる第4章の問題点の確認と解説 第9回 第5章を読む 第10回 プリントによる第5章の問題点の確認と解説 第11回 第6章を読む 第12回 プリントによる第6章の問題点の確認と解説 第13回 第7章を読む 第14回 プリントによる第7章の問題点の確認と解説 第15回 まとめ (プレゼン: パワーポイントを使って発表)			
授業外学習(予習・復習)	予習は各章の訳および担当者が用意した宿題プリント			
成績評価の方法	レポート及びプレゼンテーション (50%), 予習を含む授業への取り組みと授業での発言内容 (50%)			

授業科目	基礎演習Ⅱ		担当者	轟 義昭
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	[単位] 1単位	[授業外対応] 質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	[必修/選択]	選択必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英詩と映画及び文学と映画 (大衆文化のなかのイギリス文学)</p> <p>【概要】映画のなかにも英詩が用いられている場合がある。授業では映画(洋画, 邦画)を利用して, 高尚なイギリス文学(ここでは英詩)を学習する。映画における英詩および映画の内容についてディスカッションを行うので, 各自の自主的な発言が求められる。また, 比較文学的アプローチの仕方では黒澤監督の映画『乱』の魅力を考える。</p> <p>【到達目標】英詩と映画及び文学と映画という視点で, 映画を鑑賞する力を身に付けさせる。また, プレゼンテーションによって各自の考えを発信する能力を身に付けさせる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)			
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション (授業の進め方の説明), W.ブレイクと彼の詩「無心のまえぶれ」の説明と問題提起 第2回 「無心のまえぶれ」の解説, 映画『博士の愛した数式』の鑑賞(その1)及び問題点の確認 第3回 映画『博士の愛した数式』の鑑賞(その2)及び問題点の確認 第4回 『博士の愛した数式』の分析(ディスカッション) 第5回 『博士の愛した数式』に関するプレゼン(発信), J.キーツと彼の詩「秋に寄せるうた」の説明と問題提起 第6回 「秋に寄せるうた」の解説, W.シェイクスピア『ソネット』18番の説明と問題提起/解説 *映画『ブリジット・ジョーンズの日記』及び『恋におちたシェイクスピア』は図書館に所蔵。各自で鑑賞 第7回 『ブリジット・ジョーンズの日記』の分析(ディスカッション) 第8回 『恋におちたシェイクスピア』の分析(ディスカッション) 第9回 『ブリジット・ジョーンズの日記』または『恋におちたシェイクスピア』のいずれかに関するプレゼン(発信) 第10回 W.シェイクスピア『リア王』と黒澤明監督『乱』の類似点と相違点(問題提起) 第11回 映画『乱』の鑑賞(その1)及び問題点の確認 第12回 映画『乱』の鑑賞(その2)及び問題点の確認 第13回 比較文学的アプローチ: 類似点と相違点の確認及び両作品の分析(ディスカッション) 第14回 『乱』に関するプレゼン(発信), 黒澤映画『蜘蛛巣城』とシェイクスピア『マクベス』の紹介 第15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	予習は授業で取り扱う詩に関する宿題(2回)及び比較分析に関する宿題(1回), ディスカッションの準備としてスクリプトを読む(3回), プレゼンのためのパワーポイント作り(3回)			
成績評価の方法	プレゼンテーション (50%), 授業への取り組み (50%)			

授業科目	基礎演習Ⅱ		担当者	アダメック フィリップ
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[単位] 1単位	[必修/選択]	選択必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ゼミでは研究の仕方とライティングを指導します。具体的なテーマはゼミ生が自ら選択します。</p> <p>【概要】卒業論文の作成、推敲をします。卒業研究発表会に向けての準備もします。</p> <p>【到達目標】受講者はアメリカ人の教員のもとで言語のすべての技能(リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング)を練習します。自ら選択したテーマの研究の仕方と論文の書き方を身につけます。英語圏の国で大学の授業を受けるのはどのような感じか知り、英語で卒業論文の発表をすることで自信をつけます。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) なし</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 リサーチ方法について Goals</p> <p>第2回 リサーチ方法について Writing about images</p> <p>第3回 リサーチ方法について Writing about images. What I see, what I think</p> <p>第4回 リサーチ方法について What I see, what I think</p> <p>第5回 リサーチ方法について Introducing what I see, what I think</p> <p>第6回 リサーチ方法について Mini-presentations</p> <p>第7回 リサーチ方法について Mini-presentations</p> <p>第8回 リサーチ方法について Paraphrase</p> <p>第9回 リサーチ方法について Paraphrase</p> <p>第10回 リサーチ方法について Commentary</p> <p>第11回 リサーチ方法について Commentary</p> <p>第12回 リサーチ方法について Writing about words</p> <p>第13回 リサーチ方法について Writing about words</p> <p>第14回 リサーチ方法について Connecting different source materials ; mini-presentations</p> <p>第15回 Prospects</p>			
授業外学習(予習・復習)				
成績評価の方法	授業内での発言 (50%)、総まとめ (30%)、作品集 (20%)。			

授業科目	英米文学演習		担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年	[学期] 前期	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応します
	[単位] 1単位	[必修/選択]	選択必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】J.オースティンの作品研究</p> <p>【概要】セミナーではジェーン・オースティンの作品研究を行う。ペンギンリーダーズのテキストを利用して『エマ』の作品を読み、ヒロインの成長に焦点を当てながら、作者の結婚観と風刺を考察する。また、その映画を鑑賞して、テキストと映像作品の相違点を考える。授業は担当者が用意したプリントに基づいて各章ごとに内容と問題点を確認していく。</p> <p>【到達目標】作者の結婚観と風刺を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Jane Austen 著 『エマ』(ペンギンリーダーズ) 南雲堂フェニックス</p> <p>(2) 随時紹介</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 セミナーの運営方法と説明、映画『エマ』の鑑賞</p> <p>第2回 映画『エマ』の鑑賞(続き)と作品の解説</p> <p>第3回 第1章 An Offer of Marriage の分析(プリントによる問題点の確認)</p> <p>第4回 第2章 A Second Offer の分析(プリントによる問題点の確認)</p> <p>第5回 第3章 Mr Elton's Choice の分析(プリントによる問題点の確認)</p> <p>第6回 第4章 Frank Charchill Appears の分析(プリントによる問題点の確認)</p> <p>第7回 第5章 Mrs Elton Comes to Highbury の分析(プリントによる問題点の確認)</p> <p>第8回 第6章 The Ball at the Crown Inn の分析(プリントによる問題点の確認)</p> <p>第9回 第7章 The Trip to Box Hill の分析(プリントによる問題点の確認)</p> <p>第10回 第8章 A Secret Engagement の分析(プリントによる問題点の確認)</p> <p>第11回 第9章 The Weddings の分析(プリントによる問題点の確認)</p> <p>第12回 オースティン作品の映画鑑賞(その1):『プライドと偏見』と問題点の確認</p> <p>第13回 オースティン作品の映画鑑賞(その2):『プライドと偏見』と問題点の確認</p> <p>第14回 プレゼンテーション:『エマ』に関する課題発表会</p> <p>第15回 ジェーン・オースティンの作品に関する研究発表会+まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習は担当者が配布したプリント(宿題)、プレゼンのためのパワーポイント作り(2回)			
成績評価の方法	プレゼンテーション+作品研究の発表(70%)、授業への取り組み(30%)			

授業科目	英米文学演習	担当者	アダメック フィリップ
	[履修年次] 2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期 [単位] 1単位	[必修/選択] 選択必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ゼミでは研究の仕方とライティングを指導します。具体的なテーマはゼミ生が自ら選択します。</p> <p>【概要】卒業論文の作成、推敲をします。卒業研究発表会に向けての準備もします。</p> <p>【到達目標】受講者はアメリカ人の教員のもとで言語のすべての技能(リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング)を練習します。自ら選択したテーマの研究の仕方と論文の書き方を身につけます。英語圏の国で大学の授業を受けるのはどのような感じか知り、英語で卒業論文の発表をすることで自信をつけます。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) なし		
授業スケジュール	第 1回	リサーチ方法について	Goals
	第 2回	リサーチ方法について	Connecting different source materials
	第 3回	リサーチ方法について	Connecting different source materials
	第 4回	リサーチ方法について	Paraphrasing and commentary
	第 5回	リサーチ方法について	Paraphrasing and commentary
	第 6回	リサーチ方法について	Footnotes
	第 7回	リサーチ方法について	Paragraph structure
	第 8回	リサーチ方法について	Paragraph structure
	第 9回	リサーチ方法について	Paragraph structure
	第 10回	リサーチ方法について	Transitions
	第 11回	リサーチ方法について	Transitions
	第 12回	リサーチ方法について	Mini-presentations
	第 13回	リサーチ方法について	Mini-presentations
	第 14回	リサーチ方法について	Mini-presentations
	第 15回	リサーチ方法について	Mini-presentations
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法	授業内での発言 (50%)、総まとめ (30%)、作品集 (20%)。		

授業科目	比較文化	担当者	小林朋子
	[履修年次] 1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】お伽話で学ぶ比較文化</p> <p>【概要】お伽話の深層はすなわち文化の深層である。「赤ずきん」、「白雪姫」など、おなじみのお伽話には、ジェンダー、セクシュアリティ、政治、コロニアリズムなど、ありとあらゆる「文化」の問題が凝縮されている。これらの問題は多様な文化が接触する現代社会を生きる我々の今日的な問題でもある。本講義はまず時代ごとに変遷する「赤ずきん」のテキストを比較対照することで、文化の諸問題を明るみに出す。さらにそれらのテキストを身近な日本文化に引き合わせることで、人類の文化に内在する普遍性について解説する。第 14 回目からは履修者の最終レポートの要旨を授業内で発表しディスカッションを行う。</p> <p>【到達目標】比較文化の方法を学ぶ。英語読解力を向上させる。他言語を話す人々の価値観を知る。情報的的確に調査する能力、またそれを発信する自己表現能力を向上させる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 原英一編著『お伽話による比較文化論』(松柏社刊、1994年) (2) 授業で随時紹介します。		
授業スケジュール	第 1回	イントロダクション	
	第 2回	「赤ずきん」(1) —ペローの「赤ずきん」	
	第 3回	「赤ずきん」(2) —赤いずきんが覆うものは何か	
	第 4回	「赤ずきん」(3) —ティークの「赤ずきんちゃんの生と死」	
	第 5回	「赤ずきん」(4) —ウーマン・リブと日本のフェミニズム (下田歌子『良妻と賢母』を中心に)	
	第 6回	「赤ずきん」(5) —グリム兄弟の「赤ぼうしちゃん」	
	第 7回	「赤ずきん」(6) —「金ずきん」と「緑ずきん」	
	第 8回	「赤ずきん」(7) —パロディ化の可能性 (『日本沈没』を中心に)	
	第 9回	「赤ずきん」(8) —民衆の根源的なエネルギー (落語「たがや」を中心に)	
	第 10回	「赤ずきん」(9) —「おばあちゃんのお話」フォークロア研究と糞尿譚	
	第 11回	「白雪姫」—ジェンダーの寓話 (精神分析学と分析心理学)	
	第 12回	英語文化の基底としてのマザーグース—翻訳の可能性 (1)	
	第 13回	英語文化の基底としてのマザーグース—翻訳の可能性 (2)	
	第 14回	レポート発表会	
	第 15回	レポート発表会とまとめ	
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	授業への参加態度 (40%)、小レポート (20%)、最終レポート (40%)		

(注) 教職必修

授業科目	イギリス事情	担当者	ジョン・トレマーコ
	[履修年次] 2年	授業外対応	授業終了後
	[学期] 後期 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 British Culture, Modern and Traditional</p> <p>We will embark on a different approach this year. Instead of following a textbook, we will endeavour to extend the project theme we have carried out in previous years; it will no longer simply supplement the textbook, it will act as a replacement and form the core element of the course with a view to making a presentation at the conclusion of the term. The project theme has proved very successful in not only motivating the students throughout the year, but also in improving their communicative competence. The theme of the project will be decided upon by the students: it will be chosen according to the aptitude and number of students. The themes available will include: Music (classical and modern); Food; Education; Literature; History; Geography.</p> <p>【概要】 Utilizing the four basic skills, students will explore a number of British cultural features ranging from its history, education system and modern Britain.</p> <p>【到達目標】 The main emphasis will be on speaking and listening with a view to having the students make a presentation at the end of the course.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) All materials provided by the teacher (2)		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction & Orientation: Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. コース, 授業についての説明</p> <p>第 2 回 Choosing the Project theme</p> <p>第 3 回 ～ Planning and implementation of Project</p> <p>第 13 回</p> <p>第 14 回 Final Examination (presentation)</p> <p>第 15 回 Course Review</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜対応		
成績評価の方法	NB: The above is a guide only, the pace, range and choice of topics may well differ from those set out above depending on the characteristics of the class.		

授業科目	アメリカ事情	担当者	アダメック フィリップ
	[履修年次] 2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 後期 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 【テーマ】 Speaking of America.</p> <p>【概要】 This class is intended for students who wish to practice exchanging opinions in English. We begin with a discussion of general ideas about Americans and American culture. Students will help to guide topics of discussion based on their interests and questions about the United States, its government, its history, its culture, and its people. Students will also make short research presentations.</p> <p>【到達目標】 The aims of the course are i) to increase confidence in using English to talk about current cultural, historical, and/or political ideas that interest the students and ii) to raise awareness of various political and cultural aspects of the United States of America.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (2) なし		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction and self-introductions : goals of research and conversation.</p> <p>第 2 回 Unit 1 : Which America ? Images dark and bright.</p> <p>第 3 回 Unit 2 : How to start a new country.</p> <p>第 4 回 Unit 3: The balance of powers.</p> <p>第 5 回 Unit 4: The separation of church and state.</p> <p>第 6 回 Unit 5: The identity of the various American states.</p> <p>第 7 回 Quiz 1 / Units 1-5</p> <p>第 8 回 Unit 6: Youth culture.</p> <p>第 9 回 Pair- or group-research workshop.</p> <p>第 10 回 Pair- or group-research workshop.</p> <p>第 11 回 Pair- or group-research workshop.</p> <p>第 12 回 Mini-presentations.</p> <p>第 13 回 Mini-presentations</p> <p>第 14 回 Quiz 2 / Units 6, presentation-related materials.</p> <p>第 15 回 Presentation feedback and course review.</p>		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法	授業への参加 Presentations (50%) ; student-conducted research (30%) ; Quizzes (20%).		

授業科目	ヨーロッパ事情		担当者	小林朋子
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「大西洋システム」から再考するヨーロッパ</p> <p>【概要】15世紀後半から19世紀前半にあたる「西洋近代」の開始期に、ヨーロッパ人はその主導力によって、大西洋を挟む南北アメリカ、西アフリカをひとつの交換システム、「大西洋システム」に包摂していき、その過程で人種奴隷制プランテーションという近代特有の生産様式をつくり出した。例えば砂糖はその生産様式のもと、ヨーロッパ各国の王侯貴族のステータスを飾る奢侈品から一般大衆の必需品にまでなり、ヨーロッパ文化に溶け込んでいった。本講義ではまず15世紀までのヨーロッパの歴史を概観した後、西洋近代がつくり出した「大西洋システム」をキーワードに、このシステムの「中枢」に存在しダイナミックに分裂・統合を繰り返すヨーロッパとは一体何なのか歴史・文化的側面から解説したい。</p> <p>【到達目標】現在のヨーロッパ事情を歴史的背景を知った上で多角的に理解できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 明石和康著『ヨーロッパがわかる—起源から統合への道のり』岩波ジュニア新書 (岩波書店、2013年)</p> <p>(2) 池本幸三他著『近代世界と奴隷制』(人文書院、1995年)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨN</p> <p>第2回 ヨーロッパの砂糖はどこからきたのか (1)</p> <p>第3回 ヨーロッパの砂糖はどこからきたのか (2)</p> <p>第4回 近代世界と大西洋システム (1)</p> <p>第5回 近代世界と大西洋システム (2)</p> <p>第6回 近代世界と大西洋システム (3)</p> <p>第7回 ルネサンスと地理上の発見</p> <p>第8回 海洋国家オランダ</p> <p>第9回 奴隷と砂糖をめぐる政治</p> <p>第10回 コーヒー・ハウスが育んだ近代文化</p> <p>第11回 イギリス資本主義・市民革命・「商業革命」</p> <p>第12回 大西洋システムとしての「イギリス帝国」</p> <p>第13回 地中海から大西洋へ—砂糖の西漸運動</p> <p>第14回 ヨーロッパの闘技場—カリブ海領有をめぐる角逐</p> <p>第15回 砂糖と紅茶—ティータイム儀礼化に内包された歴史</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	授業への参加態度 (20%)、筆記試験 (80%)			

授業科目	講読演習Ⅲ		担当者	小林朋子
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	選択必修
			〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】芸術表象から学ぶ比較文化</p> <p>【概要】歴史画、神話画、宗教画といった様々なジャンルの絵画を題材に「視線」のつくられ方を解説したテキストを精読しながら、その絵画が表す時代の価値観および特質と他の時代のそれを比較することで、比較文化的なものを見方を学ぶ。輪読形式を取るため予習は必須である。</p> <p>【到達目標】速読・多読力を向上させると同時に、比較文化の方法を学ぶ。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『Looking at Pictures 絵画の歴史』鈴木繁夫 編註 (松柏社、1994年)</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨN</p> <p>第2回 Ways of looking at pictures (1)</p> <p>第3回 Ways of looking at pictures (2)</p> <p>第4回 History and mythology (1)</p> <p>第5回 History and mythology (2)</p> <p>第6回 Religious images (1)</p> <p>第7回 Religious images (2)</p> <p>第8回 An approach to stylistic analysis: Renaissance and Baroque contrasted (1)</p> <p>第9回 An approach to stylistic analysis: Renaissance and Baroque contrasted (2)</p> <p>第10回 Hidden Meaning (1)</p> <p>第11回 Hidden Meaning (2)</p> <p>第12回 Quality (1)</p> <p>第13回 Quality (2)</p> <p>第14回 Tradition</p> <p>第15回 まとめと試験</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	授業への積極的な参加態度 (60%)、筆記試験 (40%)			

授業科目	基礎演習Ⅲ	担当者	小林朋子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択必修 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】比較文学・比較文化</p> <p>【概要】本演習では、比較文学・比較文化に関連する論文を読み、この学問の方法論を学ぶことで次年度の学習につなげていく。担当箇所について発表し、全員で討論するかたちを取ることで、担当者以外も毎回あらかじめ論文を読み、疑問点を考えていくことが求められる。</p> <p>【到達目標】比較文学・文化の研究方法を学び、卒業研究に応用できるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント配布</p> <p>(2) 木下卓他編著『多文化主義で読む英米文学』、工藤庸子著『異文化の交流と共存』、渡邊守章他著『文化と芸術表象』</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 発表と討論：多文化主義的家族像（1）</p> <p>第3回 発表と討論：多文化主義的家族像（2）</p> <p>第4回 発表と討論：歴史の再構築と再記憶（1）</p> <p>第5回 発表と討論：歴史の再構築と再記憶（2）</p> <p>第6回 発表と討論：混血インディアン女性の自己表象（1）</p> <p>第7回 発表と討論：混血インディアン女性の自己表象（2）</p> <p>第8回 発表と討論：エキゾティシズム—他者憧憬と他者恐怖（1）</p> <p>第9回 発表と討論：エキゾティシズム—他者憧憬と他者恐怖（2）</p> <p>第10回 発表と討論：語りとは革新的創造行為である（1）</p> <p>第11回 発表と討論：語りとは革新的創造行為である（2）</p> <p>第12回 発表と討論：奴隷貿易・奴隷制というトラウマ（1）</p> <p>第13回 発表と討論：奴隷貿易・奴隷制というトラウマ（2）</p> <p>第14回 発表と討論：表象とその臨界（1）</p> <p>第15回 発表と討論：表象とその臨界（2）とまとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	担当時のプレゼンテーション（60%）、演習全体への積極的な参加態度（40%）		

授業科目	比較文化演習	担当者	小林朋子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択必修 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】翻訳で学ぶ異文化接触</p> <p>【概要】二つの言語と文化が真つ向から相まみえる翻訳は、異文化接触の最前線である。本演習はいわゆる「文化の翻訳」という手続きを含む、広い意味での英語テキストの読み取りをテーマにした論文を精読する。また受講者は担当した論文についてプレゼンテーションを行い、それをベースに全員でディスカッションをする。テキストを批判的に読むクリティカル・リーディングの方法も学ぶ。</p> <p>【到達目標】比較文化、比較文学の研究方法を学び、卒業研究に応用できるようにする。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント配布</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 英和辞典活用法：抽象語を翻訳する</p> <p>第3回 入試英語とは何か</p> <p>第4回 英語の女言葉：ジェンダーと敬語</p> <p>第5回 英英辞典活用法：歴史的テキストを翻訳する</p> <p>第6回 行間の＜傾向＞を読みとる</p> <p>第7回 正しい翻訳とは</p> <p>第8回 小説の翻訳：日本語の得意技</p> <p>第9回 論文の翻訳：言葉は論理より愛に近い</p> <p>第10回 漢文訓読と英文解釈</p> <p>第11回 直訳から「超訳」へ</p> <p>第12回 映し合う二つのテキスト：英訳された『雪国』</p> <p>第13回 哲学の言葉の翻訳</p> <p>第14回 翻訳の記号論：虚構としての言語</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	担当時のプレゼンテーション（50%）、討論への積極的な参加態度（50%）		

授業科目	対照言語学		担当者	楊 虹
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 対照言語学の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語、中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して、それぞれの特徴を明らかにし、日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また、言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。</p> <p>【到達目標】 日本語と外国語（英語、中国語）の主な共通点と相違点を理解し、実際の言語データを使って分析することができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：対照言語学とはどんな学問か、授業の概要説明 第 2 回 日英中の対照 (1)：主語の立て方 第 3 回 日英中の対照 (2)：主語の顕示と暗示 第 4 回 日英中の対照 (3)：実際の発話における文の形 第 5 回 日英中の対照 (4)：時に関する比較① 第 6 回 日英中の対照 (5)：時に関する比較② 第 7 回 日英中の対照 (6)：呼びかけ語の比較① 第 8 回 日英中の対照 (7)：呼びかけ語の比較② 第 9 回 日英中の対照 (8)：待遇表現に関する比較① 第 10 回 日英中の対照 (9)：待遇表現に関する比較② 第 11 回 日英中の対照 (10)：言語行動に関する比較① 第 12 回 日英中の対照 (11)：言語行動に関する比較② 第 13 回 発表準備 第 14 回 学生による発表 第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。			
成績評価の方法	授業への参加度:30%, 課題:30%, 発表:40%			

授業科目	言語学概論		担当者	楊 虹
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択 (注)
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 言語学に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、言語学に関する基礎知識を学ぶ。音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論および語用論、さらに言語獲得のメカニズムや言語によるコミュニケーションの仕組みから「ことば」を多角的に捉えていく。身近な例をあげてこれらの問題について考えながら授業を進める。</p> <p>【到達目標】 言語学の全体像を体系的に把握すると同時に、身近なことばと私たちの生活、社会の関連について理解を深める。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：言語学とはどんな学問か、授業の概要説明 第 2 回 音声学・音韻論 (1)：調音音声学、子音・母音 第 3 回 音声学・音韻論 (2)：モーラ、音節、アクセント 第 4 回 音声学・音韻論 (3)：連濁、枝分かれ制約 第 5 回 形態論：派生、複合など単語を生み出す仕組み 第 6 回 統語論 (1)：文の骨組みを作る仕組み 第 7 回 統語論 (2)：文の樹形図 第 8 回 意味論 (1)：単語の意味 第 9 回 意味論 (2)：文と文の間の意味関係 第 10 回 語用論 (1)：間接的言語行為と協調の原則 第 11 回 語用論 (2)：会話の含意 第 12 回 語用論 (3)：ポライトネスと敬語 第 13 回 言語コミュニケーションと社会：対人関係と地域差 第 14 回 これまでの復習 第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。			
成績評価の方法	授業での発言や参加度:30%, 小テスト30%, 期末レポート:40%			

授業科目	日本語学概論		担当者	望月 正道	
	[履修年次]	2年	授業外対応	随時(要メール予約)	
	[学期]	前期	[単位]	2	
			[必修/選択]	選択(注)	
				[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語に関する研究を行っていくうえで、また、日本文学(特に古典文学)を読んでいくためにも、必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】日本語学の各研究分野について概観するが、日本語で用いられる音声・音韻(音声言語)に関する事項についてはパソコン教室(※)で自分の声を分析しながら考察を行う。また、日本語においては文字・表記の問題も重要である。</p> <p>【到達目標】日本語学について平易に書かれた雑誌記事や新書が理解できる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 仁田義雄 他著『改訂版 日本語要説』ひつじ書房</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 日本語学とは：国語/日本語と国語学/日本語学</p> <p>第2回 現代語の音声・音韻論1：音声と音韻、音声器官、音声記号(国際音声字母)、母音 ※</p> <p>第3回 現代語の音声・音韻論2：カ行～ワ行の異音※</p> <p>第4回 現代語の音声・音韻論3：撥音、促音、音節※</p> <p>第5回 現代語の音声・音韻論4：文節(連文節)、アクセント※</p> <p>第6回 現代語の音声・音韻論5：文の焦点、イントネーション ※</p> <p>第7回 文字・書記：現代日本語の文字と書記法、国語施策、舊漢字</p> <p>第8回 現代語の語彙・語彙論1：語彙とは、単語とは、単語の性質</p> <p>第9回 現代語の語彙・語彙論2：単語の意味、単語の形式</p> <p>第10回 現代語の語彙・語彙論3：単語の出自、単語の構成、単語の位相</p> <p>第11回 現代語の文法・文法論1：文法とは、形態論</p> <p>第12回 現代語の文法・文法論2：統語論1(文のタイプ、文の成分)</p> <p>第13回 現代語の文法・文法論3：統語論2(述語の有する文法カテゴリー、節)</p> <p>第14回 社会言語学・方言学：位相、現代語の「ゆれ」、方言</p> <p>第15回 文章・談話：文章の構造、待遇表現 (※印はパソコン教室で実施。)</p>				
授業外学習(予習・復習)	各自事前にテキストを読んで疑問点を拾い出し、学習課題を考察してくること。				
成績評価の方法	筆記試験(テキスト・ノート・辞書等持ち込み可)の成績(80%)＋随時実施する小テストの成績及び授業での発言内容(20%)				

(注) 日本語日本文学専攻では、必修科目かつ教職必修。英語英文学専攻では、選択科目。

授業科目	日本文学史 I		担当者	竹本 寛秋	
	[履修年次]	1, 2年共通	授業外対応	適宜対応(要予約)	
	[学期]	前期	[単位]	2	
			[必修/選択]	選択	
				[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>日本近代文学史の基礎的な知識を修得するために、代表的な文学作品の本文に触れながら、明治期の歴史的変遷を理解する。</p> <p>【概要】</p> <p>「日本文学史・近代I」では、主に明治期の文学を扱う。「文学史」は、単なる文学作品の年代記ではなく、「文学」の範囲とは何か、「文学史」に入れるべき作品とは何かなど、さまざまな問題を含んでいる。講義では、文学作品と文学史について学生自身が考えることを重視し、実際の文学作品に触れながら、日本近代文学史を概観し、各作品の史的意義を多角的な視点から考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>日本の近代文学史・文学作品に関して基礎的な知識を持ち、自己の問題意識に従い考えを述べることができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 久保田 淳 監修『日本文学史』おうふう</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：「日本近代文学史」とは何か</p> <p>第2回 概論：「近代」とは何か 一夏目漱石、森鷗外、北村透谷一</p> <p>第3回 概論：「小説」概念の成立 一坪内逍遙一</p> <p>第4回 明治の文学1：近世と近代文学 一戯作、漢文体、翻訳小説、政治小説一</p> <p>第5回 明治の文学2：「国語」と近代文学 一速記、表記の改革、文体の改革一</p> <p>第6回 明治の文学3：詩歌の改良 一新体詩の出現一</p> <p>第7回 明治の文学4：言文一致小説 一二葉亭四迷一</p> <p>第8回 明治の文学5：写実主義と写生(1) 一尾崎紅葉、硯友社の文学一</p> <p>第9回 明治の文学6：写実主義と写生(2) 一正岡子規一</p> <p>第10回 明治の文学7：浪漫主義の小説と詩歌 一森鷗外、島崎藤村一</p> <p>第11回 明治の文学8：自然主義の小説(1) 一島崎藤村一</p> <p>第12回 明治の文学9：自然主義の小説(2) 一田山花袋一</p> <p>第13回 明治の文学10：反自然主義の小説 一夏目漱石一</p> <p>第14回 明治の文学11：口語自由詩 一川路柳虹、相馬御風一</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業中に指示する。				
成績評価の方法	授業ごとに実施するコメントカード・提出物の内容(30%)、筆記試験(70%)				

授業科目	日本文学史Ⅱ		担当者	竹本 寛秋				
	[履修年次]	1, 2年共通	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本近代文学史の基礎的な知識を修得するために、代表的な文学作品の本文に触れながら、大正から現代までの変遷を理解する。</p> <p>【概要】 「日本文学史・近代」では、主に大正から現代までの文学を扱う。「文学史」は、単なる文学作品の年代記ではなく、「文学」の範囲とは何か、「文学史」に入れるべき作品とは何かなど、さまざまな問題を含んでいる。講義では、文学作品と文学史について学生自身が考えることを重視し、実際の文学作品に触れながら、日本近代文学史を概観し、各作品の史的意義を多角的な視点から考察する。</p> <p>【到達目標】 日本の近代文学史・文学作品に関して基礎的な知識を持ち、自己の問題意識に従い考えを述べることができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 久保田 淳 監修『日本文学史』おうふう (2) 適宜、授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 概論：大正・昭和以降の「文学」の問題 —メディアの変革と「文学」— 第2回 大正の文学1：大正文壇と私小説 —白樺派、新思潮派— 第3回 大正の文学2：「純文学」と「大衆文学」の成立 第4回 昭和の文学1：新感覚派・前衛詩 第5回 昭和の文学2：主知主義文学 第6回 昭和の文学3：プロレタリア文学 第7回 昭和の文学4：文芸復興の時代 —転向文学、日本浪漫派、四季派— 第8回 昭和の文学5：戦争と文学 第9回 昭和の文学6：昭和二十年代の文学 —戦後文学の出発— 第10回 昭和の文学7：昭和三十年代の文学 —第三の新人の登場— 第11回 昭和の文学8：昭和四十年代の文学 —三島由紀夫の死— 第12回 昭和の文学9：昭和五十年以降の文学 —村上龍、村上春樹— 第13回 昭和の文学10：詩・短歌・俳句・演劇の動向 —塚本邦雄、岡井隆、寺山修司— 第14回 現代の文学：現代文学のゆくえ 第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業中に指示する。							
成績評価の方法	業ごとに実施するコメントカード・提出物の内容 (30%)、筆記試験 (70%)							

授業科目	日本語教育概論		担当者	楊 虹				
	[履修年次]	日本語日本文学専攻は1年、 英語英文学専攻は2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語教育学の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、日本語教育に初めて接する人を対象として、日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢、教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境、言語(外国語)習得の仕組み、日本語教育の教授法等を解説する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語教育に関する基礎知識を身につけ、日本語教育に興味を持ち、その全体像を把握できること。 グローバル化が進む今日の日本及び世界に対し、より広い視野と多様な見方を持つようになること。 							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：授業の概要説明および日本語教育の現状の概観 第2回 異文化接触と日本語教育：少子高齢化、定住外国人の増加、ボランティア教室 第3回 年少者に対する日本語教育：帰国子女・外国人児童生徒に対する教育 第4回 教師の役割①コースデザインとニーズ分析、 第5回 教師の役割②シラバス・デザイン 第6回 教材分析・開発 第7回 教授法①：直接法 オーディオリンガルメソッド コミュニカティブ・アプローチ 第8回 教授法②授業見学 第9回 教授法③授業見学の振り返り 第10回 授業の計画と実施①授業の組み立て方 第11回 授業の計画と実施②初級レベルの場合：導入 基本練習 応用練習 第12回 授業の計画と実施③中級以上のレベルの場合：ストラテジー教育 プロジェクトワーク 第13回 授業の計画と実施④文化を教える 第14回 評価法：熟達度テスト 到達度テスト 第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、復習が必要である。							
成績評価の方法	授業での参加度や提出物：30%、小テスト30%、期末レポート：40%							

授業科目	国際経済論		担当者	野村 俊郎				
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	研究室 (2号館3階) で対応、いつでもOK, 予約不要。				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】売れるモノ、儲かるものを企画するとはどういうことか～新興国で考える～</p> <p>【概要】新興国で世界一売れているトヨタ IMV は誰がどのように企画し設計したかを事例に考える。</p> <p>【到達目標】1か月の収入5万円の新興国で、1台500万円の車がバカ売れしている謎を解く。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 野村俊郎著『トヨタの新興国車 IMV』 文真堂</p> <p>(2)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 売れるモノ、儲かるモノの企画～iPhoneとIMVを比較する～</p> <p>第2回 売れるモノの企画：消費者は自分の欲しいものを知っているか？</p> <p>第3回 消費者のニーズを把握して企画する：マーケットイン</p> <p>第4回 消費者の知らない消費者が欲しいものを提案する：プロダクトアウト</p> <p>第5回 月収5万円の暮らしとは？</p> <p>第6回 バカ売れする1台500万円のIMV</p> <p>第7回 トヨタの強さの秘密：CE制度</p> <p>第8回 CEとZ</p> <p>第9回 大成功したIMVの持続的イノベーション、停滞するiPhone</p> <p>第10回 追いつける新興国メーカー～自動車での失敗とスマホでの成～</p> <p>第11回 トヨタのカンパニー制の狙い～現場の活力を引き出す～</p> <p>第12回 新興国でも始まる安全規制、燃費規制</p> <p>第13回 中国、ブラジル、インドの未来</p> <p>第14回 トヨタは、アップルはどこへ行く？</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業では事実よりも見方、考え方に重点をおいて語ります。その見方、考え方を使って、いろいろ自分でも考えてみてください。							
成績評価の方法	筆記試験							

授業科目	国際関係論		担当者	福田忠弘				
	[履修年次]	1, 2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生じさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史の変遷をたどる。</p> <p>【到達目標】国際社会の現代的諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的、方法</p> <p>第2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何か違うのか</p> <p>第3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化</p> <p>第4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦</p> <p>第5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1</p> <p>第6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2</p> <p>第7回 国際関係のなりたち4：朝鮮戦争とベトナム戦争</p> <p>第8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム</p> <p>第9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序</p> <p>第10回 国際社会における諸問題1：グローバリゼーションと貧困問題</p> <p>第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発</p> <p>第12回 国際社会における諸問題3：国境を越える諸問題</p> <p>第13回 国際社会における諸問題4：対テロ</p> <p>第14回 国際社会における諸問題5：グローバルガバナンス</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する							
成績評価の方法	試験(100%)によって評価する。							

授業科目	検定対策講座Ⅰ		担当者	轟 義昭
	[履修年次] 1年		授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】文法力・語彙力の強化と長文読解力の養成</p> <p>【概要】授業の目的は、検定対策として、英文読解力を向上させ、英文法の基礎知識を再確認させることにある。速読によって250語程度の英文を読んで内容を理解する能力を習得させる一方で、問題を解いて高校で習った文法事項を復習させる。また、一定の時間内に英検2級の問題（プリント学習）を解く感覚を身に付けさせる。LL教室を利用するので、リスニング問題も対処する。</p> <p>【到達目標】実用英語技能検定2級に合格できるように、英語のリーディング力と語彙・文法を身に付ける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 坂部俊行・岡島徳昭・W.ノエル 『英検2級 合格への道』 南雲堂 今村洋美・山田修治, 他 『新・英検2級サクセスコース』 金星堂 適宜, プリントによる問題も配布する。</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方の説明）, プリント学習（受講生のレベルを確認）</p> <p>第2回 『英検2級 合格への道』 Lesson 1 および『新・英検2級サクセスコース』 Lesson 1</p> <p>第3回 『合格への道』 Lesson 2 および『新・英検2級サクセスコース』 Lesson 2</p> <p>第4回 『合格への道』 Lesson 3 および『新・英検2級サクセスコース』 Lesson 3</p> <p>第5回 『合格への道』 Lesson 4 および『新・英検2級サクセスコース』 Lesson 4</p> <p>第6回 『合格への道』 Lesson 5 および『新・英検2級サクセスコース』 Lesson 5, 小テスト（1回目）</p> <p>第7回 『合格への道』 Lesson 6 および『新・英検2級サクセスコース』 Lesson 6</p> <p>第8回 『合格への道』 Lesson 7 および『新・英検2級サクセスコース』 Lesson 7</p> <p>第9回 『合格への道』 Lesson 8 および『新・英検2級サクセスコース』 Lesson 8</p> <p>第10回 『合格への道』 Lesson 9+プリント学習, 小テスト（2回目）</p> <p>第11回 『合格への道』 Lesson 10+プリント学習</p> <p>第12回 『合格への道』 Lesson 11+プリント学習</p> <p>第13回 『合格への道』 Lesson 12+プリント学習</p> <p>第14回 実践形式の練習（その1）: 筆記とリスニング, 小テスト（3回目）</p> <p>第15回 実践形式の練習（その2）+まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習は各課の問題を解いて授業に臨む準備, 復習は小テストの準備			
成績評価の方法	筆記試験（50%）, 小テスト（25%）, 予習を含む授業への取り組み（25%）			

授業科目	検定対策講座Ⅱ		担当者	土持 かおり
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この授業のテーマは、TOEICの出題傾向を探り、各パートの問題の対処法を習得するとともに、リスニング力、文法力、読解力をつけていくことです。</p> <p>【概要】TOEICで測られる能力とは、「英語力+戦略力（ストラテジー）」です。つまり、TOEICでスコアアップを目指すには、TOEICで求められる英語力とともに、問題を解くためのストラテジーを獲得していくことが効率的です。授業では、TOEICのリスニング・リーディングパートの各セクションの攻略法を学び、演習問題に取り組んでいきます。また、自宅学習にも生かせる効果的な学習法についても学んでいきます。自己目標の点数の獲得を確実なものにしていくためには、授業だけでなく課外での継続した自己学習が求められます。TOEICの学習に興味のある人は、この授業と一緒にがんばっていきましょう！</p> <p>【到達目標】コース終了時までにTOEIC500点以上を取ることを目標とします。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Mitsuyasu Miyazaki, Milada Broukal 著、『Intensive Training for the TOEIC Test』 出版社：成美堂</p> <p>(2) 参考文献は授業時に随時紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p><毎回、LL教室を使用します></p> <p>第1回 Preliminary Lesson – TOEICとは？/ 授業内容と進め方 / Pre-TOEIC Test にチャレンジ！</p> <p>第2回 Part 1の攻略法 および問題演習</p> <p>第3回 Part 2の攻略法および問題演習（1）</p> <p>第4回 Part 2の攻略法および問題演習（2）</p> <p>第5回 Part 3の攻略法および問題演習（1）</p> <p>第6回 Part 3の攻略法および問題演習（2）</p> <p>第7回 Part 5の攻略法および問題演習（1）</p> <p>第8回 Part 5の攻略法および問題演習（2）</p> <p>第9回 Part 6の攻略法および問題演習</p> <p>第10回 Part 4の攻略法および問題演習（1）</p> <p>第11回 Part 4の攻略法および問題演習（2）</p> <p>第12回 Part 7の攻略法および問題演習（1）</p> <p>第13回 Part 7の攻略法および問題演習（2）</p> <p>第14回 Part 7の攻略法および問題演習（3）</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回の小テストのための復習、パートごとの語彙問題の予習、パートごとのミニ・テスト			
成績評価の方法	復習のための小テスト（30%）+ 課題のミニテスト等の提出（30%）+ 定期試験（40%）			

授業科目	卒業研究		担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年	[学期] 後期	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	[単位] 2単位	[必修/選択]	選択必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】各人が設定したテーマに基づいて研究を進めさせ、「課題探求・解決能力」を育成する。</p> <p>【概要】興味を持った英米文学、外国文化等のなかから、各人がテーマを設定して研究を進めることとする。担当者は助言と指導を行い、論文の完成を補助する。</p> <p>*卒業研究論文は日本語で作成しても構わない。この場合、350語程度の英語の要約(summary)を添付することとする。勿論、英語での作成が望ましい。</p> <p>【到達目標】「課題探求・解決能力」の集大成としての卒業研究論文を完成する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 随時プリント (2) 随時紹介</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション(卒業論文とは何かの説明、卒業論文作成のスケジュール等の確認)</p> <p>第2回 テーマの選定と絞り込みの指導:過去の事例の紹介</p> <p>第3回 文献収集の指導(図書館での文献収集およびインターネット検索による文献収集)</p> <p>第4回 テーマの確認、卒業論文の書き方(論の展開の仕方)の指導</p> <p>第5回 「はじめに」の書き方の指導</p> <p>第6回 進行状況の確認(一部分の発表)とアドバイス(その1)</p> <p>第7回 進行状況の確認(一部分の発表)とアドバイス(その2)</p> <p>第8回 進行状況の確認(一部分の発表)とアドバイス(その3)</p> <p>第9回 中間発表</p> <p>第10回 個別指導:提出論文の添削・推敲(その1)</p> <p>第11回 個別指導:提出論文の添削・推敲(その2)</p> <p>第12回 個別指導:提出論文の添削・推敲(その3)</p> <p>第13回 個別指導:提出論文の添削・推敲(その4)</p> <p>第14回 提出前の最終指導(レイアウト、目次、参考文献などの確認、英語でのSummary作成の指導)</p> <p>第15回 パワーポイントを用いたプレゼンテーションの練習</p>			
授業外学習(予習・復習)	論文を書き始めたら、担当者が指導・助言ができるように、毎回プリントを用意して授業に臨むこと			
成績評価の方法	卒業研究論文の提出物(70%)、授業への取り組み(20%)、プレゼンテーション(10%)			

授業科目	卒業研究		担当者	遠峯伸一郎
	[履修年次] 2	[学期] 後期	授業外対応	講義終了時、適宜(要予約)
	[単位] 2	[必修/選択]	選択必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】卒業研究の執筆を通し、基礎演習I、英語学演習Iでの研究成果をまとめる。</p> <p>【概要】基礎演習Iと英語学演習Iを通して研究した成果にもとづいて卒業研究を執筆する。</p> <p>【到達目標】卒業研究を完成させる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 浜田麻里ほか(1997)『大学生と留学生のための論文ワークブック』、くろしお出版。 (2) 随時紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 個別指導(1)</p> <p>第3回 個別指導(2)</p> <p>第4回 卒業研究テーマについての中間発表</p> <p>第5回 個別指導(3)</p> <p>第6回 個別指導(4)</p> <p>第7回 先行研究と資料についての中間発表(1)</p> <p>第8回 先行研究と資料についての中間発表(2)</p> <p>第9回 個別指導(5)</p> <p>第10回 個別指導(6)</p> <p>第11回 考察についての中間発表</p> <p>第12回 個別指導(7)</p> <p>第13回 個別指導(8)</p> <p>第14回 英文サマリーの作成</p> <p>第15回 プレゼンテーション資料の作成</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習1時間以上、復習5時間以上必要である。			
成績評価の方法	授業への取り組み(10%) + 卒業研究(90%)			

授業科目	卒業研究		担当者	アダメック フィリップ																																													
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)																																													
	[学期]	後期	[単位]	2単位																																													
			[必修/選択]	選択必修																																													
			[授業形態]	演習																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ゼミでは研究の仕方とライティングを指導します。具体的なテーマはゼミ生が自ら選択します。</p> <p>【概要】卒業論文の作成、推敲をします。卒業研究発表会に向けての準備もします。</p> <p>【到達目標】受講者はアメリカ人の教員のもとで言語のすべての技能(リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング)を練習します。自ら選択したテーマの研究の仕方と論文の書き方を身につけます。英語圏の国で大学の授業を受けるのはどのような感じか知り、英語で卒業論文の発表をすることで自信をつけます。</p>																																																
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) なし																																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>リサーチ活動</td><td>Draft 1 revision</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>リサーチ活動</td><td>Draft 1 revision</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>リサーチ活動</td><td>Draft 1 revision</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>リサーチ活動</td><td>Workshop</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>リサーチ活動</td><td>Workshop</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>リサーチ活動</td><td>Workshop</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>リサーチ活動</td><td>Workshop</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>リサーチ活動</td><td>Workshop</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>リサーチ活動</td><td>Workshop</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>リサーチ活動</td><td>Draft 2 revision</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>リサーチ活動</td><td>Draft 2 revision</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>リサーチ活動</td><td>Draft 2 revision</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>リサーチ活動</td><td>Presentation practice</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>リサーチ活動</td><td>Presentation practice</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>リサーチ活動</td><td>Presentation practice</td></tr> </table>				第 1 回	リサーチ活動	Draft 1 revision	第 2 回	リサーチ活動	Draft 1 revision	第 3 回	リサーチ活動	Draft 1 revision	第 4 回	リサーチ活動	Workshop	第 5 回	リサーチ活動	Workshop	第 6 回	リサーチ活動	Workshop	第 7 回	リサーチ活動	Workshop	第 8 回	リサーチ活動	Workshop	第 9 回	リサーチ活動	Workshop	第 10 回	リサーチ活動	Draft 2 revision	第 11 回	リサーチ活動	Draft 2 revision	第 12 回	リサーチ活動	Draft 2 revision	第 13 回	リサーチ活動	Presentation practice	第 14 回	リサーチ活動	Presentation practice	第 15 回	リサーチ活動	Presentation practice
第 1 回	リサーチ活動	Draft 1 revision																																															
第 2 回	リサーチ活動	Draft 1 revision																																															
第 3 回	リサーチ活動	Draft 1 revision																																															
第 4 回	リサーチ活動	Workshop																																															
第 5 回	リサーチ活動	Workshop																																															
第 6 回	リサーチ活動	Workshop																																															
第 7 回	リサーチ活動	Workshop																																															
第 8 回	リサーチ活動	Workshop																																															
第 9 回	リサーチ活動	Workshop																																															
第 10 回	リサーチ活動	Draft 2 revision																																															
第 11 回	リサーチ活動	Draft 2 revision																																															
第 12 回	リサーチ活動	Draft 2 revision																																															
第 13 回	リサーチ活動	Presentation practice																																															
第 14 回	リサーチ活動	Presentation practice																																															
第 15 回	リサーチ活動	Presentation practice																																															
授業外学習(予習・復習)																																																	
成績評価の方法	授業内での発言 (20%)、 総まとめ (30%)、 作品集 (50%)。																																																

授業科目	卒業研究		担当者	石井 英里子																														
	[履修年次]	2	授業外対応	適宜 (要予約)																														
	[学期]	後期	[単位]	2																														
			[必修/選択]	選択必修																														
			[授業形態]	演習																														
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語教育 (TESOL) に関する卒業研究論文の作成</p> <p>【概要】 基礎演習 I および英語学演習で得た英語教育 (TESOL) に関する知識を基に、個人で研究テーマを設定し、調査研究を行い、成果を卒業研究としてまとめ、口頭で発表する。中間報告や Individual conferences では、英語での論文の書き方、調査方法、分析方法、発表方法について学び、論文の完成に向けて段階的に準備を行う。本授業は英語で行う。</p> <p>【到達目標】 卒業研究論文を完成させる。</p>																																	
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (2) 適宜授業で紹介する。																																	
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>研究中間報告 (1)</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>研究中間報告 (1)</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>Individual conferences</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>Individual conferences</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>研究中間報告 (2)</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>研究中間報告 (2)</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>Individual conferences</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>Individual conferences</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>研究中間報告 (3)</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>研究中間報告 (3)</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>Individual conferences</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>Individual conferences</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>卒業研究発表の練習</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>卒業研究発表の練習</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>まとめ</td></tr> </table>				第 1 回	研究中間報告 (1)	第 2 回	研究中間報告 (1)	第 3 回	Individual conferences	第 4 回	Individual conferences	第 5 回	研究中間報告 (2)	第 6 回	研究中間報告 (2)	第 7 回	Individual conferences	第 8 回	Individual conferences	第 9 回	研究中間報告 (3)	第 10 回	研究中間報告 (3)	第 11 回	Individual conferences	第 12 回	Individual conferences	第 13 回	卒業研究発表の練習	第 14 回	卒業研究発表の練習	第 15 回	まとめ
第 1 回	研究中間報告 (1)																																	
第 2 回	研究中間報告 (1)																																	
第 3 回	Individual conferences																																	
第 4 回	Individual conferences																																	
第 5 回	研究中間報告 (2)																																	
第 6 回	研究中間報告 (2)																																	
第 7 回	Individual conferences																																	
第 8 回	Individual conferences																																	
第 9 回	研究中間報告 (3)																																	
第 10 回	研究中間報告 (3)																																	
第 11 回	Individual conferences																																	
第 12 回	Individual conferences																																	
第 13 回	卒業研究発表の練習																																	
第 14 回	卒業研究発表の練習																																	
第 15 回	まとめ																																	
授業外学習(予習・復習)	予習が 3 時間以上、復習が 3 時間以上必要である。																																	
成績評価の方法	授業への取り組み(20%)、卒業研究(80%)で評価する。																																	

授業科目	卒業研究	担当者	小林朋子
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択必修 [授業形態] 演習	授業外対応	適宜対応(要予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】比較文学・比較文化</p> <p>【概要】自らテーマを選び比較文化演習で学んできた手法を活用して、卒業研究を行う。演習では受講者各々の卒業研究に関係のある資料を割り当てて発表してもらい、受講者全員で講評、討論をする。</p> <p>【到達目標】卒業研究につながる比較文学・比較文化の様々な研究方法を学び、卒業論文を完成する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント配布 (2) 随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 テーマの確認 第3回 資料の探し方 第4回 論文の構成1 第5回 論文の構成2 第6回 論文の構成3 第7回 中間発表1 第8回 論文の書き方1 第9回 論文の書き方2 第10回 論文の書き方3 第11回 中間発表2 第12回 中間発表3 第13回 中間発表4 第14回 プレゼンテーションの仕方 第15回 卒業研究発表会の練習</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	授業への取組み態度(30%)、卒業研究論文(70%)		

7 生活科学科共通科目

授業科目	生活科学概論		担当者	倉元 綾子・浅海 真弓				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラシー教育、ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成を目的とする。</p> <p>【概要】 中学・高校における技術・家庭の学習内容をふまえ、さらに生活科学への展開を図る。生活科学の対象、目的、研究方法を学び、個人・家族の生活の現状と課題について理解を深める。前半は、生活の機能、生活にかかわる政策、世界の家政学、家政学・生活学の歴史などに焦点をあて、生活科学の基本を学ぶ。後半は、生活のしくみをどのようにとらえるのか、具体的な事例に基づいて解説する。それにより、生活全体をグローバルに俯瞰するだけでなく、逆に個人として見つめ、生活科学の構造を理解する。第1回～第8回は倉元が担当する。第9回～第15回は浅海が担当する。</p> <p>【到達目標】 生活科学とは何かを理解し、生活を科学的な視点で把握し、生活にかかわる課題に主体的に関与できるようにする。それにより、各自が生活科学科で勉学する意義を探究してほしい。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) パウエル、キャシディ著、倉元綾子、黒川衣代監訳『家族生活教育：人の一生と家族』南方新社 スティジ、ヴィンセンティ編著、倉元綾子監訳『家政学再考』近代文芸社 ヴィンセンティ著、倉元綾子訳『アメリカ・ホーム・エコノミクス哲学の歴史』近代文芸社</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 生活とは何か、私たちの生活はどうなっているか(個人・家族の生活の現状)</p> <p>第2回 //</p> <p>第3回 //</p> <p>第4回 生活科学/家政学の対象、目的、体系・領域/世界の家政学</p> <p>第5回 //</p> <p>第6回 生活科学/家政学の歴史と未来(生活課題を考える)</p> <p>第7回 //</p> <p>第8回 //</p> <p>第9回 今日の生活スタイルの変化/衣生活を例に — 作る時代から買う時代へ</p> <p>第10回 自分の生活を考える/衣生活スタイルを考える</p> <p>第11回 自分の生活を考える/食生活・住生活スタイルを考える</p> <p>第12回 これからの生活をデザインする/健康・快適・豊かさ・自己表現をキーワードに</p> <p>第13回 生活者としてできること/現代の消費社会と消費者問題を考える</p> <p>第14回 生活者としてできること/持続可能な社会に向けて</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習・準備を重視する							
成績評価の方法	倉元担当分(50%)：ワークシート、レポート(第8回までに提示) 浅海担当分(50%)：ワークシート、レポート(第15回までに提示)							

授業科目	生活経営学		担当者	坂上 ちえ子				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>生活経営とは何かを含め、生活を経営する上での諸問題を理解し、自立のための生活経営力の獲得を目指す。</p> <p>【概要】 自分と他者の関わりを捉えなおし、個人と家庭、社会をとりまく環境や問題を抽出し理解する。まず生活経営の基礎事項や最新情報を正確に把握する。それらを援用してライフステージごとの課題を各自整理しその解決方法を考える。</p> <p>【到達目標】</p> <p>真の自立と共生のために必要なスキルやマネジメント力が身につくことを目指す。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 随時紹介</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：講義概要と進め方</p> <p>第2回 生活経営学と生活を考える</p> <p>第3回 家族と家庭を考える</p> <p>第4回 男女の役割を考える</p> <p>第5回 労働を考える</p> <p>第6回 経済と消費を考える①</p> <p>第7回 経済と消費を考える②</p> <p>第8回 家計を考える</p> <p>第9回 子どもと教育を考える</p> <p>第10回 高齢社会を考える</p> <p>第11回 地域を考える</p> <p>第12回 環境を考える</p> <p>第13回 政治と社会を考える</p> <p>第14回 自立を考える</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	筆記試験(70%) + 授業での活動内容(30%)							

(注) 生活科学専攻は教職必修

授業科目	人間関係論		担当者	田中 真理
	[履修年次]	生活 1 年, 食栄 2 年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	必修(生活 1 年) [授業形態] 講義 / 選択(食栄)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人間関係に関する基礎知識を学ぶとともに、人との関わり方について実践的に学ぶ。</p> <p>【概要】ひとは人との関わりなくして生きていくことは不可欠であり、同時に生活科学を学ぶ上では生活を営む人々のあり方や関係性を理解することが重要となる。本講義では、家族を中心とした人間関係に関する基礎知識を習得するとともに、グループワークを通じたコミュニケーションスキルの習得を目指す。また、各グループで家族や人間関係に関するテーマを設定し、授業の最後にパワーポイントを使用したプレゼンテーションを行う。</p> <p>【到達目標】①人間関係に関する基礎知識を習得する。 ②グループ・ワークを通じた対人スキル能力の向上を目指す。 ③グループ発表を通じたプレゼンテーション能力を養う。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。</p> <p>(2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 グループ・ワーク①：クラス開き</p> <p>第 3 回 グループ・ワーク②：自己理解・他者理解</p> <p>第 4 回 グループ・ワーク③：自己開示</p> <p>第 5 回 グループ・ワーク④：チームワーク</p> <p>第 6 回 人間関係に関する基礎知識①：人間関係の発達</p> <p>第 7 回 人間関係に関する基礎知識②：家族</p> <p>第 8 回 人間関係に関する基礎知識③：恋愛・結婚</p> <p>第 9 回 人間関係に関する基礎知識④：子育て期の家族</p> <p>第 10 回 人間関係に関する基礎知識⑤：中・高齢期の家族</p> <p>第 11 回 グループ・ワーク⑤：プレゼンテーション課題設定とグループ討議</p> <p>第 12 回 グループ・ワーク⑥：グループによる情報収集</p> <p>第 13 回 プレゼンテーション①：グループ前半</p> <p>第 14 回 プレゼンテーション②：グループ後半</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	期末レポート課題 (60%) +プレゼンテーション (30%) +毎回の振り返り (10%)			

授業科目	社会福祉論		担当者	中山 慎吾
	[履修年次]	2 年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択(注) [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本の社会福祉の大枠を理解し、市民的な視点から政策と実践の方向を探る。</p> <p>【概要】1. 社会福祉を形成する領域・体系の全体像を理解する。 2. 社会福祉の各領域の実践等を、ビデオ等を参考にして学ぶ(まとめと感想を授業中に書いてもらう)。 3. 社会福祉の領域ごとにテキスト等を通して制度の動向を学ぶ。 4. 国際的な視野から日本の社会福祉の方向を探る。</p> <p>【到達目標】社会福祉の領域ごとに制度の動向や新しい動き・問題を学ぶ。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 社会福祉の動向編集委員会『社会福祉の動向(2017)』中央法規</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 福祉の諸領域 (福祉の諸領域について概観する。)</p> <p>第 2 回 要介護高齢者への支援 (高齢者福祉について概観し、高齢者への支援の例について学ぶ。)</p> <p>第 3 回 共生型福祉の可能性 (高齢者、子ども、障がい者等に対する共生型福祉サービスについて学ぶ。)</p> <p>第 4 回 介護家族への支援 (要介護高齢者等を介護する家族への支援について学ぶ。)</p> <p>第 5 回 ボランティアによる住民同士の支え合い (住民同士の支え合いにより高齢者等を支援する実践について学ぶ。)</p> <p>第 6 回 地域生活への住民の主体的関わり (地域の福祉の向上に向けた住民による主体的実践について学ぶ。)</p> <p>第 7 回 地域生活における問題への対応 (地域コミュニティにおいて生ずる問題への対処について学ぶ。)</p> <p>第 8 回 仕事と子育ての両立 (仕事と子育ての両立に関わる制度と具体的な実践について学ぶ。)</p> <p>第 9 回 子どもの自立への援助 (支援を要する子どもに対して、中学卒業後等に自立に向けた行われている援助を学ぶ。)</p> <p>第 10 回 子どもへの虐待等への対応 (子どもへの虐待に対する対処の仕組みと現状について学ぶ。)</p> <p>第 11 回 知的障がい者への支援の歩み (知的障がい者への支援を中心に、障がい者福祉の歴史等を学ぶ。)</p> <p>第 12 回 発達障がい者への支援 (発達障がい者に関する理解と、支援の例について学ぶ。)</p> <p>第 13 回 医療サービスと医療保険の動向 (医療サービスと医療保険の概要と現状を学ぶ。)</p> <p>第 14 回 低所得者への支援と生活保護制度 (低所得者への支援の枠組みと生活保護制度の概要について学ぶ。)</p> <p>第 15 回 年金保険の動向 (年金保険や所得保障に関する基礎知識を学ぶ。)</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習では授業内容に該当するテキストの箇所を確認し、復習では授業で学んだ内容を念頭にテキストを読み直してください。			
成績評価の方法	授業での参加状況 30%、授業中に書いてもらう小テスト 70%の予定です。			

(注) 栄養士選択必修、教職必修

8 食物栄養専攻専門科目

授業科目	食品学Ⅰ		担当者	亀井 勇統
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の持つ様々な特性や機能性に関する知見のほか、最近とみに発展しつつある特定保健用食品について学習する。</p> <p>【概要】食品中の成分の栄養面での一次機能、嗜好面での二次機能、病気予防面での三次機能と共に、それらの機能を損なわないための取り扱い法について解説する。</p> <p>【到達目標】食品の特性や機能性のほか、特定保健用食品について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 青柳康夫編『新版 食品学Ⅰ [第2版]』建帛社</p> <p>(2) 菅原龍幸・井上四郎編『新訂 原色食品図鑑 (学生版) [第2版]』建帛社のほか、適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 人間と食物</p> <p>第2回 食品の分類と成分</p> <p>第3回 食品成分表</p> <p>第4回 食品の一次機能 (水分、炭水化物、脂質)</p> <p>第5回 食品の一次機能 (タンパク質、灰分と無機質、ビタミン)</p> <p>第6回 食品の二次機能 (色素成分)</p> <p>第7回 食品の二次機能 (旨味成分、臭気成分)</p> <p>第8回 食品の三次機能 (消化管内で作用する機能性)</p> <p>第9回 食品の三次機能 (組織内で作用する機能性)</p> <p>第10回 食品中の有害成分</p> <p>第11回 食品中の突然変異原性物質</p> <p>第12回 食品の変性 (タンパク質・炭水化物・脂質の変性)</p> <p>第13回 食品の変性 (褐変と光・高圧・酵素による変性)</p> <p>第14回 食品の物性 (コロイド・テクスチャー・官能検査)</p> <p>第15回 食品の表示と規格基準 (表示の種類、特別保健用食品、製造・加工・調理・保存・安全性の基準)</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	期末試験70%、授業態度30%			

(注) 栄養士必修 教職必修

授業科目	食品学Ⅱ		担当者	亀井 勇統
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の種類と成分の他、それら食品成分の栄養面、嗜好面、病気予防面としての三つの機能性について学ぶ。</p> <p>【概要】個々の食品に含まれている多様な成分と、食品成分の栄養面での一次機能、嗜好面での二次機能、病気予防面での三次機能と共に、それらの機能を損なわないための取り扱い法について解説する。</p> <p>【到達目標】食品の分類と各食品成分の栄養面以外の他の機能性についても理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 田所忠弘・安井明美編『新版 食品学Ⅱ』建帛社</p> <p>(2) 菅原龍幸・井上四郎編『新訂 原色食品図鑑 (学生版) [第2版]』建帛社のほか、適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 食品 (成分、分類、消費と供給)</p> <p>第2回 植物性食品 (穀類)</p> <p>第3回 植物性食品 (イモ類)</p> <p>第4回 植物性食品 (マメ類)</p> <p>第5回 植物性食品 (種実類)</p> <p>第6回 植物性食品 (野菜類)</p> <p>第7回 植物性食品 (果実類)</p> <p>第8回 植物性食品 (キノコ類、海藻類)</p> <p>第9回 動物性食品 (食肉類)</p> <p>第10回 動物性食品 (乳類)</p> <p>第11回 動物性食品 (卵類)</p> <p>第12回 動物性食品 (魚介類の種類)</p> <p>第13回 動物性食品 (魚介類の成分)</p> <p>第14回 その他の食品 (食用油脂、甘味料)</p> <p>第15回 その他の食品 (調味料、香辛料、嗜好飲料、アルコール飲料)</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	期末試験70%、授業態度30%			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	食品学実験		担当者	亀井 勇統
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実験
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品に存在する成分等を分析するための各種実験器具の取り扱いや基礎的な分析方法について学ぶ。</p> <p>【概要】実験器具の取り扱い方や基礎的な化学実験の方法と食品学的実験への応用法について解説する。</p> <p>【到達目標】各種実験器具の取り扱い方や食品成分の基礎的な分析方法について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青柳康夫・有田政信編『食品学実験』建帛社 (2)			
授業スケジュール	第 1回 食品学実験の基礎 (実験器具や試薬類の取り扱い方法) 第 2回 溶液の濃度計算1 (溶液の調製 他) 第 3回 溶液の濃度計算2 (モル濃度 他) 第 4回 酸と塩基1 (食品の pH 測定 他) 第 5回 酸と塩基2 (中和滴定 他) 第 6回 酸度 (食品の酸度測定 他) 第 7回 糖の特性と検出1 (定性分析 他) 第 8回 糖の特性と検出2 (食品中の成分分析 他) 第 9回 タンパク質・アミノ酸の特性と検出1 (定性分析 他) 第 10回 タンパク質・アミノ酸の特性と検出2 (食品中の成分分析 他) 第 11回 食品色素の特性と検出1 (天然色素 他) 第 12回 食品色素の特性と検出2 (天然色素 他) 第 13回 食品の褐変反応 (非酵素的褐変、酵素的褐変 他) 第 14回 発酵食品の特性1 (酵母 他) 第 15回 発酵食品の特性2 (酵母 他)			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	提出したレポート内容70%、授業態度30%			

(注) 栄養士必修 教職必修

授業科目	食品衛生学		担当者	亀井 勇統
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の安全について、その問題点と予防策について学び、衛生観念を身に付ける。</p> <p>【概要】食中毒や食品汚染と流通の発達に伴う加工食品や多種多様な食品添加物の実態に目を向け、安心・安全な食生活を送るための方策を考える。</p> <p>【到達目標】食品の安全性と食中毒の予防法や衛生管理法を習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 宮沢文雄・古賀信幸編『食品衛生学』建帛社 (2)			
授業スケジュール	第 1回 食品の変質 (腐敗微生物と食品の変質) 第 2回 食中毒 (食中毒の分類) 第 3回 植物性自然毒食中毒 (植物性毒素) 第 4回 動物性自然毒食中毒 (魚介類の毒素) 第 5回 微生物性食中毒 (感染型食中毒) 第 6回 微生物性食中毒 (毒素型食中毒) 第 7回 食品と寄生虫 第 8回 衛生指標菌と異物 第 9回 食品中の汚染物質 (カビ毒による汚染) 第 10回 食品中の汚染物質 (化学物質による汚染) 第 11回 食品添加物 (使用基準と表示基準) 第 12回 食品添加物 (有用性と安全性) 第 13回 食品の容器包装 (素材と特性) 第 14回 食品衛生対策 (HACCP の導入と衛生管理) 第 15回 遺伝子組み換え食品 (遺伝子組み換え食品の安全性と表示)			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	期末試験70%、授業態度30%			

(注) 栄養士必修 教職必修

授業科目	食品衛生学実験	担当者	亀井 勇統
	[履修年次] 1年	授業外対応	授業終了後
	[学期] 後期 [単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 実験
テーマ及び概要	<p>【テーマ】実験を通じて食品衛生に対する意識を高めると共に、食中毒を予防するための衛生管理技術を学ぶ。</p> <p>【概要】食品衛生問題を解決するための食品衛生検査の技術的な手法として、検査器具類の適切な使用法、理化学試験、食品添加物試験、微生物試験、衛生管理手法、食品中のアレルゲン検出試験について実習する。</p> <p>【到達目標】食品衛生検査に使用される種々の検査方法を習得し、食品の安全で安定な維持管理法について理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 後藤政幸編『改訂 食品衛生学実験』建帛社 (2)		
授業スケジュール	第 1回 食品衛生学実験の基礎 (実験器具や試薬類の取り扱い方法) 第 2回 理化学試験 (飲料水の水質検査 アンモニア性窒素の検出) 第 3回 理化学試験 (魚肉中のヒスタミンの検出) 第 4回 食品添加物試験 (発色剤 亜硝酸ナトリウムの検出 1) 第 5回 食品添加物試験 (発色剤 亜硝酸ナトリウムの検出 2) 第 6回 食品添加物試験 (着色料 酸性タール色素の検出) 第 7回 微生物試験 (培地の調製法と種類) 第 8回 微生物試験 (細菌の分離と染色法) 第 9回 微生物試験 (食品の細菌検査) 第 10回 微生物試験 (飲料水の細菌検査) 第 11回 微生物試験 (乳酸飲料の乳酸菌検査) 第 12回 衛生管理手法 (手指の細菌検査 スタンプ法) 第 13回 衛生管理手法 (室内空気の細菌検査 落下菌法) 第 14回 食品中のアレルゲン検出試験 (食品中のアレルゲンの検出) 第 15回 食品中のアレルゲン検出試験 (飲料水のアレルゲンの検出)		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	提出したレポート内容70%、授業態度30%		

(注) 栄養士必修 教職必修

授業科目	食品加工学	担当者	亀井 勇統
	[履修年次] 2年	授業外対応	授業終了後
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品加工の目的や原理を理解すると共に、食品素材毎の加工技術の多様性について学ぶ。</p> <p>【概要】食品の貯蔵法や加工法の基礎的な技術、それらの技術を利用して生産される農畜産ならびに水産加工製品、発酵食品、調味料、嗜好食品、インスタント食品、油脂食品について解説する。</p> <p>【到達目標】加工食品の歴史と食品加工の目的を知るだけでなく、現在の食生活との関連性について理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 菅原龍幸・宮尾茂雄編『三訂 食品加工学』建帛社 (2)		
授業スケジュール	第 1回 食品の保蔵と食生活 (食品保蔵・加工の目的と方法) 第 2回 食品加工の操作 (物理的操作, 化学的操作, 生物的操作) 第 3回 食品の包装 (包装の種類, 包装材料, 品質保持包装技術) 第 4回 食品加工の技術 (超高压処理, 超臨界ガスの利用, バイオテクノロジー) 第 5回 食品加工と成分変化 (変性, 糊化・老化, 酸化, 褐変, 有害物質, 成分損失) 第 6回 食品添加物と加工食品の安全性確保 第 7回 保健機能食品と特別用途食品 第 8回 食品の表示と規格 (品質表示, 栄養成分表示, 遺伝子組換え表示, アレルギー表示, 食品の規格) 第 9回 農産加工 (穀類, 芋類, 豆類, 野菜類, 果実類, きのこと類) 第 10回 畜産加工品 (畜肉製品, 牛乳類と乳製品, 卵製品) 第 11回 水産加工 (乾製品, 塩蔵品, 練り製品, 調味加工品, 海藻加工品) 第 12回 発酵食品 (アルコール飲料, 発酵調味料, 食酢, その他の微生物利用発酵食品) 第 13回 調味料と嗜好食品 第 14回 インスタント食品 第 15回 食用油脂 (原料, 採油, 精製, 加工技術, 食用油脂と油脂食品)		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	期末試験70%、授業態度30%		

授業科目	調理学		担当者	山下 三香子		
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の調理過程における科学的現象</p> <p>【概要】調理の基礎から応用までの調理を具体的に調理操作や調理条件が及ぼす食品の特性を科学的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】嗜好を満足させ、健康を維持するために、おいしく調理する作業を再現でき、また、調理や食物選択を理にかなったものにする。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) はじめて学ぶ『調理学』化学同人</p> <p>(2) 香川芳子監修『七訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部 山崎清子ら共著『NEW 調理と理論』 同文書院</p>					
授業スケジュール	<p>第 1回 調理学の意義と目的</p> <p>第 2回 食べ物のおいしさ</p> <p>第 3回 調理操作と調理機器</p> <p>第 4回 植物性食品 1 の調理科学</p> <p>第 5回 調味料・香辛料の調理科学</p> <p>第 6回 ゲル化剤・とろみ剤の調理科学</p> <p>第 7回 植物性食品 2～4 の調理科学</p> <p>第 8回 植物性食品 5～8 の調理科学</p> <p>第 9回 油脂類の調理科学</p> <p>第 10回 動物性食品 1 の調理科学</p> <p>第 11回 " 2 の調理科学</p> <p>第 12回 " 3 の調理科学</p> <p>第 13回 " 4 の調理科学</p> <p>第 14回 嗜好飲料・調理文化</p> <p>第 15回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	筆記試験 (60%)・授業態度及び出席・小テスト・ノート (40%) を考慮					

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	調理学実習 I		担当者	山下 三香子		
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の特徴を生かす調理法と基礎的調理技術</p> <p>【概要】一食の献立として学習できるよう、様々な食品の利用法、料理の歴史・文化的特徴を、食事のマナーや常識を踏まえ、和洋中その他諸外国の基礎的な料理を網羅しながら基本的な調理技術を習得できるようなカリキュラム</p> <p>【到達目標】調理の見方、考え方を確立させ、器具や食品の扱いを含め、栄養学的に望ましい食事作りができる力を養う。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『調理実習ノート』女子栄養大学出版部</p> <p>(2) 香川芳子監修『七訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部</p>					
授業スケジュール	<p>第 1回 調理機器の使い方、調味の割合、</p> <p>第 2回 和食喫食法：炊飯、鰯と昆布のだしの取り方と利用法、魚の焼き物、即席漬物</p> <p>第 3回 日本料理：煮干だし、魚の煮付け、お浸し(下洗い)、上新粉の扱い</p> <p>第 4回 西洋風朝食：卵の扱い、トマトの湯剥き、洋風スープ(鶏がらの扱い)、パンケーキ</p> <p>第 5回 中華喫食法：中華の鶏がらスープ、中華素材と器具の扱い、寒天の扱い、(大量調理)</p> <p>第 6回 日本料理：炊きおこわ、炒め煮、乱切り、あく抜き、わらび粉</p> <p>第 7回 洋食喫食法：洋風炊き込み、たまねぎの扱い、冷製魚の扱い、ラビゴット(ヴィネグレット)ソース、ゼラチンの扱い</p> <p>第 8回 中華料理：コーンスープ、春巻き、えびの扱い、油通し、タピオカ・ココナツの扱い</p> <p>第 9回 日本料理：ソーメン、焼魚(器具と化粧塩、鮎の食べ方)、いり豆腐、和え物、水ようかん</p> <p>第 10回 西洋料理：冷製スープ、果物のサラダ、ひき肉の扱い、カスタードプリン</p> <p>第 11回 中華料理：中華麺の扱い、焼売、香辛料、中華風の漬物、白玉粉の扱い</p> <p>第 12回 郷土料理：具沢山の炊き込みご飯(具の量と調味)、ささがき、寄せ卵、白和え、ふくれ菓子</p> <p>第 13回 西洋料理：コンソメスープ、ドライカレー、ポテトサラダ(マヨネーズ作り)、レア・チーズケーキ</p> <p>第 14回 お盆料理：かいのこ汁、落花生豆腐、にがごりの扱い</p> <p>第 15回 調理実技復習、まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	調理技術試験 40%、調理実習ノート 30%、実習態度及び出席 30%を考慮					

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	調理学実習Ⅱ		担当者	山下 三香子
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	[単位] 1単位	[授業外対応] 適宜対応(要予約)
	[必修/選択]	選択(注)	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】調理学実習Ⅰの基礎的調理技術の応用</p> <p>【概要】和食、洋食、中華料理を交互に、個人の食事はもちろん給食施設における食事作りへの応用を考慮したカリキュラム</p> <p>【到達目標】献立作成、衛生観念を身につけ、給食への応用ができる力を養う。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『調理実習ノート』女子栄養大学出版部</p> <p>(2) 香川芳子監修『七訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 夏のお盆料理の報告</p> <p>第2回 日本料理：栗の扱い、さんまの扱い、茶碗蒸し、なます、十五夜団子</p> <p>第3回 中華料理：八宝菜、いかの扱い(花いか)、くらげの扱い、中国粥、さつま芋のあめがらめ、点心について</p> <p>第4回 日本料理：行楽弁当(いなり、出し巻き卵、きじ焼き、酢蓮根、高野豆腐の含め煮)、土瓶蒸し、小倉ケーキ</p> <p>第5回 スチームコンベクション料理：焼き魚・から揚げ(ドライモード)、焼きそば(コンビ)、温野菜・プリン(スチーム)、</p> <p>第6回 献立応用家庭料理かみかみメニュー</p> <p>第7回 日本料理：さつますもじ(ちらし寿司)、青のりの汁、芋のそばろあんかけ、抹茶饅頭</p> <p>第8回 パンとスープ</p> <p>第9回 日本料理お魚講習：霜降りの方法と役目、刺身、かつら剥き魚の三枚おろし、魚のだし</p> <p>第10回 正月料理：おせち料理の意味と重箱の詰め方、雑煮、飾り切り</p> <p>第11回 クリスマス料理、ビーフストロガノフ(ブラウンソース)、ブッシュドノエル</p> <p>第12回 中国の行事食：春節の意味と代表料理、中華饅頭</p> <p>第13回 大量調理への応用</p> <p>第14回 テーブルマナー(会席料理)、懐石料理とは、会席料理とは</p> <p>第15回 調理技術と主菜の作成、まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	調理技術試験 40%、調理実習ノート 30%、実習態度及び出席 30%を考慮			

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	調理学実習Ⅲ		担当者	山下 三香子
	[履修年次] 2年	[学期] 前期集中	[単位] 1単位	[授業外対応] 適宜対応(要予約)
	[必修/選択]	選択(注)	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】調理学実習Ⅱの調理技術の応用から上級レベル</p> <p>【概要】和食、洋食、中華料理の給食施設における食事作りへの応用を考慮し、食材の持つ特徴(糊化作用、凝固作用、膨張作用など)を十分活かした調理実習カリキュラム</p> <p>【到達目標】おいしく調理するための科学的根拠を実践的に理解できる力を養う</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『調理実習ノート』女子栄養大学出版部</p> <p>(2) 香川芳子監修『七訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部</p>			
授業スケジュール	<p>第1回</p> <p>第2回</p> <p>第3回 大量調理の応用(真空料理、クックチル)</p> <p>第4回 季節の和食・応用(五目炊き込み、ブリ大根、モズク酢、5色なます、のっぺい汁、桜餅)</p> <p>第5回 郷土料理(芋ご飯、さつま揚げ、さつま汁、なまぶしの酢の物、かるかん、豚骨、鶏飯・酒ずし、がね、ぬた)</p> <p>第6回 小麦の応用(餃子、フルーツパウンドケーキ、アップルケーキ、シフォンケーキ、ソース等)</p> <p>第7回 自作の献立作成から調理技術への完成</p> <p>第8回 正月料理：鹿児島のおせち料理、茶懐石料理</p> <p>第9回 西洋料理の応用：グラタン(ホワイトソースの活用)、</p> <p>第10回 クリスマス(ローストチキン、クラムチャウダー、パン・クッキー、ショートケーキ)</p> <p>第11回 諸外国の料理</p> <p>第12回</p> <p>第13回 以上を13回までに組み込んだ実習</p> <p>第14回 テーブルマナー(洋食)</p> <p>第15回</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	調理技術試験 40%、調理実習ノート 30%、実習態度及び出席 30%を考慮			

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	栄養学総論	担当者	倉元 綾子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義	授業外対応	適宜対応(要予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】栄養学とはなにか。</p> <p>【概要】健康な生活を営むためには、適切な栄養摂取が必要である。日本人の食生活は食料不足の時代から飽食の時代へと急速に変化し、国民の栄養摂取状況も大きく変化した。とはいえ、栄養素欠乏症は克服されたが、栄養素の過剰やアンバランスが顕著になり、生活習慣病のような代謝性疾患が増加している。食料の生産・加工・流通のしくみの変化・発達、生活環境の変化、科学技術の発達、情報化の進展なども著しい。このように、健康と栄養、食をとりまく問題は、大きな広がりと深さをもっている。栄養学領域を全体的に把握し、栄養学の本質や基本的考え方を学ぶ。各回の講義の導入部では、食生活の現状についてのトピックスにも触れる。</p> <p>【到達目標】栄養学の基礎的事項を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 奥恒行, 高橋正侑編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2,500円+税 遠藤克己, 三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3,200円+税</p> <p>(2) 『栄養学辞典』同文書院 『管理栄養士国家試験キーワード集』女子栄養大学出版部, レイチェル・カーソン『沈黙の春』新潮文庫 NHK取材班『NHKサイエンススペシャル驚異の小宇宙・人体1-6, 別巻1,2』日本放送出版協会</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 栄養と食生活の現状 第2回 // 第3回 // 第4回 // 第5回 栄養と食生活の課題について考える(プレゼンテーション・質疑応答) 第6回 // 第7回 // 第8回 // 第9回 「消化吸収の妙-胃・腸」(小テスト) 第10回 消化と吸収 第11回 // 第12回 // 第13回 栄養成分 第14回 // 第15回 //</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習・準備を重視する		
成績評価の方法	小テスト・プレゼンテーション(50%), テスト(50%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養学各論	担当者	有村 恵美
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 講義	授業外対応	適宜対応(要予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】各ライフステージ別の健康と栄養</p> <p>【概要】妊娠期、授乳期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人・更年期、高齢期など各ライフステージ別の身体的・精神的特徴や変化について学び、栄養評価法、栄養摂取法、疾患との関連等について学ぶ。</p> <p>【到達目標】妊娠期、授乳期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人・更年期、高齢期など各ライフステージ別の個人の身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の実際について理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 奥田あかりほか『応用栄養学』(化学同人) 菱田明監修『日本人の食事摂取基準』(第一出版)</p> <p>(2) 大里進子『ライフステージ実習栄養学』(医歯薬出版株式会社)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 食事摂取基準 第2回 妊娠期の栄養 第3回 妊娠期の栄養 第4回 授乳期の栄養 第5回 乳児期の栄養 第6回 乳児期の栄養 第7回 幼児期の栄養 第8回 幼児期の栄養 第9回 学童期の栄養 第10回 思春期の栄養 第11回 成人・更年期の栄養 第12回 高齢期の栄養 第13回 高齢期の栄養 第14回 献立作成演習 第15回 献立作成演習</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験(50%)、課題・小テスト・授業での発言内容(50%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養学実習		担当者	有村 恵美
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択 (注)
				[授業形態]
				実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ライフステージ別の健康と疾病予防、臨床を対象とした栄養学の実践から応用。</p> <p>【概要】各ライフステージ (妊娠期、授乳期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人・更年期、高齢期など) 別の健康保持・疾病予防のための食事、各治療食 (形態別治療食・エネルギー調整食・食塩制限食・脂質調整食・たんぱく質調整食・カリウム制限食など) を理解し、調理、供食までを実際に行う (全実習)。</p> <p>【到達目標】各ライフステージ別の食形態、疾患別の栄養・食事療法を具体的に食品・献立レベルで把握し、実践できる力を養う。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 大里進子『ライフステージ実習栄養学』(医歯薬出版株式会社) 玉川和子ほか『臨床栄養学実習書』(医歯薬出版株式会社)</p> <p>(2) 日本病態栄養学会『病態栄養ガイドブック』(メディカルレビュー社)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 乳児期・幼児期の栄養 第 2 回 乳児期・幼児期の栄養 第 3 回 学童期の栄養 第 4 回 学童期の栄養 第 5 回 高齢期の栄養 第 6 回 高齢期の栄養 第 7 回 一般食治療食・形態別治療食 第 8 回 エネルギー調整食 第 9 回 食塩制限食 第 10 回 脂質調整食 第 11 回 たんぱく質調整食 第 12 回 糖尿病食 第 13 回 腎臓病食 第 14 回 実施献立 第 15 回 実施献立</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	実習ノート (70%)、実習への取り組み状況 (30%)			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	解剖生理学		担当者	倉元 綾子
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択 (注)
				[授業形態]
				講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人体の構造と機能</p> <p>【概要】食物栄養の専門知識においては、食物や栄養のことばかりでなく、消化・吸収・排泄などの機能を担う人体についても深く理解しておくことが重要である。人体を構成している各種臓器、組織、細胞を構造的、形態的、機能的な側面から総合的に学ぶ。使用するテキストやビデオ、プリントなどをとおして、それらの形態と機能の有機的関連を理解することに重点を置く。関連する生化学、栄養学への関心を高めるようにする。主要事項についてのプリントの要約や小テストを通して、理解を深めたい。また、解剖生理学のトピックスにも触れる。</p> <p>【到達目標】人体の構造と機能を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 佐藤達夫監修『新版 からだの地図帳』講談社 4,000円＋税 山口和克ほか『新版 病気の地図帳』講談社 4,000円＋税</p> <p>(2) NHK取材班『NHK サイエンススペシャル 驚異の小宇宙・人体1-6, 別巻1,2』日本放送出版協会 『驚異の小宇宙・人体II 脳と心1-6』NHK出版</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 「生命誕生」人体の構造と機能 (人体の概要, 細胞, 組織, 器官と器官系, 個体発生と系統発生) 第 2 回 人体の構造と機能 1 (人体の概要, 細胞, 組織) 第 3 回 人体の構造と機能 2 (器官と器官系, 個体発生と系統発生) 第 4 回 生殖系 (生殖器とその機能) 第 5 回 // 第 6 回 「しなやかなポンプー心臓・血管」循環系 (構成, 血液, リンパ系, 生理) (小テスト) 第 7 回 循環系 (構成, 血液, リンパ系, 生理) 第 8 回 呼吸系 (構成, 生理) 第 9 回 「なめらかな連携プレーー骨・筋肉」骨格系 (形状と構造, 主要骨格とその連結, 生理) (小テスト) 第 10 回 筋系 (形状と構造, 主要骨格筋, 生理) (小テスト) 第 11 回 「生命を守るー免疫」内分泌系 (内分泌腺の構造と機能) 第 12 回 内分泌系 (内分泌腺の構造と機能) 第 13 回 免疫系 第 14 回 「脳の構造と機能 (記憶, 再生)」神経系 (神経系の概要, 中枢神経系の構造と機能) (小テスト) 第 15 回 神経系, 感覚系</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習・準備を重視する			
成績評価の方法	小テスト・レポート (50%), テスト (50%)			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	解剖生理学実験	担当者	倉元 綾子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位	授業外対応 〔必修/選択〕	適宜対応 (要予約) 選択 (注) 〔授業形態〕 実験
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人体の構造と機能</p> <p>【概要】人体を構成している各種臓器、組織、細胞についての解剖生理学的知識を、実験・観察・スケッチなどを通して、体得し深める。また、食品学実験における定性実験を基礎に、生体における健康の指標である血液などの各種成分の定量的分析を行う。これらを通じて、正確さ、根拠強さ、コミュニケーション能力などを養う。(なお、時間割などから授業スケジュールを変更する場合もある。)</p> <p>【到達目標】実験、観察を通して、人体の構造と機能を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 奥恒行,高橋正伸編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2,500円＋税, 遠藤克己,三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3,200円＋税, 佐藤達夫監修『新版 からだの地図帳』講談社 4,000円＋税 山口和克ほか『新版 病気の地図帳』講談社 4,000円＋税, 川村一男『新訂解剖生理学実験』建帛社 1,785円, 林 淳三『新訂生化学実験』建帛社 1,785円</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 実験の予備知識, 実験の進め方, レポートの書き方, 器具洗浄</p> <p>第2回 骨格観察 (肢解説)</p> <p>第3回 骨格観察</p> <p>第4回 骨格観察</p> <p>第5回 人体モデル観察 (各種臓器) (腎臓解説)</p> <p>第6回 人体モデル観察 (各種臓器)</p> <p>第7回 人体モデル観察 (各種臓器)</p> <p>第8回 人体モデル観察 (各種臓器)</p> <p>第9回 組織観察 (肝臓, 腎臓, 膵臓, 胃)</p> <p>第10回 血液(1)赤血球数算定, 白血球数算定</p> <p>第11回 血液(2)ヘモグロビン量, ヘマトクリット値</p> <p>第12回 血液(3)血糖定量, 血中タンパク質定量</p> <p>第13回 血液(4)血清コレステロール測定</p> <p>第14回 ラットの解剖</p> <p>第15回 器具洗浄, そうじ, まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習・準備・レポートを重視する		
成績評価の方法	レポート (70%), 予習の状況, 実験への取り組み状況 (30%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	生化学 I	担当者	倉元 綾子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位	授業外対応 〔必修/選択〕	適宜対応 (要予約) 選択 (注) 〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】脂質、糖質、タンパク質の生化学</p> <p>【概要】栄養とは、生物が体外から物質を取り入れ、それらを生命の維持と自己再生産に利用する生命現象である。その基礎は対外から取り入れる物質 (主に栄養素) の体内における化学変化, すなわち物質代謝である。この物質代謝の速度と方向は、必要に応じて調節され、変化する。物質代謝とその調節は生化学の取り扱う分野の一つであり、この分野は栄養という生命現象に直結している。／以上のように、生化学は、食物栄養の専門知識に必須の基礎的分野で、人体の機能の化学と代謝に関して幅広く学ぶ分野である。既習の栄養学の基礎を踏まえ、さらに、生体内成分とその代謝に関わる主要成分のうち、脂質、糖質、タンパク質などを中心に、より深く、多面的に学習する。／主要事項についてのプリントの要約や小テストを通して、理解を深める。また、講義の最初には生化学のトピックスにも触れたい。</p> <p>【到達目標】脂質、糖質、タンパク質の生化学を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 奥恒行,高橋正伸編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2,500円＋税 遠藤克己,三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3,200円＋税</p> <p>(2) 佐藤達夫監修『新版 からだの地図帳』講談社 4,000円＋税 山口和克ほか『新版 病気の地図帳』講談社 4,000円＋税</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 「壮大な化学工場ー肝臓」</p> <p>第2回 細胞</p> <p>第3回 糖質の栄養と代謝</p> <p>第4回 タンパク質代謝1</p> <p>第5回 タンパク質代謝2 (小テスト)</p> <p>第6回 酵素1</p> <p>第7回 酵素2</p> <p>第8回 脂質代謝1 (小テスト)</p> <p>第9回 脂質代謝2</p> <p>第10回 コレステロール代謝</p> <p>第11回 解毒, P450, アルコール代謝 (小テスト)</p> <p>第12回 ビタミン1</p> <p>第13回 ビタミン2</p> <p>第14回 無機質1</p> <p>第15回 無機質2 (小テスト)</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習・準備を重視する		
成績評価の方法	小テスト・プレゼンテーション (50%), テスト (50%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	生化学Ⅱ	担当者	倉元 綾子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応(要予約)
		[必修/選択]	選択(注) [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】脂質、核酸、生体機能の調節の生化学</p> <p>【概要】栄養とは、生物が体外から物質を取り入れ、それらを生命の維持と自己再生産に利用する生命現象である。その基礎は体外から取り入れる物質(主に栄養素)の体内における化学変化、すなわち物質代謝である。この物質代謝の速度と方向は、必要に応じて調節され、変化する。物質代謝とその調節は生化学の取り扱う分野の一つであり、この分野は栄養という生命現象に直結している。／以上のように、生化学は、食物栄養の専門知識に必須の基礎的分野で、人体の機能の化学と代謝に関して幅広く学ぶ分野である。既習の栄養学の基礎を踏まえ、さらに、生体内成分とその代謝に関わる主要成分のうち、脂質、糖質、タンパク質などを中心に、より深く、多面的に学習したい。／主要事項についてのプリントの要約や小テストを通して、理解を深めたい。また、講義の最初には生化学のトピックスにも触れたい。</p> <p>【到達目標】脂質、核酸、生体機能の調節の生化学を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 奥恒行,高橋正侑編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2,500円＋税 遠藤克己,三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3,200円＋税</p> <p>(2) 佐藤達夫監修『新版 からだの地図帳』講談社 4,000円＋税 山口和克ほか『新版 病気の地図帳』講談社 4,000円＋税</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 エネルギー生産と利用(ATP, エネルギーの生成など)</p> <p>第2回 //</p> <p>第3回 //</p> <p>第4回 アミノ酸の代謝(アミノ基転移と脱アミノ, 尿素回路), (小テスト)</p> <p>第5回 アミノ酸の代謝(アミノ酸の炭素骨格の代謝, 尿素以外の窒素化合物の代謝)</p> <p>第6回 タンパク質の代謝(DNA, RNA, タンパク質の合成, 分解, 代謝調節)</p> <p>第7回 //</p> <p>第8回 糖質の代謝(解糖系, TCA回路など), (小テスト)</p> <p>第9回 //</p> <p>第10回 //</p> <p>第11回 脂質の代謝(トリグリセリドの分解, 脂肪酸の酸化), (小テスト)</p> <p>第12回 脂質の代謝(不飽和脂肪酸の酸化, ケトン体の生成・代謝, 脂肪酸の生合成など)</p> <p>第13回 核酸の代謝(プリン塩基<ヌクレオチド>の合成と分解) (小テスト)</p> <p>第14回 核酸の代謝(ピリミジン塩基<ヌクレオチド>の合成と分解)</p> <p>第15回 生体機能の調節(ホルモンの構造と化学), (小テスト)</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習・準備を重視する		
成績評価の方法	小テスト・プレゼンテーション(50%), テスト(50%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	生化学実験	担当者	倉元 綾子
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応	適宜対応(要予約)
		[必修/選択]	選択(注) [授業形態] 実験
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生体成分、栄養成分の定量的分析</p> <p>【概要】生化学は、食物栄養の専門知識に必須の基礎的分野で、人体の機能の化学と代謝に関して幅広く学ぶ分野である。講義で学んだ事項と生化学的基礎の重要性について、栄養成分の定量分析、尿、ホルモンなどの実験を通してさらに理解を深める。実験を通じて、正確さ、根拠強さ、コミュニケーション能力などを養う。(なお、時間割などから授業スケジュールを変更する場合もある。)</p> <p>【到達目標】実験を通して、生体成分、栄養成分の生化学を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 林 淳三『新訂生化学実験』建帛社 1,785円, 奥恒行,高橋正侑編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2500円＋税, 遠藤克己,三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3,200円＋税, 佐藤達夫監修『新版 からだの地図帳』講談社 4,000円＋税, 山口和克ほか『新版 病気の地図帳』講談社 4,000円＋税</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 実験の予備知識, 実験の進め方, レポートの書き方, 器具洗浄</p> <p>第2回 灰分, 脂肪, 食物繊維の定量(解説)</p> <p>第3回 水分の定量(解説, 実験)</p> <p>第4回 ステロイドホルモンの分離定性(解説, 実験)</p> <p>第5回 アミラーゼによる酵素実験(解説, 実験)</p> <p>第6回 ビタミンB₂の定性(解説, 実験)</p> <p>第7回 ビタミンB₁の定量(解説, 実験)</p> <p>第8回 タンパク質の定量(解説, 実験)</p> <p>第9回 タンパク質の定量(実験)</p> <p>第10回 タンパク質の定量(実験)</p> <p>第11回 カルシウムの定量(解説, 実験)</p> <p>第12回 尿(1)クレアチニン, カルシウム・マグネシウムの定量(解説, 実験)</p> <p>第13回 尿(2)ウロペーパータンパク, 糖, アセトン体</p> <p>第14回 器具洗浄</p> <p>第15回 まとめ, そうじ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習・準備・レポートを重視する		
成績評価の方法	レポート(70%), 予習の状況, 実験への取り組み状況(30%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	健康と運動	担当者	西迫 貴美代
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	随時 nisizako@k-kentan.ac.jp
		[必修/選択]	必修 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会において健康問題が取り上げられ、「健康ブーム」現象が起きている。その背景やその原因について言及することによって、本講義で取り扱う「健康」概念を明確にする。特に運動不足がもたらす現代人の健康問題に対して、運動の必要性を理解することはもちろんのこと、日常生活の中で実施しうる具体的な「運動処方」について理解することを目的とする。</p> <p>【概要】健康にかかわる職業である、栄養士に必要な基本的な運動処方の知識を具体的なデータと自分のからだの感覚との対比を促すワークを取り入れ、データの意味をより深く理解することから、健康のための運動の必要性とその効果について他者へ伝える能力を身につける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適時、講義資料を配付する</p> <p>(2) 『運動とスポーツ生理学』北川薫著、市村出版、2009年 他に適時、参考文献を紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 現代社会の特徴と健康問題</p> <p>第2回 健康施策の変遷とその背景について(健康観の変遷を探る)</p> <p>第3回 からだに刷り込まれた自分の体のクセを知る</p> <p>第4回 適切な運動処方について考える 1 (自己のデータを元に)</p> <p>第5回 適切な運動処方について考える 2 (基本的な運動とリラクゼーションの方法について～ストレス解消法)</p> <p>第6回 適切な運動処方について考える 3 (データの意味-1)</p> <p>第7回 体力概念について (データの意味-2)</p> <p>第8回 健康と運動1 (運動の仕組みと運動の効果)</p> <p>第9回 健康と運動2 (運動とダイエット)</p> <p>第10回 健康と運動3 (運動と休養・栄養)</p> <p>第11回 健康と運動4 (ライフスタイルを考える)</p> <p>第12回 ウォーキングによる自己の身体作業能力の測定</p> <p>第13回 ペースウォーキングによる自己の身体作業能力の測定</p> <p>第14回 ジョギングにおける自己の身体作業能力の測定</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	これまで履修した講義(特に解剖学 運動生理学など)で使用したテキスト等、復習すること		
成績評価の方法	毎回、小レポートを提出と出席(60%) 最終レポート 40%		

(注) 教職必修

授業科目	健康管理概論	担当者	與儀 幸朝
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	講義終了時
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>健康を維持増進するために、身近な健康増進の知識や方法について学ぶ</p> <p>【概要】</p> <p>我が国の健康の現状を把握し、健康問題への関心を高め、疾病予防や健康増進の方法についての知識を習得することで、健康管理についての科学的な考え方や理解を養う</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康の概念について説明できる 2) 人口統計および疾病統計の現状について把握し、その原因や要因について理解できる 3) ストレス発散の具体的な方法について列挙できる 4) 生活習慣病の成り立ちについて理解し、予防策を列挙できる 5) 情報の収集・処理・管理について理解することができる 		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 「健康管理概論」東京教学社</p> <p>(2) 「健康管理概論」光生館</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 健康の概念1</p> <p>第3回 健康の概念2</p> <p>第4回 健康の現状1</p> <p>第5回 健康の現状2</p> <p>第6回 健康増進対策1</p> <p>第7回 健康増進対策2</p> <p>第8回 ストレス</p> <p>第9回 健康づくりの実際</p> <p>第10回 健康の阻害要因と疾病の予防</p> <p>第11回 健康管理の進め方1</p> <p>第12回 健康管理の進め方2</p> <p>第13回 情報処理と健康管理1</p> <p>第14回 情報処理と健康管理2</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験 70%, レポート 30%		

(注) 栄養士選択必修

授業科目	公衆衛生学		担当者	安藤哲夫
	[履修年次]	2年	授業外対応	メールで対応
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	[授業形態]
				講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】保健・医療・福祉の実践としての公衆衛生と理論としての公衆衛生学を知ること</p> <p>【概要】日本国憲法 25 条にある国民の生活権は、憲法上国の社会福祉・社会保障および公衆衛生の向上への努力のたまものとされている。その仕組みを知り、実態を知ることで、個人としての健康問題を考える講義を目論んでいる。</p> <p>【到達目標】公衆衛生学の主要な仕組み・仕様を知り、それを実際に適応・使用できる。具体的には、新聞報道などでの公衆衛生・健康問題を理解することが出来、さらに「自分なら」の対応法を挙げる事が出来るのが目標である</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント配布</p> <p>(2) 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 公衆衛生学総論 公衆衛生学とは</p> <p>第 2 回 公衆衛生学総論 公衆衛生学の歴史</p> <p>第 3 回 日本国憲法 25 条と社会保障</p> <p>第 4 回 疫学 研究デザイン；記述疫学、分析疫学、介入研究 (実験疫学)</p> <p>第 5 回 疫学 バイアスと交絡 因果関係の評価</p> <p>第 6 回 疫学 幾つかのエピソード紹介 ジョン・スノーとコレラ、高木兼寛と脚気</p> <p>第 7 回 環境保健 (昨日)；公害 (生産過程における汚染) について 熊本水俣病と新潟水俣病</p> <p>第 8 回 環境保健 (昨日)；全国のメチル水銀汚染について</p> <p>第 9 回 環境保健 (今日)；生産物質 (農薬・防腐剤・殺菌剤) による汚染</p> <p>第 10 回 環境保健 (明日)；人間活動によって発生する地球規模の生態系の異常</p> <p>第 11 回 地域保健活動；乳幼児保健 母子保健</p> <p>第 12 回 地域保健活動；母性保健 労働基準法</p> <p>第 13 回 地域保健活動；産業保健 労働安全衛生法</p> <p>第 14 回 生命倫理；緩和医療 尊厳死 医療行動と生命倫理</p> <p>第 15 回 生命倫理；ヘルシンキ宣言 アルマアタ宣言 オタワ憲章</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習は配布プリントを読むこと。復習は管理栄養士国家試験問題を解くこと。			
成績評価の方法	筆記試験 (80%)、提出物等 (20%)			

(注) 栄養士選択必修，教職必修

授業科目	運動生理学		担当者	與儀 幸朝
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
				[授業形態]
				講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>運動時に起こる現象と人体機能の変化について学ぶ</p> <p>【概要】</p> <p>運動を行った際の人体機能の変化を把握することで、運動習慣の必要性について理解し、目的に応じたトレーニング方法を選択することができる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 筋肉の種類とそれぞれの役割、筋線維のタイプ、筋収縮様式について説明できる 2) 運動強度に対するエネルギー供給系の違いについて理解することができる 3) 運動時の呼吸・循環機能の役割について理解することができる 4) 目的に沿ったトレーニング方法について理解することができる 5) 運動処方 6 原則とトレーニング理論の 5 原則について説明できる 			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 「入門運動生理学」杏林書院</p> <p>(2) 「運動生理学概論」杏林書院</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 筋収縮とエネルギー供給系</p> <p>第 3 回 筋線維の種類と特徴</p> <p>第 4 回 体力 1</p> <p>第 5 回 体力 2</p> <p>第 6 回 身体組成と肥満 1</p> <p>第 7 回 身体組成と肥満 2</p> <p>第 8 回 運動と脂肪燃焼</p> <p>第 9 回 運動と栄養</p> <p>第 10 回 運動と呼吸</p> <p>第 11 回 運動と循環</p> <p>第 12 回 老化に伴う身体機能の変化</p> <p>第 13 回 運動処方 1</p> <p>第 14 回 運動処方 2</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験 70%、レポート 30%			

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	給食管理		担当者	山下 三香子																																																												
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応 (要予約)																																																												
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択]	必修 (注) [授業形態] 講義																																																												
テーマ及び概要	<p>【テーマ】特定多数の人に継続的に食事を供給する給食施設において、対象者の目的に応じた栄養管理と効率的な運用について</p> <p>【概要】食事計画から栄養計画、献立作成、衛生・安全管理、作業管理、設備管理、労務管理、原価管理など効率のよい経営と満足度の高い給食について、給食の目的、方法、評価を明らかにできる方法を学ぶ</p> <p>【到達目標】給食の運営管理できる力を養う。</p>																																																															
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『栄養士のための給食計画論』・『大量調理』 学建書院、『給食のための基礎からの献立作成』建帛社</p> <p>(2) 『七訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部、『糖尿病食事療法のための食品交換表』日本糖尿病協会・文光堂 『給食の運営管理実習テキスト』第一出版、『給食経営管理論』東京化学同人</p>																																																															
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>給食の概念</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>栄養食事管理</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>食品構成</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>献立の立て方、糖尿病の献立、スチコンとは</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>献立計算</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>主菜の考え方、給食の調理管理</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>大量調理の献立</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>大量調理の調理</td> <td></td> <td>主菜の献立作成</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>作業管理、設備管理</td> <td></td> <td>副菜の献立作成</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>衛生・安全管理</td> <td></td> <td>汁の献立の立て方</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>衛生・安全管理</td> <td></td> <td>デザート献立の立て方</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>市場調査、経営管理</td> <td></td> <td>行事食</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>施設別の栄養管理・献立</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>施設別の給食管理、研究・調査</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>まとめ</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				第 1 回	給食の概念			第 2 回	栄養食事管理			第 3 回	食品構成			第 4 回	献立の立て方、糖尿病の献立、スチコンとは			第 5 回	献立計算			第 6 回	主菜の考え方、給食の調理管理			第 7 回	大量調理の献立			第 8 回	大量調理の調理		主菜の献立作成	第 9 回	作業管理、設備管理		副菜の献立作成	第 10 回	衛生・安全管理		汁の献立の立て方	第 11 回	衛生・安全管理		デザート献立の立て方	第 12 回	市場調査、経営管理		行事食	第 13 回	施設別の栄養管理・献立			第 14 回	施設別の給食管理、研究・調査			第 15 回	まとめ		
第 1 回	給食の概念																																																															
第 2 回	栄養食事管理																																																															
第 3 回	食品構成																																																															
第 4 回	献立の立て方、糖尿病の献立、スチコンとは																																																															
第 5 回	献立計算																																																															
第 6 回	主菜の考え方、給食の調理管理																																																															
第 7 回	大量調理の献立																																																															
第 8 回	大量調理の調理		主菜の献立作成																																																													
第 9 回	作業管理、設備管理		副菜の献立作成																																																													
第 10 回	衛生・安全管理		汁の献立の立て方																																																													
第 11 回	衛生・安全管理		デザート献立の立て方																																																													
第 12 回	市場調査、経営管理		行事食																																																													
第 13 回	施設別の栄養管理・献立																																																															
第 14 回	施設別の給食管理、研究・調査																																																															
第 15 回	まとめ																																																															
授業外学習(予習・復習)	適宜指示																																																															
成績評価の方法	出席・レポート・小テスト 40%、試験 60%																																																															

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	給食管理実習 I		担当者	山下 三香子
	[履修年次] 2年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前・後	[単位] 1単位	[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学内実習 本学学生を主要対象とした給食サービス</p> <p>【概要】給食としての食事計画・献立作成・運営計画・評価の一連の実習を本学学生を対象として実際に大量調理を行う。帳票類の作成・まとめを行い、栄養教育の方法、評価を行う。</p> <p>【到達目標】給食施設でのすべての業務を理解、計画、実施できる力を養う。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『栄養士のための給食計画論』・『大量調理』 学建書院 『給食のための基礎からの献立作成』建帛社 『給食の運営管理実習テキスト』第一出版</p> <p>(2) 『七訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部 『糖尿病食事療法のための食品交換表』日本糖尿病協会・文光堂</p>			
授業スケジュール	<p>オリエンテーション (実習の概要)</p> <p>献立計画・・食事計画・栄養計画のもと、期間献立計画および日別献立計画を作成し栄養価計算・原価計算をし、調整する。</p> <p>食材購入計画・・市場調査・食材利用計画・発注書作成を行う。</p> <p>運営計画・・大量調理機器を考慮した作業工程表を作成し、実施日の運営計画を立案する。</p> <p>試作・試食・・献立に忠実で正確な分量による料理を試作し、盛り付け方法・食器の選択・試食を行い、最終的な調整をする</p> <p>衛生管理計画・・給食における安全ポイントを確認し、衛生検査計画をたてる。</p> <p>実験調査計画・・評価のための調査計画を立案する。</p> <p>栄養教育計画・・対象者にとって必要と考えられる給食内容に関連したテーマで栄養教育計画を立案し、栄養教育媒体を作成する。</p> <p>供食サービス・・計画に従って、喫食者が満足できるサービスを実施する。</p> <p>評価・・実習後のデータ整理・総合評価・まとめ (報告発表)</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	実習ノート (20%)、報告発表 (10%)、実習態度及び出席 (70%)			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	給食管理実習Ⅱ		担当者	山下 三香子
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	前期集中	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択(注)
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学外実習 給食施設(事業所、福祉施設など)での栄養士の給食業務</p> <p>【概要】学内実習で学んだことをもとに、喫食対象者のニーズや給食条件、それに伴う献立やサービス、栄養管理のあり方などを県内外の実践の場で学習する。</p> <p>【到達目標】給食運営の実態を体得し、給食施設における栄養士の業務や役割について実践的能力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『栄養士のための給食計画論』学建書院、『給食のための基礎からの献立作成』建帛社 実習ノート</p> <p>(2) 『ライフステージ実習栄養学』医歯薬出版、『七訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部 『給食経営管理論』東京化学同人</p>			
授業スケジュール	<p>各施設による特徴</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、給食施設の概要 2、給食業務の流れ 3、給食組織と業務分担および栄養士業務 4、栄養教育 5、献立内容 6、大量調理の技術 7、食材管理 8、衛生管理 9、各調査と評価 10、実習終了後、学内で報告発表を行う。 <p>各施設による特徴</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	実習ノート(20%)、報告発表(10%)、実習態度および出席(70%)			

(注) 栄養士必修 ※栄養教諭二種免許を取得しない者のみ履修できる。

授業科目	給食管理実習Ⅲ		担当者	山下 三香子
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	前期集中	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択(注)
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学外実習 給食施設(学校給食)での栄養士の給食業務</p> <p>【概要】学内実習で学んだことをもとに、喫食対象者のニーズや給食条件、それに伴う献立やサービス、栄養管理のあり方などを県内外の実践の場で学習する。</p> <p>【到達目標】給食運営の実態を体得し、給食施設における栄養士の業務や役割について実践的能力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『栄養士のための給食計画論』学建書院、『給食のための基礎からの献立作成』建帛社、実習ノート</p> <p>(2) 『ライフステージ実習栄養学』医歯薬出版、『七訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部 『給食経営管理論』東京化学同人</p>			
授業スケジュール	<p>各施設による特徴</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、給食施設の概要 2、給食業務の流れ 3、給食組織と業務分担および栄養士業務 4、栄養教育 5、献立内容 6、大量調理の技術 7、食材管理 8、衛生管理 9、各調査と評価 10、実習終了後、学内で報告発表を行う。 <p>各施設による特徴</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	実習ノート(20%)、報告発表(10%)、実習態度および出席(70%)			

(注) 栄養士必修、教職必修 ※栄養教諭二種免許を取得する者のみ履修できる。

授業科目	栄養教育論	担当者	町田 和恵
	[履修年次] 2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 後期 [単位] 1単位	[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための教育方法</p> <p>【概要】栄養教育は、対象とする個人や集団のQOLを高めるため適正な食生活を営み、望ましい健康状態を維持・増進できるよう、単なる栄養知識の伝達に終わることなく教育的手段を用いて、好ましい食行動の実践し習慣化させること、また、生活習慣病の増加に対応するため、栄養・食生活上問題のある人々を対象として、その栄養状態を改善することを目的とした教育的働きかけである。</p> <p>【到達目標】対象の実態とニーズに沿って、健康やQOLの向上につながる健康・栄養教育の理論と方法を習得させる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 日本栄養士会編 『2017年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 栄養教育の概念、行動科学理論と栄養教育</p> <p>第2回 行動科学理論とモデル</p> <p>第3回 行動変容技法と概念</p> <p>第4回 栄養教育におけるカウンセリング</p> <p>第5回 組織づくり・地域づくり、栄養教育の展開</p> <p>第6回 食環境づくり、栄養教育の展開</p> <p>第7回 栄養教育マネジメント、栄養教育の展開</p> <p>第8回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験の成績 (70%) 課題と小テスト (30%) により評価する。		

(注) 栄養士必修, 教職必修 ※ 7.5回

授業科目	栄養指導論 I	担当者	町田 和恵
	[履修年次] 1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期 [単位] 2単位	[必修/選択]	必修 (注) [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】栄養学的基礎理論に基づいた栄養指導に必要な知識と実態の把握</p> <p>【概要】本講義では、栄養指導に必要な基礎知識と、対象となる個人や集団及び地域の栄養指導の基本的役割やその食習慣を形作った背景の実態把握の方法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】栄養指導に必要な基本的知識・役割・実態把握の方法を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 芦川修貳, 田中弘之編集『栄養士のための栄養指導論』学建書院</p> <p>(2) 菱田明, 佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2015年版』第一出版 日本栄養士会編 『2017年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 栄養指導の目的, 栄養指導の歴史</p> <p>第2回 食事摂取基準 (身体活動指数, エネルギー)</p> <p>第3回 食事摂取基準 (各栄養素)</p> <p>第4回 食品構成 (各栄養素の基準量)</p> <p>第5回 食品構成 (栄養比率の考え方)</p> <p>第6回 食品構成作成 栄養価の算定 (1)</p> <p>第7回 食品構成作成 栄養価の算定 (2)</p> <p>第8回 各種調査による実態把握 (身体状況 生活時間)</p> <p>第9回 各種調査による実態把握 (栄養調査)</p> <p>第10回 各種調査による実態把握 (食生活調査)</p> <p>第11回 栄養指導の基本的な進め方 (個別指導と集団指導)</p> <p>第12回 栄養指導の基本的な進め方 (栄養状態の評価)</p> <p>第13回 栄養指導の基本的な進め方 (運動)</p> <p>第14回 栄養指導の基本的な進め方 (休養)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験の成績 (70%) + 課題と小テスト (30%) により評価する。		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養指導Ⅱ		担当者	町田 和恵
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	必修 (注)
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】栄養学的基礎理論に基づいた対象者の自らの行動変容に導く栄養指導</p> <p>【概要】本講義では、対象とする個人や集団の食生活の問題点や環境に対して、その食習慣を形作った背景を正しく理解して、指導を受けた人が自らの意思で食生活の改善に取り組み、問題解決を図ることができるように支援するための栄養指導の理論と方法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】対象者の食生活の問題点や環境を正しく理解し、栄養指導に必要な基礎的知識や基本的な方法を習得する。対象に応じたプレゼンテーションが出来る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 芦川修武, 田中弘之編集『栄養士のための栄養指導論』学建書院</p> <p>(2) 菱田明、佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2015年版』第一出版 日本栄養士会編 『2017年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ライフステージと栄養指導 (妊産婦、乳児期)</p> <p>第2回 ライフステージと栄養指導 (幼児期・3歳未満児)</p> <p>第3回 ライフステージと栄養指導 (幼児期・3歳以上児)</p> <p>第4回 ライフステージと栄養指導 (学童期)</p> <p>第5回 ライフステージと栄養指導 (思春期・青年期)</p> <p>第6回 ライフステージと栄養指導 (成人期)</p> <p>第7回 ライフステージと栄養指導 (高齢期)</p> <p>第8回 ライフスタイルと栄養指導 (生活習慣病 肥満症)</p> <p>第9回 ライフスタイルと栄養指導 (生活習慣病 高血圧症)</p> <p>第10回 ライフスタイルと栄養指導 (生活習慣病 糖尿病)</p> <p>第11回 ライフスタイルと栄養指導 (生活習慣病 脂質異常症)</p> <p>第12回 福祉施設給食と栄養指導</p> <p>第13回 学校給食と栄養指導</p> <p>第14回 病院食事と栄養指導</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験の成績 (70%) + 課題と小テスト (30%) により評価する。			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養指導論実習Ⅰ		担当者	町田 和恵
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択 (注)
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】個人・集団を対象とした食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための基礎を築く教育方法</p> <p>【概要】栄養指導論で得た基本的に必要とする指導内容や方法ならびに具体的な技術を統合し、個人や集団を対象として、そのニーズに応じた実用的栄養教育実施のための栄養アセスメント、栄養指導プログラムの立案、教育媒体・資料の作成、</p> <p>【到達目標】栄養指導の実施・評価を想定し、その実際を学び栄養指導が実践できるように技術を習得することを目的として、対象者への的確な栄養アセスメント、指導案の作成、媒体の選択、プレゼンテーションのスキルを習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 菱田明、佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2015年版』第一出版 日本栄養士会編 『2017年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 栄養指導実習の意義と目的、栄養指導の基礎知識 (食事摂取基準)</p> <p>第2回 栄養指導の基礎知識 (食品構成表の作成)</p> <p>第3回 実態指導の基礎知識 (献立作成)</p> <p>第4回 実態把握の方法 食品構成の算定実習</p> <p>第5回 実態把握の方法 各種調査方法 (食事摂取状況調査など)</p> <p>第6回 実態把握の方法 各種調査方法 (食事摂取状況調査など)</p> <p>第7回 実態把握の方法 身体状況調査、体力測定</p> <p>第8回 指導案の作成 (基本)</p> <p>第9回 指導案の作成 (実践用 グループ)</p> <p>第10回 プレゼンテーションの資料・媒体作成 (グループ)</p> <p>第11回 プレゼンテーション (グループ)</p> <p>第12回 プレゼンテーション (グループ) 指導案の作成 (実戦用 個人)</p> <p>第13回 プレゼンテーションの資料・媒体作成 (食育指導 個人 その1)</p> <p>第14回 プレゼンテーションの資料・媒体作成 (食育指導 個人 その2)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	発表 (50%) + 課題と小テスト (30%) + 実習への取り組み状況 (20点) により評価する。			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養指導論実習Ⅱ		担当者	町田 和恵
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	前期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択 (注)
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】個人・集団を対象とした食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための基礎を築く教育方法</p> <p>【概要】栄養指導論で得た基本的に必要とする指導内容や方法ならびに具体的な技術を統合し、栄養指導論実習Ⅱでは、集団・個別を対象とし、福祉施設・病院での栄養指導のシミュレーションを展開し、体験学習により栄養指導に対する理解を深めると共に栄養指導・教育技能の向上を図る。</p> <p>【到達目標】(1) 対象者に対する的確な栄養アセスメントが出来る。(2) 対象に応じた指導案の作成、媒体の選択が出来る。(3) 対象に応じたプレゼンテーションが出来る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 菱田明、佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準2015年版』第一出版 日本栄養士会編 『2017年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 集団を対象とした栄養指導の方法 栄養指導内容の作成①</p> <p>第2回 集団を対象とした栄養指導の方法 栄養指導内容の作成②</p> <p>第3回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その1</p> <p>第4回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その2</p> <p>第5回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その3</p> <p>第6回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その4</p> <p>第7回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その5</p> <p>第8回 個別対応の栄養指導の基本的な考え方</p> <p>第9回 個別対応の栄養指導の方法 栄養指導計画の作成</p> <p>第10回 個別対応の栄養指導の方法 (病院) プレゼンテーション その1</p> <p>第11回 個別対応の栄養指導の方法 (病院) プレゼンテーション その2</p> <p>第12回 個別対応の栄養指導の方法 (病院) プレゼンテーション その3</p> <p>第13回 個別対応の栄養指導の方法 (病院) プレゼンテーション その4</p> <p>第14回 個別対応の栄養指導の方法 (病院) プレゼンテーション その5</p> <p>第15回 個別対応の栄養指導の方法 (病院) プレゼンテーション その6とまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	発表(50%) + 課題と小テスト(30%) + 実習への取り組み状況(20点)により評価する。			

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	公衆栄養学		担当者	米盛 麻美
	[履修年次]	2年	授業外対応	授業終了後
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択 (注)
			[授業形態]	講義 (発表形式)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】集団の健康問題が栄養上どのような因子に基づくのか、問題解決のために栄養はどうかを明らかにしていく。</p> <p>【概要】日本は、平均寿命延伸のなか、高齢化、少子化、医療費増大などの問題を抱えている。よって、障害や寝たきりではない状態で健康的に過ごせる期間である健康寿命の延伸が強く望まれている。そのような現状のなか、不適切な栄養摂取や生活習慣により引き起こされる生活習慣病対策としての、栄養士の活動は益々重要性を帯びている。</p> <p>【到達目標】食の専門家である栄養士が疾患の予防のために、集団レベル、個人レベルで食生活における問題点を抽出し、その問題解決のために必要な食環境を含めた総合的かつ具体的で有効な方法を示すことができるようになること。</p>			
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 栄養科学シリーズNEXT 公衆栄養学 第5版 講談社サイエンティフィック</p> <p>(2) 栄養科学シリーズNEXT 栄養カウンセリング論 第2版 講談社サイエンティフィック</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 公衆栄養学の概念 (1)</p> <p>第2回 公衆栄養学の概念 (2)</p> <p>第3回 公衆栄養学の歴史</p> <p>第4回 食生活と栄養問題の変遷と現状 (1)</p> <p>第5回 食生活と栄養問題の変遷と現状 (2)</p> <p>第6回 我が国の栄養問題の現状と課題 (1)</p> <p>第7回 我が国の栄養問題の現状と課題 (2)</p> <p>第8回 栄養政策</p> <p>第9回 栄養疫学</p> <p>第10回 公衆栄養活動に必要な統計学</p> <p>第11回 地域栄養マネジメント</p> <p>第12回 公衆栄養プログラムの展開</p> <p>第13回 実技 (1)</p> <p>第14回 実技 (2)</p> <p>第15回 公衆栄養学総括</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験 (80%)，実技 (10%)，出席態度 (10%)			

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	栄養情報処理	担当者	町田 和恵
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】栄養士が健康・栄養状態、食行動、食環境に関する情報の収集・分析、それを総合的に判断する能力</p> <p>【概要】栄養士には、集めた情報を統計学的に処理し、客観的に評価することが求められている。そのためには、コンピュータを使用し、実践に沿った具体的な情報収集・分析の方法にはどのようなものがあるかを学ぶ。</p> <p>【到達目標】栄養士業務にかかわる情報処理の基礎ならびにアンケート集計の基礎を学び、これからの栄養士に望まれる栄養情報処理の基礎を身につけることを目的とする。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 石村貞夫, 広田直子他著『よくわかる統計学』介護福祉・栄養管理データ編 (第2版), 東京図書</p> <p>(2) 菱田明, 佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準2015年版』第一出版 日本栄養士会編 『2017年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 コンピュータの役割, 機能, 実際</p> <p>第2回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方 (1)</p> <p>第3回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方 (2)</p> <p>第4回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方 (3)</p> <p>第5回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方 (4)</p> <p>第6回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方 (5)</p> <p>第7回 データ変換によるデータ集計のまとめ方 (単純集計)</p> <p>第8回 データ変換によるデータ集計のまとめ方 (クロス集計)</p> <p>第9回 データ変換によるデータ集計のまとめ方 (クロス集計 オッズ比)</p> <p>第10回 データ変換によるデータ集計のまとめ方 (区間推定)</p> <p>第11回 データ変換によるデータ集計のまとめ方 (検定方法)</p> <p>第12回 コンピュータによる献立作成</p> <p>第13回 コンピュータによる栄養価計算</p> <p>第14回 コンピュータによる月報作成</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + 課題 (30%) + 実習への取り組み状況 (20点) により評価する。		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	臨床栄養学 I	担当者	有村 恵美
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】病態に基づいた栄養・食事療法</p> <p>【概要】主要な疾患の概要 (疫学・発症機序・病態・臨床症状)、診断基準、治療法を学習することで、各種疾患の栄養学的なアプローチの基本的な考え方を理解する。</p> <p>【到達目標】主要な疾患の概要 (疫学・発症機序・病態・臨床症状)、診断基準、治療法を理解し、栄養の関連を認識し、各疾患別に必要とされている栄養・食事療法について理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 秋山栄一ほか『臨床栄養学概論』(化学同人)</p> <p>(2) 日本病態栄養学会『病態栄養ガイドブック』(メディカルレビュー社)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 臨床栄養学の概念</p> <p>第2回 代謝性疾患の病態と栄養管理</p> <p>第3回 代謝性疾患の病態と栄養管理</p> <p>第4回 代謝性疾患の病態と栄養管理</p> <p>第5回 代謝性疾患の病態と栄養管理</p> <p>第6回 代謝性疾患の病態と栄養管理</p> <p>第7回 栄養法</p> <p>第8回 栄養評価</p> <p>第9回 消化器疾患の病態と栄養管理</p> <p>第10回 消化器疾患の病態と栄養管理</p> <p>第11回 消化器疾患の病態と栄養管理</p> <p>第12回 消化器疾患の病態と栄養管理</p> <p>第13回 術前・術後の栄養管理</p> <p>第14回 腎疾患の病態と栄養管理</p> <p>第15回 腎疾患の病態と栄養管理</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験 (70%)、小テスト・授業での発言内容 (30%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	臨床栄養学Ⅱ	担当者	有村 恵美
	[履修年次] 2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】病態に基づいた栄養・食事療法 (実践から応用)</p> <p>【概要】主要な疾患の成因・病態を学習することで、各種疾患の栄養学的なアプローチの基本的な考え方を理解する。各疾患別の病態の知識をもとに、治療のための栄養・食事基準・調理のポイントを理解する。</p> <p>【到達目標】主要な疾患の病態を理解し、栄養の関連を認識できること。各疾患別の栄養・食事療法を理解し、具体的な治療食を考えられる力を身につける</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 秋山栄一ほか『臨床栄養学概論』(化学同人) 玉川和子ほか『臨床栄養学実習書』(医歯薬出版株式会社) 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』(日本糖尿病協会・文光堂) 黒川清監修『腎臓病食品交換表』(医歯薬出版株式会社)</p> <p>(2) 日本病態栄養学会『病態栄養ガイドブック』(メディカルレビュー社)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 循環器疾患の病態と栄養管理 第2回 循環器疾患の病態と栄養管理 第3回 血液・呼吸器疾患の病態と栄養管理 第4回 内分泌性・骨疾患の病態と栄養管理 第5回 一般食治療食・形態別治療食 第6回 エネルギー調整食 第7回 食塩制限食 第8回 食塩制限食 第9回 脂質調整食 第10回 脂質調整食 第11回 たんぱく質調整食 第12回 たんぱく質調整食 第13回 カリウム制限食・水分制限食 第14回 その他の治療食 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験 (50%)、課題・小テスト・授業での発言内容 (50%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	臨床栄養学実習	担当者	有村 恵美
	[履修年次] 2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期集中 [単位] 2	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学外実習 病院での栄養士全般 (栄養管理・給食管理・栄養指導) の業務による実習</p> <p>【概要】県内外の医療現場での2週間の実習で献立作成、給食管理業務と同様以下のような内容を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療に携わる他職種と連携を図ったチーム医療の中で、専門職として栄養士の実情を把握。 2. 対象者の臨床成績を把握し、的確な食事計画や栄養管理、栄養指導。 3. 対象者の心理を理解し信頼を得る。 <p>【到達目標】医療現場で提供されている治療食の実態を把握し、実際に遂行されている栄養士全般 (栄養管理・給食管理・栄養指導) 業務の習得。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 秋山栄一ほか『臨床栄養学概論』(化学同人) 玉川和子ほか『臨床栄養学実習書』(医歯薬出版株式会社) 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』(日本糖尿病協会・文光堂) 黒川清監修『腎臓病食品交換表』(医歯薬出版株式会社) 菱田明監修『日本人の食事摂取基準』(第一出版) 香川芳子監修『七訂増補食品成分表』(女子栄養大出版部)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>各施設による特徴</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.院内における栄養部門の位置と役割 2.病院給食管理業務の実際 3.供食状況の実際 4.病態栄養管理業務の実際 5.栄養食事指導業務の実際 6.栄養教育用媒体および栄養食事指導評価の方法 <p>学外実習終了後、報告発表を行う。</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	実習ノート (20%)、報告発表 (10%)、実習への取り組み状況 (70%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	病理学		担当者	山田 博久
	[履修年次]	2年	授業外対応	授業終了後
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人体等における病気の成り立ち。</p> <p>【概要】1)ヒトの代表的な疾患について基本的な理解を持つこと。2)学生の知識や理解度に応じて授業内容は変化します。学習効果を上げるため、以前授業でとりあげた項目を繰り返し授業することもあります。</p> <p>【到達目標】管理栄養士国家試験に必要な基本知識を得ること。この試験の医学系設問はレベルが高く指定時間内で必要な所すべてを講義することは困難です。試験合格のみに目標をしばった授業も可能ですが、表面的な知識しか持たず、本当の問題解決能力がない者となる危険性が大です。また大学は試験合格の為の予備校ではありません。そこで幾つかの部分にしばって程度の高い授業(医学部3-5年生相当)を行い、また逆に基本的な科学知識の部分も押さえ、以後の自分で勉強を行う力をつけることを目標にします。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 系統看護学講座 専門基礎4 病理学</p> <p>(2) 特に定めないが、さまざまな分野の書物を多量に読むことは学生の基本であることを心得ておくこと。管理栄養士国家試験の医学系設問は(1)の教科書のみでは不十分です。これについては講義中にも説明します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 病理学で学ぶこと</p> <p>第2回 炎症、免疫、感染症 呼吸器系の疾患</p> <p>第3回 循環障害、循環器、の疾患 代謝障害</p> <p>第4回 先天異常、遺伝子異常、神経系の疾患</p> <p>第5回 補足</p> <p>第6回 消化器系、腎泌尿器系、内分泌系の疾患</p> <p>第7回 腫瘍、血液の疾患、老化と死</p> <p>第8回 補足</p> <p>第9回 試験(筆記試験)</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験の成績に加え授業中の発言や学生からの質問を併せて評価する。			

※7.5回

授業科目	学校栄養教育論		担当者	中馬 和代・町田 和恵
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択(注)
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学校における食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための教育方法</p> <p>【概要】学校での年間指導計画の下に、学級担任や教科担任と連携しつつ食に関する指導を行うことが大切である。学校給食を生きた教材として活用し、効果的な指導を行うために、教育的資質と栄養に関する専門性を併せ有する必要栄養教諭の役割や職務内容、食文化、食に関する指導方法等について学ぶ。</p> <p>【到達目標】児童生徒の心理や発達段階に配慮した指導や学校教育全体に参画し、学級担任や養護教諭、学校外関係者と連携して食に関する教育を行うために、実践を兼ねた演習を行い、知識や方法を修得させる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 金田雅代『栄養教諭論』建帛社</p> <p>(2) 坂本元子『こどもの栄養・食教育ガイド』医歯薬出版、山本公弘『気がするにできる総合学習・体験学習-新しい栄養指導3』東山書房、文部科学省「食生活学習教材」</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 栄養教諭の制度と役割、現状と課題、職務内容、使命(担当:中馬)</p> <p>第2回 学校給食の教育的意義と役割、学校組織と栄養教諭の位置づけ(担当:中馬)</p> <p>第3回 学校給食の歴史と食文化の変遷(担当:中馬)</p> <p>第4回 子どもの発達と食生活(担当:中馬)</p> <p>第5回 食に関する指導の全体計画(計画・実施・評価)(担当:中馬)</p> <p>第6回 食に関する指導の展開(担当:中馬)</p> <p>第7回 給食時間における食に関する指導(担当:中馬)</p> <p>第8回 給食時間における食に関する指導の実際(担当:中馬)</p> <p>第9回 児童・生徒の栄養の指導及び管理に係る社会的事情、法令及び諸制度(担当:町田)</p> <p>第10回 児童・生徒の栄養に係る諸課題(国民の栄養をめぐる諸事情の理解を含む)(担当:町田)</p> <p>第11回 発達に応じた食に関する指導と食生活学習教材(担当:町田)</p> <p>第12回 教科における食に関する指導①(担当:町田)</p> <p>第13回 教科における食に関する指導②(担当:町田)</p> <p>第14回 個別栄養相談指導(食物アレルギー・肥満・やせ・貧血等)(担当:町田)</p> <p>第15回 まとめ(担当:町田)</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験の成績(70%) + 課題と小テスト(30%) により評価する。			

(注) 教職必修

授業科目	有機化学概論	担当者	倉元 綾子・多田 司・木下 朋美	
	[履修年次] 1年	授業外対応	オフィスアワーを参照	
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】化学の基礎を体系的に学ぶことにより化学への理解を深め、専門科目を履修する上で必要な基礎固めをします。</p> <p>【概要】化学の基礎的知識として、原子・分子の構造、化学結合、物質質量・溶液の濃度の表し方、酸・塩基、酸化・還元、有機化合物の種類について解説します。</p> <p>【到達目標】①物質の構成を知り、化学結合について理解する。②物質質量を使った溶液の濃度表示を理解する。③酸・塩基および酸化・還元化学反応について理解する。④有機化合物の種類と基本的な官能基を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 高校で履修する「基礎化学」及び「化学」レベルのプリントを適宜配布する。</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、原子の構造</p> <p>第2回 化学結合（イオン結合と共有結合）</p> <p>第3回 原子・分子の重さ（原子量・分子量と式量）</p> <p>第4回 溶液の濃度（物質質量・モル濃度）</p> <p>第5回 化学反応式（化学反応式のつくり方、化学反応の量的関係）</p> <p>第6回 酸と塩基—1（酸・塩基の性質、水素イオン濃度）</p> <p>第7回 酸と塩基—2（中和反応と塩の性質）</p> <p>第8回 酸化と還元—1（酸化・還元の定義、酸化数）</p> <p>第9回 酸化と還元—2（酸化剤と還元剤、酸化還元反応）</p> <p>第10回 有機化合物の特徴と分類（官能基、構造式、異性体）</p> <p>第11回 脂肪族炭化水素（アルカン、アルケン、アルキン）</p> <p>第12回 酸素を含む脂肪族化合物—1（アルコール、アルデヒド、ケトン）</p> <p>第13回 酸素を含む脂肪族化合物—2（カルボン酸、エステル、油脂とセッケン）</p> <p>第14回 芳香族化合物—1（フェノール類、芳香族カルボン酸）</p> <p>第15回 芳香族化合物—2（ニトロ化合物、芳香族アミン）、有機化合物と人間生活</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	期末試験 (30%) + 小テスト (70%)			

授業科目	生物概論	担当者	多田 司	
	[履修年次] 1年	授業外対応	適宜対応	
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生命科学を学ぶための基礎となる生物学の概念と考え方を系統的に理解する。</p> <p>【概要】生物を構成する物質の化学構造と特徴についての理解から始まって、細胞の構造や機能、生命維持のためのエネルギー代謝の仕組み、さらに遺伝についての基本的概念を学習し、最後に動物の生殖と個体の成り立ち、恒常性の維持や刺激に対する応答について学習を進める。また、それぞれのテーマに関するいろいろな話題を取り上げて、生物に対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】食物栄養専攻で学習するさまざまな専門科目の基礎となる基幹科目であることを念頭に、生命現象や生活現象を基礎的、原理的な面から理解できるようになること、特に高校で生物を履修していなかった学生が、生命や生活の機構の精緻さに興味を持ち、これから学ぶ専門科目をさらに深く理解できるようになることを到達目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 田村隆明 著 『医療・看護系のための生物学』 裳華房 2010 適宜、プリントによる資料も配布する。</p> <p>(2) あれば講義中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：生物概論を学習するにあたって</p> <p>第2回 分子から細胞へ：生体を構成する分子</p> <p>第3回 細胞の構造と機能：生物の体の成り立ちについて</p> <p>第4回 細胞分裂と細胞周期：体細胞分裂と核の変化</p> <p>第5回 遺伝と遺伝情報：メンデルの法則とセントラルドグマ</p> <p>第6回 遺伝情報とその複製：遺伝子の本体 DNA</p> <p>第7回 遺伝情報の発現：遺伝情報からタンパク質合成へ</p> <p>第8回 生殖と発生：減数分裂と性の決定</p> <p>第9回 生殖と発生：配偶子形成と受精、発生</p> <p>第10回 生命活動とエネルギー代謝：同化、異化</p> <p>第11回 生命活動とエネルギー代謝：解糖系、TCA 回路、電子伝達系</p> <p>第12回 生命活動とエネルギー代謝：光合成</p> <p>第13回 個体の構造と機能：内分泌系</p> <p>第14回 個体の構造と機能：神経系</p> <p>第15回 個体の構造と機能：生体防御</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習を重視します。			
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 小テスト (30%) により評価する。			

9 生活科学専攻専門科目

授業科目	生活化学		担当者	井余田 秀美
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了時
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身の回りの化学物質について学び、生活の様式や環境との関わりについて考える。</p> <p>【概要】多くの人が豊かで快適に暮らすために化学の果たす役割は大きい。人はこれまで、自然の物をうまく利用したり、自然にはない有益な物を作り出して、生活のために活用してきた。しかしながら一方で、人工の有害物質や生活や生産活動に伴う大量の廃棄物等が、人の生活や自然環境を損なってきた。本講義では、生活の中の化学物質について学ぶ。</p> <p>【到達目標】衣食住の生活や環境での化学物質の役割や化学的な現象について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 「環境・くらし・いのちのための 化学のこころ」 伊藤明夫著 裳華房 (2)			
授業スケジュール	第1回 水 第2回 大気 第3回 大地 第4回 環境と化学物質 第5回 エネルギーと化学 第6回 水の性質 第7回 燃焼 第8回 溶ける・洗う 第9回 接着 第10回 色をつける 第11回 暮らしと金属 第12回 進化し続けるプラスチック 第13回 生体内の分子 第14回 栄養と代謝 第15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	授業期間内の数回のミニレポートの提出			
成績評価の方法	レポートまたは試験			

授業科目	生活化学実験		担当者	井余田 秀美
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了時
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実験
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生活の中の化学物質について理解し、その正しい取り扱いができるようにする。</p> <p>【概要】衣食住や生活環境に関する実験を行う</p> <p>【到達目標】衣食住の生活や環境での化学物質の役割や化学的な現象について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2)			
授業スケジュール	第1回 実験全般の説明 第2回 衣食住の実験 ～ 水の硬度 第11回 洗剤および洗剤水溶液 漂白剤 染色 吸水性樹脂 食品の塩分濃度 第12回 生活環境の実験 ～ pHの測定(生活, 土壌, 酸性雨) 第15回 脱酸素剤と使い捨てカイロ 吸着(木炭, シリカゲル)			
授業外学習(予習・復習)	毎回の実験終了後、(実験ノートに) レポート作成			
成績評価の方法	全実験終了後に提出する実験ノート			

授業科目	色彩学		担当者	坂上 ちえ子				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生活のあらゆる場面で欠かすことのできない重要な要素である「色彩」について学ぶ。</p> <p>【概要】 「色」は身近にあるため、好き、嫌いといった感覚で捉えがちである。この講義では、色覚のメカニズムや色彩心理、色彩調和、色彩計画といった色の基礎的な理論や体系的な知識を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 基礎理論を習得し、それらをコーディネートなどに応用できることと、色彩に関する検定に挑戦することを目指す。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 大井義雄・川崎秀昭『カラーコーディネーター入門 色彩 改訂増補版』財団法人 日本色彩研究所</p> <p>(2) 随時紹介</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：講義概要と進め方</p> <p>第 2 回 色とは：色が見える仕組み</p> <p>第 3 回 色の記録・伝達方法 1：色名</p> <p>第 4 回 色の記録・伝達方法 2：表色系</p> <p>第 5 回 色の混合：加法混色・減法混色</p> <p>第 6 回 照明：演色性</p> <p>第 7 回 色彩の心理 1：色の見えの効果</p> <p>第 8 回 色彩の心理 2：色のイメージ</p> <p>第 9 回 色彩調和 1：色彩調和の基本形式</p> <p>第 10 回 色彩調和 2：配色技法</p> <p>第 11 回 色彩調和論</p> <p>第 12 回 色彩計画</p> <p>第 13 回 色と文化</p> <p>第 14 回 商品と色</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 授業での活動内容 (30%)							

授業科目	コンポジション		担当者	北一浩				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	1	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピューターを使用し、ビジュアルデザインの基礎的な考え方を学ぶ。</p> <p>【概要】 グラフィックデザインの基礎となる、ドローイングソフト「Adobe Illustrator」の基礎的な使用法及び、ビジュアルデザインの基礎的な考え方を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 今後ビジュアルデザインのデザインワークに取り組むにあたり、基本となる考え方やソフトウェアの操作方法を習得する。</p> <p>※ビジュアルデザイン論と同時の履修が望ましい。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 Illustrator 基本操作 1 オブジェクトの作成、線・塗り の設定</p> <p>第 3 回 実践課題 1 幾何形態色彩構成</p> <p>第 4 回 ”</p> <p>第 5 回 Illustrator 基本操作 3 パスの基本知識、ベジェ曲線</p> <p>第 6 回 実践課題 2 ピクトグラム</p> <p>第 7 回 ”</p> <p>第 8 回 Illustrator 基本操作 4 文字入力、フォント、文字のアウトライン化</p> <p>第 9 回 実践課題 3 タイポグラフィ構成</p> <p>第 10 回 ”</p> <p>第 11 回 応用課題 1 名刺のデザイン</p> <p>第 12 回 ”</p> <p>第 13 回 応用課題 2 ポスターのデザイン</p> <p>第 14 回 ”</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	提出課題 (50%) プレゼンテーション (50%)							

授業科目	デジタル造形基礎	担当者	大松伸洋
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピューターを用いた、グラフィックデザインの基礎知識と技術を、印刷メディアの視点から実践的に学ぶ。</p> <p>【概要】 グラフィックデザイン分野の中心的ソフトウェアである「Adobe Photoshop」と「Adobe Illustrator」を使用し、データの作成ルールと知識を身に付け、グラフィックデザインの基本技術を学習する。</p> <p>【到達目標】 グラフィックデザインを学ぶ上で不可欠なコンピューター、ソフトウェアの操作方法を習得し、柔軟な発想力や展開力を向上させることを目的とします。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストは使用しない。授業毎、プリントもしくは、データを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業ガイダンス</p> <p>第2回 Illustratorの基礎 1</p> <p>第3回 Illustratorの基礎 2</p> <p>第4回 Illustratorの基礎 3</p> <p>第5回 Illustratorの課題 1</p> <p>第6回 Illustratorの課題 2</p> <p>第7回 Photoshopの基礎 1</p> <p>第8回 Photoshopの基礎 2</p> <p>第9回 Photoshopの課題</p> <p>第10回 IllustratorとPhotoshopの連携 1</p> <p>第11回 IllustratorとPhotoshopの連携 2</p> <p>第12回 IllustratorとPhotoshopの連携 課題 1</p> <p>第13回 IllustratorとPhotoshopの連携 課題 2</p> <p>第14回 IllustratorとPhotoshopの連携 課題 3</p> <p>第15回 プレゼンテーション/講評</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	提出作品 (80%) プレゼンテーション (20%)		

(注) デジタルデザイン論と同時に履修すること。

授業科目	テキスタイルサイエンス	担当者	浅海 真弓
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 衣服を構成している繊維、糸、布それぞれの特徴を知り、それらに起因するテキスタイルの性質について考えていく。</p> <p>【概要】 繊維や糸、布の種類や構造、それらの製造工程などについて概説した後、テキスタイルの諸性質と関連させて解説する。サンプルや映像の紹介、簡単な実験を取り入れながら、身の回りのテキスタイルに対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】 いつも自分が着ている衣服の素材や構造、特性を理解し、それらの知識を衣服の選択・着用・取扱い・保管および衣服製作などの場面で活かすことができるようになることを目標とする。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 島崎恒蔵編著『衣服材料の科学』建帛社 日下部信幸著『生活のための被服材料学』家政教育社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：テキスタイルとは？</p> <p>第2回 繊維とは何か？ — 繊維の種類と歴史</p> <p>第3回 天然繊維1 — 植物繊維</p> <p>第4回 天然繊維2 — 動物繊維</p> <p>第5回 化学繊維1 — 再生繊維</p> <p>第6回 化学繊維2 — 半合成繊維</p> <p>第7回 化学繊維3 — 合成繊維</p> <p>第8回 繊維の性能比較、新しい繊維</p> <p>第9回 糸とは何か？ — 糸の種類と製造工程</p> <p>第10回 布とは何か？ — 布の種類と製造工程</p> <p>第11回 織物・編物の構造と性質</p> <p>第12回 織物と編物の性能比較、不織布の構造と性質</p> <p>第13回 テキスタイルの性質1 — 耐久性と形態的性質</p> <p>第14回 テキスタイルの性質2 — 快適性と外観的性質</p> <p>第15回 テキスタイルデザイン — 色と柄、染色</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示 (予習・復習用のプリント配布またはキーワードを提示)		
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + 授業ごとに提出するワークシート・課題 (50%)		

授業科目	ファッション造形基礎		担当者	坂上 ちえ子				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	1	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 被服製作に関わる基礎理論と基本的な製作技術を学ぶ。</p> <p>【概要】 まず基礎縫いを行い、縫製用具や機器の正確な使用法を身につける。つぎに、基本的な被服の製作を通して着用するヒトの体型を把握しながら縫製の手順や技術を理解する。さらに、編物、刺繍など手芸の基礎も学ぶ。</p> <p>【到達目標】 裏地なしの上衣や手芸品などが作成できるよう基本的な縫製、手芸技法を身につける。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜紹介</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：講義概要と進め方</p> <p>第2回 基礎縫いー手縫い1：用具の説明、並縫い</p> <p>第3回 基礎縫いー手縫い2：まつり縫い、他</p> <p>第4回 基礎縫いー手縫い3：ボタン、スナップつけ</p> <p>第5回 基礎縫いーミシン縫製：ミシン、ロックミシン</p> <p>第6回 人体計測と製図</p> <p>第7回 上衣製作1：裁断、しるしつけ</p> <p>第8回 上衣製作2：仮縫い、試着</p> <p>第9回 上衣製作3：本縫い①</p> <p>第10回 上衣製作4：本縫い②</p> <p>第11回 上衣製作5：仕上げ</p> <p>第12回 レース編み</p> <p>第13回 毛糸棒針編み</p> <p>第14回 フランス刺繍</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	提出課題 (70%) + 授業での活動内容 (30%)							

(注) 教職必修

授業科目	生活文化		担当者	宍戸 克実・浅海 真弓				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生活（自らの生命の持続を支える活動）の中から、家庭や地域などの影響を受けて生み出される文化について考えていく。</p> <p>【概要】 人々の生活の中から生み出され伝承されてきた物質としての「もの」だけでなく、慣習や思想を含めた生活様式について概説する。衣食住を中心とした多様な生活文化やそれらの変遷過程を知り、現代の生活様式と比較して考える。</p> <p>【到達目標】 異なる時代や地域の文化を知ることにより、現在の自分たちの生活について視点を変えて様々な面から検討する力を養う。そして、豊かな生活を実現するための行動へとつなげていくことを目標とする。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 石川実, 井上忠司編『生活文化を学ぶ人のために』世界思想社</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 住まいと生活文化 (第1回～第2回：宍戸担当)</p> <p>第2回 都市と空間文化</p> <p>第3回 生活文化と民族 (第3回～第15回：浅海担当)</p> <p>第4回 日本人と生活文化</p> <p>第5回 食の文化と生活1ー食文化の変遷</p> <p>第6回 食の文化と生活2ー行事食</p> <p>第7回 衣の文化と生活1ー着物の文化と染織</p> <p>第8回 衣の文化と生活2ー装飾・化粧の文化</p> <p>第9回 衣の文化と生活3ー平安～江戸の服装文化</p> <p>第10回 衣の文化と生活4ー明治・大正・昭和の服装文化</p> <p>第11回 流行と生活文化</p> <p>第12回 家庭・地域と生活文化</p> <p>第13回 老い・介護と生活文化</p> <p>第14回 情報化・国際化と生活文化</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示 (予習・復習用のプリント配布またはキーワードを提示)							
成績評価の方法	<p>宍戸担当分 (15%)：レポート</p> <p>浅海担当分 (85%)：レポート、課題、授業ごとに提出するワークシート</p>							

授業科目	衣生活学		担当者	浅海 真弓				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日常生活の中でほぼ24時間身につけている衣服について、様々な側面から多角的に学び、「生活における衣服の役割」について考えていく。</p> <p>【概要】衣服の歴史や着用品、衣服の機能、衣服素材の特性と取扱いなどの内容を取り上げ、快適、安全で豊かな衣生活を送るために必要な知識を習得する。</p> <p>【到達目標】衣服を着る意味を理解し、身の回りの衣服や生活に対する見識を深める。そして、自らの衣生活の現状と問題点を把握し、解決に向けて実践できるようになることを目標とする。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 岡田宣子編著『ビジュアル衣生活論』建帛社 酒井豊子、藤原康晴編著『ファッションと生活—現代衣生活論』放送大学教育振興会</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：衣服と人間 — あなたはなぜ服を着ますか？</p> <p>第2回 衣服と気候風土 — 民族服</p> <p>第3回 衣服の変遷 — 西洋と日本の服装</p> <p>第4回 衣服装いの心理</p> <p>第5回 衣服の素材1 — 繊維の分類と特徴</p> <p>第6回 衣服の素材2 — 糸・布の分類と特徴</p> <p>第7回 衣服の管理</p> <p>第8回 衣服の素材と管理の関係</p> <p>第9回 衣服の機能1 — 体温調節と衣服内気候</p> <p>第10回 衣服の機能2 — 動きやすさと安全性</p> <p>第11回 衣服の設計と製作</p> <p>第12回 衣服とユニバーサルデザイン</p> <p>第13回 衣服の生産と流通 — アパレル産業</p> <p>第14回 衣服の消費 — 衣生活の消費者問題</p> <p>第15回 衣服と環境 — 廃棄と再利用</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示 (予習・復習用のプリント配布またはキーワードを提示)							
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + 授業ごとに提出するワークシート・課題 (50%)							

(注) 教職必修

授業科目	生活コロイド学		担当者	井余田 秀美				
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了時				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生活の中で出会う様々なコロイドや界面の現象について理解する。</p> <p>【概要】コロイドや界面の学問的基礎を説明し、次に日常の事柄、特に洗濯や染色について詳しく述べる。更に、生活や環境での関連する事柄を取り上げ、最後に、生体に関する事に触れる。</p> <p>1 界面とコロイドの基礎</p> <p>2 生活とコロイド</p> <p>3 環境とコロイド</p> <p>4 生体とコロイド</p> <p>【到達目標】コロイドや界面の現象と日常生活との関わりについて理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 北原文雄, 「界面・コロイド化学の基礎」講談社, 水野上与志子他編, 「被服整理学」建帛社</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 界面とコロイドの基礎 ～ 界面とコロイドとは</p> <p>第3回 界面現象</p> <p>第4回 生活とコロイド ～ 繊維, 染色, 洗濯</p> <p>第13回 食品とコロイド 化粧品</p> <p>第14回 産業, 環境, 生体とコロイド</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業期間内の数回ミニレポートの提出							
成績評価の方法	レポートまたは試験							

(注) 教職必修

授業科目	食物と栄養	担当者	亀井 勇統
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食生活を通して健康を維持するための食物に含まれている多種多様な栄養成分について学ぶ。</p> <p>【概要】健康的な生活を維持するために役立つ食物に含まれている水分、炭水化物、脂質、タンパク質、ミネラル、ビタミン、その他成分を紹介する他、食物の保存や調理中に起こりえる栄養成分の化学的な変化とその防止等について解説する。</p> <p>【到達目標】食物に含まれている種々の栄養成分に関する知見を得るだけでなく、生体成分としての重要性について理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2) 菅原龍幸・井上四郎編『新訂 原色食品図鑑 (学生版) [第2版]』建帛社のほか、適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 人間と食物</p> <p>第2回 穀類の栄養成分</p> <p>第3回 イモ類の栄養成分</p> <p>第4回 マメ類の栄養成分</p> <p>第5回 種実類の栄養成分</p> <p>第6回 野菜類の栄養成分</p> <p>第7回 果実類の栄養成分</p> <p>第8回 キノコ類、海藻類の栄養成分</p> <p>第9回 食肉類の栄養成分</p> <p>第10回 乳類の栄養成分</p> <p>第11回 卵類の栄養成分</p> <p>第12回 魚介類の栄養成分1</p> <p>第13回 魚介類の栄養成分2</p> <p>第14回 その他の食物の栄養成分と嗜好性成分1</p> <p>第15回 その他の食物の栄養成分と嗜好性成分2</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	期末試験70%、授業態度30%		

(注) 教職必修

授業科目	調理学	担当者	立石 百合恵
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	講義終了時
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品素材を食べやすくするための調理操作を、基礎的、系統的、科学的理論で解明し実際に役立つよう体系化して再現できる法則を見出す。</p> <p>【概要】・自然科学の手法により、調理過程に生じる種々の諸現象を確認する。 ・調理操作、味、食品素材、調理と生活環境について学ぶ</p> <p>【到達目標】調理学の意義を理解し、調理の体系的な理論を、実生活に応用し役立てる能力を培う</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) NEW 基礎調理学 医歯薬出版株式会社</p> <p>(2) 山崎清子 島田キミエ「調理と理論」同文書院</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 調理学の意義について</p> <p>第2回 調理操作：加熱調理操作と非加熱操作について</p> <p>第3回 調味と味：食物のおいしさ、味の評価方法</p> <p>第4回 食品素材と調理：米、小麦、雑穀</p> <p>第5回 食品素材と調理：魚介類、食肉類</p> <p>第6回 食品素材と調理：卵類、豆類</p> <p>第7回 食品素材と調理：野菜類、芋類、藻類</p> <p>第8回 食品素材と調理：きのこ類、種実類、牛乳・乳製品</p> <p>第9回 食品素材と調理：果実類、嗜好飲料、香辛料、ゲル化素材</p> <p>第10回 調理科学操作：魚</p> <p>第11回 調理科学操作：果実</p> <p>第12回 調理科学操作：卵</p> <p>第13回 調理科学操作：砂糖</p> <p>第14回 調理科学操作：ゲル化素材</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する		
成績評価の方法	筆記試験(100%)		

授業科目	調理実習		担当者	立石 百合恵				
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義修了時				
	[学期]	前期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】調理理論と調理操作の融合</p> <p>【概要】・具体的な調理操作 (和・洋・中) を行い、それぞれの献立について学び、調理技術を向上させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清潔な食品の取り扱いの習得 ・食環境整備の有効性を学ぶ ・食事の作法とマナーについて学習する <p>【到達目標】基本的な調理技術の習得と清潔で安全な調理操作の習得 利他の精神を培う</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 石原三妃ら共著 あすの健康と調理 アイ・ケイコーポレーション</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション (調理の意義と目的、実習方法について)</p> <p>第 2 回 日本料理 米のガス炊飯 若竹汁、煮魚、春野菜のお浸し</p> <p>第 3 回 西洋料理 ロールパン、ハンバーグステーキ、ミネストローネスープ、コンポジションサラダ、コーヒー</p> <p>第 4 回 日本料理 かやくご飯、蛤の潮汁、魚の照り焼き、タコの酢の物、いちご大福</p> <p>第 5 回 中国料理 白飯、太平燕、酢豚、棒棒鶏、月餅</p> <p>第 6 回 テーブルマナー (西洋料理)</p> <p>第 7 回 西洋料理 サンドイッチ、マカロニグラタン、トマトのラビゴットソースサラダ、紅茶</p> <p>第 8 回 日本料理 散らし寿司、むらくも汁、鰹のたたき、つわの煮物、水羊羹</p> <p>第 9 回 中国料理 白飯、カニと野菜のスープ、マーボー豆腐、焼き餃子、杏仁豆腐</p> <p>第 10 回 日本料理 茶飯、茶碗蒸し、天ぷら、ラッキョウのぬた和え、水饅頭</p> <p>第 11 回 西洋料理 チキンカレー、バターピラフ、コールスローサラダ、ブラマンジェ、アイ스티ー</p> <p>第 12 回 日本料理 きつねうどん、おにぎり、肉じゃが、ねぎ味噌、みつ豆</p> <p>第 13 回 西洋料理 パンの調理 (食パン)、コンソメスープ (野菜)、プレーンオムレツ、マヨネーズサラダ、ヨーグルト</p> <p>第 14 回 郷土料理 鶏飯、糸瓜のみそ炒め、きびなご菊作り、ゴーヤチャンプルー、両棒餅</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	実技試験 (50%) + 筆記試験 (50%)							

(注) 教職必修

授業科目	保育学		担当者	奥 章三・池堂 猛彦・田中 真理				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2 単 位	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】保育の概念と保育に必要な基礎知識について学ぶ。</p> <p>【概要】子どもは、出生後さまざまな経験を積みながら発達していく。そして、子どもの発達には、周囲からの働きかけ (発達援助) が不可欠である。保育学講義では、保育 (発達援助) の概念と実際を学ぶとともに、子どもの標準的な発育発達、子どもによくみられる病気と対処法、子どもの安全対策等、保育に必要な知識の習得を目指す。</p> <p>【到達目標】保育の概念と保育に必要な基礎知識について理解し、説明ができるようになること。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) (担当 奥) 新保育学 (改訂5版) 南山堂</p> <p>(2) (担当 奥) 乳幼児の発達からみる保育“気づきのポイント” 44、診断と治療社</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 (担当 奥) 保育とは何か? なぜ「保育」を学ぶのか、母体の健康管理と誕生。</p> <p>第 2 回 // 出産と育児及びそれらをとりまく環境</p> <p>第 3 回 // 子どもの成長 (その1) ~ 発育, 運動発達 ~</p> <p>第 4 回 // 子どもの成長 (その2) ~ 知的発達, 社会性の発達 ~</p> <p>第 5 回 // 子どもを育てる 愛着と自律</p> <p>第 6 回 // 子どもの育つ環境の整備</p> <p>第 7 回 // 子どもとふれ合う 保育の現場</p> <p>第 8 回 // 子どもによくみられる病気とその症状・対応</p> <p>第 9 回 // 子どもの事故防止対策</p> <p>第 10 回 // もう一度、保育とは何か? ~ 講義のふりかえり~</p> <p>第 11 回 (担当 田中) 事前指導</p> <p>第 12 回 (担当 池堂) 保育園における保育実習 (1)</p> <p>第 13 回 // 保育園における保育実習 (2)</p> <p>第 14 回 // 保育園における保育実習 (3)</p> <p>第 15 回 (担当 田中) 事後指導</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	(担当 奥) 筆記試験 (100%) 各担当者が 100 点 / 3 で点数を算出した後、3 人の合計を総合点として評価する。							

(注) 教職必修

授業科目	卒業研究 A		担当者	井余田 秀美
	[履修年次] 2年		授業外対応	授業終了時
	[学期] 通年	[単位] 4	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】自ら研究課題を設定し、課題探求と問題解決の能力を養う。</p> <p>【概要】生活化学及び生活コロイド学の分野から（例えば、洗剤や染色、化粧品、環境など）基礎課題や応用課題を設定し取り組む</p> <p>【到達目標】実験や演習を行うことにより、衣食住の生活や環境での化学物質の役割や化学的な現象について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(2) 中西茂子著「洗剤と洗浄の科学」コロナ社 北原文雄著「界面・コロイド科学の基礎」講談社 近藤保也著「やさしいコロイドと界面の科学」三共出版</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 研究課題の決定、参考資料の収集</p> <p>～</p> <p>第3回</p> <p>第4回 予備実験</p> <p>～</p> <p>第8回</p> <p>第9回 本実験</p> <p>～</p> <p>第22回</p> <p>第23回 まとめ</p> <p>～</p> <p>第24回</p> <p>第25回 論文作成</p> <p>～</p> <p>第27回</p> <p>第28回 発表会の準備</p> <p>～</p> <p>第29回</p> <p>第30回 発表</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業期間内の数回の中間報告			
成績評価の方法	口頭発表 (30%) と論文 (70%)			

授業科目	卒業研究 A		担当者	田中 真理
	[履修年次] 2年		授業外対応	適宜対応
	[学期] 通年	[単位] 1 単 位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】心理学的な研究手法を用いて、調査・分析し、成果をまとめ、発表する。</p> <p>【概要】前半は、心理学に関する研究テーマやリサーチクエスチョンを設定し、先行研究の概観（レビュー）を行い、仮説生成と研究計画を立案する。後半は、調査実施、分析と結果のまとめ、考察を行い、最後に卒業研究発表会にて研究の成果を発表する。</p> <p>【到達目標】①心理学の調査研究のプロセスを学ぶ ②プレゼンテーション能力を習得する</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第4回 心理学の研究法について学ぶ</p> <p>第5回～第27回 テーマ設定、先行研究レビュー、仮説生成、調査、分析、執筆（毎回の報告）</p> <p>第28回、29回 発表の準備</p> <p>第30回 発表会</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業での参加度と毎回の課題 (30%) + 卒業論文 (70%)			

(注) 教職課程履修者に限る。

授業科目	ビジュアルデザイン論		担当者	北一浩	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	必修(注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ビジュアルデザインの基礎的な知識及び考え方を学ぶ。</p> <p>【概要】ビジュアルデザインの様々な分野の参考作品を通して、ビジュアルデザインの基礎的な知識及び考え方を学ぶ。またデザインワークを行う為に必要なデザイン思考を身につける。</p> <p>【到達目標】デザインを取り巻く環境を理解し、積極的にデジタル環境に慣れるようにする。また、デザインに携わっていくための知識や心得を理解する。</p> <p>※コンポジションと同時の履修が望ましい。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 デザインとアートの違い</p> <p>第3回 ビジュアルデザインの歴史</p> <p>第4回 Identity Design</p> <p>第5回 Branding</p> <p>第6回 Collateral Design</p> <p>第7回 Environmental Design</p> <p>第8回 Iconography</p> <p>第9回 Information Design</p> <p>第10回 Editorial Design</p> <p>第11回 Poster Design</p> <p>第12回 Packaging</p> <p>第13回 Interactive Design</p> <p>第14回 Motion Graphics</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	プレゼンテーション(70%) 提出課題(30%)				

※コンポジションと同時の履修が望ましい。

授業科目	ビジュアルデザイン I		担当者	北一浩	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	1	
		[必修/選択]	選択(注)	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】コンピューターを用いたビジュアルデザインの基礎的な制作を学ぶ。</p> <p>【概要】ビジュアルデザイン論、コンポジションからの関連科目として、コンピューターを用いて基礎的な課題制作を行う。</p> <p>【到達目標】ビジュアルデザイン論、コンポジションで習得した技術や概念を、コンピューターを使用して実媒体へと応用する。</p> <p>※ビジュアルデザイン論、コンポジションを履修しておくこと。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 デザイン思考ワークショップ</p> <p>第3回 //</p> <p>第4回 パッケージデザイン 実際で使用されているパッケージのリデザイン</p> <p>第5回 //</p> <p>第6回 //</p> <p>第7回 ブックカバーデザイン 本学大学案内の表紙のデザイン</p> <p>第8回 //</p> <p>第9回 //</p> <p>第10回 ポートフォリオ制作</p> <p>第11回 //</p> <p>第12回 //</p> <p>第13回 //</p> <p>第14回 //</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	提出課題(50%) プレゼンテーション(50%)				

※ビジュアルデザイン論、コンポジションを履修しておくこと。

授業科目	ビジュアルデザインⅡ		担当者	北一浩				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	1	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】プロジェクト形式の課題を通して、ビジュアルデザインの実践的な制作を学ぶ。</p> <p>【概要】ビジュアルデザインⅠからの関連科目として、プロジェクト形式の課題をグループで行い実践的な課題制作を行う。</p> <p>【到達目標】実際のデザインの現場で行われるワークフローを学び、実践的なデザインスキルを身につける。 ※ビジュアルデザインⅠを履修しておくこと。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 プロジェクト課題 内容は年度ごとに異なるが、主にはブランディングデザインを行う。</p> <p>第3回 //</p> <p>第4回 //</p> <p>第5回 //</p> <p>第6回 //</p> <p>第7回 //</p> <p>第8回 //</p> <p>第9回 //</p> <p>第10回 //</p> <p>第11回 自由課題 各自テーマを設定しデザインを行う</p> <p>第12回 //</p> <p>第13回 //</p> <p>第14回 //</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	提出課題 (50%) プレゼンテーション (50%)							

(注) ビジュアルデザインⅠを履修しておくこと。

授業科目	ファッションデザイン論		担当者	坂上 ちえ子				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>ファッションデザインの概要と基礎、展開、さらに、パターンメイキングの基礎理論と応用を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>衣服の製作は、まずデザインと素材が決まり、次にデザインイメージを具体化して、布地裁断のための型紙を作図しなければならぬ。製作イメージを表現できるファッションデザインの方法と運動や動作に配慮したパターンメイキングを学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>デザイン、パターンとともに基礎知識を理解し、自分が表現したいデザインやパターンメイキングができる応用力を目指す。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 文化服装学院『文化ファッション大系 服飾関連専門講座9 服飾デザイン』文化出版局 文化女子大学被服構成学研究室編『被服構成学 理論編』文化出版局</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：講義概要と進め方</p> <p>第2回 ファッションデザインの概要</p> <p>第3回 ファッションデザインの基礎1：形態と色彩</p> <p>第4回 ファッションデザインの基礎2：素材とコンポジション</p> <p>第5回 ファッションデザインの展開</p> <p>第6回 ファッションデザインとイメージ</p> <p>第7回 デザイン展開とパターンメイキング1：人体の形態</p> <p>第8回 デザイン展開とパターンメイキング2：平面展開図</p> <p>第9回 デザイン展開とパターンメイキング3：ダーツ、衿、袖</p> <p>第10回 デザイン展開とパターンメイキング4：スカートとパンツ</p> <p>第11回 パターンメイキングと運動機構1：上半身</p> <p>第12回 パターンメイキングと運動機構2：下半身</p> <p>第13回 ファッションデザインとコーディネート1：形態</p> <p>第14回 ファッションデザインとコーディネート2：色彩と素材</p> <p>第15回 まとめ：アパレルメーカーとファッション動向</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 授業での活動内容 (30%)							

授業科目	ファッション造形Ⅰ	担当者	坂上 ちえ子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 上半身衣と下半身衣の原型展開とスカートの製作方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 衣服を平面製図法で行う場合、基本となる型紙（原型）の把握が重要である。まず、基本的な衣服である裏布つきスカートの製作実習を行い、それらの手順と方法を学ぶ。さらに、上・下半身衣の原型とその展開について学び、理解する。</p> <p>【到達目標】 平面製図の方法を理解し原型展開ができることと、裏布つきスカートの製作技術習得を目指す。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 文化服装学院『文化ファッション大系 服飾造形講座2 スカート・パンツ』文化出版局</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第2回 スカートの製図 第3回 表布の裁断、印つけ 第4回 仮縫い 第5回 試着、補正 第6回 表布の縫製1 第7回 表布の縫製2 第8回 ファスナーつけ 第9回 裏布の裁断、印つけ 第10回 裏布の縫製 第11回 ベルトつけ 第12回 仕上げ 第13回 製作検討・着装評価 第14回 上半身衣の原型と展開 第15回 下半身衣の原型と展開、まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	提出課題 (70%) + 授業での活動内容 (30%)		

(注) 教職必修

授業科目	ファッション造形Ⅱ	担当者	坂上 ちえ子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ブラウスとパンツのデザイン展開と製作方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 基本的な上半身衣のブラウスと下半身衣のパンツのデザインと製作方法、その過程を学ぶ。デザインについては、着装者の体型や動きを考慮した製図展開が行えるよう、また、製作については、目的や段階に応じた効率的な縫製方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 上、下半身衣のデザインと製図展開ができることと、迅速で適切な縫製技術の習得を目指す。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 文化服装学院『文化ファッション大系 服飾造形講座3ブラウス・ワンピース』文化出版局</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第2回ブラウスのデザインと製図 第3回 裁断と印つけ 第4回 仮縫い 第5回 試着、補正 第6回 見頃の縫製 第7回 衿つくりと衿つけ 第8回 袖つくりと袖つけ 第9回 ボタンホール、ボタンつけ、仕上げ 第10回 パンツのデザインと製図 第11回 裁断と印つけ 第12回 仮縫い、試着、補正 第13回 縫製 第14回 仕上げ 第15回 着装評価、まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	提出課題 (70%) + 授業での活動内容 (30%)		

授業科目	ファッションビジネス		担当者	坂上 ちえ子				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ファッションに対する理解を深めるため、デザインや縫製だけではなくファッション産業やビジネスについて学ぶ。</p> <p>【概要】 衣服を大量生産、大量消費する時代は過ぎ、ファッション産業は生活文化と生活を豊かにするライフスタイルの提案を目的として企業活動を行う時代となった。ファッション産業をビジネスと造形の両面から学び、ファッション全体の背景や仕組みを捉える。</p> <p>【到達目標】 基礎知識を習得し、企画・販売の視点からも衣生活を充実させる。またファッションビジネス検定に挑戦することも目指す。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 日本ファッション教育振興会『ファッションビジネス [I]』財団法人 日本ファッション教育振興会</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：講義概要と進め方</p> <p>第2回 ファッションビジネス知識1：ファッションビジネスの概要</p> <p>第3回 ファッションビジネス知識2：ファッション消費と消費者行動</p> <p>第4回 ファッションビジネス知識3：アパレル産業と小売産業</p> <p>第5回 ファッションビジネス知識4：ファッションマーケティング</p> <p>第6回 ファッションビジネス知識5：ファッションマーチャンダイジング</p> <p>第7回 ファッションビジネス知識6：ファッション物流と流通</p> <p>第8回 ファッションビジネス知識7：ファッションプロモーション</p> <p>第9回 ファッションビジネス知識8：ビジネス基礎知識と計数管理</p> <p>第10回 ファッション造形知識1：ファッション文化</p> <p>第11回 ファッション造形知識2：ファッションコーディネーションの基礎知識</p> <p>第12回 ファッション造形知識3：ファッション商品知識—服種・アイテム</p> <p>第13回 ファッション造形知識4：ファッションデザインの定義と特性</p> <p>第14回 ファッション造形知識5：パターンメイキングとファッションエンジニアリング</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 授業での活動内容 (30%)							

授業科目	デジタルデザイン論		担当者	大松伸洋				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 60年代から現代におけるグラフィックデザインの動向と基礎的な知識や考えを学ぶ。</p> <p>【概要】 グラフィックデザインの歴史的背景から様々な分野の参考作品を通じて、その時代の歴史的背景とデザインの結びつきを理解し、メディアが多様化する中、現代と未来のデザインについて考える。</p> <p>【到達目標】 デザインが社会を取り巻く関係性と重要性を理解し、デザインを身近に感じることのできる考えや方法を習得する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストは使用しない。授業毎、プリントの配布。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 授業ガイダンス</p> <p>第2回 デザインとアートの違いについて</p> <p>第3回 グラフィックデザイン史1 「Psychedelic (1960s-1970s)」</p> <p>第4回 グラフィックデザイン史2 「Postmodernism 1970s-1980s)」</p> <p>第5回 グラフィックデザイン史3 「Grunge 1990s)」</p> <p>第6回 Information Design</p> <p>第7回 Advertising design・Sales promotion design</p> <p>第8回 Package design / Logo type design</p> <p>第9回 Photography</p> <p>第10回 Digital Signage</p> <p>第11回 世界のデザイン1 「日本のKawaii (かわいい) 文化」について</p> <p>第12回 世界のデザイン2 「北欧のデザイン」について</p> <p>第13回 世界のデザイン3 「アメリカンデザイン」について</p> <p>第14回 世界のデザイン4 「デザインと世界の民族」について</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	授業ごとのレポート (80%) 及び授業での質問とその内容 (20%)							

(注) デジタル造形基礎と同時に履修すること。

授業科目	デジタルデザイン	担当者	大松伸洋
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 グラフィックデザインの実践的な制作を行い、デザインとアイデアについて学ぶ</p> <p>【概要】 デジタルデザイン論、デジタル造形基礎で得た技術や考えを用いて、より媒体化し課題制作を行う。</p> <p>【到達目標】 制作を通じグラフィックデザインを学ぶ事で、想像力や発想力をより向上させることを目的とします。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストは使用しない。授業毎、プリントもしくは、データを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業ガイダンス 授業計画 グラフィックデザインとタイポグラフィの仕事について</p> <p>第2回 ロゴデザインのアジアスケッチ</p> <p>第3回 ロゴデザイン制作</p> <p>第4回 ロゴデザイン制作</p> <p>第5回 フォトグラフィとタイポグラフィ 車内広告の制作</p> <p>第6回 フォトグラフィとタイポグラフィ 車内広告の制作</p> <p>第7回 フォトグラフィとタイポグラフィ 車内広告の制作</p> <p>第8回 オリジナルキャラクター制作 イラストレーション</p> <p>第9回 オリジナルキャラクター制作 イラストレーション</p> <p>第10回 オリジナルキャラクター制作 イラストレーション</p> <p>第11回 ポートフォリオアイデアスケッチ</p> <p>第12回 ポートフォリオ制作</p> <p>第13回 ポートフォリオ制作</p> <p>第14回 ポートフォリオ制作</p> <p>第15回 合評会</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	提出作品 (80%) プレゼンテーション (20%)		

(注) デジタルデザイン論、デジタル造形基礎を履修しておくこと。

授業科目	卒業研究B	担当者	北一浩
	[履修年次] 2年 [学期] 通年 [単位] 4	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ビジュアルデザインに関連した分野の研究。</p> <p>【概要】 ビジュアルデザインに関連した分野から各自研究テーマを設定し、制作を通して新たな知見を発表する。</p> <p>【到達目標】 研究テーマに関する作品制作を行い、展示及びプレゼンテーションを行う。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 以下スケジュールに関しても各自が管理し研究を進める。</p> <p>第3回 随時進行に合わせて、テーマ審査、中間審査、最終審査を行う。</p> <p>第4回</p> <p>第5回</p> <p>第6回</p> <p>第7回</p> <p>第8回</p> <p>第9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	研究成果 (50%) プレゼンテーション (25%) 研究態度 (25%)		

(注) デジタルデザイン論、デジタル造形基礎、コンポジション、ビジュアルデザインIを履修しておくこと。

授業科目	卒業研究 B		担当者	坂上 ちえ子				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	通年	[単位]	4	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学生自らが設定した衣生活に関わる課題について、分析・研究し、成果をまとめる。</p> <p>【概要】 前期は衣生活に関わる問題やテーマを探索するとともに、それらを解明する調査や実験の手法も学ぶ。後期は自らが設定した課題を各自で調査・考察して文章にまとめる。さらに、卒業研究発表会において、それらの研究成果を発表する。</p> <p>【到達目標】 まず、衣生活に関する研究課題とそれに連なる問題点を明らかにし、問題を解明するに適切な手法を用いて分析・解決する。さらに、研究成果を文書にまとめることと、効果的な発表方法を身につけることを目指す。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜配布 (2) 適宜紹介							
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション 第2～ 5回 文献購読 第6～ 10回 研究手法の検討・理解 第11～ 15回 テーマ設定と文献・情報収集 第16～ 23回 調査・研究・考察 第24～ 27回 論文作成 第28～ 30回 発表準備							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	卒業研究成果 (60%) + 研究発表 (20%) + 授業での取り組み内容 (20%)							

授業科目	住生活学		担当者	川島 茂				
	[履修年次]	1年次	授業外対応	適宜対応(要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】公共空間を含む広義の住生活空間の計画理論と事例分析による実践的手法の学習。</p> <p>【概要】住生活空間の計画における基本的な検討要因や手法を解説しつつ、多様な事例を参照し、建築計画を考察を介し、住環境の進むべき展望を問う。</p> <p>【到達目標】住生活空間計画の基本的な原理を理解しつつ、現代生活に対応し得る設計・計画手法の知識を習得する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 佐藤考一・五十嵐太郎 著「初学者の建築講座 建築計画(改訂版)」市ヶ谷出版社 (2) 日本建築学会編「コンパクト建築設計資料」丸善							
授業スケジュール	第1回 ガイダンス 建築の学び方、考え方 第2回 建築設計の主題 建築設計理念について 第3回 建築の構想と提案-1 設計競技における構想と提案 第4回 建築の構想と提案-2 設計競技に見る建築家の役割 第5回 建築の構想と提案-3 設計競技の実践事例の解説 第6回 建築計画の役割 第7回 建築設計の実践-1 現代建築の実例から学ぶ設計-1 第8回 建築設計の実践-2 現代建築の実例から学ぶ設計-2 第9回 プランニング演習 建築計画から立案する室空間のプランニング演習 第10回 20世紀の住宅-1 近代建築の名作住宅に見る建築計画-1 第11回 20世紀の住宅-2 近代建築の名作住宅に見る建築計画-2 第12回 住空間の計画-1 狭小住宅の実例解説 第13回 住空間の計画-2 狭小住宅演習-1 第14回 住空間の計画-3 狭小住宅演習-2 第15回 まとめ・総合レポート出題							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	総合レポート(40%)、レポート・設計課題(60%)							

(注) 教職必修、二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目

授業科目	住居史		担当者	川島 茂				
	[履修年次]	1	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 社会要請に呼応し展開しつづける建築の変遷について、西洋様式建築、近代建築を概観し、現代建築の将来展望を考える。</p> <p>【概要】 西洋様式建築から近代建築へと展開される時代背景と社会の要請、理念の変遷を解説しつつ、建築に求められ、必要とされるものを考察しつつ、現代建築のあり方を考える。</p> <p>【到達目標】 西洋様式建築、近代建築の理念を理解する。</p> <p>※本講座の受講生は「設計製図Ⅱ」を必ず受講してください。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 高宮真介・飯田善彦 著「高宮真介 建築意匠講義 西洋の建築家 100 人とその作品を巡る」アーキシップ叢書</p> <p>(2) 矢代真己・田所辰之助・濱崎良実 著「20 世紀の空間デザイン」彰国社</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 西洋様式建築の全体像</p> <p>第 3 回 幾何学の明晰性-1 -ルネサンス-</p> <p>第 4 回 幾何学の明晰性-2 -ルネサンス-</p> <p>第 5 回 幾何学の明晰性-3 -ルネサンス-</p> <p>第 6 回 手法の多義性-1 -マニエリスム-</p> <p>第 7 回 手法の多義性-2 -マニエリスム-</p> <p>第 8 回 均整のプロポーション-1 -パラーディオの建築-</p> <p>第 9 回 均整のプロポーション-2 -パラーディオの建築-</p> <p>第 10 回 空間のダイナミズム -バロック-</p> <p>第 11 回 崇高の自律性とピクチャレスクの他律性 -新古典主義-</p> <p>第 12 回 新素材と新技術 -近代の萌芽-</p> <p>第 13 回 思想の革新と運動の理念 -近代合理主義-</p> <p>第 14 回 インターナショナルスタイルとナショナルリズム</p> <p>第 15 回 表層・深層・透層 -モダニズムの終焉-</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	レポート (100%)							

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目

授業科目	住居・インテリア設計学		担当者	穴戸 克実				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>建築空間の設計で必要となる様々な図面による表現方法、間取りを構成する要素や手順について学ぶ</p> <p>【概要】 前半部分では建築図面における平面表現や立体表現の描き方について、後半部分では住宅の間取りを組み立てる手順について、授業課題を通し理解を深める</p> <p>【到達目標】</p> <p>建築設計における設計プロセスを理解し、多様な表現方法を用いて構想を伝えることができる</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 大塚篤「カタチから考える住宅発想法」エクスマレッジ</p> <p>(2) 日本建築学会「コンパクト建築設計資料集成〈インテリア〉」丸善</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 はじめに 建築とインテリアの基礎知識</p> <p>第 2 回 住居の空間構成 暮らしの空間を読み解く</p> <p>第 3 回 様々な図面表現 平面図、敷地図</p> <p>第 4 回 " 立面図、断面図</p> <p>第 5 回 空間寸法 サーベイ</p> <p>第 6 回 家具寸法 サーベイ</p> <p>第 7 回 商業空間 サーベイ</p> <p>第 8 回 間取りプランニング 所要室の配置と規模</p> <p>第 9 回 " 平面構成 (集合住宅)</p> <p>第 10 回 " 平面構成 (戸建平屋)</p> <p>第 11 回 " 平面構成 (戸建複層)</p> <p>第 12 回 透視図 一点透視図</p> <p>第 13 回 " 二点透視図</p> <p>第 14 回 " アイソメ図、アクソメ図</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	宿題による復習を重視							
成績評価の方法	授業中の課題 (50%)、宿題 (25%)、レポート (25%)							

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得必須科目

授業科目	設計製図Ⅰ		担当者	宍戸 克実																																																	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応																																																	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	実習																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】建築設計製図の基本的事項について理解する</p> <p>※住居・インテリア設計学とあわせて履修すること（教職科目履修者は別途確認）</p> <p>【概要】 住空間を構成する様々な単位空間について理解するとともに、図面や模型を用い小住宅の建築表現方法を学ぶ</p> <p>【到達目標】 住空間を平面的・立体的に理解し、図面や模型を用いて正確に表現することができる</p>																																																				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小杉学「模型づくりからはじめる建築製図の基礎」彰国社</p> <p>(2) 日本建築学会「コンパクト建築設計資料集成〈住居〉」丸善</p>																																																				
授業スケジュール	<table border="1"> <tr><td>第1回</td><td>製図の基本</td><td>製図用具の使い方と線の描き方、線の種類</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>課題1：切妻屋根の住宅</td><td>模型</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>〃</td><td>平面図、立面図、断面図</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>課題2：L字型の住宅</td><td>模型</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>〃</td><td>平面図、立面図、断面図</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>課題3：コートのある住宅</td><td>模型</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>〃</td><td>平面図、立面図、断面図</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>課題4：テラスとピロティのある住宅</td><td>エスキース、スタディ模型</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>〃</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>〃</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>〃</td><td>平面図、立面図、断面図、模型</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>〃</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>〃</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>〃</td><td>模型写真撮影、レイアウト</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>プレゼンテーション</td><td>発表</td></tr> </table>								第1回	製図の基本	製図用具の使い方と線の描き方、線の種類	第2回	課題1：切妻屋根の住宅	模型	第3回	〃	平面図、立面図、断面図	第4回	課題2：L字型の住宅	模型	第5回	〃	平面図、立面図、断面図	第6回	課題3：コートのある住宅	模型	第7回	〃	平面図、立面図、断面図	第8回	課題4：テラスとピロティのある住宅	エスキース、スタディ模型	第9回	〃	〃	第10回	〃	〃	第11回	〃	平面図、立面図、断面図、模型	第12回	〃	〃	第13回	〃	〃	第14回	〃	模型写真撮影、レイアウト	第15回	プレゼンテーション	発表
第1回	製図の基本	製図用具の使い方と線の描き方、線の種類																																																			
第2回	課題1：切妻屋根の住宅	模型																																																			
第3回	〃	平面図、立面図、断面図																																																			
第4回	課題2：L字型の住宅	模型																																																			
第5回	〃	平面図、立面図、断面図																																																			
第6回	課題3：コートのある住宅	模型																																																			
第7回	〃	平面図、立面図、断面図																																																			
第8回	課題4：テラスとピロティのある住宅	エスキース、スタディ模型																																																			
第9回	〃	〃																																																			
第10回	〃	〃																																																			
第11回	〃	平面図、立面図、断面図、模型																																																			
第12回	〃	〃																																																			
第13回	〃	〃																																																			
第14回	〃	模型写真撮影、レイアウト																																																			
第15回	プレゼンテーション	発表																																																			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示																																																				
成績評価の方法	授業中の課題提出 (100%)																																																				

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得必須科目

授業科目	設計製図Ⅱ		担当者	川島 茂																																																	
	[履修年次]	1	授業外対応	適宜対応(要予約)																																																	
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】設計の実践により空間のテーマと課題を見出し、それに呼応した空間を創造する。</p> <p>【概要】個人指導とグループ指導、ディスカッション等を組み合わせ、各学生がそれぞれに設計主旨を見出し、アイデアを展開するよう促す。建築空間の諸条件を整理、設計からプレゼンテーションを含む自発的な学習が求められる。</p> <p>【到達目標】居住空間、公共空間の計画を実践することにより、諸条件の分析と評価、空間構成手法を習得する。</p>																																																				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 日本建築学会編「コンパクト建築設計資料〈住居〉」丸善</p> <p>(2) 本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」彰国社</p>																																																				
授業スケジュール	<table border="1"> <tr><td>第1回</td><td>ガイダンス</td><td>課題出題</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>住宅の設計-1</td><td>条件の整理と敷地及び周辺環境の把握</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>住宅の設計-2</td><td>配置計画、諸機能の構成と動線計画</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>住宅の設計-3</td><td>平面計画</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>住宅の設計-4</td><td>断面、立面計画、外構計画</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>住宅の設計-5</td><td>ダイアグラム、模型、プレゼンテーション</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>住宅の設計-6</td><td>提出、評価</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>住宅の設計-7</td><td>講評、課題出題</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>ギャラリーの設計-1</td><td>条件の整理と敷地及び周辺環境の把握</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>ギャラリーの設計-2</td><td>配置計画、諸機能の構成と動線計画</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>ギャラリーの設計-3</td><td>平面計画</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>ギャラリーの設計-4</td><td>断面、立面計画、外構計画</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>ギャラリーの設計-5</td><td>ダイアグラム、模型、プレゼンテーション</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>ギャラリーの設計-6</td><td>提出、評価</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>ギャラリーの設計-7</td><td>講評</td></tr> </table>								第1回	ガイダンス	課題出題	第2回	住宅の設計-1	条件の整理と敷地及び周辺環境の把握	第3回	住宅の設計-2	配置計画、諸機能の構成と動線計画	第4回	住宅の設計-3	平面計画	第5回	住宅の設計-4	断面、立面計画、外構計画	第6回	住宅の設計-5	ダイアグラム、模型、プレゼンテーション	第7回	住宅の設計-6	提出、評価	第8回	住宅の設計-7	講評、課題出題	第9回	ギャラリーの設計-1	条件の整理と敷地及び周辺環境の把握	第10回	ギャラリーの設計-2	配置計画、諸機能の構成と動線計画	第11回	ギャラリーの設計-3	平面計画	第12回	ギャラリーの設計-4	断面、立面計画、外構計画	第13回	ギャラリーの設計-5	ダイアグラム、模型、プレゼンテーション	第14回	ギャラリーの設計-6	提出、評価	第15回	ギャラリーの設計-7	講評
第1回	ガイダンス	課題出題																																																			
第2回	住宅の設計-1	条件の整理と敷地及び周辺環境の把握																																																			
第3回	住宅の設計-2	配置計画、諸機能の構成と動線計画																																																			
第4回	住宅の設計-3	平面計画																																																			
第5回	住宅の設計-4	断面、立面計画、外構計画																																																			
第6回	住宅の設計-5	ダイアグラム、模型、プレゼンテーション																																																			
第7回	住宅の設計-6	提出、評価																																																			
第8回	住宅の設計-7	講評、課題出題																																																			
第9回	ギャラリーの設計-1	条件の整理と敷地及び周辺環境の把握																																																			
第10回	ギャラリーの設計-2	配置計画、諸機能の構成と動線計画																																																			
第11回	ギャラリーの設計-3	平面計画																																																			
第12回	ギャラリーの設計-4	断面、立面計画、外構計画																																																			
第13回	ギャラリーの設計-5	ダイアグラム、模型、プレゼンテーション																																																			
第14回	ギャラリーの設計-6	提出、評価																																																			
第15回	ギャラリーの設計-7	講評																																																			
授業外学習(予習・復習)	授業では適当な指導を受けられるよう、自らの構想や提案を表現する図面、スケッチ、スタディ模型等を事前に用意する等、十分な準備を求める。																																																				
成績評価の方法	課題 (100%)																																																				

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目

授業科目	住居構造学Ⅰ		担当者	田島 康弘	
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時	
	[学期]	前期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住居を構築するための多様な構造方式および構法について学ぶ。</p> <p>【概要】建物にはたらく力、木構造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、基礎などの概要と特徴を講述し、建物を構成する下地と仕上げについて学ぶ。</p> <p>【到達目標】さまざまな構造方式の特徴や長所について理解して、構造上安全な建築物を設計又は説明できる基本的な能力が養われること。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 江尻憲泰著、『最高に楽しい建築構造入門』、エクスマレッジ</p> <p>(2) 浅野清昭著、『図説 やさしい構造設計』、学芸出版社</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 構造設計という仕事</p> <p>第 2回 建物にかかる様々な荷重</p> <p>第 3回 木造1 特徴と材料</p> <p>第 4回 木造2 軸組構法 (在来工法) と枠組壁構法 (2×4工法)</p> <p>第 5回 木造3 現場見学</p> <p>第 6回 鉄骨構造1 特徴と材料</p> <p>第 7回 鉄骨構造2 建物ができるまで</p> <p>第 8回 鉄骨構造3 現場見学</p> <p>第 9回 鉄筋コンクリート構造1 特徴と材料</p> <p>第 10回 鉄筋コンクリート構造2 建物ができるまで</p> <p>第 11回 鉄筋コンクリート構造3 現場見学</p> <p>第 12回 基礎構造とその他の構造形式 (プレストレストコンクリート構造 他)</p> <p>第 13回 下地と仕上げ (屋根、壁、床、天井、階段 他)</p> <p>第 14回 耐震設計 (地震に強い建物)</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	レポート (80%) および授業での発言質問とその内容 (20%)				

(注) 二級建築士、木造建築士、受験資格取得必修科目

授業科目	住居構造学Ⅱ		担当者	田島 康弘	
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時	
	[学期]	前期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】建造物の安全性と力学的評価方法について学ぶ。</p> <p>【概要】住居構造学Ⅱでは、模型作成などの実習を通して力学の基礎を学び、構造物に作用する力によって部材に生じる力を求め、安全性を確認する。</p> <p>【到達目標】静定の片持ばり、単純ばり、門型ラーメンの応力と変形に関する計算法とそれから得られる結果の評価方法について理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 浅野清昭著、『絵ときブック 構造力学入門』、学芸出版社</p> <p>(2) 浅野清昭著、『図説 やさしい構造力学』、学芸出版社</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 建物の模型を作ろう1</p> <p>第 2回 建物の模型を作ろう2</p> <p>第 3回 力のモーメント (模型による演習含む)</p> <p>第 4回 力のつりあい (模型による演習含む)</p> <p>第 5回 構造物の支点 (ローラー・ピン・固定) (模型による演習含む)</p> <p>第 6回 反力の求め方</p> <p>第 7回 片持ばりに生じる力</p> <p>第 8回 単純ばりに生じる力</p> <p>第 9回 門型ラーメンに生じる力</p> <p>第 10回 トラスに生じる力 (模型による演習含む)</p> <p>第 11回 断面の性質 (断面1次モーメント、断面2次モーメント、他) (模型による演習含む)</p> <p>第 12回 部材に生じる応力度</p> <p>第 13回 片持ばり、単純ばりの変形</p> <p>第 14回 建築物の設計への応用</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	レポート (80%) および授業での発言質問とその内容 (20%)				

(注) 二級建築士、木造建築士、受験資格取得必修科目

授業科目	住居環境学		担当者	曾我 和弘	
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時	
	[学期]	後期	[単位]	2単位	
		[単位]	2単位	[必修/選択]	選択(注)
				(授業形態)	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】快適で環境に優しい住まいや建築物の計画</p> <p>【概要】居住者が健康で快適に生活できる居住環境を構築するためには、建築環境(熱・光・音・空気・水環境)をバランスよく適切に調整しなければならない。この講義では、適切な建築環境を実現するために必要な環境計画の考え方と手法、さらに設備計画の考え方と手法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】建築の環境計画と設備計画の基本的な考え方を理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 三浦昌生 著, 基礎力が身につく建築環境工学, 森北出版株式会社</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 気候と建築環境</p> <p>第2回 建築環境と建築設備</p> <p>第3回 建築環境と建築設備</p> <p>第4回 照明設備計画</p> <p>第5回 熱環境計画1</p> <p>第6回 熱環境計画2</p> <p>第7回 空調設備計画</p> <p>第8回 住まいと結露</p> <p>第9回 音環境計画1</p> <p>第10回 音環境計画2</p> <p>第11回 空気環境計画1(室内空気汚染)</p> <p>第12回 空気環境計画2(通風, 換気)</p> <p>第13回 換気設備計画</p> <p>第14回 給排水設備計画</p> <p>第15回 建築物の総合的な環境性能と評価</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験(80%)とレポート(20%)で評価する。				

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目

授業科目	住居環境学演習		担当者	曾我 和弘	
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時	
	[学期]	後期	[単位]	1単位	
		[単位]	1単位	[必修/選択]	選択(注)
				(授業形態)	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身近な居住環境の快適性や健康性の測定</p> <p>【概要】居住環境の物理環境(熱・光・音・空気など)の測定を行い、測定データに基づいて、居住環境の快適性や健康性の評価を行う。測定を通して物理環境の測定法を修得すると同時に、データ処理にはパソコンの表計算ソフトなどを活用しパソコンの利用技術を養う。また、気候と住居形態、環境共生住宅に関する調査を通して、環境にやさしい住居に対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】身近な居住環境の熱・光・音・空気環境の基本的な測定・評価方法を習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 三浦昌生 著, 基礎力が身につく建築環境工学, 森北出版株式会社およびプリント</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 クリモグラフィの作成と気候に適した住居形態調査</p> <p>第2回 日影図の作成と日照環境の評価</p> <p>第3回 教室の照度分布測定</p> <p>第4回 教室の昼光率分布測定</p> <p>第5回 照明計算</p> <p>第6回 屋外気候の測定</p> <p>第7回 室内気候の測定</p> <p>第8回 身近な居室の室温測定と分析</p> <p>第9回 定常結露計算</p> <p>第10回 交通騒音測定</p> <p>第11回 教室の騒音測定</p> <p>第12回 CO₂濃度等の測定と評価</p> <p>第13回 必要換気量の計算</p> <p>第14回 シックハウス問題のレポート発表会</p> <p>第15回 環境共生住宅に関する調査 環境共生住宅のレポート発表会</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	演習や実験への取り組み態度, レポートの内容及び発表内容を総合的に評価する。				

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目

授業科目	建築材料学		担当者	迫田 順一
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択 (注)
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 住居を中心とした建築物を構成する様々な材料とその特質</p> <p>【概要】 どのような材料がどのような特質を持ち、どのように使われて建築物が構築されているのかについて可能な限り現物を見ながら学ぶ。</p> <p>【到達目標】 講義では建築材料の特質と建築の各種構造方式と仕上工事の関係について工種毎に理解することを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 松本進 「図説 やさしい建築材料」 学芸出版社</p> <p>(2) 建築学会編 「建築材料用教材」 彰国社</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 構法と建築材料</p> <p>第2回 主要構造部材と仕上材</p> <p>第3回 木材1 特性</p> <p>第4回 木材2 用法</p> <p>第5回 木材3 種類と用法</p> <p>第6回 コンクリート1 特性</p> <p>第7回 コンクリート2 配合と強度</p> <p>第8回 コンクリート3 製作</p> <p>第9回 鉄材1 鉄筋</p> <p>第10回 鉄材2 鉄骨と接合</p> <p>第11回 その他の主要材料 (石・左官・ガラス・建具)</p> <p>第12回 材料の力学 (曲がりにくさ)</p> <p>第13回 環境にやさしい建築材料</p> <p>第14回 材料の積算</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験			

(注)二級建築士(木造建築士)受験資格取得必修科目

授業科目	建築生産		担当者	迫田 順一
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択 (注)
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 各種建築構造方式の生産過程について学ぶ</p> <p>【概要】 住居を中心とした建築の企画設計から施工そして運営管理にいたる一連のプロセスの中で建築物がどのように生産されているのか総合的に理解する。</p> <p>【到達目標】 講義では建築の各種構造方式の施工手順について、工種と工程に沿って理解することを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 今村仁美、田中美都 『図説 やさしい建築一般構造』 学芸出版社</p> <p>(2) 久富洋、古澤忠正 『図説 建築施工入門』 彰国社</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 構法と施工過程</p> <p>第2回 木構造と木工事</p> <p>第3回 鉄筋コンクリート造と鉄筋・型枠・コンクリート工事</p> <p>第4回 鉄骨構造 その他の構造</p> <p>第5回 建具・ガラス・屋根・防水工事・その他の仕上げ工事</p> <p>第6回 施工計画と管理</p> <p>第7回 契約と実行</p> <p>第8回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験			

(注)二級建築士(木造建築士)受験資格取得必修科目

授業科目	建築法規	担当者	浦口 恭直
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	講義修了時
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 住まいをはじめとする建築物の安全性や快適性等を確保するための建築基準法について</p> <p>【概要】 建築物の構造安全性、防火、室内環境、まちづくりに関わる規定など、建築物に関する基本的なルールを定めた建築基準法について概説する。</p> <p>【到達目標】 戸建て住宅を主眼において、建築物を設計する際に必要な建築法規の基礎を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『いちばんやさしい建築基準法 改訂版』(新星出版社)</p> <p>(2) 適宜参考資料を配付</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 建築基準法とは</p> <p>第2回 まちづくりに関わるルール1</p> <p>第3回 まちづくりに関するルール2</p> <p>第4回 建築物の安全性に関するルール1</p> <p>第5回 建築物の安全性に関するルール2</p> <p>第6回 快適な住環境確保のためのルール</p> <p>第7回 ルールが守られるためのしくみ</p> <p>第8回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験		

(注) 二級建築士、木造建築士受験資格取得には必須科目

授業科目	CAD設計	担当者	宍戸 克実
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 講義 (演習含む)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】CAD (図面作成) ソフトを用いた基礎的な建築図面作成手順や、作品表現方法について学ぶ</p> <p>※設計製図Ⅱとあわせて履修すること</p> <p>【概要】2次元CAD及び3次元CADソフトによる基礎的な建築図面の作成手順を理解し、図面を適切にレイアウトしてプレゼンテーションする</p> <p>【到達目標】 CADソフトの操作を習得し、基礎的な建築図面を作成することができる</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 配布プリント</p> <p>(2) 阿部秀之「SketchUp パーフェクト基本操作編」エクスマレッジ 鳥谷部真「徹底解説 VectorWorks 基本編」エクスマレッジ</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 CAD 関連スキル はじめに・画像編集</p> <p>第2回 2D/CAD (VectorWorks) 基本操作</p> <p>第3回 " 基準線</p> <p>第4回 " 壁</p> <p>第5回 " 開口部</p> <p>第6回 " 家具、設備</p> <p>第7回 " 仕上げ</p> <p>第8回 " 地図インポート、縮尺調整、敷地図、案内図</p> <p>第9回 " 用紙設定、図面レイアウト、印刷</p> <p>第10回 3D/CAD (SketchUp) 基本操作</p> <p>第11回 " 基準線、壁</p> <p>第12回 " 開口部</p> <p>第13回 " 屋根、家具、設備</p> <p>第14回 " 画像エクスポート</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業中の課題・宿題 (100%)		

(注) 二級建築士 (木造建築士) 受験資格取得必須科目

授業科目	建築史	担当者	穴戸 克実
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 (注)
			[授業形態] 講義
テーマ及び概要	【テーマ】 世界の建築・都市の歴史を学び、今後の建築・都市デザインについて考える 【概要】 中東、アフリカ、ヨーロッパ地域の他、鹿児島都市空間や建築物も対象とする 【到達目標】 各地の伝統的建築物・都市の歴史や空間構成について理解する		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 配布プリント (2) 藤井明監修「世界の居住文化百科」 終風舎、布野修司「世界住居誌」 昭和堂		
授業スケジュール	第1回 世界の建築史・都市史序説 第2回 ヨーロッパ地域の都市・建築史 第3回 // 第4回 // 第5回 中東・アフリカ地域の都市・建築史 第6回 // 第7回 // 第8回 // 第9回 日本・アジア地域の都市・建築史 第10回 // 第11回 鹿児島都市・建築史 (演習含む) 第12回 // 第13回 // 第14回 // 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業中の課題・宿題 (70%), レポート (30%)		

(注) 二級建築士 (木造建築士) 受験資格 (実務一年) 取得必須科目

授業科目	CAD設計特講	担当者	穴戸 克実
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 (注)
			[授業形態] 講義 (演習含む)
テーマ及び概要	【テーマ】 CAD (図面作成) 関連ソフトを用いた建築図面の作成手順や、建築作品のプレゼンテーション手法について学ぶ ※設計製図Ⅲ, 設計製図Ⅳとあわせて履修すること 【概要】 設計製図Ⅲで計画した設計構想をもとに建築図面を製作し、プレゼンテーションボードを完成させる 【到達目標】 CAD 関連ソフトを使いこなし、効果的に作品をプレゼンテーションすることができる		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 配布プリント (2) 福井通「商業施設」彰国社、積田洋「併用住宅」彰国社		
授業スケジュール	第1回 基本操作 第2回 基本操作 第3回 プレゼンテーション① 構想発表 (設計製図Ⅲ) 第4回 基本操作 第5回 基本操作 第6回 基本操作 第7回 プレゼンテーション② 中間発表 (設計製図Ⅲ) 第8回 製作 図面製作 第9回 製作 // 第10回 製作 // 第11回 製作 // 第12回 製作 // 第13回 製作 模型写真撮影 第14回 製作 レイアウト, 印刷 第15回 プレゼンテーション③ 発表 (設計製図Ⅲ)		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	課題作品 (100%)		

(注) 二級建築士 (木造建築士) 受験資格 (実務一年) 取得必須科目

授業科目	設計製図Ⅲ		担当者	穴戸 克実																																													
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応																																													
	[学期]	前期	[単位]	1単位																																													
			[必修/選択]	選択 (注)																																													
			[授業形態]	実習																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住宅における社会的課題と向き合いながら、二級建築士が設計可能な種類の建築施設の設計課題に取り組む ※CAD設計特講、設計製図Ⅳと併せて履修すること</p> <p>【概要】提示された課題条件をクリアすることに加え、都市空間や住宅における社会的課題について建築的手法での解決を試み、図面や模型を用いてその設計趣旨を他者に伝える一連のプロセスについて学ぶ</p> <p>【到達目標】様々な設計条件や問題点を整理し、建築としてまとめ上げ、多様な表現手法を用いて効果的に作品をプレゼンテーションすることができる</p>																																																
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 配布プリント</p> <p>(2) 九州大学大学院アーバンデザイン学コース「都市理解のワークショップ」九州大学出版会</p>																																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>はじめに</td><td>課題説明、事例紹介</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>調査・研究</td><td>敷地調査、事例研究</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>プレゼンテーション①</td><td>構想発表</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>プランニング</td><td>エスキース</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>プランニング</td><td>エスキース</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>プランニング</td><td>エスキース</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>プレゼンテーション②</td><td>中間発表</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>製作</td><td>図面・模型製作</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>製作</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>製作</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>製作</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>製作</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>製作</td><td>模型写真撮影</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>製作</td><td>レイアウト、印刷</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>プレゼンテーション③</td><td>発表</td></tr> </table>				第1回	はじめに	課題説明、事例紹介	第2回	調査・研究	敷地調査、事例研究	第3回	プレゼンテーション①	構想発表	第4回	プランニング	エスキース	第5回	プランニング	エスキース	第6回	プランニング	エスキース	第7回	プレゼンテーション②	中間発表	第8回	製作	図面・模型製作	第9回	製作	〃	第10回	製作	〃	第11回	製作	〃	第12回	製作	〃	第13回	製作	模型写真撮影	第14回	製作	レイアウト、印刷	第15回	プレゼンテーション③	発表
第1回	はじめに	課題説明、事例紹介																																															
第2回	調査・研究	敷地調査、事例研究																																															
第3回	プレゼンテーション①	構想発表																																															
第4回	プランニング	エスキース																																															
第5回	プランニング	エスキース																																															
第6回	プランニング	エスキース																																															
第7回	プレゼンテーション②	中間発表																																															
第8回	製作	図面・模型製作																																															
第9回	製作	〃																																															
第10回	製作	〃																																															
第11回	製作	〃																																															
第12回	製作	〃																																															
第13回	製作	模型写真撮影																																															
第14回	製作	レイアウト、印刷																																															
第15回	プレゼンテーション③	発表																																															
授業外学習(予習・復習)	適宜指示																																																
成績評価の方法	課題プレゼンテーション3回(100%)																																																

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格(実務一年)取得必須科目

授業科目	設計製図Ⅳ		担当者	穴戸 克実																										
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応																										
	[学期]	通年	[単位]	4単位																										
			[必修/選択]	選択 (注)																										
			[授業形態]	実習																										
テーマ及び概要	<p>【テーマ】①二級建築士製図試験を念頭に課題に取り組む または②地域に根ざした都市や建築の空間構成・形成過程についてフィールド調査し最終的に設計提案を試みる</p> <p>【概要】①単機能建築と複合機能建築について計画と設計について学ぶ または②フィールド調査を通じ都市や建築を分析しデザインの原理や背景を考える</p> <p>【到達目標】①二級建築士製図試験レベルの計画・製図スキルを身につける または②都市空間や住居について学び、現代的あり方について理解する</p>																													
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 配布プリント</p> <p>(2) 西村幸夫「図説 都市空間の構想力」学芸出版社、宇杉和夫「まち路地再生のデザイン」彰国社</p>																													
授業スケジュール	<p>【前期】</p> <table border="0"> <tr><td>第1回～第3回</td><td>課題作品の修正とポートフォリオの製作</td></tr> <tr><td>第4回～第6回</td><td>第1テーマの設定、プランニング</td></tr> <tr><td>第7回～第9回</td><td>平面図兼配置図、立面図、断面図、構造図等の製作</td></tr> <tr><td>第10回～第12回</td><td>建築模型、立体図等の製作</td></tr> <tr><td>第13回～第15回</td><td>発表・ディスカッション及び修正</td></tr> </table> <p>【後期】</p> <table border="0"> <tr><td>第16回～第21回</td><td>第2テーマの設定、調査研究</td></tr> <tr><td>第22回～第27回</td><td>プランニング、スタディ模型・立体図の製作</td></tr> <tr><td>第28回～第33回</td><td>中間発表、ディスカッション、設計方針の確定</td></tr> <tr><td>第34回～第39回</td><td>平面図兼配置図、立面図、断面図等の製作</td></tr> <tr><td>第40回～第45回</td><td>その他詳細図、建築模型の製作</td></tr> <tr><td>第46回～第51回</td><td>立体図等の製作</td></tr> <tr><td>第52回～第57回</td><td>プレゼンテーションボードの製作</td></tr> <tr><td>第59回～第60回</td><td>最終発表</td></tr> </table>				第1回～第3回	課題作品の修正とポートフォリオの製作	第4回～第6回	第1テーマの設定、プランニング	第7回～第9回	平面図兼配置図、立面図、断面図、構造図等の製作	第10回～第12回	建築模型、立体図等の製作	第13回～第15回	発表・ディスカッション及び修正	第16回～第21回	第2テーマの設定、調査研究	第22回～第27回	プランニング、スタディ模型・立体図の製作	第28回～第33回	中間発表、ディスカッション、設計方針の確定	第34回～第39回	平面図兼配置図、立面図、断面図等の製作	第40回～第45回	その他詳細図、建築模型の製作	第46回～第51回	立体図等の製作	第52回～第57回	プレゼンテーションボードの製作	第59回～第60回	最終発表
第1回～第3回	課題作品の修正とポートフォリオの製作																													
第4回～第6回	第1テーマの設定、プランニング																													
第7回～第9回	平面図兼配置図、立面図、断面図、構造図等の製作																													
第10回～第12回	建築模型、立体図等の製作																													
第13回～第15回	発表・ディスカッション及び修正																													
第16回～第21回	第2テーマの設定、調査研究																													
第22回～第27回	プランニング、スタディ模型・立体図の製作																													
第28回～第33回	中間発表、ディスカッション、設計方針の確定																													
第34回～第39回	平面図兼配置図、立面図、断面図等の製作																													
第40回～第45回	その他詳細図、建築模型の製作																													
第46回～第51回	立体図等の製作																													
第52回～第57回	プレゼンテーションボードの製作																													
第59回～第60回	最終発表																													
授業外学習(予習・復習)	適宜指示																													
成績評価の方法	課題作品(100%)																													

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格(実務一年)取得必須科目

授業科目	空間デザイン論		担当者	川島 茂				
	[履修年次]	1年次	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	※	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】プレゼンテーションのための表現手法を介して空間を把握、理解する。</p> <p>【概要】自身の設計課題を透視図法やCAD、模型等による立体表現を実践することで空間を把握する能力を育成する。また、それらの手法を総合的にプレゼンテーションシートにまとめ第三者に自身の設計主旨を伝えることを実践する。</p> <p>【到達目標】各種技法の習得と空間把握能力、プレゼンテーションによる伝達力の習得。</p> <p>※本講座の受講生は「設計製図Ⅱ」を必ず受講してください。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」彰国社</p> <p>(2) 日本建築学会編「コンパクト建築設計資料〈住居〉」丸善</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 課題のプレゼンテーションと講評-1</p> <p>第3回 課題のプレゼンテーションと講評-2</p> <p>第4回 透視図法と立体表現</p> <p>第5回 透視図課題</p> <p>第6回 CAD (Vector Works) 作図演習1</p> <p>第7回 CAD (Vector Works) 作図演習-2</p> <p>第8回 CAD (Vector Works) 作図演習-3</p> <p>第9回 住宅模型製作-1</p> <p>第10回 住宅模型製作-2</p> <p>第11回 住宅模型製作-3</p> <p>第12回 模型写真撮影</p> <p>第13回 プレゼンテーションシート作成-1</p> <p>第14回 プレゼンテーションシート作成-2</p> <p>第15回 プレゼンテーションシート作成-3</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	レポート・演習 (100%)							

授業科目	空間デザインⅠ		担当者	川島 茂				
	[履修年次]	2	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	※	[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】設計の実践により空間のテーマと課題を見出し、それに呼応した空間を創造する。</p> <p>【概要】個人指導とグループ指導、ディスカッション等を組み合わせ、各学生がそれぞれに設計主旨を見出し、アイデアを展開するよう促す。建築空間の諸条件を整理、設計からプレゼンテーションを含む自発的な学習が求められる。</p> <p>【到達目標】居住空間、公共空間の計画を実践することにより、諸条件の分析と評価、空間構成手法を習得する。</p> <p>※本講座は「卒業研究C」受講生のみを対象者とします。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 日本建築学会小委員会著「事例で読む現代集合住宅のデザイン」彰国社</p> <p>(2) 日本建築学会編「コンパクト建築設計資料〈住居〉」丸善</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 集合住宅の設計-1 条件の整理と敷地及び周辺環境の把握</p> <p>第3回 集合住宅の設計-2 コンセプトの立案</p> <p>第4回 集合住宅の設計-3 配置計画、諸機能の構成と動線計画</p> <p>第5回 集合住宅の設計-4 平面計画-1</p> <p>第6回 集合住宅の設計-5 平面計画-2</p> <p>第7回 集合住宅の設計-6 断面計画-1</p> <p>第8回 集合住宅の設計-7 断面計画-2</p> <p>第9回 集合住宅の設計-8 立面計画</p> <p>第10回 集合住宅の設計-9 外構計画</p> <p>第11回 集合住宅の設計-10 模型作成-1</p> <p>第12回 集合住宅の設計-11 模型作成-2</p> <p>第13回 集合住宅の設計-12 ダイアグラム・プレゼンテーションシート</p> <p>第14回 集合住宅の設計-13 提出、評価</p> <p>第15回 集合住宅の設計-14 講評</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	課題 (100%)							

授業科目	空間デザインⅡ		担当者	川島 茂				
	[履修年次]	2	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	※	[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】設計の実践により空間のテーマと課題を見出し、それに呼応した空間を創造する。</p> <p>【概要】個人指導とグループ指導、ディスカッション等を組み合わせ、各学生がそれぞれに設計主旨を見出し、アイデアを展開するよう促す。建築空間の諸条件を整理、設計からプレゼンテーションを含む自発的な学習が求められる。</p> <p>【到達目標】居住空間、公共空間の計画を実践することにより、諸条件の分析と評価、空間構成手法を習得する。 ※本講座は「卒業研究C」受講生のみを対象者とします。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 佐藤考一・五十嵐太郎 著「初学者の建築講座 建築計画 (改訂版)」市ヶ谷出版社</p> <p>(2) 日本建築学会編「コンパクト建築設計資料 (住居)」丸善</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 県短図書館の設計-1 条件の整理と敷地及び周辺環境の把握</p> <p>第3回 県短図書館の設計-2 コンセプトの立案</p> <p>第4回 県短図書館の設計-3 配置計画、諸機能の構成と動線計画</p> <p>第5回 県短図書館の設計-4 平面計画-1</p> <p>第6回 県短図書館の設計-5 平面計画-2</p> <p>第7回 県短図書館の設計-6 断面計画-1</p> <p>第8回 県短図書館の設計-7 断面計画-2</p> <p>第9回 県短図書館の設計-8 立面計画</p> <p>第10回 県短図書館の設計-9 外構計画</p> <p>第11回 県短図書館の設計-10 模型作成-1</p> <p>第12回 県短図書館の設計-11 模型作成-2</p> <p>第13回 県短図書館の設計-12 ダイアグラム・プレゼンテーションシート</p> <p>第14回 県短図書館の設計-13 提出、評価</p> <p>第15回 県短図書館の設計-14 講評</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	課題 (100%)							

授業科目	卒業研究C		担当者	川島 茂				
	[履修年次]	2	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	通年	[単位]	4	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】建築、インテリアデザイン分野の研究と設計。指導教員と相談のうえ、各自が自由なテーマを設定する。ただし、テーマは現代社会が直面する計画課題とし、諸問題に対応するものが求められる。</p> <p>【概要】ゼミでは個別発表により、個人指導、ディスカッションを重ね、研究および設計テーマを設定しつつ、十分な調査、考察に基づいたうえ、具体的な設計に展開する。</p> <p>【到達目標】将来的に建築、インテリアデザイン分野に取り組むための基本的な視点を習得する。 ※本講座は「空間デザインⅠ」「空間デザインⅡ」の受講を条件とします。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) -</p> <p>(2) 研究及び設計のテーマに沿った参考文献を適宜指示する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 ～第5回 研究・設計のテーマの検討と設定</p> <p>第6回 ～第12回 文献、資料収集及び考察、計画条件の設定</p> <p>第13回 ～第22回 エスキス、設計</p> <p>第23回 ～第29回 プレゼンテーションシートの作成</p> <p>第30回 発表</p>							
授業外学習(予習・復習)	ゼミでは適当な指導を受けられるよう、自らの構想や提案を表現する図面、スケッチ、スタディ模型等を用意する等、十分な準備を求める。							
成績評価の方法	研究および設計の取り組み方、成果物の総合評価とする。							

10 第一部商経学科の専攻間で共通する科目
(専門基礎科目)

授業科目	情報社会論	担当者	杉原 洋
	[履修年次] 1,2いずれでも履修可 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	原則、授業終了後、非常勤控え室で。メールアポをお願い。
テーマ及び概要	【テーマ】 ニュースから現代を読み解く 【概要】 マスメディアのニュース報道を素材にして、「日本の今・世界の今」を読み解き、出来事の背景や、問われていることは何なのかを、一緒に考えましょう。 【到達目標】 社会に出たときに求められる時事問題の常識や、考える力を身につけることです。また自分も社会を支える一人なのだとすることに気付くことです。	[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 特に使用しません。杉原が作成したプリントを配布します。テーマによってはDVDを視聴します。 (2) 池上彰『知らないで恥をかく 世界の大問題 1～7』角川新書 (角川SSC新書) 蒲島郁夫『改訂版メディアと政治』有斐閣アルマ その他、授業資料で適宜紹介します。		
授業スケジュール	第1回 はじめに 全体オリエンテーション 第2回 天皇退位問題1 第3回 天皇退位問題2 第4回 川内原発と日本のエネルギー問題1 第5回 川内原発と日本のエネルギー問題2 第6回 トランプ大統領の登場で世界はどう変わる1 (日本はアメリカとどう付き合うか) 第7回 トランプ大統領の登場で世界はどう変わる2 (世界は内向きになるか) 第8回 日本国憲法を考える1 (憲法とは何か) 第9回 日本国憲法を考える2 (「自民党改憲草案」を読む) 第10回 日本国憲法を考える3 (「お試し改憲」とは) 第11回 少子・高齢化の進行と人口減少時代1 第12回 少子・高齢化の進行と人口減少時代2 第13回 ネット空間での振り舞い方 第14回 日本社会はどうなるの 第15回 まとめ ※現代を理解するうえで重要なニュースがあった場合は、授業スケジュールにかかわらず、適宜「ニュース解説」の授業に振り替えます。したがって、このシラバスはあくまでも「計画」であり、変更されることがありうると考えておいてください。		
授業外学習(予習・復習)	【予習】 短大図書館などで複数の新聞に必ず目を通してください。読み比べることが大切です。またTVやポータルサイトのニュースを視聴・検索して、現代日本・世界でどんなことが起きているのかをチェックしてください。 【復習】 授業資料をもとに、講義内容を再度そしゃくし、疑問点があれば、メールで発信してください。		
成績評価の方法	・授業ごとに提出してもらった「感想シート」と期末に提示する「レポート」を総合評価します。配分は、感想シート20%、レポート80%。 ・5回(全授業の3分の1)以上、欠席した場合(感想シートが提出されていない)は原則として単位は認定できません。欠席届は、原則として、事前に提出してください(書式は問いません)。突発事故や急病などの場合は事前提出は不可能ですから、事後提出で結構です。		

授業科目	現代社会論	担当者	山口 祐司
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 1980年以降に生まれた今日の若者は、物心がついた頃からほとんど経済成長を経験しておらず、不透明で漠然とした不安が支配する時代を生きています。大学に行くにも学費と生活費の心配をせねばならず、就職しても給料は上がっていくのか、働き続けられるのか、老後の資金を確保できるのか、といった悩みから解放される保証はありません。それだけ現代日本に漂う閉塞感には深刻です。こうした閉塞感の背後にはどのような社会的力が働いているのか、どのように私たちはこれを打破していけば良いのか、といった問題を「新自由主義」と「グローバリゼーション」という視座から考えていきます。</p> <p>【概要】 この授業は、現代社会を主として1970年代以降の資本主義の調整・発展という切り口からとらえていきます。最も重要なキーワードが「新自由主義」と「グローバリゼーション」で、それぞれ第2～4回、第5～7回でみていきます。これらを踏まえて、第8～12回では現代社会が直面する大きな問題についてそれぞれ検討します。こうした諸問題について、打開の兆しは表れ始めています。そのことを第13～14回で紹介していきます。</p> <p>【到達目標】 現代社会が直面するさまざまな問題について理解を深めること。問題の背景について考え、これからの社会を作る一員として解決策を見出す力をつけること。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 特に指定しません。 (2) 講義時に提示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、現代社会をとらえる視座：新自由主義とグローバリゼーション 第2回 新自由主義①新自由主義とは何か 第3回 新自由主義②規制緩和と市場原理主義 第4回 新自由主義③金融経済化 第5回 グローバリゼーション①現代のグローバリゼーションの特質 第6回 グローバリゼーション②多国籍企業と通商システムのグローバル化 第7回 グローバリゼーション③新興国経済の成長と混乱 第8回 現代社会の諸問題①民族・宗教をめぐる紛争 第9回 現代社会の諸問題②疲弊する地域経済 第10回 現代社会の諸問題③拡大する所得格差 第11回 現代社会の諸問題④行き詰まる社会保障システム 第12回 現代社会の諸問題⑤激化する地球環境問題 第13回 行き詰まりを打開するために①所得再分配の模索 第14回 行き詰まりを打開するために②世界的に活発化する社会運動 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。		
成績評価の方法	筆記試験(60%)、授業ごとの小論文(40%)		

授業科目	経済学		担当者	山口 祐司
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 必修
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>「経済学」は「世の中の仕組みを知る」ための社会科学の一つです。私たちは誰かが作った物を消費して生活しています。物を買うお金を得るために、多くの人が働いています。また、人びとが稼いだお金の一部を税金として集めることで、町や国が運営されています。こうした社会関係のことを経済といいます。この授業では、新聞やニュースに登場する最近の社会の動きを踏まえつつ、経済についての基礎的な見方を学んでいきます。</p> <p>【概要】</p> <p>現代社会における経済学の役割と、時代的課題に対応した経済学の実史の整理（第1～2回）。経済主体と市場の問題を扱うミクロ経済学の基礎理論（第3～5回）。一国レベルの経済問題を扱うマクロ経済学の基礎理論（第6～9回）。国際的な経済関係の理論（第10～11回）。最後に、これら主流派の経済理論の発展とは独自の発展をみた社会経済学を学ぶ（第12～14）。各講義で扱う内容はエッセンスに限られるが、現代社会の問題との関連性を意識し、より発展的な学習へのつなげられるようにする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>経済学の基礎的な概念と理論を理解すること。新聞などに登場する時事的な経済問題について、自分なりの観点をもつこと。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 特に指定しません。</p> <p>(2) 講義時に提示します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 授業ガイダンス、経済学とは何か</p> <p>第2回 現代の経済学の系譜</p> <p>第3回 ミクロ経済学の基礎①需要</p> <p>第4回 ミクロ経済学の基礎②供給</p> <p>第5回 ミクロ経済学の基礎③市場</p> <p>第6回 マクロ経済学の基礎①国民所得とその水準の決定</p> <p>第7回 マクロ経済学の基礎②財政政策と金融政策</p> <p>第8回 マクロ経済学の基礎③インフレーションとデフレーション</p> <p>第9回 マクロ経済学の基礎④経済成長</p> <p>第10回 国際経済学①国際貿易</p> <p>第11回 国際経済学②外国為替</p> <p>第12回 社会経済学①政治と経済</p> <p>第13回 社会経済学②労働と経済</p> <p>第14回 社会経済学③環境と経済</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回の授業の復讐のほか、新聞の経済欄を日常から読むようにしてください。			
成績評価の方法	筆記試験 (60%)、授業ごとの小論文 (40%)			

授業科目	経済情報論		担当者	内田昌廣
	[履修年次] 1, 2年	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>日本経済が直面しているさまざまな課題について、現状を知り、何がどう問題なのかそうでないのか考えていきます。</p> <p>【概要】日本経済を取り巻く経済の動きを採り上げ、受講者とともにさまざまな視点から掘り下げて考えていきます。(社会保障の課題・雇用の課題については、経済政策の講義で採り上げます)</p> <p>【到達目標】</p> <p>経済ニュースに関心を持ち、異なる視点・考え方を学び、経済の動きを多面的に捉える眼を持てるようになること。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 広井良典『人口減少社会という希望』朝日選書 高橋伸彰『少子高齢化の死角ー本当の危機とは何か』ミネルヴァ書房 スーザン・ジョージ、マーティン・ウルフ『徹底討論 グローバリゼーション 賛成/反対』作品社</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス： 講義の目的・進め方</p> <p>第2回 少子高齢化社会： 少子高齢化は悪いことなのか、少子高齢化で日本人は貧しくなるのか</p> <p>第3回 国の債務問題(1)： 国の借金が増えることは問題なのか、何が問題なのか</p> <p>第4回 国の債務問題(2)： どのようにして債務残高を減らしていくべきか</p> <p>第5回 デフレ経済： なぜ日本はデフレ経済になったのか、アメリカはなぜデフレにならないのか</p> <p>第6回 為替相場制度： 変動相場制と固定相場制ーそれぞれのメリット・デメリットは何か</p> <p>第7回 企業のグローバル化： 企業が海外進出することは問題なのか</p> <p>第8回 貿易収支(1)： 日本は貿易赤字国になっていくのか、貿易赤字は悪いことなのか</p> <p>第9回 貿易収支(2)： 輸出を増やすには何が必要か</p> <p>第10回 自由貿易協定： 日本にとって有益なのか、有害なのか</p> <p>第11回 食料輸入： 食料自給率をもっと引き上げるべきなのか</p> <p>第12回 再生可能エネルギー： 再生可能エネルギー発電の普及・電力自由化の課題は何か</p> <p>第13回 新興国経済： 新興国の経済発展は、脅威なのか有益なのか</p> <p>第14回 グローバリゼーション： グローバリゼーションの良い面・悪い面、課題を考える</p> <p>第15回 まとめ (授業評価アンケートの実施、期末レポートの提出)</p>			
授業外学習(予習・復習)	復讐を十分行ってください。授業で採り上げたテーマに関連する報道や論説に触れ、視点や考えをさらに深めてください。			
成績評価の方法	期末レポート (100%)			

授業科目	消費者問題		担当者	石窪 奈穂美
	[履修年次]	1年, 2年いずれでも履修可	授業外対応	講義終了時及び適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期 [単位] 2単位	[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「消費者問題を通して考える—自己責任社会における消費者のあり方・役割について」</p> <p>【概要】規制緩和やグローバル化等, 私たち消費者を取り巻く状況は様々に変化し, 自己責任社会を迎えています。また, 消費者問題も多様化・複雑化しています。様々な消費者問題を取り上げながら, 消費者の権利と責任について理解し, 消費者問題を幅広い視点から捉え, 問題点や解決策を考えます。その上で, 消費者としてあるべき姿や企業・行政のあり方等についても同時に考えていきます。</p> <p>【到達目標】消費者基本法が制定され, 消費者は単なる保護する対象ではなく権利主体であることが明確化され, 消費者自らが自立し, 「消費者力」を身につけなければならぬといわれています。生活者として, 消費者として, 社会人として, 各自の価値システムをどう作り上げていくのか, 消費者主権の主体的・合理的な選択, 判断能力を養います。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 無し。随時プリント・資料等を配布する。</p> <p>(2) 講義時に必要な際は紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション, 消費者問題概論①</p> <p>第2回 消費者問題概論②</p> <p>第3回 消費者問題の歴史</p> <p>第4回 悪徳商法と消費者問題</p> <p>第5回 ネット社会と消費者問題</p> <p>第6回 消費者の権利と法的保護①</p> <p>第7回 消費者の権利と法的保護②</p> <p>第8回 消費者金融(クレジット・サラ金)問題</p> <p>第9回 安心・安全と消費者問題①</p> <p>第10回 安心・安全と消費者問題②</p> <p>第11回 商品・サービスと消費者問題①</p> <p>第12回 商品・サービスと消費者問題②</p> <p>第13回 消費生活と環境問題</p> <p>第14回 消費者の未来像—消費者主権の社会づくり</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示, 復習を重視する。			
成績評価の方法	授業への参加態度(20%), 提出物(20%), 定期試験(60%)による総合評価			

授業科目	行政法		担当者	山本 敬生
	[履修年次]	1, 2年履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	前期 [単位] 2単位	[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】行政行為論を中心とした行政法の基礎理論を理解した上で, 行政不服審査法, 行政事件訴訟法, 国家賠償法の基本構造を体系的に把握し, 行政の法的コントロールのあり方について学習することをテーマにする。</p> <p>【概要】周知のとおり, 行政法は通則的法典が存在しておらず, そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法律学に比べて強く求められる学問である。本講義では, 行政法の基本原理である法律による行政の原理(法律の法規創造力, 法律の優位の原則, 法律の留保の原則), 行政行為, 行政立法, 行政計画, 行政指導, 行政契約等の行政の行為形式論, 行政上の義務履行確保制度, 行政手続等の行政上の一般制度をわかりやすく解説し行政法の基礎理論を体系的に理解した上で, 行政不服審査法, 行政事件訴訟法, 国家賠償法といった一般法について, 国民の権利救済という視点から学習する。</p> <p>【到達目標】行政法の基本原理, 行政の行為形式論, 行政上の一般制度, 行政救済法について説明できるようになり, 行政法的視点に立った行政と市民との関係のあり方を考察できる力を習得することを目標にする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 山口友信他編, 『ポケット六法(平成29年度版)』, 有斐閣</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 法律による行政の原理</p> <p>第2回 行政立法</p> <p>第3回 行政行為(1)</p> <p>第4回 行政行為(2)</p> <p>第5回 行政指導</p> <p>第6回 行政上の強制執行制度</p> <p>第7回 行政手続法</p> <p>第8回 行政不服審査法</p> <p>第9回 行政事件訴訟法(1)</p> <p>第10回 行政事件訴訟法(2)</p> <p>第11回 行政事件訴訟法(3)</p> <p>第12回 国家賠償法(1)</p> <p>第13回 国家賠償法(2)</p> <p>第14回 損失補償</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験(90%)+授業での発言内容(10%)を基準にして評価する。			

授業科目	経済政策		担当者	内田昌廣				
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	いつでも対応しますので、メール連絡してください。				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 「課題先進国」と言われる日本の将来にとって、どのような政策が必要なのかを考えます。</p> <p>【概要】人口減少社会への転換によって、これまで経済社会を支えてきたさまざまな制度の再構築が迫られています。日本が抱えるさまざまな課題を採り上げ、受講者とともに将来の制度設計について考えていきます。</p> <p>【到達目標】 日本の課題について関心を持ち、さまざまな考え方やアプローチを踏まえて、自分自身で解決策を考える視点を持つこと。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 千葉忠夫『格差と貧困のないデンマークー世界一幸福な国の人づくり』PHP研究所 高岡望『日本はスウェーデンになるべきか』PHP研究所 山崎亮『まちの幸福論ーコミュニティデザインから考える』NHK出版</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的・進め方</p> <p>第2回 経済成長を考える：経済成長は善か悪か必要悪か、経済成長のための政策を考える</p> <p>第3回 財政再建を考える(1)：財政再建は必要なのか、社会保障と税の一体改革とは</p> <p>第4回 財政再建を考える(2)：消費税増税の課題、税制の課題を考える</p> <p>第5回 社会保障の将来を考える(1)：国は、誰をどこまで救うべきなのか</p> <p>第6回 社会保障の将来を考える(2)：弱者救済のための政策を考える</p> <p>第7回 社会保障の将来を考える(3)：現役世代のための社会保障の充実策を考える</p> <p>第8回 雇用の将来を考える(1)：非正規雇用と正規雇用の格差、正規雇用の男女間格差を考える</p> <p>第9回 雇用の将来を考える(2)：若者の雇用政策、高齢者の雇用政策を考える</p> <p>第10回 地域経済の将来を考える(1)：人口減少と地域経済、大都市圏集中と地方経済の空洞化</p> <p>第11回 地域経済の将来を考える(2)：中央集権から地域主権へ、道州制は何を目指そうとしているのか</p> <p>第12回 地域経済の将来を考える(3)：地域経済を支える産業を考える</p> <p>第13回 地域経済の将来を考える(4)：農業の再生には何が必要かを考える</p> <p>第14回 地域経済の将来を考える(5)：地域社会の未来のために必要なこと</p> <p>第15回 まとめ(授業評価アンケートの実施、期末レポートの提出)</p>							
授業外学習(予習・復習)	復習を十分行ってください。授業で採り上げたテーマに関連する報道や論説に触れ、視点や考えをさらに深めてください。							
成績評価の方法	期末レポート(100%)							

授業科目	社会政策		担当者	朝日吉太郎				
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	常時対応(メールによるアポイントメント必要)				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 人々を苦しめている貧困・格差・男女差別・ハラスメントの発生原因をさぐる</p> <p>【概要】 貧困や格差、劣悪な労働環境は、偶然の産物ではなく、その背後にはそれを成立させる法則が存在しています。その法則を解明し改善のための手段を考えます。ベーシックな科目なので、できれば1年次に履修して下さい。</p> <p>【到達目標】 労働をめぐる社会問題に対して、それに関心をもちその解決のために社会を分析する基礎的な力を身につける。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストはありません。</p> <p>(2) 授業の中で指示します。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 講義の目的と進め方について</p> <p>第2回 資本主義と労働(1) 労働と価値</p> <p>第3回 資本主義と労働(2) 価値と貨幣</p> <p>第4回 資本主義と労働(3) 価値と資本</p> <p>第5回 資本主義と労働(4) 賃労働と資本</p> <p>第6回 賃金(1) 賃金と賃金形態</p> <p>第7回 賃金(2) 時間賃金</p> <p>第8回 賃金(3) 出来高賃金</p> <p>第9回 労働時間(1) 労働時間の延長理由(1) 剰余労働と労働日</p> <p>第10回 労働時間(2) イノベーション、資本間競争、深夜労働、交替制</p> <p>第11回 直接的生産過程の諸結果</p> <p>第12回 労働日を巡る資本・賃労働の闘争</p> <p>第13回 社会政策と国家</p> <p>第14回 日本における一連の労働条件改善政策と諸結果について</p> <p>第15回 日本の労働問題を考えるために</p>							
授業外学習(予習・復習)	経済学の基礎理論を学ぶ。自分や家族の労働条件について考える。							
成績評価の方法	筆記試験							

授業科目	社会思想		担当者	渋谷 正				
	[履修年次]	1年, 2年	授業外対応	講義終了時				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>資本主義形成期以降の社会思想の変遷を辿る。</p> <p>【概要】</p> <p>近代社会思想は、資本主義の形成と発展を背景として、市民社会をどのように把握し、その社会でどのように生きるべきかを問うものとして、発展してきた。この近代市民社会思想とそれを批判する思想を、資本主義の歴史的発展とも関連させながら、考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>近代社会思想の展開を理解することによって、資本主義の本質を見極めるための手掛かりを得ることを目標とする。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストは、使用しない。授業中に資料としてプリントを配布する。</p> <p>(2) 服部文男編『社会思想史入門』青木書店。他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 資本主義の形成過程——本源的蓄積</p> <p>第 2 回 資本主義の形成過程——本源的蓄積 (続き)、市民社会思想の端緒——トマス・ホッブズ (1)</p> <p>第 3 回 市民社会思想の端緒——トマス・ホッブズ (2)</p> <p>第 4 回 イギリス名誉革命と社会思想</p> <p>第 5 回 市民社会思想の形成——ジョン・ロック (1)</p> <p>第 6 回 市民社会思想の形成——ジョン・ロック (2)</p> <p>第 7 回 市民社会思想の発展——デイヴィッド・ヒューム (1)</p> <p>第 8 回 市民社会思想の発展——デイヴィッド・ヒューム (2)</p> <p>第 9 回 市民社会思想の確立——アダム・スミス (1)</p> <p>第 10 回 市民社会思想の確立——アダム・スミス (2)</p> <p>第 11 回 市民社会批判の社会思想——カール・マルクス (1)</p> <p>第 12 回 市民社会批判の社会思想——カール・マルクス (2)</p> <p>第 13 回 ケインズ『自由放任の終焉』と新自由主義 (1)</p> <p>第 14 回 ケインズ『自由放任の終焉』と新自由主義 (2)</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	筆記試験 (70 パーセント) + レポート (30 パーセント)							

授業科目	民法		担当者	疋田京子				
	[履修年次]	1, 2年いずれでも履修可	授業外対応	コミュニケーション・カードを使用する				
	[学期]	前期	[単位]	2 単	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】暮らしを支える生活民法</p> <p>市民生活の根幹である財産や家族を規律対象とする民法の入門講座</p> <p>【概要】明治 29 年に制定された日本の「民法」は、今、大改正されようとしています。企業間の取引にも、個人の生活上の取引にも共通して適用され、取引以外にも結婚や離婚、親子関係の発生や親の責任、相続など家族に関するルールも含む民法は、グローバル化とライフスタイルが多様化する中で、民法がどのように変わろうとしているのかを講義します。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な事例に対して、法的に説得力ある主張を行うことができるようになること 							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント配布</p> <p>(2) 大村敦志『生活民法入門』(東京大学出版会) 内田貴『民法 I』(東京大学出版会)</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：民法が対象とする紛争とは</p> <p>第 2 回 「民法」の基本構造：社会の変化と法の改正</p> <p>第 3 回 「法定利率」が変わるとどうなる？：強行規定と任意規定</p> <p>第 4 回 民法の世界にも「信義誠実」や「善意・悪意」がある：民法の基本原則・条件・期限</p> <p>第 5 回 民法の成人年齢が 18 歳になると何がどう変わる？：私的自治の原則と制限行為能力者制度</p> <p>第 6 回 権利を濫用する未成年者にどう立ち向かうか：制限行為能力者の保護と取引の安全</p> <p>第 7 回 父が死んだ後に生まれた子どもにも相続権はあるか？：権利能力の始期と終期</p> <p>第 8 回 夫の死後に体外受精で生まれた子どもの父子関係を法は認めるか？：権利能力と意思能力</p> <p>第 9 回 戦争で死亡したとされた人が実は生きていた。既に処分した家はどうか？：失踪宣告と善意の第三者</p> <p>第 10 回 「言い間違い」「書き間違い」を法は許してくれるか？：意思と表示の不一致と契約の効力</p> <p>第 11 回 退職した従業員が元の会社の名前で取引先から商品を購入。代金は誰が払う？：代理制度</p> <p>第 12 回 A に貸したはずの本を B が持っている。「A から買った」と言うのだが：動産の対抗要件・即時取得</p> <p>第 13 回 二重譲渡された不動産の真の所有者は誰？：不動産の取引と対抗要件</p> <p>第 14 回 登記を信じて A から買った不動産が実は B の物だった!？：登記の公示力と公信力</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する							
成績評価の方法	筆記試験							

授業科目	商法		担当者	河野総史
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	授業終了後またはメールにて対応
	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態] 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 商法分野のうち、会社法の基礎知識</p> <p>【概要】商法は、「市民の法」たる民法の特別法にあたり、いわば「商人の法」である。商法において学ぶ分野は多岐に渡るが、本講義においては会社法分野の基礎知識を身に付け、社会の重要な構成要素である企業についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>【到達目標】株式制度と機関設計を中心に、株式会社の基礎を身に付けることを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 指定しない（レジュメを配布する）</p> <p>(2) 適宜指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 講義ガイダンス 民法と商法</p> <p>第 2 回 会社法総論</p> <p>第 3 回 会社の種類</p> <p>第 4 回 株式①（株式の種類等）</p> <p>第 5 回 株式②（株式の譲渡および譲渡制限等）</p> <p>第 6 回 株式③（自己株式・親会社株式取得規制等）</p> <p>第 7 回 株式④（株式併合・分割・無償割当等）</p> <p>第 8 回 資金調達①（会社設立時）</p> <p>第 9 回 資金調達②（募集株式の発行等）</p> <p>第 10 回 資金調達③（株式以外の資金調達手段）</p> <p>第 11 回 機関①（機関総論）</p> <p>第 12 回 機関②（株主総会）</p> <p>第 13 回 機関③（取締役・取締役会）</p> <p>第 14 回 機関④（監査役・会計参与・会計監査人）</p> <p>第 15 回 機関⑤（指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社） 総まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習は不要。復習を徹底して小テストに備えること。小テストについての詳細はガイダンス時に説明する。			
成績評価の方法	期末テスト 80 パーセント、小テスト 20%とし、全体で 60%以上を合格とする。			

授業科目	産業心理学		担当者	岡村 俊彦
	[履修年次]	1, 2年いずれでも履修可	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	前期 [単位] 2単位	[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】産業に関わる心理学を多角的に学ぶ</p> <p>【概要】産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが、人間の基本的な特性もとらえることで、コンピュータを始め、システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし、購買行動に関する様々な要因を考えていく。簡単な心理実験、心理テストなども織り交ぜていく予定である。</p> <p>【到達目標】商品、システム、労働環境を人間の快適性から評価し、改善を考えることができるようになる。また、購買行動に関わる心理を売り手、買い手の両面から考えることができるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布、Web でも公開</p> <p>(2) なし</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 概要説明</p> <p>第 2 回 人間とシステムの関わり合い、精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質</p> <p>第 3 回 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用</p> <p>第 4 回 ヒューマンインターフェイス1：ヒューマンインターフェイスの基本原則</p> <p>第 5 回 ヒューマンインターフェイス2：ヒューマンインターフェイスの事例紹介</p> <p>第 6 回 職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策</p> <p>第 7 回 仕事の成功と動機付け：成功、失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類</p> <p>第 8 回 人間関係、労働時間：職場における人間関係、労働時間と仕事の関係</p> <p>第 9 回 ユニバーサルデザイン：UD の理論と実践例</p> <p>第 10 回 広告の心理学：広告が視聴者にあたえる影響とメカニズム</p> <p>第 11 回 購買心理：消費者の購買心理</p> <p>第 12 回 販売、印象管理：セールステクニックと印章管理</p> <p>第 13 回 人間のエラー：人間のエラーのメカニズムと対策</p> <p>第 14 回 こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	通常のレポート 2 回分が 80%、出席・授業中のショートレポートが 20%			

授業科目	簿記論 I		担当者	宗田 健一				
	[履修年次]	1, 2 年いずれでも履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約: メールが望ましい)				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	【テーマ】複式簿記の仕組みの理解							
	【概要】初めて簿記を学習する学生を対象に複式簿記の仕組み(原理)を講義します。 【到達目標】複式簿記の仕組みを理解し、初歩的な会計の知識を獲得する、日商簿記3級レベルの簿記一巡の手続きを理解する。							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 渡部ほか『新検定 簿記講義 3級 商業簿記』(平成29年度版, 中央経済社。・・・簿記論IIと共通 渡部ほか『新検定 簿記ワークブック 3級 商業簿記』, 中央経済社。・・・簿記論IIと共通 (2) 新井清光・川村義則『新版 現代会計学』, 中央経済社, 2014年。							
授業スケジュール	第1回 ガイダンス, 簿記って何?: 履修登録確認, 配布資料(簿記・会計の歴史) 第2回 経営活動と記録, 物量情報と数値情報 第3回 株式会社の構造, 簿記・会計の必然性, 必要性 第4回 簿記の意味・目的・種類: テキスト第1章, 簿記の基礎概念: テキスト第2章 第5回 取引: テキスト第3章, 商工会議所簿記検定試験許容勘定科目表 第6回 勘定と仕訳: テキスト第4章 第7回 勘定と仕訳: テキスト第4章 第8回 復習, 予習・復習状況の確認 第9回 帳簿の記入: テキスト第5章, 第10回 帳簿の記入: テキスト第5章 第11回 帳簿の記入: テキスト第5章, 決算と財務諸表(その1): テキスト第6章 第12回 帳簿の記入: テキスト第5章, 決算と財務諸表(その1): テキスト第6章 第13回 簿記一巡の手続きに関する学習(資料配布) 第14回 復習, 予習・復習状況の確認: 第12回までの資料, 場合によっては小テスト 第15回 まとめ: 試験範囲の提示, 成績評価方法の説明, 質疑応答, 授業評価アンケートの実施							会計系科目の履修の流れ (初学者向け) 1年前期: 簿記論 I 1年後期: 簿記論 II 財務会計論 2年前期: 簿記論 III コンピュータ会計 原価計算 2年後期: 経営分析 管理会計論
	授業外学習(予習・復習)	毎回, 予習, 復習を提示します。						
成績評価の方法	小テスト・予習・復習の状況(20%), および筆記試験(80%)で評価します							

(注) 2017年度の簿記論 I, II は, 前期, 後期に連続して開講されます。簿記論 I を履修する学生は, 後期に簿記論 II の履修登録を行うことをお勧めします。なお, 受講生の学習進捗状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。

授業科目	経営学総論		担当者	竹中啓之				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)、及び講義終了後				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	【テーマ】経営学全般について、幅広く理解し、経営学の特徴的な考え方を習得する。							
	【概要】この講義では、これから経営学を学ぶにあたって、必要と思われる知識や考え方について説明する。まず、経営学が取り扱う様々なテーマをできるだけ幅広く取り上げ、企業や組織の仕組みを理解する。また、単なる知識の習得だけではなく、経営学が持っている特徴的な考え方も説明し、それに触れることで、その他の経営学関連の科目の修得の手助けになることを目指す。さらに、経営学が取り扱うテーマは、企業だけではなく、様々な場面で役立てることができる、実践的な学問であることも説明していくことにする。 【到達目標】経営学に関する基礎的な知識を習得する。経営学と社会との関わりを理解する。そのほかの経営学関連の科目を履修する際に手助けとなるような力を身につける。							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に配布するプリント (2) 講義中に指示する							
授業スケジュール	第1回 講義概要の説明: 講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第2回 経営学と経済学の違い: 経営学と経済学の最も特徴的な違いについて説明する。 第3回 経営学の発展と必要性: 経営学がいかに社会にとって必要とされてきたかを理解する。 第4回 企業の種類について: 企業の種類とそれぞれの特徴について考える。 第5回 企業の目的と役割について: 企業が持っている目的と、果たすべき役割について理解する。 第6回 人と企業との関係について(1): 企業で働く従業員の立場から、企業との関係を考える。 第7回 人と企業との関係について(2): 株主(出資者)としての立場から、企業との関係を考える。 第8回 人と企業との関係について(3): 消費者の立場から、企業との関係を考える。 第9回 人と企業との関係について(4): 企業の社会的責任について考える。 第10回 日本の経営を考える: 年功主義や終身雇用、そして成果主義・能力主義などについて考える。 第11回 組織の基本的な仕組みについて: 基本的な組織構造を理解し、その特徴を知る。 第12回 企業統治について: 株式会社を経営している人は、実際には誰なのかを考える。 第13回 経営戦略を考える: 経営戦略の考え方について説明する。 第14回 企業の革新の必要性について: 企業が長年良好な経営を行うために必要な事柄を説明する。 第15回 まとめ							
	授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。						
成績評価の方法	期末筆記試験(70%)、中間レポートもしくは小テスト(30%)(予定) 詳細は1回目の講義で説明します。							

授業科目	情報科学概論		担当者	岡村 俊彦
	[履修年次]	1, 2年いずれも履修可	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピュータやネットワークなど情報科学全般の基礎知識を学ぶ</p> <p>【概要】 コンピュータ（ハードウェア、ソフトウェア、周辺機器）やネットワークの仕組みを知り、現代社会においてどのような役割があり、どのような問題点があるかを知る。結果として、効果的かつ適切なIT活用が可能となり、トラブル解決もできるようになる。また、ネットワークを安全に使うためのルール、マナーを学ぶ。また、授業の3分の1程度の時間を使い、ITに関する学生からの質問に対する解説をおこなう。</p> <p>【到達目標】 ・初心者向け情報関連雑誌を80%以上理解できる ・初心者に対して、パソコンやネットワークの安全、便利な運用に関する簡単なアドバイスができる ・調子の悪いパソコンを直す</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布、Webでも公開</p> <p>(2) 初心者向け情報関連雑誌</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明</p> <p>第2回 ハードウェアとソフトウェア：ハードとソフトの違いと役割</p> <p>第3回 パソコンの中身：パソコン内部の部品とその役割</p> <p>第4回 単位と容量と速度：情報処理や通信に関わる単位と容量、速度</p> <p>第5回 インターネットの仕組み：インターネットとネットワークの仕組み</p> <p>第6回 電子メールの使い方：電子メールの仕組みと正しい使用法</p> <p>第7回 ITセキュリティ：マルウェアとセキュリティ対策</p> <p>第8回 インターフェイス：インターフェイスの種類とドライバソフトの使い方</p> <p>第9回 周辺機器1：モニタ、光学ドライブなど周辺機器の役割、仕組み</p> <p>第10回 周辺機器2：プリンタ、ハブ、ルータなど周辺機器の役割、仕組み</p> <p>第11回 クラウド、ビッグデータ、IoT：新たなインターネットのトレンドと今後の展開</p> <p>第12回 スペックの見方：パソコン、周辺機器のスペック（仕様）の見方</p> <p>第13回 ソフトの分類：ソフトウェアの分類と正しい使用法</p> <p>第14回 インターネットの国際比較：普及率、使用法と地域、国の情勢</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	通常のレポート2回分が80%、出席・授業中のショートレポートが20%			

授業科目	文書作成実習・経済		担当者	永仮ゆかり
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>「Microsoft Word」を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得</p> <p>【概要】</p> <p>「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商PC検定（文書作成）対策を行い、資格取得を目指す。</p> <p>【到達目標】</p> <p>実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商PC検定文書作成3級合格レベルの技能の習得）</p> <p>*後期から履修する場合は、前期「情報リテラシーⅠ」授業内容程度の技能を習得していることを前提とする</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) プリント</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 前期の復習 : 概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成）</p> <p>第2回 検定対策（3級） : 社外文書の作成（あいさつ状）、知識問題（共通分野）</p> <p>第3回 検定対策（3級） : 課題文書作成（表を利用した文書の作成）、知識問題（共通分野）</p> <p>第4回 検定対策（3級） : 図形を利用した文書の作成、知識問題（共通分野）</p> <p>第5回 検定対策（3級） : 企画書の作成（計算式を含む文書）、知識問題（共通分野）</p> <p>第6回 検定対策（3級） : 詫言状の作成（図形を含む文書）、知識問題（共通分野）</p> <p>第7回 検定対策（3級） : 課題文書作成（文書作成3級実技練習問題）、知識問題（共通分野）</p> <p>第8回 検定対策（3級） : 文書作成3級検定模擬問題演習、知識問題（共通分野）</p> <p>第9回 検定対策（3級） : 文書作成3級検定模擬問題演習</p> <p>第10回 Excelデータの利用 : Excelデータ（表、グラフ）の文書への取り込み、差し込み印刷の設定</p> <p>第11回 文書の編集 : いろいろな応用機能（段組み、タブ、セクション区切りの挿入など）</p> <p>第12回 報告書の作成 : 課題文書作成（Excelデータ・テキストファイルの利用、書式のコピーなど）</p> <p>第13回 議事録の作成 : 議事録の作成（テンプレートの利用、スタイルの設定、セクション区切りなど）</p> <p>第14回 稟議書の作成 : 稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、表の編集など）</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	知識問題の予習・復習、「Microsoft Word」操作の復習など適宜指示			
成績評価の方法	期末試験（知識科目20%+実技科目50%）+授業ごとに実施する課題（30%）			

(注) 経済専攻と経営情報専攻とは、別クラス

授業科目	文書作成実習・経情		担当者	永反ゆかり
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 「Microsoft Word」を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得</p> <p>【概要】 「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商PC検定（文書作成）対策を行い、資格取得を目指す。</p> <p>【到達目標】 実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商PC検定文書作成3級合格レベルの技能の習得） *後期から履修する場合は、前期「情報リテラシーⅠ」授業内容程度の技能を習得していることを前提とする</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) プリント</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 前期の復習 : 概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成）</p> <p>第2回 検定対策（3級） : 社外文書の作成（あいさつ状）、知識問題（共通分野）</p> <p>第3回 検定対策（3級） : 課題文書作成（表を利用した文書の作成）、知識問題（共通分野）</p> <p>第4回 検定対策（3級） : 図形を利用した文書の作成、知識問題（共通分野）</p> <p>第5回 検定対策（3級） : 企画書の作成（計算式を含む文書）、知識問題（共通分野）</p> <p>第6回 検定対策（3級） : 詫ひ状の作成（図形を含む文書）、知識問題（共通分野）</p> <p>第7回 検定対策（3級） : 課題文書作成（文書作成3級実技練習問題）、知識問題（共通分野）</p> <p>第8回 検定対策（3級） : 文書作成3級検定模擬問題演習、知識問題（共通分野）</p> <p>第9回 検定対策（3級） : 文書作成3級検定模擬問題演習</p> <p>第10回 Excelデータの利用 : Excelデータ（表、グラフ）の文書への取り込み、差し込み印刷の設定</p> <p>第11回 文書の編集 : いろいろな応用機能（段組み、タブ、セクション区切りの挿入など）</p> <p>第12回 報告書の作成 : 課題文書作成（Excelデータ・テキストファイルの利用、書式のコピーなど）</p> <p>第13回 議事録の作成 : 議事録の作成（テンプレートの利用、スタイルの設定、セクション区切りなど）</p> <p>第14回 稟議書の作成 : 稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、表の編集など）</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習（予習・復習）	知識問題の予習・復習、「Microsoft Word」操作の復習など適宜指示			
成績評価の方法	期末試験（知識科目20%+実技科目50%）+授業ごとに実施する課題（30%）			

授業科目	統計学		担当者	倉重賢治
	[履修年次]	不問	授業外対応	適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 基本的な統計解析を学ぶ</p> <p>【概要】 現在、情報技術を有効に活用してデータ収集を行い、そのデータの分布や性質を明らかにすることが重要視されている。この講義では、そのためのツールとしての基本的な統計解析を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ・基本的なデータ処理を行う ・相関関係について理解する ・検定について理解する</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 木下栄蔵、『入門統計解析』、講談社サイエンティフィク</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 序論：統計学とは</p> <p>第2回 データの基本処理：平均値、度数分布</p> <p>第3回 データの基本処理：分散、標準偏差</p> <p>第4回 データの基本処理：標準正規分布</p> <p>第5回 データの基本処理：正規分布と偏差値</p> <p>第6回 データの基本処理：確率分布</p> <p>第7回 統計解析：相関係数</p> <p>第8回 統計解析：回帰直線</p> <p>第9回 統計解析：順位相関</p> <p>第10回 統計解析：カイ2乗検定</p> <p>第11回 統計解析：平均値の推定</p> <p>第12回 統計解析：平均値の検定</p> <p>第13回 統計解析：分散分析</p> <p>第14回 統計解析：エクセルを用いた統計解析</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習（予習・復習）	適宜指示			
成績評価の方法	期末試験（100%）			

授業科目	応用文書処理	担当者	岡村 俊彦
	[履修年次] 2年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期] 前期 [単位] 1単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複数のアプリケーションを有機的に活用しながら、ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ</p> <p>【概要】1) 自己紹介文書作成：ワープロソフトを核に、グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する 2) ホームページ作成：自分なりの大学のホームページを作成し、公開する。 3) 提案書作成：インターネット検索と表計算ソフトを使い、架空の提案書を作成する。</p> <p>【到達目標】・初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる ・わかりやすいドキュメントを作成する ・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布、Webでも公開 (2)		
授業スケジュール	第1回 概要説明 第2回 自己紹介文書作成1：ワープロを使ったベース文書の作成 第3回 自己紹介文書作成2：表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合 第4回 自己紹介文書作成3：写真、図の取り扱いとベース文書の結合 第5回 自己紹介文書作成4：仕上げ。印刷設定のコツ 第6回 ホームページ作成1：HTML 概念の復習。USB メモリへのソフトの導入 第7回 ホームページ作成2：課題設定とページ作成 第8回 ホームページ作成3：資料収集とページ作成 第9回 ホームページ作成4：ページ公開 第10回 提案書作成1：インターネットによる費用情報検索 第11回 提案書作成2：表計算ソフトを使った自動計算書 第12回 提案書作成3：プレゼン資料の作成 第13回 提案書作成4：仕上げ、データ送信のコツ 第14回 提案書作成5：プレゼンと評価 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	レポート(3つの課題を総合的に評価)		

授業科目	PCデータ活用(経済)	担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年	授業外対応	授業の前後に適宜対応します
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用</p> <p>【概要】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 表計算ソフト「Microsoft Excel」の基本操作を確実に習得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 実教出版編修部 30時間でマスターExcel2013 実教出版株式会社 (2)		
授業スケジュール	第1回 習熟度確認アンケート Excelの起動と画面の確認 文字入力の確認 第2回 簡単な表作成とグラフ化：Excelの基本的な流れを確認 第3回 編集機能を活用した見やすい表の作成：行・列の操作・計算式や関数(合計・平均)の活用 第4回 編集機能を活用した見やすい表の作成：体裁の整え方・罫線 第5回 データ処理：関数の利用(カウント・端数処理など) 第6回 データ処理：関数の利用(条件の判定・論理関数など) 第7回 データ処理：関数の利用(順位づけ・VLOOKUPなど) 第8回 各関数を利用した実習問題 第9回 棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定(軸ラベル・データラベル・目盛りなど) 第10回 円グラフ・3-Dグラフの作成とさまざまな設定(データ範囲の変更・系列の書式など) 第11回 複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成(系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など) 第12回 データベース入門：データベース作成上の各機能 第13回 データの集計(並べ替え・抽出(ほか)) 第14回 データの集計(ピボットテーブル) 第15回 前期のまとめ		
授業外学習(予習・復習)	各回の授業後、テキスト内の練習問題を復習し、次回授業時に提出もしくは確認を行う。		
成績評価の方法	期末試験(60%) + 授業で課せられる課題や宿題の提出状況(40%)		

授業科目	PCデータ活用（経営情報）		担当者	口脇淳子				
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	授業の前後に適宜対応します				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用</p> <p>【概要】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 表計算ソフト「Microsoft Excel」の基本操作を確実に習得する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編集部 30時間でマスターExcel2013 実教出版株式会社</p> <p>(2)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 習熟度確認アンケート Excelの起動と画面の確認 文字入力の確認</p> <p>第2回 簡単な表作成とグラフ化：Excelの基本的な流れを確認</p> <p>第3回 編集機能を活用した見やすい表の作成：行・列の操作・計算式や関数（合計・平均）の活用</p> <p>第4回 編集機能を活用した見やすい表の作成：体裁の整え方・罫線</p> <p>第5回 データ処理：関数の利用（カウント・端数処理など）</p> <p>第6回 データ処理：関数の利用（条件の判定・論理関数など）</p> <p>第7回 データ処理：関数の利用（順位づけ・VLOOKUPなど）</p> <p>第8回 各関数を利用した実習問題</p> <p>第9回 棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定（軸ラベル・データラベル・目盛りなど）</p> <p>第10回 円グラフ・3-Dグラフの作成とさまざまな設定（データ範囲の変更・系列の書式など）</p> <p>第11回 複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成（系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など）</p> <p>第12回 データベース入門：データベース作成上の各機能</p> <p>第13回 データの集計（並べ替え・抽出 ほか）</p> <p>第14回 データの集計（ピボットテーブル）</p> <p>第15回 前期のまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	各回の授業後、テキスト内の練習問題を復習し、次回授業時に提出もしくは確認を行う。							
成績評価の方法	期末試験（60%）＋授業で課せられる課題や宿題の提出状況（40%）							

授業科目	PCデータ活用実習（経済）		担当者	口脇淳子				
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	授業の前後に適宜対応します				
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得</p> <p>【概要】 前期習得した内容が確実に活用できるよう、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。</p> <p>【到達目標】 知識と技術の習得を日商PC検定試験（データ活用）の3級資格取得で確認</p> <p>☆ 後期から履修する場合は、前期授業内容程度の技術を習得していることを前提とする</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編集部 30時間でマスターExcel2013 実教出版株式会社</p> <p>(2) プリント</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 前期授業の復習 知識科目問題</p> <p>第2回 検定対策問題：構成比を求める問題 知識科目問題</p> <p>第3回 検定対策問題：データの追加入力がある問題 知識科目問題</p> <p>第4回 検定対策問題：ABC分析 知識科目問題</p> <p>第5回 検定対策問題：簿記の要素を含んだ問題 知識科目問題</p> <p>第6回 検定対策問題：利益率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第7回 検定対策問題：データの集計を取る問題 知識科目問題</p> <p>第8回 検定対策問題：達成率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第9回 検定対策問題小テスト（実技問題・知識科目問題）</p> <p>第10回 検定対策問題：伸び率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第11回 検定対策問題：データを参照する問題 知識科目問題</p> <p>第12回 検定対策問題：集計データから請求書を作成する問題 知識科目問題</p> <p>第13回 検定対策問題：別シートのデータから計算式を設定する問題 知識科目問題</p> <p>第14回 検定対策問題：集計データをグループ化する問題 知識科目問題</p> <p>第15回 後期のまとめ 知識科目問題</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業後、同じ問題を、時間を計って解いてみる							
成績評価の方法	期末試験（60%）＋小テスト（20%）＋授業で課せられる課題や宿題の提出状況（20%）							

授業科目	PCデータ活用実習 (経営情報)		担当者	口脇淳子
	[履修年次] 1年		授業外対応	授業の前後に適宜対応します
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得</p> <p>【概要】 前期習得した内容が確実に活用できるよう、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。</p> <p>【到達目標】 知識と技術の習得を日商PC検定試験（データ活用）の3級資格取得で確認</p> <p>☆ 後期から履修する場合は、前期授業内容程度の技術を習得していることを前提とする</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編修部 30時間でマスターExcel2013 実教出版株式会社</p> <p>(2) プリント</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 前期授業の復習 知識科目問題</p> <p>第2回 検定対策問題：構成比を求める問題 知識科目問題</p> <p>第3回 検定対策問題：データの追加入力がある問題 知識科目問題</p> <p>第4回 検定対策問題：ABC分析 知識科目問題</p> <p>第5回 検定対策問題：簿記の要素を含んだ問題 知識科目問題</p> <p>第6回 検定対策問題：利益率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第7回 検定対策問題：データの集計を取る問題 知識科目問題</p> <p>第8回 検定対策問題：達成率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第9回 検定対策問題小テスト（実技問題・知識科目問題）</p> <p>第10回 検定対策問題：伸び率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第11回 検定対策問題：データを参照する問題 知識科目問題</p> <p>第12回 検定対策問題：集計データから請求書を作成する問題 知識科目問題</p> <p>第13回 検定対策問題：別シートのデータから計算式を設定する問題 知識科目問題</p> <p>第14回 検定対策問題：集計データをグループ化する問題 知識科目問題</p> <p>第15回 後期のまとめ 知識科目問題</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業後、同じ問題を、時間を計って解いてみる			
成績評価の方法	期末試験 (60%) + 小テスト (20%) + 授業で課せられる課題や宿題の提出状況 (20%)			

授業科目	PCアプリケーション実習		担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次] 1年		授業外対応	授業前後。メールでの質問にも随時対応。
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学習やビジネスの場で使用されている様々なアプリケーション・ソフトウェアを実践的に使いこなせるようにする。</p> <p>【概要】 本実習は前期の情報リテラシーII (E) (F) の応用となるので、基本的に前期のPC経験度別クラス編成を継続する。情報リテラシーIIで扱えなかった各種ソフトウェア（プレゼンテーション、PDFファイル、OCR、動画編集、HP作成など）の基本的な使い方を学習する。また、習いたいソフトウェアについて事前アンケートを取ることで、これらにできるだけ対応したいと考えている。</p> <p>【到達目標】 上記ソフトウェアの基本的使い方に習熟し、自ら実践的に応用できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 随時、資料ファイルを配信。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 授業前アンケート（取り組みたいアプリケーション・ソフトウェアの希望など）と前期授業の復習</p> <p>第2回 プレゼンテーション・ソフトウェア PowerPoint (1)</p> <p>第3回 プレゼンテーション・ソフトウェア PowerPoint (2)</p> <p>第4回 動画ファイルの扱い方…ムービーメーカーの使い方</p> <p>第5回 動画ファイルの扱い方…ムービーの撮影</p> <p>第6回 動画ファイルの扱い方…ムービーの編集</p> <p>第7回 PDFファイルの扱い方…OCRの利用</p> <p>第8回 PDFファイル（ソフトウェア Adobe Acrobat）の扱い方…文書ファイルの統合</p> <p>第9回 PDFファイル（ソフトウェア Adobe Acrobat）の扱い方…セキュリティ設定</p> <p>第10回 ホームページの作成 (1)</p> <p>第11回 ホームページの作成 (2)</p> <p>第12回 ホームページの作成 (3)</p> <p>第13回 Windows パソコンの知っておくと便利な機能</p> <p>第14回 アンケートにより学生が希望したソフトウェアへの対応</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	3回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合、空き時間に学校で取り組むこと。			
成績評価の方法	3回の課題 (60%) と実技試験 (40%) の総合評価			

11 經濟專攻專門科目

授業科目	日本経済論		担当者	船津 潤	
	[履修年次]	1年, 2年いずれでも履修可	授業外対応	随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)	
	[学期]	前期	[単位]	2	
			[必修/選択]	選択	
				[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本経済</p> <p>【概要】明治から現在までの日本の産業政策と構造改革の下での福祉改革を中心に講義します(下記、授業スケジュールを参照)。</p> <p>【到達目標】日本経済の特質と問題点、そして日本経済が過去や国際経済とどのようにつながっているのかについて理解を深め、日本経済や経済政策について主体的に考察できるようになることを目標とします。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 田代洋一・萩原伸次郎・金澤史男編『現代の経済政策 第3版』有斐閣</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明</p> <p>第2回 日本の産業政策の歴史 戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等</p> <p>第3回 日本の産業政策の歴史 戦前(2)：明治維新の意義、その後の産業構造の変化等</p> <p>第4回 敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況、傾斜生産方式、1950年代前半の産業政策等</p> <p>第5回 高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等</p> <p>第6回 日本の産業政策と行政指導：勸告操短、企業の反発等</p> <p>第7回 開放体制への移行：IMF8条国への移行、産業再編等</p> <p>第8回 1970年代の日本経済：2度のオイル・ショック、構造不況業種への対応、知識集約化・高付加価値化への動き等</p> <p>第9回 企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴・グループ内の結び付き、現在の状況等</p> <p>第10回 1980年代以降の日本経済：対米貿易摩擦、日米構造協議等</p> <p>第11回 現在の産業政策：産業競争力強化法、現在の産業政策の特徴等</p> <p>第12回 グローバル化と構造改革への動き：プラザ合意と国際協調、バブル崩壊後の動向等</p> <p>第13回 構造改革：構造改革の特徴・本質等</p> <p>第14回 構造改革下の福祉改革：国民負担率に対する認識、構造改革下の福祉改革の内容と特徴等</p> <p>第15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等</p>				
授業外学習(予習・復習)	特に復習を重視してください。また、普段からニュース等に講義と関連することはないか注目することが有効です。				
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。				

授業科目	財政学		担当者	船津 潤	
	[履修年次]	1年, 2年いずれでも履修可	授業外対応	随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)	
	[学期]	後期	[単位]	2	
			[必修/選択]	選択	
				[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財政・財政学</p> <p>【概要】財政に関する基本的な概念や理論、日本の財政の制度と実態、それが抱える課題に関する内容を中心に、グローバル化の影響等についても講義します(下記授業スケジュール参照)。</p> <p>【到達目標】上記の概要に示した内容に関する理解を深め、受講者が財政に関して自分自身で主体的に考察し、判断できるようになることを目標とします。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 金澤史男編『財政学』有斐閣</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明</p> <p>第2回 財政とは何か：財政の定義、政府に対する評価の揺れ、市場の失敗、政府の機能等</p> <p>第3回 予算(1)：定義、役割、予算原則等</p> <p>第4回 予算(2)：日本の制度、その抱えている課題、改革の方向等</p> <p>第5回 経費(1)：定義、分析の目的、経費の分類等</p> <p>第6回 経費(2)：経費膨張の法則、転位効果、小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等</p> <p>第7回 租税(1)：定義、租税の根拠、代表的な租税原則等</p> <p>第8回 租税(2)：公平の基準、望ましい税制とは等</p> <p>第9回 公債(1)：定義、民間債務との対比、租税との対比、公債の種類等</p> <p>第10回 公債(2)：日本の国債発行における原則、制度、「ギリシャよりひどい」は本当か等</p> <p>第11回 財政投融资(1)：定義、運用対象、批判等</p> <p>第12回 財政投融资(2)：2001年度の改革、今後の展望等</p> <p>第13回 財政の国際化：国際公共財、グローバル化と国際的財政移転等</p> <p>第14回 財政改革を考える：社会の変化と財政、本当の財政危機とは、財政改革で求められる視点等</p> <p>第15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等</p>				
授業外学習(予習・復習)	特に復習を重視してください。また、普段からニュース等に講義と関連することはないか注目することが有効です。				
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。				

授業科目	農業経済論		担当者	岡田 登	
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】表面化している食料・農業・農村の問題の背景を理解する。</p> <p>【概要】世界農業の形成過程及び日本農業の発展過程を把握した上で、農業地域、組織、流通等の仕組みを学び、現在起こっている農業経済現象とその原因を理解する。</p> <p>【到達目標】食料・農業・農村の問題の背景を理解し、日本農業の今後の展望と農業のあり方を説明できる能力を身につける。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス、講義の目標、表面化している食料・農業・農村の問題提起</p> <p>第 2 回 農業の基本的知識</p> <p>第 3 回 世界農業の形成過程（農業の起源、農業形態の発展、雑草対策、植民地政策、大規模穀物生産）</p> <p>第 4 回 日本農業の発展過程（1）（稲作の普及と近郊農業、明治期から戦前までの展開）</p> <p>第 5 回 日本農業の発展過程（2）（経済成長期、農業基本法と産地形成、食糧管理制度と農地法）</p> <p>第 6 回 日本農業の発展過程（3）（食糧管理法から食糧法、米の生産調整、農地法改正、食料・農業・農村基本法への転換）</p> <p>第 7 回 農業協同組合と農産物の市場流通</p> <p>第 8 回 農業保護政策と農産物貿易</p> <p>第 9 回 フードレジーム、日本における農産物自由化</p> <p>第 10 回 フードシステムの形成と食品関連産業の台頭</p> <p>第 11 回 農地法改正と農業法人化、農業基盤強化促進法</p> <p>第 12 回 農産物の高付加価値化とブランド化（有機農産物、伝統野菜、地理的表示、六次産業化、農商工連携）</p> <p>第 13 回 農村空間の商品化（農村景観、地産地消、観光農園、農産物直売所）</p> <p>第 14 回 都市住民の農業（市民農園、体験農園、自家菜園）</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	関連文献等も使用して復習をし、次回の講義を受けること				
成績評価の方法	授業時に実施するレポート（40%）＋期末試験（60%）				

授業科目	金融論		担当者	内田昌廣	
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	いつでも対応しますので、メールで連絡してください。	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>金融の仕組みに関する基礎知識を習得するとともに、金融が経済に及ぼす影響など幅広い視野を養います。</p> <p>【概要】金融の役割や金融機関が果たしている機能から、金融業界が直面している課題や金融危機の原因や影響まで幅広いテーマを採り上げます。金融と経済の関わりを幅広く学習し、社会人として必要な金融リテラシーの基礎を身につけます。</p> <p>【到達目標】</p> <p>金融の基本的な知識を習得し、金融関連の情報に関心を持ち正しく理解できるようになること。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 川西論・山崎福寿『金融のエッセンス』有斐閣 杉山敏啓編『実務入門 改訂版 金融の基本教科書』日本能率マネジメントセンター</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス： 講義の目的・進め方 序論：お金とは何か？ 金融とは何か？</p> <p>第 2 回 銀行の役割(1)： 決済の仕組み（内国為替、手形、外国為替）</p> <p>第 3 回 銀行の役割(2)： 間接金融の仕組み、預金金利・貸出金利の決定方法、銀行の信用創造機能</p> <p>第 4 回 銀行の役割(3)： 貸出形態、貸出審査、信用補完（担保・保証）</p> <p>第 5 回 銀行の役割(4)： 新しい貸出手法（動産担保融資、知的財産担保融資、リバースモーゲージ・ローン）</p> <p>第 6 回 銀行の役割(5)： 地域金融機関の取り組み（地域密着型金融）</p> <p>第 7 回 銀行の役割(6)： 金融機関に対する規制、預金者保護のための制度</p> <p>第 8 回 証券会社の役割(1)： 直接金融の仕組み、株式の仕組み、株式市場の仕組み、株式上場の意義</p> <p>第 9 回 証券会社の役割(2)： 債券の仕組み、証券会社の業務、証券市場に対する規制、投資家保護のための制度</p> <p>第 10 回 保険会社の役割(1)： 保険の仕組み、生命保険と損害保険</p> <p>第 11 回 保険会社の役割(2)： 保険会社の経営、保険会社に対する規制、契約者保護のための制度</p> <p>第 12 回 日本銀行の金融政策： 日本銀行の金融調節、ゼロ金利政策、量的緩和政策</p> <p>第 13 回 金融危機から学ぶこと： 日本のバブル崩壊、米国発の世界金融危機、欧州金融危機</p> <p>第 14 回 ソーシャル・ファイナンス： 金融の仕組みを活用して、社会的課題を解決する方法</p> <p>第 15 回 まとめ（授業評価アンケートの実施、期末試験に関する質疑応答）</p>				
授業外学習(予習・復習)	復習を十分行ってください。金融に関する情報・論説に触れ、最新の動きについて知識を広げてください。				
成績評価の方法	筆記試験（100%）				

授業科目	経済学史		担当者	近野 登
	[履修年次]	1年, 2年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
				[授業形態]
				講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経済についての理論や思想を調べる。</p> <p>【概要】経済の理論化(経済学)がどのような状況下で始まり、時代により課された問題をどのように理解し、解いたかを、幾つかの事例(経済諸理論)の検討を通じて知る。そして経済学についての多様な見方とその発展を示す。</p> <p>【到達目標】経済学への多様な見方を知り、身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業の進行に合わせて、プリントを配布します。</p> <p>(2) 必要に応じて、授業のなかで示します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 I はじめに 授業の概要の説明</p> <p>第2回 II 前史としての重商主義 (1) 絶対王政の下での資本主義の発生</p> <p>第3回 II 前史としての重商主義 (2) 重商主義理論とは</p> <p>第4回 III 経済学の成立(アダム・スミス) (1) ホモエコノミクスとは</p> <p>第5回 III 経済学の成立(アダム・スミス) (2) スミスの分業・交換論</p> <p>第6回 III 経済学の成立(アダム・スミス) (3) スミスの所得・再生産論</p> <p>第7回 III 経済学の成立(アダム・スミス) (4) スミスの重商主義批判</p> <p>第8回 IV 経済学の修正と発展(リカードとマルサス) (1) ナポレオン戦争後の不況への両者の対応</p> <p>第9回 IV 経済学の修正と発展(リカードとマルサス) (2) マルサスの経済理論</p> <p>第10回 IV 経済学の修正と発展(リカードとマルサス) (3) リカードの経済理論</p> <p>第11回 V 経済学批判(カール・マルクスの「経済学批判」) (1) マルクスの方法</p> <p>第12回 V 経済学批判(カール・マルクスの「経済学批判」) (2) マルクスの交換過程論</p> <p>第13回 V 経済学批判(カール・マルクスの「経済学批判」) (3) マルクスの生産過程論</p> <p>第14回 V 経済学批判(カール・マルクスの「経済学批判」) (4) マルクスの蓄積過程論</p> <p>第15回 補論 経済学の再構築へ(ジョン・メイナード・ケインズ)</p>			
授業外学習(予習・復習)	必要に応じて、指示します。			
成績評価の方法	期末の筆記試験(70%) + 平常点(30%)。平常点については最初の授業で説明します。			

授業科目	経済学特講 I		担当者	内田昌廣
	[履修年次]	2年次が望ましい	授業外対応	いつでも対応しますので、メール連絡してください。
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
				[授業形態]
				講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】証券取引の実務を学びます。</p> <p>【概要】証券取引に携わる証券会社や金融機関の職員に必要とされる実務知識を習得します。</p> <p>【到達目標】証券外務員二種資格試験に合格できる程度の知識を習得すること。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) ファイナンシャルバンクインスティテュート(株)『うかる!証券外務員二種 最速テキスト 2017-2018年版』日本経済新聞出版 プリント</p> <p>(2) なし</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス: 講義の目的・進め方 序論: 間接金融と直接金融</p> <p>第2回 証券の仕組み: 株式の仕組み, 証券市場</p> <p>第3回 株式会社法: 株主の責任と権利, 株式会社の機関</p> <p>第4回 財務諸表と企業分析(1): 財務諸表の仕組み, 収益性分析, 安全性分析</p> <p>第5回 財務諸表と企業分析(2): 資本効率性分析, 成長性分析, 損益分岐点分析</p> <p>第6回 株式業務: 証券取引所での売買, 店頭取引, 株式の上場, 証券投資計算</p> <p>第7回 証券売買のルール(1): 証券取引所のルール</p> <p>第8回 証券売買のルール(2): 証券業協会のルール</p> <p>第9回 証券売買のルール(3): 金融商品取引法のルール</p> <p>第10回 債券業務(1): 債券の仕組み, 債券売買手法, 利回り計算</p> <p>第11回 債券業務(2): 転換社債型新株予約権付社債</p> <p>第12回 投資信託業務: 投資信託の仕組み, 委託者指図型投資信託のルール</p> <p>第13回 小テスト</p> <p>第14回 証券税制: 利子所得・配当所得・譲渡所得に関する課税, 相続・贈与に対する課税</p> <p>第15回 小テストの答案返却, 授業評価アンケートの実施</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習を十分行ってください。			
成績評価の方法	小テスト(100%)			

授業科目	経済学特講Ⅱ	担当者	山口 祐司
	[履修年次] [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 現在のアメリカは3億人を超える人口で、1年間に2000兆円規模の富を生み出す超大国です。20世紀の特に後半以降、アメリカは世界一の経済力と軍事力を背景にして、アメリカ主導の国際秩序を構築してきました。しかし20世紀末からは中国をはじめとする新興国の台頭も著しく、世界は「多極化」ないしは「無極化」と呼ばれる時代になりつつあります。この授業では、歴史的な視野をもって、科学・技術や文化、国際的な政治経済関係といった視点からアメリカ経済の実像を学んでいきます。</p> <p>【概要】 上にも書いたように、現在の国際的な政治経済関係において、アメリカの圧倒的優位は薄れつつあります。それでもなおアメリカ経済から学ぶべきことは多くあります（第1回）。まずはアメリカ経済が戦後圧倒的優位を築く基礎として、20世紀前半までに登場したシステムの革新をみていきます（第2～4回）。続いて「バクス・アメリカーナ」と呼ばれる、アメリカ主導による資本主義経済社会の繁栄についてみていきます（第5～7回）。1970年代ころからこの構造は転換を迫られます。そこで新たに主役の座についた政治・経済・社会に関する思想が「新自由主義」です。新自由主義に基づくアメリカ経済の革新を第8～11回で扱います。しかし新自由主義的な経済システムは、2008年のリーマンショックを契機に破たんの様相を見せ始めています（第12～13回）。最後に第14回において、それでもアメリカ経済に残る革新の芽は何か、という観点から今後のアメリカ経済のゆくえを探っていきます。</p> <p>【到達目標】 アメリカ経済の歴史から特質を学ぶこと。世界経済との関係を意識し、アメリカ経済の相対的位置を把握すること。良い意味でも悪い意味でも資本主義経済の最先端をいくアメリカに学ぶことで、日本を含む世界が直面する経済・社会の問題に取り組む力をつけること。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 河村哲二(2003)『現代アメリカ経済』有斐閣アルマ。 (2) 講義時に提示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、なぜいまアメリカ経済を学ぶか 第2回 戦後アメリカ経済の背景①大量生産体制 第3回 戦後アメリカ経済の背景②大恐慌とニューディール 第4回 戦後アメリカ経済の背景③第二次世界大戦と戦時経済システム 第5回 バクス・アメリカーナ①第二次世界大戦後のバクス・アメリカーナの基本構造の確立 第6回 バクス・アメリカーナ②繁栄の1950-60年代とバクス・アメリカーナ 第7回 バクス・アメリカーナ③1970年代におけるバクス・アメリカーナの限界 第8回 新自由主義の興隆①1980年代の「レーガノミクス」と金融的發展 第9回 新自由主義の興隆②戦後企業体制の転換 第10回 新自由主義の興隆③1990年代の「ニューエコノミー」 第11回 新自由主義の興隆④IT・バイオを中心とした技術革新 第12回 新自由主義の帰結①リーマンショック 第13回 新自由主義の帰結②格差問題 第14回 これからのアメリカ経済のゆくえ 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。		
成績評価の方法	筆記試験(60%)、授業ごとの小論文(40%)		

授業科目	法学特講	担当者	疋田京子
	[履修年次] 1,2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義	授業外対応	コミュニケーション・ペーパーを使用
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ジェンダーと法</p> <p>性と性別にまつわる様々な法的な問題を知る。どんな歴史があつて今のあなたがいるのか。</p> <p>【概要】常識とされている性別規範と格闘してきた先人たちの名著を通し、ジェンダーの視点から法とは何かを考える。毎回一冊の古典を紹介し、彼女(彼)らにとって立ちはだかつていた「法の壁」について考察する</p> <p>【到達目標】個人的に感じている「生き難さ」と法とを関連付けて意識化してみる</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント配布</p> <p>(2) 江原由美子・金井淑子『フェミニズムの名著50』平凡社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：平塚たいとう・与謝野晶子の母性保護論争</p> <p>第2回 戦後女性のバイブル：S・de・ボーヴォワール『第二の性』</p> <p>第3回 自然なものはなにもない：M・ミード『男性と女性』</p> <p>第4回 畏に陥った女性の状況：B・フリーダ『新しい女性の創造』</p> <p>第5回 70年代アメリカのウーマンリブ運動のバイブル：K・ミレット『性の政治学』</p> <p>第6回 日本のウーマンリブ運動のバイブル：田中美津『いのちの女たちへ』</p> <p>第7回 70年代イタリア・フェミニズムのスローガン：M・ダラコスタ『家事労働に賃金を』</p> <p>第8回 アラブ・イスラーム世界の女性たち：N・E・サアダーウィー『イヴの隠れた顔』</p> <p>第9回 女という商品の交換から成立する社会：L・イリガライ『ひとつではない女の性』</p> <p>第10回 女性虐待にまつわる神話と現実：レノア・E・ウォーカー『バタードウーマン』</p> <p>第11回 文学部と法学部の男女比率の格差の疑問に答える：デール・スペンター『ことばは男が支配する』</p> <p>第12回 正義の倫理に「ケアの倫理」は対抗できるか：C・ギリガン『もうひとつの声』</p> <p>第13回 自然環境危機と女性の貧困はつながっている：M・ミース/V・シヴァ『エコフェミニズム』</p> <p>第14回 異性愛と性の二元論：ジュディス・バトラー『ジェンダー・トラブル』</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	授業ごとの小レポート		

授業科目	簿記論II	担当者	宗田 健一
	[履修年次] 1,2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義	授業外対応	適宜対応(要予約：メールが望ましい)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記と財務諸表</p> <p>【概要】簿記論Iなどで簿記一巡の手続きを学習した学生を対象として、諸取引の処理と決算に関して学習します。</p> <p>【到達目標】複式簿記の記録・計算の知識と技術の修得により、最終的に、財務諸表(損益計算書・貸借対照表)の作成が行えるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部ほか『新検定 簿記講義 3級 商業簿記』(平成29年度版, 中央経済社。・・・簿記論Iと共通 渡部ほか『新検定 簿記ワークブック 3級 商業簿記』, 中央経済社。・・・簿記論Iと共通</p> <p>(2) 新井清光・川村義則『新版 現代会計学』, 中央経済社, 2014年。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 現金預金取引：テキスト第7章</p> <p>第2回 商品売買(3分法)：テキスト第8章</p> <p>第3回 商品売買(3分法)：テキスト第8章</p> <p>第4回 売掛金と買掛金：テキスト第9章</p> <p>第5回 その他の債権と債務：テキスト第10章</p> <p>第6回 手形：テキスト第11章</p> <p>第7回 有価証券：テキスト第12章</p> <p>第8回 固定資産：第13章</p> <p>第9回 資本金と引出金：第14章</p> <p>第10回 収益と費用：第15章</p> <p>第11回 消耗品：第15章, 税金：第16章</p> <p>第12回 帳簿と伝票：第17章</p> <p>第13回 決算と財務諸表(その2)：第18章</p> <p>第14回 決算と財務諸表(その2)：第18章</p> <p>第15回 まとめ：試験範囲の提示, 成績評価方法の説明, 質疑応答, 授業評価アンケートの実施</p>		
授業外学習(予習・復習)	毎回、予習、復習を提示します。		
成績評価の方法	小テスト・予習・復習の状況(20%)、および筆記試験(80%)で評価します		

(注) 2017年度の簿記論I, IIは、前期、後期に連続して開講されます。簿記論Iを履修する学生は、後期に簿記論IIの履修登録を行うことをお勧めします。なお、受講生の学習進捗状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。

授業科目	国際経済論	担当者	野村 俊郎
	〔履修年次〕 1, 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義	授業外対応	研究室 (2号館3階) で対応、いつでもOK, 予約不要。
テーマ及び概要	<p>【テーマ】売れるモノ、儲かるものを企画するとはどういうことか～新興国で考える～</p> <p>【概要】新興国で世界一売れているトヨタ IMV は誰がどのように企画し設計したかを事例に考える。</p> <p>【到達目標】1か月の収入5万円の新興国で、1台500万円の車がバカ売れしている謎を解く。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 野村俊郎著『トヨタの新興国車 IMV』 文真堂</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 売れるモノ、儲かるモノの企画～iPhone と IMV を比較する～</p> <p>第2回 売れるモノの企画：消費者は自分の欲しいものを知っているか？</p> <p>第3回 消費者のニーズを把握して企画する：マーケットイン</p> <p>第4回 消費者の知らない消費者が欲しいものを提案する：プロダクトアウト</p> <p>第5回 月収5万円の暮らしとは？</p> <p>第6回 バカ売れする1台500万円のIMV</p> <p>第7回 トヨタの強さの秘密：CE制度</p> <p>第8回 CEとZ</p> <p>第9回 大成功したIMVの持続的イノベーション、停滞するiPhone</p> <p>第10回 追いつける新興国メーカー～自動車での失敗とスマホでの成～</p> <p>第11回 トヨタのカンパニー制の狙い～現場の活力を引き出す～</p> <p>第12回 新興国でも始まる安全規制、燃費規制</p> <p>第13回 中国、ブラジル、インドの未来</p> <p>第14回 トヨタは、アップルはどこへ行く？</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業では事実よりも見方、考え方に重点をおいて語ります。その見方、考え方を使って、いろいろ自分でも考えてみて下さい。		
成績評価の方法	筆記試験		

授業科目	アジア経済論	担当者	野村 俊郎
	〔履修年次〕 1, 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義	授業外対応	研究室 (2号館3階) で対応、いつでもOK, 予約不要。
テーマ及び概要	<p>【テーマ】タイ、インドネシア、インドのローカルニーズとは？</p> <p>【概要】アジアの大国、タイ、インドネシア、インドの人々のニーズを、自動車を事例として、経済の発展、度合、宗教、習慣などと関連させて考えます。</p> <p>【到達目標】グローバルなビジネスを成功させるうえで不可欠なローカルニーズの把握の仕方を学びます。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 野村俊郎著『トヨタの新興国車 IMV』 文真堂</p> <p>(2) 洋泉社ムック『トヨタ快進撃の秘密』</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 アジアは今</p> <p>第2回 アジアの大国：タイ、インド、インドネシアとIMV</p> <p>第3回 タイ：1. 小乗仏教の国</p> <p>第4回 タイ：2. 先進国に向かう国</p> <p>第5回 タイ：3. ピックアップトラックの聖地</p> <p>第6回 インド：1. ヒンズー教の国</p> <p>第7回 インド：2. 世界第2の大国の貧困</p> <p>第8回 インド：3. ローコストハッチバックの聖地</p> <p>第9回 インドネシア：1. イスラム教の国</p> <p>第10回 インドネシア：2. 多様性の中の統一</p> <p>第11回 インドネシア：3. ミニバンの聖地</p> <p>第12回 TPPとRCEP</p> <p>第13回 アジアにEUのような共同体は出来るか？</p> <p>第14回 アジア発グローバルへの道</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業では事実よりも見方、考え方に重点をおいて語ります。その見方、考え方を使って、いろいろ自分でも考えてみて下さい。		
成績評価の方法	筆記試験		

授業科目	国際関係論		担当者	福田忠弘
	[履修年次]	1, 2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史の変遷をたどる。</p> <p>【到達目標】国際社会の現在の諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的、方法</p> <p>第2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何か違うのか</p> <p>第3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化</p> <p>第4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦</p> <p>第5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1</p> <p>第6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2</p> <p>第7回 国際関係のなりたち4：朝鮮戦争とベトナム戦争</p> <p>第8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム</p> <p>第9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序</p> <p>第10回 国際社会における諸問題1：グローバリゼーションと貧困問題</p> <p>第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発</p> <p>第12回 国際社会における諸問題3：国境を越える諸問題</p> <p>第13回 国際社会における諸問題4：対テロ</p> <p>第14回 国際社会における諸問題5：グローバルガバナンス</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する			
成績評価の方法	試験(100%)によって評価する。			

授業科目	比較文化		担当者	小林朋子
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】お伽話で学ぶ比較文化</p> <p>【概要】お伽話の深層はすなわち文化の深層である。「赤ずきん」、「白雪姫」など、おなじみのお伽話には、ジェンダー、セクシュアリティ、政治、コロナリズムなど、ありとあらゆる「文化」の問題が凝縮されている。これらの問題は多様な文化が接触する現代社会を生きる我々の今日的な問題でもある。本講義はまず時代ごとに変遷する「赤ずきん」のテキストを比較対照することで、文化の諸問題を明るみに出す。さらにそれらのテキストを身近な日本文化に引き合わせることで、人類の文化に内在する普遍性について解説する。第14回目からは履修者の最終レポートの要旨を授業内で発表しディスカッションを行う。</p> <p>【到達目標】比較文化の方法を学ぶ。英語読解力を向上させる。他言語を話す人々の価値観を知る。情報的的確に調査する能力、またそれを発信する自己表現能力を向上させる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 原英一編著『お伽話による比較文化論』(松柏社刊、1994年)</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 「赤ずきん」(1) —ペローの「赤ずきん」</p> <p>第3回 「赤ずきん」(2) —赤いずきんが覆うものは何か</p> <p>第4回 「赤ずきん」(3) —ティークの「赤ずきんちゃんの生と死」</p> <p>第5回 「赤ずきん」(4) —ウーマン・リブと日本のフェミニズム(下田歌子『良妻と賢母』を中心に)</p> <p>第6回 「赤ずきん」(5) —グリム兄弟の「赤ぼうしちゃん」</p> <p>第7回 「赤ずきん」(6) —「金ずきん」と「緑ずきん」</p> <p>第8回 「赤ずきん」(7) —パロディ化の可能性(『日本沈没』を中心に)</p> <p>第9回 「赤ずきん」(8) —民衆の根源的なエネルギー(落語「たがや」を中心に)</p> <p>第10回 「赤ずきん」(9) —「おばあちゃんのお話」フォークロア研究と糞尿譚</p> <p>第11回 「白雪姫」—ジェンダーの寓話(精神分析学と分析心理学)</p> <p>第12回 英語文化の基底としてのマザーグース—翻訳の可能性(1)</p> <p>第13回 英語文化の基底としてのマザーグース—翻訳の可能性(2)</p> <p>第14回 レポート発表会</p> <p>第15回 レポート発表会とまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	授業への参加態度(40%)、小レポート(20%)、最終レポート(40%)			

授業科目	アジア事情	担当者	福田忠弘
	[履修年次] 1, 2年いずれも履修可 [学期] 前期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義	授業外対応	適宜対応
テーマ及び概要	<p>【テーマ】東アジア、東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。</p> <p>【概要】アジアは、地理、歴史、言語、文化、宗教、民族など、すべての面において多様である。本講義では、「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも、脱植民地化、国民国家建設など「共通性」について焦点をあてる。</p> <p>【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第2回 「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか</p> <p>第3回 歴史的形成1：植民地以前のアジア</p> <p>第4回 歴史的形成2：植民地のようす</p> <p>第5回 歴史的形成3：植民地からの独立</p> <p>第6回 歴史的形成4：脱植民地化、国民国家建設、開発</p> <p>第7回 歴史的形成5：冷戦下のアジア</p> <p>第8回 東南アジア1：インドシナ三国</p> <p>第9回 東南アジア2：ベトナム戦争の影響</p> <p>第10回 東南アジア3：タイ、ミャンマー、マレーシア</p> <p>第11回 東南アジア4：メコン河流域開発</p> <p>第12回 東南アジアの地域協力体制：ASEANの形成</p> <p>第13回 アジアにおける協力体制1：ASEANを中心とする協力1</p> <p>第14回 アジアにおける協力体制2：ASEANを中心とする協力2</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	レポート(100%)によって評価する。		

授業科目	ヨーロッパ経済事情	担当者	大重 康雄
	[履修年次] 1年, 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義	授業外対応	適宜対応(要予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ヨーロッパ(EU)を主に経済の視点でとらえ、ヨーロッパ(EU)がもたらす世界経済への影響や広域経済連携地域が内包する課題を考察する</p> <p>【概要】ヨーロッパ地域統合(EU)から通貨統合およびその後の金融財政危機等の変遷に注目し、今後のヨーロッパ社会の展望について考える。特に英国のEU離脱や難民・移民問題が深刻化しておりそれら問題を米国や日本と対比し考える。</p> <p>【到達目標】ヨーロッパ地域統合(EU)の現状と課題を学ぶことにより、大規模な経済連携が地域や人々にどのような影響を与えるかを理解できる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 田中素香ほか『現代ヨーロッパ経済 第4版』有斐閣アルマ および講師作成プリント</p> <p>(2) 遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会ほか</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 現在ヨーロッパで何が起きているか</p> <p>第2回 ヨーロッパ統合前史</p> <p>第3回 ヨーロッパ統合の歴史</p> <p>第4回 統一通貨ユーロとは</p> <p>第5回 国際金融危機とEU財政諸問題</p> <p>第6回 EU社会が抱える課題</p> <p>第7回 イギリスとEU経済</p> <p>第8回 フランスとEU経済</p> <p>第9回 ドイツとEU経済</p> <p>第10回 その他諸国とEU経済</p> <p>第11回 中・東欧諸国とEU経済</p> <p>第12回 EUと対外通商関係</p> <p>第13回 欧州通貨と国際金融システム</p> <p>第14回 ヨーロッパ社会と統合の将来について</p> <p>第15回 講義のまとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業中各自に質問をするのでシラバスに従って予習をしてください。また復習し次回質問すべきことをまとめておくこと。		
成績評価の方法	筆記試験(80%) + 授業での発言内容(20%)		

授業科目	国際経済特講		担当者	村田 秀博	
	[履修年次]	1, 2年生	授業外対応	授業終了後, Eメールにて	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本経済のグローバル化と中小企業の海外進出、貿易取引。</p> <p>【概要】日本の中小企業は、近年の日本国内の経済環境の変化の中で、企業活動をアジアほか海外へ拡大させ、現在の苦境を改善しようとして、さらなる企業拡大の契機をつかもうという動きが顕著になってきている。鹿児島県内でも同様であり、海外を目指す中小企業が「挑戦」「失敗」「成功」を繰り返している。その現状を認識し、自分なりの方法・課題・打開策を考え、社会感性を磨く。またその基礎となる貿易知識も習得する。</p> <p>【到達目標】日本国並びに鹿児島県内でのグローバル化の現状を認識し、対応できる方法論・基礎知識を身につける。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 参考書, レジュメ・資料</p> <p>(2) 必要に応じて随時資料を追加する</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス (日本経済のグローバル化)</p> <p>第2回 中小企業の国際化の現状 (鹿児島県)</p> <p>第3回 進出先の情勢比較 (中国)</p> <p>第4回 進出先の情勢比較 (中国)</p> <p>第5回 知的財産権の保護 (中国商標登録問題)</p> <p>第6回 進出先の情勢比較 (台湾・タイ・ベトナム)</p> <p>第7回 進出先の情勢比較 (ミャンマー・シンガポール)</p> <p>第8回 進出先の情勢比較 (インドネシア・ロシアほか)</p> <p>第9回 貿易実務 (概要)</p> <p>第10回 貿易実務 (外国為替・為替予約)</p> <p>第11回 貿易実務 (外貨預金・外貨貸付)</p> <p>第12回 貿易実務 (輸入)</p> <p>第13回 貿易実務 (輸出)</p> <p>第14回 貿易実例紹介</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)					
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + レポート (50%)				

授業科目	地域経済論		担当者	岡田 登	
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地域経済構造及び理論を理解する。</p> <p>【概要】経済のグローバル化が進行し、国内においても地域間格差及び地域間競争が激化する中で、地域的な特徴を見極めて地域経済の再建と発展を図らなければならない。この講義では地域とは何か、地域とはどのように構成されているのかを知り、地域間格差を生み出す要因を地域経済構造と基本的な理論から学び、地域経済の発展に関わる今日的な対応策について検討する。</p> <p>【到達目標】地域経済構造と理論を正確に理解することで、地域経済の特徴を分析する能力を身につけ、その発展に向けて考察できるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 山田 浩之 編 『地域経済学入門』 有斐閣、松原 宏 編 『立地論入門』 古今書院</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、講義の目標、地域とは何か、等質地域と機能地域からみた地域経済</p> <p>第2回 都市地域論 (1) (都市と農村、都市化の概念、都市の発展段階)</p> <p>第3回 都市地域論 (2) (都市の機能と分類、大都市圏の構造、都市の内部構造とメカニズム)</p> <p>第4回 産業地域論 (1) (産業立地、産業構造の変化)</p> <p>第5回 産業地域論 (2) (中心地理論、商業形態の発展と変化)</p> <p>第6回 農業地域論 (農業立地論、農業地域区分、技術の地域的拡散、生産者の意思決定)</p> <p>第7回 工業地域論 (工業立地の変動、工業立地論、工業立地の分散)</p> <p>第8回 漁業林業地域論 (漁業地域の資源管理とコモンズ論、林業地域の資源管理とガバナンス)</p> <p>第9回 地域経済計算、地域所得、地域成長の経済分析、地域間格差</p> <p>第10回 内発的発展論</p> <p>第11回 地域内連携、異業種間連携、地域間連携</p> <p>第12回 都市計画の仕組み</p> <p>第13回 まちづくり</p> <p>第14回 コンパクトシティ</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	関連文献等も使用して復習をし、次回の講義を受けること				
成績評価の方法	授業時に実施するレポート (40%) + 期末試験 (60%)				

授業科目	地域産業政策		担当者	岡田 登	
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地域間格差の実態と問題点を理解する。</p> <p>【概要】国内において地域間格差及び地域間競争が激化する中で、地域的な特徴を見極めて地域経済の再建と発展を図らなければならない。地域経済論では地域間格差を生み出す要因について経済構造と理論から学んだが、この講義ではそれを踏まえて地域間格差の現状と顕在化する問題点を理解し、地域の発展に向けた取り組みの実態を学び、これから地域が生き残るための方策を探る。</p> <p>【到達目標】地域間格差の現状と問題点を正確に理解し、具体的な取り組みの実態を学び、地域の発展に向けて自ら考えて発想できるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、講義の目標</p> <p>第2回 政策的要因(1)(アメリカのTVAと日本の国土計画)</p> <p>第3回 政策的要因(2)(全国総合開発計画、新全国総合開発計画)</p> <p>第4回 政策的要因(3)(第三次全国総合開発計画、第四次全国総合開発計画)</p> <p>第5回 政策的要因(4)(21世紀の国土のグランドデザイン、国土形成計画法)</p> <p>第6回 地域間格差の現状(1)(所得、産業、人口)</p> <p>第7回 地域間格差の現状(2)(人口移動の詳細分析)</p> <p>第8回 地域間格差の現状(3)(社会基盤、生活)</p> <p>第9回 過疎化、地方分権、広域的市町村合併</p> <p>第10回 地方創生、地域再生法、新たな国土形成計画</p> <p>第11回 大都市地域における問題と地域活性化への取り組み</p> <p>第12回 都市地域における問題と地域活性化への取り組み</p> <p>第13回 農村地域及び工業地域における問題と地域活性化への取り組み</p> <p>第14回 観光業地域における問題と地域活性化への取り組み</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	関連文献等も使用して復習をし、次回の講義を受けること				
成績評価の方法	授業時に実施するレポート(40%)＋期末試験(60%)				

授業科目	地方自治論		担当者	船津 潤	
	[履修年次]	1年, 2年いずれでも履修可	授業外対応	随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地方自治, 地方行財政</p> <p>【概要】地方自治とは何か、日本の国と地方自治体との関係の特徴といった視点を踏まえて、地方自治に関する基本的な概念や理論、制度について講義するとともに、参考になるとと思われる海外の事例も取り上げます(下記、授業スケジュールを参照)。</p> <p>【到達目標】上記の概要に示した内容に関する理解を深め、受講者が地方自治、地方行財政について、自分自身で主体的に考えられるようになることを目標とします。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 林健久編『地方財政読本 第5版』東洋経済新報社</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明</p> <p>第2回 地方自治：地方自治とは何か、地方公共団体の特徴、地方分権が求められる背景、グローバル化の影響等</p> <p>第3回 地方自治体の意思決定(1)：首長・役所・議会の関係、国と地方公共団体の関係等</p> <p>第4回 地方自治体の意思決定(2)：地方の予算制度、長の強い権限等</p> <p>第5回 地方自治体の財源(1)：三位一体の改革、地方債等</p> <p>第6回 地方財政健全化法(1)：地方財政健全化法、地方債改革との関係等</p> <p>第7回 地方財政健全化法(2)：法律成立の背景、影響等</p> <p>第8回 地方自治体の財源(2)：地方交付税、国庫支出金等</p> <p>第9回 法定外税(1)：法定外税の定義、地方分権一括法での変更点、現在の傾向等</p> <p>第10回 法定外税(2)：受益・原因と負担の関係、利点と問題点等</p> <p>第11回 市町村合併：「平成の大合併」とその背景、望ましい合併とは、現在の状況等</p> <p>第12回 市民参加・参画：歴史、求められている背景、小田原市の事例等</p> <p>第13回 非営利組織：アメリカの非営利開発法人の事例等</p> <p>第14回 住民自治：シアトル・メトロの事例について</p> <p>第15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等</p>				
授業外学習(予習・復習)	特に復習を重視してください。また、普段からニュース等に講義と関連することはないか注目することが有効です。				
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。				

授業科目	高齢者福祉	担当者	田口康明
	〔履修年次〕 1,2 年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2	授業外対応 〔必修/選択〕 選択	メールで連絡、随時対応 〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】社会福祉の構造を明らかにし、その中での高齢者福祉の位置づけについて考える。あわせて、2000 年以降変化する社会福祉について、高齢者福祉の分野に導入された「介護保険」の制度を検討し理解する。</p> <p>【概要】本科目は、本科目は、専門科目として開設されている。授業では少人数が想定されるので、受講者はテキストを読み、その要約を発表しながら内容の理解を進めていく。</p> <p>【到達目標】介護保険を中核とする「高齢者福祉」の仕組みの理解につくる。将来、高齢者当事者として、また介護者当事者として向き合うことが、すべての人にとってほぼ確実であるのでその理解を進める。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『介護保険は老いを守るか』沖藤典子著、岩波新書</p> <p>(2) 授業内で随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス この授業のすすめ方</p> <p>第2回 (講義) 福祉とは何か・必要という考え方・必要に基づく社会政策</p> <p>第3回 (講義) 資源とその供給・資源の再分配・官僚制と専門主義</p> <p>第4回 (発表) テキスト「第1章 介護保険はなぜ創設されたのか」その1</p> <p>第5回 (発表) テキスト「第1章 介護保険はなぜ創設されたのか」その2</p> <p>第6回 (発表) テキスト「第2章 介護保険サービスの「適正化」」その1</p> <p>第7回 (発表) テキスト「第2章 介護保険サービスの「適正化」」その2</p> <p>第8回 (発表) テキスト「第2章 介護保険サービスの「適正化」」その3</p> <p>第9回 (発表) テキスト「第3章 解決されるか、介護現場の危機」その1</p> <p>第10回 (発表) テキスト「第3章 解決されるか、介護現場の危機」その2</p> <p>第11回 (発表) テキスト「第4章 迷走した要介護認定」その1</p> <p>第12回 (発表) テキスト「第4章 迷走した要介護認定」その2</p> <p>第13回 (発表) テキスト「第5章 老いを守る介護保険への道」その1</p> <p>第14回 (発表) テキスト「第5章 老いを守る介護保険への道」その2</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	テキストの各回の箇所を十分読むこと		
成績評価の方法	授業中の発表 60%、授業中の発言 20% ファイナルレポート 20%		

授業科目	労働法	担当者	疋田京子
	〔履修年次〕 1,2 年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2	授業外対応 〔必修/選択〕 選択	コミュニケーション・ペーパーを使用 〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「ディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）」実現のための基礎知識</p> <p>【概要】労働法は憲法や民法の応用分野であり、憲法や民法・刑法・行政法といった基本的な法律の上になりたっている。その意味では全体像をつかむことは難しいかもしれない。しかし、1919年に国際労働機関（ILO）が結成されて以来、その法分野が目指したのは「ディーセント・ワーク」の実現なのだ。本講義では、就職するとき知っておくべき労働者の権利と義務、職場で問題が起こった場合の解決の方法に関する基本的なルールを講義する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 働くときに知っておくべき労働者の権利と、使用者が守るべき義務とは何かを理解する 2. 権利を主張するための法的根拠はどの法律にあるのかを理解する 3. 権利の実現のために、どのような救済手段や機関があり、公的保障があるのかを知る 		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント配布</p> <p>(2) 講義時に紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：マタハラって何？</p> <p>第2回 労働法の全体像：憲法・民法と労働法の関係</p> <p>第3回 労働契約の成立：労働基準法と労働契約</p> <p>第4回 労働法上の「労働者」「使用者」概念：プロ野球選手は「労働者」？</p> <p>第5回 就業規則・労働協約との関係：就業規則の不利益変更</p> <p>第6回 労働契約成立までの流れ：採用内定と試用期間の法的性格</p> <p>第7回 労働契約の内容：労働契約の基本的内容と使用者の労働条件明示義務</p> <p>第8回 労働契約の原則：雇用における男女平等と中間搾取の排除</p> <p>第9回 賃金についてのルール：賃金額の制限と賃金支払いのルール</p> <p>第10回 労働時間の基本的ルール：所定労働時間と法定労働時間</p> <p>第11回 労働時間制の多様化：変形労働時間制とフレックスタイム制</p> <p>第12回 年次有給休暇：休日・休暇・休業はどう違う？</p> <p>第13回 労働契約の変更と終了：解雇に関する法規制</p> <p>第14回 ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて：育児・介護休業と雇用機会均等</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	小レポート(40点)＋筆記試験(60点)		

授業科目	地域研究特講		担当者	福田忠弘	
	[履修年次]	1, 2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】世界の格差の状況について認識し、貧困の問題について国際社会はどのような対応をとってきたのかを講義する。</p> <p>【概要】本講義では、さまざまな国際協力・開発援助について取り上げる。最初に開発援助についての歴史について言及した後、国際機関、国家、地方自治体、市民が主体となった国際協力について概観する。</p> <p>【到達目標】さまざまな行為体が、さまざまなレベルで、多様な援助が行われていることを理解することが到達目標である。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 新潟国際ボランティアセンター編『地方発の国際NGO：グローバルな市民社会に向けて』（明石書店、2008年）</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第2回 世界の現状1：数値からみる世界の格差</p> <p>第3回 世界の現状2：グローバル化の進展</p> <p>第4回 第二次世界大戦後の国際経済体制：ブレトンウッズ体制について</p> <p>第5回 途上国の開発：輸入代替工業化戦略と輸出志向工業化戦略</p> <p>第6回 国際機関による援助1：さまざまな国際機関1</p> <p>第7回 国際機関による援助2：さまざまな国際機関2</p> <p>第8回 国家を主体とする援助1：ODAについて（1）</p> <p>第9回 国家を主体とする援助2：ODAについて（2）</p> <p>第10回 企業による社会活動：CSRを中心に</p> <p>第11回 市民を主体とする援助1：NPOの活動（1）</p> <p>第12回 市民を主体とする援助2：NPOの活動（2）</p> <p>第13回 市民を主体とする援助3：NPOの活動（3）</p> <p>第14回 人間の安全保障</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する				
成績評価の方法	試験（100％）によって評価する。				

授業科目	地方自治法		担当者	山本 敬生	
	[履修年次]	1, 2年履修可	授業外対応	適宜対応（要予約）	
	[学期]	後期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住民自治、団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で、地方公共団体の種類及び事務、住民の権利義務、条例と規則、議会、執行機関を中心に地方自治法を体系的に学習し、地方の時代における国と地方公共団体との新たな関係について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】地方自治法は、国と地方自治公共団体の役割分担、機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設、普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与、国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では、地方自治法をわかりやすく解説することで、地方自治法が地方分権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。</p> <p>【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し、国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 山口友信他編、『ポケット六法（平成29年度版）』、有斐閣</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 地方自治の意義</p> <p>第2回 地方公共団体の種類</p> <p>第3回 地方公共団体の区域・事務</p> <p>第4回 住民の権利義務(1)</p> <p>第5回 住民の権利義務(2)</p> <p>第6回 条例と規則(1)</p> <p>第7回 条例と規則(2)</p> <p>第8回 議会(1)</p> <p>第9回 議会(2)</p> <p>第10回 執行機関(1)</p> <p>第11回 執行機関(2)</p> <p>第12回 国等の地方公共団体への関与</p> <p>第13回 議会と長との関係(1)</p> <p>第14回 議会と長との関係(2)</p> <p>第15回 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民自治、団体自治、伝來說、固有権説、地方自治の本旨について ・地方公共団体の構成要素（住民、区域、法人格）、都道府県、市町村について ・区域、機関委任事務、自治事務、法手受託事務について ・住民、選挙権、条例の制定改廃の請求、事務監査の請求について ・議会の解散請求、議員、長及び特定職員の解職請求、住民監査請求について ・条例制定権の範囲、法令先占論、上乗せ条例、横出し条例について ・形式的効力、実質的効力、条例制定手続、罰則、規則について ・議会の地位、町村総会、検査権調査権、請願受理権について ・定例会、臨時会、定足数の原則、会議公開の原則、会期不継続の原則について ・長の地位、長の兼職兼業の禁止、長の権限、長の職務の代理について ・行政委員会の意義、教育委員会、教育長、総合教育会議について ・国の関与の手続、法定受託事務の処理基準、国地方係争処理委員会について ・事務執行に対する同意権、再議制度、一般的拒否権、特別的拒否権について ・専決処分、不信任議決、議会の解散、長の失職について 				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験(90%)＋授業での発言内容(10%)を基準にして評価する。				

12 経営情報専攻専門科目

授業科目	簿記論Ⅱ		担当者	宗田 健一				
	[履修年次]	1年, 2年いずれでも履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約: メールが望ましい)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記と財務諸表</p> <p>【概要】簿記論Ⅰなどで簿記一巡の手続きを学習した学生を対象として、諸取引の処理と決算に関して学習します。</p> <p>【到達目標】複式簿記の記録・計算の知識と技術の修得により、最終的に、財務諸表(損益計算書・貸借対照表)の作成が行えるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部ほか『新検定 簿記講義 3級 商業簿記』(平成29年度版, 中央経済社。・・・簿記論Ⅰと共通)</p> <p>(2) 渡部ほか『新検定 簿記ワークブック 3級 商業簿記』, 中央経済社。・・・簿記論Ⅰと共通</p> <p>新井清光・川村義則『新版 現代会計学』, 中央経済社, 2014年。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 現金預金取引: テキスト第7章</p> <p>第2回 商品売買(3分法): テキスト第8章</p> <p>第3回 商品売買(3分法): テキスト第8章</p> <p>第4回 売掛金と買掛金: テキスト第9章</p> <p>第5回 その他の債権と債務: テキスト第10章</p> <p>第6回 手形: テキスト第11章</p> <p>第7回 有価証券: テキスト第12章</p> <p>第8回 固定資産: 第13章</p> <p>第9回 資本金と引出金: 第14章</p> <p>第10回 収益と費用: 第15章</p> <p>第11回 消耗品: 第15章, 税金: 第16章</p> <p>第12回 帳簿と伝票: 第17章</p> <p>第13回 決算と財務諸表(その2): 第18章</p> <p>第14回 決算と財務諸表(その2): 第18章</p> <p>第15回 まとめ: 試験範囲の提示, 成績評価方法の説明, 質疑応答, 授業評価アンケートの実施</p>							
授業外学習(予習・復習)	毎回, 予習, 復習を提示します。							
成績評価の方法	小テスト・予習・復習の状況(20%), および筆記試験(80%)で評価します							

(注) 2017年度の簿記論Ⅰ,Ⅱは、前期、後期に連続して開講されます。簿記論Ⅰを履修する学生は、後期に簿記論Ⅱの履修登録を行うことをお勧めします。なお、受講生の学習進捗状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。

授業科目	経営管理論		担当者	竹中啓之				
	[履修年次]	1, 2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応(要予約)、及び講義終了後				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。</p> <p>【概要】2人以上の個人が集団として活動する場合、そこには必ずその集団の行動を調整する役割が必要となり、その役割を一般的に「管理」と呼んでいます。すなわち管理はすべての集団・組織において存在する職能であるといえます。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することだと定義することができます。</p> <p>したがって経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する職能ということになり、このような活動を行うのは経営者や管理者の役割です。この講義では、彼らが、目的を実行するための効率的な組織運営のための工夫や、組織内部にいる関係者および組織外部のさまざまな状況との関わり合いの中、対処している方法について講義していきます。</p> <p>【到達目標】組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門用語を知る。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明: 講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第2回 経営管理論とは何か: 管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。</p> <p>第3回 組織における人間(1): 企業で人を管理する際の基本となる考え方などについて説明する。</p> <p>第4回 組織における人間(2): テイラーの科学的管理法と「経済人モデル」について説明する。</p> <p>第5回 組織における人間(3): メイヨー他の人間関係論と「社会人モデル」について説明する。</p> <p>第6回 組織における人間(4): マズローの欲求階層説と「自己実現人モデル」について説明する。</p> <p>第7回 他の動機づけモデルについて説明し、改めて人が働く意欲とはどのように生み出されるのかを考える。</p> <p>第8回 企業理念と組織文化(1): 企業を管理する上で、理念と文化の役割について理解する。</p> <p>第9回 企業理念と組織文化(2): これまでの組織文化論を概観し、組織管理と文化の関連について考える。</p> <p>第10回 人的資源管理(1): 企業での人的資源管理の基本的な仕組みについて説明する。</p> <p>第11回 人的資源管理(2): これからの人的資源管理の課題について考える。</p> <p>第12回 組織構造を知る: 組織の構造が企業や人の管理にどのような影響を与えているのかを考える。</p> <p>第13回 リーダーの役割とは何か(1): リーダー(上司)の役割について考える。</p> <p>第14回 リーダーの役割とは何か(2): リーダー(上司)として適切な行動とは何かを知る。</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。							
成績評価の方法	期末筆記試験(70%)、中間レポートもしくは小テスト(30%) (予定) 詳細は1回目の講義で説明します。							

授業科目	経営組織論		担当者	朝日吉太郎
	[履修年次]	1・2年	授業外対応	常時対応（メールによるアポイントメント必要）
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 資本主義企業の経営組織の発展と、ディーセントワーク（人間らしい労働）をめぐる問題を検討します。</p> <p>【概要】 資本主義企業の経営組織の発展を法則的に理解し、ブラック企業など非人間的な労働が生まれる原因を検討し、その解決には何が必要かについて検討します。</p> <p>【到達目標】 人間らしい労働とはどのようなものかを考察し、その実現のために何が必要かを法則的に理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストはありません。</p> <p>(2) 授業内で指示する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 労働の特質と近代労働観の分裂</p> <p>第3回 資本主義的経営と労働</p> <p>第4回 単純協業と分業</p> <p>第5回 機械制大工業に基づく分業が持つ意味</p> <p>第6回 機械制大工業と労働疎外</p> <p>第7回 科学的管理方法の登場</p> <p>第8回 フォーディズム</p> <p>第9回 労働の人間化要求と人間関係論</p> <p>第10回 ボルボ・システム</p> <p>第11回 トヨタイズムとTQC</p> <p>第12回 日本の経営論と制限・新日本的経営への転換</p> <p>第13回 ブラック企業とディーセントワーク</p> <p>第14回 インダストリー4.0の衝撃</p> <p>第15回 労働の未来</p>			
授業外学習(予習・復習)	参考図書 ¹⁾ の独習を指示する。			
成績評価の方法	筆記試験			

授業科目	管理会計論		担当者	北村 浩一
	[履修年次]	1・2年いずれでも可	授業外対応	授業終了後
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 管理会計とは一体何かを管理会計技法の学習を通じて修得する</p> <p>【概要】 管理会計についてはさまざまに定義されており、受講者それぞれが管理会計の定義を理解する。また、管理会計技法の分析を通じて、関連する経営・管理といった概念についても修得する。</p> <p>【到達目標】 企業経営者・管理者にとって管理会計は重要な管理手法として位置づけられており、本講義では管理会計を概念的に、そして体系的に捉えることを目標としている。</p>			
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 西村明・大下丈平編『ベーシック管理会計』(2007)中央経済社</p> <p>(2) 特になし</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 講義ガイダンス・講義の進め方や評価について</p> <p>第2回 予算管理(1)</p> <p>第3回 予算管理(2)</p> <p>第4回 利益管理(1)</p> <p>第5回 利益管理(2)</p> <p>第6回 CVP分析(1)</p> <p>第7回 CVP分析(2)</p> <p>第8回 管理会計とは</p> <p>第9回 分権的組織の管理会計(1)</p> <p>第10回 分権的組織の管理会計(2)</p> <p>第11回 原価概念</p> <p>第12回 原価計算と原価管理</p> <p>第13回 標準原価管理</p> <p>第14回 原価企画とABC原価計算</p> <p>第15回 講義のまとめ</p> <p>(※ 講義の進度によって予定を変更する場合があります)</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	小テスト(複数回, 50%) と期末定期試験(50%) の総計で評価します。			

授業科目	原価計算	担当者	岡村 雄輝		
	[履修年次] 1, 2 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応		
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】原価計算入門</p> <p>【概要】原価計算とは、モノづくりに要したコストを適正に把握する手続きのことです。本講義では、担当者が製造業における様々な取引について解説し、それを受けて受講者のみなさんは、記帳訓練に励むことになります。</p> <p>※商業簿記の学習歴、あるいは本講義と並行して自学する意欲を有することが望ましい</p> <p>【到達目標】製造業における取引を記帳する能力を養う。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 滝澤ななみ『スッキリわかる 日商簿記2級 工業簿記 第4版』TAC出版</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス (履修登録の確認, 講義計画の説明等)</p> <p>第2回 原価計算のあらましと工業簿記</p> <p>第3回 材料費の計算と記帳 (1)</p> <p>第4回 材料費の計算と記帳 (2)</p> <p>第5回 労務費の計算と記帳 (1)</p> <p>第6回 労務費の計算と記帳 (2)</p> <p>第7回 経費の計算と記帳</p> <p>第8回 個別原価計算 (1)</p> <p>第9回 個別原価計算 (2)</p> <p>第10回 部門別個別原価計算 (1)</p> <p>第11回 部門別個別原価計算 (2)</p> <p>第12回 総合原価計算 (1)</p> <p>第13回 総合原価計算 (2)</p> <p>第14回 総合原価計算 (3)</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。毎回、宿題を課します。				
成績評価の方法	期末試験				

授業科目	国際経営論	担当者	野村俊郎		
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	研究室 (2号館3階) に対応、いつでもOK、予約不要		
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】売れるモノ、儲かるモノ～トヨタの新興国イノベーションの秘密に迫る～</p> <p>【概要】トヨタの車でありながら、日本では生産も販売もされておらず、新興国のみで生産され販売されている車がある。日本では全く知られていないが、バンコクやジャカルタ、デリーやヨハネスブルグ、プエノスアイレス、サンパウロでは目につく車である。その車は、トヨタでは世界で2番目に多く、年間百万台以上、生産され販売されている。トヨタでも、年間百万台以上生産され販売されている車は、カローラとその車だけである。また、その車はカローラの2倍ほど儲かると言われており、1モデルでトヨタ全体の利益の2割、4000億円を稼いでいる。この講義では、その車トヨタIMVを取り上げ、売れるモノ、儲かるモノを生み出すトヨタの新興国イノベーションの秘密に迫る。</p> <p>【到達目標】</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 野村俊郎・山本肇著『トヨタの新興国イノベーション～競争組織の適応と進化～』文眞堂</p> <p>(2) 野村俊郎著『トヨタの新興国車IMV』文眞堂</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 売れるモノ、儲かるモノ～21世紀は新興国の時代～</p> <p>第2回 新興国における製品イノベーション</p> <p>第3回 新興国におけるプロセスイノベーション</p> <p>第4回 インドネシアではイノベータのジレンマを超えたトヨタ</p> <p>第5回 低価格指向のインドではイノベータのジレンマに陥り苦戦が続く</p> <p>第6回 低価格志向のブラジルでもイノベータのジレンマに陥り苦戦が続く</p> <p>第7回 パキстанは高価格志向の高所億層をターゲットに成功</p> <p>第8回 フィリピン、マレーシア、ベトナムでも高価格志向の高所億層をターゲットに成功</p> <p>第9回 ベネズエラでも高価格志向の高所億層をターゲットに成功</p> <p>第10回 新興国小型車カンパニーでイノベータのジレンマを超えられるか?</p> <p>第11回 トヨタは新興国の低価格帯に目的ブランドを新設できるか?</p> <p>第12回 新興国での燃費規制にどう対応するのか?</p> <p>第13回 VWは新興国をどう攻める?</p> <p>第14回 GMは新興国をどう攻める?</p> <p>第15回 これからの売れるモノ、儲かるモノ</p>				
授業外学習(予習・復習)	あなたは新興国でどんなビジネスを始めますか? この講義を参考に考えてみて下さい。				
成績評価の方法	筆記試験				

授業科目	経営学特講 I		担当者	田原 武志, 東 圭大				
	[履修年次]	1年, 2年	授業外対応	授業終了後及びメールによる (アドレスは授業中に告知)				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「経営」を広義にとらえ、手法を具体的に考察する。</p> <p>【概要】本講義では、「経営」を一般的にイメージする会社経営はもちろんの事、文化祭実行委員会等の組織やそれぞれの家庭、自分自身の人生などを経営 (マネジメント) する事はどういう事かを学ぶ。それぞれの経営資源の抽出から始まり、次に成果を作り出していく手法について考察する。自己の成長と幸福が、家庭・会社・地域社会の成長と幸福へとつながるという基本理念のもと、学生諸君とともに経営を学ぶ場とする。</p> <p>【到達目標】社会人としての様々な局面で、その課題を解決するべく、経営の手法を身につける。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 毎回プリントを用意する。 (2)							
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーリング</p> <p>第 2 回 毎回テーマを決めて講義, レポート, 感想発表 ～ (テーマ例)</p> <p>第 14 回 「世界に通用する(誇れる)鹿児島良さは？」 「日新公いろは歌の考察」 「鹿児島県立短期大学の経営資源の考察」 「企業の果たす社会的責任について」 「コミュニティービジネスの今後について考察」 「経営にコンプライアンス(法令遵守)が求められている社会的背景と必要性の考察」 「家庭人, 社会人としてのリスクマネジメント」 「投機と投資の考察」 「人生において貯蓄の意義の考察」 「ファイナンシャル・プランニングの基本考察」 等々</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	授業での発表, レポートの評価, 定期試験 (プリント・レポート・ノート持ち込み可) の結果 (全体で 100%)							

授業科目	比較経営論		担当者	瀬口 毅士				
	[履修年次]	1,2 年いずれでも履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営システムの多様性を学ぶ</p> <p>【概要】この講義では、様々な国の経営を取り上げ、経営システムの比較を行います。まず、第 3 回から第 6 回にかけて日本の経営について詳細に解説した後、アメリカの経営、欧州各国の経営へと進み、最後にアジア各国の経営を見ていきます。各国の経営システムを説明する際に、歴史的な話題が多く出てきますので、歴史が得意でなくても歴史的な解説を苦にしない学生さんの出席を望みます。</p> <p>【到達目標】各国の経営システムの間にも共通性と相違性があることを発見し、それがなぜ異なるのかについて考えることができる。また、システムの多様性や経路依存性について理解できる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)							
授業スケジュール	<p>第 1 回 イントロダクション：授業の進め方や成績評価の方法等</p> <p>第 2 回 比較の方法、コーポレート・ガバナンスに関する解説</p> <p>第 3 回 日本の経営 (1)：日本的経営の歴史、日本企業のコーポレート・ガバナンス</p> <p>第 4 回 日本の経営 (2)：日本企業における戦略と組織の特徴</p> <p>第 5 回 日本の経営 (3)：日本企業の生産方式、労使関係</p> <p>第 6 回 日本の経営 (4)：日本における企業間構造、中小企業</p> <p>第 7 回 アメリカの経営 (1)：アメリカ企業の歴史とコーポレート・ガバナンス</p> <p>第 8 回 アメリカの経営 (2)：アメリカ企業における戦略と組織の特徴</p> <p>第 9 回 イギリスの経営：イギリス企業の歴史と経営システム</p> <p>第 10 回 フランスの経営：フランス企業の歴史と経営システム</p> <p>第 11 回 ドイツの経営：ドイツ企業の歴史と経営システム</p> <p>第 12 回 イタリアの経営：イタリア企業の歴史と経営システム</p> <p>第 13 回 中国の経営：中国企業の歴史と経営システム</p> <p>第 14 回 アジア各国の経営：韓国や台湾など、中国以外のアジア各国における経営システムの解説</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業の中で適宜指示します。							
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%) +リアクションペーパー、授業に対する姿勢等 (30%)							

授業科目	経営分析		担当者	岡村 雄輝
	〔履修年次〕	1, 2	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2
			〔必修/選択〕	選択
				〔授業形態〕
				講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 会計物語から企業社会の諸相を考察する</p> <p>【概要】 本講義は、担当者が企業の財務的な物語といわれる財務諸表を読解し、いくつかの実在する企業のあり様を考察します。それを受けて受講者のみなさんは、企業の財務諸表を各自で入手し、読解に取り組むことになります。</p> <p>【到達目標】 財務諸表を読解し、企業の財政状態・経営成績について説明できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)			
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス (履修登録の確認、講義計画の説明等) 第 2回 財務諸表の読み方 (1) 第 3回 財務諸表の読み方 (2) 第 4回 アパレル産業の差別化戦略 第 5回 大手化粧品メーカーに共通する特徴 第 6回 家具販売店の社長交代劇の背後にある経営観の対立 第 7回 家電量販店の売上高競争：勝因は従業員の待遇 第 8回 コストカッターが踏み込まなかった聖域とは 第 9回 従業員の平均年収 1,600 万円！注目のファブレス経営 第 10回 エレクトロニクス企業の変貌 第 11回 元祖 LCC の倒産とその意味 第 12回 監査人をも欺いた大規模な不正会計とその結末 第 13回 財務諸表分析の実践 (1) 第 14回 財務諸表分析の実践 (2) 第 15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)				
成績評価の方法	期末試験			

授業科目	企業行動科学		担当者	竹中啓之
	〔履修年次〕	1, 2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約)、及び講義終了後
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2 単位
			〔必修/選択〕	選択
				〔授業形態〕
				講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 企業経営における意思決定やリーダーシップについて考える。</p> <p>【概要】 行動科学とは、個人や集団の形で人間が行う行動に関して、その動機・過程・効果を実際におこった事実をもとにして記述し、説明し、分析していく記述論的アプローチを行うものである。そのためには経営学だけではなく、心理学・社会学・経済学などの諸学問の境界を超えた学際的な考え方が必要となる。</p> <p>この講義ではこのようなアプローチ方法を前提として、企業における意思決定過程の分析を試みることにする。企業目的を達成するために、一つの企業行動として意思決定を調整する方法について説明する。またそのほかに、リーダーシップ論やヒトの動機づけ理論についても取り上げる。</p> <p>【到達目標】 組織における意思決定プロセスを理解する。リーダーシップの主要な理論を知る。主要な動機づけ理論を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に配布するプリント (2) 講義中に指示する			
授業スケジュール	第 1回 講義概要の説明：講義の概略を説明する 第 2回 意思決定プロセスとはどのようなものか：意思決定プロセスについて説明する 第 3回 組織の意思決定：組織の意思決定について説明する 第 4回 集団での意思決定：集団での意思決定が優れているかどうか考える 第 5回 組織の運営と個人の役割：組織の運営における個人の役割を考える 第 6回 意思決定のスピードと組織構造：意思決定のスピードと組織構造の関係を考える 第 7回 映画「12人の怒れる男たち」について：集団的意思決定の例を映画を通して考える 第 8回 インセンティブシステム（動機づけ理論）(1)：動機づけ理論について説明する 第 9回 インセンティブシステム（動機づけ理論）(2)：動機づけ理論の問題点について説明する 第 10回 リーダーシップとは何か (1)：リーダーシップ論について説明する 第 11回 リーダーシップとは何か (2)：リーダーシップ論の問題点について説明する 第 12回 上司と部下の関係を考える (1)：上司と部下の関係について説明する 第 13回 上司と部下の関係を考える (2)：問題のある上司に当たったときの対処法を考える 第 14回 卒業式は自由な人生の終わりか：大学での学びについて考える 第 15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%)、中間レポートもしくは小テスト (30%) (予定) 詳細は1回目の講義で説明します。			

授業科目	経営戦略論		担当者	瀬口 毅士
	[履修年次]	1,2年いずれでも履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営戦略に関する基本的知識を習得する</p> <p>【概要】経営戦略とは、外部環境の変化に対応しながら長期的な存続・成長を図るための、企業の意思決定を意味します。経営戦略論のなかでも、企業全体の戦略である「企業戦略」および事業ごとの戦略である「競争戦略」を中心に解説していきます。さらに、最近の企業の動向を取り上げながら、現代社会における経営戦略のあり方も講義します。</p> <p>【到達目標】経営戦略論の基本概念を知ると同時に、各概念がどのような関係にあるのかを考えることができる。また、講義を通じて得られた知識を基に、ニュースや新聞などの情報をより深く理解できるようになることを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)			
授業スケジュール	第 1回 インTRODクシヨン 第 2回 経営戦略とは何か 第 3回 経営理念とドメイン 第 4回 規模の経済と範囲の経済、垂直統合と水平統合 第 5回 多角化戦略 第 6回 M&A 第 7回 戦略的提携 第 8回 経験曲線と PLC 第 9回 PPM 第 10回 経営戦略の実際 第 11回 競争戦略とは何か 第 12回 ポジショニング・アプローチ 第 13回 資源ベース・アプローチ 第 14回 ゲーム論的アプローチ 第 15回 学習アプローチ			
授業外学習(予習・復習)	授業の中で適宜指示します。			
成績評価の方法	期末筆記試験 (80%) +リアクションペーパー、授業への姿勢等 (20%)			

授業科目	企業論		担当者	朝日吉太郎
	[履修年次]	1・2年	授業外対応	常時対応 (メールによるアポイントメント必要)
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】資本主義的企業の発展法則を捉え、今日の資本主義を動かす巨大企業の運動とその問題点を捉えます。</p> <p>【概要】今日世界は、富める1%が世界の半分の富を独占し、中小企業や労働者には様々なしわ寄せが生じています。その利益のために戦争すら引き起こされます。このような現代社会をリアルに捉えます。</p> <p>【到達目標】現代の資本主義の特徴についての理解を通じて、今日生じている様々な社会問題を捉えられるようになる。 ※ 前期までに社会政策を履修していると分かり易くなります。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) テキストはありません。 (2) 清野良栄編著『分析・日本資本主義』文理閣。			
授業スケジュール	第 1回 講義の目的と進め方について 第 2回 巨大企業と世界 第 3回 資本の巨大化 (1) 資本主義と機械文明 第 4回 資本の巨大化 (2) 資本の蓄積 (1) 資本蓄積の基本法則と限界と失業者の形成 第 5回 資本の巨大化 (2) 資本の蓄積 (2) イノベーションを含む蓄積と資本の自立 第 6回 資本の巨大化 (2) 資本の蓄積 (3) 相対的過剰人口の諸形態 第 7回 資本の巨大化 (3) 利潤と競争 第 8回 資本の巨大化 (4) 商業資本の形成 第 9回 資本の巨大化 (5) 利子生み資本 (1) 利子生み資本の形成とバブル経済の誕生 第 10回 資本の巨大化 (5) 銀行資本と株式資本 (3) 第 11回 独占資本主義 (1) 独占資本と独占の法則 第 12回 独占資本主義 (2) 金融資本と帝国主義 第 13回 日本の企業集団 (1) 戦後日本の資本主義と企業集団 (1) 第 14回 日本の企業集団 (2) 戦後日本の資本主義と企業集団 (2) 第 15回 グローバル化と日本企業集団の知奇跡戦略			
授業外学習(予習・復習)	参考図書の独習を指示する。			
成績評価の方法	筆記試験、			

授業科目	財務会計論		担当者	宗田 健一				
	[履修年次]	1, 2年いずれでも履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約: メールが望ましい)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財務会計の基礎を学ぶ</p> <p>【概要】会計学を初めて学ぶ学生を対象として、財務会計の基礎に関して講義を行います。具体的には、会計に関する諸制度を学ぶことを通じて、財務諸表を読み解く知識と技術の獲得を目指します。学習に際しては、学生自らが体験したり、考えたりする内容を組み入れます。講義参加型の学習を求めますので積極的に参加してください。</p> <p>【到達目標】財務諸表の作成プロセスを理解する。財務諸表を読み解く基本的な知識と技術を身につける。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント等を随時配布。講義初回に指示。</p> <p>(2) 桜井久勝『財務会計講義』(第18版), 中央経済社。(予定) 新井清光・川村義則『新版 現代会計学』, 中央経済社。(予定)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス: 履修登録確認, 講義計画に関する説明, 財務会計論で学ぶことに関する概説</p> <p>第2回 株式会社の基本構造, 会計学の意義, 種類, 役割</p> <p>第3回 企業会計の仕組み (貸借対照表, 損益計算書等)</p> <p>第4回 企業会計制度 (会社法, 金融商品取引法, 税法)</p> <p>第5回 企業会計の仕組み, グループ・ディスカッション (会計の意義・役割について)</p> <p>第6回 資産会計: 分類, 評価基準</p> <p>第7回 資産会計: 流動資産, 固定資産, 繰延資産</p> <p>第8回 負債会計: 分類, 流動負債, 固定負債</p> <p>第9回 資本金会計</p> <p>第10回 損益会計: 損益会計の諸原則, 区分損益計算</p> <p>第11回 損益会計: 損益会計の諸原則, 区分損益計算</p> <p>第12回 キャッシュ・フロー計算書</p> <p>第13回 財務諸表の作成</p> <p>第14回 連結財務諸表の作成</p> <p>第15回 まとめ: 試験範囲の提示, 成績評価方法の説明, 質疑応答, 授業評価アンケートの実施</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する							
成績評価の方法	レポート, 講義への参加度 (発言や質問など) (40%) 筆記試験 (60%) で評価します。							

<p>会計系科目の履修の流れ (初学者向け)</p> <p>1年前期: 簿記論 I 1年後期: 簿記論 II 財務会計論 2年前期: 簿記論 III コンピュータ会計 原価計算 2年後期: 経営分析 管理会計論</p>
--

(注) 簿記論 I, II を履修済み (履修中) であること, ないし日商簿記検定初級〜3級以上の知識があることを前提に講義を行います。なお, 受講生の学習進捗状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。

授業科目	マーケティング論		担当者	瀬口 毅士				
	[履修年次]	1, 2年いずれでも履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】マーケティング論を体系的に学ぶ</p> <p>【概要】マーケティングとは、企業がモノやサービスを売るための様々な仕組みづくりのことです。現代の企業にとって、ますますマーケティングは重要になってきています。本講義では、マーケティング論の基本事項を説明した後、現代社会におけるマーケティングのあり方を解説していきます。</p> <p>【到達目標】マーケティング論に関する基本的知識を習得し、消費者として、あるいはメーカーとしての視点を養うことを目標とする。すなわち、今日の企業がどのようにマーケティング戦略を遂行しようとしているのかを理解し、「賢い消費者」になると同時に、顧客ニーズや顧客満足度を満たすためにいかなる工夫が必要であるかを知ることである。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション: 授業の進め方や成績評価について確認する。</p> <p>第2回 マーケティング論の誕生と基本概念: マーケティング論の概要や基本概念を説明する。</p> <p>第3回 標的市場の選択: STP について解説する。</p> <p>第4回 市場・消費者行動分析: 消費者行動論の知見を基に、消費者について理解を深める。</p> <p>第5回 競争分析: 「ポジショニング」という概念を中心に、企業間の競争構造の分析方法を知る。</p> <p>第6回 製品戦略: 製品ミックスや製品ライフサイクル, 新製品開発プロセスなどを解説する。</p> <p>第7回 価格戦略: 価格設定の重要性とその方法について講義する。</p> <p>第8回 流通戦略: 流通の仕組みとチャネル選択, チャネル管理の方法を説明する。</p> <p>第9回 プロモーション戦略: プロモーション・ミックスとメディア・ミックスを中心に解説する。</p> <p>第10回 ブランド戦略: これまでの内容を基に、ブランド構築やブランド管理について考える。</p> <p>第11回 関係性マーケティング: 企業と消費者の長期的関係性の構築について考える。</p> <p>第12回 グローバル・マーケティング: グローバル規模でのマーケティングに関する知識を習得する。</p> <p>第13回 ソーシャル・マーケティング (1): 企業の社会性とマーケティングの関係性について解説する。</p> <p>第14回 ソーシャル・マーケティング (2): 前回の講義を基に、社会性を含む新たなマーケティング戦略を考える。</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業の中で適宜指示します。							
成績評価の方法	期末筆記試験 (80点) +リアクションペーパー、授業への姿勢等 (20点)							

授業科目	経営工学		担当者	倉重賢治
	[履修年次] 不問	[学期] 後期	[単位] 2	[授業外対応] 適宜対応
			[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 企業などにおける運営業務の科学化</p> <p>【概要】 現在の企業活動においては、情報技術を有効に活用した情報収集、さらにそれらの情報を用いた意思決定が頻繁に行われている。今後は社内に限らず、取引先も含めた情報も共有化されることで、より広範囲での最適化を目指した意思決定の必要性が増してきている。この講義では、企業活動において頻繁に行われる意思決定、例えば、生産スケジュールの立案や在庫管理など、その問題の概要や解法アルゴリズムに関して論じる。</p> <p>【到達目標】 企業活動における、ヒト・モノ・カネ・情報の効率的な運用の大切さを理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 圓川隆夫・伊藤謙治、『生産マネジメントの手法』、朝倉書店</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 序論：経営工学とは</p> <p>第 2回 生産スケジュールリング 1：どんな順番で製品を作れば良いのか</p> <p>第 3回 生産スケジュールリング 2：どんな順番で作業を行えば良いのか</p> <p>第 4回 工程編成：均等に作業を割り当てるには</p> <p>第 5回 プロジェクト管理：プロジェクトをなるべく早く終わらせるには</p> <p>第 6回 設備配置：設備のキャパシティはどれくらいにすれば良いのか</p> <p>第 7回 生産計画：何をどれくらい作れば一番儲かるのか</p> <p>第 8回 作業分析：作業者の動作を分析する</p> <p>第 9回 投資計画 1：お金の現在価値と将来価値</p> <p>第 10回 投資計画 2：プロジェクトの価値</p> <p>第 11回 在庫問題：在庫コストを少なくする</p> <p>第 12回 評価と選択：複数の代替案の中から一番良いものを選ぶ</p> <p>第 13回 最短経路：一番近い道を探す</p> <p>第 14回 配送計画：配達順序を決める</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	期末試験 (100%)			

授業科目	コンピュータ会計		担当者	宗田 健一
	[履修年次] 2年	[学期] 前期	[単位] 1	[授業外対応] 適宜対応 (要予約：メールが望ましい)
			[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 パソコンを用いた財務諸表分析</p> <p>【概要】 各種分析手法 (成長性, 収益性, 安全性) について学習し, 個別企業・グループの財務諸表分析を行います。その際、『金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム』(通称: EDINET (Electronic Disclosure for Investors' NETwork)) を用いて実際の財務諸表データを入手して各種分析を行います。</p> <p>【到達目標】 基本的な財務諸表分析が行えるようになる。エクセルを用いて財務データを表やグラフに加工することができるようになる。実際のデータを用いた各種分析を行い, その結果の解釈を行うことができるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント等を随時配布。講義初回に指示。</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：履修登録確認、講義計画に関する説明</p> <p>第 2回 会計情報の利用者：利害関係者、会計情報の入手方法 (EDINET の使い方、アニュアルレポートの入手等)</p> <p>第 3回 有価証券報告書：全体像、記載内容の確認、分析対象企業の絞り込み</p> <p>第 4回 会計学と財務情報・非財務情報について</p> <p>第 5回 財務諸表分析による企業分析① (収益性分析：ROA, ROE など)</p> <p>第 6回 財務諸表分析による企業分析② (収益性分析：損益分岐点分析など)</p> <p>第 7回 財務諸表分析による企業分析③ (成長性分析：各種増加率など)</p> <p>第 8回 財務諸表分析による企業分析④ (成長性分析：売上予測など)</p> <p>第 9回 財務諸表分析による企業分析⑤ (安全性分析：短期的視点, 長期的視点など)</p> <p>第 10回 財務諸表分析による企業分析⑥ (キャッシュ・フロー分析①)</p> <p>第 11回 財務諸表分析による企業分析⑦ (キャッシュ・フロー分析②)</p> <p>第 12回 時系列分析 (2社以上)</p> <p>第 13回 同業他社比較分析 (2社以上)</p> <p>第 14回 学生による分析報告とディスカッション</p> <p>第 15回 まとめ：レポート試験の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する			
成績評価の方法	講義での発言内容、講義 (毎回ではないが) で作成した資料 (40%)、および期末レポート (60%) で評価する。			

会計系科目の履修の流れ
(初学者向け)
1年前期：簿記論Ⅰ
1年後期：簿記論Ⅱ
財務会計論
2年前期：簿記論Ⅲ
コンピュータ会計
原価計算
2年後期：経営分析
管理会計論

(注) なお、受講生の学習進捗状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。

授業科目	応用データ活用		担当者	倉重賢治
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
				[授業形態]
				実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 リレーショナルデータベースの概念と基本操作</p> <p>【概要】 実務でのコンピュータ利用において、データベース処理ソフトは、非常に重要な役割を果たしている。この演習では、まず、リレーショナルデータベースの基本的な概念を論じる。次に、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の基本操作を修得し、データベース設計に関する問題に取り組んでいく。</p> <p>【到達目標】 データベースソフトの Access を利用して、簡単なシステム開発を行う</p>			
(1)テキスト	(1) 『30時間でマスター Access2013』, 実教出版			
(2)参考文献	(2) 特になし			
授業スケジュール	第 1回 序論：リレーショナルデータベースの概念 第 2回 Access の操作：Access とは 第 3回 Access の操作：レコードの並べ替え 第 4回 Access の操作：レコードの追加 第 5回 Access の操作：フォームの作成 第 6回 Access の操作：選択クエリの作成 第 7回 Access の操作：さまざまなクエリ 第 8回 Access の操作：アクションクエリ 第 9回 Access の操作：データベースの設計 第 10回 Access の操作：リレーションシップの作成 第 11回 Access の操作：リレーションシップされたクエリの計算 第 12回 Access の操作：レポートの作成 第 13回 Access の操作：レポートのアレンジ 第 14回 Access の操作：マクロの利用 第 15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	講義中の小テスト (50%) + 期末試験 (50%)			

授業科目	プログラミング		担当者	倉重賢治
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
				[授業形態]
				実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 VBA (Visual Basic for Application) を用いたプログラミング</p> <p>【概要】 プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBA の利用により、さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的なプログラミング技術を身につける。 VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。 			
(1)テキスト	(1) 七条達弘、『やさしくわかる ExcelVBA プログラミング 第5版』, ソフトバンククリエイティブ			
(2)参考文献	(2) 特になし			
授業スケジュール	第 1回 序論：プログラミングの概念 第 2回 VBA の利用：関数と変数 第 3回 VBA の利用：条件分岐 第 4回 VBA の利用：オブジェクトの基本 第 5回 VBA の利用：繰り返し操作 第 6回 VBA の利用：マクロの登録と自作関数 第 7回 VBA の利用：マクロの記録 第 8回 VBA の利用：文字列と日付関数 第 9回 VBA の利用：変数の型宣言と配列 第 10回 VBA の利用：プロシージャとオブジェクト 第 11回 VBA の利用：セル操作の詳細 第 12回 VBA の利用：イベントプロシージャ 第 13回 VBA の利用：ユーザーフォーム 1 第 14回 VBA の利用：ユーザーフォーム 2 第 15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	講義中の小テスト (50%) + 期末試験 (50%)			

授業科目	簿記論Ⅲ	担当者	櫛部幸子
	[履修年次] 1, 2 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	授業終了時
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基礎原理から応用論点へ</p> <p>【概要】複式簿記の基礎原理・応用論点・記帳技術を、講義と演習により学習する。</p> <p>【到達目標】簿記一巡の手続きと基礎原理・応用論点を理解し、財務諸表を作成することができる。損益会計、資産会計、負債会計、および純資産会計について理解することができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)		
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス(履修確認 講義計画の説明、簿記理解度チェック等) 第 2 回 簿記の基本概念：資産・負債・純資産 第 3 回 資産会計(意義と認識・測定) 第 4 回 資産会計(流動資産・固定資産・繰延資産) 第 5 回 負債会計(意義・分類・評価) 第 6 回 負債会計(金銭債務・引当金) 第 7 回 純資産会計(意義) 第 8 回 純資産会計(分類) 第 9 回 損益会計(収益と費用) 第 10 回 損益会計(利益の計算方法) 第 11 回 損益会計(商品販売 1) 第 12 回 損益会計(商品販売 2) 第 13 回 財務諸表(貸借対照表) 第 14 回 財務諸表(損益計算書) 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	毎回、前回の授業内容の小テストを行うため、授業のテーマに関する復習を計 4 時間程度行うこと。復習を中心に、繰り返し演習問題を解くこと。具体的な内容は、毎回授業時に板書にて指示します。		
成績評価の方法	期末試験(70%)と毎回の小テストの結果(30%)。		

授業科目	情報論特講	担当者	岡村俊彦, 倉重賢治
	[履修年次] 2 年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>ICT (情報通信技術) について実用的、応用的な学習をおこなう。</p> <p>【概要】</p> <p>ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークといった ICT を学び、日商 PC 検定 2 級知識科目と同等以上の知識を得る。さらに、コンピュータを用いた意思決定法やデータ処理について学習を行う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>実社会において、自ら ICT 業務に携わり、効果的、効率的な活用ができるようにする。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) FOM 出版「日商 PC 検定試験 知識科目 2 級対策問題集」、プリント (2) 特になし		
授業スケジュール	第 1 回 概要説明：授業概要と評価方法の説明 第 2 回 ハードとソフト：PC 等の ICT 機器のハードウェア、ソフトウェアの解説 第 3 回 コンピュータのハードウェア 1：PC の実物を分解し、ハードの構成と役割の学習 第 4 回 コンピュータのハードウェア 2：PC の実物によるインターフェースの学習 第 5 回 ソフトウェアの設定：アプリケーションやドライバなどソフトの導入と設定 第 6 回 ネットワークの仕組みと設定：ネットワーク機器と各種設定 第 7 回 ウェブ活用：さまざまなウェブサービスの利用と注意事項 第 8 回 コンピュータが扱う数字 1：2 進数と 16 進数 第 9 回 コンピュータが扱う数字 2：負の数と実数 第 10 回 情報セキュリティ：共通鍵暗号と公開鍵暗号 第 11 回 シミュレーション 1：シミュレーションとは 第 12 回 シミュレーション 2：エクセルを用いたシミュレーション 第 13 回 意思決定：エクセルのソルバー 第 14 回 データ分析：エクセルのデータ分析 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	レポート (75%) + 期末試験 (25%)		

(注)「情報科学概論」(担当：岡村)を履修済み、もしくは同等以上の学習が終了している者を対象とする

13 第二部商経学科教養科目
(教養一般)

授業科目	人間と文化	担当者	木戸 裕子・北 一浩・中熊 美和・田中 真理 小林 朋子・田口 康明・宗田 健一
	[履修年次] 1～3年いずれでも履修可	[学期] 前期(集中講義)	
	[単位] 2 単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】文化という人間の営みを、人文・社会諸科学の多岐にわたる分野から考察する。</p> <p>【概要】県立短大3学科の教員7名が、それぞれの分野から、さまざまな地域・時代における「文化」を、異なる角度から考察します。1週間という集中した期間に、多角的な知見を学ぶことで、受講生にとって、時代と社会の趨勢を理解する幅広い教養を身につけることを期待します。 (9/12,9/13,9/14,9/15,9/19,9/20,9/21の集中講義。県内大学等のコーディネイト科目であり、他大学等の学生も受講する) (第6回の調理実習では材料費実費(300円程度)が必要です。)</p> <p>【到達目標】人間と文化について学際的に学ぶことにより、さまざまな事象を多面的に考察する姿勢を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定(必要に応じて後日指示します。) (2) 授業中、必要に応じて指示します。		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス、日本の古典文学と文化(1)(木戸 裕子) 第2回 日本の古典文学と文化(2)(木戸 裕子) 第3回 人間活動と空間形成(1)(北 一浩) 第4回 人間活動と空間形成(2)(北 一浩) 第5回 食生活と文化(中熊 美和) 第6回 郷土料理を作ってみよう。～かごしまの郷土料理～(調理実習あり)(中熊 美和) 第7回 こころと文化(田中 真理) 第8回 文化と自己(田中 真理) 第9回 比較文化の可能性(1)(小林 朋子) 第10回 比較文化の可能性(2)(小林 朋子) 第11回 子どもの人権(田口 康明) 第12回 障害者の権利(田口 康明) 第13回 空運業の歴史と文化ー空運業の特徴を学ぶー(宗田 健一) 第14回 空運業の歴史と文化ー航空会社の経営を知るー(宗田 健一) 第15回 まとめ (順番、内容を変更することがあります)		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します。		
成績評価の方法	レポートの提出(85%)と毎回の授業の感想・意見等(15%)で評価します。		

授業科目	日本の歴史	担当者	永山修一
	[履修年次] 1, 2, 3年	授業外対応	適宜対応
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】原始～中世前期の「日本の歴史」</p> <p>【概要】日本全体の歴史の流れを視野に入れ、十分に意識しながら、南九州から南島に生活した人々の姿、なるべく最新の情報を使用しながら概観していく。</p> <p>【到達目標】身近な歴史に関心を持つことができ、歴史的思考力の一端を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業時に配布 (2) 『鹿児島県の歴史』(山川出版社, 1999年)原口泉・永山修一・日隈正守・松尾千歳・皆村武一		
授業スケジュール	第1回 歴史の見方 第2回 資料と史料 第3回 旧石器時代 第4回 縄文時代 第5回 弥生時代 第6回 古墳時代 第7回 神話と伝承 第8回 隼人の登場 第9回 隼人の戦い 第10回 薩摩国正税帳を讀む 第11回 隼人の「消滅」 第12回 平安時代の薩摩・大隅(1) 第13回 平安時代の薩摩・大隅(2) 第14回 奄美諸島の歴史 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	特になし		
成績評価の方法	授業時毎の小レポート レポート		

授業科目	日本文学・古典	担当者	木戸裕子
	[履修年次] 1,2,3年次いずれでも可 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	オフィスアワーに準じる
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】古典文学の主人公像をさぐる</p> <p>【概要】日本の古典文学にはさまざまなキャラクターが登場します。そのなかには、英雄というにふさわしい主人公もいれば、現代人の目から見ると主人公らしくない人物もいます。この講義では、『古事記』『日本書紀』の中の神話の英雄、平安時代の王朝物語の主人公、鎌倉時代の軍記物の武人を通して、昔の人が考えた主人公像とはどんなものだったのか考えていきます。</p> <p>【到達目標】古典文学に親しむ。主人公らしさとはどんなものなのか考え、自分の言葉で説明できるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) ビギナーズクラシックス『古事記』角川ソフィア文庫、『落窪物語上・下』角川ソフィア文庫 ビギナーズクラシックス『源氏物語』角川ソフィア文庫、ビギナーズクラシックス『とりかへばや』角川ソフィア文庫、ビギナーズクラシックス『平家物語』角川ソフィア文庫</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：初めに。主人公とは何か</p> <p>第2回 神話の英雄1：素戔鳴尊1</p> <p>第3回 神話の英雄2：素戔鳴尊2</p> <p>第4回 神話の英雄3：大国主命1</p> <p>第5回 神話の英雄4：大国主命2</p> <p>第6回 伝説の英雄1：倭健命1</p> <p>第7回 伝説の英雄2：倭健命2</p> <p>第8回 理想の主人公1：落窪物語</p> <p>第9回 理想の主人公2：源氏物語1</p> <p>第10回 理想の主人公3：源氏物語2</p> <p>第11回 男装の麗人？：とりかへばや</p> <p>第12回 中世の武人1：平家物語1</p> <p>第13回 中世の武人2：平家物語2</p> <p>第14回 中世の武人3：平家物語3</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業で取り扱った作品を読む。主人公について考える		
成績評価の方法	毎回の授業のコメントカード (50%) レポート (50%)		

授業科目	こころの科学	担当者	田中 真理
	[履修年次] 1, 2年, 3年いずれも履修可 [学期] 前期 [単位] 2 単 位	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】心理学に関する学問領域や方法論、自己理解や他者理解に関する知識、発達の視点や精神的健康にかかわる基礎知識について学ぶ。</p> <p>【概要】本講義では特に、社会心理学、臨床心理学、発達心理学の観点から、人間の行動や心理の理解、日常生活における精神的健康に関わる知識、さらには青年期以降の発達の視点の習得を目指す。体験的な学習も行うため、適宜テーマにそって、質問紙調査や心理検査、コミュニケーション・ワークなどを用いた実習を取り入れる。</p> <p>【到達目標】①自己理解や他者理解を深めるための知識の習得を目標とする。 ②精神的健康やその予防・対処に関する知識の習得を目標とする。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。</p> <p>(2) ①スーザン・ノーレン・ホークセマ他著『ヒルガードの心理学 第16版』金剛出版, 2015年 ②中野敬子著『ストレス・マネジメント入門[第2版]—自己診断と対処法を学ぶ』金剛出版, 2016年 ③大野久編著『エピソードでつかむ青年心理学』ミネルヴァ書房, 2010年 ④大川一郎著『エピソードでつかむ老年心理学』ミネルヴァ書房, 2011年</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 心理学の分野①：認知心理学, 社会心理学, 人格心理学,</p> <p>第3回 心理学の分野②：発達心理学, 教育心理学, 臨床心理学</p> <p>第4回 方法論①：実験法, 観察法</p> <p>第5回 方法論②：調査法</p> <p>第6回 社会心理学①：自己概念</p> <p>第7回 社会心理学②：対人認知</p> <p>第8回 社会心理学③：社会的影響, 態度変容</p> <p>第9回 臨床心理学①：ストレス理論</p> <p>第10回 臨床心理学②：ストレス関連障害, うつ病</p> <p>第11回 臨床心理学③：ストレスマネジメント</p> <p>第12回 発達心理学①：青年期の発達</p> <p>第13回 発達心理学②：成人期～中年期の発達</p> <p>第14回 発達心理学③：高齢期の発達</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業への参加度 (10%), 授業内で課される小レポート課題 (30%) +試験 (60%)		

授業科目	比較文化(第二部)		担当者	小林朋子				
	[履修年次]	1年、2年、3年いずれでも履修可	授業外対応	適宜対応(要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】お伽話で学ぶ比較文化</p> <p>【概要】お伽話の深層はすなわち文化の深層である。「赤ずきん」、「白雪姫」など、おなじみのお伽話には、ジェンダー、セクシュアリティ、政治、コロニアリズムなど、ありとあらゆる「文化」の問題が凝縮されている。これらの問題は多様な文化が接触する現代社会を生きる我々の今日的な問題でもある。本講義はまず時代ごとに変遷する「赤ずきん」のテキストを比較対照することで、文化の諸問題を明るみに出す。さらにそれらのテキストを身近な日本文化に引き合わせることで、人類の文化に内在する普遍性について解説する。第14回目からは履修者の最終レポートの要旨を授業内で発表しディスカッションを行う。</p> <p>【到達目標】比較文化の方法を学ぶ。英語読解力を向上させる。他言語を話す人々の価値観を知る。情報を的確に調査する能力、またそれを発信する自己表現能力を向上させる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 原英一編著『お伽話による比較文化論』(松柏社刊、1994年)</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 「赤ずきん」(1) —ペローの「赤ずきん」</p> <p>第3回 「赤ずきん」(2) —赤いずきんが覆うものは何か</p> <p>第4回 「赤ずきん」(3) —ティークの「赤ずきんちゃんの生と死」</p> <p>第5回 「赤ずきん」(4) —ウーマン・リブと日本のフェミニズム(下田歌子『良妻と賢母』を中心に)</p> <p>第6回 「赤ずきん」(5) —グリム兄弟の「赤ぼうしちゃん」</p> <p>第7回 「赤ずきん」(6) —「金ずきん」と「緑ずきん」</p> <p>第8回 「赤ずきん」(7) —パロディー化の可能性(『日本沈没』を中心に)</p> <p>第9回 「赤ずきん」(8) —民衆の根源的なエネルギー(落語「たがや」を中心に)</p> <p>第10回 「赤ずきん」(9) —「おばあちゃんのお話」フォークロア研究と糞尿譚</p> <p>第11回 「白雪姫」—ジェンダーの寓話(精神分析学と分析心理学)</p> <p>第12回 英語文化の基底としてのマザーグース—翻訳の可能性(1)</p> <p>第13回 英語文化の基底としてのマザーグース—翻訳の可能性(2)</p> <p>第14回 レポート発表会</p> <p>第15回 レポート発表会とまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。							
成績評価の方法	授業への参加態度(40%)、小レポート(20%)、最終レポート(40%)							

授業科目	アジア文化論		担当者	川野 和昭				
	[履修年次]	不問	授業外対応	授業終了後				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】東・南アジアと南九州及び南西諸島の竹の文化の比較。</p> <p>【概要】講師自ら行っているラオス北部の少数民族及び南九州、南西諸島のフィールドワークのデータを、「竹の文化」という切り口で、両地域の文化比較を行う。現地で撮影した映像を豊富に用いた講義を行う。</p> <p>【到達目標】「竹の文化」をキーワードに、東南アジアの文化の特質を明らかにするとともに、日本列島及びアジアにおける鹿児島島の文化的アイデンティティを確認する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストなし。その都度手作りの資料を配布する。</p> <p>(2)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 本講の概要、目的、方法、評価について。アジア地域の確認</p> <p>第2回 焼畑文化、特に「竹の焼畑」文化。南九州から南西諸島</p> <p>第3回 //</p> <p>第4回 //</p> <p>第5回 ラオス北部の「竹の焼畑」文化</p> <p>第6回 //</p> <p>第7回 //</p> <p>第8回 //</p> <p>第9回 稲作儀礼と稲作神話の比較</p> <p>第10回 //</p> <p>第11回 //</p> <p>第12回 竹の生活道具の比較</p> <p>第13回 //</p> <p>第14回 //</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	学期末筆記試験(60%)と授業への意欲(40%)							

授業科目	日本国憲法		担当者	山本 敬生																																													
	[履修年次]	1, 2, 3 年履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約)																																													
	[学期]	後期	[単位]	2 単位																																													
			[必修/選択]	選択																																													
			[授業形態]	講義																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本国憲法の基本原理である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を体系的に理解した上で、日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに、基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年、その価値が問い直されている一方、新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では、国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権、平和に崇高な価値をおき、その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義、個人の尊厳の原理に基づき、個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原理を中心として、人類の叡智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。</p> <p>【到達目標】日本国憲法の基本原理を深く理解し、政治的・社会的諸問題について憲法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>																																																
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 山口友信他編、『ポケット六法（平成29年度版）』、有斐閣</p>																																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>憲法概論</td> <td>・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>基本権総論</td> <td>・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>幸福追求権</td> <td>・幸福追求権、プライバシーの権利、肖像権、法の下での平等について</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>精神的自由権(1)</td> <td>・思想・良心の自由、沈黙の自由、信教の自由、政教分離の原則について</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>精神的自由権(2)</td> <td>・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、報道の自由について</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>精神的自由権(3)</td> <td>・集会の自由、結社の自由、学問の自由、大学の自治について</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>経済的自由権</td> <td>・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>受益権</td> <td>・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>社会権(1)</td> <td>・生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>社会権(2)</td> <td>・勤労権、労働基本権、参政権、選挙権について</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>国会(1)</td> <td>・国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>国会(2)</td> <td>・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>内閣</td> <td>・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について</td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>裁判所</td> <td>・最高裁判所の権限、統治行為論、部分社会の法理、違憲審査制について</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>財政</td> <td>・財政民主主義、租税法律主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について</td> </tr> </table>				第 1 回	憲法概論	・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について	第 2 回	基本権総論	・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について	第 3 回	幸福追求権	・幸福追求権、プライバシーの権利、肖像権、法の下での平等について	第 4 回	精神的自由権(1)	・思想・良心の自由、沈黙の自由、信教の自由、政教分離の原則について	第 5 回	精神的自由権(2)	・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、報道の自由について	第 6 回	精神的自由権(3)	・集会の自由、結社の自由、学問の自由、大学の自治について	第 7 回	経済的自由権	・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について	第 8 回	受益権	・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について	第 9 回	社会権(1)	・生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について	第 10 回	社会権(2)	・勤労権、労働基本権、参政権、選挙権について	第 11 回	国会(1)	・国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について	第 12 回	国会(2)	・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について	第 13 回	内閣	・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について	第 14 回	裁判所	・最高裁判所の権限、統治行為論、部分社会の法理、違憲審査制について	第 15 回	財政	・財政民主主義、租税法律主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について
第 1 回	憲法概論	・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について																																															
第 2 回	基本権総論	・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について																																															
第 3 回	幸福追求権	・幸福追求権、プライバシーの権利、肖像権、法の下での平等について																																															
第 4 回	精神的自由権(1)	・思想・良心の自由、沈黙の自由、信教の自由、政教分離の原則について																																															
第 5 回	精神的自由権(2)	・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、報道の自由について																																															
第 6 回	精神的自由権(3)	・集会の自由、結社の自由、学問の自由、大学の自治について																																															
第 7 回	経済的自由権	・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について																																															
第 8 回	受益権	・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について																																															
第 9 回	社会権(1)	・生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について																																															
第 10 回	社会権(2)	・勤労権、労働基本権、参政権、選挙権について																																															
第 11 回	国会(1)	・国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について																																															
第 12 回	国会(2)	・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について																																															
第 13 回	内閣	・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について																																															
第 14 回	裁判所	・最高裁判所の権限、統治行為論、部分社会の法理、違憲審査制について																																															
第 15 回	財政	・財政民主主義、租税法律主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について																																															
授業外学習(予習・復習)	適宜指示																																																
成績評価の方法	筆記試験(90%)＋授業での発言内容(10%)を基準にして評価する。																																																

授業科目	ライフプランニング		担当者	瀬尾由美子																														
	[履修年次]	1, 2, 3 年履修可	授業外対応	適宜対応																														
	[学期]	前期	[単位]	2																														
			[必修/選択]	選択																														
			[授業形態]	講義																														
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>将来の生活設計に必要な「ライフプランニングの考え方」を身につける</p> <p>【概要】「ライフプランニング」とはこれから先の人生をどのように過すのかを思い描き、実現するための方法を考え、計画を立てることである。「ライフプランニング」の考え方を学ぶことで、経済的に自立し、安心して将来の生活を過ごすことができるようになる。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフプランニングに必要な金融や経済に関する基礎知識を身につける。 ・金融商品や各種サービスの選択をする際に適切な判断ができるようになる。 																																	
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 「大学生のための人生とお金の知恵」 金融広報中央委員会（無償提供）、プリント</p> <p>(2) 「金融リテラシー入門」 金融リテラシー教育推進委員会（無償提供）、</p>																																	
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>ライフプランニングの必要性と考え方</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>これからの人生のライフデザインを思い描く</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>キャリアプランニングとライフプランニングの関係性</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>社会保険制度の概要と基礎知識</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>公的年金制度の概要と基礎知識</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>所得税の基礎知識と源泉徴収票の見方</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>消費と投資の考え方の違い</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>貯蓄と運用の違いと考え方</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>運用する際の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>ローンやクレジットカードの考え方</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>生命保険の基礎知識と考え方</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>損害保険の基礎知識と考え方</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>セカンドライフプランニングの考え方</td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>セーフティネットを理解する</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>まとめ</td> </tr> </table>				第 1 回	ライフプランニングの必要性と考え方	第 2 回	これからの人生のライフデザインを思い描く	第 3 回	キャリアプランニングとライフプランニングの関係性	第 4 回	社会保険制度の概要と基礎知識	第 5 回	公的年金制度の概要と基礎知識	第 6 回	所得税の基礎知識と源泉徴収票の見方	第 7 回	消費と投資の考え方の違い	第 8 回	貯蓄と運用の違いと考え方	第 9 回	運用する際の基礎知識	第 10 回	ローンやクレジットカードの考え方	第 11 回	生命保険の基礎知識と考え方	第 12 回	損害保険の基礎知識と考え方	第 13 回	セカンドライフプランニングの考え方	第 14 回	セーフティネットを理解する	第 15 回	まとめ
第 1 回	ライフプランニングの必要性と考え方																																	
第 2 回	これからの人生のライフデザインを思い描く																																	
第 3 回	キャリアプランニングとライフプランニングの関係性																																	
第 4 回	社会保険制度の概要と基礎知識																																	
第 5 回	公的年金制度の概要と基礎知識																																	
第 6 回	所得税の基礎知識と源泉徴収票の見方																																	
第 7 回	消費と投資の考え方の違い																																	
第 8 回	貯蓄と運用の違いと考え方																																	
第 9 回	運用する際の基礎知識																																	
第 10 回	ローンやクレジットカードの考え方																																	
第 11 回	生命保険の基礎知識と考え方																																	
第 12 回	損害保険の基礎知識と考え方																																	
第 13 回	セカンドライフプランニングの考え方																																	
第 14 回	セーフティネットを理解する																																	
第 15 回	まとめ																																	
授業外学習(予習・復習)	適宜指示																																	
成績評価の方法	講義中ごとの感想 (50%) ＋ 期末試験 (50%)																																	

授業科目	環境問題	担当者	相場慎一郎・井余田秀美・長田啓・野呂忠秀・岡村雄輝		
	[履修年次] 1, 2 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応	[授業形態]	講義
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】環境問題を様々な角度から考える</p> <p>【概要】森林(相場), 化学(井余田), 環境保護行政(長田), 水産(野呂), 企業社会(岡村)の視点から環境問題を考える</p> <p>【到達目標】環境に関する複眼的思考を養う</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない。 (2)				
授業スケジュール	第 1回 総論：環境問題とは？ 第 2回 生物多様性と生態系 第 3回 野生動物問題と自然保護 第 4回 化学（1）：生活環境と公害 第 5回 化学（2）：地球環境汚染 第 6回 化学（3）：環境に配慮した生活 第 7回 自然環境問題（1）生物多様性と私たちの暮らし 第 8回 自然環境問題（2）世界自然遺産と保護地域制度 第 9回 自然環境問題（3）希少種の保護と外来種問題 第 10回 海（1）海洋生態学と環境保全 第 11回 海（2）赤潮 第 12回 海（3）磯焼け 第 13回 企業のグローバル化とその影響（1） 第 14回 企業のグローバル化とその影響（2） 第 15回 企業と公害				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。				
成績評価の方法	20点満点（講師一人あたり）×5				

授業科目	かごしまレτζ教育	担当者	福重 一成		
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	授業終了後及びメールによる（アドレスは授業中に告知）	[授業形態]	講義
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】伝わる日本語とは何かを学ぶ</p> <p>【概要】自分の頭で考え、そして考えたことを実際に話したり書いたりすることで、下記①②の目標への到達を目指します。この授業では特に「話す・書く」という部分に重点を置き、スピーチや論理的な文章の執筆などを行います。</p> <p>【到達目標】相手に伝えたいことをうまく伝えられず友人との人間関係に溝ができてしまった」あるいは「アルバイトの面接などにおいて自己アピールをうまくできず後悔した」というようなことは誰しも経験があるのではないのでしょうか。 演習形式の本授業は、主に以下の2つの能力の習得・研鑽を目指します。 ◇ 円滑な対人コミュニケーションを行える能力 ◇ これまでにインプットしてきた内容を適切にアウトプットできる能力 これらの能力を身につけることで、必要な情報を正確に受け取れるようになったり、情報的的確に伝達・表現できるようになったり、あるいは聞き手への十分な気配りが行えるようになり、その結果冒頭に挙げたようなトラブルが生じにくくはならずです。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) テキストは指定せず、毎回プリントを配布します。 (2) 参考文献も授業の中で必要に応じて紹介してゆきます。				
授業スケジュール	第 1回 授業の進め方の説明 第 2回 偏愛マップでコミュニケーション 第 3回 わかりやすい文章を書く（1）あいまい文 第 4回 わかりやすい文章を書く（2）接続詞の上手な使い方 第 5回 わかりやすい文章を書く（3）Eメールの文章 第 6回 自己紹介をする（1）自分を紹介するという事 第 7回 自己紹介をする（2）みんなの前で話してみよう 第 8回 敬語のしくみ（1）3種類の敬語 第 9回 敬語のしくみ（2）間違いやすい敬語 第 10回 敬語のしくみ（3）敬語を使いこなすために 第 11回 会話を楽しむ（1）会話を長続きさせるコツ 第 12回 会話を楽しむ（2）ことわざでユーモアを、四字熟語で伝えたい気持ちに深みを 第 13回 想いを伝える（2）手紙の執筆 第 14回 想いを伝える（3）スピーチの準備 第 15回 想いを伝える（4）自分を人に知ってもらおうためのスピーチ				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	平素の作業の成果（50%）、提出物（30%）、学期末実施のスピーチ発表（20%）。 ※5回以上の欠席は単位を出さない。30分以上の遅刻は欠席扱いとする。				

(注) 受講者数は20名を上限とします。

(注) 希望者多数で抽選となる場合は、「かごしま教養プログラム」「かごしまフィールドスクール」受講希望者を優先します。

	かごしま教養プログラム	担当者	県内8大学の担当教員
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] [必修/選択]	前期集中 選択(注) [授業形態] 講義方式
授業科目	<p>【概要】この講義では、鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた、鹿児島を素材にした授業を持ち寄り、「グローバルな視点から見たかごしま再発見」というテーマに基づき、リベラルアーツ教育を行います。3日間の夏期集中授業で、講義とグループ学習を行います。ディベートなどを取り入れ、学生間でよく話し合い、切磋琢磨しながら学習します。</p> <p>【学習目標】①講義で提示される鹿児島独自の文化、自然、社会、産業などのテーマについて、内容をよく理解し、自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。 ②グループ学習により、テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い、グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ、それを適切に発表できる。 ③テーマに関してグループで検討し得られた結論等について、受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 未定		
授業スケジュール	<p>第1回 平成28年度実施概要(平成29年度については未定。若干の変更の予定があります。)</p> <p>日程 : 平成28年8月17日(水)～19日(金) 場所 : 鹿児島大学 定員 : 県内8大学等の学生 150人程度</p>		
成績評価の方法	未定		

(注)「かごしまカレッジ教育」または「日本語表現法」(日本語日本文学専攻のみ)の履修が条件となります。

	かごしまフィールドスクール	担当者	県内11大学の担当教員
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] [必修/選択]	前期集中 選択(注) [授業形態] 実習方式
授業科目	<p>【概要】地場産業、農業、商業、文化、観光、環境、暮らしなどにかかわる地域・施設などを学習の場とし、そこに内在する特徴や住民・関係者の暮らし、今後の方向性への住民・関係者の意識などを実践的に学習し、今後、地域を活性化していくための方策について考察し、若者のグローバルな視点でそれらを発展させる方策などについて考えます。</p> <p>この活動により、鹿児島の本質と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローバルな素養」を身につけ、あるいは自己開発の能力を身につけます。具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し、考察・討論・発表を通じた理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通じた総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。</p> <p>【学習目標】①指定地域内の調査地区の実地視察や関係者との交流を通して、同地区の住民生活、商業活動、文化活動等の特徴を把握し、選択したテーマに関する独自の問題を地洋さする。 ②同地区等のさらなる活性化のために、今後どのような展望が望ましいか、どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え、グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。 ③実地調査、討論、発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。 テーマ別に編成されたグループにおいて、これらの3つの学習目標を達成する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 未定		
授業スケジュール	<p>第1回 平成28年度実施概要(平成29年度は未定。若干の変更の予定があります。)</p> <p>日程・場所 : ①平成28年8月22日(月)～24日(水) 出水市 ②平成28年8月24日(水)～27日(土) 鹿児島市、いちき串木野市、薩摩川内市、出水市、始良市 ③平成28年8月29日(月)～9月1日 南さつま市</p> <p>定員 : 県内8大学等の学生 60人程度</p>		
成績評価の方法	未定		

授業科目	キャリアデザイン	担当者	担当教員
		[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] [必修/選択]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】1年生を対象に、卒業後のキャリア形成についての具体的なイメージを描けるようになること</p> <p>【概要】近年の若者を巡る就職状況の厳しさの中、本学の学生も卒業後の進路のイメージは人それぞれである。入学時にすでに明確な就職希望を持っている学生もいるが、自分の興味だけで考えている場合、キャリア構築という点からは一面的な見方しかできていないおそれがある。入学時には興味のなかった様々な職種をできるだけ系統的に紹介し、社会の中で働くことの心構えや具体的な就職準備作業などキャリアデザインに必要な知識理解を系統的に身につけることを目指す。短期的な就職活動だけのためではなく、社会人として自立するために必要な自分なりのキャリアデザインを作り上げていく心構えを育てる助けになるであろう。</p> <p>【到達目標】本講義を通じて、県短生をとりまく就業環境、社会の中で働くことの意味、就職活動の実践的な進め方などを系統的に学んでいただきたい。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	<p>[講師陣は平成28年度実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1期(8月1日) 社会人になる(就職する)ことはなぜ必要なのか、県短を取り巻く就職状況はどうかのキャリア教育の総論的な講義を行う。 講師：有村恵美(生活科学科助教)、内田昌廣(商経学科教授)、西村道子(株式会社 昂) 川村美鈴(KTS 鹿児島テレビ) ・第2期(9月20,21日) 地域を代表する企業・団体の経営者の話を聞き、働くことの意味、会社組織と学生生活との違いを考える。社会人として要求される発想力・コミュニケーション力をアップするワークショップを体験する。 講師：前田幸一(株浜島印刷)、田原武志(株アシップ)、丸田真悟(NPO 法人かごしまアトネットワーク) 木下慎吾((有)丸徳産業)、和田茂子、西山元子(鹿児島労働局) ・第3期(12月13日) 県短生が多く志望する企業の人事・採用担当者や実際に現場で活躍しているOB・OGから話を聞き、進路イメージを具体化させる。 講師：井川直子(株健康家族)、村上徹(サツマ酸素工業(株))、 小泉正一(株フォーバル)、秋葉重登(鹿児島相互信用金庫)、本学卒業生4人(中学校教員など) ・第4期(2月11日) いよいよ実際の就職活動を目前に控えて、労働基準法など社会人として働くために必要な法的知識を身につけるとともに、具体的な就職準備作業を行う。 講師：疋田京子(商経学科准教授)、学生部学生課職員 ※29年度のスケジュール・講師はお適宜掲示する。 		
成績評価の方法	レポート提出2回(100%)		

(注) 29年度は3年生も希望者のみ履修可

14 第二部商経学科教養科目
(外国語科目)

授業科目	英語 I (A)		担当者	石井 英里子
	[履修年次]	1 年	授業外対応	適宜 (要予約)
	[学期]	前期 [単位]	1	[必修/選択] 選択 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を使う本質的意味の理解を深めながら、英語で自己発信するスキルを向上させる。</p> <p>【概要】 本授業では、各自が興味を持つテーマに関するプロジェクトに取り組む。プロジェクトに関するプレゼンテーションを段階的に準備し発表することを通して、英語の自己発信力を高める。英語のスキル向上だけでなく、何のために英語を使うのか、何のために英語を学ぶのかについて再考し、自身の理想の英語ユーザーとなるためにはどのようなことが必要かについて考える。</p> <p>【到達目標】 ①各自が興味を持つテーマに関して、積極的に英語で表現することができる。②英語で発表の司会や内容に関する質疑応答ができる。③英語で表現することや今後の英語学習への興味・関心・意欲を持つ。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Suzuki, Y. (2013). <i>Do Your Own Project in English. Volume 1</i>. Nan'un-do. (¥1,800)</p> <p>(2) 適宜授業で紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Course introduction, Unit 1 Introducing yourself and others 第 2 回 Unit 2 Self-appeal 第 3 回 Unit 3 What is research? 第 4 回 Unit 4 An outline/overview of research 第 5 回 Unit 5 Organizing ideas and data 第 6 回 Unit 6 The diversity/range of research methods 第 7 回 Unit 7 Writing a script for an oral presentation 第 8 回 Unit 8 Mid-term presentation (1) 第 9 回 Unit 9 Mid-term presentation (2) 第 10 回 Unit 10 Responding to questions, interrupting and repeating 第 11 回 Unit 11 Responding to questions, confirming and explaining 第 12 回 Unit 12 Preparing for final mini-presentation - Written presentation 第 13 回 Unit 13 Final mini-presentation (1) 第 14 回 Unit 14 Final mini-presentation (2) 第 15 回 Unit 15 Final mini-presentation (3) and course review</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習(発表準備含む) 2時間、復習 1時間以上必要である。			
成績評価の方法	授業への取り組み(40%)、中間発表(20%)、最終発表(40%)で評価する。			

授業科目	英語 I (B)		担当者	霧島 S. 怜
	[履修年次]	1 年	授業外対応	要件のある時は、講義の前後に申し出て下さい
	[学期]	前期 [単位]	1	[必修/選択] 選択 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 An Understanding of Spoken Sentences and A Guided Mini- conversation. (相手の理解と会話の試み)</p> <p>【概要】 学生の皆さん、“Roma meravigliosa non era costruita durante una notte” (素晴らしいローマは一夜にしてならず) というヨーロッパの有名な諺が教示しているように、「有名な先生」の指導下で一カ月の勉強の後、完璧な英語でジョージ・タウン大学の講義をした者はいない!! 例えば、将来の仕事や海外での勉学という具体的な目標、更に、素敵な彼氏や彼女、又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため、という動機は外国語の勉強に極めて効果です。…では、楽しく、大生らしく、勉学に励もう!!</p> <p>【到達目標】 演習内容の 70% 以上理解し、身につけること(詳細は演習の冒頭に説明する)。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Richard R. Day 他, “Impact Issues 1”, Pearson Longman, (ISBN 978-962-01-9930-1)</p> <p>(2) 又、必要に応じて習熟資料を配布する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 演習の内容、方法と成績、期末 Test について。ミニ演習。 第 2 回 U20 Why Learning Foreign Language? 英和訳、読解、聞き取り等 第 3 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習 第 4 回 U 1 The Guy with Green Hair! 英和訳、読解、聞き取り等 第 5 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習 第 6 回 U 2 The Shoplifter! 英和訳、読解、聞き取り等 第 7 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習 第 8 回 U 4 Beauty Contest! 英和訳、読解、聞き取り等 第 9 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習 第 10 回 U 5 Who Pays? 英和訳、読解、聞き取り等 第 11 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習 第 12 回 U 6 Saying “I love you” 英和訳、読解、聞き取り等 第 13 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習 第 14 回 St. Valentine’s Day 英和訳、読解、聞き取り等 第 15 回 受講生が選択したテーマの学習 (Marriage) 前期学習のまとめ等 ★ 参加者の言語的力と到達に応じて内容の増減が有り得る。</p>			
成績評価の方法	予習 40%、演習参加 40%、期末 Test 20% の合計			

授業科目	英語Ⅱ (A)		担当者	石井 英里子	
	[履修年次]	1 年	授業外対応	適宜 (要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	1	
			[必修/選択]	選択	
				[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>英語を使う本質的意味の理解を深めながら、英語で自己発信するスキルを向上させる。</p> <p>【概要】</p> <p>本授業では、各受講生が興味を持つテーマに関するプロジェクトに取り組む。プロジェクトに関するプレゼンテーションを段階的に準備し発表することを通して、英語の自己発信力を高める。インタビューやアンケートによるデータ収集や、ビデオクリップ等のマルチメディア資料を活用したプレゼンテーション方法にも挑戦する。前期の英語 I (A) は本授業の履修要件ではないが、英語 I (A) の発展的内容であるので、英語 I (A) を履修していることが望ましい。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①各自が興味を持つテーマに関して、積極的に英語で表現することができる。②英語で発表の司会や内容に関する質疑応答ができる。③英語で表現することや今後の英語学習への興味・関心・意欲を持つ。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Suzuki, Y. (2013). <i>Do Your Own Project in English. Volume 1</i>. Nan'un-do. (¥1,800)</p> <p>(2) 適宜授業で紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 Course introduction, Unit 16 Successfully starting a project: what is research?</p> <p>第 2 回 Unit 17 Gathering data from interviews</p> <p>第 3 回 Unit 18 Gathering data by a questionnaire</p> <p>第 4 回 Unit 19 Summarizing video clips and other multimedia resources (1)</p> <p>第 5 回 Unit 20 Summarizing video clips and other multimedia resources (2)</p> <p>第 6 回 Unit 21 Mid-term presentation (1)</p> <p>第 7 回 Unit 22 Mid-term presentation (2)</p> <p>第 8 回 Unit 23 Paragraph reading and analysis</p> <p>第 9 回 Unit 24 Paragraph reading</p> <p>第 10 回 Unit 25 Summarizing paragraphs (1)</p> <p>第 11 回 Unit 26 Summarizing paragraphs (2)</p> <p>第 12 回 Unit 27 Writing an outline</p> <p>第 13 回 Unit 28 Final presentation (1)</p> <p>第 14 回 Unit 29 Final presentation (2)</p> <p>第 15 回 Unit 30 Final presentation (3) and course review</p>				
授業外学習(予習・復習)	予習 (発表準備含む) 2 時間、復習 1 時間以上必要である。				
成績評価の方法	授業への取り組み(40%)、中間発表(20%)、最終発表(40%)で評価する。				

授業科目	英語Ⅱ (B)		担当者	霧島 S. 怜	
	[履修年次]	1 年	授業外対応	要件のある時は、講義の前後に申し出て下さい	
	[学期]	後期	[単位]	1	
			[必修/選択]	選択	
				[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 A Good Understanding and A Meaningful Mini-Conversation. (正しい理解と意味のあるミニ会話)</p> <p>【概要】 学生の皆さん、“Roma meravigliosa non era costruita durante una notte” (素晴らしいローマは一夜にしてならず) というヨーロッパの有名な諺が教示しているように、「有名な先生」の指導下で一カ月の勉強の後、完璧なスワヒリ語で大学の講義をした者はいない !! 例えば、将来の仕事や海外での勉強という具体的な目標、更に、素敵な彼氏や彼女、又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため、という動機は外国語の勉強に極めて効果です。…では、楽しく、大生らしく、勉学に励もう !!</p> <p>【到達目標】 演習内容の 75% 以上理解し、身につけること (詳細は演習の冒頭に説明する)。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Richard R. Day 他, “Impact Issues 1”, Pearson Longman, (ISBN 978-962-01-9930-1)</p> <p>(2) 又、必要に応じて習熟資料を配布する</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 演習の内容、方法と成績、期末 Test について。ミニ演習。</p> <p>第 2 回 U 8 Cyber Love! 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 3 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 4 回 U10 Fan Worship! 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 5 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 6 回 U 11 ‘Pet Peeve’ 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 7 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 8 回 U14 Get A Job 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 9 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 10 回 U16 The Dream 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 11 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 12 回 U 17 To Have or Have Not 英和訳、読解、聞き取り等</p> <p>第 13 回 同題 教官と共にコミュニケーション練習</p> <p>第 14 回 Review of the I and II semester: 聞き取り、理解、Q&A</p> <p>第 15 回 受講生が選択したテーマの学習 (Xmas) 前期学習のまとめ等 ★ 参加者の言語的力量と到達に応じて内容の増減が有り得る。</p>				
成績評価の方法	予習 40%、演習参加 40%、期末 Test 20% の合計				

授業科目	異文化コミュニケーション(英語)	担当者	英語担当教員全員	
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2	[学期] 通年 [必修/選択] 選択	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた英語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジで研修を行う。授業は英語研修とハワイ文化研修から成り立ち、滞在期間中、基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。</p> <p>2016年度の実績 日程：9月17日～10月1日 参加者：31名 研修費用：約36万円（授業料、往復航空運賃、宿泊費、平日の朝・昼食費等）</p> <p>【到達目標】英語運用能力を高めるだけでなく、ハワイの文化を学び、多文化が共生するハワイで「国際化」「グローバル化」の意味を自らの実体験を通して考え、理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) ハワイ大学附属カピオラニ・コミュニティ・カレッジの担当教員が指示 (2)			
授業スケジュール	<p>事前ガイダンス： 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行う。ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジでの研修内容の説明、パスポートの取得方法など、海外渡航に伴うさまざまな必要事項の説明、課題（研修中の日記、研修後のレポート作成）の指示など。</p> <p>海外研修： 9月を予定（約2週間）。現地の大学では、午前中に英語の授業、午後にハワイ文化に関する授業（フラダンス）、KCC学生との異文化交流。その他、学外授業としてプランテーションヴィレッジ、イオラニ宮殿、真珠湾の見学。</p> <p>事後指導：帰国後に総括。</p>			
成績評価の方法	担当教員が課した課題（研修日誌・体験記）（50%）とハワイでの研修状況（50%）で評価する。			

授業科目	異文化コミュニケーション(中国語)	担当者	中国語担当教員全員	
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2	[学期] 通年 [必修/選択] 選択	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた中国語を学び、運用能力を高める。</p> <p>【概要】南京農業大学国際教育学院で研修を行います。南京農業大学国際教育学院は、わたしたち県立短大と交流協定を結んでいる中国の大学です。この科目は、中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在期間中、基礎的な実用中国語を習得し、さらに、南京農業大学の学生と交流し、中国の文化習慣などについて直接体験します。</p> <p>※2015年度、2016年度は実績無し (参考) 2014年度中国研修の実績 ・日程：8月27日（水）～9月10日（水）[15日間] ・参加者：3名（商経学科経営情報専攻1名、第二部商経学科2名） ・費用：約18万円（授業料、往復航空券、滞在費、南京市内・市外の見学費用）</p> <p>【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 南京農業大学国際教育学院の担当教員が指示します。 (2)			
授業スケジュール	<p>事前指導 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行います。 [1] 南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明、 [2] 海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明、 [3] 課題（レポート作成）の指示などです。</p> <p>海外研修 9月の夏期休業期間に約2週間実施予定です。（時期は変更の可能性あり）現地の大学で午前中に中国語の授業を受けます。午後はさまざまな活動を通じて、中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語学部の学生と交流します。</p> <p>事後指導 帰国後に総括します。</p>			
成績評価の方法	担当教員が課した課題（50%）、および中国での学習成果（50%）を基に成績を算出します。			

授業科目	中国語 I (A)	担当者	陳 躍
	〔履修年次〕 1年	授業外対応	授業終了後及びメールによる (アドレスは講義中に告知)
	〔学期〕 前期	〔単位〕 1	〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楽しい中国語会話</p> <p>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1級程度。前期はその前半部分の学習に当てる</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂</p> <p>(2) ①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳—日中往来』陳躍著 南日本新聞社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 我是上海人 第2回 我叫王平 第3回 这里是南京路 第4回 现在几点了? 第5回 今天是星期几? 第6回 你家有几口人? 第7回 没关系 (映画) 第8回 香港的夏天热吗? (映画) 第9回 四川菜很好吃 (中間テスト) 第10回 我经常散步 第11回 牌价是多少? 第12回 汉语难不难? 第13回 我没吃蒜 第14回 我想去超市 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする		

授業科目	中国語 I (B)	担当者	楊 虹
	〔履修年次〕 1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕 前期	〔単位〕 1	〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語に親しむ</p> <p>【概要】 この授業では、中国語の発音を身につけ、ロールプレイ、ゲームなど様々な教室活動を通して、中国語の基本構文を楽しく学ぶ。さらに中国の音楽や映画などの映像、留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。</p> <p>【到達目標】 中国語の発音記号(ピンイン)の読み方と綴り方がわかり、簡単な日常あいさつ、自己紹介ができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 陳淑梅・張国璐『いま始めよう!アクティブラーニング』朝日出版社</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション: 授業の概要説明, 中国語で自分の名前を言う練習 第2回 発音(1): 単母音と声調の導入, 練習 第3回 発音(2): 複母音の導入, 練習 第4回 発音(3): 子音の導入, 練習 第5回 発音(4): 子音の練習, 発音のまとめ 第6回 動詞是の使い方 第7回 姓の言い方, 尋ね方。フルネームの言い方, 尋ね方 第8回 これまでの復習 第9回 動詞文の導入と練習 第10回 動詞文の練習、疑問文の練習 第11回 二つ以上の動詞からなる連動文 第12回 希望や願望を表す助動詞「想」の導入, 練習 第13回 留学生との交流: 中国人留学生と中国語で話してみる 第14回 全体の復習 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。		
成績評価の方法	小テストと中国に関するレポート、口頭試験で評価する		

授業科目	中国語Ⅱ(A)		担当者	陳 躍
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後、メールによる(アドレスは講義中に告知)
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択(注)
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楽しい中国語会話</p> <p>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1級程度。後期はその後半部分の学習に当てる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂</p> <p>(2) ①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳—日中往来』陳躍著 南日本新聞社</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 来我家玩吧</p> <p>第2回 我打算去旅行</p> <p>第3回 没看过, 听过</p> <p>第4回 我能参加</p> <p>第5回 我记一下</p> <p>第6回 我们边走边谈</p> <p>第7回 好像借给小李了(中間テスト)</p> <p>第8回 我不会打日文(映画)</p> <p>第9回 你知道号码吗?(映画)</p> <p>第10回 什么都可以</p> <p>第11回 被谁偷走了呢?</p> <p>第12回 让你久等了</p> <p>第13回 有没有单间?</p> <p>第14回 我说得不好</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	筆記の小テストを毎回実施するので予習してきてください。			
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする			

授業科目	中国語Ⅱ(B)		担当者	楊 虹
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択(注)
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>中国語によるコミュニケーションに慣れる</p> <p>【概要】</p> <p>この授業では、中国語Ⅰを履修した受講生を対象としている。前期の内容を復習しつつ、引き続き中国語の基本構文を導入し、中国語を聞いて、話す力を伸ばす。さらに、中国の音楽や映画などの映像を通して、中国の社会、文化にも触れる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>学習を進める上での基礎的知識を有し、中国語による家族構成の紹介や、簡単な買い物ができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 陳淑梅・張国路『いま始めよう!アクティブラーニング』朝日出版社</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション: 授業の概要説明, 前期の復習</p> <p>第2回 動詞「有」の導入, 練習</p> <p>第3回 動詞「在」の導入, 練習</p> <p>第4回 「有」と「在」の応用練習</p> <p>第5回 年月日、曜日の言い方の練習</p> <p>第6回 助動詞「得」と「要」言い方の導入, 練習</p> <p>第7回 助動詞を使った文の応用練習</p> <p>第8回 復習(1) これまでの内容の復習</p> <p>第9回 形容詞述語文の導入, 練習</p> <p>第10回 時刻の言い方の導入, 練習</p> <p>第11回 形容詞述語文の応用練習</p> <p>第12回 お金の言い方の導入, 練習</p> <p>第13回 量詞の導入, 練習</p> <p>第14回 復習(4): 全体の復習</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。			
成績評価の方法	小テストと中国に関するレポート、口頭試験で評価する			

15 第二部商経学科教養科目
(スポーツ・健康科目)

授業科目	生涯スポーツ実習 I・II	担当者	西迫 貴美代、長岡 良治
	[履修年次] 1年	授業外対応	随時 nisizako@k-kentan.ac.jp
	[学期] 前期・後期 [単位] 各1	[必修/選択] 必修	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。また、大学生活が始まり、新しい環境に適応する手立てとして所属専攻の仲間と共にスポーツを楽しむことをめざす(生涯スポーツ実習 I)。また年間を通じて、チームの仲間と共に安全かつ楽しくゲームを運営する方法について理解する</p> <p>【概要】 野外スポーツ：硬式テニス、サッカー、ソフトボール、フットサル 屋内スポーツ：バドミントン、バレーボール、ソフトバレーボール、バスケットボール、フットサルなど その他に、ニュースポーツやストレッチの方法、基本的な身体技法(からだほぐし)を取り入れる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①各種目の基礎的な技術を理解するとともに技能を習得する ②各種目のゲームの特徴を理解し、合理的な作戦を立てることができるようになる ③チームメイトと安全かつ楽しくゲームを運営することができるようになる(ルールを理解 審判の方法 簡易ルールの設定)</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適時、資料を配付する(ゲーム分析の方法について、日常生活の健康管理について)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	主に男女別に履修する(出席状況、天候によって男女合同の場合もある)		
	第1回 ～ 第3回	1. バドミントン ハイクリア、スマッシュ、ドロップ、ヘヤーピン、ドライブの各技術について理解しできるようになる。ゲームの方法を理解する(シングルス、ダブルスゲームの方法)	
	第4回 ～ 第6回	2. 硬式テニス(ミニテニス) フォアストローク、バックストローク、サーブなどの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する(主にダブルスのゲーム 前衛と後衛のポジションの理解)	
	第7回 ～ 第9回	3. バレーボール、ミニバレーボール アタック、パス、レシーブ、ブロックの各技術について理解し、できるようになる。ゲームにおいて三段攻撃につなげるための作戦を立てることができるようになる	
	第10回 ～ 第12回	4. バスケットボール シュート、ドリブル、パスの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する(意味あるパスについて考える)	
	第13回 ～ 第15回	5. サッカー、ミニサッカー、フットサル シュート、パス、ヘディングなどの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する(意味あるパスについて考える)	
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法	出席状況(60%)+基礎的な技術(40%)		

16 第二部商経学科教養科目
(情報科目)

授業科目	情報リテラシー I (A)		担当者	永仮ゆかり																																													
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール																																													
	[学期]	前期	[単位]	1単位																																													
			[必修/選択]	必修																																													
			[授業形態]	演習																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】 ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。</p> <p>【到達目標】 タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的な文書作成能力の習得</p>																																																
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム (著)『初心者のための Microsoft Word 2013』FOM 出版</p> <p>(2) プリント</p>																																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>パソコンの基本操作</td><td>: 概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>文字の入力</td><td>: キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>文章の入力</td><td>: キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、保存</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>文書の作成</td><td>: ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>文書の編集</td><td>: 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>通知状の作成</td><td>: 課題文書作成 (通知状)、印刷、文書の書き方について</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>表の作成</td><td>: 表の挿入、表への文字入力、表の選択</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>表の編集</td><td>: 行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>表の活用</td><td>: 課題文書作成 (表を含む文書)</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>図形描画</td><td>: 図解について、図形描画を使った地図の作成</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>グラフィック機能の利用</td><td>: ワードアートの挿入、画像の挿入、オンライン画像の挿入</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>案内状の作成</td><td>: 課題文書作成 (案内状)、文書管理について</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>レポートの作成</td><td>: レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>社外文書作成</td><td>: 案内状など</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>まとめ</td><td></td></tr> </table>				第 1 回	パソコンの基本操作	: 概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成	第 2 回	文字の入力	: キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換	第 3 回	文章の入力	: キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、保存	第 4 回	文書の作成	: ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動	第 5 回	文書の編集	: 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)	第 6 回	通知状の作成	: 課題文書作成 (通知状)、印刷、文書の書き方について	第 7 回	表の作成	: 表の挿入、表への文字入力、表の選択	第 8 回	表の編集	: 行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更	第 9 回	表の活用	: 課題文書作成 (表を含む文書)	第 10 回	図形描画	: 図解について、図形描画を使った地図の作成	第 11 回	グラフィック機能の利用	: ワードアートの挿入、画像の挿入、オンライン画像の挿入	第 12 回	案内状の作成	: 課題文書作成 (案内状)、文書管理について	第 13 回	レポートの作成	: レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成	第 14 回	社外文書作成	: 案内状など	第 15 回	まとめ	
第 1 回	パソコンの基本操作	: 概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成																																															
第 2 回	文字の入力	: キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換																																															
第 3 回	文章の入力	: キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、保存																																															
第 4 回	文書の作成	: ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動																																															
第 5 回	文書の編集	: 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)																																															
第 6 回	通知状の作成	: 課題文書作成 (通知状)、印刷、文書の書き方について																																															
第 7 回	表の作成	: 表の挿入、表への文字入力、表の選択																																															
第 8 回	表の編集	: 行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更																																															
第 9 回	表の活用	: 課題文書作成 (表を含む文書)																																															
第 10 回	図形描画	: 図解について、図形描画を使った地図の作成																																															
第 11 回	グラフィック機能の利用	: ワードアートの挿入、画像の挿入、オンライン画像の挿入																																															
第 12 回	案内状の作成	: 課題文書作成 (案内状)、文書管理について																																															
第 13 回	レポートの作成	: レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成																																															
第 14 回	社外文書作成	: 案内状など																																															
第 15 回	まとめ																																																
授業外学習(予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示																																																
成績評価の方法	期末試験 (知識科目 20%+実技科目 50%) +授業ごとに実施する課題 (30%)																																																

授業科目	情報リテラシー I (B)		担当者	永仮ゆかり																																													
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール																																													
	[学期]	前期	[単位]	1単位																																													
			[必修/選択]	必修																																													
			[授業形態]	演習																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】 ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。</p> <p>【到達目標】 タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的な文書作成能力の習得</p>																																																
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム (著)『初心者のための Microsoft Word 2013』FOM 出版</p> <p>(2) プリント</p>																																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>パソコンの基本操作</td><td>: 概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>文字の入力</td><td>: キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>文章の入力</td><td>: キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、保存</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>文書の作成</td><td>: ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>文書の編集</td><td>: 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>通知状の作成</td><td>: 課題文書作成 (通知状)、印刷、文書の書き方について</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>表の作成</td><td>: 表の挿入、表への文字入力、表の選択</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>表の編集</td><td>: 行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>表の活用</td><td>: 課題文書作成 (表を含む文書)</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>図形描画</td><td>: 図解について、図形描画を使った地図の作成</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>グラフィック機能の利用</td><td>: ワードアートの挿入、画像の挿入、オンライン画像の挿入</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>案内状の作成</td><td>: 課題文書作成 (案内状)、文書管理について</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>レポートの作成</td><td>: レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>社外文書作成</td><td>: 案内状など</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>まとめ</td><td></td></tr> </table>				第 1 回	パソコンの基本操作	: 概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成	第 2 回	文字の入力	: キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換	第 3 回	文章の入力	: キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、保存	第 4 回	文書の作成	: ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動	第 5 回	文書の編集	: 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)	第 6 回	通知状の作成	: 課題文書作成 (通知状)、印刷、文書の書き方について	第 7 回	表の作成	: 表の挿入、表への文字入力、表の選択	第 8 回	表の編集	: 行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更	第 9 回	表の活用	: 課題文書作成 (表を含む文書)	第 10 回	図形描画	: 図解について、図形描画を使った地図の作成	第 11 回	グラフィック機能の利用	: ワードアートの挿入、画像の挿入、オンライン画像の挿入	第 12 回	案内状の作成	: 課題文書作成 (案内状)、文書管理について	第 13 回	レポートの作成	: レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成	第 14 回	社外文書作成	: 案内状など	第 15 回	まとめ	
第 1 回	パソコンの基本操作	: 概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成																																															
第 2 回	文字の入力	: キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換																																															
第 3 回	文章の入力	: キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、保存																																															
第 4 回	文書の作成	: ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動																																															
第 5 回	文書の編集	: 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)																																															
第 6 回	通知状の作成	: 課題文書作成 (通知状)、印刷、文書の書き方について																																															
第 7 回	表の作成	: 表の挿入、表への文字入力、表の選択																																															
第 8 回	表の編集	: 行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更																																															
第 9 回	表の活用	: 課題文書作成 (表を含む文書)																																															
第 10 回	図形描画	: 図解について、図形描画を使った地図の作成																																															
第 11 回	グラフィック機能の利用	: ワードアートの挿入、画像の挿入、オンライン画像の挿入																																															
第 12 回	案内状の作成	: 課題文書作成 (案内状)、文書管理について																																															
第 13 回	レポートの作成	: レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成																																															
第 14 回	社外文書作成	: 案内状など																																															
第 15 回	まとめ																																																
授業外学習(予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示																																																
成績評価の方法	期末試験 (知識科目 20%+実技科目 50%) +授業ごとに実施する課題 (30%)																																																

授業科目	情報リテラシー II (A)		担当者	口脇淳子
	[履修年次]	1 年	授業外対応	授業の前後に適宜対応します
	[学期]	前期	[単位]	1
	[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 パソコンの概要を学び、実践的に活用できる知識や技術を習得する。</p> <p>【概要】 Windows8.1 の概念・基本操作からメール・インターネット・マルチメディアなど、様々なアプリケーションの操作をしながら知識や技術を身につける。</p> <p>【到達目標】 ファイル操作、インターネット閲覧・操作（メールを含む）など基本的なアプリケーションの操作が確実にできる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 資料プリント (2)			
授業スケジュール	第 1 回 現在のパソコン活用状況の確認 第 2 回 基本操作（画面の見方・用語の確認） 第 3 回 メール操作（学内推奨の Web メール） 第 4 回 メール操作（学内推奨の Thunderbird） 第 5 回 ファイル・フォルダ操作 第 6 回 ファイル・フォルダ操作 第 7 回 資料作成（課題）と、印刷に関する注意事項の確認 第 8 回 インターネットを活用 第 9 回 インターネットを活用 第 10 回 デジタルカメラの活用 第 11 回 画像編集ソフトの活用 第 12 回 その他の機能（スキャナの活用、PDF ファイルについて） 第 13 回 その他の機能（サウンドレコーダー、ムービー作成について） 第 14 回 その他の機能（トラブル解決法について） 第 15 回 前期習得操作の確認（実技テスト）			
授業外学習(予習・復習)	授業後、各項目ごとのまとめや操作確認を行う			
成績評価の方法	授業中の操作状況（20%）＋実技テスト（20%）＋レポート提出（60%）			

授業科目	情報リテラシー II (B)		担当者	瀬戸 博幸
	[履修年次]	1 年	授業外対応	メールにて（アドレスは講義中に告知）
	[学期]	前期	[単位]	1
	[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習
授業スケジュール	<p>【概要】 現代は様々な情報がネットワークを介して飛び交っている情報ユビキタス社会である。我々はその中に生活し、情報を受信し、情報を発信しなければならない。その大きな窓口がコンピュータである。この時間ではコンピュータとはどのような機械なのか、どのようにしたら情報を受信し、発信する道具として使えるのか、演習をとおして初歩の初歩から体得しようとするものである。</p> <p>【到達目標】 そこにコンピュータがあるなら、それを臆せずを使う人になる</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2) ビデオ教材やホームページ上の記事を参考資料とする			
授業スケジュール	第 1 回 コンピュータを起動しよう。OSってなんだろう。 第 2 回 ビデオを介して、インターネットとは何か理解しよう 第 3 回 ブラウザの基本的使い方 第 4 回 Webメールの送受信 第 5 回 ファイルとフォルダ 第 6 回 フラッシュメモリを使おう（メールソフトを使ってメールしよう） 第 7 回 ホームページを作ってみよう 第 8 回 クリックひとつで次のページへ 第 9 回 ペイントで描いた画像をページへ 第 10 回 携帯から写メール 第 11 回 HTMLあれこれ 第 12 回 ホームページに自分のギャラリー（1） 第 13 回 ホームページに自分のギャラリー（2） 第 14 回 プレゼンでまとめよう（1） 第 15 回 プレゼンでまとめよう（2）			
授業外学習(予習・復習)	授業後、各項目ごとのまとめや操作確認を行う			
成績評価の方法	メールによる日々の考察（50%）＋公開したホームページとプレゼン作品（50%）により評価する			

17 第二部商経学科専門科目

授業科目	情報社会論		担当者	杉原 洋
	[履修年次]	1,2,3 いずれでも履修可	授業外対応	原則、授業終了後、非常勤講師控え室で。メールアポお願い。
	[学期]	後期	[単位]	2
	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ニュースから現代を読み解く</p> <p>【概要】 マスメディアのニュース報道を素材にして、「日本の今・世界の今」を読み解き、出来事の背景や、問われていることは何なのかを、一緒に考えましょう。</p> <p>【到達目標】 社会に出たときに求められる時事問題の常識や、考える力を身につけることです。また自分も社会を支える一人なのだとすることに気付くことです。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 特に使用しません。杉原が作成したプリントを配布します。テーマによってはDVDを視聴します。</p> <p>(2) 池上彰『知らない恥をかく 世界の大問題』角川新書(角川SSC新書) 蒲島郁夫『改訂版メディアと政治』有斐閣アルマ その他、授業資料で適宜紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに 全体オリエンテーション</p> <p>第2回 天皇退位問題1</p> <p>第3回 天皇退位問題2</p> <p>第4回 川内原発と日本のエネルギー問題1</p> <p>第5回 川内原発と日本のエネルギー問題2</p> <p>第6回 トランプ大統領の登場で世界はどう変わる1(日本はアメリカとどう付き合うか)</p> <p>第7回 トランプ大統領の登場で世界はどう変わる2(世界は内向きになるか)</p> <p>第8回 日本国憲法を考える1(憲法とは何か)</p> <p>第9回 日本国憲法を考える2(「自民党改憲草案」を読む)</p> <p>第10回 日本国憲法を考える3(「お試し改憲」とは)</p> <p>第11回 少子・高齢化の進行と人口減少時代1</p> <p>第12回 少子・高齢化の進行と人口減少時代2</p> <p>第13回 ネット空間での「振る舞い方」</p> <p>第14回 日本社会はどうなるの</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※現代を理解するうえで重要なニュースがあった場合は、授業スケジュールにかかわらず、適宜「ニュース解説」の授業に振り替えます。したがって、このシラバスはあくまでも「計画」であり、変更されることがありうると考えておいてください。</p>			
授業外学習(予習・復習)	<p>【予習】 短大図書館などで複数の新聞に必ず目を通してください。読み比べることが大事です。またTVやポータルサイトのニュースを視聴・検索して、現代日本・世界でどんなことが起きているのかをチェックしてください。</p> <p>【復習】 授業資料をもとに、講義内容を再度そしゃくし、疑問点があれば、メールで発信してください。</p>			
成績評価の方法	<p>・授業ごとに提出してもらう「感想シート」と期末に提示する「レポート」を総合評価します。配分は、感想シート20%、レポート80%。</p> <p>・5回(全授業の3分の1)以上、欠席した場合(感想シートが提出されていない)は原則として単位は認定できません。欠席届は、原則として、事前に提出してください(書式は問いません)。突発事故や急病などの場合は事前提出は不可能ですから、事後提出で結構です。</p>			

授業科目	社会哲学		担当者	西原 誠司
	[履修年次]	1,2,3年	[学期]	後期
	[単位]		[必修/選択]	選択
	[授業形態]		講義	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 人間とは何か/人間社会とは何かを哲学する</p> <p>【概要】 現代社会に起こる様々な問題を念頭におきながら、人間とは何か、人間社会とはなにかを人類社会の起源にまで遡って解明していく。同時に、生きづらい社会を人間らしく生きていくためには、どのようなものの見方をすればいいのか、その世界観との関係性を探り、生きづらさを克服するための処方箋をともに考えていきたい。</p> <p>【到達目標】 人間とは何か、人間社会とは何かを人類社会の歴史と日本社会の現実のなかから把握し、現代社会を生き抜く力＝自己の内面を解放する方法を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布</p> <p>(2) 種村完司『コミュニケーションと関係の倫理』青木書店 鯉坂・有尾・鈴木編『ヘーゲル論理学入門』(有斐閣新書)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに</p> <p>第2回 人類社会の起源——人類700万年の歴史</p> <p>第3回 日本人の起源を遡る</p> <p>第4回 縄文社会にみる人類社会の共通原則——ひとはみんなのために、みんなはひとりのために</p> <p>第5回 奴隷制社会にみる人間性——スパルタクスの蜂起 貴族と奴隷どちらが人間的か</p> <p>第6回 封建社会の恋——近松門左衛門と『曾根崎心中』</p> <p>第7回 王侯貴族の恋——『ベルサイユのバラ』とマリー・アントワネット</p> <p>第8回 日本の近代と明治維新——坂本龍馬にみる近代的人格の誕生</p> <p>第9回 明治維新と日本資本主義①——産業革命の光と影 富岡製糸</p> <p>第10回 明治維新と日本資本主義②——産業革命の光と影 あゝ野麦峠</p> <p>第11回 現代資本主義の光と影 夫はなぜ死んだのか 過労死認定の厚い壁</p> <p>第12回 キューブラー・ロスと終末期医療/最後のレッスン 死のまぎわの真実</p> <p>第13回 脳梗塞からの“再生” 免疫学者・多田富雄の闘い</p> <p>第14回 私たち抜きに私たちのことを決めないで 初期認知症を生きる</p> <p>第15回 おわりに——言葉遊びで短所を笑おう</p>			
成績評価の方法	授業態度(積極的に授業に参加しているか、感想文の提出) および筆記試験			

授業科目	経済学	担当者	山口 祐司
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>「経済学」は「世の中の仕組みを知る」ための社会科学の一つです。私たちは誰かが作った物を消費して生活しています。物を買うお金を得るために、多くの人が働いています。また、人びとが稼いだお金の一部を税金として集めることで、町や国が運営されています。こうした社会関係のことを経済といいます。この授業では、新聞やニュースに登場する最近の社会の動きを踏まえつつ、経済についての基礎的な見方を学んでいきます。</p> <p>【概要】</p> <p>現代社会における経済学の役割と、時代的課題に対応した経済学の発展史の整理（第1～2回）。経済主体と市場の問題を扱うミクロ経済学の基礎的理論（第3～5回）。一国レベルの経済問題を扱うマクロ経済学の基礎理論（第6～9回）。国際的な経済関係の理論（第10～11回）。最後に、これら主流派の経済理論の発展とは独自の発展をみた社会経済学を学ぶ（第12～14）。各講義で扱う内容はエッセンスに限られるが、現代社会の問題との関連性を意識し、より発展的な学習へのつなげられるようにする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>経済学の基礎的な概念と理論を理解すること。新聞などに登場する時事的な経済問題について、自分なりの観点をもつこと。</p>	〔必修/選択〕	必修 〔授業形態〕 講義
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 特に指定しません。 (2) 講義時に提示します。		
授業スケジュール	第1回 授業ガイダンス、経済学とは何か 第2回 現代の経済学の系譜 第3回 ミクロ経済学の基礎①需要 第4回 ミクロ経済学の基礎②供給 第5回 ミクロ経済学の基礎③市場 第6回 マクロ経済学の基礎①国民所得とその水準の決定 第7回 マクロ経済学の基礎②財政政策と金融政策 第8回 マクロ経済学の基礎③インフレーションとデフレーション 第9回 マクロ経済学の基礎④経済成長 第10回 国際経済学①国際貿易 第11回 国際経済学②外国為替 第12回 社会経済学①政治と経済 第13回 社会経済学②労働と経済 第14回 社会経済学③環境と経済 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	毎回の授業の復讐のほか、新聞の経済欄を日常から読むようにしてください。		
成績評価の方法	筆記試験（60%）、授業ごとの小論文（40%）		

授業科目	行政法	担当者	山本 敬生
	[履修年次] 1, 2, 3年履修可 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義形式	授業外対応	適宜対応(要予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】行政行為論を中心とした行政法の基礎理論を理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法の基本構造を体系的に把握し、行政の法的コントロールのあり方について学習することをテーマにする。</p> <p>【概要】周知のとおり、行政法は通則的法典が存在しておらず、そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法律学に比べて強く求められる学問である。本講義では、行政法の基本原則である法律による行政の原理（法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則）、行政行為、行政立法、行政計画、行政指導、行政契約等の行政の行為形式論、行政上の義務履行確保制度、行政手続等の行政上の一般制度をわかりやすく解説し行政法の基礎理論を体系的に理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法といった一般法について、国民の権利救済という視点から学習する。</p> <p>【到達目標】行政法の基本原則、行政の行為形式論、行政上の一般制度、行政救済法について説明できるようになり、行政法的視点に立った行政と市民との関係のあり方を考察できる力を習得することを目標にする。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 山口友信他編、『ポケット六法(平成29年度版)』、有斐閣</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 法律による行政の原理 ・行政の定義、法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則について</p> <p>第2回 行政立法 ・法規命令、委任命令、執行命令、白紙委任の禁止の原則、行政規則について</p> <p>第3回 行政行為(1) ・公定力、不可争力、不可変更力、執行力、拘束力について</p> <p>第4回 行政行為(2) ・行政行為の瑕疵、無効の行政行為、取消しうべき行政行為、行政裁量について</p> <p>第5回 行政指導 ・規制行政指導、助成行政指導、調整行政指導、要綱行政について</p> <p>第6回 行政上の強制執行制度 ・代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収、行政罰について</p> <p>第7回 行政手続法 ・申請に対する処分、不利益処分、行政指導、命令等を定める行為の手続について</p> <p>第8回 行政不服審査法 ・審査請求、再調査の請求、再審査請求、教示について</p> <p>第9回 行政事件訴訟法(1) ・抗告訴訟、民衆訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟、取消訴訟、事情判決について</p> <p>第10回 行政事件訴訟法(2) ・形成力、既判力、執行不停止の原則、内閣総理大臣の異議、処分性について</p> <p>第11回 行政事件訴訟法(3) ・原告適格、反射的利益、法律の保護する利益説、狭義の訴えの利益について</p> <p>第12回 国家賠償法(1) ・代位責任説、自己責任説、公権力の行使の範囲、故意・過失、求償権について</p> <p>第13回 国家賠償法(2) ・公の营造物、人工公物、自然公物、高知落石事件、大東水害事件について</p> <p>第14回 損失補償 ・奈良県ため池条例事件、完全補償説、相当補償説、国家補償の谷間について</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験(90%)+授業での発言内容(10%)を基準にして評価する。		

授業科目	経済政策	担当者	内田昌廣
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	授業外対応	いつでも対応しますので、メール連絡してください。
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>「課題先進国」と言われる日本の将来にとって、どのような政策が必要なのかを考えます。</p> <p>【概要】人口減少社会への転換によって、これまで経済社会を支えてきたさまざまな制度の再構築が迫られています。日本が抱えるさまざまな課題を採り上げ、受講者とともに将来の制度設計について考えていきます。</p> <p>【到達目標】</p> <p>日本の課題について関心を持ち、さまざまな考え方やアプローチを踏まえて、自分自身で解決策を考える視点を持つこと。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 千葉忠夫『格差と貧困のないデンマークー世界一幸福な国の人づくり』PHP研究所 高岡望『日本はスウェーデンになるべきか』PHP研究所 山崎亮『まちの幸福論ーコミュニティデザインから考える』NHK出版</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的・進め方</p> <p>第2回 経済成長を考える：経済成長は善か悪か必要悪か、経済成長のための政策を考える</p> <p>第3回 財政再建を考える(1)：財政再建は必要なのか、社会保障と税の一体改革とは</p> <p>第4回 財政再建を考える(2)：消費税増税の課題、税制の課題を考える</p> <p>第5回 社会保障の将来を考える(1)：国は、誰をどこまで救うべきなのか</p> <p>第6回 社会保障の将来を考える(2)：弱者救済のための政策を考える</p> <p>第7回 社会保障の将来を考える(3)：現役世代のための社会保障の充実策を考える</p> <p>第8回 雇用の将来を考える(1)：非正規雇用と正規雇用の格差、正規雇用の男女間格差を考える</p> <p>第9回 雇用の将来を考える(2)：若者の雇用政策、高齢者の雇用政策を考える</p> <p>第10回 地域経済の将来を考える(1)：人口減少と地域経済、大都市圏集中と地方経済の空洞化</p> <p>第11回 地域経済の将来を考える(2)：中央集権から地域主権へ、道州制は何を目指そうとしているのか</p> <p>第12回 地域経済の将来を考える(3)：地域経済を支える産業を考える</p> <p>第13回 地域経済の将来を考える(4)：農業の再生には何が必要かを考える</p> <p>第14回 地域経済の将来を考える(5)：地域社会の未来のために必要なこと</p> <p>第15回 まとめ(授業評価アンケートの実施、期末レポートの提出)</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習を十分行ってください。授業で採り上げたテーマに関連する報道や論説に触れ、視点や考えをさらに深めてください。		
成績評価の方法	期末レポート(100%)		

授業科目	社会政策		担当者	朝日吉太郎
	[履修年次]	1・2・3年	授業外対応	常時対応（メールによるアポイントメント必要）
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 人々を苦しめている貧困・格差・男女差別・ハラスメントの発生原因をさぐる</p> <p>【概要】 貧困や格差、劣悪な労働環境は、偶然の産物ではなく、その背後にはそれを成立させる法則が存在しています。その法則を解明し改善のための手段を考えます。ベーシックな科目なので、できれば1年次に履修して下さい。</p> <p>【到達目標】 労働をめぐる社会問題に対して、それに関心をもちその解決のために社会を分析する基礎的な力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストはありません。</p> <p>(2) 授業の中で指示します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 講義の目的と進め方について</p> <p>第2回 資本主義と労働（1）労働と価値</p> <p>第3回 資本主義と労働（2）価値と貨幣</p> <p>第4回 資本主義と労働（3）価値と資本</p> <p>第5回 資本主義と労働（4）賃労働と資本</p> <p>第6回 賃金（1）賃金と賃金形態</p> <p>第7回 賃金（2）時間賃金</p> <p>第8回 賃金（3）出来高賃金</p> <p>第9回 労働時間（1）労働時間の延長理由（1）剰余労働と労働日</p> <p>第10回 労働時間（2）イノベーション、資本間競争、深夜労働、交替制</p> <p>第11回 直接的生産過程の諸結果</p> <p>第12回 労働日を巡る資本・賃労働の闘争</p> <p>第13回 社会政策と国家</p> <p>第14回 日本における一連の労働条件改悪政策と諸結果について</p> <p>第15回 日本の労働問題を考えるために</p>			
授業外学習(予習・復習)	経済学の基礎理論を学ぶ。自分や家族の労働条件について考える。			
成績評価の方法	筆記試験			

授業科目	社会思想		担当者	渋谷 正
	[履修年次]	1年, 2年, 3年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 資本主義形成期以降の社会思想の変遷を辿る。</p> <p>【概要】 近代社会思想は、資本主義の形成と発展を背景として、市民社会をどのように把握し、その社会でどのように生きるべきかを問うものとして、発展してきた。この近代市民社会思想とそれを批判する思想を、資本主義の歴史的発展とも関連させながら、考察する。</p> <p>【到達目標】 近代社会思想の展開を理解することによって、資本主義の本質を見極めるための手掛かりを得ることを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストは、使用しない。授業中に資料としてプリントを配布する。</p> <p>(2) 服部文男編『社会思想史入門』青木書店。他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 資本主義の形成過程——本源的蓄積</p> <p>第2回 資本主義の形成過程——本源的蓄積（続き）、市民社会思想の端緒——トマス・ホッブズ（1）</p> <p>第3回 市民社会思想の端緒——トマス・ホッブズ（2）</p> <p>第4回 イギリス名誉革命と社会思想</p> <p>第5回 市民社会思想の形成——ジョン・ロック（1）</p> <p>第6回 市民社会思想の形成——ジョン・ロック（2）</p> <p>第7回 市民社会思想の発展——デイヴィッド・ヒューム（1）</p> <p>第8回 市民社会思想の発展——デイヴィッド・ヒューム（2）</p> <p>第9回 市民社会思想の確立——アダム・スミス（1）</p> <p>第10回 市民社会思想の確立——アダム・スミス（2）</p> <p>第11回 市民社会批判の社会思想——カール・マルクス（1）</p> <p>第12回 市民社会批判の社会思想——カール・マルクス（2）</p> <p>第13回 ケインズ『自由放任の終焉』と新自由主義（1）</p> <p>第14回 ケインズ『自由放任の終焉』と新自由主義（2）</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験（70パーセント）＋レポート（30パーセント）			

授業科目	民法		担当者	疋田京子
	[履修年次] 不問	[学期] 前期	授業外対応	コミュニケーション・ペーパーを使用
	[単位] 2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】暮らしを支える生活民法 市民生活の根幹である財産や家族を規律対象とする民法の入門講座</p> <p>【概要】明治 29 年に制定された日本の「民法」は、今、大改正されようとしています。企業間の取引にも、個人の生活上の取引にも共通して適用され、取引以外にも結婚や離婚、親子関係の発生や親の責任、相続など家族に関するルールも含む民法は、グローバル化とライフスタイルが多様化する中で、民法がどのように変わろうとしているのかを講義します。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例に対して、法的に説得力ある主張を行うことができるようになること 			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント配布 (2) 大村敦志『生活民法入門』（東京大学出版会） 内田貴『民法 I』（東京大学出版会）</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：民法が対象とする紛争とは 第 2 回 「民法」の基本構造：社会の変化と法の改正 第 3 回 「法定利率」が変わるとどうなる？：強行規定と任意規定 第 4 回 民法の世界にも「信義誠実」や「善意・悪意」がある：民法の基本原則・条件・期限 第 5 回 民法の成人年齢が 18 歳になると何がどう変わる？：私的自治の原則と制限行為能力者制度 第 6 回 権利を濫用する未成年者にどう立ち向かうか：制限行為能力者の保護と取引の安全 第 7 回 父が死んだ後に生まれた子どもにも相続権はあるか？：権利能力の始期と終期 第 8 回 夫の死後に体外受精で生まれた子どもの父子関係を法は認めるか？：権利能力と意思能力 第 9 回 戦争で死亡したとされた人が実は生きていた。既に処分した家はどうか？：失踪宣告と善意の第三者 第 10 回 「言い間違い」「書き間違い」を法は許してくれるか？：意思と表示の不一致と契約の効力 第 11 回 退職した従業員が元の会社の名前で取引先から商品を購入。代金は誰が払う？：代理制度 第 12 回 A に貸したはずの本を B が持っている。「A から買った」と言うのだが：動産の対抗要件・即時取得 第 13 回 二重譲渡された不動産の真の所有者は誰？：不動産の取引と対抗要件 第 14 回 登記を信じて A から買った不動産が実は B の物だった!？：登記の公示力と公信力 第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する			
成績評価の方法	筆記試験			

授業科目	商法		担当者	河野総史
	[履修年次] 1, 2, 3年	[学期] 前期	授業外対応	授業終了後またはメールにて対応
	[単位] 2	[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 商法分野のうち、会社法の基礎知識</p> <p>【概要】商法は、「市民の法」たる民法の特別法にあたり、いわば「商人の法」である。商法において学ぶ分野は多岐に渡るが、本講義においては会社法分野の基礎知識を身に付け、社会の重要な構成要素である企業についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>【到達目標】株式制度と機関設計を中心に、株式会社の基礎を身に付けることを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 指定しない（レジュメを配布する） (2) 適宜指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 講義ガイダンス 民法と商法 第 2 回 会社法総論 第 3 回 会社の種類 第 4 回 株式①（株式の種類等） 第 5 回 株式②（株式の譲渡および譲渡制限等） 第 6 回 株式③（自己株式・親会社株式取得規制等） 第 7 回 株式④（株式併合・分割・無償割当等） 第 8 回 資金調達①（会社設立時） 第 9 回 資金調達②（募集株式の発行等） 第 10 回 資金調達③（株式以外の資金調達手段） 第 11 回 機関①（機関総論） 第 12 回 機関②（株主総会） 第 13 回 機関③（取締役・取締役会） 第 14 回 機関④（監査役・会計参与・会計監査人） 第 15 回 機関⑤（指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社） 総まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習は不要。復習を徹底して小テストに備えること。小テストについての詳細はガイダンス時に説明する。			
成績評価の方法	期末テスト 80 パーセント、小テスト 20% とし、全体で 60% 以上を合格とする。			

授業科目	産業心理学		担当者	岡村 俊彦
	[履修年次]	1, 2, 3年いずれでも可	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】産業に関わる心理学を多角的に学ぶ</p> <p>【概要】産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが、人間の基本的な特性もとらえることで、コンピュータを始め、システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし、購買行動に関する様々な要因を考えていく。簡単な心理実験、心理テストなども織り交ぜていく予定である。</p> <p>【到達目標】商品、システム、労働環境を人間の快適性から評価し、改善を考えることができるようになる。また、購買行動に関わる心理を売り手、買い手の両面から考えることができるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布、Webでも公開</p> <p>(2) なし</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明</p> <p>第2回 人間とシステムの間わり合い、精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質</p> <p>第3回 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用</p> <p>第4回 ヒューマンインターフェイス1：ヒューマンインターフェイスの基本原則</p> <p>第5回 ヒューマンインターフェイス2：ヒューマンインターフェイスの事例紹介</p> <p>第6回 職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策</p> <p>第7回 仕事の成功と動機付け：成功、失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類</p> <p>第8回 人間関係、労働時間：職場における人間関係、労働時間と仕事の関係</p> <p>第9回 ユニバーサルデザイン：UDの理論と実践例</p> <p>第10回 広告の心理学：広告が視聴者に与える影響とメカニズム</p> <p>第11回 販売と購買心理：販売のテクニックと消費者の購買心理</p> <p>第12回 販売、印象管理：セールステクニックと印章管理</p> <p>第13回 人間のエラー：人間のエラーのメカニズムと対策</p> <p>第14回 こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	通常のレポート2回分が80%、出席・授業中のショートレポートが20%			

授業科目	簿記論Ⅰ		担当者	岡村 雄輝
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基本的な仕組みを理解する</p> <p>【概要】簿記はあらゆる経済活動を帳簿に記録計算する行為です。簿記によって経営管理のための重要な資料が利用可能となり、さらには、この資料にもとづいて損益計算書や貸借対照表が作成され、業績および財政状態が明らかになります。簿記を理解し、その技術を習得するためには、自らの手を動かして訓練することが重要です。この講義を通して習得したことを通して、企業経営に関する様々な科目の理解が深まることを期待します。</p> <p>【到達目標】簿記の手続き一巡を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部ほか『新検定 簿記講義 3級 商業簿記』（平成27年版）、中央経済社。 渡部ほか『新検定 簿記ワークブック 3級 商業簿記』（平成27年版）中央経済社。</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス（履修登録の確認、講義計画の説明等）</p> <p>第2回 簿記の意義としくみ</p> <p>第3回 取引</p> <p>第4回 勘定と仕訳</p> <p>第5回 仕訳帳と元帳</p> <p>第6回 試算表の作成</p> <p>第7回 精算表の作成</p> <p>第8回 現金と預金</p> <p>第9回 商品売買（1）</p> <p>第10回 商品売買（2）</p> <p>第11回 売掛金と買掛金</p> <p>第12回 その他の債権債務</p> <p>第13回 受取手形と支払手形（1）</p> <p>第14回 受取手形と支払手形（2）</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。毎回、宿題を課します。			
成績評価の方法	期末試験			

(注) 2017年度の簿記論Ⅰ、Ⅱは、前期、後期に連続して開講されます。簿記論Ⅰを履修する学生は、後期に簿記論Ⅱの履修登録を行うことをお勧めします。

授業科目	経営学総論	担当者	竹中啓之
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義	授業外対応	適宜対応(要予約)、及び講義終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営学全般について、幅広く理解し、経営学の特徴的な考え方を習得する。</p> <p>【概要】この講義では、これから経営学を学ぶにあたって、必要と思われる知識や考え方について説明する。まず、経営学が取り扱う様々なテーマをできるだけ幅広く取り上げ、企業や組織の仕組みを理解する。また、単なる知識の習得だけではなく、経営学が持っている特徴的な考え方も説明し、それに触れることで、その他の経営学関連の科目の修得の手助けになることを目指す。さらに、経営学が取り扱うテーマは、企業だけではなく、様々な場面で役立つことができる、実践的な学問であることも説明していくことにする。</p> <p>【到達目標】経営学に関する基礎的な知識を習得する。経営学と社会との関わりを理解する。そのほかの経営学関連の科目を履修する際に手助けとなるような力を身につける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第2回 経営学と経済学の違い：経営学と経済学の最も特徴的な違いについて説明する。</p> <p>第3回 経営学の発展と必要性：経営学がいかに社会にとって必要とされてきたかを理解する。</p> <p>第4回 企業の種類について：企業の種類とそれぞれの特徴について考える。</p> <p>第5回 企業の目的と役割について：企業が持っている目的と、果たすべき役割について理解する。</p> <p>第6回 人と企業との関係について(1)：企業で働く従業員の立場から、企業との関係を考える。</p> <p>第7回 人と企業との関係について(2)：株主(出資者)としての立場から、企業との関係を考える。</p> <p>第8回 人と企業との関係について(3)：消費者の立場から、企業との関係を考える。</p> <p>第9回 人と企業との関係について(4)：企業の社会的責任について考える。</p> <p>第10回 日本の経営を考える：年功主義や終身雇用、そして成果主義・能力主義などについて考える。</p> <p>第11回 組織の基本的な仕組みについて：基本的な組織構造を理解し、その特徴を知る。</p> <p>第12回 企業統治について：株式会社を経営している人は、実際には誰なのかを考える。</p> <p>第13回 経営戦略を考える：経営戦略の考え方について説明する。</p> <p>第14回 企業の革新の必要性について：企業が長年良好な経営を行うために必要な事柄を説明する。</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	期末筆記試験(70%)、中間レポートもしくは小テスト(30%) (予定) 詳細は1回目の講義で説明します。		

授業科目	情報科学概論	担当者	岡村 俊彦
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義	授業外対応	講義前後に適宜対応
テーマ及び概要	<p>【テーマ】コンピュータやネットワークなど情報科学全般の基礎知識を学ぶ</p> <p>【概要】コンピュータ(ハードウェア、ソフトウェア、周辺機器)やネットワークの仕組みを知り、現代社会においてどのような役割があり、どのような問題点があるかを知る。結果として、効果的かつ適切なIT活用が可能となり、トラブル解決もできるようになる。また、ネットワークを安全に使うためのルール、マナーを学ぶ。また、授業の3分の1程度の時間を使い、ITに関する学生からの質問に対する解説をおこなう。</p> <p>【到達目標】・初心者向け情報関連雑誌を80%以上理解できる・初心者に対して、パソコンやネットワークの安全、便利な運用に関する簡単なアドバイスができる・調子の悪いパソコンを直す</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布、Webでも公開</p> <p>(2) 初心者向け情報関連雑誌</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明</p> <p>第2回 ハードウェアとソフトウェア：ハードとソフトの違いと役割</p> <p>第3回 パソコンの中身：パソコン内部の部品とその役割</p> <p>第4回 単位と容量と速度：情報処理や通信に関わる単位と容量、速度</p> <p>第5回 インターネットの仕組み：インターネットとネットワークの仕組み</p> <p>第6回 電子メールの使い方：電子メールの仕組みと正しい使用法</p> <p>第7回 ITセキュリティ：マルウェアとセキュリティ対策</p> <p>第8回 インターフェイス：インターフェイスの種類とドライバソフトの使い方</p> <p>第9回 周辺機器1：モニター、光学ドライブなど周辺機器の役割、仕組み</p> <p>第10回 周辺機器2：プリンタ、ハブ、ルータなど周辺機器の役割、仕組み</p> <p>第11回 クラウド、ビッグデータ、IoT：新たなインターネットのトレンドと今後の展開</p> <p>第12回 スペックの見方：パソコン、周辺機器のスペック(仕様)の見方</p> <p>第13回 ソフトの分類：ソフトウェアの分類と正しい使用法</p> <p>第14回 インターネットの国際比較：普及率、使用法と地域、国の情勢</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	通常のレポート2回分が80%、出席・授業中のショートレポートが20%		

授業科目	文書作成実習		担当者	永仮ゆかり
	[履修年次] 1年		授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	[学期] 後期	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>「Microsoft Word」を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得</p> <p>【概要】</p> <p>「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商PC検定（文書作成）対策を行い、資格取得を目指す。</p> <p>【到達目標】</p> <p>実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商PC検定文書作成3級合格レベルの技能の習得）</p> <p>*後期から履修する場合は、前期「情報リテラシーⅠ」授業内容程度の技能を習得していることを前提とする</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) プリント</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 前期の復習 : 概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成）</p> <p>第2回 検定対策（3級） : 社外文書の作成（あいさつ状）、知識問題（共通分野）</p> <p>第3回 検定対策（3級） : 課題文書作成（表を利用した文書の作成）、知識問題（共通分野）</p> <p>第4回 検定対策（3級） : 図形を利用した文書の作成、知識問題（共通分野）</p> <p>第5回 検定対策（3級） : 企画書の作成（計算式を含む文書）、知識問題（共通分野）</p> <p>第6回 検定対策（3級） : 詫状の作成（図形を含む文書）、知識問題（共通分野）</p> <p>第7回 検定対策（3級） : 課題文書作成（文書作成3級実技練習問題）、知識問題（共通分野）</p> <p>第8回 検定対策（3級） : 文書作成3級検定模擬問題演習、知識問題（共通分野）</p> <p>第9回 検定対策（3級） : 文書作成3級検定模擬問題演習</p> <p>第10回 Excelデータの利用 : Excelデータ（表、グラフ）の文書への取り込み、差し込み印刷の設定</p> <p>第11回 文書の編集 : いろいろな応用機能（段組み、タブ、セクション区切りの挿入など）</p> <p>第12回 報告書の作成 : 課題文書作成（Excelデータ・テキストファイルの利用、書式のコピーなど）</p> <p>第13回 議事録の作成 : 議事録の作成（テンプレートの利用、スタイルの設定、セクション区切りなど）</p> <p>第14回 稟議書の作成 : 稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、表の編集など）</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	知識問題の予習・復習、「Microsoft Word」操作の復習など適宜指示			
成績評価の方法	期末試験（知識科目20%+実技科目50%）+授業ごとに実施する課題（30%）			

授業科目	統計学		担当者	倉重賢治
	[履修年次] 不問		授業外対応	適宜対応
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>基本的な統計解析を学ぶ</p> <p>【概要】</p> <p>現在、情報技術を有効に活用してデータ収集を行い、そのデータの分布や性質を明らかにすることが重要視されている。この講義では、そのためのツールとしての基本的な統計解析を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的なデータ処理を行う ・相関関係について理解する ・検定について理解する 			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 木下栄蔵、『入門統計解析』、講談社サイエンティフィク</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 序論：統計学とは</p> <p>第2回 データの基本処理：平均値、度数分布</p> <p>第3回 データの基本処理：分散、標準偏差</p> <p>第4回 データの基本処理：標準正規分布</p> <p>第5回 データの基本処理：正規分布と偏差値</p> <p>第6回 データの基本処理：確率分布</p> <p>第7回 統計解析：相関係数</p> <p>第8回 統計解析：回帰直線</p> <p>第9回 統計解析：順位相関</p> <p>第10回 統計解析：カイ2乗検定</p> <p>第11回 統計解析：平均値の推定</p> <p>第12回 統計解析：平均値の検定</p> <p>第13回 統計解析：分散分析</p> <p>第14回 統計解析：エクセルを用いた統計解析</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	期末試験（100%）			

授業科目	応用文書処理	担当者	岡村 俊彦
	[履修年次] 2, 3年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期] 前期 [単位] 1単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複数のアプリケーションを有機的に活用しながら、ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ</p> <p>【概要】1) 自己紹介文書作成：ワープロソフトを核に、グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する 2) ホームページ作成：自分なりの大学のホームページを作成し、公開する。 3) 提案書作成：インターネット検索と表計算ソフトを使い、架空の提案書を作成する。</p> <p>※ワード、エクセルがある程度使える中上級者向けの授業です</p> <p>【到達目標】・初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる ・わかりやすいドキュメントを作成する ・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布, Web でも公開 (2)		
授業スケジュール	第 1回 概要説明 第 2回 自己紹介文書作成1：ワープロを使ったベース文書の作成 第 3回 自己紹介文書作成2：表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合 第 4回 自己紹介文書作成3：写真、図の取り扱いとベース文書の結合 第 5回 自己紹介文書作成4：仕上げ。印刷設定のコツ 第 6回 ホームページ作成1：HTML 概念の復習。USB メモリへのソフトの導入 第 7回 ホームページ作成2：課題設定とページ作成 第 8回 ホームページ作成3：資料収集とページ作成 第 9回 ホームページ作成4：ページ公開 第 10回 提案書作成1：インターネットによる費用情報検索 第 11回 提案書作成2：表計算ソフトを使った自動計算書 第 12回 提案書作成3：プレゼン資料の作成 第 13回 提案書作成4：仕上げ、データ送信のコツ 第 14回 提案書作成5：プレゼンと評価 第 15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	レポート(3つの課題を総合的に評価)		

授業科目	PCデータ活用(第二部)	担当者	口脇淳子
	[履修年次] 1年	授業外対応	授業の前後に適宜対応します
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用</p> <p>【概要】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 表計算ソフト「Microsoft Excel」の基本操作を確実に習得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 実教出版編修部 30時間でマスターExcel2013 実教出版株式会社 (2)		
授業スケジュール	第 1回 習熟度確認アンケート Excelの起動と画面の確認 文字入力の確認 第 2回 簡単な表作成とグラフ化：Excelの基本的な流れを確認 第 3回 編集機能を活用した見やすい表の作成：行・列の操作・計算式や関数(合計・平均)の活用 第 4回 編集機能を活用した見やすい表の作成：体裁の整え方・罫線 第 5回 データ処理：関数の利用(カウント・端数処理など) 第 6回 データ処理：関数の利用(条件の判定・論理関数など) 第 7回 データ処理：関数の利用(順位づけ・VLOOKUPなど) 第 8回 各関数を利用した実習問題 第 9回 棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定(軸ラベル・データラベル・目盛りなど) 第 10回 円グラフ・3-Dグラフの作成とさまざまな設定(データ範囲の変更・系列の書式など) 第 11回 複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成(系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など) 第 12回 データベース入門：データベース作成上の各機能 第 13回 データの集計(並べ替え・抽出 ほか) 第 14回 データの集計(ピボットテーブル) 第 15回 前期のまとめ		
授業外学習(予習・復習)	各回の授業後、テキスト内の練習問題を復習し、次回授業時に提出もしくは確認を行う。		
成績評価の方法	期末試験(60%)＋授業で課せられる課題や宿題の提出状況(40%)		

授業科目	PCデータ活用実習 (第二部)		担当者	口脇淳子
	[履修年次] 1年		授業外対応	授業の前後に適宜対応します
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得</p> <p>【概要】 前期習得した内容が確実に活用できるよう、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。</p> <p>【到達目標】 知識と技術の習得を日商PC検定試験（データ活用）の3級資格取得で確認</p> <p>☆ 後期から履修する場合は、前期授業内容程度の技術を習得していることを前提とする</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編集部 30時間でマスターExcel2013 実教出版株式会社</p> <p>(2) プリント</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 前期授業の復習 知識科目問題</p> <p>第2回 検定対策問題：構成比を求める問題 知識科目問題</p> <p>第3回 検定対策問題：データの追加入力がある問題 知識科目問題</p> <p>第4回 検定対策問題：ABC分析 知識科目問題</p> <p>第5回 検定対策問題：簿記の要素を含んだ問題 知識科目問題</p> <p>第6回 検定対策問題：利益率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第7回 検定対策問題：データの集計を取る問題 知識科目問題</p> <p>第8回 検定対策問題：達成率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第9回 検定対策問題小テスト（実技問題・知識科目問題）</p> <p>第10回 検定対策問題：伸び率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第11回 検定対策問題：データを参照する問題 知識科目問題</p> <p>第12回 検定対策問題：集計データから請求書を作成する問題 知識科目問題</p> <p>第13回 検定対策問題：別シートのデータから計算式を設定する問題 知識科目問題</p> <p>第14回 検定対策問題：集計データをグループ化する問題 知識科目問題</p> <p>第15回 後期のまとめ 知識科目問題</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業後、同じ問題を、時間を計って解いてみる			
成績評価の方法	期末試験（60%）＋小テスト（20%）＋授業で指示された課題の提出状況（20%）			

授業科目	PCアプリケーション実習(A)		担当者	口脇淳子
	[履修年次] 1年		授業外対応	授業の前後に適宜対応します
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 アプリケーションソフトを活用して様々な資料を作成する。</p> <p>【概要】 3つのアプリケーションソフト（PowerPoint・KompoZer・Access）の基本操作を習得し、それぞれの目的に応じた資料を作成しパソコン活用の幅を広げる。</p> <p>【到達目標】 各アプリケーションソフトで課される資料（作品）を完成させる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 資料プリント</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 プレゼンテーション作成：Microsoft Office PowerPointの操作説明</p> <p>第2回 プレゼンテーション作成：Microsoft Office PowerPointの操作説明</p> <p>第3回 プレゼンテーション作成：課題に基づいて各自作成</p> <p>第4回 プレゼンテーション作成：課題に基づいて各自作成</p> <p>第5回 プレゼンテーション作成：課題に基づいて各自作成</p> <p>第6回 プレゼンテーション 発表</p> <p>第7回 ホームページ作成：KompoZerの操作説明（ページ作成）</p> <p>第8回 ホームページ作成：KompoZerの操作説明（タグ・リンク・CSS設定）</p> <p>第9回 ホームページ作成：課題に基づいて各自作成</p> <p>第10回 ホームページ作成：課題に基づいて各自作成</p> <p>第11回 ホームページ作成：課題に基づいて各自作成</p> <p>第12回 データベース作成：Microsoft Office Accessの操作説明（テーブルの作成）</p> <p>第13回 データベース作成：Microsoft Office Accessの操作説明（フォーム・クエリ・レポートの作成）</p> <p>第14回 データベース作成：課題データベースの作成</p> <p>第15回 データベース作成：課題データベースの作成</p>			
授業外学習(予習・復習)	計画的に作成できるよう授業前に資料の準備や基本操作の確認を行う			
成績評価の方法	授業内での操作状況（10%）＋各アプリケーションの課題提出（90%）			

授業科目	PCアプリケーション実習(B)		担当者	瀬戸 博幸	
	[履修年次]	1年	授業外対応	メールにて(アドレスは講義中に告知)	
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択] 選択 [授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】コンピュータを道具として使う力を持つ</p> <p>【概要】パソコンは非常に有効な機械であり、OSの発達により格段に使いやすくなった。これを仕事に活用するときアプリケーションソフトの存在が見えてくる。昨今、特にHTML5の登場を契機にWebブラウザをアプリケーションの基盤として使おうとする傾向が見えてきている。そこでJavaScriptを用いてブラウザを制御する実習を通してアプリケーションについて考えてみることにする。</p> <p>【到達目標】各アプリケーションソフトがどのような役割を担っているか理解し、積極的に活用しようとする人になる</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2) ホームページで紹介されているJavaScriptの記事を参考資料とする				
授業スケジュール	第1回 ホームページにアニメーションを取り入れよう(オリエンテーション) 第2回 JavaScriptの紹介(1)HTMLにJavaScriptを組み入れる 第3回 JavaScriptの紹介(2)繰り返しの処理はどのように行われるのか 第4回 JavaScriptの紹介(3)ソースにコメントをつけよう 第5回 JavaScriptの紹介(4)画像の位置を制御 第6回 JavaScriptの紹介(5)画像を動かしてみよう 第7回 JavaScriptの紹介(6)簡単なゲームにしてみよう 第8回 JavaScriptの紹介(7)簡単なゲームにしてみよう(その2) 第9回 自分でやってみよう(1)構想 第10回 自分でやってみよう(2)作画 第11回 自分でやってみよう(3)アニメーション化 第12回 自分でやってみよう(4)アニメーション化 第13回 自分でやってみよう(5)アニメーション化 第14回 自分でやってみよう(6)ホームページで公開 第15回 まとめ アプリケーションソフトって何だろう				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	メールによる日々の考察(50%)＋公開した作品(50%)により評価する				

授業科目	日本経済論		担当者	船津 潤	
	[履修年次]	1年, 2年, 3年いずれでも履修可	授業外対応	随時日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください	
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択] 選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本経済</p> <p>【概要】明治から現在までの日本の産業政策と構造改革の下での福祉改革を中心に講義します(下記、授業スケジュールを参照)。</p> <p>【到達目標】日本経済の特質と問題点、そして日本経済が過去や国際経済とどのようにつながっているのかについて理解を深め、日本経済や経済政策について主体的に考察できるようになることを目標とします。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (2) 田代洋一・萩原伸次郎・金澤史男編『現代の経済政策 第3版』有斐閣				
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第2回 日本の産業政策の歴史 戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等 第3回 日本の産業政策の歴史 戦前(2)：明治維新の意義、その後の産業構造の変化等 第4回 敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況、傾斜生産方式、1950年代前半の産業政策等 第5回 高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等 第6回 日本の産業政策と行政指導：勸告操短、企業の反発等 第7回 開放体制への移行：IMF8 条国への移行、産業再編等 第8回 1970年代の日本経済：2度のオイル・ショック、構造不況業種への対応、知識集約化・高付加価値化への動き等 第9回 企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴・グループ内の結び付き、現在の状況等 第10回 1980年代以降の日本経済：対米貿易摩擦、日米構造協議等 第11回 現在の産業政策：産業競争力強化法、現在の産業政策の特徴等 第12回 グローバル化と構造改革への動き：プラザ合意と国際協調、バブル崩壊後の動向等 第13回 構造改革：構造改革の特徴・本質等 第14回 構造改革下の福祉改革：国民負担率に対する認識、構造改革下の福祉改革の内容と特徴等 第15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等				
授業外学習(予習・復習)	特に復習を重視してください。また、普段からニュース等に講義と関連することはないが注目することが有効です。				
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。				

授業科目	財政学		担当者	船津 潤
	[履修年次]	1年, 2年, 3年いずれでも履修可	授業外対応	随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 財政・財政学</p> <p>【概要】 財政に関する基本的な概念や理論, 日本の財政の制度と実態, それを抱える課題に関する内容を中心に, グローバル化の影響等についても講義します(下記授業スケジュール参照)。</p> <p>【到達目標】 上記の概要に示した内容に関する理解を深め, 受講者が財政に関して自分自身で主体的に考察し, 判断できるようになることを目標とします。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 金澤史男編『財政学』有斐閣</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス: 講義の目標, 評価基準等の説明</p> <p>第 2回 財政とは何か: 財政の定義, 政府に対する評価の揺れ, 市場の失敗, 政府の機能等</p> <p>第 3回 予算(1): 定義, 役割, 予算原則等</p> <p>第 4回 予算(2): 日本の制度, その抱えている課題, 改革の方向等</p> <p>第 5回 経費(1): 定義, 分析の目的, 経費の分類等</p> <p>第 6回 経費(2): 経費膨張の法則, 転位効果, 小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等</p> <p>第 7回 租税(1): 定義, 租税の根拠, 代表的な租税原則等</p> <p>第 8回 租税(2): 公平の基準, 望ましい税制とは等</p> <p>第 9回 公債(1): 定義, 民間債務との対比, 租税との対比, 公債の種類等</p> <p>第 10回 公債(2): 日本の国債発行における原則, 制度, 「ギリシャよりひどい」は本当か等</p> <p>第 11回 財政投融资(1): 定義, 運用対象, 批判等</p> <p>第 12回 財政投融资(2): 2001年度の改革, 今後の展望等</p> <p>第 13回 財政の国際化: 国際公共財, グローバル化と国際的財政移転等</p> <p>第 14回 財政改革を考える: 社会の変化と財政, 本当の財政危機とは, 財政改革で求められる視点等</p> <p>第 15回 まとめ: 講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等</p>			
授業外学習(予習・復習)	特に復習を重視してください。また、普段からニュース等に講義と関連することはないか注目することが有効です。			
成績評価の方法	筆記試験(80%) + 小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。			

授業科目	農業経済論		担当者	岡田 登
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表面化している食料・農業・農村の問題の背景を理解する。</p> <p>【概要】 世界農業の形成過程及び日本農業の発展過程を把握した上で、農業地域、組織、流通等の仕組みを学び、現在起こっている農業経済現象とその原因を理解する。</p> <p>【到達目標】 食料・農業・農村の問題の背景を理解し、日本農業の今後の展望と農業のあり方を説明できる能力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス、講義の目標、表面化している食料・農業・農村の問題提起</p> <p>第 2回 農業の基本的知識</p> <p>第 3回 世界農業の形成過程(農業の起源、農業形態の発展、雑草対策、植民地政策、大規模穀物生産)</p> <p>第 4回 日本農業の発展過程(1)(稲作の普及と近郊農業、明治期から戦前までの展開)</p> <p>第 5回 日本農業の発展過程(2)(経済成長期、農業基本法と産地形成、食糧管理制度と農地法)</p> <p>第 6回 日本農業の発展過程(3)(食糧管理法から食糧法、米の生産調整、農地法改正、食料・農業・農村基本法への転換)</p> <p>第 7回 農業協同組合と農産物の市場流通</p> <p>第 8回 農業保護政策と農産物貿易</p> <p>第 9回 フードレジーム、日本における農産物自由化</p> <p>第 10回 フードシステムの形成と食品関連産業の台頭</p> <p>第 11回 農地法改正と農業法人化、農業基盤強化促進法</p> <p>第 12回 農産物の高付加価値化とブランド化(有機農産物、伝統野菜、地理的表示、六次産業化、農商工連携)</p> <p>第 13回 農村空間の商品化(農村景観、地産地消、観光農園、農産物直売所)</p> <p>第 14回 都市住民の農業(市民農園、体験農園、自家菜園)</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	関連文献等も使用して復習をし、次回の講義を受けること			
成績評価の方法	授業時に実施するレポート(40%) + 期末試験(60%)			

授業科目	金融論	担当者	内田昌廣
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	いつでも対応しますので、メールで連絡してください。
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>金融の仕組みに関する基礎知識を習得するとともに、金融が経済に及ぼす影響など幅広い視野を養います。</p> <p>【概要】金融の役割や金融機関が果たしている機能から、金融業界が直面している課題や金融危機の原因や影響まで幅広いテーマを採り上げます。金融と経済の関わりを幅広く学習し、社会人として必要な金融リテラシーの基礎を身につけます。</p> <p>【到達目標】</p> <p>金融の基本的な知識を習得し、金融関連の情報に関心を持ち正しく理解できるようになること。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 川西論・山崎福寿『金融のエッセンス』有斐閣 杉山敏啓編『実務入門 改訂版 金融の基本教科書』日本能率マネジメントセンター</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的・進め方 序論：お金とは何か？ 金融とは何か？</p> <p>第2回 銀行の役割(1)： 決済の仕組み（内国為替、手形、外国為替）</p> <p>第3回 銀行の役割(2)： 間接金融の仕組み、預金金利・貸出金利の決定方法、銀行の信用創造機能</p> <p>第4回 銀行の役割(3)： 貸出形態、貸出審査、信用補完（担保・保証）</p> <p>第5回 銀行の役割(4)： 新しい貸出手法（動産担保融資、知的財産担保融資、リバースモーゲージ・ローン）</p> <p>第6回 銀行の役割(5)： 地域金融機関の取り組み（地域密着型金融）</p> <p>第7回 銀行の役割(6)： 金融機関に対する規制、預金者保護のための制度</p> <p>第8回 証券会社の役割(1)： 直接金融の仕組み、株式の仕組み、株式市場の仕組み、株式上場の意義</p> <p>第9回 証券会社の役割(2)： 債券の仕組み、証券会社の業務、証券市場に対する規制、投資家保護のための制度</p> <p>第10回 保険会社の役割(1)： 保険の仕組み、生命保険と損害保険</p> <p>第11回 保険会社の役割(2)： 保険会社の経営、保険会社に対する規制、契約者保護のための制度</p> <p>第12回 日本銀行の金融政策： 日本銀行の金融調節、ゼロ金利政策、量的緩和政策</p> <p>第13回 金融危機から学ぶこと： 日本のバブル崩壊、米国発の世界金融危機、欧州金融危機</p> <p>第14回 ソーシャル・ファイナンス： 金融の仕組みを活用して、社会的課題を解決する方法</p> <p>第15回 まとめ（授業評価アンケートの実施、期末試験に関する質疑応答）</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習を十分行ってください。金融に関する情報・論説に触れ、最新の動きについて知識を広げてください。		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	経済学史	担当者	西原 誠司
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】時代の中で生き、時代をこえて生きる経済学・経済学史を学ぶ</p> <p>【概要】ある時期に一世を風靡した学説が、次の時代には顧みられなくなることもある。なぜ、ある時代にはある経済学が脚光を浴び、次の時代には、また別の経済学が登場し、注目されるようになるのか。時代の中に経済学・経済学史を置きなおすことを通じて、そのことの意味を考える。とりわけ、この数十年間にわたって経済学の主流に君臨した「新自由主義」＝市場原理主義の学説は、その表面的な装いとは全く違って（一見するとアダム・スミスの再来であるかのように見える）、「国家が強力に介入する自由主義」＝イデオロギーであって、そのようなイデオロギーを越えていくことが大切であることを、経済学・経済学説史の歴史をたどって明らかにしたいとおもっている。</p> <p>【到達目標】経済学・経済学説史を通して、現代起こっている経済現象の分析ができるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 上野俊樹著作集1『経済学とイデオロギー』（文理閣、2003年）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに——経済学・経済学史とイデオロギー</p> <p>第2回 ミルトン・フリードマンとショックドクトリン——新自由主義とは何であったのか</p> <p>第3回 アダム・スミスの『国富論』とその時代</p> <p>第4回 マルクスの『資本論』を読む——マルクスが生きた時代</p> <p>第5回 マルクスの『資本論』を読む——史的唯物論と経済学・経済学史</p> <p>第6回 マルクスの『資本論』を読む——商品と貨幣</p> <p>第7回 マルクスの『資本論』を読む——剰余価値とはなにか</p> <p>第8回 マルクスの『資本論』を読む——資本蓄積</p> <p>第9回 マルクスの『資本論』を読む——資本の原始的蓄積</p> <p>第10回 レーニン『帝国主義論』を読む——21世紀の資本主義</p> <p>第11回 レーニン『帝国主義論』を読む——資本主義の「最後の段階」と戦争</p> <p>第12回 ケインズ『雇用・利子および貨幣の一般理論』を読む</p> <p>第13回 ケインズ『平和の経済的帰結』を読む</p> <p>第14回 現代資本主義を読み解く——経済に関する諸学説とその意味</p> <p>第15回 おわりに——Love & Peaceの経済学をめざして</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習は時事問題に関心を寄せて新聞・ニュースをみることに。配布プリントをみて復習をする。		
成績評価の方法	毎回の講義で見せる映像資料の感想と筆記試験の両方で評価。		

授業科目	経済学特講		担当者	蔵元 淳
	[履修年次]	1, 2, 3年いずれでも履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 すべての人に関係する親族法と相続法と悪徳商法の手口について</p> <p>【概要】 親族法（親子、兄弟姉妹、夫婦の各関係）と相続法について、弁護士経験にもとづき具体的に講義する。 また、経済的に苦しむ人々の救済手段たる消費者破産についてもふれる予定である。 加えて、悪徳商法にひっかからないためにこの時間を設け、ネットワークビジネス、内職商法、就職商法、デート商法、キャッチセールスなどの被害の手口、対処の仕方について講義をする。</p> <p>【到達目標】 司法書士のレベルに到達できるよう講義するつもりである。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 六法（小六法、模範六法その他何でも可）を持参願いたい。</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 悪徳商法にひっかからないために。ネットワークビジネス、内職商法、就職商法、デート商法、キャッチセールスなどの被害の手口、対処の仕方について</p> <p>第 2回 婚姻（結婚）とは</p> <p>第 3回 内縁について</p> <p>第 4回 離婚とは</p> <p>第 5回 離婚原因について</p> <p>第 6回 離婚に伴う親権の指定、財産分与、慰謝料などについて</p> <p>第 7回 親子（実子）について</p> <p>第 8回 親子（養子）について</p> <p>第 9回 相続とは</p> <p>第10回 誰が相続するか</p> <p>第11回 相続の割合はどうか</p> <p>第12回 遺言書について</p> <p>第13回 遺留分とは、どういうことか</p> <p>第14回 個人破産とは、どういうことか</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	各自講義内容を復習すること			
成績評価の方法	筆記試験（80%）に授業での発言内容（20%）を加味する。			

授業科目	国際経済論		担当者	西原 誠司
	[履修年次]		授業外対応	メール・Line で連絡。
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Love & Peace の経済学——国際化する経済と「戦争なき世界」の実現可能性を考える</p> <p>【概要】 ナチスドイツのポーランド侵攻を契機に始まった第二次世界大戦は、500万人のユダヤ人を含む6000万人の死者をだし、終結した。大戦後、様々な紛争・戦争は起こったが、第三次世界大戦は、起こっていない。では、なぜ、世界戦争が起こらなかったのか。このことの原因を、グローバル化した経済に求め、9.11以後多発するテロをなくす条件を考える。</p> <p>【到達目標】 グローバル化した経済（国際経済）の現段階を認識することによって、どうすれば世界平和を実現することができるのかを考え、行動する力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2) 朝日吉太郎編著『欧州グローバル化の新ステージ』（文理閣、2015年） 西原誠司『グローバルイゼーションと現代の恐慌』（文理閣、2000年）</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 はじめに——アンネ・フランクの悲劇を繰り返さないために</p> <p>第 2回 資本主義の発展と貧困・恐慌・戦争——19世紀資本主義と20世紀資本主義の違い</p> <p>第 3回 資本主義のグローバル化と戦争を引き起こす政治・経済的条件の変化</p> <p>第 4回 資本主義のグローバル化と国際的地域経済ブロックの登場</p> <p>第 5回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ① 戦争の原因となった資源の共同管理</p> <p>第 6回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ② 関税同盟・市場統合・通貨統合</p> <p>第 7回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ③ 新しい国際通貨ユーロの意味と金融危機</p> <p>第 8回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ④ 人間と環境にやさしい新しい社会をめざして</p> <p>第 9回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ⑤ 多文化主義・多言語主義とEU統合</p> <p>第10回 最後の帝国主義アメリカ ①——ふたつの大戦による西欧の没落と米国の覇権の確立</p> <p>第11回 最後の帝国主義アメリカ ②——多国籍企業の対外進出と経済競争・ベトナム戦争の敗北</p> <p>第12回 最後の帝国主義アメリカ ③——米・ソ冷戦体制の終焉とアメリカの「復活」・「没落」</p> <p>第13回 動揺する西欧世界とイスラム世界——モダンイスラム・トルコの挑戦と苦悩</p> <p>第14回 台頭する中国の新シルクロード戦略と「平和国家」・日本の役割</p> <p>第15回 おわりに——杉原千敏の生き方に学ぶ</p>			
授業外学習(予習・復習)	テキストの該当箇所を事前に読み、講義のあと、復習をし、それを通じて自分の見解を形成することに心がけてください。			
成績評価の方法	授業態度（積極的に授業に参加しているか、感想文の提出）および筆記試験。			

授業科目	国際関係論		担当者	福田忠弘
	[履修年次]	1～3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史の変遷をたどる。</p> <p>【到達目標】国際社会の現在の諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない (2) 講義中に指示する			
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目的、方法 第 2回 国際関係論の基礎 1：国内社会と国際社会は何か違うのか 第 3回 国際関係論の基礎 2：行為体と争点の多様化 第 4回 国際関係のなりたち 1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦 第 5回 国際関係のなりたち 2：アジアにおける冷戦の拡大 1 第 6回 国際関係のなりたち 3：アジアにおける冷戦の拡大 2 第 7回 国際関係のなりたち 4：朝鮮戦争とベトナム戦争 第 8回 国際関係のなりたち 5：大国の支配とナショナリズム 第 9回 国際関係のなりたち 6：冷戦後の世界秩序 第 10回 国際社会における諸問題 1：グローバリゼーションと貧困問題 第 11回 国際社会における諸問題 2：貧困と開発 第 12回 国際社会における諸問題 3：国境を越える諸問題 第 13回 国際社会における諸問題 4：対テロ 第 14回 国際社会における諸問題 5：グローバルガバナンス 第 15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する			
成績評価の方法	試験 (100%) によって評価する。			

授業科目	アジア事情		担当者	福田忠弘
	[履修年次]	1～3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】東アジア、東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。</p> <p>【概要】アジアは、地理、歴史、言語、文化、宗教、民族など、すべての面において多様である。本講義では、「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも、脱植民地化、国民国家建設など「共通性」について焦点をあてる。</p> <p>【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない (2) 講義中に指示する			
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目的と方法 第 2回 「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか 第 3回 歴史的形成 1：植民地以前のアジア 第 4回 歴史的形成 2：植民地のようす 第 5回 歴史的形成 3：植民地からの独立 第 6回 歴史的形成 4：脱植民地化、国民国家建設、開発 第 7回 歴史的形成 5：冷戦下のアジア 第 8回 東南アジア 1：インドシナ三国 第 9回 東南アジア 2：ベトナム戦争の影響 第 10回 東南アジア 3：タイ、ミャンマー、マレーシア 第 11回 東南アジア 4：メコン河流域開発 第 12回 東南アジアの地域協力体制：ASEAN の形成 第 13回 アジアにおける協力体制 1：ASEAN を中心とする協力 1 第 14回 アジアにおける協力体制 1：ASEAN を中心とする協力 2 第 15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する			
成績評価の方法	レポート (100%) によって評価する。			

授業科目	ヨーロッパ経済事情	担当者	大重 康雄
	[履修年次] 1年, 2年, 3年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ヨーロッパ(EU)を主に経済の視点でとらえ、ヨーロッパ (EU) がもたらす世界経済への影響や広域経済連携地域が内包する課題を考察する</p> <p>【概要】ヨーロッパ地域統合 (EU) から通貨統合およびその後の金融財政危機等の変遷に注目し、今後のヨーロッパ社会の展望について考える。特に英国の EU 離脱や難民・移民問題が深刻化しておりそれら問題を米国や日本と対比し考える。</p> <p>【到達目標】ヨーロッパ地域統合 (EU) の現状と課題を学ぶことにより、大規模な経済連携が地域や人々にどのような影響を与えるかを理解できる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 田中素香ほか『現代ヨーロッパ経済 第4版』有斐閣アルマ および講師作成プリント</p> <p>(2) 遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会ほか</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 現在ヨーロッパで何が起きているか</p> <p>第2回 ヨーロッパ統合前史</p> <p>第3回 ヨーロッパ統合の歴史</p> <p>第4回 統一通貨ユーロとは</p> <p>第5回 国際金融危機とEU財政諸問題</p> <p>第6回 EU社会が抱える課題</p> <p>第7回 イギリスとEU経済</p> <p>第8回 フランスとEU経済</p> <p>第9回 ドイツとEU経済</p> <p>第10回 その他諸国とEU経済</p> <p>第11回 中・東欧諸国とEU経済</p> <p>第12回 EUと対外通商関係</p> <p>第13回 欧州通貨と国際金融システム</p> <p>第14回 ヨーロッパ社会と統合の将来について</p> <p>第15回 講義のまとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業中各自に質問をするのでシラバスに従って予習をしていくこと。また復習し次回質問すべきことをまとめておくこと。		
成績評価の方法	筆記試験 (80%) + 授業での発言内容 (20%)		

授業科目	地域経済論	担当者	岡田 登
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地域経済構造及び理論を理解する。</p> <p>【概要】経済のグローバル化が進行し、国内においても地域間格差及び地域間競争が激化する中で、地域的な特徴を見極めて地域経済の再建と発展を図らなければならない。この講義では地域とは何か、地域とはどのように構成されているのかを知り、地域間格差を生み出す要因を地域経済構造と基本的な理論から学び、地域経済の発展に関わる今日的な対応策について検討する。</p> <p>【到達目標】地域経済構造と理論を正確に理解することで、地域経済の特徴を分析する能力を身につけ、その発展に向けて考察できるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 山田 浩之 編 『地域経済学入門』 有斐閣、松原 宏 編 『立地論入門』 古今書院</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、講義の目標、地域とは何か、等質地域と機能地域からみた地域経済</p> <p>第2回 都市地域論 (1) (都市と農村、都市化の概念、都市の発展段階)</p> <p>第3回 都市地域論 (2) (都市の機能と分類、大都市圏の構造、都市の内部構造とメカニズム)</p> <p>第4回 産業地域論 (1) (産業立地、産業構造の変化)</p> <p>第5回 産業地域論 (2) (中心地理論、商業形態の発展と変化)</p> <p>第6回 農業地域論 (農業立地論、農業地域区分、技術の地域的拡散、生産者の意思決定)</p> <p>第7回 工業地域論 (工業立地の変動、工業立地論、工業立地の分散)</p> <p>第8回 漁業林業地域論 (漁業地域の資源管理とコモンズ論、林業地域の資源管理とガバナンス)</p> <p>第9回 地域経済計算、地域所得、地域成長の経済分析、地域間格差</p> <p>第10回 内発的発展論</p> <p>第11回 地域内連携、異業種間連携、地域間連携</p> <p>第12回 都市計画の仕組み</p> <p>第13回 まちづくり</p> <p>第14回 コンパクトシティ</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	関連文献等も使用して復習をし、次回の講義を受けること		
成績評価の方法	授業時に実施するレポート (40%) + 期末試験 (60%)		

授業科目	地域産業政策		担当者	岡田 登	
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地域間格差の実態と問題点を理解する。</p> <p>【概要】国内において地域間格差及び地域間競争が激化する中で、地域的な特徴を見極めて地域経済の再建と発展を図らなければならない。地域経済論では地域間格差を生み出す要因について経済構造と理論から学んだが、この講義ではそれを踏まえて地域間格差の現状と顕在化する問題点を理解し、地域の発展に向けた取り組みの実態を学び、これから地域が生き残るための方策を探る。</p> <p>【到達目標】地域間格差の現状と問題点を正確に理解し、具体的な取り組みの実態を学び、地域の発展に向けて自ら考えて発想できるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス、講義の目標</p> <p>第 2回 政策的要因 (1) (アメリカのTVAと日本の国土計画)</p> <p>第 3回 政策的要因 (2) (全国総合開発計画, 新全国総合開発計画)</p> <p>第 4回 政策的要因 (3) (第三次全国総合開発計画, 第四次全国総合開発計画)</p> <p>第 5回 政策的要因 (4) (21世紀の国土のグランドデザイン, 国土形成計画法)</p> <p>第 6回 地域間格差の現状 (1) (所得, 産業, 人口)</p> <p>第 7回 地域間格差の現状 (2) (人口移動の詳細分析)</p> <p>第 8回 地域間格差の現状 (3) (社会基盤, 生活)</p> <p>第 9回 過疎化, 地方分権, 広域的市町村合併</p> <p>第 10回 地方創生, 地域再生法, 新たな国土形成計画</p> <p>第 11回 大都市地域における問題と地域活性化への取り組み</p> <p>第 12回 都市地域における問題と地域活性化への取り組み</p> <p>第 13回 農村地域及び工業地域における問題と地域活性化への取り組み</p> <p>第 14回 観光業地域における問題と地域活性化への取り組み</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	関連文献等も使用して復習をし、次回の講義を受けること				
成績評価の方法	授業時に実施するレポート (40%) + 期末試験 (60%)				

授業科目	地方自治論		担当者	船津 潤	
	[履修年次]	1年, 2年, 3年いずれでも履修可	授業外対応	随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地方自治, 地方行財政</p> <p>【概要】地方自治とは何か、日本の国と地方自治体との関係の特徴といった視点を踏まえて、地方自治に関する基本的な概念や理論、制度について講義するとともに、参考になるとと思われる海外の事例も取り上げます(下記、授業スケジュールを参照)。</p> <p>【到達目標】上記の概要に示した内容に関する理解を深め、受講者が地方自治, 地方行財政について、自分自身で主体的に考えられるようになることを目標とします。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 林健久編『地方財政読本 第5版』東洋経済新報社</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス: 講義の目標, 評価基準等の説明</p> <p>第 2回 地方自治: 地方自治とは何か, 地方公共団体の特徴, 地方分権が求められる背景, グローバル化の影響等</p> <p>第 3回 地方自治体の意思決定 (1): 首長・役所・議会の関係, 国と地方公共団体の関係等</p> <p>第 4回 地方自治体の意思決定 (2): 地方の予算制度, 長の強い権限等</p> <p>第 5回 地方自治体の財源 (1): 三位一体の改革, 地方債等</p> <p>第 6回 地方財政健全化法 (1): 地方財政健全化法, 地方債改革との関係等</p> <p>第 7回 地方財政健全化法 (2): 法律成立の背景, 影響等</p> <p>第 8回 地方自治体の財源 (2): 地方交付税, 国庫支出金等</p> <p>第 9回 法定外税 (1): 法定外税の定義, 地方分権一括法での変更点, 現在の傾向等</p> <p>第 10回 法定外税 (2): 受益・原因と負担の関係, 利点と問題点等</p> <p>第 11回 市町村合併: 「平成の大合併」とその背景, 望ましい合併とは, 現在の状況等</p> <p>第 12回 市民参加・参画: 歴史, 求められている背景, 小田原市の事例等</p> <p>第 13回 非営利組織: アメリカの非営利開発法人の事例等</p> <p>第 14回 住民自治: シアトル・メトロの事例について</p> <p>第 15回 まとめ: 講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等</p>				
授業外学習(予習・復習)	特に復習を重視してください。また、普段からニュース等に講義と関連することはないか注目することが有効です。				
成績評価の方法	筆記試験 (80%) + 小テスト (20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。				

授業科目	高齢者福祉	担当者	田口康明
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可	授業外対応	メールで連絡, 随時対応
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】社会福祉の構造を明らかにし、その中での高齢者福祉の位置づけについて考える。あわせて、2000年以降変化する社会福祉について、高齢者福祉の分野に導入された「介護保険」の制度を検討し理解する。</p> <p>【概要】本科目は、本科目は、専門科目として開設されている。授業では少人数が想定されるので、受講者はテキストを読み、その要約を発表しながら内容の理解を進めていく。</p> <p>【到達目標】介護保険を中核とする「高齢者福祉」の仕組みの理解につくる。将来、高齢者当事者として、また介護者当事者として向き合うことが、すべての人にとってほぼ確実であるのでその理解を進める。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『介護保険は老いを守るか』沖藤典子著, 岩波新書</p> <p>(2) 授業内で随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス この授業のすすめ方</p> <p>第2回 (講義) 福祉とは何か・必要という考え方・必要に基づく社会政策</p> <p>第3回 (講義) 資源とその供給・資源の再分配・官僚制と専門主義</p> <p>第4回 (発表) テキスト「第1章 介護保険はなぜ創設されたのか」その1</p> <p>第5回 (発表) テキスト「第1章 介護保険はなぜ創設されたのか」その2</p> <p>第6回 (発表) テキスト「第2章 介護保険サービスの「適正化」その1</p> <p>第7回 (発表) テキスト「第2章 介護保険サービスの「適正化」その2</p> <p>第8回 (発表) テキスト「第2章 介護保険サービスの「適正化」その3</p> <p>第9回 (発表) テキスト「第3章 解決されるか、介護現場の危機」その1</p> <p>第10回 (発表) テキスト「第3章 解決されるか、介護現場の危機」その2</p> <p>第11回 (発表) テキスト「第4章 迷走した要介護認定」その1</p> <p>第12回 (発表) テキスト「第4章 迷走した要介護認定」その2</p> <p>第13回 (発表) テキスト「第5章 老いを守る介護保険への道」その1</p> <p>第14回 (発表) テキスト「第5章 老いを守る介護保険への道」その2</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	テキストの各回の箇所を十分読むこと		
成績評価の方法	授業中の発表 60%, 授業中の発言 20% ファイナルレポート 20%		

授業科目	労働法	担当者	疋田京子
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可	授業外対応	コミュニケーション・ペーパーを使用
	[学期] 後期 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「ディーセント・ワーク (働きがいのある人間らしい仕事)」実現のための基礎知識</p> <p>【概要】労働法は憲法や民法の応用分野であり、憲法や民法・刑法・行政法といった基本的な法律の上になりたっている。その意味では全体像をつかむことは難しいかもしれない。しかし、1919年に国際労働機関 (ILO) が結成されて以来、その法分野が目指したのは「ディーセント・ワーク」の実現なのだ。本講義では、就職するとき知っておくべき労働者の権利と義務、職場で問題が起こった場合の解決の方法に関する基本的なルールを講義する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 働くときに知っておくべき労働者の権利と、使用者が守るべき義務とは何かを理解する 2. 権利を主張するための法的根拠ほどの法律にあるのかを理解する 3. 権利の実現のために、どのような救済手段や機関があり、公的保障があるのかを知る 		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント配布</p> <p>(2) 講義時に紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス: マタハラって何?</p> <p>第2回 労働法の全体像: 憲法・民法と労働法の関係</p> <p>第3回 労働契約の成立: 労働基準法と労働契約</p> <p>第4回 労働法上の「労働者」「使用者」概念: プロ野球選手は「労働者」?</p> <p>第5回 就業規則・労働協約との関係: 就業規則の不利益変更</p> <p>第6回 労働契約成立までの流れ: 採用内定と試用期間の法的性格</p> <p>第7回 労働契約の内容: 労働契約の基本的内容と使用者の労働条件明示義務</p> <p>第8回 労働契約の原則: 雇用における男女平等と中間搾取の排除</p> <p>第9回 賃金についてのルール: 賃金額の制限と賃金支払いのルール</p> <p>第10回 労働時間の基本的ルール: 所定労働時間と法定労働時間</p> <p>第11回 労働時間制の多様化: 変形労働時間制とフレックスタイム制</p> <p>第12回 年次有給休暇: 休日・休暇・休業はどう違う?</p> <p>第13回 労働契約の変更と終了: 解雇に関する法規制</p> <p>第14回 ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて: 育児・介護休業と雇用機会均等</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	筆記試験 (60点) + 小レポート (40点)		

授業科目	国際経済特講		担当者	村田 秀博
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	授業終了後, Eメールにて
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本経済のグローバル化と中小企業の海外進出, 貿易取引。</p> <p>【概要】日本の中小企業は, 近年の日本国内の経済環境の変化の中で, 企業活動をアジアほか海外へ拡大させ, 現在の苦境を改善しようとして, さらなる企業拡大の契機をつかもうという動きが顕著になってきている。鹿児島県内でも同様であり, 海外を目指す中小企業が「挑戦」「失敗」「成功」を繰り返している。その現状を認識し, 自分なりの方法・課題・打開策を考え, 社会感性を磨く。またその基礎となる貿易知識も習得する。</p> <p>【到達目標】日本国並びに鹿児島県内でのグローバル化の現状を認識し, 対応できる方法論・基礎知識を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 参考書, レジュメ, プリント資料</p> <p>(2) 必要に応じて随時資料を追加配布する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス (日本経済のグローバル化)</p> <p>第2回 中小企業の国際化の現状 (鹿児島県)</p> <p>第3回 進出先の情勢比較 (中国)</p> <p>第4回 進出先の情勢比較 (中国)</p> <p>第5回 知的財産権の保護 (中国商標登録問題)</p> <p>第6回 進出先の情勢比較 (台湾・タイ・ベトナム)</p> <p>第7回 進出先の情勢比較 (ミャンマー・シンガポール)</p> <p>第8回 進出先の情勢比較 (インドネシア・ロシアほか)</p> <p>第9回 貿易実務 (概要)</p> <p>第10回 貿易実務 (外国為替・為替相場・先物為替予約)</p> <p>第11回 貿易実務 (外貨預金・外貨貸付)</p> <p>第12回 貿易実務 (輸入)</p> <p>第13回 貿易実務 (輸出)</p> <p>第14回 貿易実例紹介</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)				
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + レポート (50%)			

授業科目	地域研究特講		担当者	山本晃正
	[履修年次]	1年, 2年, 3年	授業外対応	講義終了後
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>消費者をめぐる法律問題の諸相</p> <p>【概要】</p> <p>常に新たな手口が登場する悪徳商法やワンクリック詐欺などの消費者被害はどのように規制されているのか, 危険な製品で受けた消費者の被害はどのように賠償されるのか, 金融商品の規制はどうなっているのか, サラ金への規制はどうなっているのか, 公正な競争や表示のための規制はどうなっているのかなど, われわれ消費者を取り巻く様々な法律問題を, 消費者に認められている各種の諸権利の理解を中心として, 最新の法律改正も交えながら, できるだけ具体的事例を取り上げながら考えていく。</p> <p>【到達目標】</p> <p>消費者がどのような状態にあり, どのような問題を抱えているのかを具体的かつ多面的に理解し, その上で, 消費者に保障されている法律上の制度や諸権利の内容を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 杉浦市郎編著『新・消費者法これだけは〔第2版〕』法律文化社</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 消費者と契約: 契約とは何か, 契約の拘束力からの離脱</p> <p>第2回 消費者と契約: 消費者契約法 (目的, 対象, 取消権)</p> <p>第3回 消費者と契約: 消費者契約法 (不当条項の無効, 適格消費者団体による差止請求権), 電子消費者契約法</p> <p>第4回 消費者と契約: 特定商取引法 (規制対象, 訪問販売・電話勧誘販売の諸規制)</p> <p>第5回 消費者と契約: 特定商取引法 (訪問販売・電話勧誘販売での民事救済制度, クーリングオフの意味と制度概要)</p> <p>第6回 消費者と契約: 特定商取引法 (通信販売・特定継続的役務提供・業務提供誘引販売取引・連鎖販売取引=マルチ)</p> <p>第7回 消費者と契約: 特定商取引法 (送り付け商法), 無限連鎖講防止法, 復習のための第1回模擬演習テスト</p> <p>第8回 消費者と安全: 製造物責任法 (目的, 製造物の概念・欠陥の概念・責任主体・製造物責任・免責事由)</p> <p>第9回 消費者と信用取引: 貸金業法とグレーゾーン金利など</p> <p>第10回 消費者と信用取引: 割賦販売法 (割賦販売・ローン提携販売・信用購入あっせん)</p> <p>第11回 消費者と金融商品取引: 金融商品取引法 (投資家=消費者保護規制) と金融商品販売法</p> <p>第12回 消費者と公正な競争秩序の維持: 独占禁止法 (競争政策の意味, カルテル禁止と灯油裁判, 共同の取引拒絶など)</p> <p>第13回 消費者と公正な競争秩序の維持: 独占禁止法 (差別対価, 不当廉売, 抱合せ販売, 再販売価格の拘束)</p> <p>第14回 消費者と不当表示・景品提供: 不当景品類及び不当表示防止法 (景品表示法・改正法)</p> <p>第15回 まとめ: 消費者基本法, 消費者の諸権利, 復習のための第2回模擬演習テスト</p>			
授業外学習(予習・復習)	テキストを読み, 配付資料を利用して, 予習と復習を行って下さい。			
成績評価の方法	筆記試験 (100%)			

授業科目	地方自治法		担当者	山本 敬生																																													
	[履修年次]	1, 2, 3 年履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約)																																													
	[学期]	後期	[単位]	2 単位																																													
			[必修/選択]	選択																																													
			[授業形態]	講義																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住民自治、団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で、地方公共団体の種類及び事務、住民の権利義務、条例と規則、議会、執行機関を中心に地方自治法を体系的に学習し、地方の時代における国と地方公共団体との新たな関係について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】地方自治法は、国と地方自治公共団体の役割分担、機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設、普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与、国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では、地方自治法をわかりやすく解説することで、地方自治法が地方分権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。</p> <p>【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し、国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>																																																
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 山口友信他編、『ポケット六法 (平成 29 年度版)』、有斐閣</p>																																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>地方自治の意義</td> <td>・住民自治、団体自治、伝來說、固有権説、地方自治の本旨について</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>地方公共団体の種類</td> <td>・地方公共団体の構成要素 (住民、区域、法人格)、都道府県、市町村について</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>地方公共団体の区域・事務</td> <td>・区域、機関委任事務、自治事務、法手受託事務について</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>住民の権利義務(1)</td> <td>・住民、選挙権、条例の制定改廃の請求、事務監査の請求について</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>住民の権利義務(2)</td> <td>・議会の解散請求、議員、長及び特定職員の解職請求、住民監査請求について</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>条例と規則(1)</td> <td>・条例制定権の範囲、法令先占論、上乗せ条例、横出し条例について</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>条例と規則(2)</td> <td>・形式的効力、実質的効力、条例制定手続、罰則、規則について</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>議会(1)</td> <td>・議会の地位、町村総会、検査権調査権、請願受理権について</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>議会(2)</td> <td>・定例会、臨時会、定足数の原則、会議公開の原則、会期不継続の原則について</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>執行機関(1)</td> <td>・長の地位、長の兼職兼業の禁止、長の権限、長の職務の代理について</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>執行機関(2)</td> <td>・行政委員会の意義、教育委員会、教育長、総合教育会議について</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>国等の地方公共団体への関与</td> <td>・国の関与の手続、法定受託事務の処理基準、国地方係争処理委員会について</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>議会と長との関係(1)</td> <td>・事務執行に対する同意権、再議制度、一般的拒否権、特別的拒否権について</td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>議会と長との関係(2)</td> <td>・専決処分、不信任議決、議会の解散、長の失職について</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> </table>				第 1 回	地方自治の意義	・住民自治、団体自治、伝來說、固有権説、地方自治の本旨について	第 2 回	地方公共団体の種類	・地方公共団体の構成要素 (住民、区域、法人格)、都道府県、市町村について	第 3 回	地方公共団体の区域・事務	・区域、機関委任事務、自治事務、法手受託事務について	第 4 回	住民の権利義務(1)	・住民、選挙権、条例の制定改廃の請求、事務監査の請求について	第 5 回	住民の権利義務(2)	・議会の解散請求、議員、長及び特定職員の解職請求、住民監査請求について	第 6 回	条例と規則(1)	・条例制定権の範囲、法令先占論、上乗せ条例、横出し条例について	第 7 回	条例と規則(2)	・形式的効力、実質的効力、条例制定手続、罰則、規則について	第 8 回	議会(1)	・議会の地位、町村総会、検査権調査権、請願受理権について	第 9 回	議会(2)	・定例会、臨時会、定足数の原則、会議公開の原則、会期不継続の原則について	第 10 回	執行機関(1)	・長の地位、長の兼職兼業の禁止、長の権限、長の職務の代理について	第 11 回	執行機関(2)	・行政委員会の意義、教育委員会、教育長、総合教育会議について	第 12 回	国等の地方公共団体への関与	・国の関与の手続、法定受託事務の処理基準、国地方係争処理委員会について	第 13 回	議会と長との関係(1)	・事務執行に対する同意権、再議制度、一般的拒否権、特別的拒否権について	第 14 回	議会と長との関係(2)	・専決処分、不信任議決、議会の解散、長の失職について	第 15 回	まとめ	
第 1 回	地方自治の意義	・住民自治、団体自治、伝來說、固有権説、地方自治の本旨について																																															
第 2 回	地方公共団体の種類	・地方公共団体の構成要素 (住民、区域、法人格)、都道府県、市町村について																																															
第 3 回	地方公共団体の区域・事務	・区域、機関委任事務、自治事務、法手受託事務について																																															
第 4 回	住民の権利義務(1)	・住民、選挙権、条例の制定改廃の請求、事務監査の請求について																																															
第 5 回	住民の権利義務(2)	・議会の解散請求、議員、長及び特定職員の解職請求、住民監査請求について																																															
第 6 回	条例と規則(1)	・条例制定権の範囲、法令先占論、上乗せ条例、横出し条例について																																															
第 7 回	条例と規則(2)	・形式的効力、実質的効力、条例制定手続、罰則、規則について																																															
第 8 回	議会(1)	・議会の地位、町村総会、検査権調査権、請願受理権について																																															
第 9 回	議会(2)	・定例会、臨時会、定足数の原則、会議公開の原則、会期不継続の原則について																																															
第 10 回	執行機関(1)	・長の地位、長の兼職兼業の禁止、長の権限、長の職務の代理について																																															
第 11 回	執行機関(2)	・行政委員会の意義、教育委員会、教育長、総合教育会議について																																															
第 12 回	国等の地方公共団体への関与	・国の関与の手続、法定受託事務の処理基準、国地方係争処理委員会について																																															
第 13 回	議会と長との関係(1)	・事務執行に対する同意権、再議制度、一般的拒否権、特別的拒否権について																																															
第 14 回	議会と長との関係(2)	・専決処分、不信任議決、議会の解散、長の失職について																																															
第 15 回	まとめ																																																
授業外学習(予習・復習)	適宜指示																																																
成績評価の方法	筆記試験(90%)+授業での発言内容(10%)を基準にして評価する。																																																

授業科目	簿記論Ⅱ		担当者	岡村 雄輝																														
	[履修年次]	1, 2, 3	授業外対応	適宜対応																														
	[学期]	後期	[単位]	2																														
			[必修/選択]	選択																														
			[授業形態]	講義																														
テーマ及び概要	<p>【テーマ】簿記から会計へ</p> <p>【概要】本講義は、簿記の手続き一巡についての学習 (簿記論 I) をふまえて、諸取引の処理と決算について学習します。</p> <p>【到達目標】財務諸表 (貸借対照表・損益計算書) を作成できるようになる</p>																																	
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部ほか『新検定 簿記講義 3 級 商業簿記』(平成 27 年版)、中央経済社。</p> <p>(2) 渡部ほか『新検定 簿記ワークブック 3 級 商業簿記』(平成 27 年版) 中央経済社</p>																																	
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>ガイダンス (履修登録の確認、講義計画の説明等)</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>有価証券</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>固定資産 (1)</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>固定資産 (2)</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>貸倒損失と貸倒引当金 (1)</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>貸倒損失と貸倒引当金 (2)</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>資本金と引出金</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>収益と費用</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>伝票</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>決算と財務諸表 (1)</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>決算と財務諸表 (2)</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>決算と財務諸表 (3)</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>決算と財務諸表 (4)</td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>決算と財務諸表 (5)</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>まとめ</td> </tr> </table>				第 1 回	ガイダンス (履修登録の確認、講義計画の説明等)	第 2 回	有価証券	第 3 回	固定資産 (1)	第 4 回	固定資産 (2)	第 5 回	貸倒損失と貸倒引当金 (1)	第 6 回	貸倒損失と貸倒引当金 (2)	第 7 回	資本金と引出金	第 8 回	収益と費用	第 9 回	伝票	第 10 回	決算と財務諸表 (1)	第 11 回	決算と財務諸表 (2)	第 12 回	決算と財務諸表 (3)	第 13 回	決算と財務諸表 (4)	第 14 回	決算と財務諸表 (5)	第 15 回	まとめ
第 1 回	ガイダンス (履修登録の確認、講義計画の説明等)																																	
第 2 回	有価証券																																	
第 3 回	固定資産 (1)																																	
第 4 回	固定資産 (2)																																	
第 5 回	貸倒損失と貸倒引当金 (1)																																	
第 6 回	貸倒損失と貸倒引当金 (2)																																	
第 7 回	資本金と引出金																																	
第 8 回	収益と費用																																	
第 9 回	伝票																																	
第 10 回	決算と財務諸表 (1)																																	
第 11 回	決算と財務諸表 (2)																																	
第 12 回	決算と財務諸表 (3)																																	
第 13 回	決算と財務諸表 (4)																																	
第 14 回	決算と財務諸表 (5)																																	
第 15 回	まとめ																																	
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。毎回、宿題を課します。																																	
成績評価の方法	期末試験																																	

(注) 2016 年度以前に簿記論 I のみを履修済みの学生も簿記論Ⅱを履修できます。

授業科目	経営管理論		担当者	竹中啓之
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	適宜対応 (要予約), 及び講義終了後
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
				[授業形態]
				講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。</p> <p>【概要】 2人以上の個人が集団として活動する場合、そこには必ずその集団の行動を調整する役割が必要となり、その役割を一般的に「管理」と呼んでいます。すなわち管理はすべての集団・組織において存在する職能であるといえます。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することだと定義することができます。</p> <p>したがって経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する職能ということになり、このような活動を行うのは経営者や管理者の役割です。この講義では、彼らが、目的を実行するための効率的な組織運営のための工夫や、組織内部にいる関係者および組織外部のさまざまな状況との関わり合いの中、対処している方法について講義していきます。</p> <p>【到達目標】 組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門用語を知る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第 2回 経営管理論とは何か：管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。</p> <p>第 3回 組織における人間（1）：企業で人を管理する際の基本となる考え方などについて説明する。</p> <p>第 4回 組織における人間（2）：テイラーの科学的管理法と「経済人モデル」について説明する。</p> <p>第 5回 組織における人間（3）：メイヨー他の人間関係論と「社会人モデル」について説明する。</p> <p>第 6回 組織における人間（4）：マズローの欲求階層説と「自己実現人モデル」について説明する。</p> <p>第 7回 他の動機づけモデルについて説明し、改めて人が働く意欲とはどのように生み出されるのか考える。</p> <p>第 8回 企業理念と組織文化（1）：企業を管理する上で、理念と文化の役割について理解する。</p> <p>第 9回 企業理念と組織文化（2）：これまでの組織文化論を概観し、組織管理と文化の関連について考える。</p> <p>第 10回 人的資源管理（1）：企業での人的資源管理の基本的な仕組みについて説明する。</p> <p>第 11回 人的資源管理（2）：これからの人的資源管理の課題について考える。</p> <p>第 12回 組織構造を知る：組織の構造が企業や人の管理にどのような影響を与えているのか考える。</p> <p>第 13回 リーダーの役割とは何か（1）：リーダー（上司）の役割について考える。</p> <p>第 14回 リーダーの役割とは何か（2）：リーダー（上司）として適切な行動とは何かを知る。</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定） 詳細は1回目の講義で説明します。			

授業科目	経営組織論		担当者	朝日吉太郎
	[履修年次]	1・2・3年	授業外対応	常時対応（メールによるアポイントメント必要）
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
				[授業形態]
				講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 資本主義企業の経営組織の発展と、ディーセントワーク（人間らしい労働）をめぐる問題を検討します。</p> <p>【概要】 資本主義企業の経営組織の発展を法則的に理解し、ブラック企業など非人間的な労働が生まれる原因を検討し、その解決には何が必要かについて検討します。</p> <p>【到達目標】 人間らしい労働とはどのようなものかを考察し、その実現のために何が必要かを法則的に理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストはありません。</p> <p>(2) 授業内で指示する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス</p> <p>第 2回 労働の特質と近代労働観の分裂</p> <p>第 3回 資本主義的経営と労働</p> <p>第 4回 単純協業と分業</p> <p>第 5回 機械制大工業に基づく分業が持つ意味</p> <p>第 6回 機械制大工業と労働疎外</p> <p>第 7回 科学的管理方法の登場</p> <p>第 8回 フォーディズム</p> <p>第 9回 労働の人間化要求と人間関係論</p> <p>第 10回 ボルボ・システム</p> <p>第 11回 トヨタイズムとTQC</p> <p>第 12回 日本の経営論と制限・新日本の経営への転換</p> <p>第 13回 ブラック企業とディーセントワーク</p> <p>第 14回 インダストリー4.0の衝撃</p> <p>第 15回 労働の未来</p>			
授業外学習(予習・復習)	参考図書の独習を指示する。			
成績評価の方法	筆記試験			

授業科目	管理会計論	担当者	北村 浩一
	[履修年次] 1・2・3年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 管理会計とは一体何かを管理会計技法の学習を通じて修得する</p> <p>【概要】 管理会計についてはさまざまに定義されており、受講者それぞれが管理会計の定義を理解する。また、管理会計技法の分析を通じて、関連する経営・管理といった概念についても修得する。</p> <p>【到達目標】 企業経営者・管理者にとって管理会計は重要な管理手法として位置づけられており、本講義では管理会計を概念的に、そして体系的に捉えることを目標としている。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 西村明・大下丈平編『ベーシック管理会計』(2007)中央経済社 (2) 特になし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 講義ガイダンス・講義の進め方や評価について 第2回 予算管理(1) 第3回 予算管理(2) 第4回 利益管理(1) 第5回 利益管理(2) 第6回 CVP分析(1) 第7回 CVP分析(2) 第8回 管理会計とは 第9回 分権的組織の管理会計(1) 第10回 分権的組織の管理会計(2) 第11回 原価概念 第12回 原価計算と原価管理 第13回 標準原価管理 第14回 原価企画とABC原価計算 第15回 講義のまとめ (※ 講義の進度によって予定を変更する場合があります)</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	小テスト(複数回, 50%) と期末定期試験(50%) の総計で評価します。		

授業科目	比較経営論	担当者	瀬口 毅士
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応(要予約)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営システムの多様性を学ぶ</p> <p>【概要】この講義では、様々な国の経営を取り上げ、経営システムの比較を行います。まず、第2回から第5回にかけて日本の経営について詳細に解説した後、アメリカの経営、欧州各国の経営へと進み、最後にアジア各国の経営を見ていきます。各国の経営システムを説明する際に、歴史的な話題が多く出てきますので、歴史が得意でなくても歴史的な解説を苦にしない学生さんの出席を望みます。</p> <p>【到達目標】各国の経営システムの間に通性と相違性があることを発見し、それがなぜ異なるのかについて考えることができる。また、システムの多様性や経路依存性について理解できる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン：授業の進め方や成績評価の方法等 第2回 比較の方法、コーポレート・ガバナンスに関する解説 第3回 日本の経営(1)：日本的経営の歴史、日本企業のコーポレート・ガバナンス 第4回 日本の経営(2)：日本企業における戦略と組織の特徴 第5回 日本の経営(3)：日本企業の生産方式、労使関係 第6回 日本の経営(4)：日本における企業間構造、中小企業 第7回 アメリカの経営(1)：アメリカ企業の歴史とコーポレート・ガバナンス 第8回 アメリカの経営(2)：アメリカ企業における戦略と組織の特徴 第9回 イギリスの経営：イギリス企業の歴史と経営システム 第10回 フランスの経営：フランス企業の歴史と経営システム 第11回 ドイツの経営：ドイツ企業の歴史と経営システム 第12回 イタリアの経営：イタリア企業の歴史と経営システム 第13回 中国の経営：中国企業の歴史と経営システム 第14回 アジア各国の経営：韓国や台湾など、中国以外のアジア各国における経営システムの解説 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業の中で適宜指示します。		
成績評価の方法	期末筆記試験(70%) +リアクションペーパー、授業に対する姿勢等(30%)		

授業科目	経営分析	担当者	岡村 雄輝
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】会計物語から企業社会の諸相を考察する</p> <p>【概要】本講義は、担当者が企業の財務的な物語といわれる財務諸表を読解し、いくつかの存在する企業のあり様を考察します。それを受けて受講者のみなさんは、企業の財務諸表を各自で入手し、読解に取り組むことになります。</p> <p>【到達目標】財務諸表を読解し、企業の財政状態・経営成績について説明できるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス (履修登録の確認、講義計画の説明等) 第 2回 財務諸表の読み方 (1) 第 3回 財務諸表の読み方 (2) 第 4回 アパレル産業の差別化戦略 第 5回 大手化粧品メーカーに共通する特徴 第 6回 家具販売店の社長交代劇の背後にある経営観の対立 第 7回 家電量販店の売上高競争：勝因は従業員の待遇 第 8回 コストカッターが踏み込まなかつた聖域とは 第 9回 従業員の平均年収 1,600 万円！注目のファブレス経営 第 10回 エレクトロニクス企業の変貌 第 11回 元祖 LCC の倒産とその意味 第 12回 監査人をも欺いた大規模な不正会計とその結末 第 13回 財務諸表分析の実践 (1) 第 14回 財務諸表分析の実践 (2) 第 15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法	期末試験		

授業科目	企業行動科学	担当者	竹中啓之
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応 (要予約), 及び講義終了後
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業経営における意思決定やリーダーシップについて考える。</p> <p>【概要】行動科学とは、個人や集団の形で人間が行う行動に関して、その動機・過程・効果を実際におこった事実をもとにして記述し、説明し、分析していく記述論的アプローチを行うものである。そのためには経営学だけではなく、心理学・社会学・経済学などの諸学問の境界を超えた学際的な考え方が必要となる。</p> <p>この講義ではこのようなアプローチ方法を前提として、企業における意思決定過程の分析を試みることにする。企業目的を達成するために、一つの企業行動として意思決定を調整する方法について説明する。またそのほかにも、リーダーシップ論やヒトの動機づけ理論についても取り上げる。</p> <p>【到達目標】組織における意思決定プロセスを理解する。リーダーシップの主要な理論を知る。主要な動機づけ理論を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に配布するプリント (2) 講義中に指示する		
授業スケジュール	第 1回 講義概要の説明：講義の概略を説明する 第 2回 意思決定プロセスとはどのようなものか：意思決定プロセスについて説明する 第 3回 組織の意思決定：組織の意思決定について説明する 第 4回 集団での意思決定：集団での意思決定が優れているかどうか考える 第 5回 組織の運営と個人の役割：組織の運営における個人の役割を考える 第 6回 意思決定のスピードと組織構造：意思決定のスピードと組織構造の関係を考える 第 7回 映画「12人の怒れる男たち」について：集団的意思決定の例を映画を通して考える 第 8回 インセンティブシステム (動機づけ理論) (1)：動機づけ理論について説明する 第 9回 インセンティブシステム (動機づけ理論) (2)：動機づけ理論の問題点について説明する 第 10回 リーダーシップとは何か (1)：リーダーシップ論について説明する 第 11回 リーダーシップとは何か (2)：リーダーシップ論の問題点について説明する 第 12回 上司と部下の関係を考える (1)：上司と部下の関係について説明する 第 13回 上司と部下の関係を考える (2)：問題のある上司に当たったときの対処法を考える 第 14回 卒業式は自由な人生の終わりか：大学での学びについて考える 第 15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%)、中間レポートもしくは小テスト (30%) (予定) 詳細は1回目の講義で説明します。		

授業科目	経営戦略論	担当者	瀬口 毅士
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営戦略に関する基本的知識を習得する</p> <p>【概要】経営戦略とは、外部環境の変化に対応しながら長期的な存続・成長を図るための、企業的意思決定を意味します。経営戦略論のなかでも、企業全体の戦略である「企業戦略」および事業ごとの戦略である「競争戦略」を中心に解説していきます。さらに、最近の企業の動向を取り上げながら、現代社会における経営戦略のあり方も講義します。</p> <p>【到達目標】経営戦略論の基本概念を知ると同時に、各概念がどのような関係にあるのかを考えることができる。また、講義を通じて得られた知識を基に、ニュースや新聞などの情報をより深く理解できるようになることを目標とする。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)		
授業スケジュール	第 1回 インTRODクシヨン 第 2回 経営戦略とは何か 第 3回 経営理念とドメイン 第 4回 規模の経済と範囲の経済、垂直統合と水平統合 第 5回 多角化戦略 第 6回 M&A 第 7回 戦略的提携 第 8回 経験曲線と PLC 第 9回 PPM 第 10回 経営戦略の実際 第 11回 競争戦略とは何か 第 12回 ポジショニング・アプローチ 第 13回 資源ベース・アプローチ 第 14回 ゲーム論的アプローチ 第 15回 学習アプローチ		
授業外学習(予習・復習)	授業の中で適宜指示します。		
成績評価の方法	期末筆記試験 (80%) +リアクションペーパー、授業への姿勢等 (20%)		

授業科目	企業論	担当者	朝日吉太郎
	[履修年次] 1・2・3年	授業外対応	常時対応 (メールによるアポイントメント必要)
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】資本主義的企業の発展法則を捉え、今日の資本主義を動かす巨大企業の運動とその問題転を捉えます。</p> <p>【概要】今日世界は、富める1%が世界の半分の富を独占し、中小企業や労働者には様々なしわ寄せが生じています。その利益のために戦争すら引き起こされます。このような現代社会をリアルに捉えます。</p> <p>【到達目標】現代の資本主義の特徴についての理解を通じて、今日生じている様々な社会問題を捉えられるようになる。 ※ 前期までに社会政策を履修していると分かり易くなります。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) テキストはありません。 (2) 清野良栄編著『分析・日本資本主義』文理閣。		
授業スケジュール	第 1回 講義の目的と進め方について 第 2回 巨大企業と世界 第 3回 資本の巨大化 (1) 資本主義と機械文明 第 4回 資本の巨大化 (2) 資本の蓄積 (1) 資本蓄積の基本法則と限界と失業者の形成 第 5回 資本の巨大化 (2) 資本の蓄積 (2) イノベーションを含む蓄積と資本の自立 第 6回 資本の巨大化 (2) 資本の蓄積 (3) 相対的過剰人口の諸形態 第 7回 資本の巨大化 (3) 利潤と競争 第 8回 資本の巨大化 (4) 商業資本の形成 第 9回 資本の巨大化 (5) 利子生み資本 (1) 利子生み資本の形成とバブル経済の誕生 第 10回 資本の巨大化 (5) 銀行資本と株式資本 (3) 第 11回 独占資本主義 (1) 独占資本と独占の法則 第 12回 独占資本主義 (2) 金融資本と帝国主義 第 13回 日本の企業集団 (1) 戦後日本の資本主義と企業集団 (1) 第 14回 日本の企業集団 (2) 戦後日本の資本主義と企業集団 (2) 第 15回 グローバル化と日本企業集団の知奇跡戦略		
授業外学習(予習・復習)	参考図書の独習を指示する。		
成績評価の方法	筆記試験		

授業科目	経営工学		担当者	倉重賢治
	[履修年次]	不問	授業外対応	適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 企業などにおける運営業務の科学化</p> <p>【概要】 現在の企業活動においては、情報技術を有効に活用した情報収集、さらにそれらの情報を用いた意思決定が頻繁に行われている。今後は社内に限らず、取引先も含めた情報も共有化されることで、より広範囲での最適化を目指した意思決定の必要性が増してきている。この講義では、企業活動において頻繁に行われる意思決定、例えば、生産スケジュールの立案や在庫管理など、その問題の概要や解法アルゴリズムに関して論じる。</p> <p>【到達目標】 企業活動における、ヒト・モノ・カネ・情報の効率的な運用の大切さを理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 圓川隆夫・伊藤謙治、『生産マネジメントの手法』、朝倉書店</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 序論：経営工学とは</p> <p>第 2回 生産スケジューリング 1：どんな順番で製品を作れば良いのか</p> <p>第 3回 生産スケジューリング 2：どんな順番で作業を行えば良いのか</p> <p>第 4回 工程編成：均等に作業を割り当てるには</p> <p>第 5回 プロジェクト管理：プロジェクトをなるべく早く終わらせるには</p> <p>第 6回 設備配置：設備のキャパシティはどれくらいにすれば良いのか</p> <p>第 7回 生産計画：何をどれくらい作れば一番儲かるのか</p> <p>第 8回 作業分析：作業者の動作を分析する</p> <p>第 9回 投資計画 1：お金の現在価値と将来価値</p> <p>第 10回 投資計画 2：プロジェクトの価値</p> <p>第 11回 在庫問題：在庫コストを少なくする</p> <p>第 12回 評価と選択：複数の代替案の中から一番良いものを選ぶ</p> <p>第 13回 最短経路：一番近い道を探す</p> <p>第 14回 配送計画：配達順序を決める</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	期末試験 (100%)			

授業科目	コンピュータ会計		担当者	宗田 健一
	[履修年次]	2年, 3年	授業外対応	適宜対応 (要予約：メールが望ましい)
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 パソコンを用いた財務諸表分析</p> <p>【概要】 各種分析手法 (成長性, 収益性, 安全性) について学習し, 個別企業・グループの財務諸表分析を行います。その際、『金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム』(通称: EDINET (Electronic Disclosure for Investors' NETwork)) を用いて実際の財務諸表データを入手して各種分析を行います。</p> <p>【到達目標】 基本的な財務諸表分析が行えるようになる。エクセルを用いて財務データを表やグラフに加工することができるようになる。実際のデータを用いた各種分析を行い, その結果の解釈を行うことができるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント等を随時配布。講義初回に指示。</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：履修登録確認、講義計画に関する説明</p> <p>第 2回 会計情報の利用者：利害関係者、会計情報の入手方法 (EDINET の使い方、アニュアルレポートの入手等)</p> <p>第 3回 有価証券報告書：全体像、記載内容の確認、分析対象企業の絞り込み</p> <p>第 4回 会計学と財務情報・非財務情報について</p> <p>第 5回 財務諸表分析による企業分析① (収益性分析：ROA, ROE など)</p> <p>第 6回 財務諸表分析による企業分析② (収益性分析：損益分岐点分析など)</p> <p>第 7回 財務諸表分析による企業分析③ (成長性分析：各種増加率など)</p> <p>第 8回 財務諸表分析による企業分析④ (成長性分析：売上予測など)</p> <p>第 9回 財務諸表分析による企業分析⑤ (安全性分析：短期的視点, 長期的視点など)</p> <p>第 10回 財務諸表分析による企業分析⑥ (キャッシュ・フロー分析①)</p> <p>第 11回 財務諸表分析による企業分析⑦ (キャッシュ・フロー分析②)</p> <p>第 12回 時系列分析 (2社以上)</p> <p>第 13回 同業他社比較分析 (2社以上)</p> <p>第 14回 学生による分析報告とディスカッション</p> <p>第 15回 まとめ：レポート試験の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する			
成績評価の方法	講義での発言内容、講義 (毎回ではないが) で作成した資料 (40%)、および期末レポート (60%) で評価する。			

授業科目	応用データ活用	担当者	倉重賢治
	[履修年次] 不問 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 リレーショナルデータベースの概念と基本操作</p> <p>【概要】 実務でのコンピュータ利用において、データベース処理ソフトは、非常に重要な役割を果たしている。この演習では、まず、リレーショナルデータベースの基本的な概念を論じる。次に、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の基本操作を修得し、データベース設計に関する問題に取り組んでいく。</p> <p>【到達目標】 データベースソフトの Access を利用して、簡単なシステム開発を行う</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『30時間でマスター Access2013』, 実教出版</p> <p>(2) 特になし</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 序論：リレーショナルデータベースの概念</p> <p>第 2 回 Access の操作：Access とは</p> <p>第 3 回 Access の操作：レコードの並べ替え</p> <p>第 4 回 Access の操作：レコードの追加</p> <p>第 5 回 Access の操作：フォームの作成</p> <p>第 6 回 Access の操作：選択クエリの作成</p> <p>第 7 回 Access の操作：さまざまなクエリ</p> <p>第 8 回 Access の操作：アクションクエリ</p> <p>第 9 回 Access の操作：データベースの設計</p> <p>第 10 回 Access の操作：リレーションシップの作成</p> <p>第 11 回 Access の操作：リレーションシップされたクエリの計算</p> <p>第 12 回 Access の操作：レポートの作成</p> <p>第 13 回 Access の操作：レポートのアレンジ</p> <p>第 14 回 Access の操作：マクロの利用</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	講義中の小テスト (50%) + 期末試験 (50%)		

授業科目	プログラミング	担当者	倉重賢治
	[履修年次] 不問 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 VBA (Visual Basic for Application) を用いたプログラミング</p> <p>【概要】 プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBA の利用により、さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的なプログラミング技術を身につける。 VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。 		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 七条達弘, 『やさしくわかる ExcelVBA プログラミング 第5版』, ソフトバンククリエイティブ</p> <p>(2) 特になし</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 序論：プログラミングの概念</p> <p>第 2 回 VBA の利用：関数と変数</p> <p>第 3 回 VBA の利用：条件分岐</p> <p>第 4 回 VBA の利用：オブジェクトの基本</p> <p>第 5 回 VBA の利用：繰り返し操作</p> <p>第 6 回 VBA の利用：マクロの登録と自作関数</p> <p>第 7 回 VBA の利用：マクロの記録</p> <p>第 8 回 VBA の利用：文字列と日付関数</p> <p>第 9 回 VBA の利用：変数の型宣言と配列</p> <p>第 10 回 VBA の利用：プロシージャとオブジェクト</p> <p>第 11 回 VBA の利用：セル操作の詳細</p> <p>第 12 回 VBA の利用：イベントプロシージャ</p> <p>第 13 回 VBA の利用：ユーザーフォーム 1</p> <p>第 14 回 VBA の利用：ユーザーフォーム 2</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	講義中の小テスト (50%) + 期末試験 (50%)		

授業科目	情報論特講		担当者	岡村俊彦, 倉重賢治				
	[履修年次]	不問	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ICT（情報通信技術）について実用的、応用的な学習をおこなう。</p> <p>【概要】 ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークといった ICT を学び、日商 PC 検定 2 級知識科目と同等以上の知識を得る。さらに、コンピュータを用いた意思決定法やデータ処理について学習を行う。</p> <p>【到達目標】 実社会において、自ら ICT 業務に携わり、効果的、効率的な活用ができるようにする。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) FOM 出版「日商 PC 検定試験 知識科目 2 級対策問題集」、プリント</p> <p>(2) 特になし</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 概要説明：授業概要と評価方法の説明</p> <p>第 2 回 ハードとソフト：PC 等の ICT 機器のハードウェア、ソフトウェアの解説</p> <p>第 3 回 コンピュータのハードウェア 1：PC の実物を分解し、ハードの構成と役割の学習</p> <p>第 4 回 コンピュータのハードウェア 2：PC の実物によるインターフェースの学習</p> <p>第 5 回 ソフトウェアの設定：アプリケーションやドライバなどソフトの導入と設定</p> <p>第 6 回 ネットワークの仕組みと設定：ネットワーク機器と各種設定</p> <p>第 7 回 ウェブ活用：さまざまなウェブサービスの利用と注意事項</p> <p>第 8 回 コンピュータが扱う数字 1：2 進数と 16 進数</p> <p>第 9 回 コンピュータが扱う数字 2：負の数と実数</p> <p>第 10 回 情報セキュリティ：共通鍵暗号と公開鍵暗号</p> <p>第 11 回 シミュレーション 1：シミュレーションとは</p> <p>第 12 回 シミュレーション 2：エクセルを用いたシミュレーション</p> <p>第 13 回 意思決定：エクセルのソルバー</p> <p>第 14 回 データ分析：エクセルのデータ分析</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	レポート (75%) + 期末試験 (25%)							

(注)「情報科学概論」(担当：岡村)を履修済み、もしくは同等以上の学習が終了している者を対象とする

授業科目	マーケティング論		担当者	瀬口 毅士				
	[履修年次]	1, 2, 3年いずれでも履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】マーケティング論を体系的に学ぶ</p> <p>【概要】マーケティングとは、企業がモノやサービスを売るための様々な仕組みづくりのことで、現代の企業にとって、ますますマーケティングは重要になってきています。本講義では、マーケティング論の基本事項を説明した後、現代社会におけるマーケティングのあり方を解説していきます。</p> <p>【到達目標】マーケティング論に関する基本的知識を習得し、消費者として、あるいはマーケターとしての視点を養うことを目標とする。すなわち、今日の企業がどのようにマーケティング戦略を遂行しようとしているのかを理解し、「賢い消費者」になると同時に、顧客ニーズや顧客満足度を満たすためにいかなる工夫が必要であるかを知ることである。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2)</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 インTRODクシヨン：授業の進め方や成績評価について確認する。</p> <p>第 2 回 マーケティング論の誕生と基本概念：マーケティング論の概要や基本概念を説明する。</p> <p>第 3 回 標的市場の選択：STP について解説する。</p> <p>第 4 回 市場・消費者行動分析：消費者行動論の知見を基に、消費者について理解を深める。</p> <p>第 5 回 競争分析：「ポジショニング」という概念を中心に、企業間の競争構造の分析方法を知る。</p> <p>第 6 回 製品戦略：製品ミックスや製品ライフサイクル、新製品開発プロセスなどを解説する。</p> <p>第 7 回 価格戦略：価格設定の重要性とその方法について講義する。</p> <p>第 8 回 流通戦略：流通の仕組みとチャネル選択、チャネル管理の方法を説明する。</p> <p>第 9 回 プロモーション戦略：プロモーション・ミックスとメディア・ミックスを中心に解説する。</p> <p>第 10 回 ブランド戦略：これまでの内容を基に、ブランド構築やブランド管理について考える。</p> <p>第 11 回 関係性マーケティング：企業と消費者の長期的関係性の構築について考える。</p> <p>第 12 回 グローバル・マーケティング：グローバル規模でのマーケティングに関する知識を習得する。</p> <p>第 13 回 ソーシャル・マーケティング (1)：企業の社会性とマーケティングの関係性について解説する。</p> <p>第 14 回 ソーシャル・マーケティング (2)：前回の講義を基に、社会性を含む新たなマーケティング戦略を考える。</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業の中で適宜指示します。							
成績評価の方法	期末筆記試験 (80 点) +リアクションペーパー、授業への姿勢等 (20 点)							

18 商経学科の演習・実習科目

第一部商経学科の演習科目

「演習科目」

(経済専攻・経営情報専攻とも)

授業科目	履修年次	学期	単位	必修・選択	備考
基礎演習	1年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 I	1年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 II	2年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
卒業研究	2年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。

第二部商経学科の演習科目

「演習科目」

授業科目	履修年次	学期	単位	必修・選択	備考
基礎演習	1年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 I	2年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 II	3年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
卒業研究	3年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。

授業科目	(第一部・第二部) 基礎演習・演習Ⅰ・演習Ⅱ・卒業研究	担当者	学科教員全員
<p>①社会科学に独特の授業形態としての「演習」系の授業科目</p> <p>社会科学系の学習の要は「演習」という授業形式です。これは(1)司会・報告・問題提起・討論といった対話型の授業で、講義科目と異なり、参加する学生の皆さんによって自発的に運営されます。また、担当教員と所属学生で構成する演習は、工場見学や研究のための合宿、国内外における調査活動などを行う基礎となる集団でもあります。そして、(2)対話型であるために、参加学生各自の自発性が重要で、他の講義科目・実習科目などで身につけた学力を自分自身の力で統合し、応用してゆく場です。そのため、(3)どの担当教員の演習に参加するかということが、その他の講義科目・実習科目をどのように履修してゆくべきかを決定することになりますので、加入が決定した演習Ⅰの専門性を充分考慮して、受講登録に臨むようにして下さい。</p>			
<p>②商経学科の「演習」系の授業科目はどんな特性があるのか?</p> <p>商経学科の「演習」系授業科目は、(1)すべて必修科目で、(2)これを順番に受講することで、社会学的なものから出発して、自分自身の問題関心に基づいて卒業論文を執筆するところまで系統的に学ぶことができるようになっています。</p>			
<p>③「演習」系科目の受講の流れ</p>			
<p>(第一部)</p>			
<p>1年生前期「基礎演習」</p> <p>全員が基礎演習に所属し、ゼミナールの基本的な部分(運営・議論など)について、学びます。</p>			
<p>1年生後期「演習Ⅰ」→2年生前期「演習Ⅱ」→2年生後期「卒業研究」</p> <p>1年生後期から始まる演習は、卒業までの期間、自らが選択した教員と学んでいくことになります。</p> <p>演習ごとの特色のあるテーマについて、教員や演習に所属する人たちと一緒に理解を深めていきます。</p> <p>2年後期に卒業論文を仕上げることによって、物事を深く考察し論理的にまとめる力を養っていきます。</p>			
<p>(第二部)</p>			
<p>1年生前期「基礎演習」</p> <p>全員が基礎演習に所属し、ゼミナールの基本的な部分(運営・議論など)について、学びます。</p>			
<p>2年生後期「演習Ⅰ」→3年生前期「演習Ⅱ」→3年生後期「卒業研究」、</p> <p>2年生後期から始まる演習は、卒業までの期間、自らが選択した教員と学んでいくことになります。</p> <p>演習ごとの特色のあるテーマについて、教員や演習に所属する人たちと一緒に理解を深めていきます。</p> <p>3年生後期に卒業論文を仕上げることによって、物事を深く考察し論理的にまとめる力を養っていきます。</p>			
<p>④演習のテーマ及び概要・スケジュール</p> <p>各演習には、担当教員によって設定されたテーマがあります。それは応募段階での掲示で示されます。皆さんはそれを参考にして、「演習Ⅰ」の所属を考えることになります。ただし、最終的には、演習参加者との討論によって決定されることになります。スケジュールについても同様です。</p>			
<p>⑤成績評価の方法</p> <p>演習ごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。</p>			
<p>⑥受講登録上の注意</p> <p>原則として「演習Ⅰ」から「卒業研究」までは一つの集団として継続されます。従って、「演習Ⅰ」の選択が重要となります。</p>			

授業科目	社会活動	担当者	担当教員全員
	[履修年次] 年次指定なし [学期] 通年 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「社会活動」は、非営利組織を中心とした研修先において、実際の現場での体験を得ることにより、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100%）		

授業科目	企業研修	担当者	担当教員全員
	[履修年次] 1年（第一部）、2年（第二部） [学期] 通年 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この科目は、一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は、民間企業を中心に県庁、病院などの研修先において、現場で就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業重賞、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、働くことの自覚や自信を身につける。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義、研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100%）		

19 教職に関する科目

授業科目	教職入門	担当者	田口康明
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】教職の意義や役割について、実際の学校におけるその職務内容や身分等を含めて理解し、あわせて児童生徒への進路選択の機会提供に資する教師の役割について考察する。</p> <p>【概要】本科目は、教員免許の取得に必要な科目であり、「教職の意義」について検討考察し、学校で働く教師の職務内容、すなわち教育活動とサービスの関係、研修や身分とその保障について扱う。また近年、学校教育と実社会の繋がりが着目され、その際重要となる教職員の役割として進路選択を可能にする力の育成、すなわちキャリア教育についても扱う。講義を中心とするが、必要に応じて資料に関連した文献、記事、VTR等を取り入れる。</p> <p>【到達目標】「教職とは何か」という点についての理解につぎるが、教職の意義および教員の役割、教員の職務内容(研修、サービス及び身分保障等を含む)に関する知識を習得すること。子どもたちの進路選択と教職の関係を理解すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 嶺井正也編『ステップアップ教育学』八千代出版 2010年 (2) 授業内で随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 教育職員免許法における本科目の位置づけなど</p> <p>第2回 教える・教えられる関係の変遷1 古代のソクラテスの対話法や中世の徒弟訓練の親方について</p> <p>第3回 教える・教えられる関係の変遷2 江戸時代の寺子屋の師匠や産業革命期のヨーロッパで発生した近代学校の教師</p> <p>第4回 教える・教えられる関係の変遷3 教職の位置づけについて、戦前の教師聖職論から戦後の専門職論へ</p> <p>第5回 現代学校における教師の役割と仕事1 学校における教員の日常と職務内容</p> <p>第6回 現代学校における教師の役割と仕事2 学級経営・生徒指導・進路指導・教育相談</p> <p>第7回 現代の教師の身分と地位1 教員養成制度と研修制度</p> <p>第8回 現代の教師の身分と地位2 教員のサービス・身分と公務員制度</p> <p>第9回 学校における分業制の理解 学校での少数職種、校内分業体制と校務分掌、教職の全体性</p> <p>第10回 学校・家庭・地域社会の役割と連携における教師の役割1 いじめ・不登校への地域と連携した対応、学校を取り巻く社会での連携、自然体験</p> <p>第11回 学校・家庭・地域社会の役割と連携における教師の役割2 進路選択とキャリア教育、社会体験のコーディネーターとしての役割、職業観の涵養</p> <p>第12回 教師の資質をめぐる動き1 戦後の教員政策の変遷</p> <p>第13回 教師の資質をめぐる動き2 学校評価・教員評価・不適格教員・心の健康</p> <p>第14回 これからの教師に求められるものは何か 生涯学習社会における教師の成長の意義</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業中のミニ・レポート(3回程度)30%、筆記試験70%		

授業科目	教育原理	担当者	田口康明
		授業外対応	田口へメール
	〔履修年次〕1年 〔学期〕前期 〔単位〕2単位 〔必修/選択〕必修 〔授業形態〕講義		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p> <p>【概要】教員になるために必要な教育学の知識として、最低限身につけておくべき教育学の理論を踏まえつつ、実際の教育を分析的に見る目を養うことがねらいである。主として学校教育を中心に考察する。教育の目標・意義・思想・歴史・制度に関する広汎かつ基礎的な知識理解の習得を目指す。具体的には、現代の学校教育を支える近代公教育史及びその思想の理解である。最新の教育実践・学校経営の事例の紹介など、今日的なトピック・情報を数多く取り入れて講義を進める予定である。</p> <p>【到達目標】教育の理念や歴史に関する基礎的な知識理解の習得</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 嶺井正也編『ステップアップ教育学』八千代出版 2010年 (2) 参考文献は随時紹介する		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス この科目の位置づけと目的</p> <p>第2回 教育とは何か その目的と機能に関する教育思想の理解</p> <p>第3回 現代の学校と教育課題 今日の学校教育を取り巻く「問題行動」について理解する</p> <p>第4回 近代公教育思想1 ジョン・ロックとルソーの人間観・教育思想について理解する</p> <p>第5回 西洋での学校の出現 中世から近代にかけて誕生した学校や大学について理解する</p> <p>第6回 近代公教育思想2 ペスタロッチとヘルバルトの教育思想について理解する</p> <p>第7回 日本における学校の成立 明治5年の学制の意義と社会的役割について理解する</p> <p>第8回 近代公教育思想3 日本の教育の原型を創った森有礼と師範学校教育について理解する</p> <p>第9回 日本における学校教育の展開 大正期から昭和初期にかけての学校改革運動の発生とその結末について理解する</p> <p>第10回 戦後日本の教育改革 戦後日本の学校教育の原型となった教育改革について理解する</p> <p>第11回 戦後日本のカリキュラムの改革史 学習指導要領の変遷とその重点の変化について理解する</p> <p>第12回 日本の1950年代～80年代の教育改革 中央教育審議会・臨時教育審議会による教育改革について理解する</p> <p>第13回 世界の教育改革とPISA 1970年代から今日までの各国の教育改革とPISAについて理解する</p> <p>第14回 新しい学習指導要領 平成24年度完全実施（中学校）の学習指導要領の改正点について理解する</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習（予習・復習）	毎回、次回分の資料を配付するので読んでおくこと。		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	教育心理学	担当者	田中 真理
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義	授業外対応	適宜対応
テーマ及び概要	<p>【テーマと概要】教育活動とは、教育対象に対して、教育や指導といった働きかけを行うことで、対象がよりよい方向に変化する過程と定義される。そしてより効果的な教育活動を行うための心理学の知識や技術を提供する学問領域として教育心理学がある。本講義では、教育対象である子どもの発達の特徴、パーソナリティ、学習指導において重要な学習に関わる理論や知識、さらには教育の成果に関する評価について学ぶ。またこれらの知識が実際の教育現場でどのように活かすのかについても考えていく。</p> <p>【到達目標】①教育活動の対象となる子どもの心理特性や発達の特徴、教育活動の一つである学習に関わる理論や概念、教育評価の考え方について理解することを目指す。 ②本講義で習得した知識を教育現場でどのように活かすことができるのかという視点の習得を目指す。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。 (2) ①服部 環・外山 美樹編『スタンダード教育心理学』サイエンス社、2013年 ②櫻井 茂男・佐藤有耕 編『スタンダード発達心理学』サイエンス社、2013年</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 乳幼児～児童期の発達 第3回 思春期・青年期の発達 第4回 発達理論 第5回 学習理論 第6回 学習意欲・動機づけ 第7回 記憶 第8回 思考・推論 第9回 知能 第10回 知能検査 第11回 教授法 第12回 教育評価 第13回 パーソナリティ理論 第14回 パーソナリティ検査 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験(70%) + 小テスト(20%) +リアクションペーパー(10%)		

(注) 生活科学専攻のみ卒業要件単位に参入できる。

授業科目	教育行政学概論	担当者	岩橋 法雄
	[履修年次] 2年 [学期] 前期集中 [単位] 1 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義	授業外対応	レポートを課して復習、予習の対応をさせる。質問も受ける。
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代日本の教育の行政・制度</p> <p>【概要】日本の教育の管理運営は、誰(Who)が、誰(Whom)を、どのようなルール(which principles)で、行われているのか？その仕組みと今後考えるべき課題を、歴史的かつ比較的に考察していく。「誰が」は直接的には教育行政機関(文部科学省、教育委員会)であるが、まずは教育委員会の委員長と教育長の違いから説き起こそう。それは、教育委員会の理念の解説をすることとなるからである。「誰を」は学校教育だけではないのだが当面は学校を中核に説き起こし、子どもの権利条約の立場から考察する。「どのような・・・」は、案外みなさんに関心を持たれていないが、学校で学び、生活する私たちに密接に関係している<教育の法律に関すること>である。教育の様々な分野での法とその意味を歴史的に、そして構造的に概観する。</p> <p>【到達目標】日本の教育行政・制度、公教育経営の基本的な事項について理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 「教育行政」の歴史的成立とその基本的性格 (2) 授業中に随時指示</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 「教育行政」の歴史的成立とその基本的性格 ・ゲルマン型とアングロ・サクソン型(AdministrationとGovernance)の相違と特質</p> <p>第2回 学校、選ばれる学校とそうでない学校(unpopularとpopular)の相克。教育の制度と管理運営。</p> <p>第3回 戦後日本の教育行政の基本原則、その歴史的変遷 ・1945年教育基本法の「教育行政」観、教育委員会委員長と教育長(レイマン・コントロールの意味)、教育委員会の基本的性格</p> <p>第4回 変化する社会と教育委員会の改革論議と動向1</p> <p>第5回 新教育基本法の「教育行政」観。日本の教育行政機関・文部科学大臣・文部科学省、教育委員会(教育委員会の構成と権限)</p> <p>第6回 教育関連諸法規の概要</p> <p>第7回 教師と法 ・公務員としての教師は、何ができて何ができないか？(身分上の問題)、対生徒の関係において、何ができて何ができないか？(①体罰になること、ならないこと、②校長の権限、教諭の権限)</p> <p>第8回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業中に課すレポート(30%)並びに最終試験(70%)によって評価する		

※7.5回

授業科目	教育課程論		担当者	森田 司郎
	[履修年次]	1 年次	授業外対応	田口のメール
	[学期]	後期集中	[単位]	1
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】教育課程とカリキュラムの基本概念、編成原理、そして現状と課題についての整理と考察。</p> <p>【概要】日本の学校教育における教育課程は、主に学習指導要領によって規定されている。また、実際の学校教育の場面では、各学校の現状、教員文化、そして子どもたちの実態などによって、様々な学習経験（カリキュラム）が生み出されている。本講義では、これらの教育課程およびカリキュラムの基本概念、編成原理、そして現在の教育課題について概説する。さらに、現在の教育課題に対応するために必要なカリキュラム編成の視点について受講生と討議し、教員として有益な子どもの学習経験を生み出すために必要な力量を身につける。</p> <p>【到達目標】教育課程およびカリキュラムの基本概念、編成原理について理解し、それを説明できる。現在の教育課題について理解し、その対策について意見を持ち、説明できる。現在の教育課題に対応するために必要なカリキュラム編成の視点について独自の見解を持ち、それを説明できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 必要に応じて授業内で配布する。</p> <p>(2) 『公平な社会を築く公教育論』 嶺井正也編 八千代出版 2015 年</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 教育課程とカリキュラム 教育課程とカリキュラムの基本概念についての理解</p> <p>第 2 回 学習指導要領 これまでの学習指導要領の変遷と現行の学習指導要領の内容についての理解</p> <p>第 3 回 教育課程編成に関わる教育原理 子どもの学習に関する諸原理や新たな教育方法についての理解</p> <p>第 4 回 カリキュラムの諸相 計画レベル、実施レベル、経験レベルそれぞれのカリキュラムの特質についての理解</p> <p>第 5 回 現在の教育課題とカリキュラムの在り方 (1) 学力問題・児童生徒の問題行動に対応するカリキュラム編成の視点についての検討と理解</p> <p>第 6 回 現在の教育課題とカリキュラムの在り方 (2) IT 化・国際化に対応するカリキュラム編成の視点についての検討と理解</p> <p>第 7 回 プレゼンテーション 現在の教育課題に対応するために必要な視点について自分の意見を発表する</p> <p>第 8 回 まとめと試験 講義内容のまとめと、確認するための試験を実施する</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業において指示する			
成績評価の方法	筆記試験 60%、授業内の課題 40%			

※7.5 回

授業科目	国語科教育法		担当者	竹本 寛秋
	[履修年次]	1	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	必修 (注)
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>中学校の国語教員に必要とされる基本的な知識・資質を理解し、授業の実施に必要な技能や方法を修得する。また、模擬授業により、実践的な授業の能力を身につける。</p> <p>【概要】</p> <p>中学校学習指導要領を読み解き、現在の中学校国語に求められていることを理解する。その上で、授業を計画し、指導案を作成し、授業を実施する流れを修得する。そのために、指導案を作成し、模擬授業を取り入れた講義を行う。模擬授業、および模擬授業の振り返りを行うことで、授業を客観的にとらえる能力を修得し、授業研究の意義を理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>中学校国語科教育の意義を説明できる。学習指導案を作成することができる。</p> <p>模擬授業の振り返りを通して、客観的な観点から授業研究ができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』、プリント。</p> <p>(2) 授業中、適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：中学校国語科の目標と内容</p> <p>第 2 回 中学校学習指導要領 国語編について</p> <p>第 3 回 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の目標と内容</p> <p>第 4 回 「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の目標と内容</p> <p>第 5 回 教材研究の方法 (1)</p> <p>第 6 回 教材研究の方法 (2)</p> <p>第 7 回 学習指導案の作成 (1)</p> <p>第 8 回 学習指導案の作成 (2)</p> <p>第 9 回 模擬授業の意義</p> <p>第 10 回 模擬授業 (1)</p> <p>第 11 回 模擬授業 (2)</p> <p>第 12 回 模擬授業 (3)</p> <p>第 13 回 模擬授業 (4)</p> <p>第 14 回 教育実習について</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	指導要領の内容の予習、復習のほか、模擬授業の準備、学習指導案の作成など。			
成績評価の方法	学習指導案の作成 (50%)、模擬授業についてのレポート (50%)			

(注) 卒業要件単位に参入できる。

授業科目	英語科教育法		担当者	土持 かおり
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 必修(注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この授業のテーマは、未来の英語教師に求められる英語教育指導法の理論について理解を深めるとともに、その実践能力を身につけることです。</p> <p>【概要】英語科教育を理論と実践の両面から捉え、中学校の英語教師にとって必要な知識と技能を身につけることを第一義とします。さらに、外国語(英語)教育の指針となる学習指導要領を理解し、実践的なコミュニケーション能力を育成するための英語の授業の構築と効果的な指導法を模索していきます。また、これらを踏まえた上で、指導案の作成および模擬授業による実践力を習得していきます。</p> <p>【到達目標】中学校学習指導要領に掲げられている目標と内容を理解する。 中学校の英語科教育に必要な知識及び実践的な教育技法を身につける。 指導案を作成する力を養い、教育実習で実際に授業が行えるよう模擬授業を行う。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 岡秀夫編著 『グローバル時代の英語教育—新しい英語科教育法』 出版社：成美堂</p> <p>(2) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 外国語編』 出版社：開隆堂 参考文献は授業時に随時紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 英語科教育の目的 / 英語の国際化</p> <p>第2回 中学校学習指導要領 外国語編 / 小学校における外国語活動</p> <p>第3回 英語教授法の種類と史的変遷</p> <p>第4回 コミュニケーション能力</p> <p>第5回 4技能の指導法(1) リスニング</p> <p>第6回 4技能の指導法(2)スピーキング</p> <p>第7回 4技能の指導法(3)リーディング・ライティング</p> <p>第8回 教科書と教材研究</p> <p>第9回 授業構成(指導手順) / 授業ビデオ視聴</p> <p>第10回 学習指導案(1) / 授業ビデオ視聴</p> <p>第11回 学習指導案(2)・教材・教具・クラスルームイングリッシュ / 授業ビデオ視聴</p> <p>第12回 模擬授業(1)</p> <p>第13回 模擬授業(2)</p> <p>第14回 模擬授業(3)</p> <p>第15回 模擬授業(4)</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習・復習のためのテキストの講読、課題の作成、指導案の作成・模擬授業の準備など			
成績評価の方法	振り返りシート(30%) + 課題のレポート(30%) + 学習指導案の作成(20%) + 模擬授業のレポート(20%)			

(注) 卒業要件単位に参入できる。

授業科目	家庭科教育法		担当者	富山裕子
	[履修年次] 1年		授業外対応	教員採用試験過去問演習課題(毎時授業で確認・補足)
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 必修(注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】家庭科教育に携わる教育実践力を備えた教師になるために求められる基本的な資質・能力を身に付ける。</p> <p>【概要】中学校における家庭科教育に求められていることを理解し、学習指導要領を踏まえた教科の目標と内容の理解及び学習指導計画に基づいた指導案の作成や模擬授業による授業実践力の習得を目指す。</p> <p>【到達目標】・家庭科教育の意義を理解できる。 ・学習指導要領を踏まえた家庭科の指導目標と評価について理解した授業計画及び学習指導案の作成ができる。 ・立案した学習指導案に拠った模擬授業の実践と考察ができ、</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 田部井恵美子・内野紀子 外 共著 「家庭科教育法」 学文社</p> <p>(2) 文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 家庭科教育の意義と期待できる家庭科教育が育む力</p> <p>第2回 家庭科教育のあゆみと今日的課題</p> <p>第3回 教科教育としての家庭科教育の理念と特徴</p> <p>第4回 家庭科教育を学ぶ子どもの生活実態(1)</p> <p>第5回 家庭科教育を学ぶ子どもの生活実態(2)と課題</p> <p>第6回 小・中・高等学校の指導目標と内容</p> <p>第7回 家庭科教育の学習指導と学習指導計画</p> <p>第8回 中学校の「技術・家庭(家庭分野)」の指導目標と内容</p> <p>第9回 中学校の「技術・家庭(家庭分野)」の教材と学習指導計画</p> <p>第10回 中学校の「技術・家庭(家庭分野)」における評価</p> <p>第11回 中学校の「技術・家庭(家庭分野)」の学習指導案作成(本時案)(1)</p> <p>第12回 中学校の「技術・家庭(家庭分野)」の学習指導案作成(本時案)(2)</p> <p>第13回 中学校の「技術・家庭(家庭分野)」の学習指導案(本時案)に基づいた授業の展開(模擬授業)</p> <p>第14回 学習指導案及び模擬授業の振り返りと相互評価</p> <p>第15回 家庭科教育における学習環境の整備・まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	課題：教員採用試験過去問演習			
成績評価の方法	筆記試験(60%) 提出物(学習指導案20%、模擬授業についてのレポート20%)で評価する。			

(注) 卒業要件単位に参入できる。

授業科目	道徳教育の研究	担当者	田口康明
		授業外対応	田口へメール
	〔履修年次〕2年 〔学期〕前期 〔単位〕1単位 〔必修/選択〕必修 〔授業形態〕講義		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方、目標、内容、指導計画、授業での指導</p> <p>【概要】2006年改正された教育基本法の中でも、「自律」や「規範意識」など、「道徳教育」への期待は高まっている。また現代の青少年の無気力や規範意識の欠落が、数多くの場面で強調されている。こうした現状について、一方的に指弾するのではなく、状況を相対化しながら今日的な「道徳教育」についての検討を進めていく。具体的には、学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方、目標、内容、指導計画、授業の実際について検討する。さらに今日的な意味での「道徳教育」に含まれる、消費者教育、法教育、シティズンシップ教育、環境教育などの実践事例も紹介検討する。道徳教育を「学校教育全体を通して行う」ことの意義を検討する。</p> <p>【到達目標】道徳の授業が実際に行えるようその指導法の習得と、道徳教育に関する基礎的な知識理解を得ること</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1)『中学校学習指導要領解説 道徳編』文部科学省</p> <p>(2)随時、指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 授業のねらいと目標、道徳教育の歴史（道徳教育の経緯や特徴）について理解する</p> <p>第2回 「道徳教育」とは何か、 道徳教育と道徳の時間の特徴、道徳教育の構造や役割について学ぶ</p> <p>第3回 道徳の目標及び内容 一 道徳性や内容項目、現代社会と「道徳」の関係について理解する</p> <p>第4回 「道徳教育」の目標並びに「道徳」の時間の目標 道徳の指導計画、年間計画等の必要性や内容について学ぶ</p> <p>第5回 「道徳」の指導計画と実際の指導 授業計画、指導案作成など実際の指導法について学ぶ</p> <p>第6回 評価 道徳教育の評価の方法と実際について学ぶ</p> <p>第7回 新たな「道徳教育」の課題 人権教育、法教育、シティズンシップ教育、環境教育、消費者教育など</p> <p>第8回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート（2回程度）30%、試験70%		

※ 7.5回

授業科目	道徳教育論	担当者	田口康明
		授業外対応	田口へメール
	〔履修年次〕2年（栄養教諭課程履修者） 〔学期〕前期 〔単位〕1単位 〔必修/選択〕必修 〔授業形態〕講義		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方、目標、内容、指導計画、授業での指導</p> <p>【概要】2006年改正された教育基本法の中でも、「自律」や「規範意識」など、「道徳教育」への期待は高まっている。また現代の青少年の無気力や規範意識の欠落が、数多くの場面で強調されている。こうした現状について、一方的に指弾するのではなく、状況を相対化しながら今日的な「道徳教育」についての検討を進めていく。具体的には、学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方、目標、内容、指導計画、授業の実際について検討する。さらに今日的な意味での「道徳教育」に含まれる、消費者教育、法教育、シティズンシップ教育、環境教育などの実践事例も紹介検討する。道徳教育を「学校教育全体を通して行う」ことの意義を検討する。</p> <p>【到達目標】栄養教諭として必要な道徳教育に関する基本的な知識を習得すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1)『小学校学習指導要領解説 道徳編』『中学校学習指導要領解説 道徳編』文部科学省</p> <p>(2)随時、指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 授業のねらいと目標、道徳教育の歴史（道徳教育の経緯や特徴）について理解する</p> <p>第2回 「道徳教育」とは何か、 道徳教育と道徳の時間の特徴、道徳教育の構造や役割について学ぶ</p> <p>第3回 道徳の目標及び内容 一 道徳性や内容項目、現代社会と「道徳」の関係について理解する</p> <p>第4回 「道徳教育」の目標並びに「道徳」の時間の目標 道徳の指導計画、年間計画等の必要性や内容について学ぶ</p> <p>第5回 「道徳」の指導計画と実際の指導 授業計画、指導案作成など実際の指導法について学ぶ</p> <p>第6回 評価 道徳教育の評価の方法と実際について学ぶ</p> <p>第7回 新たな「道徳教育」の課題 人権教育、法教育、シティズンシップ教育、環境教育、消費者教育など</p> <p>第8回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート（2回程度）30%、試験70%		

※ 7.5回

授業科目	特別活動の研究	担当者	田口康明
		授業外対応	田口へメール
		〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 講義	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中学校における「特別活動」の理解</p> <p>【概要】入学式、全校朝礼、運動会などさまざまな「学校行事」、学校生活の中核でありさまざまな活動を担う「学級活動」、生徒の自治的諸能力の慎重が期待される「生徒会活動」、これらによって構成されるのが、「特別活動」である。さらに中学校では非公式に「部活動」が加わる。こうした活動が、諸外国の学校に比して、量的にも質的にも「充実」していることが、歴史的に見ても日本の学校教育の特徴であり、今日でもその占める位置は大きい。本講義では、新学習指導要領等に記載された目標・内容を理解し、その歴史、国際比較、近年の動向などを取り上げて、特別活動の意義について理解を深める。近年注目を浴びている「体験的活動」や「キャリア教育」もこの領域で取り扱われることなどについて、受講生自らが自己の体験を振り返りつつ検討する。講義が主体であるが、随時グループ討議などを加えていきたい。</p> <p>【到達目標】中学校における「特別活動」について基本的事項を理解すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 文科省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』		
授業スケジュール	第1回 ガイダンスー授業のねらいと目標 第2回 「特別活動」とは何か、 第3回 「学級活動」の目標と内容 第4回 「生徒会活動」の目標と内容 第5回 「学校行事」の目標と内容 第6回 「特別活動」の現代的な意義 第7回 「体験的活動」「キャリア教育」など 第8回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート(2回程度)および、最後のレポート等を総合して評価する。		

授業科目	特別活動論	担当者	田口康明
		授業外対応	田口へメール
		〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 講義	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中学校における「特別活動」の理解</p> <p>【概要】入学式、全校朝礼、運動会などさまざまな「学校行事」、学校生活の中核でありさまざまな活動を担う「学級活動」、生徒の自治的諸能力の慎重が期待される「生徒会活動」、これらによって構成されるのが、「特別活動」である。さらに中学校では非公式に「部活動」が加わる。こうした活動が、諸外国の学校に比して、量的にも質的にも「充実」していることが、歴史的に見ても日本の学校教育の特徴であり、今日でもその占める位置は大きい。本講義では、新学習指導要領等に記載された目標・内容を理解し、その歴史、国際比較、近年の動向などを取り上げて、特別活動の意義について理解を深める。近年注目を浴びている「体験的活動」や「キャリア教育」もこの領域で取り扱われることなどについて、受講生自らが自己の体験を振り返りつつ検討する。講義が主体であるが、随時グループ討議などを加えていきたい。</p> <p>【到達目標】中学校における「特別活動」について基本的事項を理解すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 文科省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』		
授業スケジュール	第1回 ガイダンスー授業のねらいと目標 第2回 「特別活動」とは何か、 第3回 「学級活動」の目標と内容 第4回 「生徒会活動」の目標と内容 第5回 「学校行事」の目標と内容 第6回 「特別活動」の現代的な意義 第7回 「体験的活動」「キャリア教育」など 第8回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート(2回程度)および、最後のレポート等を総合して評価する。		

※ 7.5回

授業科目	教育方法学概論		担当者	元井 一郎
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後
	[学期]	後期集中	[単位]	1
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】教育方法（論）に関する史的な展開をふまえ、現代的な教授方法についての理解を深める。</p> <p>【概要】教育方法史に関する概括的な整理を行い、現代の学校教育において注目されている教育方法の理論的な視角および特徴を確認し、理解する。</p> <p>【到達目標】教授理論の史的な展開を把握できる。現在議論されている新たな教授方法の理論的な基礎を説明できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 特に指定しない。</p> <p>(2) 嶺井正也編著『公平な社会を気付く公教育論』八千代出版</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 教育方法の史的構成-1 ヨーロッパ近代と教授論の成立</p> <p>第2回 教育方法の史的構成-2 近代社会の展開と新教育運動の成立</p> <p>第3回 教育方法の史的構成-3 現代教授論の展開-教育の現代化を中心に</p> <p>第4回 教育方法の史的構成-4 日本近代と教授法の導入</p> <p>第5回 教育方法の史的構成-5 教授法の受容と変容</p> <p>第6回 教育方法の史的構成-6 現代日本の教授法とその構成</p> <p>第7回 現代教育方法論の特徴(1) 学習理論の発展と教授法の論理</p> <p>第8回 現代教育方法論の特徴(2) 学習理論とその現在</p> <p>第9回 授業研究とその展開1 (授業研究の歴史)</p> <p>第10回 授業研究とその展開2 (授業研究の理論)</p> <p>第11回 授業研究の課題</p> <p>第12回 教育方法論と教育評価</p> <p>第13回 教育方法論と学校改革</p> <p>第14回 教育方法論の論理と構成</p> <p>第15回 教育方法論の現代的課題 講義のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	集中講義であるため、手交するプリントの内容は必ず復習すること。			
成績評価の方法	レポート			

授業科目	教育相談		担当者	田中 真理
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	必修(注)
			[授業形態]	講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】教育相談に関する知識や技術について実践的に学ぶ。</p> <p>【概要】学校での教育相談とは、生徒が生きがいをもって日々の生活を送り、一人の社会人として生徒できるように指導や援助を行う教育実践である。本講義では、発達心理学や臨床心理学といった観点から、教育相談や児童生徒に関わる際に求められるカウンセリングの知や技術について学ぶ。さらに実際の教育相談の取り組みや事例を通じた学習による実践的な支援のあり方について考える。</p> <p>【到達目標】①教育相談を実践するうえで必要となる知識を習得する。 ②生徒の問題に応じた援助の在り方を実践的に理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。</p> <p>(2) ①河村茂雄編著 『教育相談の理論と実際』 図書文化社 2012年 ②大前玲子編著 『体験型ワークで学ぶ教育相談』 大阪大学出版会 2015年 ③佐々木雄二、笠井仁編著 『図で解する生徒指導・教育相談』 福村出版 2010年 ④一丸藤太郎・菅野信夫 『学校教育相談』 ミネルヴァ書房、2002年</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 教育相談の意義</p> <p>第3回 教育相談体制作りと進め方</p> <p>第4回 関係機関との連携</p> <p>第5回 児童生徒の「問題」理解</p> <p>第6回 アセスメント</p> <p>第7回 カウンセリングマインド</p> <p>第8回 カウンセリング技法</p> <p>第9回 ロールプレイによるカウンセリング実習1</p> <p>第10回 ロールプレイによるカウンセリング実習2</p> <p>第11回 事例討議①: カウンセリングマインドを生かした指導のあり方</p> <p>第12回 事例討議②: 日常場面における指導のあり方</p> <p>第13回 事例討議③: いじめ・非行</p> <p>第14回 事例討議④: 不登校</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + レポート課題 (20%) + リアクションペーパー (10%)			

授業科目	生徒指導論	担当者	田中 真理
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	必修
		[授業形態]	講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生徒指導とキャリア教育としての進路指導を行うための基礎知識と、それらに関連する心理学の知識について学ぶ。</p> <p>【概要】生徒指導は、学習指導とならぶ、学校教育のなかで教師が行う重要な教育活動のひとつである。本講義では、生徒指導を実践する上で求められる生徒指導に関する基礎、発達心理学的理解、学級運営に関わる知識に加え、特別支援教育や児童生徒の不応等に関する問題といった課題解決的な生徒指導について学ぶ。また各テーマに沿った実際の実践例や事例などを紹介しながら、具体的・実践的な生徒指導・教育的支援のあり方についても考える。</p> <p>【到達目標】①生徒指導やキャリア教育に関連する理論や知識を実践的に理解する。 ②生徒指導上の問題の背景を多面的、多角的に理解し、教育的支援について実践的に理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。</p> <p>(2) ①文部科学省『生徒指導提要』教育図書、2010年 ②文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』教育出版、2011年 ③佐々木雄二・笠井仁編著『図で解する生徒指導・教育相談』福村出版、2010年 ④一丸藤太郎・菅野信夫編著『学校教育相談』ミネルヴァ書房、2002年 ⑤杉本希映・五十嵐哲也編著『事例から学ぶ児童・生徒への指導と援助』ナカニシヤ出版、2015年 ⑥伊藤亜矢子編『エピソードでつかむ児童心理学』ミネルヴァ書房、2011年</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション・生徒指導とは</p> <p>第2回 生徒指導の体制</p> <p>第3回 児童生徒の理解</p> <p>第4回 学級集団①：児童生徒と教師との関係</p> <p>第5回 学級集団②：児童生徒と仲間との関係</p> <p>第6回 心理教育①：エンカウンター・グループ</p> <p>第7回 心理教育②：SST</p> <p>第8回 特別支援教育①：特別支援教育、発達障害</p> <p>第9回 特別支援教育②：発達障害を抱える児童生徒への対応</p> <p>第10回 学校教育の諸問題①：不登校</p> <p>第11回 学校教育の諸問題②：いじめ</p> <p>第12回 学校教育の諸問題③：非行</p> <p>第13回 キャリア教育・進路指導</p> <p>第14回 キャリア教育・進路指導の実際</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) +小レポート課題 (20%) +リアクションペーパー (10%)		

授業科目	生徒指導原論	担当者	田中 真理
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	必修
		[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生徒指導とキャリア教育としての進路指導を行うための基礎知識と、それらに関連する心理学の知識について学ぶ。</p> <p>【概要】生徒指導は、学習指導とならぶ、学校教育のなかで教師が行う重要な教育活動のひとつである。本講義では、生徒指導を実践する上で求められる生徒指導に関する基礎、発達心理学的理解、特別支援教育や児童生徒の不応等に関する問題といった課題解決的な生徒指導について学ぶ。実際の実践例や事例なども交えながら、具体的・実践的な生徒指導・教育的支援のあり方についても考える。</p> <p>【到達目標】①生徒指導やキャリア教育に関連する理論や知識を実践的に理解する。 ②生徒指導上の問題の背景を多面的、多角的に理解し、教育的支援について実践的に理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。</p> <p>(2) ①文部科学省『生徒指導提要』教育図書、2010年 ②文部科学省『小学校キャリア教育の手引き(改訂版)』教育出版、2011年 ③文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』教育出版、2011年 ④佐々木雄二、笠井仁編著『図で解する生徒指導・教育相談』福村出版、2010年</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション・生徒指導とは、生徒指導の体制</p> <p>第2回 児童生徒の理解</p> <p>第3回 学級集団①：児童生徒と教師との関係</p> <p>第4回 学級集団②：児童生徒と仲間との関係</p> <p>第5回 キャリア教育・進路指導</p> <p>第6回 特別支援教育</p> <p>第7回 学校教育の諸問題：不登校、いじめ・非行</p> <p>第8回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) +リアクションペーパー (30%)		

※7.5回

授業科目	教職実践演習（中学校教諭）	担当者	田口康明, 田中真理, 竹本寛秋, 土持かおり, 坂上ちえ子
		授業外対応	田口へメール
	〔履修年次〕2年 〔学期〕後期 〔単位〕2単位 〔必修/選択〕必修 〔授業形態〕演習		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】：教職課程の授業科目の履修や、介護等体験など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を、教師になるために必要な資質能力として、有機的に統合し定着させる。</p> <p>【到達目標】：①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち、常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身についている。②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり、他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。③子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、規律ある学級経営を適切に行うことができる。④学習指導の基本事項を身に付けており、子どもの状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫することができる。</p> <p>【概要】：短大の2年間で学んだ教職に関する知識と、教育実習などで獲得した教科指導や生徒指導などの実践体験を統合する。その際、教師として重要である人格的な基盤に根ざした実践力を有することの大切さを自覚するとともに、社会性や対人関係能力、幼児児童生徒理解や学級経営力、教科内容の指導力をこれまでの学修と統合し、教員として必要な資質能力を保持できるように、知識や技能等を補い、その定着を図る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 視聴覚教材（模擬授業の映像など）やプリントを適宜用いる。 (2) 学習指導案資料など適宜紹介する。		
スケジュール	<p>授業計画</p> <p>第1回:[ガイダンス]プログラムの説明、資料の配布、課題の提示、各授業の到達目標の提示、学習計画の提示・説明、履修カルテの活用の説明を行う。</p> <p>第2回:[イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り、グループ討論、履修カルテを使った自己評価活動を行う。</p> <p>第3回:[ロールプレイ(1)]</p> <p>第4回:[ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。第5回:[グループ討論(1)]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導、特別支援教育の基本理念について、グループ討論を行う。</p> <p>第6回:[教育委員会から講師を招いての講演] 教育現場で求められている、子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎などについて学ぶ。ただしこの回の時期は未定。</p> <p>第7回:[振り返り講演]についてのグループ討論、これまでの学修に関する小レポートの作成、履修カルテを活用した教員との面談を行う。</p> <p>第8回:[グループ討論(2)]居場所づくりを意識した生徒理解、多様化に応じた学級づくりについて、グループ討論を行う。</p> <p>第9回:[学校見学](11月中旬を予定。ただし、この回のみ見学対象校の都合により異なる時期の開催となる場合もある。)教科指導の実際・学校経営の実際を学ぶ。</p> <p>第10回:[グループ討論(3)]学校見学についての省察</p> <p>第11回:[模擬授業(1)] 教科に関する科目担当教員による指導の下、教科に関する実践的な指導力を身につける(例:文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する)。</p> <p>第12回:[模擬授業(2)] 教科及び総合的な学習の時間に関する実践的な指導力を身につける(例:文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する)。</p> <p>第13回:[模擬授業(3)] 道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける(例:文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する)。</p> <p>第14回:[グループ討論(4)] 教科に関する科目担当教員による指導の下、教科等の指導の重点について討論活動を行い、授業計画や学習形態の工夫を定着させる。</p> <p>第15回:[レポートの作成と発表] テーマ「これからの教師に求められること」を発表する</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート、ファイナル・レポートによって評価する。		

(注) 生活科学専攻のみ卒業要件単位に参入できる。

授業科目	教職実践演習（栄養教諭）	担当者	町田和恵・中馬和代・田口康明・田中真理
		授業外対応	田口へメール
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 演習		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】:教職課程の授業科目の履修や、栄養士養成課程の授業科目の履修など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を、栄養教諭となるために必要な資質能力として、有機的に統合し定着させる。</p> <p>【到達目標】:①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち、常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身につけている。②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり、他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。③子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、学級の状態に応じて給食の管理及び食育の指導を適切に行うことができる。④食育の指導の基本事項を身に付けて、児童生徒の状況に応じて、学習活動、体験活動等を工夫することができる。</p> <p>【概要】 教員として必要な資質能力を保持できるように、知識や技能等を補い、その定着を図る。すべての回について、教職課程の栄養教育実習担当専任教員と教職課程専任教員が中心になって行う。ただし、第11回と第14回は学校栄養教育論の担当教員が中心となって行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 文部科学省 (2008) 『中学校学習指導要領』, 文部科学省 (2007) 『食に関する指導の手引』 (いずれも東山書房) (2) 適宜紹介する。		
授業スケジュール	<p>授業計画</p> <p>第1回:[ガイダンス]プログラムの説明, 資料の配布, 課題の提示, 各授業の到達目標の提示, 学習計画の提示・説明。</p> <p>第2回:[イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り, グループ討論, 履修カルテを使った自己評価活動を行う。</p> <p>第3回:[ロールプレイ(1)]教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、場面に応じた教師としての話し方を身につける。</p> <p>第4回:[ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、日常的に発生する学級内の問題への対処方法を身につける。</p> <p>第5回:[グループ討論(1)]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導, 特別支援教育の基本理念について, グループ討論を行う。</p> <p>第6回:[教育委員会から講師を招いての講演] 教育現場で求められている子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎, 生活習慣の変化を踏まえた生徒理解について学ぶ。ただし、時期は未定。</p> <p>第7回:[振り返り講演]についてのグループ討論, これまでの学修に関する小レポートの作成, 履修カルテを活用した教員との面談を行う。</p> <p>第8回:[グループ討論(2)]居場所づくりを意識した生徒理解, 多様化に応じた学級づくりについて, グループ討論を行う。</p> <p>第9回:[学校見学](学校経営・給食の管理・食育の指導の実際)を学ぶ。</p> <p>第10回:[グループ討論(3)]学校見学についての省察を行う。</p> <p>第11回:[模擬授業(1)]教室の場面を想定した実践的な指導力を身につける。</p> <p>第12回:[模擬授業(2)] 食育の指導及び総合的な学習の時間の実践的な指導について。</p> <p>第13回:[模擬授業(3)] 道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける。</p> <p>第14回:[グループ討論(4)] 給食の時間における食に関する指導の重点に検討する。</p> <p>第15回:[レポートの作成と発表] テーマ「これからの栄養教諭に求められること」</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート, ファイナル・レポートによって評価する。		

授業科目	教育実習（事前・事後指導を含む）	担当者	田口康明
		授業外対応	田口へメール
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 5単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 実習		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中学校における教育実習</p> <p>【概要】 教育実習は、教員免許状を取得するための必修科目であり、単なる体験ではなく、大学における教職科目や専門科目の知識・理論などの学習を学校現場で適用、実践研究する「実習」である。大学（短大）において積み重ねてきた教職のための学習は、「目の前」に生徒のいない学習であったが、実習期間中は生徒との「応答」関係の中での学習である。とりわけ思春期にある「中学生」や、先達である教職員の先生方との交流が基盤となる。とりえず教員の資格を持ちたい、という安易な気持ちで教育現場での実習に臨むことは許されない。教員を目指す強い意志と実習生としての立場をわきまえた謙虚さ、教育への愛着、生徒たちとの相互理解があつてこそ、はじめて教育実習生として受け入れられ存在が認知される。この授業では、教育実習のために必要な心構えやスキルを中心に学習し、実習に臨み、実習後は、実習体験から得られた多くの事柄を定着させ、社会人としてのあるべき姿を省察するような活動を行う。</p> <p>【到達目標】 事前において教育実習に必要な知識・技能を習得し、実際に教育実習を行い、事後においては、実習において習得した知識技能を定着させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 視聴覚教材（模擬授業の映像など）やプリントを適宜用いる。 (2) 学習指導案資料など適宜紹介する。		
授業スケジュール	<p>事前・事後指導：ワークショップ形式を中心とし、適宜講義を加える。</p> <p>第1回 教育実習ガイダンス。授業を創ることと学習指導案との関連性</p> <p>第2回 教室における教師のふるまい。授業展開の実例を学ぶ。</p> <p>第3回 模擬授業（1）</p> <p>第4回 模擬授業（2）</p> <p>第5回 模擬授業（3）</p> <p>第6回 教育実習に関わる実務について</p> <p>第7回 教育実習の反省と総括、採用試験に向けて</p> <p>教育実習：中学校という教育現場の協力を得て3週間の実習活動を行う。</p> <p>この他、「人権教育」に関する講演会（県人権同和対策課派遣講師）を実習事後に実施。</p>		
授業外学習（予習・復習）	適宜指示する		
成績評価の方法	実習先の評価、実習日誌、事前事後の提出物等のポートフォリオ的な評価を行う。加えて授業への参加態度によって総合的に評価する。科目の性質上、遅刻、欠席は原則として一切認めない。		

授業科目	栄養教育実習	担当者	町田 和恵
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期集中 〔単位〕 1単位	授業外対応	適宜対応（要予約）
		〔必修/選択〕 必修（注）	〔授業形態〕 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 栄養教育実習の目的の達成をより確かなものにする。</p> <p>【概要】 栄養に係る教育に関して得た知識を単なる知識として終わらせるのではなく、指導の場に臨んで生かせる技術を習得するために、栄養教育実習の教育効果を高め実践的指導力の充実がはかることを目的として、実習の事前事後の指導を行う。</p> <p>【到達目標】 教育実習に参加する基本的な心構えや技能、及び実習後の反省と総括、今後に向けての展望を持つことをねらいとする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント冊子『栄養教育実習ノート』 (2) 文部科学省「食生活学習教材」		
授業スケジュール	<p>各施設により異なる</p> <p>1, 指導教諭等からの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営 ・校務分掌の理解 ・サービス 等 <p>2, 児童及び生徒への個別的相談、指導の実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導、相談の場の参観、補助 等 <p>3, 児童及び生徒への教科・特別活動等における指導の実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動及び給食の時間における指導の参観、補助 ・教科等における教科担任等と連携した指導の参観、補助 ・給食放送指導、配膳指導、後片付け指導の参観、補助 ・児童生徒会、委員会活動、クラブ活動における指導の参観、補助 ・指導計画案、指導案の立案作成、教材研究 等 <p>4, 食に関する指導の連携・調整の実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内における連携・調整（学級担任、研究授業の企画立案、校内研修等）の参観、補助 ・家庭・地域との連携・調整の参観、補助 等 <p>5, 学校給食の管理を一体的に担う方法</p>		
授業外学習（予習・復習）	適宜指示		
成績評価の方法	実習先評価（60%）＋実習ノート・実習への取り組み態度（40%）により評価する。		

授業科目	栄養教育実習の事前事後の指導		担当者	町田 和恵	
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】栄養教育実習の目的の達成をより確かなものにする。</p> <p>【概要】栄養に係る教育に関して得た知識を単なる知識として終わらせるのではなく、指導の場に臨んで生かせる技術を習得するために、栄養教育実習の教育効果を高め実践的指導力の充実がはかることを目的として、実習の事前事後の指導を行う。</p> <p>【到達目標】教育実習に参加する基本的な心構えや技能、及び実習後の反省と総括、今後に向けての展望を持つことをねらいとする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント冊子『栄養教育実習ノート』</p> <p>(2) 文部科学省「食生活学習教材」</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 栄養教育実習のオリエンテーション 意義や目的、心構えなど</p> <p>第2回 実習の評価の方法、実習後の提出物(実習ノート、学習指導案など)、実習中の短大との連絡方法などの指導</p> <p>第3回 指導計画案、指導案の立案作成、教材研究</p> <p>第4回 模擬授業の実施(1)</p> <p>第5回 模擬授業の実施(2)</p> <p>第6回 栄養教育実習の報告・発表(1) 栄養教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化</p> <p>第7回 栄養教育実習の報告・発表(2) 栄養教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化</p> <p>第8回 相互評価、実習の反省、問題点の整理、今後の課題</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	発表・提出物(80%) + 取り組み態度(20%)により評価する。 事前事後指導の完全参加が基礎条件となる。				

※ 7.5回

20 司書教諭に関する科目

授業科目	学校経営と学校図書館		担当者	岩下 雅子				
	[履修年次]	1年	授業外対応	メールによる				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】従来の学校図書館から、さらに変化し続ける“新しい学校図書館”について理解する</p> <p>【概要】学校図書館はいつ頃、どのような歴史を経て現在の学校図書館へと移り変わってきたのだろう。現在の学校図書館が公共図書館、公共施設、地域と積極的に相互協力・連携するようになったのはなぜだろう。多くの学校図書館の運営事例を校種別に学ぶと同時に、今後の学校図書館の可能性についてもさまざまな角度から考察します。</p> <p>【到達目標】 学校経営の中の学校図書館の位置づけを理解し、司書教諭の果たす役割を学ぶ</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 「学校図書館必携」全国学校図書館協議会 監修 ISBN4-906873-50-0 悠光堂 4000円</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 学校図書館の理念～学校図書館の理念と教育的意義について考察する～</p> <p>第2回 世界・日本の学校図書館史～ヘルソー、マン、デューイ、沢柳政太郎と図書館、読書の関わりについて学ぶ～</p> <p>第3回 鹿児島県の学校図書館史～旧制中学校、高等女学校から現在の学校図書館の変遷について学ぶ～</p> <p>第4回 鹿児島県の読書運動～「母と子の20分間読書運動」と椋鳩十について学ぶ～</p> <p>第5回 学校図書館法～学校図書館法と読書に関する法律について知識を深める～</p> <p>第6回 学校経営の中の学校図書館～校務分掌の中の学校図書館や学校司書、教職員との連携・共通理解について学ぶ～</p> <p>第7回 学校図書館の経営（1）～鹿児島県の小学校の事例を中心に図書館経営について学ぶ～</p> <p>第8回 学校図書館の運営（2）～鹿児島県の中学校の事例を中心に図書館経営について学ぶ～</p> <p>第9回 学校図書館の運営（3）～鹿児島県の高校の事例を中心に図書館経営について学ぶ～</p> <p>第10回 学校図書館とネットワーク～PTA、地域、公共図書館、学校図書館支援センターとの連携について学ぶ～</p> <p>第11回 全国的先駆的な学校図書館（1）～文科省のHP（参考事例）よりグループによるリサーチと発表～</p> <p>第12回 全国的先駆的な学校図書館（2）～グループによる精査分析と発表～</p> <p>第13回 学校図書館をデザインする（1）～授業と連携するための施設設備や供用方法について総合的に考察する～</p> <p>第14回 学校図書館をデザインする（2）～NDCの応用から配架、広報活動まで年間を通した学校図書館経営を学ぶ～</p> <p>第15回 学校図書館の課題と展望～これからの学校図書館及び司書教諭の役割について考察する～</p>							
授業外学習(予習・復習)	事前に配布された資料は読んでくること							
成績評価の方法	筆記試験（70%）授業ごとに実施するレポート（30%）							

授業科目	学習指導と学校図書館		担当者	岩下雅子				
	[履修年次]	1・2年	授業外対応	メールによる				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]		[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学校図書館が「授業の展開に寄与する」（学校図書館法）とはどういうことだろう</p> <p>【概要】 多くの学校図書館が取り組んでいる様々な授業支援のための図書館活用例を参考に、学校図書館と授業（教科指導）にとどまらず、「読書センター」「学習センター」「情報センター」の大きな流れの中の学校図書館を理解する。</p> <p>【到達目標】 学習指導（授業）と学校図書館をうまくコーディネートするために、司書教諭が果たす役割を理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 堀川照代「学習指導と学校図書館」NHK出版</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 教育課程と学校図書館</p> <p>第2回 学校図書館利用指導</p> <p>第3回 小学校における学校図書館と学習指導（1）</p> <p>第4回 小学校における学校図書館と学習指導（2）</p> <p>第5回 小学校における学校図書館と学習指導（3）</p> <p>第6回 中学校における学校図書館と学習指導（1）</p> <p>第7回 中学校における学校図書館と学習指導（2）</p> <p>第8回 中学校における学校図書館と学習指導（3）</p> <p>第9回 高校における学校図書館と学習指導（1）</p> <p>第10回 高校における学校図書館と学習指導（2）</p> <p>第11回 高校における学校図書館と学習指導（3）</p> <p>第12回 パスファインダーを作成しよう（1）</p> <p>第13回 パスファインダーを作成しよう（2）</p> <p>第14回 学校図書館における情報リテラシー教育</p> <p>第15回 学習・教育活動を支援する情報サービス</p>							
授業外学習(予習・復習)	事前に配布された資料は読んでくること							
成績評価の方法	筆記試験70% 授業ごとに実施するレポート30%							

授業科目	読書と豊かな人間性		担当者	木戸裕子
	[履修年次]	2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】本と図書館に関する現状を学び、読書が子どもの成長にもたらすものについて考える。</p> <p>【概要】子どもにとって読書とは、広い世界への興味や想像力をはぐくむために大切なものである。この授業では、本と図書館に関する話題や、読書活動の方法を通して、読書が私たちにもたらす豊かな世界を考えていく。授業では、実際に図書館や書店を訪問したり、読みきかせ、ブックトークなどの子どもの読書の手助けとなる方法を実際に体験したりする。</p> <p>【到達目標】読書と心の豊かさの関連について考えることができる。児童生徒の読書活動に対する学校図書館の役割を理解する。様々な読書活動（読み聞かせ、ブックトーク、アニメーションなど）の方法を知る。自分の読書活動について振り返る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 黒古一夫・山本順一編著『読書と豊かな人間性』(メディア専門職養成シリーズ)学分社</p> <p>(2) 「読むチカラ」プロジェクト編「鍛えよう！読むチカラ学校図書館で育てる25の方法」明治書院、小林功「楽しい読み聞かせ 改訂版」全国学校図書館協議会、渡部康夫「読む力を育てる読書のアニメーション」全国学校図書館協議会、</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 子どもと読書：現代社会と読書</p> <p>第2回 読書推進行政の法制度：読書教育を支える仕組み</p> <p>第3回 学校教育と読書1：学校図書館の役割</p> <p>第4回 学校教育と読書2：教科教育と読書</p> <p>第5回 児童生徒と読書資料1：子どもの本の種類</p> <p>第6回 児童生徒と読書資料2：本の流通の仕組みと選書</p> <p>第7回 読書活動1：学校での読書イベント クラブ活動や委員会</p> <p>第8回 読書活動2：読書案内、ブックトーク</p> <p>第9回 読書活動3：読み聞かせとストーリーテリング</p> <p>第10回 読書活動4：アニメーション</p> <p>第11回 読書の記録と交流：読書感想文・感想画、読書会など</p> <p>第12回 子どもの読書環境：地域との連携、家庭読書</p> <p>第13回 大人と読書：生涯学習・サークル活動</p> <p>第14回 実演1：ブックトーク、読み聞かせ、読みあい、アニメーションなど</p> <p>第15回 実演2：ブックトーク、読み聞かせ、読みあい、アニメーションなど</p>			
授業外学習(予習・復習)	積極的に読書活動に取り組み、読書記録を取るようになる。			
成績評価の方法	課題提出(50%)と、授業第14回、15回での実演(50%)			

授業科目	情報メディアの活用		担当者	竹本 寛秋
	[履修年次]	2	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>高度情報化社会である現代における多様な情報メディアの特性を学び、学校図書館での活用方法について考える。</p> <p>【概要】</p> <p>テクノロジーの発展により高度情報化した現代において、情報と人々の関係は急速に変化している。新たな情報環境を積極的に活用していくことが学校図書館には常に求められており、その中で、司書教諭は多様なメディアについて理解し、活用する能力を持つことが期待される。授業においては、情報化社会と人間の関係について基礎的な理解に基づき、様々なメディアの特性を知って、効果的に活用する方法を学ぶ。またデジタル社会における著作権について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>現代社会の多様な情報メディアの特性について理解し、説明できる。</p> <p>学校図書館における情報メディアを活用した教育や応用の手法について理解し、説明できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 山本順一 監修『情報メディアの活用 第二版』学文社、適宜プリントを配布する。</p> <p>(2) なし</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 高度情報化社会と人間：情報化社会と司書教諭の役割</p> <p>第2回 情報メディアの歴史の変遷</p> <p>第3回 学校教育と情報メディア</p> <p>第4回 情報メディアの種類と特性</p> <p>第5回 情報メディアの選択：状況に応じた選択の必要と留意点</p> <p>第6回 視聴覚メディアの活用</p> <p>第7回 情報メディアの活用1：コンピュータの活用と運用</p> <p>第8回 教育メディアの活用2：教育用ソフトウェアの活用</p> <p>第9回 情報メディアの活用3：データベースと情報検索</p> <p>第10回 情報メディアの活用4：インターネットと情報検索</p> <p>第11回 情報メディアの活用5：インターネットによる情報発信</p> <p>第12回 情報セキュリティ</p> <p>第13回 ネットワーク環境と学校教育</p> <p>第14回 学校図書館メディアと著作権</p> <p>第15回 まとめ：情報メディア活用の課題と将来</p>			
授業外学習(予習・復習)	教科書の精読、授業で課す課題の調査など。			
成績評価の方法	授業での課題(30%)、期末試験(70%)			